

糸井宮前遺跡Ⅱ

— 関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第14集 —

本 文 編

1986

群馬県教育委員会
群馬県埋蔵文化財調査事業団

糸井宮前遺跡Ⅱ正誤表 (財)群馬県埋蔵文化財調査事業団

頁	行	誤	正
本文編			
P3	上から49行目	433図	443図
P17	上から30行目	写真125	写真29・125
P91	上から45行目	写真93～95・138	写真93～95・138・140
P115	上から48行目	写真157	写真107・108・157
P117	上から15行目	写真158	写真108・158
P118	上から5行目	写真158・159	写真108・158・159
P118	上から42行目	写真159	写真108・159
P210	上から3行目	(写真-1)	(写真-1、78号住-12)
写真編			
図版目次2	上から37行目	91・93・94号土坑	90・91・93・94号土坑

資料	調査事業団保存	01-320
		25
98- NO.4430	平成10年5月13日	1(?)

糸井宮前遺跡Ⅱ

一関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第14集一

本文編

1986

群馬県教育委員会
群馬県埋蔵文化財調査事業団

序

昭和60年10月に開通した関越自動車道は、関東北部に位置する群馬県の交通経済、社会に大きな影響を与えました。群馬に新しい時代が開かれたとも言えましょう。関越自動車道は群馬県を縦断し、赤城山麓をまわって北上し、北西に転じ片品川を越えて、さらに北上し新潟に至ります。

その路線下には私達の先祖の生活のあかしが埋没されて遺された数多くの遺跡地が存在しました。これらは国民の貴重な財産として発掘調査され、記録保存されました。

本遺跡地は赤城北麓で、片品川左岸の河岸段丘上に位置します。ここに報告します糸井宮前遺跡はすでに、古墳時代以降編として第一分冊を刊行し古墳・平安時代を中心とする調査報告をしましたが、今回は第二分冊の縄文時代編であります。

本遺跡地における縄文時代前期の集落は今までに発見されている当代の遺跡地に比較して他に類を見ない大規模な集落でありまして、本遺跡地が沼田周辺地域の中心的役割を果たしていたことが判明しました。また調査により、豊かな赤城山麓の恵みである植物、動物を生活の糧として利用していたことも解りました。自然を生かす先人の知恵をうかがい知ることができました。

発掘調査実施期間中から報告書作成に至る間、種々ご援助、ご協力戴きました日本道路公団、群馬県教育委員会を始めとする関係各位に感謝いたします。

また長期にわたり、発掘調査、資料整理に携わりました関係者の労を多とするとともに、本報告書が、広く県民各位、研究者、教育機関等に活用され、群馬の原始社会解明に資料として活用されれば、幸甚といたします。

昭和62年3月31日

財団法人 群馬県埋蔵文化財調査事業団

理事長 清水 一郎

例 言

1 本書は関越自動車道（新潟線）建設工事に伴い事前調査された、利根郡昭和村大字糸井字大貫原・外原（糸井字大貫原・外原）に所在する縄文時代前期、古墳時代、平安時代、中世の遺構・遺物を検出した糸井宮前遺跡の埋蔵文化財調査のうち縄文時代の出土文化財を扱った報告書である。

2 事業主体 日本道路公団東京第二建設局

3 調査主体 財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

4 調査期間 試掘調査 昭和56年10月12日～昭和56年12月19日

発掘調査 昭和57年4月1日～昭和58年1月31日

5 調査組織

(1) 試掘調査 事務担当 小林起久治（常務理事）、沢井良之助（事務局長）、井上唯雄（調査研究部長）、近藤平志（庶務課長）、平野進一（調査研究第一課長）、国定 均（主事）、笠原秀樹（主事）、山本朋子（同左）、吉田有光（同左）、柳岡良宏（同左）、野島のお江、吉田恵子、並木綾子、今井もと子

調査担当 真下高幸（主任調査研究員）、小野和之（調査研究員）

(2) 発掘調査 事務担当 小林起久治（常務理事）、白石保三郎（事務局長）、松本浩一（調査研究部長）、近藤平志（庶務課長）、平野進一（調査研究第一課長）、国定 均（主事）、笠原秀樹（主事）、山本朋子（同左）、吉田有光（同左）、柳岡良宏（同左）、野島のお江、吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子

調査担当 石守 晃（調査研究員）、関根慎二（同左）、新倉明彦（同左）

6 整理期間 昭和58年4月1日～昭和62年3月31日（本編は昭和59年4月より）

7 整理組織 事務担当 小林起久治（常務理事（昭和58年度））、白石保三郎（常務理事（昭和59年度以降）事務局長（昭和58年度））、梅沢重昭（事務局長（昭和59・60年度））、井上唯雄（事務局長）、大沢秋良（管理部長）、松本浩一（調査研究部長（昭和59年度））、上原啓己（調査研究部長）、平野進一（調査研究第一課長）、定方隆史（庶務課長）、国定 均（主事）、笠原秀樹（同左）、須田朋子（同左）、吉田有光（同左）、柳岡良宏（主事）、野島のお江、吉田恵子、吉田笑子、並木綾子、今井もと子、松井美智子、今井あや子

整理担当 関根慎二（糸井宮前遺跡本編）、山口逸弘（糸井宮前遺跡Ⅰ）、石守 晃（昭和58年度）

補 助 員 青木静江、細井敏子、為谷美貴子、宮本真由美、阿部由美子、高梨房江、安藤三枝子、鈴木幹子、高橋順子、篠原富子、桜井和江

保存処理 関 邦一、北爪健二

写真撮影 佐藤元彦（遺物）、石守 晃、関根慎二、新倉明彦（遺構）

8 本書の作成にあたっては、下記の各氏より御教示・御協力を戴いた。この他当事業団調査研究員諸氏の協力を得ることができた。記して感謝の意を表したい。（敬称略・五十音順）

麻生 優、新井和之、安藤文一、石北直樹、石原正敏、岩橋陽一、上野修一、江里口省三、大森 勉、笠

原信男、可見通宏、加部二生、国島 聡、黒岩文夫、小暮広史、小坂井孝修、小西雅徳、小林達雄、坂本和俊、坂爪久純、佐藤政則、設楽博己、杉本正文、芹澤清八、竹田 均、塚本節也、都丸 肇、富沢敏弘、中島 宏、中西 充、中東精志、羽鳥政彦、原田昌幸、飛田正美、前原 豊、水田 稔、茂木由行、山下歳信、山形洋一

9 本書の執筆者は次のとおりである。

第Ⅰ～Ⅱ章 第1節 関根慎二、土器観察表の色調及び集計表・一覧表等の作成には、青木静江、細井

敏子、為谷美貴子、宮本真由美、阿部由美子、高梨房江、安藤三枝子以上の者が携わった。

第Ⅱ章 第2節 糸井宮前遺跡の黒曜石分析は鈴木正男（立教大学）、福岡 久（日本大学）、金山喜昭

（野田市郷土博物館）、戸村健児（立教大学原子力研究所）各氏に分析を依頼し玉篋を賜っ

た。

第3節 有孔浅鉢の塗膜分析は見城敏子氏（東京国立文化財研究所）に分析を依頼し玉篋を賜っ

た。

第4節 縄文時代の出土土器については1を谷藤保彦、2を関根慎二

補遺 弥生時代以降の遺物については石塚久則

10 石材鑑定は飯島静男氏（群馬地質学研究会）に分析を依頼した。

11 遺構・遺物トレースの一部は株式会社瀬設に委託した。

12 本遺跡の発掘調査においては、県教育委員会をはじめ日本道路公団、同沼田工事事務所、昭和村役場、昭和村教育委員会、地元関係者、関越自動車道建設工事関係者など、各方面の組織・個人の協力を得た。深く感謝の意を表したい。

13 本遺跡の発掘調査作業員は次のとおりである。（敬称略・五十音順）

阿部ゆり江、荒井敬子、荒井永子、荒井貞子、荒井幸子、荒井セツ子、荒井フミ、井口昌之、石井あつ江、石井なか、石田完治、石田富子、石田初江、稲村 治、入沢十三子、岩淵トシ、内川甲子郎、宇都宮洋一、生方綾子、江口てい、遠藤三枝子、大河原久子、大久保平治、大竹あや子、小田恒子、萩野博己、金井哲夫、金子 旭、金子まさ子、金子ひろ子、金子己代子、河合春子、春日たけ子、桑原秀治、小林 勇、小林とき、小林文英、小林みよ、後藤藤雄、斎藤千香子、斎田菊野、佐子昭子、佐竹歌子、佐竹治郎、設楽雪子、島野あい、下城喜八郎、須郷栄子、鈴木源作、関根良子、曾田マサ江、反町あさ子、反町もと子、高塩きよ子、高橋一二子、高橋秀子、高橋フミヨ、高橋朝子、高橋亮子、高橋良助、武 儀八、武井岩夫、田村千代、角田淡平、角田安正、戸丸たけみ、戸丸たけ、都丸トミ子、戸沢みえ、戸部さい子、戸部富子、鳥山千恵子、鳥山永子、鳥山りん子、南雲喜代子、中嶋千種、中嶋初江、中村みつ江、長岡 泉、長岡きよの、永井希内、永井ツル、永井みつ子、羽鳥みつ、萩原絹子、端 京子、橋本とみ子、林 初江、林さだ子、林 秀雄、原沢文江、平方長平、福田清子、藤井英子、星野妙子、星野ユキノ、牧野ふさ、松井すみ江、丸山けさえ、丸山なお、三浦誠治、三浦 実、宮崎とし江、宮沢一太郎、宮下 勉、村田ノブ江、森川すみ江、八木沢温子、山田アサ子、山田ヨシコ、吉沢トシ

14 出土遺物・図面は現在埋蔵文化財調査センターに保管してある。

15 本編は縄文時代を扱った報告書であり、「糸井宮前遺跡Ⅰ」と同一の発掘調査事業である。調査の経過、遺跡の環境等は同書に掲載してある。

目 次

序

例 言

目 次

第I章 検出された遺構と遺物	1
第1節 遺跡の概要	1
第2節 縄文時代の住居址	6
住居址一覧表	40
住居址ピット一覧表	42
第3節 縄文時代の土坑・特殊遺構	46
土坑一覧表	47
第4節 縄文時代の出土遺物	53
住居址土器観察表	55
土坑・遺構外土器観察表	120
住居址・土坑・遺構外石器観察表	130
第II章 成果と問題点	177
第1節 統計資料・出土遺物の総量	177
第2節 糸井宮前遺跡の黒曜石分析	204
第3節 有孔浅鉢の塗膜分析	210
第4節 縄文時代の出土土器について	213
補 遺	223

いと い みや まえ
糸井宮前遺跡 II

(利根郡昭和村糸井字大貫原・外原)

第I章 検出された遺構と遺物

第1節 遺跡の概要

本遺跡から検出された遺構は、縄文時代から現代にわたるものである。このうち中心となるものは、縄文時代、古墳時代、平安時代の住居址・土坑である。他に小ピット、溝等が検出された。このうち縄文時代の住居址は98軒あり、次表に掲載したとおりである。土坑は323基検出された。時期は縄文時代前期中葉から後葉にかけての遺構がほとんどであり、土坑の一部に後期に比定されるものがある。出土土器も前期中葉から後葉が主体で、中期から晩期の土器はわずかである。

糸井宮前遺跡住居址通し番号一覧表

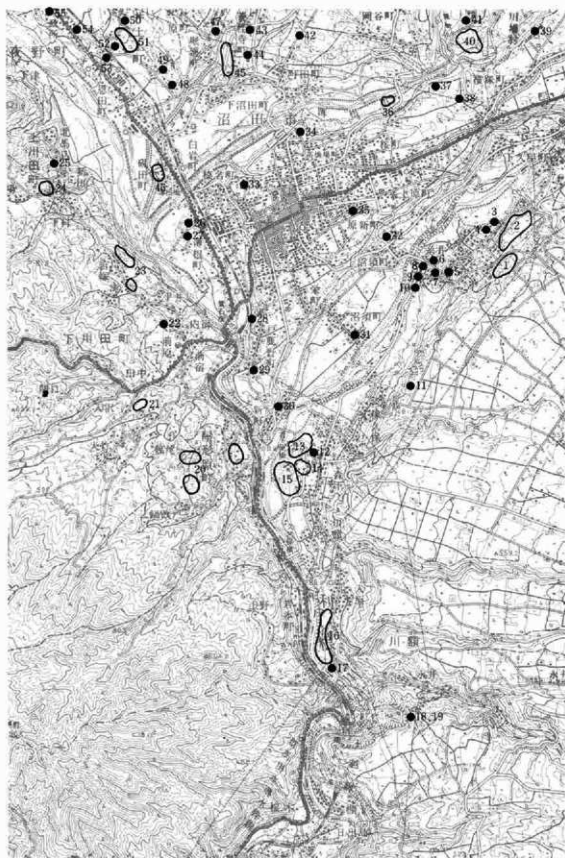
住居址番号	時 期	本 文	遺構・遺物実例図	写 真 図 版	観 察 表
1号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
2号住居址	有尾・黒浜	P6	第2・3区	1・109・160	P55・131
3号住居址	古墳時代前半	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
3号B住居址	縄文時代前期	P6	第4区	109・160	P55・131
4号住居址	有尾・黒浜	P6	第5～7区	1・109・160	P55・56・131
5号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
6号住居址	縄文時代前期	P6	第8区	2・109・160	P56・131
7号住居址	縄文時代前期	P7	第9区	2・109	P56
8号住居址	縄文時代前期	P7	第10・11区	3・109・160	P56・57・131
9号住居址	縄文時代前期	P7	第12～17区	3・79・110・160・232	P57・58・131・132
10号住居址	古墳時代後半	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
11号住居址	縄文時代	P7・8	第18～23区	4・79・80・110・111・161	P58・59・132
12号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
13号住居址	古墳時代前半	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
14号住居址	縄文時代	P8	第24・25区	5・112・161	P59・132
15号住居址	縄文時代	P8	第26～31区	5・80・112・161	P59・60・132
16号住居址	縄文時代	P8・9	第32～34区	6・111・161	P60・132
17号住居址	縄文時代	P9	第35・36区	6・80・113・161	P60・61・132・133
18号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
19号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
20号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
21号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
22号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
23号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
24号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
25号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
26号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
27号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
28A号住居址変更	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
28A号竪穴状遺構		糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
28B号住居址	古墳時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
28号住居址	古墳時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
29号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
30号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
31号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
32号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
33号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
34号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
35号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
36号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	
37号住居址	平安時代	糸 井	宮 前 遺 跡	I 報 告	

第1章 検出された遺構と遺物

住居址番号	時 期	本 文	遺構・遺物実測図	写 真 図 版	観 察 表
38号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
39号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
40号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
41号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
42号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
43号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
44号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
45号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
46号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
47号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
48号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
49号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
50号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
51号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
52号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
53号住居址	譚議	P9	第37～39図	7・80・113・161・232	P61・133
54号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
55号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
56号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
57号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
58号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
59号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
60号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
61号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
62号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
63号住居址	譚議	P9・10	第40～45図	8・80・113・114・161・162	P61・62・133
64号住居址	有尾・黒浜	P10	第46～51図	9・80・81・114・162	P62・63・133・134
65号住居址	譚議	P10	第52～55図	10・81・115・162	P63・134
66号 a・b 住居址	譚議	P10・11	第56～71図	11・12・81・82・115～117・162・163	P63～65・134・135
67号住居址	有尾・黒浜	P11・12	第72～77図	13・82・117・164	P65・135・136
68号住居址	譚議	P12	第78～82図	14・82・117・118・164	P65・66・136
69号住居址	譚議	P12	第83～85図	15・82・83・118・164・232	P66・67・136
70号住居址	譚議	P12・13	第86～89図	16・83・118・165	P67・136・137
71号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
72号住居址	有尾・黒浜	P13	第90～95図	17・83・119・165	P68・137
73号住居址	譚議	P13・14	第96～103図	18・83・84・119・120・165	P68・69・137
74号住居址	譚議	P14	第104～106図	19・84・120・166	P69・138
75号 a・b 住居址	譚議	P14	第107～111図	20・84・120・121・166	P69・70・138
76号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
77号住居址	譚議	P14・15	第112～115図	21・84・85・121・166・234・235	P70・71・138
78号 a・b 住居址	有尾・黒浜・譚議	P15・16	第116～131図	22・23・85・86・121～123・166・167	P71～73・138・139
79号住居址	有尾・黒浜	P16	第132～135図	24・123・167	P73・139・140
80号住居址	譚議	P16	第136～147図	25・26・86・87・123・124・167・168	P73～75・140・141
81号住居址	譚議	P16・17	第148～154図	27・87・88・124・125・168・169・235	P75・76・141
82号 a・b 住居址	譚議	P17	第155～161図	28・88・125・169・170	P76・77・141・142
83号住居址	有尾・黒浜	P17・18	第162図	29・125	P77
84・85号住居址	譚議	P18	第163～169図	29・88・89・126・170・236	P77・78・142・143
86号住居址	有尾・黒浜	P18・19	第170～172図	30・126・170	P78・79・143
87号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
88号住居址	譚議	P19	第173～177図	31・89・127・171	P79・143
89号住居址	譚議	P19	第178～181図	32・89・127・171	P79・80・144
90号住居址	譚議	P19・20	第182～188図	33・89・128・171・172	P80・144・145
91号住居址	譚議	P20	第189～195図	34・128・129・172・173	P81・145
92号住居址	譚議	P20・21	第196～202図	35・89・129・173・174	P81・82・145・146
93号住居址	古墳時代前半	糸井宮前遺跡	1 報告		
94号住居址	譚議	P21	第203～208図	36・89・130・174	P82・83・146・147
95号住居址	平安時代	糸井宮前遺跡	1 報告		
96号住居址	平安時代	糸井宮前遺跡	1 報告		
97号住居址	譚議	P21	第209～216図	37・90・130・131・174・175	P83・147

第1節 遺跡の概要

住居番号	時 期	本 文	遺構・遺物実測図	写 真 図 版	観 覧 表
98号a・b住居址	講義	P21・22	第217～233図	37-38-90-91-131～133-175～177-237	P83～85・147～149
99号a・b・c住居址	有尾・黒沢、講義	P22・23	第234～241図	39・91・133・134・177	P85・86・149
100号住居址	有尾・黒沢	P23	第242・243図	40・91・134・177	P86・149
101号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
102号住居址	講義	P23・24	第244・245図	41・91・134・177	P87・149
103号住居址	講義	P24	第246～251図	41・42・91・134・135・178	P87・88・150
104号住居址	講義	P24・25	第252～259図	43・91・135・178・179	P88・150・151
105号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
106号住居址	平安時代	糸井	宮前遺跡	I報告	
107号住居址	講義	P25	第260～270図	44・92・135～137・179・180・237	P89・90・151
108号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
109号住居址	講義	P25	第271～277図	45・92・93・137・180	P90・91・151・152
110号a・b住居址	有尾・黒沢	P25・26	第278～282図	46・93・137・138・181	P91・152
111号住居址	有尾・黒沢	P26・27	第283～295図	47・93～95・138～140・181	P91～93・152・153
112号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
113号住居址	講義	P27	第296～304図	48・95・96・140・141・181・182	P93・94・153・154
114号住居址	有尾・黒沢	P27	第305・306図	141・182	P94・154
115号a・b住居址	講義	P27・28	第307～312図	49・96・141・182・238	P95・154
116号住居址	有尾・黒沢	P28	第313～325図	50・96～98・142・143・182・183	P95～97・155・156
117号住居址	講義	P28・29	第326～331図	51・98・143・183・184	P97・98・156
118号住居址	有尾・黒沢、講義	P29	第332～334図	52・98・144・184	P98・156
119号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
120号住居址	古墳時代後半	糸井	宮前遺跡	I報告	
121号a・b住居址	講義	P29・30	第335～344図	53・98・144・145・184・185	P98・99・156・157
122号住居址	平安時代	糸井	宮前遺跡	I報告	
123号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
124号住居址	講義	P30	第345・346図	54・98・145・185	P99・157
125号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
126号住居址	講義	P30	第347～350図	55・98・145・185	P100・157・158
127号住居址	講義	P30・31	第351・352図	55・145・186	P100・158
128号住居址	講義	P31	第353～368図	56・57・99・146・147・186・187・239	P100～102・158・159
129号住居址	講義	P31	第369～375図	58・100・147・148・187・188	P102・103・159・160
130号a・b住居址	古墳時代後半	糸井	宮前遺跡	I報告	
131号住居址	講義	P31・32	第376～378図	59・100・148・188	P103・160
132号a・b住居址	講義	P32・33	第379～387図	60-61-101-148-149-188-239-240	P103～105・160・161
133号住居址	講義	P33	第388～390図	62・101・102・149・189	P105・161
134号住居址	講義	P33	第391～401図	63・102・103・149・150・189・240	P105～107・161
135号住居址	有尾・黒沢	P33・34	第402～409図	64・103・104・150・151・189	P107・108・162
136号住居址	講義	P34	第410～413図	65・104・152・190	P108・109・162
137号住居址	講義	P34	第414～417図	66・104・152・190	P109・162
138号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
139号住居址	講義	P35	第418～422図	67・104・152・153・190	P109・110・162・163
140号住居址	講義	P35	第423～427図	68・104・105・153・191	P110・111・163
141号住居址	講義	P35・36	第428～433図	69・105・153・154・191	P111・163・164
142号住居址	有尾・黒沢	P36	第434・435図	70・105・154・192	P112・164
143号住居址	有尾・黒沢	P36	第436～439図	71・105・106・154・192	P112・164
144号住居址	有尾・黒沢	P36	第440～442図	72・106・155・192	P113・164・165
145号住居址	講義	P36・37	第433図	73・155・192	P113・165
146号住居址	講義	P37	第444～449図	73・106・155・192	P113・114・165
147号住居址	有尾・黒沢	P37	第447～450図	155・156・193	P114・165
148号住居址	古墳時代前半	糸井	宮前遺跡	I報告	
149号a・b住居址	講義	P37・38	第451～459図	74・106・107・156・193・194	P114・115・165・166
150号住居址	講義	P38	第460～468図	75・107・108・157・194	P115～117・166・167
151号住居址	講義	P38	第469～473図	76・108・158・195	P117・118・167
152号住居址	有尾・黒沢	P39	第474～477図	77・108・158・159・195	P118・167・168
153号住居址	講義	P39	第478～480図	77・78・108・159・195	P118・119・168
154号住居址	講義	P39	第481～483図	78・159・195	P119・168



糸井宮前遺跡と周辺の主な遺跡分布図

1 : 50,000

赤井宮前遺跡と周辺の主な遺跡一覧表

番号	遺跡名	時代	種類・文献等
1	中 棚	先土器縄文 弥生・平安	1985「中棚遺跡」 昭和村教委
2	赤井宮前		本遺跡
3	滝 谷	縄 文	かつて土器・石器が出土
4	宮ノ前縄文	縄 文	「昭和村の文化財」
5	赤井古墓	鎌倉	出土品は湯博が保管
6	沼	弥生	散布地
7	常木古墳群	古墳	墳墓
8	吹張土師	古墳	散布地
9	八 日 市	弥生・古墳	散布地
10	八日市古墳群	古墳	墳墓
11	阿曾城跡	室町	城館址
12	宮原寺院跡	奈良	1981「古瓦研究資料3」
13	森下門古墳群	古墳	墳墓
14	森下松木古墳群	古墳	墳墓
15	川原原古墳群	古墳	墳墓
16	岩下清水古墳群	古墳	墳墓
17	鏡石古墳	古墳	1974「鏡石古墳発掘調査報告」 群馬県教委
18		先土器	1983、昭和村教委調査
19	長井坂城跡	安土・桃山	1985「中棚遺跡」 昭和村教委の中に掲載
20		縄文・弥生	広範囲な散布地
21		縄文・弥生	散布地
22	下川田城跡	室町	城館跡
23		縄文～古墳	広範囲な散布地
24		縄文～古墳	散布地
25	上川田城跡	室町	城館址
26		弥生～古墳	工事中土器出土
27	塚田古墳群	古墳	墳墓 沼田町史
28	稲 荷 塚	古墳	墳墓

番号	遺跡名	時代	種類・文献等
29		縄 文	漆器b式土器（有孔浅鉢） は煎糜樽にて保管
30		縄 文	散布地
31		縄 文	宅造の磨敷石住居の一部を 発見
32		縄 文	散布地
33	沼田(倉内)城跡	江 戸	城館址
34	幕岩城跡	室町	城館址
35	沼須城跡	室町	城館址
36		縄 文	散布地
37	鎌 倉	縄文～弥生	1980 事業団調査
38	愛宕古墳群	古墳	墳墓
39	高 野 塚	弥生・古墳	1974 群馬県教委調査 「日本考古学年報27」
40	奈良古墳群	古墳	1955 群馬県氏調査
41	峯山古墳群	古墳	墳墓
42	土 塔 原	縄文～古墳	散布地
43		弥生～古墳	散布地
44	小沢城跡	室町	城館址
45		縄文～古墳	1984「群馬考古通信10」
46		古墳	散布地
47		弥生	散布地
48	諏訪平	弥生～平安	1984 群馬県教委調査 「日本考古学年報27」
49	関口城跡	室町	城館址
50	荘田城跡	室町	城館址
51		縄文～弥生	散布地
52	井戸上屋敷	古墳・室町	散布地・城館址
53		古墳	散布地
54		縄文～弥生	散布地
55	真庭政所古墳群	古墳	墳墓

第2節 縄文時代の住居址

2号住居址 (第2・3図 写真1・109・160)

位置 50～53E34～37。 **形状** 確認面の上場で4.68×4.14m、下場で4.48×3.90mの長方形を呈する。コーナー部はやや丸味を持つ。南西コーナー部で攪乱を受けている。 **壁** 壁高32cmでゆるやかな立ち上がりをする。 **覆土** 黒色土を主体として、ローム粒を少量含む。壁直下ではロームを多く含む土の堆積がみられる。後世の攪乱が土層中で確認された。 **床面** 中央部は平坦で堅くしまっている。幅30cm、深さ35cm程の溝が南壁側を除いた三方を廻っている。 **柱穴** 径30～40cm、深さ30～50cmのピットが4個確認された。これらのうち住居柱穴となるのはP₁～P₄の4個で、ほぼ同じ深さをしている。 **炉** 床中央の北寄りP₁、P₂の間にあり、礫を埋め込んでいる。 **遺物** 出土遺物は散在的で余り多くない。繊維を含む土器片、剣片、石鏃等の石器が出土している。

3号b住居址 (第4図 写真109・160)

位置 59～61E26～28。 **形状** 古墳時代の遺構によってその大半が破壊されているため、推察になるが、ほぼ円形を呈すると思われる。 **床面** 平坦で比較的軟らかい。 **柱穴** 炉 確認されなかった。 **遺物** 出土遺物は少量で、土器片、石器等が覆土中から出土している。

4号住居址 (第5～7図 写真1・109・160)

位置 58～61E29～33。調査地の北西寄り、6号住居址に接して位置する。 **形状** 長軸5.16m、短軸4.76mを測り、コーナー部に若干丸味を持った長方形のプランを呈する。南西コーナーを6号住居址によって壊されている。 **壁** 壁高は9～20cm程で比較的掘り込みが低くなっており、ゆるやかに立ち上がる。 **覆土** 黒褐色、褐色土にローム粒が混入する土を覆土としている。堆積は厚くなく良好な状態ではない。 **床面** ローム直床でよくしまっており、平坦である。西壁、北壁、東壁に周溝がみられた。周溝の幅は29cm、深さ17cm程である。 **柱穴** 南壁側にピットが2個確認された。北壁側は確認されなかったが周溝内に柱穴があったと推察される。 **炉** 床を掘りくぼめた地床炉である。規模は40×35cmで焼土、炭化物の堆積がみられた。 **遺物** 床面直上のもはなく覆土中から繊維を含んだ羽状縄文土器等が200点程と石器10点が出土している。土器は器形の復元できるものがなく小破片が多い。

6号住居址 (第8図 写真2・109・160)

位置 60～62E28～31。調査地の北西部に位置し、4号住居址の南側コーナーを本住居址が重複して構築している。また南側半分を古墳時代の住居址によって破壊されている。 **形状** 南半分が後世の遺構により壊されているため推定になるが、直径4.50m程の円形プランを呈すると思われる。 **壁** 壁高は、約20cm程で、内角40度位のゆるやかな立ち上がりをする。 **覆土** ローム粒を多く含む茶褐色土が堆積している。 **床面** 中央部に向かってゆるやかな傾斜を示す。ローム直床である。 **柱穴** 炉 確認されなかった。 **遺物** 覆土中から散在的に出土しており、量は少ない。前期中葉の有尾・黒浜式、諸磯b式土器などが混在して出土しているため、本住居址の時期は特定できない。

7号住居址 (第9図 写真2・109)

位置 11E03～07。調査地の東側に位置する。住居址の大部分が発掘調査区域外にある。**形状** 住居址の西側部分を調査した状況からは、本住居址は方形もしくは長方形を呈すると思われる。確認面の上場での長軸は8.10mを測る。**壁** 壁高は43cmで鋭角に立ち上がる。**覆土** 暗褐色、褐色の土層を主体に若干のロームパミスを含む層が壁際に堆積する。**床面** 比較的平坦でしまっている。**柱穴** 南西隅にピット1個が確認された。柱穴になると思われる。**炉** 住居址の南西寄りに竈を4個使用した石囲炉で規模は52×46cmで深さは約19cmを測る。炉内には若干の炭化物が検出された。**遺物** 出土遺物は多くなく覆土中から有尾・黒浜式土器、床面近くからは諸磯c式土器が出土している。

8号住居址 (第10・11図 写真3・109・160)

位置 13～15D45～48。調査地の中央東側、9号住居址の北に隣接して存在する。**形状** 長軸5.0m、短軸4.5mの楕円形を呈する。住居址の南側の一部が土坑によって壊されている。**壁** 壁高16～29cmを測り急な立ち上がりを示す部分と、ゆるやかに立ち上がる部分がある。**覆土** 黒褐色、黄褐色土の土層にロームパミスを含む層が主体である。住居址覆土の堆積を見ると土坑の方が新しい事がわかる。**床面** ローム面を床としている。平坦ではあるが、床は軟弱である。**柱穴** 1個確認されたのみで他に確認されなかった。**炉** 確認されなかった。**遺物** 床面直上のもはなく覆土中からのものである。有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、石器などが出土している。いずれも、遺物の出土量が少なく時期を推定することは難しい。

9号住居址 (第12・13～17図 写真3・79・110・160)

位置 12～13D42～45。調査地の中程東側8号住居址の南に接している。**形状** 長軸5.05m、短軸4.84mの不整形を呈する。北東壁の約3分の1が欠けている。**壁** 壁高は、高い所で20cm程でしっかりとした掘り込みではない。ゆるやかに立ち上がる。**覆土** 黒褐色土に炭化物を含む土層で、壁に沿ってローム混じりの土が堆積している。**床面** ローム面を床としている。中央部は堅くしまっているが、周辺部はやわらかい。床面全体には、やや凹凸がみられるが、傾斜は少ない。**柱穴** ピットは5個確認された。このうち主柱穴になるのはP₁～P₄であろう。**炉** 西壁側に位置し西側を除いた三辺に竈を使用した石囲炉で外側径50×40cm、内側径20×15cmである。石囲炉の東側に接して埋設土器が1個体ある(遺物番号2)。**遺物** 覆土中から有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、剥片等が出土している。また床に埋設されて出土した土器が2個体あった。一つは炉に接しており、もう一つは北壁寄りのP₁、P₄の間にある。

11号住居址 (第18～23図 写真4・79・80・110・111・161)

位置 13～16D35～38。調査地の南方東側境界にあり、141号住居址の南東に位置する。**形状** コーナー部に丸味をおびた方形を呈する。西コーナー付近は現代の建物による破壊を受けている。長軸6.67m、短軸6.58mを測る。**壁** 壁高は30cm前後を測る。東、南壁は比較的鋭角に立ち上がるが西壁は鈍角である。**覆土** 黒色土、黒褐色土等の覆土に炭化物、焼土粒、ローム等が混じる。壁直下には、ロームを多く含んだ土が堆積する。**床面** ローム面を床としている。床面が西側では一段高くなっている他、若干の凹凸が見られる。**柱穴** 床面からピットが6個検出された。ピットの検出位置を見ると西側部分にはピットが検出されず柱穴としてピットを考えた場合不都合が生じてしまうが、これらのうちいずれかは柱穴として捉えら

第1章 検出された遺構と遺物

れる。 炉 中央部に64×42cmの焼土の広がり床面上に確認された。また西壁寄りに大形土器の口縁と礎を使用している炉が確認された。 遺物 床面直上の遺物は、大形の台石類で、土器の出土は少ない。床に埋設された土器は、2個体あり、住居地の北東部P₁付近に2個体並んで検出された。両方とも口縁部、底部が欠損している。また覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、石斧、石匙、石鏟等が出土している。

14号住居址 (第24・25図 写真5・112・161)

位置 18～20E43～45。調査地の最北東部に位置し、17号住居址が北東にある。 形状 東壁は直線的な形状を呈し、他の壁は膨らみを持った半円状。長軸4.60m、短軸3.86mを測る。 壁 比較的に急な角度で立ち上がる。ルーム層に掘り込まれて堅くしっかりしている部分と、掘り込みが浅くルーム漸移層で掘り込みが止まり、やわらかい部分がある。 床面 ローム面を床としている。床面は若干の凹凸がみられる。また、土坑が住居内に重複してあるが、これらは、本住居址より新しいものと思われる。 柱穴 ビットは5個確認された。これらのうち柱穴になりそうなものは、P₁～P₄であるが、これらの配置も11号住居址と同様に南東に片寄っている。 炉 確認されなかった。 遺物 出土遺物は、覆土中に散在的に出土し、数は多くない。有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、石斧、石鏟が出土している。

15号住居址 (第26～31図 写真5・80・112・161)

位置 26～30E39～43。本住居址は、調査地の北側東寄りに位置し、126号住居址の北東部にある。 形状 住居址プランは、コーナー部に丸味を持ち、西壁が長くなる台形状を呈する。西壁7.92m、東壁6.25m、東西幅7.12mを測る。 壁 壁高は23～30cmを測る。掘り込みはルーム層に掘り込まれ比較的堅くしっかりしている。立ち上がりは鋭角である。 覆土 上層に黒色土、中程に暗褐色土、下層にローム粒を含む黄褐色土が堆積する自然堆積の状態を示す。 床面 ローム面を床としており、床中央部へゆるやかに傾斜する。床中央西寄りの炉の東側と、東壁に3基の土坑が検出された。これらの土坑は、遺物の出土状況等から、住居址に伴うものか、新しいものであろう。 柱穴 ビットは6個確認された。本住居址のビットの位置は南東側にあり、北側のコーナー付近からは検出されず片寄りがみられた。 炉 北壁寄りと東壁寄りのP₂、P₃の間に、円礎を4個組み合わせた石囲炉が2ヶ所検出された。 遺物 床面上からは、大形の石皿をはじめ、諸磯b、c式土器が出土した。また埋設土器は2ヶ所から検出されているが、いずれも諸磯c式土器である。覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、磨石、石斧、石匙、石鏟等が出土している。

16号住居址 (第32～34図 写真6・111・161)

位置 19～22E37～42。調査地の北東部17号住居址の北、14号住居址の南に位置している。 形状 や北壁側が長くなる方形プランを呈する。長軸7.18m、短軸7.12mを測る。 壁 壁は、ローム層まで掘り込まれており、壁高40～63cmを測る。壁の立ち上がりは垂直に近くしっかりしている。 覆土 黒色土、黒褐色土、暗褐色土、黄褐色土が堆積しており、自然堆積の状態を示す。下層ほどロームの混入が多くなる。 床面 ローム面を床としている。中央に向かってゆるやかに傾斜し、凹凸がある。住居内には土坑がいくつか確認されているが、これらについては本住居址に伴うものか不明である。 柱穴 ビットは24個確認されているが、それらのうち主柱穴になるものはP₁、P₅、P₁₁、P₁₂、P₁₄、P₂₁等が考えられる。また、P₁、P₂、

P₆、P₁₀等が支柱穴になると考えられる。 炉 北壁側に焼土が数ヶ所確認されたが、これらは地床炉になると考えられる。 遺物 概して床面直上のものは少なく、覆土中からの出土遺物がほとんどであった。有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、石斧、剥片等が出土している。

17号住居址 (第35・36図 写真6・80・113・161)

位置 18E35~37。調査地の北東にあり、16号住居址の東隣りに位置する。 形状 長軸4.31m、短軸3.94mの楕円形を呈する。 壁 壁高12~23cmを測り、なだらかに立ち上がる。床面への掘り込みは、ローム層をわずかに掘り込む程度で、壁の遺存状態は良くない。 床面 西壁側へゆるやかな傾斜をするが全体に凹凸がなく平坦である。ローム面を床としているがあまり締まりが良くなく軟らかい。 柱穴 径27cm、深さ16cmの柱穴が1個確認されたのみである。 炉 住居址の北西寄りに土器を埋設した所があり、この周辺からは若干の炭化物が検出されていることから埋設炉(遺物番号26)になると思われる。 遺物 遺物は、覆土中から散在的に出土した。有尾・黒浜式、諸磯c式土器が出土している。石器も少なく石斧、剥片等である。

53号住居址 (第37~39図 写真7・80・113・161)

位置 35~37E11~14。調査地の中央やや北寄りの所に位置し、90号住居址の北東に隣接する。 形状 住居址の大部分を古墳時代の住居址や、現代の耕作による攪乱を受けているため形状は、はっきりしないがおそらく壁の中央部が膨らみを持つ円形に近い方形のプランを呈すると思われる。長軸5.64m、短軸5.62mを測る。 壁 壁面はほぼ垂直に近い角度で立ち上がるが、攪乱が多く軟弱で不鮮明であった。 覆土 褐色土、黄褐色土を主体に堆積している。下層ほどローム粒の混入が多い。 床面 ローム層を床面としており、傾斜や凹凸は少ない。床中央部はロームが堅くしまっている。住居内には、西壁寄りのP₃とP₁₀の間と、東壁寄りのP₇とP₈の間に土坑が検出された。これらは、住居址の床面を切って掘り込まれているのが確認できた。本住居址よりも新しいものである。 柱穴 ビットは、住居址に10個確認された。径30~40cm、深さ20~60cmを測る。これらのうちP₁、P₃、P₇、P₁₀は規模、位置等から考えて主柱穴であろう。他のビットは支柱穴になると考えられる。 炉 北壁寄りのP₃とP₈の間に土器を埋めた埋設炉である。掘り込みは長軸120cm、短軸80cm程である。まわりからは、焼土、炭化物が検出された。 遺物 遺物量は多くなく覆土中から散在的に出土している。有尾・黒浜式、諸磯b式土器、石器、スクレイパー、石錐等が出土している。

63号住居址 (第40~45図 写真8・80・113・114・161・162)

位置 45~47E10~13。調査地の中央北寄り、半円状に広がる住居址群の内側に64号住居址の北側3分の1を重複して存在する。 形状 コーナー部にやや丸味を持つが、ほぼ正方形に近いプランを呈する。長軸4.70m、短軸4.45mを測る。 壁 ローム層まで掘り込まれており、壁面はローム層で、堅くしまっている。壁高は30~50cm程で、垂直に近い急角度で立ち上がる。 覆土 ローム粒を含む暗褐色土、黄褐色土が堆積しており下層ほどローム粒が多い。壁直下には、ローム粒の多い土が堆積しており、層の乱れはなく、自然堆積の状態を示している。 床面 ローム層を床面としている。床面中央部は堅くしまりがよく凹凸が少ない。また傾斜もなく水平である。他の同時期の住居址にみられるような土坑等の重複はない。 柱穴 各コーナーのほぼ対角線上に4個のビットが確認された。ビットの径は約30~50cm、深さ60~70cmで、主柱穴になると思われる。 炉 細長い礫を三方に囲った石囲炉。径70×40cmの方形で、燃焼部は35×15

cm程で、若干の焼土、炭化物があった。 **遺物** 床面直上の遺物はなく覆土中から散在的に出土したのみである。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b式土器、石斧、スクレイパー、石錐、磨石、凹石、石匙などである。

64号住居址 (第46～51図 写真9・80・81・114・162)

位置 42～46E 09～12。調査地のほぼ中央に位置し、63号住居址と重複して本住居址がある。本住居址の方が古い。 **形状** 63号住居址に北側を壊されているためはっきりしないが、コーナー部に丸味を持つ台形になると思われる。幅は5.12mを測る。 **壁** 壁は、ルーム層上層に掘り込まれているため、壁の遺存状態は良くなかった。壁高は約25cm程で、立ち上がりは垂直に近い。 **覆土** 暗茶褐色土を主体に堆積する。現代の建物跡による擾乱を受けたため土層堆積状態は良くない。 **床面** ローム面を床としており、東側にゆるやかに傾斜する。床面は凹凸が少なく、中央部では、ロームが堅くしまっている部分もある。また南東部に土坑が確認されたが本住居址の覆土上から掘り込まれており、新しい時期のものである。 **柱穴** ビットは南西部に片寄って4個確認された。いずれも深さが20cm未満と浅いものである。 **炉** 確認されなかった。 **遺物** 遺物出土量は多く、そのほとんどが住居址中央部の覆土中に集まって出土している。ただ完形になるように復元されたものは少ない。出土遺物は有尾・黒浜式土器、磨石、凹石、石斧、スクレイパー等である。

65号住居址 (第52～55図 写真10・81・115・162)

位置 22～26E 31～33。調査地の北東部に位置し、77号住居址の西側に隣接している。 **形状** 住居址の南側を削平されているため、プランは明確ではないが、楕円形を呈すると思われる。東西径6.80mを測る。 **壁** ローム層を掘り込んで作られており、遺存状態は良好である。壁高は30～40cmを測り、急な角度で立ち上がる。 **覆土** 黒褐色土、茶褐色土が堆積する。下層ほどローム粒を多く含む。壁直下には、ローム粒を多く含む土層が堆積しており、自然堆積と考えられる。 **床面** ローム層を床面としている。床面はビット、土坑等が多く見られ凹凸も多い。南東方向に傾斜する。床の中央部は堅くしまっているが、周辺部は比較的軟らかい。 **柱穴** 床上に9個のビットが確認された。径20～40cm程のビットがほぼ壁に沿っているが、深さは12～51cmと幅がある。これらのうちP₁、P₂、P₃、P₄の掘り込みが深いものが主柱穴になる可能性が考えられる。 **炉** 住居址の北壁寄りに、土器を埋設した埋竈炉がある。土器は、口縁と底部が欠損している。土器の中には炭化物がみられ、周辺には焼土が径30cmで数センチの厚さで堆積していた。 **遺物** 覆土中から出土した遺物がほとんどであるが、その量は多くない。床面からは台石等の石器が出土し、覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、石斧等が出土した。また、床に埋られていた土器が2個体出土したが、いずれも諸磯c式土器である。

66号a住居址 (第56～71図 写真11・12・81・82・115～117・162・163)

位置 45～49D 40～44。調査地のほぼ中央、半円状に広がる集落の一番内側にあり、133号住居址の西側に位置する。 **形状** コーナー部に丸味を持ち南壁に影らみを持つ円形に近い方形プランを呈する。長軸7.78m、短軸7.74mを測る。 **壁** ローム層を深く掘り込んで壁面としている。遺存状態は良好であり、覆土との区別は明確であった。壁高は約70cmと高く、なだらかな角度で立ち上がる所と、垂直に近い急角度で立ち上がる部分とがある。 **覆土** 茶褐色、黒褐色等の土にローム粒を含む。覆土の東半分を古墳時代の住

居址に削られ、また北側も66号b住居址によって切られているが、現状で観察した土層を見ると自然堆積をしているようである。**床面** ローム層を床面としている。中央部に若干の傾斜をする。小さな凹凸が確認された。床中央部は、ローム層の地山をそのまま堅くしめた状態であった。**柱穴** ビットはb住居址と合わせて大小23個検出された。これらのうち主柱穴になるものはP₁、P₂、P₃、P₄、P₁₃、P₁₆、P₁₈、P₂₁、P₂₃等の比較的掘り方の深いものであろう。**炉** 40×35cm程の方形に礫を配置した石囲炉に、その東側に土器を埋設したものである。周囲には、若干の焼土と炭化物が確認された。石囲いの方が燃焼部で、埋設土器部は種火用であろうか。**遺物** 覆土中からの出土遺物が多い。特に北西壁寄りに多く集まっている。覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b式土器、スクレイパー、石斧、磨石、凹石、石鏃、その他剥片等が出土している。また、床面上からは北東コーナー付近に大形の台石がやや浮いた状態で出土している。

66号b住居址 (第56～71図 写真11・12・81・82・115～117・162・163)

位置 45～47D41～44。66号a住居址の南東側に壁の一部を共有して位置する。**形状** 若干コーナー部に丸味を持つほぼ方形のプランを呈する。長軸3.49m、短軸3.19mを測る。**壁** 壁は、66号a住居址の床をさらに30～40cm程掘り下げており、立ち上がりは垂直に近い角度で、遺存状態は良好であった。壁高は、66号a住居址の上場から測ると1m近くになる。**覆土** 基本的には、66号a住居址と堆積が似ており、自然堆積を示す。66号a住居址との重複も土層で確認できた。**床面** ローム層を床面としており、西壁寄りにゆるやかに傾斜する。床中央部は堅くしまっている。また北西壁直下に土坑が確認されているが、土層の堆積状況を見ると、本住居址と同じ土層が堆積しており、同一時期で、住居に伴う可能性が高い。**柱穴** 本住居址内からは4個のビット及び土坑が確認されたが、66号a住居址の柱穴と考えられるものもあり、確実に柱穴となるものの判断はできなかった。**炉** 確認されなかった。**遺物** 覆土中からの出土遺物が多く、そのほとんどが、諸磯c式期のものと、磨石、凹石、石斧等であった。遺物は北西寄りの覆土中から集中して出土した。また本住居址は有尾・黒浜式土器の出土量が極端に少ない。

67号住居址 (第72～77図 写真13・82・117・164)

位置 34～37D40～42。調査地のほぼ中央にあり、86号住居址の南側、98号住居址と134号住居址の間に位置する。**形状** 南側約3分の1を古墳時代の住居址と重複して壊されているため、短軸方向の計測値は不明であるが、長軸6.12mを測りコーナー部に丸味を持つ長方形プランを呈する。**壁** 東壁側では、ローム面を掘り込んでしっかりした壁面を有するが北西寄りの壁面は、ローム漸移層を壁面としているため壁面が不鮮明である。壁高も29～54cm程で、東壁側は立ち上がりも急角度でしっかりしているが、北西寄りの壁面は、なだらかに立ち上がっている。**覆土** 黒色土、茶褐色土が堆積しており、粘性、締まりとも強い土である。攪乱等による堆積の乱れは少なく自然堆積の状態を示す。**床面** ローム層を床面としている。南側にわずかに傾斜する。若干の凹凸が見られた。床全体がロームで堅く締まっているが、若干住居址の壁近くは軟らかくなっている。また溝がP₁とP₂の間と、南壁側の50号住居址(古墳時代)によって壊された部分から検出された。幅30cm、深さ15cm程である。西壁コーナーに径50cm、深さ30cm程のビットが検出されたが、本住居址との新旧関係は明瞭ではない。本住居址の貯蔵穴の可能性もある。**柱穴** ビットは13個検出された。これらのうち主柱穴になると思われるのはP₁～P₄の4個であろう。その他P₅、P₇、P₁₈、P₁₉は支柱穴であろう。**炉** 確認されなかった。**遺物** 住居址の埋没直後から遺物の流入が見られた。遺物は、東壁寄りに多い傾向を示す。床面直上の出土遺物はなかった。出土遺物は有尾・黒浜式土器、石皿、

第1章 検出された遺構と遺物

磨石、凹石、石甃、石匙、石斧、スクレイパー、その他剥片類と、土器の出土量も多いが、石器類の出土量も多い住居址である。

68号住居址 (第78～82図 写真14・82・117・118・164)

位置 60～63E33～37。調査地の北西部にある一群で69号住居址の南東に位置する。**形状** 長軸8.54m、短軸7.98mを測る。北壁、西壁でプランが不鮮明になるが、コーナー部に丸味を持つ隅丸長方形になるであろう。**壁** 壁高は東壁側で45cmを測り、ローム層に掘り込まれ、立ち上がりはゆるい角度であるが、遺存状態の良好な壁である。それに比べて、北壁、西壁側は壁高が10cm程で、ローム漸移層中にある。そのため立ち上がり等不鮮明な所が多く、住居址プランを不明確にしている。**覆土** 上層から暗茶褐色土、暗褐色土、茶褐色土と堆積しており、下層ほどローム粒の混合が多く、土層堆積は自然的なものと思われる。**床面** ローム層を床面としている。床中央部は堅くしまっており凹凸が少なく平坦であるが、若干南東方向に傾斜が見られる。住居址内から土坑が検出されたが、これらの土坑は、柱穴や床を切り込んで作られており、本住居址よりも新しいと考えられる。**柱穴** ビットが10個検出されたが、このうち主柱穴はP₁、P₂、P₃～P₉の5個が考えられ、他のビットは支柱穴と思われる。**炉** 住居址内の北西壁寄りに礫を4個組み合わせた石囲炉と、東壁寄りP₉の近くに大形の土器片を組み合わせた炉の2ヶ所が検出された。2ヶ所の炉とも、南側に焼土の散布がみられた。また炉の内部には炭化物が確認された。石囲炉の径は50×45cm、埋塵炉の方は30×24cmを測る。**遺物** 覆土中からの出土遺物は散在的で多くない。有尾・黒浜式、諸磯b式、浮島式土器、凹石、石斧、スクレイパー等が出土している。

69号住居址 (第83～85図 写真15・82・83・118・164)

位置 64～67E37～40。調査地の北西にあり68、70、72、153号住居址の間に位置する。**形状** 長軸4.40m、短軸4.30mを測り、本遺跡の中でも小形の住居址である。プランは、北西壁が張り出す五角形を呈する。**壁** 壁高は14～20cmで、北東壁はローム層を掘り込んで作られ、立ち上がりもしっかりしているが、西南壁はローム漸移層中に掘り込まれているため、立ち上がりも不明瞭であった。**覆土** 住居址内には、暗茶褐色土の土層が堆積しており、自然堆積と思われる。**床面** ローム層を床面として、南西方向に若干傾斜している。凹凸は少なく、堅くしっかりした床である。住居址内に土坑が3基重複しているが、土層セクションや出土遺物から判断すると、本住居址より古いものと思われる。**柱穴** 確認されなかった。**炉** 中央やや北寄りに土器を2個並べた埋塵炉。炉の周辺には焼土、炭化物が70×60cm程の範囲で薄く堆積している。**遺物** 炉に使用された土器以外では小破片が覆土中に極少量出土したのみである。東壁際に台石が出土している。覆土中のものは諸磯c式土器が多く、土坑内からは諸磯b式土器が出土している。

70号住居址 (第86～89図 写真16・83・118・165)

位置 63～65E38～42。調査地の北西部にあり68、69、153、154号住居址の間に位置している。**形状** 平面形は北壁が短かく南壁が長くなる台形のプランを呈する。南東側で確認面から深さ12～15cmのテラス状の施設を持ち、この部分も含めて、長軸5.10m、短軸4.80mを測る。**壁** 壁高は40～50cmと比較的高くローム層を掘り込んで壁としている。立ち上がりも明瞭で急角度に立ち上がる。テラス部の高さは12～15cmで、ローム漸移層に掘り込まれているため、やや不鮮明である。**覆土** 茶褐色土のロームパミスを多く含む土の堆積で自然堆積と思われる。またテラス部は、ロームブロックを含む黄褐色土が堆積していた。**床**

面 ローム層を床面としている。中央部がやや高くなっており、床面全体に凹凸が見られ、堅くしっかりしているが、テラス部は軟らかい。住居址内に土坑が検出されているが、土層からの新旧関係は確認できなかった。柱穴と切り合っている事から本住居址と供伴ではなく重複関係にあると考えられる。柱穴 ピットは $P_1 \sim P_4$ の4個確認された。これらが主柱穴になる。規模は径25cm、深さ44~60cm程である。他に支柱穴になるようなピットは確認できなかった。炉 東壁寄りの P_3 と P_4 の間に径40cm程の薄い焼土の散布が見られた。床炉になると思われるが、掘り込み等はなかった。遺物 覆土中からの出土遺物は比較的多く、特に南壁寄りに集まる傾向を示す。出土遺物には有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、磨石、石斧、スクレイパー、剥片等が出土している。

72号住居址 (第90~95図 写真17・83・119・165)

位置 67~71E32~37。調査地の北西部79号住居址の北側にあり有尾・黒浜式期の住居址では、一番北側に位置する。形状 西壁側がややくずれてはいるが、縦長の台形を呈する。長軸8.12m、短軸6.10mである。壁 西壁を除く他の壁は、ローム層を掘り込んで作られており、垂直に近い急角度で立ち上がり、壁高は25~40cmである。西壁はローム漸移層中にあり覆土との判別が不鮮明であった。床面 西側に若干の傾斜を持つローム層を床としている。床は堅くしまりがあり、凹凸は少ないが、壁際はいくぶん軟らかくなっている。周溝は南、東、西壁の一部に廻っている。幅17~29cm、深さ7~24cmである。柱穴 ピットは大小6個検出できたが柱穴になりそうなピットは P_2 、 P_3 、 P_4 で他のものは浅く柱穴になりそうなものではない。炉 北壁寄りに有る。地面を径80×76cm、深さ19cm程掘り込んだ北側に竈を配置した形をする。竈は、扁平な石と円礫を炉の一方に並べている。遺物 覆土中からの出土遺物がほとんどで、東壁寄りに集中して出土した。出土遺物には有尾・黒浜式土器、磨石、凹石、石斧、石匙、石鏃、スクレイパー、剥片等である。諸磯式土器は本住居址から極少量出土したが、他からの混入と考えられる。

73号住居址 (第96~103図 写真18・83・84・119・120・165)

位置 70~76E28~32。調査地の北西部にある。79号住居址の西側に位置している。形状 コーナー部に丸味を持つ長方形プランを呈する。長軸7.90m、短軸7.20mを測る。壁 壁は、ローム層を掘り込んで作られておりしっかりしている。壁高は14~37cmを測り、立ち上がりは比較的ゆるやかになっている。覆土 褐色土を主体にして、ローム粒を下層に多く含む。壁際には黄褐色のローム粒を多く含む土が堆積しているなど、自然堆積の状態を示す。床面 ローム層を床面として、住居址中央部は堅くしまっているが、周辺部は、ローム漸移層が混じり、やや軟らかくなっている。床中央部に向かってゆるやかに傾斜するが凹凸は少なく平坦である。柱穴 ピットは6個住居址のやや南西寄りに片寄って検出された。これらのうち主柱穴は $P_1 \sim P_4$ の4個で、径30~50cm、深さ50~60cm程である。炉 住居址の西壁寄りに P_1 と P_2 の間に2個の円礫と、1個の土器を使用した炉。石組の部分が40×30cmで、土器は径25cm程である。周囲には炭化物が多く散布していた。またこの炉の南西20cm程の所に1個体、東側90cm離れた所に1個体が地面に上部を出した状態で、もう1個体は地中に埋まった状態で出土した。これらの周辺にも焼土、炭化物が確認されたが、これらも炉として考えるのは迷うところである。これ以外に北壁側にも、床面にわずかに土器上部が見える位に埋設された土器が検出され、やはり同じように焼土、炭化物が散布していた。遺物 床面直上のものは少なく、埋設土器以外は、覆土中からのものが大部分である。遺物は西壁寄りに出土する傾向がみられる。出土遺物には有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、多孔石、凹石、磨石、石匙、スクレイパー、

剥片等である。

74号住居址 (第104~106図 写真19・84・120・166)

位置 54~57E28~31。調査地の北寄りにあり、4号住居址の東に位置する。**形状** 東壁、南壁側を外に張り出すが基本的には、長方形プランを呈する。長軸4.88m、短軸4.40mを測る。**壁** 壁高は11~30cmで比較的垂直に近い角度の立ち上がりである。壁はローム層を掘り込んでおり、堅くしっかりしたもので、覆土との区別は明瞭である。**覆土** 暗茶褐色土を主体にローム粒を含む土で自然堆積と思われるが土層セクションの南側で、土坑状の堆積の攪乱が確認された。**床面** ローム層を床面としている。床はほぼ水平で凹凸は少ない。住居址中央部はやや堅くしまっているが、周辺部は軟らかく掘り過ぎてしまった部分がある。**柱穴** 住居址には、大小8個のピットが確認された。これらのうち柱穴になると思われるようなピットはP₁、P₂、P₃、P₄、P₅等であるが、住居址の南西部からはピットが確認されなかった。**炉** 北壁寄りP₁とP₄の間に細長い礫と、口縁部と底部を欠損した土器を埋め込んで炉としている。周辺には若干の焼土と、炭化物が散布していた。**遺物** 遺物の出土量は少なく、覆土中からわずかに出土したのみである。有尾・黒浜式土器が大部分で他に少量の諸磯b式土器、磨石、石斧、石匙などである。

75号a、b住居址 (第107~111図 写真20・84・120・121・166)

位置 56~59E21~24。調査地の北東部に位置し、78号住居址の北東に接している。本住居址は調査時1軒の住居址かと思われたが、発掘した結果2軒の重複かと思われるようになった。内側の住居址をa、外側の住居址をbとする。**形状** コーナー部に丸味を持つ方形プランを呈する。規模はaが長軸3.70m、短軸3.60m、bが長軸5.20m、短軸4.20mである。**壁** a、bともローム層を掘り込んでおり、立ち上がりも垂直に近い角度でしっかりしたものである。aは壁高60cm、bは30cmを測る。**覆土** 黒褐色土を主体にローム粒、炭化物を含む。土層の観察からはaがbの覆土を切っているというよりは、むしろ、aの住居址に覆土が堆積した後、bが掘り込まれたようである。**床面** ローム層を床としており、凹凸が少なく平坦である。住居址内は、土坑の重複が多く見られた。これらの土坑のうち335、337、339号土坑は、床面の状況からa住居址よりも古いと思われる。また334、336号土坑は、a住居址より新しく、b住居址より古い可能性があるが、明確ではない。**柱穴** a住居址内にピットは3個確認されている他は、土坑によって壊されている事も考えられる。**炉** a住居址では、北壁寄りの所に土器を埋めた埋壺炉、またb住居址でも西壁寄りに土器を埋設した埋壺炉と思われる焼土、炭化物の散布が見られた。**遺物** 覆土中からの出土遺物が多く、全体に散らばっている。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、磨石、石斧、スクレイパー等が出土している。

77号住居址 (第112~115図 写真21・84・85・121・166)

位置 18~21E27~30。調査地の北東に位置し、65号住居址の東に隣接する。ここは、諸磯c式期の住居址が数軒集中している。**形状** コーナー部が若干丸味を持つ方形プランを呈する。長軸4.93m、短軸4.59mを測る。若干北壁側が大きくなる。**壁** 壁はローム層に掘り込まれたローム壁で、壁高19~28cmである。**覆土** 黒褐色、茶褐色などの土でローム粒を含む。壁際には、ロームブロックを含む茶褐色土が堆積しており、住居址埋没の初期には自然堆積の状態を示すが、途中の堆積は、人為的な土層の乱れがある。**床面** ローム層を掘り込んで床面としている。中央部は堅くしまっているが周辺部は軟らかくローム漸移層が混

じっている。柱穴 ビットは6個確認された。P₁、P₂、P₄、P₆が主柱穴になりP₃、P₅が支柱穴になるであろう。ピットの規模は径15～28cm、深さ29～67cm程で、柱穴としては、残存状況の良いものである。炉 本住居址からは埋壺炉が2基検出された。1基は北東壁寄りのP₄、P₆の中間でピットを結ぶ線上のやや内側にある。もう1基は、北西壁側でP₁、P₅の中間で同じようにピットを結ぶ線上よりも内側にある。2基の炉とも周辺や炉内に焼土、炭化物の散布が見られた。また、土器の口縁付近は、二次焼成を受けていた。遺物 遺物の出土量は少なく、覆土中からも散在的であったが、ほぼ床面直上の所からは完形に近い深鉢や、有孔の小鉢等が出土している。覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、磨石、凹石、石匙、スクレイパー、石皿、石斧、剃片等が出土した。

78号a住居址 (第116～131図 写真22・23・85・86・121～123・166・167)

位置 59～62E17～23。調査地の北西部にあり、74、75号住居址の間に位置する。b住居址と重複し、本住居址の方が古い。形状 南壁と、西壁の大半をb住居址によって壊されているため、はっきりした形状は推察になるが、およそ、6.70×6.20mのコーナー部の丸くなる長方形プランを呈する。壁 ローム層を掘り込んで北壁、東壁は作られ立ち上がりは垂直に近くしっかりしているが、西壁は、ローム漸移層が壁面となっているため、立ち上がりが明瞭でない。壁高は30～40cmである。覆土 暗茶褐色土層にローム粒を含む。壁際には、ロームブロックを含む土層が堆積し、自然堆積であると思われる。西側の土層が攪乱によりはっきりしなかった。またb住居址とは土層セクションからは分離できた。床面 ローム層を床面としており、凹凸が少なく平坦である。床中央部は堅くしまっているが、周辺部は軟らかい。周溝は北壁と東壁に有り幅20～30cm、深さ10～15cm程である。また住居内からは、66×58cm、深さ25cm程の土坑が確認された。この土坑からは深鉢が出土している。覆土中からの掘り込みは確認されず、おそらく本住居址に伴うものと考えられる。炉 北壁寄りのP₁、P₅の間にある。大形の深鉢胴部破片を地中に埋めて、炉の一边とした地床炉。炉は土器の東側に焼土が径40×35cmの範囲で堆積している。遺物 遺物は大半が覆土中からの出土で、東壁側にまとまった大形の破片が出土している。調査時にa、b両住居址を同時に発掘したため、遺物は、出土位置図を取った物以外は混合してしまった。そのため、本住居址の覆土中の遺物を特定する事ができない。出土位置の把握できる物では有尾・黒浜式土器がある。

78号b住居址 (第116～131図 写真22・23・85・86・121～123・166・167)

位置 59～62E17～23。a住居址と重複。形状 コーナー部に丸味を持つ方形プランを呈する。推定で一辺5.80m程であろう。壁 ローム層に掘り込まれたしっかりしたもので立ち上がりも垂直に近い急角度である。壁高は20～30cmを測る。覆土 壁際にロームブロックを含む土層が堆積するなど自然堆積の状態を示す。床面 ローム層を床面として中央部は堅くしまっている。凹凸は少なく平坦である。柱穴 ビットはa、b両住居址合わせて22個検出された。このうちP₁、P₃、P₅、P₂₀はa住居址の主柱穴になり、b住居址の主柱穴はP₁₀、P₁₁、P₁₇、P₁₈で、P₁₁、P₁₂、P₁₃は支柱穴と考えられる。炉 西壁寄りのP₁₃とP₁₈の間に竪を「コ」の字形に囲い竪のない部分に土器下半を埋め込んだ炉が1基検出された。焼土、炭化物が散布していた。また北壁寄りに2ヶ所土器を使用した炉が検出された。1基は、土器を埋めずに地面に置いたもので焼土が散布している(遺物番号10)。もう1基は2個の土器を埋設したもので焼土、炭化物が堆積していた(遺物番号7、8)。遺物 本住居址からの遺物出土量が多い。床面から若干浮いた状態で、住居址の北東コーナーから石皿と有孔浅鉢がふせた形で並んで出土した。その他、諸磯b、c式土器が出土

しているが、覆土中の遺物はa住居址と混合してしまったため特定できない。

79号住居址 (第132～135図 写真24・123・167)

位置 65～68E 28～32。調査地の北西部にある。72号住居址の南に位置する。**形状** コーナー部が丸くなり、北壁が南壁に比べやや長くなる長方形プランを呈する。長軸6.98m、短軸5.08mを測る。**壁** ローム層中に掘り込まれ、立ち上がりは垂直に近い急角度で、しっかりしている。北東壁は壁高が40cm前後と高く、南西壁は10cmとやや低くなっている。**覆土** 暗褐色土層にロームブロックを含む。壁際には、ロームブロックを含む土が堆積している。土層には乱れている部分があり、自然堆積とは考えにくい。**床面** ローム層を床面としており、南西にゆるやかに傾斜する。床は凹凸がなく平坦で堅くしまっている。東壁側に幅30～40cm、深さ20～30cm程の溝がある。また北壁には径103×72cm、深さ45cm、東壁寄りに径74cm、深さ30cmの土坑が検出されたが、これらは床面を切って掘り込まれており、住居址の壁を切っている事などから、住居址より新しい。また、遺物も諸磯式土器が出土した。**柱穴** ビットは住居址内から13個検出された。このうち2個は土坑になり、他の11個のビットが柱穴と考えられるが、主柱穴はP₂～P₄、P₇、P₈、P₁₀などであろう。**炉** 確認されなかった。**遺物** 遺物出土量は多くなく覆土中からの物が大半であった。出土遺物は有尾・黒浜式土器、台石、磨石、凹石、石弁などである。また諸磯式土器はP₁₁、P₁₀から出土しているが、覆土中からは出土していない。

80号住居址 (第136～147図 写真25・26・86・87・123・124・167・168)

位置 24～28E 11～15。調査地のほぼ中央東寄りの所にあり、84号住居址の北側に隣接して位置する。**形状** コーナー部に丸味を持ち、北壁が張り出す方形プランを呈する。長軸7.80m、短軸7.11mを測る。**壁** ローム層に掘り込まれた壁は、堅くしっかりしており、覆土との区別は明瞭であった。立ち上がりは、北東壁はゆるやかであるが、南西壁は比較的急角度である。壁高は70cm程で高くなっている。**覆土** 壁直下には、ロームブロックを含む黄褐色土の一次堆積がみられるが、覆土中にロームブロック、ローム粒を含み、自然堆積とは考えられない覆土もある。**床面** ローム層を床面としており、全体に堅くしまっている。東側に若干傾斜を持ち、凹凸がみられる。住居址内には、土坑が3基検出された。このうち217号土坑は、土層セクションで住居址より新しい事が確認された。またP₃、P₈の土坑は、床を切って掘り込んでいる事から住居址より新しく、また住居空間をせざる事から271号土坑と同じように重複関係にあると考えられる。**柱穴** 土坑を除いて6個のビットが確認された。これらのうちP₁～P₃、P₆の4個が主柱穴になる。**炉** 北壁寄りのP₆の西側に土器を4個体(遺物番号3、7、11、1個体不明)埋設した炉と、西壁側、P₃とP₈の間に土器を5個体(遺物番号2、4、5、6、16)埋設した炉の2ヶ所確認された。両方とも焼土、炭化物が散布していた。**遺物** 出土遺物は多く、特に覆土中では、北西壁に多く分布している。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、磨石、凹石、台石、石弁、石匙、石鏃、スクレイパー、剥片等が出土している。

81号住居址 (第148～154図 写真27・87・88・124・125・168・169)

位置 26～31D 48～50。調査地のほぼ中央に位置し、94号住居址の北西に隣接している。**形状** 古墳時代の住居址及び、土坑等による擾乱で形状が不明確ではあるが、基本的には、コーナー部に丸味を持つ方形プランを呈する。長軸6.76m、短軸6.46mを測る。**壁** ローム層を掘り込んで作られたローム壁。東南壁側は、垂直に近い角度で立ち上がり、北、西壁は、ゆるやかに立ち上がる。壁は堅くしっかりしており覆土

との区別は明瞭であった。壁高は50cm程である。 **覆土** 大きく7層に分けられ、ローム粒、焼土、炭化物を含む。壁際には、ロームブロックを含む暗褐色土が一次堆積しているが、土層中にロームブロックを含み、自然堆積とは考えられない堆積状況である。 **床面** ローム層を床面としており、堅くしまっている。床面は凹凸が少なく東壁側が高くなっている。特に南東コーナー部では床中央部より20cm高くなっている。住居址内には、土坑が4基検出された。いずれも床面を切って作られており、住居址より新しく重複関係にあると考えられる。 **柱穴** ビットとして調査したものは7個あるが、そのうちP₇は土坑である。P₂、P₄、P₅が主柱穴になるが、北東部からは、ビットが確認されなかった。P₁、P₃、P₆は支柱穴であろう。 **炉** 2ヶ所から埋燵炉が確認された。北西壁のP₄、P₅の間と、北東壁側の2ヶ所から若干土器上部が出た状態で周辺に炭化物、焼土が散布している。 **遺物** 覆土中の遺物は散在的で、有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、磨石、石斧、石匙、石鏃などである。床面上、北東コーナーからは、多孔石、台石、石皿、深鉢、有孔浅鉢が一括して出土している。覆土中の土器と、床面出土の土器を比べると、床面出土の土器の方が新しい傾向にある。

82号a、b住居址 (第155～161図 写真28・88・125・169・170)

位置 21～24E07～10。調査地の中央東よりに位置し、80号住居址の南に隣接する。 **形状** 本住居址は2段に落ち込み土層セクション等の観察から2軒の住居址の可能性が考えられる。南壁側を古墳時代の住居址が壊しているが基本的には、コーナー部が丸くなる方形プランである。上段の住居址をa、下段の住居址をbとする。aの長軸6.40m、短軸5.81m、bの長軸5.36m、短軸4.96mである。 **壁** ロームを掘り込んでおり、壁面はしっかりしている。立ち上がりはa、b住居址とも急角度の所と、ゆるやかに立ち上がる所がある。壁高はaで20cm、bが上段から測って50cm程である。 **覆土** 6層に分類され、壁直下には、ローム粒、ロームブロックを多く含む土が堆積し、住居址中央には炭化物を多く含む土が堆積する。a、bの新旧は、bの方が新しい。 **床面** ローム層を床面としている。比較的堅くしまっている。凹凸は少なく平坦である。土坑が壁際に4基確認された(P₁～P₄)。これらはいずれも床面を切って掘り込まれており、本住居址より新しいものであるが、住居址に付属するのかは不明。 **柱穴** 土坑として考えたビットを含めて、11個確認された。これらのうち、P₁とP₃は柱穴と土坑が重複している。b住居址の主柱穴はP₁、P₃、P₅、P₆で、支柱穴はP₂とP₁₁であろう。a住居址の柱穴はP₁、P₂、P₅、P₉となる可能性もある。 **炉** 炉は北壁寄りと西壁寄りの2ヶ所に土器を埋設した炉が確認された。いずれも土器の先端を床面より少し出した状態で、焼土と炭化物の散布がみられた。 **遺物** 覆土中からの出土遺物は散在的であった。床面上からは、大形の石皿、台石等で、覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式、浮島式土器、凹石、磨石、石斧、スクレイパー、石匙等が出土している。

83号住居址 (第162図 写真125)

位置 32～34D44～46。調査地のほぼ中央にあり、86号住居址の東側に隣接している。 **形状** 住居址の大半を古墳時代の住居址によって壊されているが残りの部分から推定すると、長方形プランを呈する。 **壁** ローム漸移層を壁面としているため、覆土との区別がやや不明瞭であった。立ち上がりは急角度で、壁高は4～18cmを測る。 **覆土** 暗茶褐色土にローム粒を含む。 **床面** ローム漸移層が床面で軟らかい。床は、凹凸が少なく平坦である。 **柱穴** 4個確認された。径が40cm、深さ17～28cmである。 **炉** 確認されなかった。 **遺物** 遺物の量は少なく、覆土中からは散在的に出土したのみである。遺物は有尾・

黒浜式土器が出土している。

84号住居址 (第163～169図 写真29・88・89・126・170)

位置 25～30E06～09。調査地の中央やや東寄りにあり、85号住居址と重複して82号住居址の西隣りに位置する。**形状** コーナーに丸味を持つ方形プランを呈する。長軸4.18m、短軸3.90mを測る。**壁** 壁は85号住居址の壁を一部利用しており、ルーム層まで掘り込まれている。立ち上がりは比較的ゆるやかで壁高は60cm程である。**覆土** 茶褐色土にルーム粒、炭化物を含み、85号住居址との新旧関係も確認できた。**床面** ローム層を床面としており、堅くしまっている。中央部に縦2.10m、横1.20mの長方形のくぼみが検出されたが、土層断面からは本住居址と同じ覆土が堆積している事が確認された。本住居址に伴うものと考えられる。**柱穴** ビットは9個確認された。このうち主柱穴になるのはP₁～P₄である。**炉** 住居址のやや北壁寄りに土器を埋設して炉としている。焼土が若干散布している。**遺物** 床面上からは磨石、凹石が出土している。覆土中の遺物量は少なく、住居址の中央に集中する傾向にある。覆土中の出土遺物は、85号住居址と混合してしまっただけで特定できないが、有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、磨石、凹石、スクレイパー等である。

85号住居址 (第163～169図 写真29・88・89・126・170)

位置 25～30E06～09。84号住居址と重複している。**形状** 現状で長軸8.55m、短軸7.97mを測るが北壁、東壁がはっきり確認できず形状は定かでない。**壁** ローム漸移層を壁面としているため、全体的に壁面は軟らかく、立ち上がりも不明瞭であった。壁高は20～40cm程である。**覆土** 壁直下には、ロームブロックを含む土が堆積しており、自然堆積と思われる。**床面** ローム層を床面としており、堅くしまっている。南東方向に若干傾斜している。凹凸は少なく平坦である。**柱穴** ビットは10個確認された。このうち主柱穴はP₈、P₁₀、P₁₃、P₁₆、P₁₇と思われる。他は支柱穴であろう。**炉** 竈を三方に配置した石囲炉。周辺に若干の炭化物、焼土が散布していた。**遺物** 床面近くからは深鉢(遺物番号1)が出土している。覆土中の出土遺物も多くなく、有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、台石、石斧、スクレイパー、石匙などが出土している。

86号住居址 (第170～172図 写真30・126・170)

位置 35～37D45～47。調査地のほぼ中央に位置し、83住居址の北西に隣接している。**形状** コーナー部に丸味を持つ長方形プランを呈する。長軸4.65m、短軸3.53mを測る。**壁** 北西壁はローム層に掘り込まれたローム壁で、南東壁はローム漸移層を壁面としている。立ち上がりは南壁以外はゆるやかな角度である。壁高は10～20cmを測る。**覆土** 壁直下にはロームブロック混じりの土が堆積しており、自然堆積の状況を示している。土坑との新旧は、土層断面からは確認できなかった。**床面** ローム層を床面としており、比較的堅くしまっている。凹凸はなく平坦で、やや北側に傾斜している。住居址内からは、土坑が4基確認されている。これらは、床面を切って掘り込まれている事から本住居址より新しいと考えられる。**柱穴** ビットが2個確認されたが、掘り込みが浅く柱穴になるか不明である。**炉** 確認されなかった。**遺物** 覆土中からは散在的に遺物が出土している。有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、多孔石、磨石、石斧、スクレイパー、石匙等が出土している。

88号住居址 (第173～177図 写真31・89・127・171)

位置 34～37D32～35。調査地の中央南寄りに位置しており、147号住居址と東南壁の一部が接している。

形状 住居址の北東壁側で膨らみをもって丸くなるが、方形を意識したプランであろう。長軸5.72m、短軸5.44mを測る。**壁** ローム層を掘り込んで壁面としているのが軟らかく立ち上がりもしっかりしていない。南壁側は垂直に近い角度で立ち上がり他の壁はゆるやかに立ち上がる。壁高は30cm程である。**覆土** 覆土中からは、ロームブロック等の混入が多く見られる事や、土層の堆積状況を見ると、人為的に埋められたとも考えられる。**床面** 中央部がわずかに低くなっている。ローム層を掘り込んで床面としている。中央部は堅くしまっているが、周辺はやわらかい。凹凸は少なく平坦である。住居址内に土坑が1基確認されているが、床を切って掘り込んでおり、本住居址より新しいものと思われる。**柱穴** ピットは11個確認された。P₁～P₃、P₄、P₅、P₆が柱穴になるとと思われる。**炉** 西壁寄りに竈を方形に囲った部分と、やや西側に竈と、土器を埋め込んだ炉が検出された。また北壁際で、口縁と底部が欠損した土器を埋設した炉が検出された。これは土器上部を床面より3～4cm出した状態で出土している。どちらの炉からも焼土と、炭化物の散布が見られた。**遺物** 遺物は覆土中から散在的に出土した。炉に使用された土器は、諸磯b式の深鉢と、有孔浅鉢である。覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、石皿、凹石、多孔石、磨石、石弁、石匙、磁石等が出土している。

89号住居址 (第178～181図 写真32・89・127・171)

位置 23～27E02～05。調査地の中央東寄りにあり84、85号住居址の南に隣接している。

形状 コーナ部に丸味を持つ方形プランで、壁中央部がやや膨らむ。長軸6.90m、短軸6.38mを測る。**壁** ローム層を掘り込み壁面としている。南西壁面の立ち上がりは比較的急角度であるが、その他の壁はゆるやかである。壁面は堅くしまっている。壁高は南西壁側で30cm、北東壁側で60cm程である。**覆土** 壁直下の床面上には、ロームブロックを含む黄褐色土が堆積しており、自然堆積の状況を示す。**床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺は若干軟らかくなっている。床は中央に向かって傾斜するが、凹凸は少なく平坦である。**柱穴** ピットは住居址から8個検出された。これらのうち、P₁、P₂、P₃、P₄が主柱穴と考えられる。これらのピットは、ほぼ各コーナーの対角に位置して掘られている。**炉** 北壁側のP₁とP₄の間に土器を埋設した埋燵炉がある。土器は、口縁部と底部が欠損したもので、土器の上端をわずかに床より上に出した状態で埋設されていた。土器の周辺には焼土、炭化物の散布があった。**遺物** 遺物の出土量は少なく、覆土中からは散在的であったが、住居址中央に凹石、磨石がまとまって出土している。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、磨石、凹石、石弁、スクレイパー等である。

90号住居址 (第182～188図 写真33・89・128・171・172)

位置 37～41E06～09。調査地の中央に位置し、98号住居址の北側に隣接している。

形状 土坑の重複により、見た目の形状が変えられているが、基本的には、コーナー部が丸くなる方形プランであろう。長軸6.68m、短軸6.01mを測る。**壁** ローム層を掘り込んで壁面としており、堅くしまっている。立ち上がりは、北東壁寄りではゆるやかであるが、南東壁側は急角度である。壁高は30～50cmで、南東側が深くなっている。**覆土** 暗茶褐色の炭化物を多く含んだ土が住居址の覆土を切って土坑内に堆積しており、住居址より新しい事がわかる。また住居址内の覆土は堆積状況が複雑で、人為的な堆積状況をうかがわせる。**床面** ローム層を床面としているが、土坑との重複による凹凸が多い。床は比較的堅くしまっている。土坑

は、P₂のように住居址覆土を切って構築しているが、新旧の不明のものもある。柱穴 ピットは8個確認された。このうちP₁、P₂、P₃、P₄が各コーナー寄りにあり、主柱穴と考えられる。炉 住居址の北西寄りP₅、P₆の間に、土器を埋設した炉が検出された。土器は、口縁部と底部が欠損したもので、土器上端を床面よりやや上に出した状態で埋設されていた。周辺に若干の焼土、炭化物の散布がみられた。遺物 覆土中から平均して遺物が出土している。また土坑内からも遺物の出土があった。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、凹石、石皿、磨石、石斧、石匙、石鏃、スクレイパー、剥片等である。

91号住居址 (第189～195図 写真34・128・129・172・173)

位置 38～42D46～49。調査地のほぼ中央にあり、92号住居址の東側に隣接している。形状 コーナー部がやや丸くなる方形プランを呈する。長軸6.10m、短軸6.00mを測り、正方形に近いプランである。壁 ローム層を掘り込んで壁面としているため堅くしっかりしている。立ち上がりは東壁側で急角度であるが、他の壁はゆるやかである。壁高は12～39cmを測り、東壁側が低くなっている。覆土 床面近くにロームブロック、焼土を含む土層の堆積が見られた。また覆土中にも小さな掘り込みが確認された。床面 ローム層を床面としており、床中央部炉の周辺は堅くしまっている。床中央部に向かって傾斜している。凹凸は少なく平坦である。柱穴 ピットは住居址内に5個確認された。うち1個は、260号土坑内から検出された。主柱穴はP₁、P₂、P₃と土坑内にあるピットが考えられる。炉 東壁寄りに三方に石を置いた石囲炉である。炉床径は41×38cmを測る。床面を10cm程掘り下げ礎を組んだものである。炉内からは、焼土層が確認された。その他南壁寄りに焼土、炭化物の散布している部分が2ヶ所確認されたが、地床炉と思われる。掘り込みは確認されなかった。遺物 覆土中からは平均して遺物の出土がみられたが、出土総量は多くない。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、多孔石、石皿、凹石、磨石、石斧、石匙、石鏃、スクレイパー等が出土している。

92号住居址 (第196～202図 写真35・89・129・173・174)

位置 42～46E00～04。調査地のほぼ中央にあり、半円状に広がる住居址群の内側に位置している。形状 北東壁側で外側に膨らみを持つ方形プランを呈する。長軸7.00m、短軸6.50mを測る。壁 ローム層まで掘り込み壁面としているため堅くしっかりしている。立ち上がりは急角度である。壁高は60cmで高い。覆土 覆土の下層ではロームブロックを含む土層の堆積がみられる。また土層堆積の複雑な所から人為的な堆積をしていると考えられる。床面 ローム層を床面としている。床中央部は堅くしまっているが、周辺は軟らかくなっている。住居址からは土坑が3基検出された。土坑上層はロームブロック等で埋められ、床を作っている事から本住居址より古いと考えられる。北東壁の膨らみ部では床面が同一レベルで、土層による新旧関係をとらえる事が出来なかった。住居の拡張によるものか、他の遺構と重複なのか不明である。柱穴 ピットは10個確認できた。土坑と重複しているものもあるが、住居址のコーナー寄りに2～3個ずつ確認された。炉 確認されなかった。遺物 覆土中からの出土遺物は、散在的で量は少ない。床面上の北壁寄りから多孔石と石皿が出土した。石皿は裏返しにした状態で置かれていた。覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、磨石、石斧、石匙、石鏃、石鏃、スクレイパー等が出土している。

94号住居址 (第203～208図 写真36・89・130・174)

位置 23～26D46～49。調査地の中央東寄り、半円状に広がる住居址群の外側に位置する。81号住居址の南東に位置する。**形状** 壁の中央部がやや膨らみを持ちコーナー部が丸くなる方形プランを呈する。北壁の一部が古墳時代の住居址によって壊されている。長軸8.13m、短軸6.77mを測る。**壁** ローム層を掘り込み壁面としており堅くしっかりしている。立ち上がりは南東壁でゆるやかに立ち上がり、西壁は急角度である。壁高は40cm程である。**覆土** 堆積状況は複雑で覆土中にロームブロック等を含む。人為的に堆積したと思われる。**床面** ローム層を床面としており、堅くしまっている。北側に若干の傾斜を持ち凹凸は少なく平坦である。壁際では、床はいくぶん軟らかくしまりも弱くなっている。住居址には6基の土坑が確認されたが、床面を切って掘り込んでおり、覆土を切って掘り込んでいる事からも重複関係にあると思われる。**柱穴** ビットは4個確認されたが、それ以外に土坑との重複によって確認できないものもあると考えられる。**炉** P₂の東に焼土が確認されたが、掘り込みはなかった。地床炉であろうか。また269号土坑内からも多量の焼土が検出されたが、本住居址のものではない。**遺物** 全体に出土量は少なく散在的である。土坑内より諸磯式土器の出土があった他は、有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、磨石、石匙、スクレイパー、石錐、台石等が出土している。

97号住居址 (第209～216図 写真37・90・130・131・174・175)

位置 44～47D32～35。調査地の南西部に位置し、半円状に分布する住居址の内側に位置する。121号住居址の北東に位置する。**形状** コーナー部が若干丸くなる方形プランを呈する。長軸6.53m、短軸6.47mで正方形に近い。**壁** ローム層を深く掘り込んで壁面としており、堅くしっかりしている。覆土との区別が容易であった。立ち上がりは北壁側がややゆるやかな他は、垂直に近い急角度である。壁高は70～84cmを測る。**覆土** 8層に分けられ覆土中には、ローム粒や炭化物を含む。北側で古墳時代後期の擾乱により土層が一部乱れているが、自然堆積と思われる。**床面** ローム層を床面としており、全体的に堅くしまっている。比較的凹凸も少なく平坦である。**柱穴** ビットは大小合わせて27個確認された。これらのうち比較的掘り込みの浅いビットを除くと、ほぼ壁と平行してビットが掘られている。主柱穴はP₁～P₄、P₇、P₁₇と考えられP₅、P₁₆、P₂₁、P₂₂は支柱穴と考えられる。**炉** 石囲炉が3ヶ所確認された。北東コーナー寄りに2基、南西コーナー寄りに1基あり、いずれも焼土、炭化物の散布がみられた。炉に使用された石は、やや扁平な礫を使用し、焼けていた。**遺物** 覆土中からの出土量は比較的多く有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、磨石、石弁、スクレイパー、石錐等が出土している。床面上からは台石、多孔石等が出土している。

98号a住居址 (第217～233図 写真37・38・90・91・131～133・175～177)

位置 39～42D38～43。調査地の中央やや南寄りに位置し、67号住居址の西に隣接し、2軒の重複で、本住居址をa、南側の住居址をbとする。**形状** コーナー部に丸味を持つ隅丸方形プランを呈する。長軸は土層セクションからの推定で5.20m、短軸は4.90m程を測る。本住居址が、b住居址の北西部分を切って作っている。**壁** 住居址の南壁側はb住居址の覆土中にあり、b住居址と同時に調査したため、壁は土層セクションで確認されたのみである。他の壁はローム層を掘り込んで壁面としており、堅くしっかりしている。北東壁の立ち上がりは急角度であるが、西壁はゆるやかである。壁高30～50cmを測る。**覆土** b住居址との新旧は、土層セクションからa住居址が新しい事が確認できた。壁直下には、ロームブロックを

含む堆積がみられ、覆土土層も比較的単純に堆積している。床面 b住居址と重複している部分は、貼り床でロームブロック等を混ぜているのが軟らかい。他の部分はローム層を床面としており、堅くしまっている。凹凸は少なく平坦である。東壁側に幅20cm、深さ7～8cmの溝がある。柱穴 a、b住居址合わせて15個のピット、土坑が確認された。このうち本住居址の柱穴と考えられるものはP₁～P₄、P₆のピットと、271号土坑が柱穴として考えられる。炉 北壁寄りP₁の南側と、住居址のほぼ中央に土器を埋設した炉が検出された。南壁側の埋壺炉は焼土、炭化物が多く認められたが、住居址中央部の埋設土器は(遺物番号10)焼土、炭化物は少量であった。遺物 覆土中からの出土遺物は多いが、b住居址出土遺物と混在してしまったため本住居址出土と確定できる遺物は少ない。

98号b住居址 (第217～233図 写真37・38・90・91・131～133・175～177)

位置 39～42D38～43。98号a住居址と重複。形状 北壁をa住居址によって壊されているが、北東コーナー部が確認されており、これから一辺6.30m程の方形プランを呈すると思われる。壁 ローム層を壁面としており堅くしっかりしている。立ち上がりは比較的急角度で壁高は50cmを測る。覆土 ロームブロック、炭化物等を含み、土坑の掘り込みなどにより堆積が複雑になっている。自然堆積と人為的な堆積が観察された。床面 ローム層を床面としており、堅くしまっている。a住居址より若干床面のレベルが低く、凹凸は少なく平坦であるが土坑等の重複がある。205号土坑は、覆土の上から掘り込んでおり本住居址よりも新しいものである。柱穴 本住居址で柱穴になりそうなピットはP₅～P₈の4個でこのうち3個は各コーナー寄りであるが、北東コーナー部では柱穴が確認されなかった。柱穴のありそうな場所に土坑が掘られているが、この土坑との重複とも考えられる。炉 住居址の北側に竈で三方を囲った石囲炉と、西壁側のP₇とP₈の間に土器を2個体埋設した炉が確認された。石囲炉は、5cm程炭化物と焼土の層が堆積しており、その下3cm位が焼土化していた。埋壺炉の方にも薄く堆積している。遺物 覆土中の遺物がほとんどで、a住居址の遺物と混在しており有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、多孔石、台石、石皿、凹石、磨石、石杵、スクレイパー、石匙等が出土している。

99号a住居址 (第234～241図 写真39・91・133・134・177)

位置 35～37E01～03。調査地のほぼ中央にあり、117号住居址の西側に位置する。3軒の住居址の重複である。南側をa、北側をb、中央をc住居址とした。形状 北壁側を新しい住居址と土坑に、また南壁の一部を土坑によって壊されているが、残りの部分から判断して隅丸方形プランを呈すると思われる。壁 掘り込みが浅く、ローム層は漸移層を壁面としているため、覆土との区別が明瞭ではなかった。壁高は11～22cmと低く、立ち上がりは垂直に近い角度である。覆土 土層セクションから住居址の新旧関係が把握できた。新しい方からc、a、bの順であった。覆土はローム混じりの土で土坑や住居址の攪乱で堆積状況は様でない。床面 ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっている。229号土坑、232号土坑と重複しており、土層セクションから本住居址より新しい事が確認された。柱穴 東壁側で、壁と平行にピットが3個確認された。これらが柱穴になると思われるが、南西壁ではピットが検出されなかった。炉 西壁側に土器を埋設した炉がある。若干の焼土、炭化物が散布している。土器は口縁部と底部が欠損した深鉢で土器の上端部がわずかに床面より出ている。遺物 全体に出土遺物量は少なく、覆土中のものがほとんどであった。出土遺物の大部分が他の2軒の住居址と混在してしまったため、本住居址出土遺物と特定できるものは少ない。3軒の住居址から出土している遺物是有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、石皿、凹石、

スクレイパー、石斧、磨石、石匙等である。

99号b住居址 (第234～241図 写真39・91・133・134・177)

位置 35～38E04～06。99号a、c住居址と重複。**形状** 南壁側を諸磯式期の住居址によって壊されており、その全長は不明であるが幅4.92mを測る長方形を呈する。**壁** ローム漸移層を壁面としており、覆土との区別が明瞭でなく立ち上がりも不明確であった。壁高は12～20cmを測る。**覆土** ローム混じりの土が周溝、床上を覆い上層にローム粒、炭化物を含んだ層が堆積する。自然堆積と思われる。**床面** ローム層を床面としており凹凸は少なく平坦である。床の中央部は比較的堅くしまっているが、周辺は軟らかい。周溝は検出された部分では全周しており幅19～33cm、深さ16～34cmを測る。**柱穴** 本住居址内からはピット1個検出されたが、このピットは掘り込みが浅く柱穴とは考えられない。他に柱穴となるようなピットは確認できない。**炉** 確認されなかった。**遺物** 遺物の出土量は少なく有尾・黒浜式土器が主体である。遺物は、他の重複した住居址と混在したため詳細は不明である。

99号c住居址 (第234～241図 写真39・91・133・134・177)

位置 36～38E02～04。99号a、b住居址と重複。**形状** 南壁の一部を土坑によって壊されているがコーナー部が丸くなる方形プランと思われる。長軸4.01m、短軸3.30mを測る。**壁** ローム層を壁面としている。**覆土** 炭化物、ローム粒を含み堆積状況は、自然堆積と思われる。**床面** ローム層を床面とし凹凸が少なく、平坦でしっかりしている。**柱穴** 炉 確認されなかった。**遺物** 覆土中から有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、磨石、凹石、スクレイパーなどが出土している。

100号住居址 (第242・243図 写真40・91・134・177)

位置 40～42E35～37。調査地の北側、他の住居址からやや離れた所に位置している。**形状** 東壁側がやや膨らみ、コーナー部が丸くなる方形プランを呈する。一辺4.40m程のほぼ正方形に近いプランである。**壁** ローム層を壁面としており堅くしっかりしている。立ち上がりは、南東壁ではゆるやかであるが、北西壁は急角度で立ち上がる。壁高は25～36cmである。**覆土** 壁際にはロームを多く含む土が堆積し、土層堆積も整っており自然堆積と思われる。**床面** ローム層を床面としており、全体に堅くしっかりしている。凹凸も少なく平坦である。**柱穴** ピットが4個確認された。ピットの位置は全体に西壁寄りになっているが、ほぼ対角に位置する主柱穴になる。**炉** 住居址の中央西壁寄りに土器を埋設した炉である。土器は底部が欠損しており、口縁部を床面から少し出した状態で埋設されていた。焼土、炭化物が散布していた。**遺物** 覆土中からの出土遺物は少なく極少量の出土であった。床面に近い位置からは、無文の織物を極少量含む土器などが出土している。石器は、スクレイパーが出土したのみで他は若干の剥片、礫などである。

102号住居址 (第244・245図 写真41・91・134・177)

位置 45～48E28～30。調査地の中央北寄りに位置し、他の住居址と離れた所にある。**形状** 住居址の東壁側を覆土により壊されているが現存する部分から推定して長軸4.50m、短軸4.04mの隅丸方形になると思われる。**壁** ローム層を壁面としており堅くしっかりしている。覆土との区別が明瞭であった。立ち上がりは比較的急角度で壁高は14～30cmである。**覆土** 堆積状況は比較的整っており、壁直下にはロー

ム混じりの土が堆積するなど、自然堆積の状況を示す。 **床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺部は若干軟らかくなっている。凹凸は少なく平坦である。 **柱穴** ビットは5個確認された。P₁~P₃、P₄は住居地のコーナー近くにあり、ほぼ対角に位置する事から主柱穴で、P₅はP₂とP₆の間にあり支柱穴と考えられる。 **炉** 北壁寄りに竈を1個置いた所を炉にしている。極少量の焼土、炭化物を含む。 **遺物** 遺物の出土量は少なく覆土中から小破片が出土した。有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、磨石、スクレイパー等がある。

103号住居址 (第246~251図 写真41・42・91・134・135・178)

位置 45~48E15~19。調査地の中央よりやや北側に位置し、63号住居地の北に隣接する。 **形状** コーナー部がやや丸くなる方形プランを呈する。長軸8.50m、短軸7.46mを測る。 **壁** ローム層をわずかに掘りくぼめた壁で、北東壁はローム漸移層が壁面となっている。立ち上がりは急角度で、壁高は21cm程である。 **覆土** ローム漸移層中にローム粒、炭化物等が堆積している。覆土上部には、現状の建築物による擾乱や、土台の跡がある。 **床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺部は比較的軟らかい。凹凸は少なく平坦であるが、西北にやや傾斜している。 **柱穴** 住居地内からは、ビット、土坑合わせて18個検出された。これらのうち住居地のコーナー近くに位置するP₁、P₆、P₉、P₁₆が主柱穴になると思われる。また215号土坑は、本住居地の壁を切って作られている事から新しい土坑と思われる。 **炉** 2ヶ所確認された。北壁寄りのP₁₃とP₁₆の間にあるものは、石皿の破片と扁平の礫を使い、その北側に口縁部と底部の欠損した土器を埋め込んだ炉である。炉の掘り方は、比較的大きく長軸70cm、短軸38cm程である。炭化物、焼土の散布がみられた。また東壁寄りのものは、口縁部と底部が欠損した土器を、土器上端をわずかに床面から上に出した状態で埋めた炉である。掘り方は、土器を一廻り大きくしたもので、炭化物等の散布がみられた。 **遺物** 有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、石皿、凹石、石弁、石匙、スクレイパー等が出土しているが、ほとんどが覆土中からの出土遺物である。

104号住居址 (第252~259図 写真43・91・135・178・179)

位置 40~44E25~29。調査地の中央より北側、半円状に広がる住居地の内側に位置し、63号住居地の西にある。 **形状** コーナー部に丸味を持ち、正方形に近い方形プランを呈する。長軸8.06m、短軸7.74mを測る。 **壁** ローム層を掘り込んで壁面としているため、堅くしっかりしている。立ち上がりも急角度である。壁高は高い所で54cm、低い所で31cmを測る。 **覆土** 褐色土にローム粒を含む土を主体に堆積している。土層堆積状況は、自然堆積と思われる。 **床面** 床はローム層で、堅くしまっている。周辺部は、中央部に比べて軟らかくなっている。凹凸が少なく平坦であるが、わずかに北側に傾斜している。土坑の重複はなかった。 **柱穴** 住居地内からはビットが11個検出された。これらのビットのうちコーナー部に位置するP₁、P₂、P₃、P₄、P₅、P₁₁が主柱穴になると考えられる。 **炉** 礫を使った石囲炉と、土器を埋設した炉の2ヶ所確認された。東壁寄りにある炉は、4個の礫で囲ったものと、これの西側に5cmの掘り込みで5個の礫を一列に並べたものとで構成されている。この掘り込みからは、炭化物が多く堆積しており、焼土の散布もあった。埋設炉の方は、西壁コーナー近くのP₇に隣接しており、口縁部、底部の欠損しているもので、若干の焼土、炭化物が散布していた。また、P₉の周辺覆土中からも焼土が確認された。 **遺物** 床面上の遺物は少なく、わずかに礫が検出されただけである。覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石、磨石、石匙、スクレイパー、石鎌などである。

107号住居址 (第260~270図 写真44・92・135~137・179・180)

位置 52~55E 20~23。調査地の北西寄り、128号住居址と南壁側が重複している。本住居址が新しい。
形状 東壁側が丸く張り出し、西側部分ではコーナーがやや丸くなるプランを呈する。長軸5.94m、短軸5.00mを測る。**壁** ローム層を壁面としており、堅くしっかりしている。立ち上がりは、北壁ではゆるやかであるが、他は急角度に立ち上がる。壁高は、北壁側で37cm、南壁で11cmと低くなっている。**覆土** 暗褐色土にローム粒、炭化物を含む土が主体となるが、北壁寄りには、ロームブロック等が入り込んでおり、人為的な堆積状況である。**床面** ローム層を床面としており、堅くしまっている。床中央部に向かって若干傾斜しており、やや凹凸がある。**柱穴** 6個のピットが確認された。このうち住居址のコーナー寄りにあるP₁、P₂、P₃~P₆が主柱穴になるであろう。**炉** 北壁寄りのP₁とP₆の間に土器を埋設し、その北側に土器を半載したものが並べて置かれていた。埋設土器は、口縁部と底部が欠損しており、土器上部が床面より出た状態で埋設されていた。土器内には若干の炭化物、焼土が堆積していた。**遺物** 床面上からは、南壁側に大形の台石と、炉に使用された土器以外は覆土中からのものがほとんどである。覆土中の遺物は、ほぼ住居址の中央に集中しており、覆土下層から多く出土している。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式、浮島式土器、台石、凹石、磨石、石匙、スクレイパー等であるが、特に磨石、凹石が土器と一緒に廃棄された状態で出土していた。

109号住居址 (第271~277図 写真45・92・93・137・180)

位置 17~20D 16~19。調査地の南東端に位置し、115号住居址に隣接している。**形状** 北壁側が外側に若干張り出しており、コーナー部が丸くなるが、基本的には隅丸方形プランを呈する。東壁には、土坑が重複していたが新旧関係は捉えられなかった。長軸6.03m、短軸5.66mを測る。**壁** ローム層を深く掘り込んで壁面としており堅くしっかりしている。壁高は60~83cmと高く、立ち上がりは垂直に近い角度である。**覆土** 茶褐色土、褐色土にローム粒、ロームブロック等を含む土層を主体としており、それぞれの土層が連続的でなく途切れた状態の堆積を示している事から、自然堆積よりは人為的な堆積が考えられる。**床面** ローム層を床面としており、比較的堅くしまっている。北壁寄りに多少傾斜をするが、凹凸は少なく平坦である。住居址内には、土坑が検出されたが、本住居址との新旧関係は確認できなかった。**柱穴** 住居址内からは大小15個のピットが検出された。これらのピットのうち住居址のコーナー部に位置しているP₂、P₄、P₈、P₁₀が主柱穴と考えられる。**炉** 土器を埋設した埋壺炉が北壁側に1ヶ所、西壁側に2ヶ所確認された。いずれも口縁部と底部を欠いており、土器上部を床面からわずかに出した状態で埋設されていた。埋設の掘り方は土器より大きく径40~50cm程で炭化物、焼土が散布していた。**遺物** 遺物は覆土中の上層から下層にかけて出土しており、片寄った出土傾向はなかった。有尾・黒浜式土器は少量で、大部分が、諸磯b、c式、興津式土器である。石器では大小2個の石皿が、住居址と重複した土坑から出土している。覆土中からは多孔石、凹石、石匙、スクレイパー等が出土している。

110号a住居址 (第278~282図 写真46・93・137・138・181)

位置 31~33D 18~21。調査地の南の一帯に有尾・黒浜式期のものでは最も南東に位置する。本住居址は、110号b住居址と重複している。**形状** コーナー部がやや丸くなる長方形プランを呈する。長軸4.80m、短軸4.00mを測る。**壁** b住居址によって壁が壊されているため不明であるがb住居址同様掘り込みの浅いものであろう。**覆土** b住居址の覆土と同じ。**床面** ローム層を床面として堅くしまっ

いる。周溝は全周しており幅18～30cm、深さ10～34cmと深くしっかりしている。柱穴 $P_1 \sim P_6$ が柱穴に対応すると思われるが北コーナー部ではピットが確認されない。床中央にある P_8 は、径100cm、深さ30cm程の土坑で本住居址よりも新しい。炉 確認されなかった。遺物 掘り込みが浅く出土量は多くなかった。住居址の西側で、覆土上層に多く集中する傾向にあるが、これは住居址の西壁側の遺存状態が良く、壁面が残っていたためと思われる。なお本住居址の遺物は、出土位置を図に記入したものの以外は、b住居址と混在している。

110号b住居址 (第278～282図 写真46・93・137・138・181)

位置 30～34D18～23。110号a住居址と重複している。また132号住居址が南東壁で重複しているが、本住居址の方が古い。形状 コーナー部に丸味を持つ長方形プランを呈する。長軸9.08m、短軸5.96mを測る。壁 北壁はローム層を壁面としており、堅くしっかりしているが、南東壁ではローム漸移層を壁面としており不明瞭であった。また南東壁の周溝の終る所から先の壁は、図では示しているが、132号住居址との重複によって壊されており、本物ではない。壁高は高い所は35cm程で急角度で立ち上がる。覆土 a住居址と同じ内容の覆土で本住居址と土層から新旧関係は捉えられなかった。床面 ローム層を床面として堅くしまっている。a住居址の方が床面レベルは低い。周溝は、北側半分しかなく重複している部分では確認できなかった。幅30～40cm、深さ20cm程である。これらの事から本住居址よりa住居址の方が新しいと思われる。柱穴 P_2 と P_1 が壁に平行にあり、柱穴と考えられるが、南東側ではピットが確認されなかった。炉 P_2 と P_1 の間や内側に位置し、炉の片側に竈を2個置いて炉としている。炉は床を若干掘り込み径51×46cmの規模で焼土、炭化物が堆積していた。遺物 出土土器は有尾・黒浜式土器と、若干の条痕文土器があるが、本住居址の方がa住居址より爪形文や、平行沈線文土器の出土量が多い。石器は凹石、石皿、砥石、石斧、スクレイパー等であるが出土量は多くない。

111号住居址 (第283～295図 写真47・93～95・138～140・181)

位置 49～53D17～21。調査地の南、傾斜の始まる所に位置する。116号住居址の東に隣接している。形状 コーナー部に丸味を持つ隅丸長方形を呈する。長軸7.28m、短軸6.24mを測る。壁 南壁以外はロームを掘り込んで壁としており堅くしっかりしている。南壁側では、やや掘り込みが浅くローム漸移層中に壁面があり、覆土との区別が難しかった。壁高は、高い所で40cm、低い所で20cmを測る。覆土 茶褐色土にローム粒、炭化物等が混入しており、堆積が乱れている事から、人為的な堆積が考えられる。床面 ローム層を床面としており堅くしまっている。床中央部に若干の凹凸があり、ローム漸移層が入りこんでいる。周溝は、全周しており、住居址の南半分では溝が二重になっている。周溝は幅30～50cm、深さ10～34cmを測る。住居址内には土坑が2基重複しているが、床を掘り込んで作られており本住居址より新しい。柱穴 床面上にピットは、6個確認された。これらのうち $P_1 \sim P_3$ 、 P_6 がほぼ住居址の対角に位置する事から支柱穴と考えられる。また P_4 、 P_5 は支柱穴の外側にあり、周溝も二重になっている事から拡張も考えられ拡張後の柱穴と思われる。炉 北壁寄りの P_2 、 P_3 の間に地床炉が検出された。明確な掘り込みはなく、地面が70×50cm程焼土化していた。遺物 遺物は、住居址の中央からやや北壁寄りに集中する傾向がある。出土層位は、床面近くの覆土下層からは、小破片の土器が多く、覆土上層からは、比較的大形の破片が出土している。出土遺物は有尾・黒浜式土器、石皿、台石、凹石、磨石、スクレイパー、石匙等であるが、土器の出土量に比べ石器は少なかった。

113号住居址 (第296~304図 写真48・95・96・140・141・181・182)

位置 44~47D19~23。調査地の南に位置し、諸磯式期のもので、最も南西にある。111号住居址の東に隣接する。**形状** 北、東、西の壁は比較的直接状になるが、南壁で丸く膨らむ半円状のプランを呈する。長軸6.59m、短軸6.31mを測る。**壁** ローム層を壁面としており堅くしまっている。立ち上がりは南、東壁側では急角度であるが、北、西壁ではゆるやかに立ち上がる。壁高は南壁側で低く20cm程で、他の壁は、40~50cmを測る。**覆土** 基本的には下層にローム混じりの黄褐色土が入り、その上層に暗褐色土にローム粒、炭化物等の混じった土が入る。土層は連続的に堆積しておらず、途切れた状態の堆積をしている事から自然堆積よりは、人為的な堆積が考えられる。**床面** ローム層を床面としており、堅くしまっている。床面は比較的平坦であるが、西壁側へ10cm程傾斜している。住居址内には、土坑が3基検出された。床面を掘り込んで作られている事から、本住居址より新しいと考えられる。**柱穴** 住居址内にピットは6個確認された。P₇~P₈、P₉がほぼ住居址の四隅に位置する事から柱穴と考えられる。**炉** 北壁側のP₉に接して口縁部と底部が欠損した土器が埋設してあった。土器の上部をわずかに床面より出して埋設されており、若干の焼土と炭化物が確認された。**遺物** 覆土中からの出土がほとんどで、やや南側に集中する傾向を示す。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式、大木式、浮島式土器、磨石、凹石、石鏃、石匙、スクレイパー等が出土している。

114号住居址 (第305・306図 写真141・182)

位置 63~66E22~25。調査地の北西部、半円状に分布する集落の内側に位置する。129号住居址と重複しており、その大半が壊されている。**形状** 残存部から推定して、南北6.6m程の長方形プランを呈する。**壁** 高い所で20cm程の垂直に近い立ち上がりをする。**床面** ローム層を床面としており、ほぼ水平で、若干の凹凸があった。溝は、東壁と北壁に残存しており、幅20~60cm、深さ10~60cm程である。南壁に径172×154cm、深さ32cmの土坑が検出されたが、床を掘り込んで作っており、本住居址より新しい。**柱穴** 周溝内に2個検出された他は、住居址内からは検出されなかった。**炉** 住居址中央や南寄りの床面に径50cm程の範囲で焼土と炭化物の堆積が確認された。**遺物** 出土量は多くなく有尾・黒浜式土器、スクレイパー、凹石などである。

115a住居址 (第307~312図 写真49・96・141・182)

位置 20~23D19~22。調査地の南東隅に位置し109、131、140号住居址に隣接する。2軒の重複した住居址である。**形状** b住居址と、土坑等による破壊を受けたためプランは明確ではないが長軸4.13m、短軸3.10mの隅丸長方形になると思われる。**壁** ならかに立ち上がりローム層を壁面としている。壁高は23~28cmを測る。**覆土** 堆積状態は連続的に整然としており、ローム粒、炭化物等を含み自然堆積と考えられる。**床面** ローム層を床面としているが、南東部では、ロームブロックとローム漸移層を住居内に入れて、床面としている。凹凸が多く若干北東方向に傾斜している。**柱穴** 東壁側にピットが1個確認されたのみである。**炉** 確認されなかった。**遺物** 出土遺物のほとんどが覆土中のものであるが、b住居址と混在してしまった。

115号b住居址 (第307~312図 写真49・96・141・182)

位置 20~23D19~22。115号a住居址と重複している。**形状** 本住居址もa住居址と同様に土坑等の

重複により明確なプランは確認できなかったが長軸が5m程の隅丸方形を呈すると思われる。壁北東壁は、ローム層を壁面としており堅くしっかりしているが、西壁はローム漸移層を壁面としており覆土との区別が難しく立ち上がりもはっきりしなかった。壁高は20~30cm程で、北、東壁は比較的急角度で立ち上がる。覆土 本住居址も基本的には、a住居址と同様に整然と堆積しており、自然堆積と考えられる。覆土の堆積状況を見ると、a住居址の方が新しい。床面 ローム層を床面としており、若干の凹凸がみられるが、比較的堅くしまっている。床面は、南西方向に若干傾斜している。柱穴 住居址のコーナー近くに4個のピットが確認されたが、これらが支柱穴になると考えられる。炉 北壁側と、西壁側の2ヶ所に土器を埋設した炉が確認された。西壁側の土器は口縁の一部が欠損しているのみでほぼ完形で、口縁部を若干床面より出した状態で埋設されていた。北壁側のもは、口縁部と、底部を欠損しており、西壁側のもと同様に土器の上部を床面より出した状態で埋設されていた。遺物 覆土中からの出土がほとんどで量は多くない。a住居址と混在してしまった。両住居址からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式、浮島式土器、台石、磨石、スクレイパー、石斧等が出土している。

116号住居址 (第313~325図 写真50・96~98・142・143・182・183)

位置 53~56D20~24。調査地の南側やや西寄りに位置し、本住居址より南側では、傾斜がきつくなり、谷地が形成される。111号住居址とともに、本遺跡のある微高地の南端に位置する。形状 若干コーナー部に丸味を持つ隅丸長方形プランを呈する。長軸6.10m、短軸4.90mを測る。壁 掘り込みは浅く、南、東壁ではローム漸移層を壁面としており、覆土との区別が容易ではなかった。壁高は30cm前後である。覆土 ローム混じりの黄褐色土を下層に、上層は炭化物、焼土、ローム粒等の混じる土が堆積している状態が、連続的に整然としており、自然堆積と思われる。床面 ローム層を床面としており堅くしまっている。中央部でやや凹凸がみられる他は、平坦である。周溝は、全周している。幅30~35cm、深さ20~25cm程で、溝内に小ピットがいくつか確認されている。北壁側の周溝に接して90×50cm、深さ60cm程の土坑が検出されているが、本住居址との関係は不明である。柱穴 P_1 ~ P_4 が対角に位置し支柱穴になると思われる。炉 北壁側の P_1 と P_2 の中間に焼土が床面に100×60cmの範囲で確認され、径20cm程の土器底部(遺物番号6)が埋設されていた。遺物 遺物の出土量が多く、ほぼ全面に覆土中から出土している。出土遺物は有尾・黒浜式、大木式土器、多孔石、凹石、磨石、石斧、スクレイパー石匙、石錐等が出土している。

117号住居址 (第326~331図 写真51・98・143・183・184)

位置 31~34E04~08。調査地のほぼ中央やや東寄りに位置する。形状 北壁の一部を土坑と重複して変形しているが、他の壁から推定すると、コーナー部が若干丸くなる隅丸方形のプランを呈する。長軸6.86m、短軸6.18mを測る。壁 ローム層を掘り込んで壁面としており、堅くしっかりしている。立ち上がりは、比較的垂直に近く、壁高は45~60cmと高い。覆土 下層では、ローム混じりの黄褐色土が多く、上層は、炭化物を混入した茶褐色土が堆積している。床面 南西部に若干の傾斜が見られる。凹凸は少なく、ローム層を床面としており堅くしまっている。柱穴 ピットは6個確認された。これらのピットのうち、ほぼ住居址のコーナー近くに位置する P_1 ~ P_4 が支柱穴になると考えられる。炉 確認されなかった。遺物 遺物の出土量は多くない。大部分が覆土中からのもので、住居址の南東寄りにややまとまって出土した。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、多孔石、凹石、スクレイパー、石匙、石斧等が出土している。

118号住居址 (第332~334図 写真52・98・144・184)

位置 31~35D45~50。調査地のほぼ中央に位置し、81、99号住居址が隣接する。**形状** 北壁と、西壁に擾乱があり、形状は不明瞭であるが、残りの壁等からみて隅丸方形になると思われる。**壁** 掘り込みが浅くローム漸移層を壁面としている。このため、覆土と壁の区別が難しかった。壁高は15~22cmでゆるやかに立ち上がる。**覆土** 黄褐色のローム混土層と茶褐色土の炭化物混じりの土が堆積する。**床面** 床はローム層と、ローム漸移層の床面で凹凸は少ないが、やや軟弱である。**柱穴** 柱穴は2個検出されたが、深さ18cm程で浅いものである。他にもピットが存在していたと思われるが、土坑等によって壊された可能性がある。**炉** 住居址の西側寄りに一方に細長い竈を置いた炉が確認された。焼土、炭化物の量は多くない。**遺物** 全体に出土量が少なく、覆土中からの出土がほとんどである。黒浜式土器、凹石、スクレイパーが出土している。

121号a住居址 (第335~344図 写真53・98・144・145・184・185)

位置 67~72D31~35。調査地の半円状に広がる住居址群の北西端に位置する。2軒の重複した住居址で本住居址が古い。**形状** 南西部が広がりがみのあるコーナー部が丸くなる方形プランを呈する。長軸9.56m、短軸7.56mを測る。**壁** ローム層を深く掘り込んで壁面としており、しっかりしている。立ち上がりは、垂直に近い角度で、壁高60cmを測る。**覆土** 下層に茶褐色土のローム混じりの土が堆積し、上層に炭化物バミス等が混じる褐色土が堆積する。a、b住居址の新旧関係もセクション上で確認できた。堆積状況も比較的整然と連続的に堆積しており自然堆積と考えられる。**床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺部はやわらかい。北西方向に若干傾斜しているが凹凸は少なく平坦である。**柱穴** 本住居址は壁直下に多くのピットが確認された。主柱穴はほぼ壁と平行した位置にあるP₁、P₂、P₆、P₇、P₈、P₁₁~P₁₆、P₂₂などが考えられる。**炉** 住居址の南東寄り、P₁₃とP₁₅の間に竈を4個使用した石囲炉がある。炉は径34×32cm程で炉床は径10cmで規模の小さいものである。炭化物と焼土が若干堆積していた。**遺物** 覆土中からの出土遺物がほとんどであった。b住居址と遺物が混在してしまい、遺物の帰属がはっきりしないが、両住居址からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式、大木式、十三吾提式、浮島式土器、石皿、台石、多孔石、磨石、凹石、石斧、石匙、スクレイパー、石鏃が出土している。

121号b住居址 (第335~344図 写真53・98・144・145・184・185)

位置 67~72D31~35。a住居址内の南西隅に重複。本住居址が新しい。**形状** a住居址の北西コーナー部を利用して菱形に近い隅丸方形プランを呈している。長軸3.92m、短軸3.18mを測る。**壁** 掘り込みは深く確認面から80cm程ある。ローム層を壁面としておりしっかりしている。覆土との区別は容易であった。立ち上がりは、急角度でしっかりしている。**覆土** ロームブロック、炭化物を含み、堆積も比較的整然としており、自然堆積と考えられる。**床面** ローム層を床面としており堅くしまっている。**柱穴** 壁直下に小ピットが掘られているのが確認できた。**炉** 確認されなかった。**遺物** 覆土中からの出土がほとんどである。a住居址と遺物が混在してしまった。

124号住居址 (第345・346図 写真54・98・145・185)

位置 52~54D30~32。調査地の半円状に広がる住居址の北西部に位置し、127号住居址の北西部に隣接する。**形状** ほぼ円形に近いプランで直径4.2mを測る。土坑の重複があり壁の一部が壊されている。**壁**

壁高は25cmと低いが、立ち上がりは垂直に近い角度で立ち上がるローム壁である。床面 ローム層を床面としており堅くしまっている。北西部に若干傾斜しているが凹凸は少ない。柱穴 確認されなかった。炉 住居中央や北寄りに土器を埋設した炉が確認された。口縁部、底部は欠損しており、土器の上部が若干床面より上に出た状態で埋設されていた。炭化物、焼土は少量確認された。遺物 覆土中にわずかに散在するのみで量は少なかった。有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、凹石が出土している。

126号住居址 (第347～350図 写真55・98・145・185)

位置 31～35 E 37～42。調査地の北東に位置し、諸磯b式期の住居址の中では最北東部にある。15号住居址の西南に位置する。形状 西壁側が長くなり、コーナー部に丸味を持つ台形に近いプランを呈する。長軸8.02m、短軸6.97mを測る。壁 北、西壁はゆるやかな角度で立ち上がり、南、東壁では比較的急角度で立ち上がる。ローム層を壁面としており堅くしっかりしている。壁高28～41cmを測る。覆土 土層にローム粒、炭化物等を含む暗茶褐色土が堆積する。堆積は、比較的整然としており自然堆積の状況を呈する。床面 北西方向に若干の傾斜をするが凹凸は少なく平坦な床である。住居址の中央部はローム層上にローム漸移層を入れて床面としており、堅くしまっている。柱穴 ビットは4個確認された。径50cm、深さ50～70cm程で、住居址のコーナー近くにあり主柱穴になる。炉 2ヶ所確認された。P₁、P₂の間に礫を4個使用した石囲炉とP₃、P₄の間に土器を埋設した炉が検出された。石囲炉は、一辺50cm程である。埋設土器は、口縁部と底部が欠損した胴部を埋設したものである。どちらの炉からも、少量の炭化物、焼土が検出されたのみで、炉の周辺は焼けていなかった。またP₃、P₄の間に60×40cm程の焼土の散布があった。遺物 遺物の出土量は少なく、覆土中から散在的に出土したのみである。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式、浮島式土器、石皿、多孔石、台石、磨石、スクレイパー、石鏃等である。

127号住居址 (第351・352図 写真55・145・186)

位置 48～50 D 28～31。調査地の南西部、半円状に広がる住居址の内側に位置する。形状 コーナー部に丸味を持つ隅丸方形を呈する。規模は長軸5.60m、短軸5.18mである。壁 掘り込みは40～50cmと比較的深く、ローム層を壁面としている。立ち上がりは垂直に近い急角度で、壁面は堅くしっかりしており覆土との区別が容易であった。覆土 ローム混じりの土が下層に多く、上層には炭化物が多く褐色土が堆積していた。床面 ローム層を床面としており、堅くしまっているが、若干凹凸があった。南西の方向へやや傾斜する。柱穴 ビットは8個確認された。このうちP₁、P₂、P₃、P₄は住居址のコーナー近くに位置する事から主柱穴と考えられる。またP₅、P₆は主柱穴の間に位置している事から、支柱穴と考えられる。P₄は柱穴とするには規模が大きく、土坑としてとらえたいが、本住居址との新旧関係は不明である。炉 西壁側のP₁とP₂の間に礫を4つ組み合わせた石囲炉が確認された。径40×30cmで、若干の炭化物、焼土の散布がみられた。遺物 遺物の出土量は少なく、覆土中からわずかに出土したのみであった。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式、大木式土器、多孔石、磨石、石斧、スクレイパー、石鏃が出土している。

128号住居址 (第353～368図 写真56・57・99・146・147・186・187)

位置 52～57 E 16～20。調査地の半円状に広がる住居址群の北西部内側にある。107号住居址と重複しており本住居址が古い。形状 コーナー部が若干丸くなるが、ほぼ正方形に近いプランを呈する。長軸8.83m、短軸8.62mを測る。壁 壁高は50cm程でほぼ垂直に近い角度で立ち上がる。ローム層を壁面とし、堅

くしまっているため覆土との区別は容易であった。**覆土** 下層はローム粒を含む土が堆積しており、上層に炭化物、ローム粒を含む茶褐色土が多く堆積している。土層は、比較的整然と連続した状況を示すことから自然堆積と思われる。**床面** 凹凸は少なく、ローム層を床面として堅くしまっている。南西に5～6cm程床面が傾斜している。また、西壁側で10cm程の高さの段になっている部分がある。**柱穴** ビットは住居址内に大小33個確認された。これらのうちP₃、P₄、P₇、P₈、P₁₄、P₁₅、P₁₇、P₂₃は、住居址内の内側を廻るような位置にありP₁、P₂、P₅、P₆、P₉～P₁₃、P₁₆、P₁₈、P₂₂、P₂₃、P₂₇、P₂₈は壁に沿って一廻り外側の位置にある。これらの二重に廻るビットの配列を考えると、本住居址は建て替えがあったと考えられる。**炉** 西壁側のP₁₄とP₁₇の間に竈を2個と土器を埋設した炉と、東壁側に土器を埋設した炉の2ヶ所が確認された。どちらの埋設土器も口縁部と底部が欠損しており、土器の上部を床面からわずかに出した状態で埋設されていた。土器の周辺には焼土、炭化物の堆積が確認された。**遺物** 遺物の出土は、覆土の中、下層が多く、住居址の南半分に集中していた。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式、浮島式土器、多孔石、台石、凹石、磨石、石弁、スクレイパー、石匙、石鏃等である。

129号住居址 (第369～375図 写真58・100・147・148・187・188)

位置 63～67E 22～26。調査地の北西部に位置する。114号住居址と重複しており、本住居址の方が新しい。**形状** 南壁の一部を土坑によって壊された以外は、形の整った隅丸方形プランを呈する。長軸7.38m、短軸6.87mを測る。**壁** 壁高は14～41cmを測り、壁高の低い南東部では壁面がローム漸移層で、覆土との区別が難しかった。他の壁は、ローム層を壁面としており堅くしまっている。**覆土** 茶褐色土のローム粒を含む土が下層にあり、上層は暗茶褐色土の炭化物を多く含むしまった土が堆積している。堆積の状況から自然堆積をしたと思われる。**床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっている。床面の傾斜は少なく平坦なローム床である。住居址の中にある284号土坑は、土層から判断して本住居址より古いが、他の土坑については、新旧関係がつかめなかった。**柱穴** ビットは大小11個確認された。柱穴は、これらのうち住居址のコーナー付近にあるP₁、P₃、P₅、P₉、P₁₁などである。**炉** 西壁寄りのビットの北側に長さ30cm、幅20cm程の竈を4個組み合わせた石囲炉が確認された。外径が60cm、内径が30×20cmで炭化物と焼土が堆積していた。この他に、土器を埋設した炉が3ヶ所確認された。いずれも口縁部と底部のない土器で土器の上部を床面から上に出した状態で埋設されており炭化物、焼土が堆積していた。**遺物** 東壁寄りの覆土中から多く出土する傾向があった。出土遺物は関山式、有尾・黒浜式、諸磯b、c式、浮島式土器、石皿、台石、磨石、凹石、敲石、石弁、スクレイパー、石匙、袂状耳飾りが出土している。

131号a住居址 (第376～378図 写真59・100・148・188)

位置 22～25D 16～20。調査地の最南端に位置する住居址群の一つである。b住居址と重複しており、本住居址の方が新しい。**形状** 西壁が東壁より大きい台形状のプランを呈する。径5.40×5.16mを測る。**壁** 掘り込みが深く、壁高は65cm程である。壁面は、上部がローム漸移層で下部がローム層である。立ち上がりは、西壁はややゆるやかであるが他の壁は急角度である。**覆土** 下層に暗茶褐色土が多く、上層に茶褐色土を含む。土層堆積から本住居址が新しい事が確認できた。堆積は、比較的整然としており、自然堆積と考えられる。**床面** ローム層を床面としているが、凹凸が見られ全体に軟らかい。土坑が住居址内にいくつかみられるが、住居址との新旧関係は捉えられなかった。**柱穴** P₁、P₂、P₅の3個は、住居址のコーナー部に位置する事から柱穴と考えられるが、北西コーナー部からは柱穴が検出されなかった。土

坑によって壊された可能性も考えられる。炉 西壁寄りに、口縁部と底部の欠損した土器を埋設した炉が確認された。土器上端を床面より若干上に出した状態で埋設しており、土器埋設の掘り方内には炭化物、焼土が堆積していた。遺物 遺物の出土量は少なく、大半が覆土中から出土したものである。b住居址と遺物が混在してしまった。

131号b住居址 (第376～378図 写真59・100・148・188)

位置 a住居址と同じ。形状 a住居址に大半を壊されているが、残りの部分から判断すると、a住居址と同様の方形プランを呈すると思われる。壁 掘り込みは、a住居址より浅く35cmを測る。壁面は、ローム壁でしっかりしている。立ち上がりはややゆるやかな角度である。覆土 覆土の堆積は比較的単純で整っており、自然堆積と思われる。床面 ローム層を床面としているが、軟らかくしっかりしていない。凹凸が多く南西に若干傾斜している。柱穴 柱穴と考えられるのは、住居址のコーナー寄りに位置するP₉～P₁₂である。炉 東壁寄りに角礫を使用した石囲炉で径40cm程のものである。炉内には焼土、炭化物が確認された。遺物 a住居址と同様に出土量は少ない。2軒の住居址からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、多孔石、凹石、石匙、石斧が出土している。

132号a住居址 (第379～387図 写真60・61・101・148・149・188)

位置 27～32D16～19。調査地の最南端に位置する。110、132号b住居址と重複しており、本住居址が一番新しい。形状 東壁の一部を土坑等の重複によって壊されているが、壁の下部が残っていたため、形状ははっきりしている。長軸6.80m、短軸6.42mのほぼ正方形に近いプランを呈する。壁 壁高50～60cmを測る掘り込みの深い壁である。ローム層を壁面としており、堅くしまっている。立ち上がりは急角度でしっかりしている。覆土 下層に暗茶褐色のローム粒を多く含む土が堆積し、上層では炭化物を多く含む。土層堆積は連続的でなく、ブロック状に堆積する部分もあり人為的な埋没も考えられる。床面 ローム層を床面としており、中央部では堅くしまっているが、周辺部では軟らかい。西壁側にやや傾斜し凹凸は少ない。柱穴 ビットは住居址内に26個確認された。柱穴は、壁に沿って掘られているP₃、P₄、P₈、P₁₃、P₁₇、P₂₁、P₂₄が考えられる。炉 北、東、西壁寄りの3ヶ所で確認された。北壁側のものは、礫を方形に囲った石囲炉で外径50×30cmであった。西壁側のものは同じく礫を方形に囲った石囲炉で外径40×30cmとやや小さい。東壁側は、胴部以下の欠損した大形土器を埋設した炉で、口縁部を若干床面より出した状態で埋設されていた。いずれにも炭化物、焼土が堆積していた。遺物 床面直上からは土器の大形破片(遺物番号1、4)台石などが出土している。覆土中からは条痕文、有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、多孔石、凹石、石斧、石匙、石鏃、スクレイパーが出土している。

132号b住居址 (第379～387図 写真60・61・101・148・149・188)

位置 27～32D16～19。a住居址の北東側に接している。形状 住居址の大部分をa住居址、土坑によって壊されているため、残存部から推定すると隅丸方形プランになると思われる。壁 壁面はローム漸移層でやや軟弱である。壁高は15cmと低いが、立ち上がりは急角度である。覆土 ローム粒を多く含む土が堆積していた。床面 ローム層を床面としているが全体に軟らかい。凹凸は少なく平坦である。柱穴 確認されなかった。炉 直径60cmの範囲で焼土が堆積した地床炉が確認された。遺物 出土量は少ない。出土遺物がa住居址と混在してしまったため詳細は不明である。

133号住居址 (第388～390図 写真62・101・102・149・189)

位置 42～44D42～45。調査地のほぼ中央やや南寄りの所に位置する。半円状に広がる住居址群の内側にあり。**形状** 北壁コーナー部を土坑に壊されており現状では北西隅が張り出した形になっているが、本来は径4.68×4.57mの隅丸方形プランを呈すると思われる。**壁** ローム層を壁面としており、堅くしまっている。立ち上がりは急角度で、壁高は10～20cmと低くなっている。**覆土** 壁直下にロームのくずれた土が堆積している。土層堆積は比較的単純で整然としている事から自然堆積と考える。**床面** ローム層を床面としており、中央部で部分的に堅くしまっているが、周辺部は軟らかい。凹凸がやや多く見られ、南壁よりに若干傾斜している。**柱穴** ビットは6個確認された。このうち柱穴は、ビットの規模や位置からP₃、P₅、P₆が考えられる。**炉** 住居址のほぼ中央と、南壁寄りの2ヶ所に確認された。いずれも口縁部と底部を欠損したものが、土器の上端を床から若干出した状態で埋設している。極少量の炭化物、焼土が確認された。**遺物** 全体に遺物の出土量は少なく有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、石皿、凹石、スクレイパーが出土している。

134号住居址 (第391～401図 写真63・102・103・149・150・189)

位置 30～34D36～40。調査地のやや南東に位置する。南コーナーで147号住居址と重複している。本住居址が新しい。**形状** 西壁が外側に膨らむ長楕円形に近いプランを呈する。長軸8.59m、短軸7.05mを測る。**壁** 壁の立ち上がりは、ゆるやかである。壁高は44～70cmと高く、壁面はローム層で堅くしっかりしている。**覆土** 下層には、ローム粒を多く含んだ黄褐色土を含み上層では、炭化物、ローム粒が混じる。土層堆積は、連続的に整然と堆積しており自然堆積と考える。**床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺は軟らかく、しまっていない。床面は、凹凸が多く土坑の重複もみられた。**柱穴** ビットは30個以上確認された。柱穴は、住居址の壁に沿った位置にあるP₃、P₁₀～P₁₈、P₂₈、P₂₉、P₃₁が考えられる。**炉** 住居址の南西寄りに三方を石で囲った石囲炉で径40cm程の規模である。その他に西壁寄りに1ヶ所と、東壁寄りに2ヶ所で土器を埋設した炉が確認された。いずれも口縁と底部の欠損した土器を埋設している。**遺物** 床面上からは諸磯b式土器、台石等が出土している。覆土中からの出土遺物も多く北西寄りに多く出土した。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b、c式、典津式土器、台石、多孔石、磨石、凹石、石斧、スクレイパー、石鏃が出土している。

135号住居址 (第402～409図 写真64・103・104・150・151・189)

位置 69～72D23～28。調査地の南西に位置する。**形状** 長方形プランを呈する。周溝が二重になっている事や、柱穴等から拡張があったと考えられる。長軸7.90m、短軸5.63mを測る。内側の周溝の規模は長軸6.20m、短軸4.20mである。**壁** 壁は垂直ぎみに立ち上がり、壁高は16～30cmと低い。壁面はローム漸移層で軟らかいが、覆土との区別は明確であった。**覆土** 壁際や、周溝内には、比較的多くローム粒を含み、上層では暗褐色の堅くしまった土が堆積している。土層堆積は単純で連続的であり、自然堆積と思われる。**床面** 若干の凹凸が見られるが、中央部は堅くしまったローム層を床面としている。周溝は、北壁以外で二重に廻っており、外側の溝の幅が50cm、深さ35cm程で、内側が幅30～50cm、深さ20cm程である。**柱穴** ビットは13個確認された。P₁～P₆が拡張前の柱穴と考えられる。拡張後の柱穴はP₇、P₈で、P₁、P₂は拡張後も使用されたと考える。**炉** 確認されなかった。**遺物** 覆土中からの出土遺物が多く、住居址内全体に遺物は分布していた。出土遺物は、有尾・黒浜式土器がほとんどで、若干諸磯b、c式土器が混

入っていた。石器は台石、磨石、凹石、石斧、スクレイパー、石匙が出土している。

136号住居址 (第410～413図 写真65・104・152・190)

位置 26～29D43～46。調査地の中央やや東寄りに位置し、137号住居址と接している。**形状** 北東コーナー部が若干丸くなるが正方形に近いプランを呈する。長軸7.07m、短軸6.73mを測る。**壁** 壁高は22～43cmで垂直ぎみに立ち上がる。壁面はローム層で堅くしっかりしており、覆土との区別は明確であった。**覆土** 下層では、ローム粒を多く含む土が堆積する。土層堆積は、比較的単純で整然としており自然堆積と考えられる。**床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺は軟らかい。凹凸は少なく平坦である。土坑が数基重複しているが、いずれも本住居址の床や壁を切って作られている。**柱穴** ビットは14個確認されたがビットの規模、位置から考えてP₁～P₃、P₁₀、P₁₃が主柱穴になるであろう。**炉** 西壁寄りに石皿や凹石を利用した石囲炉と、住居址の中央からやや北に寄った所から、口縁部と底部の欠損した土器を埋設した炉が確認された。石囲炉の掘り込みは径70×40cm、深さ5～10cmで炭化物、焼土が堆積していた。埋壁炉の掘り方は径40×30cm、深さ6cmで焼土、炭化物の堆積が認められた。**遺物** 覆土中からの出土が多く、ほぼ全体に出土している。北西コーナー近くの床上からは、台石が出土している。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b式土器、台石、石皿、多孔石、凹石、磨石が出土している。

137号住居址 (第414～417図 写真66・104・152・190)

位置 26～29D40～43。調査地の中央から東に寄った所に位置し、136号住居址と北壁の一部が接している。本住居址が新しい。**形状** 北壁側が張り出した長方形プランを呈する。長軸5.40m、短軸5.29mを測る。**壁** ローム層を壁面としているため堅くしっかりしている。覆土との区別は明確であった。壁は垂直ぎみに立ち上がり、壁高は28～33cmを測る。**覆土** 下層ではローム粒を含む茶褐色土で、上層は炭化物等を多く含む。土層は比較的単純で連続的に堆積していることから、自然堆積と考えられる。**床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺は若干軟らかい。土坑が数基重複しているが、床を切って掘り込んでいることから本住居址より新しい。**柱穴** ビットは3個確認された。いずれも住居址のコーナー近くにあることから柱穴と考えられるが、南東コーナーからはビットが確認されていない。**炉** 西壁寄りに土器を3個埋設した炉が確認された。1個は胴部下半が、他の2個は口縁部と底部が欠損した土器の上端を床面より若干出した状態で埋設していた。炭化物、焼土の堆積が確認された。**遺物** 遺物は覆土中からの出土遺物が多く、有尾・黒浜式、諸磯b、c式、與津式土器、台石、石皿、凹石、石斧、スクレイパーが出土している。

139号住居址 (第418～422図 写真67・104・152・153・190)

位置 23～26D36～39。調査地の南東に位置する。142号住居址と北東壁で重複しているが、本住居址の方が新しい。**形状** 南壁で一部攪乱をうけて壁がなくなっているが、残りの壁から推定すると、ほぼ正方形に近いプランを呈する。長軸6.84m、短軸5.98mを測る。**壁** 壁はゆるやかに立ち上がる。壁面はローム壁で堅くしっかりしている。壁高は60～80cmと高い。**覆土** 土層堆積は、単純で連続的に堆積している事から自然堆積と考えられる。**床面** 比較的平坦で凹凸が少なく、ローム層を床面としている。中央部では、茶褐色土を床面に入れ堅くしている。**柱穴** 住居址内にビットは15個確認された。P₁～P₄、P₅～P₉、P₁₃、P₁₅が壁に沿って位置する事から柱穴と考えられる。**炉** 住居址の北西寄りに径50cm程の地床炉と、

北東寄りに口縁部、底部の欠損した土器を埋設した炉の2ヶ所が確認された。埋設炉の掘り方は50×40cm、深さ14cmの規模で焼土、炭化物が堆積していた。遺物 覆土中からの出土が多く、床面上からは西壁際で凹石、磨石が出土した。覆土中からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式、大木式土器が出土している。

140号住居址 (第423～427図 写真68・104・105・153・191)

位置 23～26D21～24。115、131号住居址などとともに、調査地の最も南東に位置する住居址群の中に位置する。形状 南東部が若干広がる隅丸長方形プランを呈する。長軸7.42m、短軸6.16mを測る。壁壁高が70cmを測りローム層を壁面としているため堅くしっかりしている。立ち上がりは、垂直に近い角度である。覆土 下層にはローム粒を多く含む土が堆積しており、上層は炭化物等を含む。土層堆積は複雑で連続的ではない事から人為的な堆積とも考えられる。床面 中央部で凹凸が多くなるローム層を床面としている。若干南西部に傾斜している。床の中央部には茶褐色土を入れて堅くしている。周辺部はローム床であるが若干軟らかくなっている。柱穴 住居址内にピットは23個確認された。これらのうち規模、位置からP₁、P₆、P₉、P₁₁、P₁₃、P₁₅、P₂₂などであろう。炉 住居址の北壁寄りに胴部の半周程の土器を埋設した炉が確認された。掘り込みの径は65×45cm、深さ20cm程で焼土、炭化物が堆積していた。遺物 遺物の出土量は、住居址の規模からすると少なく、出土遺物の大半が覆土中であった。出土遺物には有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、凹石、石斧、スクレイパー、石匙が出土している。

141号住居址 (第428～433図 写真69・105・153・154・191)

位置 16～20D39～43。調査地の中央から若干南に寄った東側に位置する。形状 西、南壁が外側に張り出しているが、これは土坑による擾乱によるもので、基本的には隅丸の長方形プランを呈すると思われる。長軸8.40m、短軸6.11mを測る。壁 立ち上がりはゆるやかである。壁高は41cmを測りローム層を壁面としているため堅くしっかりしている。覆土 下層はローム粒を多く含む、上層は粘性の強い褐色土である。土層堆積は比較的整然としており、連続的に堆積している事から、自然堆積と考えられる。床面 ローム層を床面としているが、褐色土の土が一部入りこんでいる。中央部に向かって傾斜しており、若干凹凸がある。床中央部はいくぶん堅くしまっているが、他は軟らかい。柱穴 ピットは住居址内から16個確認された。柱穴となりそうなピットは、位置などから判断するとP₁、P₆、P₈、P₁₀、P₁₆と考えられる。炉 西壁近くに20～30cmの礫を三方に囲った石囲炉と、東壁近くに土器を埋設した炉が確認された。石囲炉は径60×40cmを測り、焼土、炭化物の堆積がみられた。埋設炉は口縁部と、底部が欠損しており、土器の上端を床面より若干出した状態で埋設されていた。土器の上には礫が置かれており、焼土等の堆積がみられた。遺物 床面上からは、胴部上半の欠損している深鉢(遺物番号6)が出土している他は、覆土中の出土が大出土遺物には有尾・黒浜式、諸磯b、c式、浮島式土器、台石、凹石、敲石、磨石、石斧、スクレイパー、石半であった。鎌が出土している。

142号住居址 (第434・435図 写真70・105・154・192)

位置 22～24D38～41。調査地の南東部に位置する。139号住居址と重複しており、住居址の両側を切られている。本住居址が古い。形状 住居址や、土坑等によって壊されている部分が多く、また掘り込みが浅く壁がはつきりしない事から住居址の形状は確定できない。現状で4.03×3.85mを測る。床面 ローム層を床面としているが軟弱で凹凸が若干みられる。柱穴 確認されなかった。炉 住居址中央部に

第1章 検出された遺構と遺物

礎を1個置いた炉が確認された。若干の焼土、炭化物が堆積していた。**遺物** 覆土中に散在的に確認された。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯c式土器、石斧、スクレイパーである。

143号住居址 (第436～439図 写真71・105・106・154・192)

位置 30～33D27～29。調査地の南東に位置する。**形状** 古墳時代の住居址によって北西コーナー部を壊されているが、残りの部分から判断すると、コーナー部分が丸くなる方形プランを呈する。長軸4.95m、短軸4.21mを測る。**壁** ローム層を掘り込んで壁面としている。壁は垂直に近い角度で立ち上がり、壁高は30～40cmである。**覆土** 下層にはローム粒、ロームブロックを含み、上層では炭化物を含む。堆積は、連続的でなくブロック状に堆積していることから人為的な堆積が考えられる。**床面** ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっているが、周辺部は若干軟らかくなっている。周溝は一周しているが南壁側で二重になっていることから、拡張の可能性もある。幅は25～50cm、深さ20～45cmあり、掘り込みもしっかりしたものである。**柱穴** ビットは4個確認された。P₁、P₂は位置、規模から柱穴と考えられる他には、柱穴らしいビットは確認されなかった。**炉** 南壁寄りに長さ25cm、幅10cmの礎を置き、炉としている。礎の周辺は若干凹み、焼土、炭化物が堆積している。**遺物** 覆土中からの出土遺物は多いが、特に出土傾向はみいだせなかった。出土遺物は有尾・黒浜式土器、台石、凹石、敲石、石斧である。

144号住居址 (第440～442図 写真72・106・155・192)

位置 33～37D20～23。調査地の南方に位置し、149号住居址に接している。**形状** 掘り込みが浅く、壁がはっきりしないが、基本的には隅丸長方形を呈する。**壁** 壁面はローム漸移層で立ち上がりははっきりせず、覆土との区別は難しかった。壁高は10～35cmである。**覆土** 全体にロームブロックを含むが土層堆積は整然としていることから自然堆積と考えられる。**床面** ローム層を床面として、中央部がやや高くなっている。中央部は堅くしまっているが、周辺は軟らかい。周溝は部分的にみられ幅30～50cm、深さ30cmを測る。**柱穴** ビットは18個確認された。柱穴は明確ではないが位置などからP₁、P₂、P₈、P₁₀、P₁₁等であろう。**炉** 北壁寄りに、径40cm程の焼土が床面にみられ地床炉になると思われる。掘り込みは確認されなかった。他に埋設土器が確認された。**遺物** 覆土中からの出土が多く、北東寄りに遺物が多かった。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯式土器、磨石、石斧、スクレイパー、石匙が出土している。

145号住居址 (第433図 写真73・155・192)

位置 15～17D23～26。調査地の南東に位置する。146号住居址と重複しているが本住居址が古い。**形状** 住居址の大半が調査できず推定になるが長方形プランを呈する。**壁** ローム層を壁面としており、堅くしっかりしている。壁の立ち上がりは、垂直に近いものである。壁高は20cmを測る。**床面** ローム層を床面としており比較的堅くしまっている。周溝が確認された。幅30cm、深さ22cm程である。**柱穴** 炉確認されなかった。**遺物** 遺物は全体に少なく有尾・黒浜式土器、台石、凹石、スクレイパー、石斧が出土している。

146号住居址 (第444～446図 写真73・106・155・192)

位置 16～19D23～25。調査地の南東隅に位置する。145号住居址と東壁の一部が重複し、本住居址が新しい。**形状** 南壁の一部が攪乱により壊されているが、残存部から推定すると、楕円に近いプランを呈す

ると思われる。径5.29×4.60mである。壁 立ち上がりは垂直に近い角度で、壁高は27～43cmを測る。壁面はローム壁で堅くしっかりしている。覆土 全体にロームブロックを含む。床面 ローム層を床面としており、堅くしっかりしている。柱穴 ビットは14個確認された。柱穴は位置、規模などから判断してP₁～P₃、P₁₁などであろう。炉 西壁寄りに胴部下半の欠損した土器を埋設した炉が確認された。土器の上端を床面より若干出した状態で埋設されていた。掘り方は径68×60cm、深さ20cmで焼土、炭化物が堆積していた。遺物 遺物の出土量は少なく、覆土中からの遺物が多かった。少量の有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、敲石、凹石、スクレイパー、石鏃等が出土している。

147号住居址 (第447～450図 写真155・156・193)

位置 30～33D32～35。調査地の南東寄りに位置する。88、134号住居址に接している。形状 土坑によって壁の一部が壊されているが、壁は直線的で長方形プランを呈する。長軸7.21m、短軸5.68mを測る。壁 ローム層を壁面としており、堅くしっかりしている。立ち上がりは垂直に近い角度で、壁高20～48cmを測る。覆土 全体にローム粒、ロームブロックを含む。土層はブロック状に堆積し、複雑な事から人為的な堆積と考えられる。床面 ローム層を床面としており、溝の内側は堅くしまっている。周溝は、壁の100～150cm内側に廻っている。周溝の幅は25～50cm、深さ20～40cmであった。柱穴 周溝内にくつかりのビットが確認されたがこれらが柱穴になると思われる。炉 確認されなかった。遺物 有尾・黒浜式、諸磯b式土器、台石、多孔石、凹石、石斧が出土している。

149号a住居址 (第451～459図 写真74・106・107・156・193・194)

位置 33～38D23～24。調査地の南方に位置する。古墳時代の住居址、149号住居址と重複している。b住居址より本住居址が古い。形状 東壁側が若干膨らみを持つ隅丸長方形を呈する。長軸9.51m、短軸8.55mを測る。西壁は古墳時代の住居址によって壊されている。壁 掘り込みが深く壁面はローム層で堅くしっかりしている。壁高は50～90cmで、立ち上がりは垂直に近い角度である。覆土 全体にロームブロックを多く含む。比較的整った状態で土層が堆積している事から、自然堆積と考えられる。b住居址とは、土層堆積で新旧関係が判断できた。床面 ローム層を床面としており、中央部は堅くしまっている。凹凸は少なく平坦である。若干南西方向に傾斜している。柱穴 ビットは6個確認された。柱穴はP₁、P₂、P₃～P₅とb住居址内のP₁₄が考えられる。炉 石囲炉が西壁寄りと東壁寄りの2ヶ所で確認された。西壁側の炉は40×25cmの大きな礫と、径20cmの円礫を三方に囲ったもので焼土、炭化物が堆積している。東壁側のものは30×20cm程の長方形の礫と径15cm程の円礫を使用し焼土、炭化物が確認された。その西側に土器が埋設されていた。土器は口縁部と底部が欠損している。土器を埋設した掘り方は径60cm、深さ25cmで焼土、炭化物が堆積している。土器は床面下に埋設されその上に石囲炉が作られている事から炉の作り替えがあったと考えられる。遺物 出土遺物はb住居と混在してしまい特定できない。覆土中からの出土がほとんどであった。両方の住居址からは有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、磨石、敲石、凹石、石斧、スクレイパー、石鏃が出土している。

149号b住居址 (第451～459図 写真74・106・107・156・193・194)

位置 33～38D23～24。a住居址の北西コーナーに位置する。形状 東壁が若干丸く膨らむが基本的には、隅丸長方形プランを呈する。長軸5.60m、短軸3.79mを測る。壁 ローム層を壁面としており、堅

くしっかりしたものである。壁高は100～130cmを測り、高くなっている。立ち上がりは垂直に近い角度であった。覆土 全体にロームブロックを含む。堆積状況は、連続的に堆積している事から自然堆積かと思われる。柱穴 ビットは9個確認された。柱穴は位置、規模からP₄、P₅、P₁₁、P₁₃が主柱穴でP₁₀、P₁₂、P₁₅は支柱穴と考えられる。炉 確認されなかった。遺物 a住居と混在してしまい確かではないが、諸磯c式土器が多く出土する傾向にある。

150号住居址 (第460～468図 写真75・107・108・157・194)

位置 67～71E 20～23。調査地の北西部に位置する。129、152号住居址に隣接している。形状 土坑によって形を若干変えられているが、形の整った隅丸長方形を呈する。壁 ローム層を壁面としているためしっかりしている。立ち上がりは垂直に近く、壁高は25～35cmを測る。覆土 上層は炭化物を含み、下層ではロームブロックが多い。土層堆積は単純で整然としている事から、自然堆積と考えられる。床面 ローム層を床面としているため、堅くしまっている。床全体が中央に向かって傾斜している。柱穴 ビットが16個確認された。柱穴はP₁、P₂、P₃、P₁₀、P₁₁が主柱穴になりP₁₂、P₁₃、P₁₄等が支柱穴になると考えられる。炉 北壁と西壁寄りにそれぞれ土器を埋設したものが確認された。土器はいずれも、口縁部と底部の欠損した土器で、上端を床面からわずかに出した状態で埋設している。土器の周辺には焼土、炭化物が確認された。遺物 覆土中からの出土遺物が多かった。有尾・黒浜式、諸磯b、c式土器、台石、石皿、多孔石、凹石、磨石、敲石、石斧、スクレイパーが出土している。

151号住居址 (第469～473図 写真76・108・158・195)

位置 70～74E 15～19。調査地の北西端に位置する。住居址の一部が調査区域外にある。形状 住居址の西壁側が調査区域外のため、全体の3分の2程度しか調査できなかったが、これから推定すると、隅丸方形になると思われる。南北で6.78mを測る。壁 壁高は40～50cmでローム層を壁面とし、堅くしまっている。立ち上がりはゆるやかである。覆土 上層は炭化物が多く、下層ではローム粒が多い。堆積状況から自然堆積と考えられる。床面 ローム層を床面としている。中央部は堅くしまっているが、周辺部は軟らかい。柱穴 住居址内にビットが7個確認された。これらのうち柱穴はP₃、P₅、P₆などと考えられる。炉 北壁寄りの所と西寄りの2ヶ所で土器の埋設した炉が確認された。北壁寄りのものは、胴部上半が欠損しており、西寄りのものは、口縁部と底部が欠損しているもので、いずれも土器の上部を床面から出した状態で埋設されていた。土器の周辺からは焼土、炭化物が確認された。その他に住居の中央北寄りの床面上に焼土が散布しているのが確認された。遺物 覆土中からの出土が多かった。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯 b、c式土器、凹石、敲石、スクレイパー、石匙が出土している。

152号住居址 (第474～477図 写真77・108・158・159・195)

位置 71～74E 19～23。調査地の北西部に位置する。住居址の西半分が調査区域外にある。形状 住居址の西側が調査区域外で未調査のため形状は確認できないが、調査部分から判断すると、台形もしくは長方形を呈すると思われる。南北で6.90mを測る。か壁高は30～35cm 壁 ローム層を壁面としており堅くしまっている。立ち上がりは垂直に近い角度であった。覆土 上層は炭化物を多く含み、下層はローム粒を多く含む。堆積状況から自然堆積と思われる。床面 ローム層を床面としている。中央部は堅くしまっているが周辺は軟らかい。周溝は北西コーナー部を除き廻っている。幅60cm、深さ22～50cmである。柱穴

ピットが3個確認された。位置、規模からP₁、P₂が主柱穴になると思われる。炉 確認されなかった。

遺物 遺物は大半が覆土中からの出土であった。出土遺物は有尾・黒浜式土器、石匙、石斧、スクレイパー等である。

153号住居址 (第478~480図 写真77・78・108・159・195)

位置 66~70 E.39~43。半円状に広がる住居址の最も北西部に位置する。形状 南東側で壁が外側に膨らむが、基本的には隅丸方形を呈する。径7.20×7.20mを測り縦、横の長さがほぼ同じになる。壁 垂直に近い立ち上がりをする。ローム層を壁面としており、堅くしっかりしている。壁高は40~60cmを測る。

覆土 全体にローム粒を含むが上層では炭化物も含む。堆積は比較的整っている事から自然堆積と考えられる。床面 ローム層を床面としているため堅くしっかりしている。凹凸が多く見られる床面である。

柱穴ピットは10個確認された。ピットの位置などから判断してP₂、P₄、P₇、P₁₀は主柱穴で、P₁、P₃、P₅、P₆、P₈は支柱穴と考えられる。炉 土器を埋設した炉が3ヶ所確認された。(遺物番号4~6) 4、5は深鉢の胴部から口縁部で土器の上部を床面から若干出した状態で埋設されていた。6は有孔浅鉢の底部を埋設したもので径80cm、深さ10cmの掘り方があった。いずれも焼土、炭化物の堆積が確認された。これ以外に北東コーナーに焼土の散布がみられた。遺物 覆土中からの出土遺物が大半であった。出土遺物は有尾・黒浜式、諸磯b式土器、磨石、凹石、石皿が出土している。

154号住居址 (第481~483図 写真78・159・195)

位置 61~64 E.43~46。調査地の最北西部に位置し、住居址の北部が調査区域外にある。形状 北壁側が調査区域外で未調査のため残存部から推定すると隅丸方形を呈すると思われる。東西の径6.20mを測る。

壁 壁面はローム層で堅くしっかりしている。立ち上がりはゆるやかで、壁高は26~40cmである。覆土 全体にローム粒を含み、堆積が不連続的な事から人為的な堆積と考えられる。床面 ローム層を床面としており、中央部は堅く締まっているが、周辺部は軟らかい。床面は凹凸がみられ西壁側に傾斜している。柱穴 ピットは5個確認された。位置などから判断してP₁、P₂、P₃が柱穴になると思われる。

炉 北壁寄りに土器を埋設した炉が確認され、土器の周辺に焼土、炭化物が堆積していた。この土器は、遺物の移動中に不明になってしまった。また、焼土の堆積が2ヶ所確認されたが、地床炉と考えられる。遺物 覆土中からの出土がほとんどであった。出土遺物は諸磯b、c式土器、台石、磨石、多孔石、石斧、スクレイパー等である。

第I章 検出された遺構と遺物

住居址一覧表

住居址 番号	グリッド	規模 m	面積 ㎡	壁高 cm	周溝	礎 数	柱 穴
02	50~53E34~37	4.68 × 4.14	19.09	32			
03b	59~61E26~28	—	(2.14)	—			
04	58~61E29~33	5.16 × 4.76	23.12	9~20	1	石函1	P1~P4
06	60~62E28~31	4.50 × (4.50)	(14.57)	20		地床1	P1・P2
07	11E03~07	8.10 × —	(17.04)	43		石函1	P1
08	13~15D45~48	5.00 × 4.50	18.80	16~29			P1
09	12~13D42~45	5.05 × 4.84	20.66	20		石窠1・埋塞2	P1~P4
11	13~16D35~38	6.67 × 6.58	37.78	30		石窠1	P1・P3・P5・P6
14	18~20E43~45	4.60 × 3.86	14.08	39			P1~P4
15	26~30E39~43	7.92 × 6.25	48.08	23~30		石函2・埋塞2	P1~P3・P5・P6
16	19~22E37~42	7.18 × 7.12	49.53	40~63		地床6	P1・P2・P4~P6・P11・P12・P14・P19・P21
17	18E35~37	4.31 × 3.94	14.17	12~23		埋塞1	P1
53	35~37E11~14	5.64 × 5.62	26.02	13		埋塞1	P1~P10
63	45~47E10~13	4.70 × 4.45	19.64	30~50		石函1	P1~P4
64	42~46E09~12	5.12 × —	(17.23)	25			
65	22~26E31~33	6.80 × —	(27.24)	30~40		埋塞1	P2・P5・P8・P9
66a	45~49D40~44	7.78 × 7.74	51.44	70		石窠1	P1・P5・P6・P9・P13・P16・P18・P22・P23
66b	45~47D41~44	3.49 × 3.19	9.48	30~40			
	34~37D40~42	6.12 × —	(18.58)	29~54			P1~P5・P7・P10・P13
68	60~63E33~37	8.54 × 7.98	51.92	10~45		石函1・埋塞1	P1~P10
69	64~67E37~40	4.40 × 4.30	14.41	14~20		埋塞1	
70	63~65E38~42	5.10 × 4.80	21.93	40~50		地床1	P1~P4
72	67~71E32~37	8.12 × 6.10	46.66	25~40	1	配石地床1	P1・P3・P5
73	70~76E28~32	7.90 × 7.20	36.83	14~37		石窠1・埋塞3	P1~P4
74	54~57E28~31	4.88 × 4.40	20.49	11~30		石窠1	P1・P3・P4・P7・P8
75a	56~59E21~24	3.70 × 3.60	11.57	60		埋塞1	P1~P3
75b	56~59E21~24	5.20 × 4.20	20.19	30		埋塞1	
77	18~21E27~30	4.93 × 4.59	21.25	19~28		埋塞2	P1~P6
78a	59~62E17~23	(6.70) × 6.20	(37.34)	30~40	1	地床1	P1・P5・P8・P22
78b	59~62E17~23	5.80 × (5.80)	(30.23)	20~30		石窠1・埋塞2	P10~P13・P15・P17・P18
79	65~68E28~32	6.98 × 5.08	33.06	10~40	1		
80	24~28E11~15	7.80 × 7.11	45.14	70		埋塞2	P1~P3・P6
81	26~31D48~50	6.76 × 6.46	37.40	50		埋塞2	P1~P6
82a	21~24E07~10	6.40 × 5.81	32.90	20			P1・P2・P5・P9
82b	21~24E07~10	5.36 × 4.96	22.14	50		埋塞2	P1・P3・P5・P6・P8・P11
83	32~34D44~46	(4.65) × —	(8.19)	4~18			P1~P4
84	25~30E06~09	4.18 × 3.90	12.69	60		埋塞1	P1~P4
85	25~30E06~09	(8.55) × (7.97)	(48.30)	20~40		石函1	P9~P15・P17~P19
86	35~37D45~47	4.65 × 3.53	15.35	10~20			
88	34~37D32~35	5.72 × 5.44	25.97	30		石函1・埋塞1	P1~P3・P5・P6・P8
89	23~27E02~05	6.90 × 6.38	37.55	20~60		埋塞1	P1・P3・P7・P8
90	37~41E06~09	6.68 × 6.01	32.37	30~50		埋塞1	P1・P4・P6・P7
91	38~42D46~49	6.10 × 6.00	32.06	12~39		石函1・地床2	P1・P3・P4
92	42~46E09~04	7.00 × 6.50	41.81	60			P1~P10
94	23~26D46~49	8.13 × 6.77	(42.68)	40		地床1	P1~P4
97	44~47D32~35	6.53 × 6.47	38.02	70~84		石函3	P1~P4・P7・P8・P16・P17・P21・P22
98a	39~42D38~43	(5.20) × 4.90	(15.55)	30~50		埋塞2	P1~P4・P9
98b	39~42D38~43	6.30 × (6.30)	(37.61)	50		石函1・埋塞1	P5~P8
99a	35~37E01~03	4.89 × —	(16.40)	11~22		埋塞1	P1~P3
99b	35~38E04~06	— × 4.92	(16.51)	12~20	1		
99c	36~38E02~04	4.01 × 3.30	(16.35)	50			
100	40~42E35~37	4.40 × 4.40	17.47	25~36		埋塞1	P1~P4
102	45~48E28~30	4.50 × (4.04)	(15.80)	14~30		配石地床1	P1~P5
103	45~48E15~19	8.50 × 7.46	56.01	21		埋塞1・石窠1	P1・P6・P9・P16
104	40~44E25~29	8.06 × 7.74	49.80	31~54		石函1・埋塞1	P1・P3・P5・P7・P8・P11

住居址 番号	グリッド	規 模 m	面積 ㎡	壁 高 cm	周 溝	炉 数 基	住 穴
107	52~55E20~23	5.94 × 5.00	23.96	11~37		埋壘1	P1・P2・P4~P6
109	17~20D16~19	6.03 × 5.66	26.56	60~83		埋壘3	P2・P4・P8・P10
110a	31~33D18~21	4.80 × 4.00	18.36	22	1		P4~P6
110b	30~34D18~23	9.08 × 5.96	48.47	35	1	配石地床1	P2・P7
111	49~53D17~21	7.28 × 6.24	40.63	20~40	2	地床1	P1~P6
113	44~47D19~23	6.59 × 6.31	34.60	20~50		埋壘1	P2~P4・P6
114	63~66E22~25	6.60 × —	(29.65)	29	1	地床1	P1・P2
115a	20~23D19~22	4.13 × (3.10)	11.76	23~28			P1
115b	20~23D19~22	5.00 × (5.00)	16.67	20~30		埋壘2	P2~P5
116	53~56D20~24	6.10 × 4.90	32.80	30	1	地床1	P1~P4
117	31~34E04~08	6.86 × 6.18	37.79	45~69			P1~P4
118	31~35D45~50	(5.28) × (5.23)	(29.39)	15~22		配石地床1	P1・P2
121a	67~72D31~35	9.56 × 7.56	48.31	69		石圍1	P1・P2・P6・P7・P9・P14~P16・P22
121b	67~72D31~35	3.92 × 3.18	8.29	80			
124	52~54D30~32	4.20 × 4.20	11.39	25		埋壘1	
126	31~35E37~42	8.02 × 6.97	48.45	28~41		石圍1・埋壘1	P1~P4
127	48~50D28~31	5.60 × 5.18	12.13	40~50		石圍1	P1~P3・P5~P8
128	52~57E16~20	8.83 × 8.62	62.57	50		石圍1・埋壘1	P1~P18・P22・P23・P25・P27・P28
129	63~67E22~26	7.38 × 6.87	41.83	14~41		石圍1・埋壘3	P1・P3・P5・P9・P11
131a	22~25D16~20	5.40 × 5.16	22.28	65		埋壘1	P1・P2・P5
131b	22~25D16~20	(5.40) × —	(11.65)	35		石圍1	P9~P12
132a	27~32D16~19	6.80 × 6.42	44.39	50~60		石圍2・埋壘1	P2・P4・P8・P13・P17・P21・P26
132b	27~32D16~19	—	—	15		地床1	
133	42~44D42~45	4.68 × 4.57	19.91	10~29		埋壘2	P3・P5・P6
134	30~34D36~40	8.59 × 7.05	49.50	44~70		石圍1・埋壘3	P3・P10~P18・P28・P34・P35
135	69~72D23~28	7.90 × 5.63	43.05	16~30	2		P1~P4・P7・P8
136	26~29D43~46	7.07 × 6.73	42.00	22~43		石圍1・埋壘1	P1~P3・P10・P13
137	26~29D40~43	5.40 × 5.29	24.45	28~33		埋壘1	P1~P3
139	23~26D36~39	6.84 × 5.98	30.73	60~80		地床1・埋壘1	P1~P3・P5~P9・P13・P15
140	23~26D21~24	7.42 × 6.16	38.36	70		埋壘1	P1・P6・P9・P11・P13・P15・P22
141	16~20D39~43	8.40 × 6.11	42.07	41		石圍1・埋壘1	P1・P6・P9・P10・P16
142	22~24D38~41	4.03 × (3.85)	(12.97)	25		配石地床1	
143	30~33D27~29	4.95 × 4.21	(17.00)	30~40	2	配石地床1	P1・P2
144	33~37D20~23	5.80 × 5.46	28.77	10~35	1	地床1・埋壘1	P1・P2・P8・P10・P17
145	15~17D23~28	—	(9.46)	20	1		
146	16~19D23~25	(5.29) × (4.60)	(21.27)	27~43	1	埋壘1	P1~P3・P11
147	30~33D32~35	7.21 × 5.68	39.94	20~48	1	P1~P9	
149a	33~38D23~24	9.51 × 8.55	69.06	50~90		石圍2	P1・P2・P4~P6・P14
149b	33~38D23~24	5.60 × 3.79	19.49	100~130			P8~P13・P15
150	67~71E20~23	7.00 × 5.32	33.87	25~35		埋壘2	P1・P3・P9・P10・P12~P14・P16
151	70~74E15~19	6.78 × 5.08	31.17	40~50		埋壘2	P3・P5・P6
152	71~74E19~23	6.90 × —	26.74	30~35	1		P1・P2
153	66~70E39~43	7.20 × 7.20	42.64	40~60		埋壘3	P1~P7・P9・P10
154	61~64E43~46	6.20 × (6.20)	(32.32)	26~40		埋壘1・地床2	P1・P2・P5

※ 炉の名称で、石圍と石圍と埋壘の複合した炉、配石地床は、炉の一边に石を配置した炉の意味である。

※ ()内の数字は推定及び現状での値である。

第I章 検出された遺構と遺物

住居址ピット一覧表

(cm)

住居址No.	PitNo.	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
2	規模	54×48	30×28	32×32	38×36									
	深さ	32	52	52	43									
4	規模	38×28	43×37											
	深さ	40	52											
6	規模	51×40												
	深さ	—												
7	規模	68×62												
	深さ	43												
8	規模	52×52												
	深さ	44												
9	規模	43×26	72×38	40×38	40×30	58×46								
	深さ	48	—	50	38	42								
11	規模	52×38	34×30	46×44	44×36	48×40	36×32							
	深さ	28	17	24	42	30	34							
14	規模	19×18	30×20	40×40	18×18	60×50								
	深さ	50	20	43	38	16								
15	規模	18×92	78×62	92×43	22×22	33×32	112×62							
	深さ	41	24	18	20	44	42							
16	規模	60×36	70×43	6×(29)	32×26	50×46	53×46	70×18	24×18	18×17	16×14	34×22	32×28	58×55
	深さ	56	31	38	52	38	52	12	53	16	12	52	53	18
	PitNo.	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
17	規模	54×42	52×21	70×56	42×36	18×18	60×30	48×40	58×22	71×58	96×98	86×64		
	深さ	61	16	63	28	33	44	50	48	36	66	70		
53	規模	28×24												
	深さ	18												
63	規模	38×34	32×32	32×28	28×26	22×18	51×38	37×24	32×28	26×24	28×22			
	深さ	58	38	56	29	18	14	32	24	18	30			
64	規模	31×24	52×43	48×40	43×36									
	深さ	62	72	66	70									
65	規模	48×30	36×24	80×58	28×24									
	深さ	16	18	19	15									
66 a + b	規模	16×16	22×20	18×12	24×20	44×34	18×17	22×16	20×16	42×41				
	深さ	—	34	16	12	31	21	12	40	51				
67	規模	34×28	46×42	64×52	68×54	32×18	38×28	64×36	46×40	56×32	40×32	40×34	16×16	80×38
	深さ	58	68	59	35	57	55	52	16	47	30	29	34	90
	PitNo.	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
68	規模	44×35	16×13	38×40	54×34	68×54	55×38	64×52	38×28	34×28	36×34			
	深さ	46	51	54	44	84	45	54	38	67	52			
70	規模	38×38	42×30	32×28	38×30	27×24	46×24	49×28	24×22	25×16	26×24	36×28	54×38	24×23
	深さ	48	60	30	25	—	17	51	18	10	22	28	25	26
72	規模	110×38	28×28	64×48	38×32	32×24	16×14	32×28	50×28	70×68	117×89			
	深さ	58	37	58	18	5	6	109	34	98	41			
73	規模	24×21	28×26	28×24	26×22									
	深さ	52	44	44	60									
74	規模	48×48	76×66	68×58	40×40	54×48	20×18							
	深さ	49	12	50	12	42	9							
75 a + b	規模	72×38	44×42	58×50	32×28	70×32	24×24							
	深さ	64	52	62	62	57	46							
77	規模	28×20	26×16	46×40	42×28	18×16	60×50	34×28	36×28					
	深さ	15	18	50	52	24	27	12	46					
77	規模	54×42	22×20	18×18										
	深さ	34	13	47										
77	規模	22×14	16×15	23×23	28×23	25×24	25×25							
	深さ	65	63	61	64	29	67							

第2節 縄文時代の住居址

住居址No.	PitNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
78 a・b	規模	28×27	23×18	26×23	33×21	48×46	66×58	84×74	68×52	29×25	29×17	43×42	46×32	36×28
	深さ	71	58	39	50	73	25	11	30	37	50	60	54	72
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
79	規模	18×18	27×24	28×24	42×38	42×22	36×47	26×22	60×55	30×27				
	深さ	42	35	61	66	63	27	28	19	55				
	規模	38×34	23×21	22×21	22×22	28×28	27×24	32×30	38×37	30×30	38×37	33×72	74×41	21×17
80	規模	131×68	116×68	57×43	43×37	170×125	86×49	58×48	125×103					
	深さ	99	66	66	60	35	102	65	43	102				
	規模	36×29	40×35	47×43	60×49	52×31	36×24	98×94						
81	深さ	53	77	22	42	70	52	—						
	規模	10×80	82×73	10×89	95×60	60×41	47×40	37×33	43×40	60×52	56×43	20×20		
	深さ	73	59	75	62	62	58	48	35	44	17	23		
82 a・b	規模	31×24	29×27	53×55	29×100	26×26	33×24	50×43	30×10	49×48	35×30	37×35	61×50	60×52
	深さ	35	28	43	40	14	13	28	—	59	59	61	15	39
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
84・85	規模	20×18	34×26	22×22	34×32	49×37	22×20							
	深さ	—	9	8	20	53	37							
	規模	73×57	30×25											
86	深さ	18	11											
	規模	49×54	27×19	41×38	67×56	36×32	27×27	22×18	37×33	17×15	23×22	29×20		
	深さ	62	48	48	21	36	—	—	30	14	35	10		
88	規模	64×56	29×20	171×106	30×25	25×18	21×18	140×127	48×32					
	深さ	58	60	24	53	73	38	54	69					
	規模	24×17	32×17	73×67	130×44	66×53	74×57	39×26	53×47					
89	深さ	90	44	47	72	45	56	68	24					
	規模	36×34	86×84	66×48	32×26	54×48								
	深さ	50	30	50	66	38								
91	規模	46×42	26×24	46×24	28×28	(29)×21	34×34	42×34	50×44	44×34	38×30			
	深さ	54	106	78	52	23	58	64	80	46	54			
	規模	30×30	32×51	30×30	68×58									
92	深さ	48	22	51	58									
	規模	33×30	47×38	52×50	46×31	20×17	17×15	26×24	87×71	19×14	48×47	22×18	30×29	16×14
	深さ	57	41	55	30	40	50	41	45	20	85	12	41	27
97	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	13×9	25×22	51×44	71×31	21×21	46×44	40×34	41×37	46×41	50×49	27×14	32×23	16×14
	深さ	19	12	30	30	31	7	19	34	15	23	10	35	—
94	PitNo	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
	規模	15×12												
	深さ	—												
96 a・b	規模	62×46	40×36	80×72	34×28	58×44	40×34	30×30	42×40	32×28				
	深さ	26	30	74	26	62	34	34	14	88	70			
	規模	59×41	22×21	28×26	32×22	35×33								
99 a・b・c	深さ	35	14	14	10	7								
	規模	27×23	36×35	32×29	25×25									
	深さ	41	54	53	53									
100	規模	32×24	49×46	94×53	35×31	37×30								
	深さ	40	68	63	20	46								
	規模	65×52	27×20	78×38	19×18	23×18	80×48	15×13	10×82	101×83	58×46	30×20	69×57	82×75
103	深さ	81	41	45	49	60	101	46	27	96	39	44	40	88
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	56×45	83×62	87×38	123×81	93×73								
104	深さ	18	54	19	22	—								
	規模	66×64	31×30	43×41	53×47	37×27	45×32	48×48	56×47	47×35	39×16	90×37		
	深さ	102	46	84	110	88	92	44	61	88	90	30		
107	規模	40×37	61×46	64×56	53×45	48×(40)	30×(30)							
	深さ	62	63	56	59	60	58							

第1章 検出された遺構と遺物

住居地No.	PitNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
109	規模	62×59	45×38	22×20	50×35	37×28	23×22	31×25	47×39	47×39	29×23	41×39	53×42	39×35
	深さ	67	48	45	74	39	49	45	71	74	57	64	16	33
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
110 a・b	規模	21×21	16×16											
	深さ	13	22											
111	規模	31×30	26×21	23×18	31×27	45×39	49×39	32×26	98×89					
	深さ	25	51	67	40	80	63	45	28					
113	規模	36×24	49×46	71×51	37×34	40×30	29×28							
	深さ	75	69	73	22	61	18							
114	規模	69×48	52×29	40×38	45×45	47×43	30×56							
	深さ	34	29	67	34	20	57							
115 a・b	規模	16×14	22×20	17×14										
	深さ	27	44	32										
116	規模	30×21	46×38	28×26	30×28	64×30	85×70							
	深さ	38	88	66	74	52	49							
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
117	規模	20×18	22×18	40×30	26×23	38×29	33×24	26×13	61×21	28×19	10×9	28×22	15×14	16×12
	深さ	72	44	72	48	42	27	10	49	39	40	38	42	35
118	規模	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	深さ	41	52	44	38	36	72							
121	規模	28×24	51×48	55×47	39×36	70×68	87×56							
	深さ	48	54	41	43	15	34							
122	規模	31×28	34×30	11×10	10×10									
	深さ	18	18	58	15									
126	規模	43×35	52×5	25×25	75×75	30×21	30×30	22×18	50×45	45×43	45×33	58×18	65×33	16×15
	深さ	19	10	23	53	37	33	35	8	61	13	8	6	49
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
127	規模	23×20	32×30	73×70	85×75	32×28	50×68	59×25	40×32	50×34	130×70	11×63		
	深さ	32	52	42	37	29	46	51	30	20	54	69		
128	規模	53×46	59×52	54×51	59×59									
	深さ	69	66	50	48									
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
129	規模	41×36	38×35	70×58	105×91	53×52	29×26	92×60	40×36					
	深さ	62	72	58	79	65	60	92	65					
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
131 a・b	規模	62×30	80×53	114×50	98×40	47×46	95×47	45×38	67×55	40×39	118×89	113×68	84×44	53×43
	深さ	82	25	72	72	31	60	15	43	20	34	31	55	65
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
132 a・b	規模	78×64	47×46	46×22	54×50	29×26	23×18	23×19	28×25	64×38	42×34	112×98	72×45	88×30
	深さ	68	32	62	76	61	33	25	31	71	50	62	51	5
	PitNo	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
133	規模	59×38	76×34	84×50	112×110	84×81	137×111	35×28						
	深さ	80	15	23	81	79	84	59						
134	規模	59×56	75×43	37×34	50×49	51×48	50×47	38×26	40×37	73×68	99×41	80×80		
	深さ	64	64	63	47	62	19	15	27	30	57	40		
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
135 a・b	規模	34×28	46×38	58×43	114×118	58×47	94×81	112×89	118×110	38×18	38×38	34×27	54×44	118×112
	深さ	60	21	5	41	17	21	15	18	20	56	25	20	63
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
136	規模	20×20	21×21	26×23	33×21	33×18	42×17	32×27	48×42	30×27	35×35	29×27	25×22	23×18
	深さ	18	63	47	41	35	12	16	45	—	61	43	23	14
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
137	規模	111×110	37×25	40×33	29×29	33×22	30×28	28×23	27×25	23×19	22×19	35×33	13×110	14×13
	深さ	66	8	14	57	35	41	32	36	—	27	77	110	13
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
138	規模	50×45	40×20	25×25	50×20	25×23	25×25	114×111	114×112	95×22	65×54	60×52	35×27	41×37
	深さ	30	12	58	9	62	43	17	42	13	35	27	4	23
	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
139	規模	29×17	50×29	37×31	68×52	32×21	39×39	30×14	15×14	10×7	114×85	69×61	75×69	118×111
	深さ	51	22	38	17	12	23	15	5	5	33	20	41	116
	PitNo	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39
140	規模	111×93	25×24	25×19	19×18	22×22	83×18	91×61	26×25	20×15	93×85	96×93	111×82	27×20
	深さ	31	54	30	32	28	28	16	63	2	46	36	9	40

第2節 縄文時代の住居址

住居址No	PitNo	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13
135	規模	36×35	38×34	34×30	40×36	51×40	37×30	72×31	50×41	22×12	29×27	28×25	69×65	51×50
	深さ	65	57	66	46	45	28	36	41	14	33	58	58	56
136	規模	35×35	35×23	39×32	35×32	53×42	27×21	45×32	30×25	28×27	52×50	75×65	27×25	52×40
	深さ	62	52	52	52	43	49	49	59	32	36	105	24	21
136	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	47×42												
137	規模	27×20	78×43	65×53										
	深さ	56	63	62										
139	規模	27×21	19×19	43×34	66×54	19×18	59×30	45×41	30×30	71×64	26×22	49×28	17×17	66×51
	深さ	32	43	39	10	50	39	40	23	36	14	24	12	32
139	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	47×43	34×18											
140	規模	89×53	45×36	17×14	21×16	21×20	30×23	20×19	37×33	31×28	39×35	35×32	66×63	69×59
	深さ	63	23	10	12	34	12	29	38	47	21	62	—	38
140	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	39×33	40×33	87×75	80×68	30×30	29×25	42×26	23×18	20×19	112×84			
141	規模	88×70	21×20	67×42	96×82	35×35	42×33	58×52	48×34	38×37	35×28	19×17	17×17	86×87
	深さ	46	54	46	12	16	23	59	18	46	64	23	11	57
141	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	19×17	33×31	81×52	10×16									
142	規模	84×69	40×31	74×47	45×27									
	深さ	14	36	41	35									
143	規模	38×35												
	深さ	48												
144	規模	36×31	25×21	50×15	19×16	53×23	50×25	27×23	35×34	67×43	48×41	73×52	40×36	23×22
	深さ	45	36	14	24	18	6	34	52	12	30	33	29	38
144	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	32×11	29×29	37×24	29×28	74×72								
145	規模	33×21												
	深さ	18												
146	規模	29×22	26×23	51×29	30×10	34×23	25×17	38×21	27×25	30×22	20×18	21×17	37×27	42×36
	深さ	21	66	61	4	59	14	21	16	18	18	47	33	10
146	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	62×48												
147	規模	40×29	25×17	41×32	34×32	33×36	33×31	45×40	41×29	41×23	108×84			
	深さ	35	45	50	23	68	61	38	58	38	9			
149 a・b	規模	64×47	80×74	139×86	107×67	136×111	79×48	55×50	24×19	42×37	68×49	30×23	69×43	39×33
	深さ	62	96	23	62	44	93	51	46	44	30	60	14	31
149 a・b	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	97×83	43×41											
150	規模	63×42	51×39	46×45	22×9	76×62	56×45	70×61	61×54	59×38	57×40	49×48	24×23	45×38
	深さ	55	45	38	7	27	6	70	39	39	50	9	—	24
150	PitNo	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26
	規模	88×67	50×35	39×33										
151	規模	53×44	52×46	110×89	71×56	51×48	51×42	27×27						
	深さ	19	19	74	52	13	61	36						
152	規模	69×51	56×50	112×28										
	深さ	71	68	48										
153	規模	92×74	40×34	112×96	50×40	40×35	60×56	58×52	60×58	58×56	43×42			
	深さ	42	19	32	18	23	23	36	12	33	15			
154	規模	125×72	38×37	98×96	56×30	41×33								
	深さ	28	16	48	25	28								

第3節 縄文時代の土坑・特殊遺構

糸井宮前遺跡では、土坑、風倒木、小型円形竪穴などの遺構が検出された。その総数は、土坑・小型円形竪穴323基、風倒木址3基である。土坑のうち17基は縄文時代ではないので、前編で扱った。本編でとりあげた土坑は、縄文時代の土坑である。土坑のうち住居址と重複しているものは、明らかに住居址の施設とは異なるものについて土坑番号を付し平面図を掲載した。このため住居内の土坑図は住居址の平面図にも重複して掲載されている。住居址平面図で Pit No の付してあるものは、住居址に付属するものと、その帰属がはっきりしないもので前節に掲載した。

土坑の分布は調査地のほぼ全面に認められ、特に分布の集中する傾向はつかめなかった。土坑のうち、陥し穴については、調査地の北東に多く集まる傾向にある。また風倒木址については、3基を調査したが、南東部に多く分布する。

遺物を出土する土坑は少なく、そのほとんどが覆土中からの出土である。完形に近い大形の土器を出土する土坑は、数が少ない。これらの土器は、円形で、袋状や掘り方が深い土坑の底面に置かれた状態で出土している。石器は、石皿、磨石、凹石等が比較的多く出土し、打製石斧、石匙、石鏃、スクレイパー等の出土量は少ない。また剥片は、土器の小破片とともに、覆土中から出土する土坑は多い。陥し穴からは、遺物の出土量が少ない。これらの土坑の時期は、縄文時代後期の土器を出土した土坑が一基あり、これ以外は、出土遺物等から判断して、ほぼ住居址と同一時期と考えられる。陥し穴については、出土遺物も少なく、時期を特定できない。

本項では、土坑、特殊遺構については、位置、規模、深さ、形状について、一覧表によって記載した。各項目において基準となる概念は次の通りである。

土坑 No 整理の段階で新たに土坑として認定されたものや、調査時の混乱により欠番になってしまったものがあるため、新たに番号を付け直した。縄文時代以外の土坑についても通し番号を付けたため、本編で扱わなかった土坑については欠番になっている。なお「糸井宮前遺跡Ⅰ」の土坑番号は旧番である。

位置 遺構の位置する場所をグリッドによって記載した。複数のグリッドにまたがる場合は遺構の多いグリッド名にした。グリッド名については、前編を参照されたい。

規模 上場、下場について、長軸と直交する位置で短軸を測った。

深さ 上場と底面の差で最大値を測った。

形状 円形（短径、長径の比率が1：1～1.2）。楕円形（短径、長径の比率が1：1.2以上）。隅丸長方形（壁が直線的になるもの）。形状が不安定で特定できないものは、不整形とした。その他、用途、形状について特記した。

出土遺物 遺物については、土器、石器に通し番号を付け記載したが、住居と重複している土坑の遺物については、住居址遺物と同一の図版に掲載した。

土坑一覽表

土坑 No	位 置	規 模 (上) cm	規 模 (下) cm	深 さ cm	形 状	出 土 遺 物	備 考
1	61 E26	137×135	100×84	60	円形	10, 18~27, 449~451, 477, 502, 508, 515	3号住居内
3	59 E27	70×53	30×18	26	楕円形		〃
4	59 E28	90×88	55×41	40	円形	486	〃
5	59 E30	125×116	55×37	54	円形		4号住居内
6	10 E02	93×78	74×65	40	円形	17, 29~32	7号住居内
7	14 D47	218×126	172×88	32	楕円形		8号住居内
8	14 D46	163×126	88×81	42	楕円形		〃
9	14 D45	106×47	84×31	50	隅丸長方形 陥し穴		〃
10	16 D38	116×113	99×81	40	円形	37	11号住居内
11	15 D38	130×127	86×85	80	円形		〃
12	13 D39	90×87	78×72	10	円形		〃
13	22 E34	269×213	256×200	10	小要円形竪穴	14, 15, 33~36	
14	18 E42	133×129	107×107	33	円形	38~53	
15	22 E44	136×110	119×115	51	楕円形	54~56	
16	36 F16	283×122	190×54	76	隅丸長方形 陥し穴	58, 59, 516	
17	36 F16	159×119	120×55	53	楕円形		
28	68 D35	78×72	60×55	80	円形		
30	59 D37	92×82	70×65	30	円形		
33	50 E15	80×70	36×25	36	不整形	68~70	
34	49 E07	162×162	130×100	65	円形		
35	49 E06	152×111	122×90	36	楕円形	71~73	
36	46 E04	146×109	95×88	23	楕円形	74	
38	31 E26	111×90	76×67	40	楕円形	492	
39	32 E17	116×97	99×82	64	不整形	75~82	
40	37 E30	159×128	145×119	22	楕円形		
41	52 E04	54×54	45×35	50	円形	83, 84	
42	51 E01	54×54	35×28	32	円形		
43	52 E48	91×60	76×38	32	楕円形	8	
45	43 E14	186×178	147×143	37	円形	88~92	
46	54 D46	68×64	58×55	53	円形	459	
47	47 E13	73×60	40×30	22	楕円形		S K61と重複
48	58 D44	141×134	103×83	67	円形		
49	47 E13	122×82	93×48	50	楕円形		
50	28 E37	148×106	100×38	60	隅丸長方形 陥し穴	93, 94	
51	27 E36	228×138	120×57	40	円形		
52	26 E35	140×124	125×121	36	不整形	480	
53	24 E35	118×114	105×99	32	円形	95~98, 484, 490	
54	26 E33	228×190	214×181	45	楕円形		
55	67 D40	263×130	222×105	68	楕円形		
56	69 D43	114×92	93×78	19	楕円形		
57	69 D42	146×111	90×40	53	楕円形		
58	62 D42	240×166	173×135	68	楕円形 袋状		
59	65 D34	115×108	80×68	29	円形	99~104, 479, 483	
60	49 D27	277×162	233×135	28	不整形	105	
61	42 E05	148×60	106×50	70	不整形	106	
62-1	20 E14	143×108	132×94	32	楕円形	107, 473	
-2	〃	148×136	123×111	68	円形	108~112	
63-1	66 E34	186×150	152×120	44	楕円形		
-2	〃	100×92	76×67	62	円形		
-3	〃	102×102	77×77	98	円形		
-4	〃	100×98	79×40	96	円形		
64	22 E14	141×116	125×33	100	隅丸長方形 陥し穴		
65	19 E09	161×149	138×135	85	円形		
66	21 E31	157×148	140×134	27	円形		

第1章 検出された遺構と遺物

土坑 No	位 置	規 模 (上) cm	規 模 (下) cm	深 さ cm	形 状	出 土 遺 物	備 考
67	22E31	127×121	107×105	40	円形	113, 114	
68	21E17	161×128	131×48	37	隅丸長方形 陥し穴		
69	34D16	122×110	96×85	31	円形	115~119, 121~123, 462, 467, 494, 495	
70	41D18	170×128	127×75	39	楕円形	121, 126	
71-1	42D16	176×114	143×87	28	隅丸長方形	127, 128	
-2	#	166×134	135×117	68	楕円形		
72	19E14	124×111	105×90	32	円形		
73	22E15	137×114	100×87	24	円形		
74	17E21	246×182	57×50	64	不整形	129	
75	20E09	232×226	216×203	30	不整形	130~133	82号住居に付
76	31D49	216×150	185×119	26	楕円形		
77	33D49	182×130	105×85	36	楕円形	134	
78-1	34E00	142×114	104×88	35	円形	135~140	
-2	#	188×154	137×136	26	円形		
-3	#	147×132	74×70	44	円形		
79	34D49	160×120	112×75	22	楕円形		
80	37D49	134×132	100×90	78	円形 袋状	141, 142, 457	
81	61D38	246×210	186×177	74	円形		
82	59D37	132×120	110×103	20	円形		
83	58D38	148×130	98×97	50	円形	143~149	
84	39E03	116×103	104×93	23	円形	150	
85	38E03	136×134	125×116	44	円形 袋状	2, 4, 151~162	
86	38E05	160×148	120×118	26	円形	163, 164	
87	39E05	138×124	90×85	40	円形		
88	36D39	236×191	155×135	42	楕円形	11, 16, 165~175, 504	
89	38D41	402×334	387×314	16	小型円形整穴	12, 177~210	
90	24E05	140×120	110×93	36	隅丸方形	212~216	
91	28E02	130×110	109×92	74	楕円形		
92	30E01	133×121	102×98	52	円形		
93	58E31	98×81	70×54	30	楕円形	217	
94	47E30	390×210	343×174	19	楕円形		
95	58D31	138×130	112×98	20	円形	204	
96	60D35	288×204	169×161	48	楕円形	219~221, 485	
97-1	60D34	288×170	240×135	74	不整形	5, 222~226	
-2	#	132×100	101×81	48	楕円形	466, 472, 475, 481, 491	
98	59D34	96×78	86×54	80	楕円形		
99	36D32	218×120	134×58	34	楕円形		
100	37D32	234×120	102×98	38	楕円形	227~231, 509	
101	37D32	78×76	51×48	55	円形	456, 468, 470	
102	39D33	196×128	172×94	50	不整形		
103	40D35	224×148	110×90	72	楕円形	232~237, 460, 474	
104	40D36	228×149	196×130	28	楕円形	238	
105	41D35	190×164	147×124	46	円形		
106	62D38	178×118	75×70	21	楕円形	239~241, 497	
107	62D33	208×190	186×148	70	隅丸長方形	242, 243	
108	65D34	98×88	72×68	43	円形	9, 245, 247, 452~455	
109	69D34	148×127	108×103	34	円形	246, 248	
110	68D33	136×110	116×90	20	楕円形		
111	67D32	219×170	133×39	102	隅丸長方形 陥し穴		
112-1	66D31	136×132	122×115	66	円形	249, 250	
-2	#	130×110	118×98	14	円形	1, 3, 6, 7, 498	
113	60E16	152×146	95×65	50	円形	251~259	
114	58E14	228×176	91×35	38	不整形	260~264	
115	56E16	224×154	188×117	31	楕円形	265~268	
116	57E16	262×158	213×100	56	楕円形	269~283, 507	
117	56E11	442×324	409×300	36	不整形	284~288	
118	55E10	204×146	175×130	46	楕円形	289~307, 503	

第3節 縄文時代の土坑・特殊遺構

土坑 No	位 置	規 模 (上) cm	規 模 (下) cm	深 さ cm	形 状	出 土 遺 物	備 考
119	56E09	74×67	30×18	38	不整形		
120	54E04	113×92	101×74	28	楕円形		
121	58E14	368×182	304×137	28	楕円形	317~321	
122	52E16	244×136	214×90	23	不整形	322~330, 464	
123	52E18	260×130	93×93	64	楕円形		
124	50E18	158×110	56×56	22	楕円形		
125	50E22	274×172	242×140	68	不整形	陥し穴	
126	49E21	298×196	263×160	68	楕円形		308~316, 331~339
127	50E16	182×150	136×116	58	楕円形		
128	54E13	78×78	55×50	20	円形		
129	48E22	248×156	220×123	40	楕円形	482	
130	51E20	70×62	44×35	52	円形		
131	65E07	300×182	244×131	94	楕円形		
132	64E04	162×136	141×127	46	円形		
133	23E13	204×178	113×15	140	円形	陥し穴	
134	20E10	136×128	100×94	23	円形		340~343
135	20E17	112×90	74×44	80	隅丸長方形	陥し穴	
136	18E06	141×122	89×82	44	円形		
137	25E10	113×110	101×95	14	円形		
138	27E10	159×132	142×114	15	楕円形	344	
139	30E06	218×130	149×57	32	楕円形	345~347	
140	30E03	221×210	202×150	35	円形	348~350, 465	
141	34E06	292×198	214×124	68	不整形	13, 351~355	
142	36E06	210×112	166×53	64	隅丸長方形	陥し穴	357~364
143	36D48	248×128	116×90	51	楕円形	365	
144	35E05	158×144	142×114	49	不整形	366~377, 471, 478, 488	
145	34D42	170×128	120×86	40	楕円形		
146	33D42	203×108	146×47	64	隅丸長方形	陥し穴	
147	32D41	156×156	90×33	110	円形		
148	32D42	86×70	46×44	35	楕円形		
149	23D27	212×180	57×29	123	円形		
150	23D28	102×94	80×68	28	円形		
151	23D25	140×102	108×80	30	楕円形		
152	25D25	162×138	112×58	23	円形	378~380, 506	
153	21D22	148×84	130×58	24	楕円形		
154	20D23	122×110	95×75	18	円形		
155	20D25	215×160	182×132	42	楕円形	381, 382	
156	19D26	146×108	117×88	20	楕円形	383, 384, 461	
157	19D28	144×120	102×74	36	楕円形		
158	68E12	226×150	189×95	40	楕円形	487, 514	
159	68E13	145×101	80×37	104	隅丸長方形	陥し穴	385, 463
160	69E10	236×178	84×51	84	楕円形	386, 387, 489	
161	66E11	336×173	278×122	34	楕円形	388~392	
162-1	68E17	271×160	190×113	50	楕円形	393~396	
-2	?	160×120	74×57	50	楕円形		
163	66E18	260×178	146×124	40	楕円形	397~399	
164	66E18	136×127	115×108	15	円形	416	
165	64E16	148×113	104×52	32	楕円形	400, 500	
166-1	64E16	148×130	120×101	33	円形		
-2	?	112×98	76×31	55	円形		
167	67E20	209×175	174×137	34	楕円形	401~404	
168	65E21	219×212	145×138	43	円形	405~414	
169	66E20	146×143	120×118	20	円形	415, 416	
170	66E48	226×168	130×117	40	楕円形	417~421	
171	66D49	180×134	53×40	43	楕円形		
172	67D49	125×125	98×92	18	円形		
173	70E01	114×96	70×64	20	円形		

第I章 検出された遺構と遺物

土坑 No	位置	規模 (上) cm	規模 (下) cm	深さ cm	形状	出土遺物	備考
174	70E00	185×156	111×97	32	円形	422~425	
175	70E02	197×175	135×112	40	円形		
176	70E03	172×143	106×87	37	円形		
177	13D35	83×74	60×55	28	円形		
178	11D37	103×94	81×72	21	円形		
179	12D35	96×59	70×40	86	隅丸長方形 陥し穴		
180	12E05	174×136	126×80	36	楕円形		
181	12D37	110×66	83×42	90	隅丸長方形 陥し穴		
182	12D36	115×86	75×43	63	隅丸長方形 陥し穴		
183	52E15	107×94	69×69	19	円形		
184	45D46	73×64	66×55	6	楕円形		
185	28E38	158×129	144×108	28	楕円形		
186	39E12	120×110	—	26	不整形		
187	52E01	60×46	48×39	27	楕円形		
188	43D46	180×165	124×124	59	円形		
190	45E19	155×135	145×138	29	円形		
191	44E21	276×265	243×235	97	円形		
192	48E05	84×80	73×68	15	円形		
193	33D29	104×100	61×34	64	不整形	119号住居内	
194	30D30	160×152	118×115	80	円形	#	
195	56E29	283×174	210×140	74	楕円形	74号住居内	
196	47D47	162×150	155×136	44	円形 袋状	91号住居内	
197	28E16	213×160	144×113	30	楕円形	132号住居内	
198	28D19	212×151	150×135	39	楕円形	132号a住居内	
199	57E31	159×129	130×99	34	楕円形	74号住居内	
200	29D21	122×110	112×92	43	円形	110号住居内	
201	37E03	169×119	149×80	25	楕円形	237区-38・259区-103, 109, 105	
202	46E09	157×85	128×52	32	不整形	84号住居内	
203	41D42	154×153	105×104	41	不整形	221区-38・225区-115	
204	41D40	90×84	39×38	48	円形	98号a住居内	
205	39D40	158×133	85×74	80	楕円形	98号b住居内	
206	65D34	150×93	80×62	100	楕円形	97号住居内	
207	29D49	128×118	107×104	16	円形	150区-37	
208	52D32	170×128	102×110	35	楕円形	81号住居内	
209	52D30	112×77	93×50	43	楕円形	124号住居内	
210	52D31	231×207	176×156	116	円形	#	
211	34D30	141×140	119×115	78	円形	#	
212	27D46	141×135	117×100	59	円形	136号住居内	
213	26D45	125×100	83×82	48	楕円形	#	
214	29D46	150×126	121×107	72	円形	#	
215	48E16	103×90	82×65	34	円形	248区-21, 22, 25・249区-42, 55, 63・251区-79	
216	64E22	295×113	250×110	40	不整形	129号住居内	
217	25E13	130×117	107×90	66	円形	130区-13・143区-128	
218	10E04	158×112	30×21	63	隅丸長方形 陥し穴	80号住居内	
219	15D43	172×94	144×74	28	不整形	07号住居内	
220	15D44	156×111	101×87	45	楕円形	09号住居内	
221	49D28	112×87	84×67	69	楕円形	#	
222	28D44	108×84	49×32	28	円形	127号住居内	
223	28D43	66×58	43×40	43	円形	136号住居内	
225	69E04	126×122	82×78	70	円形 袋状	#	
226	31D36	146×130	127×107	50	楕円形	50号住居内	
227-1	33D32	130×106	82×56	120	不整形	153号住居内	
-2	#	65×50	26×21	90	#	147号住居内	
228	23D20	90×40	48×27	15	不整形	#	
229-1	31E30	180×115	156×73	88	楕円形	115号住居内	
-2	#	100×99	99×75	68	円形	235区-4, 5・236区-10, 11, 13, 17, 20	
230	35E05	156×145	133×120	53	円形 袋状	237区-49, 50, 52, 60, 62~65	

第3節 縄文時代の土坑・特殊遺構

土坑 No	位置	規模 (上) cm	規模 (下) cm	深さ cm	形状	出土遺物	備考
231	36E04	139×120	114×113	40	円形	238図-69・239図-113, 116, 119	99号住居址内
232	37E01	170×130	145×134	94	不整形 袋状	238図-32, 33・239図-107, 108・281図-32, 33	#
233	41D40	82×78	60×45	11	円形		#
234	42D36	101×67	83×55	15	楕円形		#
235	51E14	172×65	77×32	16	不整形		#
236	38D34	67×51	51×34	10	楕円形		#
237	16D44	366×174	214×57	74	楕円形		138号住居内
238	23E31	121×98	110×79	11	楕円形		85号住居内
239	23E32	132×102	110×87	33	楕円形		#
240	62E37	99×82	99×79	90	円形		68号住居内
241	63E35	93×72	71×49	66	不整形		#
242	61E34	162×118	108×100	56	楕円形		#
243	64E34	102×93	91×93	73	円形		#
244	66E38	228×200	75×54	110	円形		69号住居内
245	64E38	120×107	96×80	36	円形		#
246	66E37	76×60	53×39	53	楕円形		#
247	72E31	80×80	59×49	26	円形		73号住居内
248	71E31	98×(79)	(73)×70	64	円形		#
249	28E01	284×105	235×85	28	不整形	156図-36	81号住居内
250	28E00	156×102	134×80	22	不整形		#
251	37D46	92×88	87×62	64	楕円形		86号住居内
252	36D45	135×112	82×81	96	楕円形		#
253	36D47	168×94	85×65	76	楕円形		#
254	35D46	130×124	97×91	99	円形		#
255	36D35	88×71	80×64	62	楕円形		88号住居内
256	37E08	132×110	93×65	43	楕円形	185図-62	90号住居内
257	38E07	99×64	84×59	54	楕円形		#
258	39E07	117×90	110×83	62	円形	185図-85・188図-119	#
259	39E08	152×74	125×60	58	楕円形	186図-104・188図-124	#
260	39D47	156×102	108×80	56	楕円形		#
261	36E03	117×75	84×65	45	楕円形	241図-157	91号住居内
262	43E02	124×96	100×82	52	楕円形		99号住居内
263	45E03	94×61	90×53	26	楕円形		92号住居内
264	43E02	173×72	141×66	40	楕円形		#
265	24D48	120×114	75×75	68	円形	204図-10, 18	94号住居内
266	25D47	144×122	126×121	43	円形 袋状	204図-30, 35~40	#
267	24D48	126×110	103×88	46	円形	204図-29, 31・205図-41	94号住居内
268	25D49	168×147	140×130	58	楕円形		#
269	24D49	190×182	148×115	60	円形	204図-3~5, 15	#
270	24D46	108×95	83×73	34	円形		#
271	41D42	118×92	60×45	68	楕円形		98号住居内
272	41D40	82×72	63×55	66	円形		#
273	41D41	107×88	80×61	30	楕円形		#
274	40D42	154×134	134×119	34	円形		#
275	19D17	88×56	76×38	24	楕円形		109号住居内
276	19D19	82×65	54×45	72	円形		#
277	19D18	86×84	70×61	58	円形		#
278	50D20	150×130	123×101	32	円形		111号住居内
279	52D20	143×124	116×101	34	円形		#
280	46D22	96×92	70×66	34	円形	302図-117, 119, 120, 122・304図-139	113号住居内
281	23D22	126×96	108×82	39	楕円形		115号住居内
282	21D21	157×102	144×79	87	楕円形		#
283	32E07	185×107	165×89	34	不整形		117号住居内
284	66E23	167×147	152×135	24	円形		129号住居内
285	66E25	192×109	90×64	39	楕円形		#
286	43D43	203×119	154×92	45	不整形		133号住居内
287	32D38	190×156	112×105	107	楕円形		134号住居内
288	29D41	102×82	59×53	60	楕円形 陥し穴		137号住居内

第1章 検出された遺構と遺物

土坑 No.	位置	規模 (上) cm	規模 (下) cm	深さ cm	形状	出土遺物	備考
289	28D41	129×106	65×43	72	楕円形		137号住居址内
290	27D42	91×76	70×53	62	楕円形		〃
291	29D42	101×91	79×73	73	楕円形		〃
292	23D39	99×86	82×76	73	円形		139号住居内
293	25D24	146×111	108×90	89	不整形		140号住居内
294-1	19D42	138×94	98×85	88	楕円形		141号住居内
-2	18D42	140×112	92×66	106	楕円形		〃
295	23E39	94×85	65×54	70	円形		142号住居内
296	23E38	89×82	62×62	52	円形 袋状		〃
297	36D23	59×58	40×38	28	円形		144号住居内
298	20D24	150×75	124×62	50	不整形		146号住居内
299	20D23	120×111	113×103	78	円形		〃
300	72E19	139×92	87×67	81	楕円形		151号住居内
301	71E17	110×80	60×45	47	楕円形		〃
302	57E24	214×144	182×106	63	不整形		75号住居内
303	57E23	129×103	73×65	60	円形		〃
304	59E23	116×110	73×57	44	円形	109図-18	〃
305	58E22	99×63	82×40	10	楕円形		〃
306	57E21	59×52	37×34	66	円形		〃
307	58E23	126×116	89×82	84	円形		〃
308	58E24	110×109	101×74	75	円形	110図-54	〃
309-1	44D29	179×170	106×104	60	不整形		
-2	〃	150×134	114×108	74	不整形		
310	46D28	113×106	105×93	20	円形		
311-1	43D27	156×143	122×104	25	円形		
-2	〃	195×153	186×130	38	楕円形		
312	46D26	160×124	144×110	20	楕円形		
313	40E21	289×234	150×143	50	楕円形		
314	40E20	222×192	206×165	62	円形		
315	25F05	132×120	114×103	82	円形		
316	24F06	94×88	75×67	18	円形		
317	23F09	124×118	84×76	80	円形		
318	21F08	88×80	71×60	12	円形		
319	20F07	62×62	50×44	20	円形		
320	23F04	74×70	60×49	32	円形		
321	19D25	183×93	114×49	120	隅丸長方形 陥し穴		
322	30D15	463×380	444×330	37	小型円形竪穴		
323	37D18	472×434	429×346	40	小型円形竪穴	467、476、493、496	
風倒木	41D11	395×322	385×342	80	風倒木		
風倒木1	41D08	450×435	410×402	69	風倒木		
風倒木2							
風倒木3	27D33	722×636	216×140	120	風倒木		

第4節 縄文時代の出土遺物

(1) 土 器

糸井宮前遺跡で出土した縄文時代の土器は約60,000点以上である。このうち主体となるのは、前期中葉から前期後葉の土器で90%以上を占める。これは、検出された遺構の時期と深く関係している。前期以外の時期では、早期、中期、後期、晩期の土器が出土している。これらの土器は遺構外出土か、遺構に混入したもので出土量は少ない。これら出土遺物のすべてを図化し、掲載する事は限られた時間と予算の中では、不可能であった。このため、膨大な量の土器を資料化（土器の分類、計量、数量）する事に時間を費やし、これらの数量は、第II章1節に記した。本報告書で掲載した土器は、この段階で分類した土器である。

土器は各遺構ごとにまとめ、次のような基準で分類を行い、各分類ごとに掲載した。

分類の基本的な考えは、「群」を時間軸としてとらえ、型式的変化を加味し分類した。「群」は、いくつかの型式を組合わせたものと、同時期に存在した地域の型式を一括したものである。「類」は、型式が器形や文様構成、モチーフ、施文方法などの属性によって設定される事から、特に文様構成によって分類したものでいくつかの小項目の集合によって「類」を設定した。

土器分類

I群土器 早期後半 胎土に繊維を含む貝殻条痕文系土器

1類 条痕文系土器

- A 条痕文を有する土器。
- B 絡糸体圧痕を有する土器。

II群土器 前期前半 胎土に繊維を含む土器 関山式、有尾式、黒浜式土器

1類 関山式土器

- A 瘤状の貼付を有する土器。
- B コンパス文を有する土器。
- C 半截竹管による平行沈線を施文。

2類 有尾式土器

- A 櫛状工具による刺突文。口縁に縦位の刺突、菱形のモチーフを構成する。
- B 半截竹管による爪形文。口縁に菱形のモチーフを構成する。
- C 半截竹管による平行沈線。口縁に菱形のモチーフを構成する。
- D 櫛状工具による刺突、爪形文、平行沈線を並用して施文。

3類 黒浜式・植房式土器

- A 半截竹管による爪形文。横位、縦位、斜位に施文される。
- B 半截竹管による平行沈線。波状、横位、縦位に施文される。
- C 口縁部あるいは頸部に隆帯が加えられるもの。
- D 半截竹管状の原体による刺突文、押し引きによる刺突が施される。
- E 半截竹管によるコンパス文を描く土器。
- F 沈線文による格子目文、あるいはそれが崩れた乱雑な文様。
- G 貝殻型縁が施文される土器。

4類 主に縄文のみの土器、無文土器で、1類から3類の各型式に属する

第I章 検出された遺構と遺物

- A 組み紐による施文。
- B 燃糸文の施文効果が表出されるもの。附加条、絡条文、異条斜縄文（直前段合燃）。
- C 単節、無節の斜行縄文。あるいはこれを加工した結束、結節、ループ文等。
- D 単節、無節の縄文により羽状縄文を構成するもの。 E 無文。

5類 その他

III群土器 前期後半 諸磯式、浮島式、大木式土器及びそれに後続する前期末葉の土器

1類 諸磯式土器

- A 半截竹管による爪形文。押し引きによる爪形文。
- B 半截竹管による平行沈線、肋骨文、波状に施文。
- C 地文に縄文を持ち、円形竹管による施文。
- D 浮線文。浮線を横位、弧状、渦巻状に貼付し刻みを加える。
- E 半截竹管による平行沈線、1〜数本単位で横位に間隔をあけて施文。
- F 半截竹管による平行沈線。横位に施文した間に、波状弧線、渦巻、「×」状の文様を構成する。
- G 半截竹管による平行沈線。平行沈線を連続して横位に施文。または、数本束ねた集合沈線により器面に密に、横位の矢羽根状に沈線を施す。
- H 半截竹管による平行沈線。平行沈線を連続して施文または、数本束ねた集合沈線により、縦位の木葉状の弧線、矢羽根状の文様を描く。
- I G〜H類を地文に持ち、棒状、ボタン状の貼付が施されるもの。
- J 地文が縄文で、棒状、ボタン状の貼付が施されるもの。

2類 浮島、興津式土器

- A 口縁に凹凸文、条線、平行沈線による文様を持つ。
- B 貝殻複線文、爪形文により波状に施文される。
- C 貝殻複線文上に、平行沈線、あるいは有節沈線を持つ。貝殻複線文を磨り消す。
- D 三角文。
- E 櫛状の原体により刺突文が施される。

3類 大木式土器

- A 「〜」状の粘土紐が貼付されるもの。

4類 諸磯C後半〜前期終末と考えられる土器を一括した

- A 浮線上半截竹管による結節を加える。平行沈線を結節状に施文する。
- B 半截竹管による平行沈線。密に施文し、円形、渦巻状に施文。
- C 三角形の除刻を持つもの。 D その他の土器。

5類 前期後半に属する縄文施文と無文土器

- A 複節、単節、無節の縄文による斜行縄文を施文する。
- B 同じく羽状縄文を施文する。 C 無文。 D 燃糸。

6類 有孔浅鉢

IV群土器 中期の土器を一括した。

V群土器 後期を一括した。

VI群土器 晩期の土器を一括した。

土器観察表

2号住居出土土器 (第2・3区 写真109)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	半截竹管による波状の沈線が施される。	有	少量の砂粒。にぶい黄褐色。	II-3 B	
2	半截竹管による爪形文、L R Lの複節斜行縄文。	有	砂粒。淡い黄褐色。	II-3 A	
3~5	半截竹管による爪形文(垂直に近い) 3はL R、4はR Lの斜行縄文、5はL RとR Lの羽状縄文。竹管の厚さは3が7mm、4、5は5mm。	少	3は少量の砂粒。焼成良。4、5は砂粒多く焼成は良くない。暗褐色。赤褐色。	II-3 A	
6・7	6附加条2種、7は直前段合拵。	有	砂粒多。焼成不良。暗褐色。	II-4 B	
8~11	8、9はR L、L Rの羽状縄文。10はL Rの斜行縄文、11はR Lの斜行縄文。8口縁部、9胴部、10、11腹部。9は縄文の磨滅が多い。8、9は縦線含む。	有	暗褐色。砂粒含む。焼成は良い。8にぶい黄褐色。他は明赤褐色。	II-4 C D	
12~15	R L、L Rの羽状縄文によって菱形に施文。12、14は底部、13、18は胴部、15は口縁部。	少	12にぶい褐色。13、15、18褐色。14黄褐色。少量の砂粒、ゼラツク。	II-4 C D	
17	R Lの斜行縄文。	有	褐色。砂粒多。ゼラツク。	II-4 C	
19	横位の沈線が施されるが磨滅している。内面研磨。	有	明褐色。砂粒少。	II-3 B	
16・20~22	R Lの斜行縄文。	無	17、22、褐色。20、21明赤褐色。白色砂粒多い。全体にゼラツク。	III-5	

3号住居出土土器 (第4区、写真109)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	半截竹管による平行沈線の後爪形文を施文中8mm。内面研磨。	有	赤褐色。砂粒少。焼成良。	II-2 B	
2~4	2は複節のR L Rを縦、横に施した菱形縄文。3はR L、L Rの羽状縄文。4はR Lの斜行縄文。2、3口縁部、4底部。	有	2、3赤褐色。4にぶい褐色。砂粒少。	II-4 C D	
5	巾3mmの平行沈線に施文。	無	暗赤褐色。雲母砂粒。焼成良	III-1 D	
6	巾6mmの半截竹管による平行沈線を間隔をあけて施文。	無	にぶい褐色。雲母多。焼成良	III-1 E	
7	巾3mmの平行沈線を斜位に施文。	無	にぶい赤褐色。砂粒多焼成良	III-1 G	
8~10	巾3mmの平行沈線を弧状、矢羽根状に施文し、粘土をボタン状、棒状に貼付する。8、10は地文にR Lの斜行縄文が見られる。いずれも内面が良く研磨されている。	無	8にぶい褐色。9にぶい褐色。10暗褐色。8、9砂粒少。10砂粒多。焼成良。	III-1 I	
11	無文。外面は良く研磨されている。有孔浅鉢。	無	赤褐色。雲母含む。焼成良。	III-6	
12~15	沈線が施文され、沈線間にR Lの斜行縄文が施される。内面は良く研磨されている。器之内。	無	12黒褐色。13、14灰褐色。15褐色。砂粒多。焼成良。	V	13、14は同一個体

4号住居出土土器 (第5・6区 写真109)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾6mmの平行沈線を口縁にそって施文。R Lの斜行縄文。	多	暗褐色。砂粒少。	II-3 B	
2・3	巾7mmの平行沈線内に間隔をおいて爪形文を加文。	多	褐色。砂粒多。	II-3 A	
4・5	巾8mmの平行沈線内に連続的に爪形文を加文。	多	褐色。砂粒少。もろい。	II-3 B	
6・8	巾5mmの平行沈線内に連続的に爪形文。地文にR L、L Rの羽状縄文を構成する。	多	褐色。砂粒多。ゼラツク。	II-3 A	
7	巾4mmの平行沈線と爪形文によって菱形を構成する。口唇部直下には、R L、L Rの羽状縄文が施文される。内面研磨。	多	褐色。砂粒多。ゼラツク。	II-2 B	
9	巾3mmの平行沈線を間隔をあけて施文。沈線間にコンパス文。	多	褐色。砂粒多。ゼラツク。	II-3 E	
10~26	22と26は無節のR L、L R、他の土器はR L、L Rの羽状縄文を施文。10~14口縁部、15~23、26胴部、24、25底部。	有	10、18明褐色。12、17、19、21、22、26褐色。11、14~16、20、23~25褐色。13赤褐色。13、14、17は白色砂粒。その他は砂粒少。ややゼラツク。	II-4 D	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
27	単節L Rの斜行縄文。	有	褐、白色砂粒多。ザラつく。	II-4 C	
28	磨減が多はつきりしないがL Rの直前段反折り。	多	赤褐。砂粒少。ザラつく。	II-4 B	
29	加節Rの斜行縄文。内面研磨。	多	灰褐。砂粒少。ザラつく。	II-4 C	
30	複節のR L Rの斜行縄文。内面研磨。	少	赤褐。砂粒少。新多多い。	II-4 C	
31	複節のR L Rの斜行縄文。	少	黄褐。砂粒少。ザラつく。	II-4 C	
32	附加条2種。	多	橙。砂粒多。ザラつく。	II-4 B	
33	無文。内外面とも良く研磨されている。	多	明褐。白色粒。ザラつく。	II-4	
34・35	磨減が多はつきりしないが羽状縄文が施文される。やや上げ底。	有	橙。砂粒少。ザラつく。	II-4 D	
36・37	R Lの斜行縄文。	無	橙、赤褐。砂粒少。焼成良。	III-5 A	

6号住居址出土土器 (第8回 写真109)

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4mmの平行沈線を横位に施文。小突起有。	有	褐。砂粒少。ややザラつく。	II-3 B	
2	単節R L、L Rの羽状縄文。	多	橙。砂粒少。ザラつく。	II-4 D	
3	単節R Lの斜行縄文。	多	褐。砂粒少。ザラつく。	II-4 C	
4・5	単節R Lの斜行縄文で5は間隔がひろい。	無	褐。砂粒少。焼成良。	III-5 A	

7号住居址出土土器 (第9回 写真109)

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1~4	彫状工具によって施文される。口唇から縦に施文され、口縁部から腹部にかけて菱形にモチーフされる。1、2は巾5mmの平行沈線の中に刺突が施されている。工具の単位が3は10本ある事が確認された。1、2、6口縁部、3、4口腹部。	有	1、2褐。3、4、6赤褐 4、6白色砂粒多い。他は砂粒少。4、6は焼成悪くザラつく。	1、2 II-2 D 他	1菱形文の交点に粘土の貼付有
7	巾8mmの連続した爪形文。爪形文間に線有。	多	明赤褐。砂粒少。ザラつく。	II-2 B	
5	9は単節R Lの斜行縄文。他は単節のR L、L Rの羽状縄文で、8では結束がある。	有	5褐。8、9明赤褐。10橙 8砂粒多い。10黒色の砂粒多。全体にザラつく。	II-4 C D	
11~15	巾3~4mmの平行沈線を集合させ、横位、矢羽状、弧線状に施文した後、ボタン状、棒状の粘土を貼付している。ボタン状のものにはさらに13は円形、11、12、15は半截の竹管による刺突が加えられている。12は棒状の貼付にも平行沈線が施文されている。12、14、15口縁部、11、13口腹部。	無	11赤褐。12暗褐。13~15はよい橙。13砂粒多い。他は少ない。焼成は良くしっかりしている。	III-1 I	

8号住居址出土土器 (第10・11回 写真109)

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾6mmの半截竹管による平行沈線に同一原体の爪形文。	有	明黄褐。砂粒少。もろい。	II-3 A	
2~5	2はR L、L Rの羽状縄文。3、4は単節のR Lの斜行縄文。5はL Rの斜行縄文。4、5は磨減が著しい。	有	2黄褐。3、5褐。4橙。	II-4 C D	
6~13	半截竹管による平行沈線の数本単位で間隔をおいて施文される。原体内は3mm前後。8、10、11、13は地文に単節のR L、9は、無節のRを地文に持つが磨り消されている部分が多い。6は口縁部の破片で「く」状に屈曲する。他は胴部片。	無	6褐。7、9、13赤褐。8、10橙。11黄褐。12明褐。6は白色粒が多い。9~11は黒色粒多い。焼成は良。	III-1 E	
14~16	巾3~4mmの半截竹管を数本単位に施文している。口唇から口縁にかけて横位に矢羽状の沈線、口腹部は横位の沈線、胴部には縦位、弧状の沈線が施され、ボタン状、棒状の粘土を貼付している。	無	14、20明赤褐。15黄褐。22、23橙。16、18、19、21褐。 18~21は白色砂粒多い。焼成は全体に良。	III-1 I	8土坑内出土 18~21同一個体?
18~23	ボタン状の貼付には、円形、半截の竹管による刺突が加えられている。14~16は口縁~口腹部。18~23は胴部の破片。18~21では地文にR Lの斜行縄文が確認された。				
17・24	半截竹管による弧状の沈線を施文。17は巾2~3mmで口縁部破片口唇部には文様の施文はない。24は胴部下で底部に近くなる。巾4mmの平行沈線を弧状に施文した後、横位の沈線を施す。底部	無	17赤褐。24橙。24は砂粒多い。17焼成良。24はややザラつく。24内面黒色。	III-1 H	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
25・26 27	近くは無文帯になる。 R Lの単節斜行縄文。 無文。外面研磨痕有。	無	25黒褐。26赤褐。焼成良。 橙。砂粒多。ザラつく。	III-5 A III-5 C	内面黒色

9号住居址出土土器 (第13~16図 写真79・110)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4mmの半截竹管を2本1単位にして横位に施文している。その際、間の沈線を重ねて引いているため、3本の沈線に見える所がある。地文の縄文は単節のR Lで磨り消されている部分が多まらばである。胴部は全周しており、外反する。上径30cm、下径17cm、現高14.3cm。	無	にぶい橙。黒色砂粒。ややザラつく。	III-1 E	埋設土器 胴部全周
2	巾4~5mmの半截竹管を数本の単位で右から左に横位に間隔をあけて施文。地文の縄文はR Lの斜行縄文が施文されている。縄文の一部が消失している。胴部が膨らみ胴上部で外反する。上径21cm、下径14.8cm、現高11.3cm。	無	明赤褐。砂粒少。焼成良。	III-1 E	胴部全周 埋設土器
3	巾2~3mmの細い半(多)截の竹を束ね、壺状原体により横位に間隔をあけて施文している。原体の巾は15mm前後で2段に重ね25mm前後の沈線帯を作っている。施文順序は右から左へ横位の沈線を施文した後口縁へ続く斜位の弧線を施文している。地文にはR Lの縄文を持つが消失している部分が多い。器形は大きく外反する深鉢の胴部で、口縁部直下の部分であろう。口縁の成状部近くに文様が若干みられた。上径21cm、下径14.8cm、現高11.3cm。	無	灰褐。砂粒を含む。焼成良好。すこしザラつく。	III-1 E	覆土中より 出土 胴部
4	巾4mmの半截竹管による平行沈線を数本単位に間隔をあけて施文し、その後胴部文様帯に弧状「く」状の沈線を施文している。地文にR Lの斜行縄文。胴部に膨らみを持ちそこに文様帯を持つ。上径21.5cm、高径11.7cm、現高20.3cm。	無	黄橙。黒色砂粒多。焼成良くなくザラつく。	III-1 F	覆土中より 出土胴~底部
5	巾2mmの細い半截竹管を束ねた壺状原体により横位に間隔をあけて施文している。その後、胴一帯一部分の順に沈線を施文。原体の巾約15mm、地文にR Lの斜行縄文。上径14cm、高径14.4cm、現高11.4cm。	無	明褐。砂粒を含む。焼成良好。	III-1 H	覆土中より 出土胴下部 ~底部
6	巾3mmの半截竹管を2~3本単位にしたもので胴部の原木葉状の弧線を施文した後口縁と底部付近に横位の沈線を施す。口径15cm、底径7.5cm(推定)、現高13.3cm。	無	橙。白色砂粒多。焼成良好。	III-1 H	覆土中より 出土胴縁~ 底部
7	巾3~4mmの半截竹管により数本単位の平行沈線を間隔をあけて横位に施文した後文様帯に弧状、両巻状の文様を施文。地文に無節のL Rの斜行縄文。胴部に膨らみを持ち口縁に向かって外反する。上径19.1cm、下径12.4cm、現高19.1cm。	無	明赤褐。砂粒少。焼成良。	III-1 F	埋設土器 胴部全周
8・9 10 11~16	半截竹管による爪形文。文様帯下に縄文があるが磨滅が多く不明。沈線による菱形文。交点に円形の粘土が貼付。刺割が多い。 11~13単節のR L、L Rの弧状縄文。14無節のR Lの斜行縄文。16黄条斜縄文R<。15は口縁部、他は胴部。	多 少 有	8黄褐。9赤褐。もろい。 少 灰黄褐。砂粒多。焼成良。 11橙。12明赤褐。13黒褐。 14、15、16黄褐。15は焼成良く強い。	II-2 B II-3 B II-4 B	C D
17・18	口縁に巾5mmの半截竹管による押引文が3段に施文されその下に斜めに平行沈線が施文される。	無	17、18明褐。19黄橙。砂粒少。焼成良強い。	III-1 A	18、19は同一 体
20~22 24・25	巾2mmの細い半截竹管による平行沈線を数本単位に間隔をあけて横位に施文し、文様帯に両巻状の文様を施文している。21は口縁の波頭部、他は胴部に文様帯を持つ。地文に20は無節L R、他は単節R Lの斜行縄文を持つ。24、25は円形刺割が加えられる。	無	20黄橙。21赤褐。22橙。24橙。25橙。20、24、25は砂粒多しザラつく。	III-1 E F	
19・23 26~29	巾2mmの半截竹管を束ねたものによる平行沈線で、横、縦、弧線による縦の木葉状の順に文様を施文する。19以外は地文に単節R Lの斜行縄文が施文される。29は磨滅が多い。	無	19、23、26橙。27、28赤褐。29黄。27、28は白色の小礫が多い。29以外焼成良強い。	III-1 H	23、26は同一 体
30~34 36~52	巾のせまい半截竹管により間隔をあけて横位の平行沈線を施文している。半截竹管を壺状にしたもの30、31、41、45~48と、巾3mmの半截竹管を数本単位に施文しているもの、32、33、36、42~44、49~52などがある。地文の縄文は、30、32、38、40、45、49~51にあり単節R Lの斜行縄文であった。他の土器からは地文の縄文	無	30、34、36、47、49~51褐。31、40、45、48赤褐。32、38、39、44、52橙。33、41明褐。37、46黄褐。42灰褐。全体にザラつく物が多い。	III-1 F	31外面にス ス付着

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	織組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
35	は確認されなかった。 巾5mmの半截竹管による平行沈線を横位、鋸歯状に施文。地文にR.L.の単節斜行縄文有。	無	橙。砂粒多、ゼラつく。	Ⅲ-1 F	
53~67	縄文のみの土器。単節R.L.の斜行縄文57、61、63、65、67。無節R.L.の斜行縄文53、L.R.60、66。直前段反照りで2段の反照R.L.54、55、58、62。3段の反照56、59。	63有 他無	53、54、56、59、67橙。55、57、61黄橙。58、60、62褐。63明褐。64~66赤橙。	Ⅲ-5 A 63 Ⅱ-4 C	
68	巾の太い沈線で渦巻状に施文。地文単、節R.L.の斜行縄文。	無	橙。砂粒少、焼成長。	Ⅳ	
69	底部木葉痕。	無	橙。砂粒少、焼成長。	Ⅲ	

11号住居址出土土器 (第19~23図 写真79・80・110・111)

番号	文 様 の 観 察	織組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾5mmの半截竹管による平行沈線で口頸部に弧状に施文し、波頂部では、渦巻状の文様を施文している。地文は単節R.L.の斜行縄文。大形の口縁部破片。	無	黄橙。小礫を含む。焼成員く堅い。	Ⅲ-1 F	伊に使用された。
2	巾4mmの半截竹管により横位に間隔をあけて平行沈線を施す。胴部の文様帯には渦巻、弧状の沈線を施文している。地文は単節R.L.の斜行縄文。胴部に膨らみを持ち口縁に向かって外反する。	無	橙。小礫を含む。焼成員。	Ⅲ-1 F	3~5は埋設土器
3	巾4~5mmの半截竹管により横位に間隔をあけて施文。現高10cm	無	赤褐。砂粒。焼成員。	Ⅲ-1 E	胴部全周
4	巾5mmの半截竹管を横位に施文。地文は単節R.L.。現高10cm。	無	橙。砂粒多。焼成員。	Ⅲ-1 E	#
5	無節の良R.L.の斜行縄文。胴部に膨らみを持つ。現高15cm。	無	黄橙。黄色砂粒多。焼成員。	Ⅲ-5 A	
6	口縁直下に3~4cm間隔で孔を持ち、胴部の張り出し部に2個の孔を有する。外面は良く研磨されている。有孔残跡。	無	赤褐。小礫多。	Ⅲ-6	口縁~胴部迄
7~9	7は半截竹管による連続爪形文が口縁から垂下する。8、9は横位に平行沈線を施文し、その間を8は連続的に、9は間隔をあけて爪形文を施文している。	有	7橙。8、9明褐。7、8砂粒多。焼成員。	Ⅱ-3 A	
10~12	巾5mmの半截竹管による平行沈線が施文される。10~12は横位。	有	10、11明赤褐。12、15暗褐14褐。砂粒少。焼成員。	Ⅱ-3 B	
14・15	15は菱形に施文される。10~12口縁部。14、15口頸部。		13、16黄褐。焼成不。	Ⅱ-3 D	
13・16	半截竹管のヘラ状の原体で沈線を施文。16は地文に無節のR.L.。	有	黄橙。砂粒少。焼成員。	Ⅱ-3 D	
17	竹管の棒状の原体による列点文。	有	18灰黄。19、20、41明褐。21、23、27、32、38、39黄褐。22、26黒褐。24、40灰褐。25、28、35褐。29~31褐。32~47明褐。33、34黄橙。37赤褐。	Ⅱ-4 B C D E	
18~47	単節R.L.、L.R.の斜行縄文による羽状縄文18、19、26、32、33、40、41、47。無節のR.L.、L.R.の羽状縄文43。R.L.、L.R.の羽状縄文30。L.R.、R.L.の羽状縄文31。21は単節R.L.を向きを変えて施文した羽状縄文。無節L.R.22、23、27はL.R.を向きを変えて施文している。単節R.L.の斜行縄文は25、34、35。L.R.は20、24、28、29、44~46は無文不明。36、42は直前段合照りによる羽状縄文。37は標赤文。38は太きの異なる原体で単節R.L.、0段多条の単節R.L.、L.R.が施文される。44~47は底部破片で、44、45、47は若干上げ底となる。				
48・49	巾3mmの半截竹管を2~3本を単位に平行沈線を施文。横、縦、弧状線を施文。波頂部に凹凸を持つ。48は地文は単節L.R.、49はR.L.の斜行縄文。	無	褐。砂粒多。焼成員。	Ⅲ-1 F	
50~55	半截竹管による平行沈線を数本まとめたもので横位に間隔をあけて施文する。地文は51~55が単節R.L.の斜行縄文。51は波頂部に小突起が貼付される。	無	50明褐。51黄褐。52、53赤褐。54、55灰褐。	Ⅲ-1 E	
57	半截竹管を束ねた原体で弧状、渦巻状の沈線を施文。	無	黄橙。砂粒多。焼成員。	Ⅲ-1 F	
56・58	半截竹管を1~2本使用して平行沈線を施文したもので56、58、59、61、63、67~69、79、80と半截竹管を束ねた原体の原体により沈線を集合させた土器60、62、64、65、70~78。半截竹管の押し引きにより平行沈線に列点文が加わったもので66がある。いずれも横位に間隔をあけて施文し、文様帯部分に弧状、鋸歯状、渦巻状の文様を施文する。56、58、59、63は口頸部文様帯。69は口縁部文様帯。68、70は胴部文様帯。地文R.L.56、L.R.59、72、R.L.58、62~65、67、68、70、71、73~76、78、79、L.R.60、69で他は確認できなかった。	無	56、61、73、76、80褐。58、59、70、77、78褐。60黄褐。62、63、66、68、79黄橙。64灰黄。65、67、69、72、74、75赤褐。71黒褐。64暗灰黄。	Ⅲ-1 E F	
81~83	半截竹管を束ねた棒状の原体により集合沈線を施す。縦の木葉状の弧線、横位の矢羽状の文様を持つ。82はボタン状、棒状の貼	無	81橙。82明赤褐。83明褐。	Ⅲ-1 H I	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
84~92	付文を加える。81は地文にR Lの単節斜行縄文を持つ。 縄文のみの土器。84~89、91、92は単節R Lの斜行縄文。90は単節L Rの斜行縄文。	無	84褐・85~87橙・88、89、91、92赤褐。90灰褐。	Ⅲ-5 A	
93~95	無文底面。	無	93明褐色。94、95黄褐色。	Ⅲ-5 C	

14号住居址出土土器 (第24・25図 写真112)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	縄状の原体により口縁に垂下する刺突文。	有	明赤褐。砂粒少。焼成良。	Ⅱ-2 A	
2	巾3mmの半載竹管による平行沈線。小突起が貼付される。	有	黒褐。砂粒多。ザラつく。	Ⅱ-3 B	
3	異条斜縄文R<上>とL<下>の羽状縄文。	有	橙。砂粒多。ザラつく。	Ⅱ-4 B	
4	底面無文。上げ底。	無	有。砂粒少。ザラつく。	Ⅱ-4 E	
5~18	巾のせまい半載竹管を束ねた原体による集合沈線を横位、弧状、矢羽根状に施した土器。ボタン状、棒状の胎土が貼付される土器5~8がある。	有	5、7、9、16、18赤褐。6、8、10黄褐。11明褐。12、13、17褐。14、15橙。	Ⅲ-1 H I	
19~21	19単節R L。20、21単節L Rの斜行縄文。	無	19赤褐。20黄褐。21橙。	Ⅲ-5 A	
22	口縁直下に孔(焼成前)を持つ無文の有孔浅鉢。	無	黄褐。	Ⅲ-6	

15号住居址出土土器 (第27~30図 写真80・112)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4~5mmの半載竹管を束ねた原体で平行沈線を口縁から口縁部にかけて横位に施し、胴部は縦方向の矢羽根状、木葉状の弧線が交互に施されその間を縦位の沈線で区画している。口唇部は竹管状の原体により、凹凸の跡みがある。口縁から胴部にかけてボタン状、棒状の胎付文があり、ボタン状のものには、円形の刺突が加えられている。口径(推)48cm、現高20cm。	無	赤褐。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 I	口縁~胴部 4
2	巾3~4mmの半載竹管を束ねた原体で集合化させた平行沈線を施す。施文は縦区画した後、縦の木葉状の弧線、矢羽根状の沈線を施す。原体の巾は14mm程である。現高10cm、胴部下半でくびれを持つ。	無	橙。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 H	埋設土器 胴部4
3	巾2~3mmの半載竹管を束ねた原体で集合化させた平行沈線を施す。施文は木葉状の弧線を施し、その中で「8」字状の沈線を施している。原体の巾は、18mm程である。現高13.5cm、胴部下半でくびれる。	無	暗褐。砂粒多。焼成良。ややザラつく。	Ⅲ-1 H	埋設土器 胴部4
4	巾4mmの半載竹管による平行沈線内に連続爪形文を施文。	有	褐。石英粒。焼成良。	Ⅱ-2 B	
5	地文に半載竹管による平行沈線。細い粘土粒による浮線を弧状に貼付し半載竹管による刺突を加える。	無	橙。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-4 A	
6	縄状工具による刺突。	有	橙。砂粒多。焼成良。	Ⅱ-2 A	
7	巾7mmの半載竹管による平行沈線と、同じ原体による爪形文。	有	黄褐。砂粒少。焼成良。	Ⅱ-3 B	
8	巾6mmの半載竹管でヘラ状の工具で沈線を施文する。地文は単節R Lの斜行縄文。	有	明赤褐。砂粒少。焼成良。	Ⅱ-3 B	
9~16	縄文土器を一括した。単節R LとL Rによる羽状縄文で菱形を作る土器10~13。無節のL R 9。単節R Lの斜行縄文15、16。太さの違う無節R L、L Rの原体の束の縄文14、16は底面上げ底。	有	9、13、14、16橙。10~12褐。15赤褐。	Ⅲ-4 C D	
17~29	半載竹管を束ねた原体で集合化させた平行沈線を間隔をあけて、横位に施文している。竹管の巾が2~3mmの土器18、19、22、23、25、26。3~5mmの土器17、20、21、24、27~29。24は沈線を集合化させず半載竹管を2本横位に施文している。地文に単節R Lを持つ土器18、20~22、24~26。他は確認できなかった。19は口縁部に竹管状の原体で刻まれた凹凸がある。	無	17、26、27褐。18、28、29橙。19灰褐。20~23黄褐。24、25明赤褐。全体に焼成は良い。22、26小磯が多い。	Ⅲ-1 E	
30~55	半載竹管を束ねた原体で集合化させた平行沈線を施文する。口縁から胴部では横位に施文されるが、矢羽根状に施文される土器34、38もある。胴部は、縦位の沈線で文様帯を区画した後、縦の木葉状弧線、矢羽根状線によって文様帯内が充填される。40、53、54は胴部に横位の矢羽根状線が施文される。54は半載竹管を数回通	無	30、33~35、37、38、43、45、46、52~54褐。31赤褐。41、42、47、51明赤褐。39黄褐。48~50、55黄褐。32、36、44褐。40明褐。30砂粒	Ⅲ-1 H I	43胴部全周 55底面完

第I章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
56~59	絶して施文し集合沈線状にしている。30~44はボタン状、棒状の粘土を貼付している。34、35、46は口唇部に竹管による刻みがある。地文に単節R.Lの斜行縄文を持つ土器35がある。	無	多くザラつく。他は全体に焼成は良。	III-1 H	
60~71	巾4mmの半截竹管を原体として平行沈線を施文する。56は弧状、57~59は格子目状に沈線を施文する。	無	56~59褐。57、59は砂粒多。	III-1 H	
74・75	単節R.Lの斜行縄文60~63、65~67、70、71、75。単節L.Rの斜行縄文68、69、64ははっきりしないが直前段合然R.L<と考えると。74は磨滅が多くはっきりしない。60~64は、口縁に粘土紐が貼付される。61、63、65、74は口縁に刻みが付けられる。	無	60、65、67、69、70、71、74、75褐。61~63赤褐。64暗褐。66明赤褐。68褐。	60~64・65 III-1 J 他 III-5 A	
72	浮線に刻みが付けられる。地文に単節R.L斜行縄文。	無	黄橙。ザラつく。	III-1 D	
73	口縁に2段の凹凸文が施文される。	無	褐。焼成良。	III-2 A	
77	半截竹管を束ねた原体による集合沈線で横位、弧状の沈線が施文される。口唇には、凹凸文が施文される。	無	灰褐。	III-1 H	
76	巾4mmの沈線が施される。突起有。	無	粗。		
78	無文の有孔浅鉢。頸部に孔を有する。口径27.7cm、最大径38cm。	無	明赤褐。焼成良。	III-6	

16号住居址出土土器 (第33・34図 写真111)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	棒状工具による刺突が施文される。	有	粗。小窪含む。焼成良。	II-2 A	
2	口縁に巾2.5cmの縄文帯があり、それ以下を巾6mmの平行沈線内に爪形文が施文される。縄文は単節R.Lの斜行縄文。	有	明赤褐。砂粒少。焼成良。	II-2 B	
3	半截竹管による爪形文。頸部を握り起こすような感じで施文している。地文は単節R.Lの斜行縄文。	多	灰褐。砂粒少。焼成良。	II-2 B	
4	巾5mmの半截竹管による平行沈線。単節R.Lの斜行縄文。	多	褐。砂粒少。ザラつく。	II-2 C	
5~16	単節斜行縄文R.L 8、9、L R 7。単節R.L、L.Rの羽状縄文5、10~13。無節のL.Rを横位、縦位に施文6。異条斜縄文L<付。	有	5、6、9、12褐。7、8赤褐。10、11、13~16位。	II-2 C II-4 B C・D	
17	巾4mmの半截竹管を原体にした平行沈線で文様帯を縦区画し、斜位の沈線で矢羽根状の文様を作る。口縁部にボタン状、棒状の粘土が貼付される。	無	明赤褐。砂粒多。焼成良。	III-1 I	
18・19	巾3~4mmの半截竹管を束ねた原体で集合沈線を施文している。	無	18、21、23、28、29明赤褐	III-1 H	
21~24	口縁部と23、24の底部は横位の沈線で、胴部は縦位の沈線、縦方向の木葉状、矢羽根状の沈線が施文される。24は底部の横位の沈線がなく胴部の文様がそのまま続く。無文期序は、口縁部横位の沈線、胴部文様を区画する縦位の沈線、矢羽根状、弧状の沈線、底部の横位の沈線となる。22は地文に無節L.Rの斜行縄文がある。	無	19、22黄褐。24褐。	I	
28・29	18、19、21、23、28、29はボタン状、棒状の粘土が貼付される。				
20	巾4mmの半截竹管により横位の沈線間に横方向の矢羽根状の沈線を施文する。棒状の粘土紐が貼付される。	無	明赤褐。砂粒多。焼成良。	III-1 I	
25・26	浮線を横位に貼付し刻みを加える。	無	少しザラつく。		
27	浮線を弧状に貼付し、半截竹管で爪形文を施文する暗褐色縄文。地文に横位の沈線がある。	無	明赤褐。砂粒少。焼成良。	III-1 D	
		無	黄橙。砂粒多。ザラつく。	III-4 A	

17号住居址出土土器 (第35・36図 写真80・113)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	棒状工具による刺突文。	有	暗褐。砂粒少。焼成良。	II-2 A	
2・3	巾5mmの半截竹管による連続爪形文。	有	2粗。3赤褐。砂粒多。	II-2 B	
4~8	単節R.Lの斜行縄文5、8。単節L.L、L.Rの羽状縄文4、7。異条斜縄文R<付6。	有	4、5褐。6、7褐。8明褐。	II-4 B C D	
9・10	巾3mmの半截竹管による平行沈線を横位に数本単位で施文している。13は底部近くの破片で無文帯を持つ。	無	9明赤褐。10、13明褐。	III-1 E	
11・12	半截竹管を束ねた原体により集合沈線を施文する。口縁部には横位矢羽根状の沈線17、胴部では、縦矢羽根状、弧状の沈線が施文さ	無	11、12、25褐。14灰褐。15、26黄褐。17黄橙。18暗褐。	III-1 H I	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
21・22 25・26	れる。底部では横位の沈線が施文される。17は口唇に竹管による凹凸文がある。17-19、21、22、25、26はボタン状、棒状の粘土が貼付されボタン状の貼付にはさらに半載、円形の竹管による刺突が施文される。15では地文に縄文が施文されるが、磨りははっきりしない。26底径14.8cm、25底径(推)7.5cm。	無	19、22褐。21明褐。16にぶい黄褐。		
20	単節L Rの斜行縄文、土製円盤。	多	赤褐。ザラつく。	II-4 C	
23	単節R Lの斜行縄文。	無	橙。ザラつく。	III-5 A	
24	無文。底径(推)11cm。	無	明赤褐。焼成良。	III-5 C	

53号住居址出土土器(第38・39図 写真80・113)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾2mmの半載竹管を3〜4本束ねたもので、平行沈線を間隔をあけて横位に施文する。文様帯は胴部の膨らみ部にあり、同じ底面に渦巻、弧線状の沈線で4単位の文様を構成する。地文には、L Rの単節斜行縄文が施文される。胴部文様帯で膨らみ、胴上部でくびれ外反する口縁に磨形と考えられる。土器上端径19.6cm 底径10.5cm、現高21.3cm。	無	ぶい黄褐。砂粒多い。焼成良好。内面磨かれている	III-1 F	埋設土器 胴部全周
2	無文。高台のついた浅鉢。推定口径34cm、現高13.2cm。	有	ぶい橙。砂粒多。焼成良	II-4 E	胴部残存
3・4	巾5mmの半載竹管による爪形文。3は爪形文が円を推く。4、6は横位に施文され地文に、R L、L Rの単節斜行縄文がある。	有	黄褐。いずれも砂粒少。焼成良。	II-2 B	
5	4本単位の棒状工具による横位の沈線。棒状工具の刺突がある。	有	黄褐。砂粒少。	II-2 D	
7〜10	縄文のみの土器。7はR L、L Rの単節斜行縄文による羽状縄文。8は太さの異なる1段の縄を合せて2段の単節斜行縄文を作り羽状縄文にしている。9は単節R Lに無節の縄を1本附加した附加条1種。10は軸の縄L Rに反対方向に巻いた附加条2種。	有	7暗褐。8黒褐。9黄。10明褐。	II-4 B D	
11	竹管束ねた棒状の工具により沈線を集合化したもので、口縁の波頂部に渦巻きの文様を構成する。原体の巾は10mm程。地文にR Lの単節斜行縄文がある。	無	ぶい黄褐。砂粒多。焼成良。	III-1 F	
13・24	半載竹管を2〜3本束ねた工具により平行沈線を集合化させ、口縁部に弧線、斜線で、縦の木葉状の文様を構成する。13は口縁に透かしがあり、地文にR Lの単節斜行縄文を持つ。	無	ぶい橙。砂粒少。焼成良 24はザラつく。	III-1 H	
12・14 〜23	巾2〜4mmの半載竹管を数本単位に束ね、間隔をあけて、横位に平行沈線を施文する。16、21、23は弧状、渦巻状、斜線などの文様を持つ。19は口縁下に横矢羽形の文様を作る。地文はR Lの単節斜行縄文が、14、16、22、23にありL Rの単節斜行縄文が18、20、L Rの無節斜行縄文が17にある。	無	12黄褐。14褐。15、18、20〜23橙。16、19、25、26赤褐。17暗褐。18、21は黒雲母多い。	III-1 E F	
25・26	平行沈線。25底径7.4cm、26底径8.0cm。			III-1 E	
27・28	R Lの単節斜行縄文。	無	27橙。28明赤褐。砂粒少。	III-5 A	

63号住居址出土土器(第41〜43図 写真80・113・114)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1・21	口縁に直交する文様と、平行する文様が、棒状の工具による刺突によって構成され、それ以下に爪形文が施文される。	有	橙。小塵を含む。焼成良。	II-1 D	同一個体
2・4 5・51	巾5mm程の半載竹管により、押しきの爪形文が施文されている。	有	2、5暗赤褐。4明黄褐。全体に小塵を含む。51橙。	II-2 B	
3	巾5mm程の半載竹管により、平行沈線が横位、菱形などに施文される。	有	6、7、12、13褐。3赤褐19橙。24灰褐。11に白い焼	II-2 C	
6・7 11〜13 19・24	れる。3は口唇に凹凸がある。6は口唇に爪形文が施文される。				
9	半載竹管による平行沈線爪形文が施文される。地文には、網状赤文がある。	有	黒褐。砂粒少。焼成良。	II-3 A	
14・15	半載竹管による平行沈線爪形文が施文される。下部には、14は0段多承りの単節R Lと、2承りのL Rにより羽状縄文が構成される。15は単節R LにRを2本附加した附加条1種。	有	14褐。15赤褐。14は砂粒多くザラつく。砂粒少なくしっとりしている。	II-3 A	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
8・10	半截竹管を一方を支点にして交互に施文するコンパス文。19、17	有	16焼、17黄焼。18焼。8に	II-3 E	
16~18	丸棒状の工具による刺突が加えられる。		ぶい黄焼。10にぶい黄焼。	II-4 B	
20	単軸絡糸体6類Aに近い燃承文。	有	焼。砂粒少。	II-4 B	
22・23	棒状の工具で横位の沈線がある。	有	22にぶい黄焼。23にぶい焼	II-3 F	
25~50	縄文のみの土器を一括した。単節R Lの斜行縄文31, 34, 35。L R	有	25, 26, 33~35, 37, 40,	II-4 B	
52~58	の斜行縄文36~39, 55, 58。単節R L、L Rの羽状縄文25~27、	有	44, 46, 53焼。27, 30, 32,	C	
	41, 42, 44, 45, 47~50, 52, 57。附加条第1種で単節R LにR #	有	47, 48, 57赤焼。28, 42,	D	
	を1本附加29, 30, 33。L RにL rを1本附加32, 54。上記の附加		49, 50, 52黄焼。29, 39灰		
	加条で羽状をなすもの40, 53, 56。附加条第2種でL RにR #が		焼。31, 36, 38, 41, 43,		
	附加されている28。単節L Rと無節R #の羽状縄文43。無節46		45, 54~56, 58焼。		
85	有孔浅鉢。無文。口唇直下に径8mmの穿孔。口径23.5cm。	無	ぶい赤焼。	III-6	
59	無文上げ底の底部片。	無	黄焼。	II-4 E	
60・61	半截竹管による平行沈線で口縁波部部によって文様を作る。	無	灰焼。砂粒少。焼成良。	III-1 H	
62~66	半截竹管を数本束ねた原体により間隔をあけて横位に平行沈線が	無	63, 65, 66明赤焼。64明黄	III-1 E	
	施文される。62, 64, 65は地文にR Lの単節斜行縄文を持つ。66		焼。62灰焼。		
	は横位の矢羽根状の文様を持つ。				
67	半截竹管による平行沈線と円形の刺突文を持つ。	無	明赤焼。	III-1 B	
68	巾5mmの半截竹管による平行沈線。	無	ぶい焼。	III-1 F	
69~71	巾2~3mmの半截竹管を束ねたもので間隔をあけて横位に施文。	無	69, 70焼。71赤焼。	III-1 E	
72~83	縄文のみの土器。単節R Lの斜行縄文73, 74, 76~82。L R 72、	無	72, 78, 79, 81赤焼。73,	III-5 A	
	75, 83。		76, 77, 82, 83焼。他焼。		
84	単節R Lの斜行縄文。土製円盤。	無	明赤焼。		

64号住居址出土土器 (第46~50図 写真80・81・114)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単節R LとL Rによる羽状縄文により変形を構成する。現高30cm	有	暗赤焼。砂粒少。焼成良。	II-4 D	
	口径28.4cm。				
2	黄赤斜縄文R[#]の縄と単節L Rによって羽状縄文により変形を	有	焼。砂粒多。ザラつく。	II-4 B	
	構成する。現高20cm。推定口径21cm。				
3	単節のR L、L RにそれぞれR #、L rを附加させた附加条1種	有	赤焼。砂粒少。ザラつく。	II-4 B	
	により羽状縄文で変形を構成する。現高24cm。胴部径33.2cm。				
4	巾6mmの半截竹管による平行沈線が口縁部に横位に施文される。	有	暗焼。砂粒少。焼成良。	II-3 B	
	胴部には、R L、L R縄文により変形が構成される。口径29cm。				
5	0段多承による単節のR Lと、0段2条のL Rによる羽状縄文で	有	ぶい焼。砂粒多。もうく	II-4 D	
	変形を構成する。		ザラつく。		
6	無節のR #、L rにより羽状縄文を変形に施文する。現高20cm。	有	ぶい焼。砂粒少。焼成良	II-4 D	
	推定口径37cm。				
7	単節R L、L RにそれぞれR #、L rを附加させた附加条1種に	有	暗赤焼。砂粒多。もうくザ	II-4 B	
	より羽状縄文で変形を構成する。		ラつく。		
8	半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	暗焼。白色粒少。焼成良。	II-3 A	
9	半截竹管による平行沈線。地文に単節R Lの斜行縄文。	有	焼。砂粒少。焼成良。	II-3 B	
10~11	半截竹管による平行沈線とコンパス文。14は押し引きの刺突が加え	有	10, 11赤焼。14, 16焼, 15	II-3 E	
14~16	られる。		灰焼。		
12・13	巾の狭い半截竹管を束ねた原体により横位の沈線が施文される。	有	12黒焼。13焼。	II-3 B	
	巾5mmの半截竹管による平行沈線。	有	21にぶい焼。	II-3 B	
18・20	半截竹管の押し引きによる刺突。	有	18焼。20焼。	II-3 A	
19	コンパス文。	有	ぶい焼。	II-3 E	
21~24	巾6mmの半截竹管の平行沈線。爪形文。21では胴下半に単節L R、	有	22~24, 26, 27焼。21明赤	II-2 B	
26・27	26はR Lの縄文がある。22は若干爪形文がコンパス文に近く交互		焼。		
	にずらして施文されている。				
25・28	細い半截竹管を束ねて沈線を集合化させている。間隔をあけて施	有	25灰焼。28にぶい焼。	II-3 B	
	文し、無文帯を持つ。				
29~80	単節R Lの斜行縄文-40, 42, 66, 78, 79, L R-34, 39, 41、	有	29, 60黄焼。40暗焼。30,	II-4 B	
	43, 55, 58~60, 76, 80, R L、L Rの羽状縄文-33, 37, 45、		35, 39, 42, 48, 51, 64,	C	
	47, 52, 57, 61, 63, 67~69, 72。附加条第1種R L+R #とL		65, 68, 71, 73, 77焼, 33,	D	
	R+L rの羽状縄文-31, 32, 35, 51, 53, 54, 62, 64, 74。R		45, 47, 55, 72, 78黄焼。		
	L+L r、L R+R #の羽状縄文-38, 73, 77。R L+R #とL		31, 34, 43, 50, 52, 57,		

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文 様 の 概 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
	R-48, 49, 71, R L + L r-44, 附加糸2種 L R + R r-46, 原糸斜縄文 R <上> + L r-65, 70, 単節 L R の結束2種-36, 無節 R r, L r の羽状縄文-50, 75, L r-56, R r-29, 単軸結束体5類 (朝日状断糸文)-30		61, 66, 67, 70, 80橙。32, 37, 53, 62, 63, 69, 76, 79赤褐。36, 44黒褐。38, 41, 56暗赤褐。46, 49, 58灰褐。54, 59, 74明赤褐。75灰黄褐。		
82	半截竹管による平行沈線文。	無	明赤褐。	III-1 E	
83~84	単節 R L の斜行縄文。	無	81, 84橙。83灰褐。	III-5 A	
85・86	土製円盤。単節 R L の斜行縄文。	無	85橙。86にぶい褐。		

65号住居出土土器 (第53~55図 写真81・115)

番号	文 様 の 概 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾2~3mmの半截竹管を数本束ねた原形で、矢羽根状、縦の木葉状の曲線を施し、縦区画の沈線を施文している。地文に R L の単節斜行縄文がある。上端径18.6cm, 下端径9.8cm, 現高23.0cm, 巾3mmの竹管による横位の平行沈線。現高16.7cm, 底径11.2cm。	無	明赤褐。砂粒少。焼成良。	III-1 H	埋設土器 胴部全周
2	巾3mmの竹管による横位の平行沈線。現高16.7cm, 底径11.2cm。	無	にぶい橙。焼成良。	III-1 E	スス付着
3	櫛状工具による刻文。	有	にぶい褐。	II-2 A	
4・5	半截竹管による爪形文。	有	4赤褐。5黒。	II-2 B	
6	紐紐を地文とする。9は半截竹管による平行沈線。10はコンパス文。	有	にぶい褐。9, 10にぶい赤褐。11橙。	II-1	
9~11	無文。表面ナデられている。	有	明赤褐。	II-4 E	
8	12, 13 凸帯を持つ L r の縄文。8, 14, 15, 16, 20, 21 L R の単節斜行縄文。18, 19, 22単節 L R, R L の羽状縄文。17, R L L R に1本縄を附加させ、附加糸第1種にした原体により羽状縄文にしている。	有	8, 21にぶい褐。11, 12, 16, 17, 18, 20橙。13, 14にぶい橙。15にぶい赤褐。19, 22明赤褐。	II-3 C 他 II-4	
23	有孔残鉢口縁部。口縁直下に10×8mmの孔が1cm間隔であけられる。孔の上下には、刻みが施文される。	無	明褐。金雲母。砂粒多。焼成良。	III-6	
24~26	浮線が貼付される。24, 26は浮線に刻みがあり、隣接する浮線と方向を違えて矢羽根状にしている。地文にいずれも R L の単節斜行縄文が施文される。25はさらに浮線文にも縄文を施文。	無	24灰黄褐。25明褐。26黄橙。	III-1 D	
27~34	半截竹管による横位の平行沈線を施文する。半截竹管を単独で使用したものと、数本束ねて集合沈線化したものがある。地文の縄文は R L の単節斜行縄文。	無	27暗褐。28, 32にぶい橙。29, 33明赤褐。30, 34橙。無暗赤褐31。	III-1 E	
35~48	半截竹管を束ねた集合沈線で横位。縦位の沈線で文様帯が区画され矢羽根状、縦木葉状の文様が施文される。地文は38が L R, 40, 42~46が R L の単節斜行縄文。36は1本の半截竹管による平行沈線で格子状の文様が施文される。37は把手。35, 36は棒状の粘土紐が貼付される。38は、口唇部に刻み目が付けられる。43, 44の施文順序は、縦の矢羽根-縦沈線-文様帯内の曲線-横沈線。	無	35黒。36暗褐。37, 39, 47にぶい赤褐。38, 40, 42にぶい黄橙。41明赤褐。43, 44, 46橙。45にぶい橙。48暗赤褐。	III-1 H I	
50~52	50, 51は L R, 52は R L の単節斜行縄文。	無	50橙。51極暗褐。52灰黄橙。	III-5 A	
49	R L の斜行縄文で、口唇部に凹凸文が付けられる。	無	橙。	III-2 A	
53~55	口唇と口縁に凹凸文が施文される。53, 54は平行沈線が施文され54は裏面に R L の縄文が施文される。55は口縁に3段に数段凹凸文が施文される。	無	53橙。54黒褐。55にぶい褐。	III-2 A	
56	棒状の原体による押し引きの沈線。	無	にぶい黄橙。	III-1 E	
57~59	57 R r, L r の羽状縄文。58, 59は L R の単節斜行縄文。	無	57, 58橙。59明赤褐。	III-5	

66号 a・b住居出土土器 (第58~65図 写真81・82・115~117)

番号	文 様 の 概 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾3mmの半截竹管を束ねた集合沈線で口唇部は横の矢羽根状沈線。口唇部と底部付近は横位の平行沈線を施し胴部文様帯を区画する。胴部文様帯は縦の沈線と、矢羽根状沈線で縦の区画をし、木葉状文を充填する。口縁に粘土が貼付される。現高20、口径28cm。	無	橙。一部黒斑あり。砂粒を含む。焼成良好。	III-1 I	口縁・胴部 片残存

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	組織	粘土・焼成・色調	分 類	備 考
2	巾2mmの半載竹管を数本束ねた集合沈線で口頸部は横位の沈線と矢羽根状の沈線が施文され、胴部には、文様帯を区画する縦の沈線、木葉状の曲線、矢羽根状の沈線が施文される。地文にはR.Lの単節斜行縄文が施文される。口縁には凹凸文が付けられ、口頸部の矢羽根状の文様には、2段に粘土が貼付される。口径26cm、現高15cm。	無	灰褐色。砂粒少。焼成良く堅い。	III-2 A	片残存
3	巾5mmの半載竹管を2本単位に間隔をあけて横位に施文。胴上部に弧状の沈線を施文して文様を作る。最大径20cm、現高10.7cm。	無	にぶい橙。黒帯母含む。焼成良く若干ザラつく。	III-1 F	
4	巾3～4mmの半載竹管を横位に施文する。口縁に4単位で粘土紐が貼付されこの部分で「く」字状に屈曲する。他の部分では、くびれを持って外反する。推定口径37.6cm、現高12cm。	無	赤褐色。砂粒多。ザラつきが多い。	III-1 G	
5	巾3mmの半載竹管を数本束ねた原体により、縦、横の矢羽根状の沈線を施文している。現高15cm。最大径14cm。	無	にぶい黄褐色。砂粒。焼成良好。	III-1 H	
6	単節R.Lの斜行縄文。胴部下半に膨らみを持つ。最大径22.6cm、現高14.5cm。	無	橙。砂粒を含む。ザラつく。	III-5 A	埋設土器
7	巾5mmの平行沈線を間隔をあけて施文。地文にR.Lの縄文を施す。現高12.3cm、最大径20.3cm。	無	にぶい赤褐色。砂粒少。焼成良くザラつかない。	III-1 E	
8	有孔浅鉢胴部。最大径30cm、現高7.9cm。	無	にぶい橙。砂粒多。焼成良好。	III-6	
9	有孔浅鉢底部。最大径26.8cm、現高9.8cm。	無	にぶい赤褐色。砂粒少焼成良好。	III-6	
10	半載竹管による平行沈線後爪形文。	有	にぶい黄褐色。	II-2 B	
11	半載竹管を直角に近い角度で施文。地文はR.L、L.Rの羽状縄文。	有	#	II-3 A	
12～24	縄文のみの土器。単節R.L-14。単節L.R-13、20～22。L.R、R.Lの羽状縄文-12、15～19、22。附加糸1種R.L+とL.Rの羽状縄文-24。	有	12～15、19、21、22にぶい褐色。16黒、17、18褐色、20灰褐色。23、24にぶい橙。	II-4 B C D	
25～30	口頸部に付く把手。巾1～2mmの半載竹管を束ねたもので沈線を全面に施文。矢羽根状の文様を構成するものもある。	無	25にぶい橙。26灰褐色。27灰黄褐色。28、29暗褐色。30暗褐色。	III-1 G	
31～52	半載竹管による平行沈線の土器を一括した。巾5～6mmの竹管を1本～2本単位で間隔をあけて施文する土器-31、32、34、43～46、48～52。巾の狭い半載竹管（2～3mm）を数本束ねた形状の原体で沈線を施文-33、36～38、42、47。巾5mmの半載竹管により平行沈線を連続して施文-35、39～41。地文に単節R.Lの斜行縄文-32、34、43～49、51、52。L.R-51。37は胴部曲部に竹管による円形の刺突がある。	無	31、32、36、38、43、48、52褐色。33にぶい黄褐色。34にぶい黄褐色。35にぶい橙。37、51褐色。39、40、47、50にぶい赤褐色。41、45、46、49明赤褐色。42灰褐色。44暗赤褐色。	III-1 E F	
53～61	巾5mmの半載竹管を1～2本で横位に施文し、文様帯では、弧線渦巻状に平行沈線で文様を作る。55は巾2mmの半載竹管を数本束ねた原体で集合沈線を作り文様を施文する。地文には、55を除き縄文が施文される。縄文原体は、57は不明であるが他は、単節R.Lの斜行縄文である。	無	53明黄褐色。54灰黄褐色。55にぶい黄褐色。56、57灰褐色。58、60褐色。59褐色。61黄褐色。	III-1 F	
62	低い浮線文が横位に施文される。浮線にははけ目が付けられる。縄文は認められない。	無	橙。	III-1 D	
63～77	巾2mm程度の細い半載竹管を数本束ねた原体で集合沈線により、矢羽根状や、横位の沈線を施文する。原体の巾は65、67などで2.5cm位である。沈線を施文後鉢状、ボタン状の粘土を貼付している69は地の土器に比べ平行沈線の巾が広く、5mm程度の半載竹管を連続して施文している。	無	63、72褐色。64、77にぶい黄褐色。65灰褐色。66灰黄褐色。67暗褐色。68、69、71、75褐色。70、73、74にぶい黄褐色。75にぶい黄褐色。	III-1 I	
78～84	巾2mm程度の細い半載竹管を数本束ねた原体で、横位、弧状、矢羽根状、格子目状の沈線を施文する。原体の巾は82で1.3cm程度である。85、94、96などは竹管の巾が若干広くなっている。地文に縄文を持つものがある。単節R.Lの土器は80～82、85～87、89、90、99、100などである。L.Rは認められなかった。	無	78、81、82黄褐色。79、89、90、94灰黄褐色。80、84、85、87、95～97暗赤褐色。83、86、88、91、93、99、100褐色。92明褐色。101灰赤。	III-1 H	
85～103	巾2～5mmの半載竹管により横位の沈線を胴部に間隔をあけて施文し、その間を斜位の沈線で矢羽根状の文様を施文する。103と109は地文に単節R.Lの縄文を持つ。	無	102～108、110にぶい赤褐色。109、111暗褐色。	III-1 G	
104～106	巾3mmの半載竹管を2本単位で、弧状の沈線により文様を構成する。地文はない。	無	112～114にぶい赤褐色。	III-1 H	
107～121	口頸部に凹凸文を持つ土器を一括した。115～120は巾3mmの半載竹管による平行沈線を連続して横位に施文している。121は集合沈線で矢羽根状に施文。122はR.Lの単節斜行縄文。121は口縁に2段、他は1段の凹凸文が施文される。115、122は粘土が貼付される。	無	115、116にぶい赤褐色。117、119、120にぶい黄褐色。118、121、122暗褐色。	III-2 A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
125~141	縄文の土器をまとめた。単節RLの斜行縄文-123, 127, 129, 133~136, 138, 143, LR-124~126, 128, 130~132, 139~141, RL, LRの羽状縄文-137, 無節のLR-142, 123~127は棒状もしくはボタン状の粘土が口縁に貼付される。123は口唇に刻みが付けられる。	無	123~125, 127~129, 135, 136, 138~140, 143暗赤褐, 126, 130, 142暗褐, 131~134, 137褐, 141 灰褐。	123~127 II-3 J 128~143 III-5	
141~148	無文の有孔浅鉢。	無	144, 148灰褐, 145にぶい橙, 146, 147にぶい赤褐。	III-6	144・145は同一個体
149	土製品。巾3mmの半截竹管による平行沈線が施文されている。	無	無		
150	土製円盤。底面の周辺を打ち欠いて利用している。	無	無		
151~163	底部を一括した。縄文RL-153, 154, 162, 平行沈線を横位に施文し無文帯を持つ-155~161, 縦木葉状の文様を持つ-163。	無	151灰褐, 152浅黄褐, 153~156, 161褐, 157, 158, 162暗赤褐, 159褐, 160, 163 黄褐。	III-1 E H III-5	

67号住居址出土土器 (第73~75図 写真82・117)

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単節のRLとLRによる羽状縄文で、菱形を構成する。推定口径20cm, 底径9.6cm, 現高24.5cm, 屈曲がなく直線的に開く。内面に黒色の煤付着する。	有	明褐, 砂粒, 石英を多く含むザラつく。	II-4 D	片残存
2	RL, LRの羽状縄文により菱形を構成する。推定口径29.6cm 現高30cm, 胴上部にくびれを持つ。	有	にぶい褐, 砂粒を多く含むザラつく。	II-4 D	片残存
3	RL, LRの羽状縄文により菱形を構成する。最大径24cm, 現高18cm。	有	にぶい黄褐, 砂粒多くザラつく。	II-4 D	片残存
4	RL, LRの羽状縄文により菱形を構成する。底径10cm, 現高7.9cm, 若干上げ底になっている。	有	橙, 2~3mmの砂粒を多く含む。	II-4 D	底部完
5	RLにRを, LRにLを附加させた附加条1種の縄文で羽状縄文を施文し、菱形を構成する。底径9.6cm, 現高15.0cm。	有	にぶい褐, 2~3mmの小粒を含むザラつく。	II-4 B	底部完
6	巾6mmの半截竹管による平行沈線と、押しきの爪形文により、菱形を構成する。推定口径37cm, 現高14cm。	有	にぶい橙, 砂粒少なく、焼成良。	II-2 B	口縁部片残存
7	口縁に垂直に彎曲状の刺突を持ち、巾4mmの半截竹管により平行沈線を引き爪形文を施文する。	有	褐灰。	II-2 D	
8・21	巾5mmの半截竹管で菱形に平行沈線を施文し、その中を彎面による刺突が行なわれる。21は胴下部に単節RLの縄文が施文される。	多	8, 21にぶい褐。	II-2 D	
9~13	巾3~6mmの半截竹管による平行沈線と爪形文が施文され、菱形や山形のモチーフが作られる。9, 10は口縁上部に単節LRの縄文が施文される。	有	9, 10, 17, 19, 21, 22褐, 11, 13, 18橙, 12灰褐, 10 暗褐, 15, 16暗赤褐。	II-2 B	
15~18	巾4mmの半截竹管による平行沈線爪形文。	有	にぶい褐。	II-2 B	
19・20	巾5mmの半截竹管による平行沈線。横位、斜位に施文され菱形文を呈する。	有	14, 20, 27にぶい赤褐, 19 にぶい褐。	II-2 C	
22	巾5mmの半截竹管によるコンパス文。	有	にぶい褐。	II-3 E	
28・29	胴上部のくびれ部分の破片。口縁部文様帯と区画する爪形文が施文される。文様帯より下では、28, 29は単節RLとLRの羽状縄文。31は磨滅が多くはっきりしないがLRと思われる。	有	28, 29にぶい赤褐, 31にぶい褐。	II-2 B	
30・32	単節RLの斜行縄文-39, 41, 43, 55, LR-34, 40, RL+LRの羽状縄文-32, 33, 36, 37, 49, 附加条1種RL+R-48, 32, 同RL+L+RとRLの羽状縄文-30, 38, 47, 附加条3種RL+R, R+R-44, 直前段反戻R R-51, 前々段反戻-35, 50, 無節R-42, 磨滅が多く不明-53, 54。	有	30, 32~35, 42, 43, 45, 46, 49橙, 36~39浅黄褐, 40, 44, 53暗赤褐, 41灰褐, 47, 48, 50~52, 54, 55褐。	II-4 B C D	

68号住居址出土土器 (第79~81図 写真82・117・118)

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3mmの半截竹管による平行沈線を横位に連続して施文し、胴部に無文帯、文様帯を区画する。文様帯は口縁のくびれ部に粘土を貼付した後これを中心に文様を作る。また胴部にも横矢羽模様の	無	にぶい赤褐, 細かい砂粒を少量含む。焼成は良いが若干ザラつく。	III-1 F	埋没土器

第I章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	編 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
2	文様や、弧線状の文様が施文される。縄文は、確認されなかった。 有孔浅鉢底部。内外面とも良く磨かれている。内面は一部剝離している部分がある。最大径46.4cm、現高11.2cm。	無	明赤褐色。金雲母を含む。焼成良。	III-6	
3~6	巾5mmの半載竹管による爪形文。3は平行沈線を施文後急角度で爪形文を施文。他は押し引きによる4、5は単節R Lの斜行縄文が地文にある。	有	3~5明赤褐色。6褐色。	II-3 A	
7~23	縄文のみの上器。単節R L-20, L R-19, 22, 23, R L, L Rの羽状縄文-21。単節R L-10, 11, 13, L R-9。R L, L Rの羽状縄文-8, 12, 14。附加糸1種R L+R, L R+Lの羽状縄文-15~18。同2本附加L R+L-7。	有	7, 8, 20浅黄褐色。9, 10, 12, 18, 23暗赤褐色。11, 15, C 19褐色。13, 14, 16, 17, 22 灰褐色。21黄褐色。	II-4 B D	
24~30	巾2~4mmの半載竹管による平行沈線を横位に施文。口縁波頂部にくびれを持ち胎土が貼付され、菱形や、山形に沈線が施文される。縄文は確認されない。	無	24~27, 29, 30にぶい赤褐色。28褐色。	III-1 E	
31・35	2mm間隔の沈線を4~6条単位にして施文している。横位の沈線や、弧状、渦巻状の文様を作る。31, 35は地文にR Lの斜行縄文を持つ。	無	31, 35, 39, 40明赤褐色。	III-1 F	
32~34	巾3~5mmの半載竹管を数本単位に間隔をあけて横位に施文している。沈線間に33, 34は斜位の沈線を充填している。34, 36~38, 41~48	無	32, 34, 36, 37, 42, 44~48 暗赤褐色。33褐色。38, 41褐色。43 淡黄。	III-1 E	
41~48	42~44は単節 R L の 斜 行 縄 文 を 地 文 に 持 つ。45は沈線間に爪形文が施文される。				
50・51	2~3mm間隔の横位の沈線を施文後、棒状、ボタン状の胎土を貼付している。	無	にぶい赤褐色。	III-1 I	
49	沈線により縦方向の矢羽根状、木葉状の弧線、斜線で文様を構成している。棒状の工具による集合沈線によるもの-49, 54, 55。	無	49淡黄。52褐色。53褐色。54~56 にぶい赤褐色。57にぶい黄褐色。	III-1 H	
52~57	巾3~5mmの半載竹管を2~3本束ねて連続して施文するもの-52, 53, 55, 56がある。57は口唇部に凹凸文がある。地文に縄文を持つもの-49, 52, 55, 57。				
58	棒状工具による横位の沈線。口唇に割みがある。	無	褐色。	III-2 A	
59~65	浮島系土器で変形爪形文と、貝殻腹縁の磨表面による押し引き文が施文される。63は半載竹管による平行沈線と、刺突、貝殻腹縁の刺突が加えられる。	無	59~61, 63, 64暗赤褐色。62褐色。65暗褐色。	III-2 B	
66~70	縄文土器を一括した。単節R Lの斜行縄文のみである。	無	66灰褐色。67褐色。68, 70暗赤褐色。69褐色。	III-5 A	

69号住居址出土土器 (第84・85図 写真82・83・118)

番号	文 様 の 観 察	編 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾3mmの半載竹管を2~3本単位に連続して平行沈線を施文する文様は、縦に区画した後、矢羽根状、木葉状の文様を充填している。胴下部の横位の沈線は半載竹管でできるように施文している棒状、ボタン状の貼付は、文様施文前である。現高22.4cm、胴上径15.1cm、胴下径7.8cm。文様帯では木葉状の文様が4単位、矢羽根状の文様が3単位になる。	無	にぶい赤褐色。細かい砂粒を少量含む。ややザラつく。	III-1 I	埋没土器
2	巾3mmの半載竹管を2~3本単位に連続して平行沈線を施文する。文様は、縦に区画した後、弧線矢羽根状文、斜線などの文様を施文している。文様帯は弧線矢羽根状文と、斜線文が交互に4単位ある。口縁部には棒状、ボタン状の貼付文があり、棒状のものは沈線より先で、ボタン状の貼付文は沈線施文後に貼付されている。口唇には凹凸文がある。推定口縁径23.3cm、胴下径9.4cm、現高23.5cm。	無	褐色。砂粒を少量含む。焼成良。	III-1 I	埋没土器
3	有孔浅鉢。内外面とも良く磨かれている。推定胴部径58cm、胴部を挟す。	無	赤褐色。細かい黒雲母を含む。焼成良。	III-6	
4	巾2mmの細い半載竹管を数本束ねた原体で矢羽根状、木葉状の文様を構成する。4, 6は口縁にくびれ部に棒状の胎土が貼付される。	無	4, 8にぶい赤褐色。6にぶい褐色。7褐色。	III-1 G H	
6~8	6は、口唇部に凹凸文がある。4, 8は地文にR Lの縄文を持つ。				
5・9	巾3mmの半載竹管による平行沈線を間隔をあけて横位に施文。5は口縁波頂部に突起を持つ。地文にR Lの縄文を持つ。	無	5, 10褐色。9明赤褐色。	III-1 E	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
11	巾3mmの半載竹管による押しきの爪形文。	無	焼。	Ⅲ-1 A	
12	繩状の工具により渦巻文を持つ。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 F	
14・15	14はR Lの斜行縄文。15はR L、L Rの羽状縄文。15は若干上げ感になっている。	有	14焼。15明赤焼。	Ⅱ-4 D	
16・17	16はL R、17はR Lの単筋斜行縄文。	無	焼。	Ⅲ-5 A	
13	土製円盤。単筋L Rの斜行縄文。割れ口は磨られて丸い。	有	浅黄焼。		

70号住居出土土器 (第87・88図 写真63・118)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4mmの半載竹管を数本単位で平行沈線を描文している。文様は横位に間隔をあけて施文し、口縁部は頸部の膨らみ部に弧状渦巻の文様帯を作る。口縁は4単位の波状口縁で「く」の字状に屈曲し、胴部に膨らみを持つ器形とする。現高15.4cm、上径22.6cm、下径13.2cm。	無	明赤焼。砂粒をやや多く含むザラつく。	Ⅲ-1 F	胴部に残存
2	口縁部が「く」の字状に屈曲し、頸部が外反する。口縁は4単位の波状で、波頂部に小突起が貼付される。この小突起を中心に巾4～5mmの半載竹管による平行沈線が口縁に平行に波状に施文される。口頸部以下は半載竹管を3～4本単位に間隔をあけて横位に施文される。地文は単筋R Lの斜行縄文が施文される。口径30.3cm、現高13.9cm。	無	暗焼。砂粒、雲母を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	口縁に残存
3	巾3mmの半載竹管を数回連続して間隔をあけて平行沈線を描文している。地文は単筋R Lの斜行縄文。底径11cm。	無	焼。砂粒少ない。焼成良いがややザラつく。	Ⅲ-1 E	底部完、一部炭火物有
4	口縁部は「く」の字状に屈曲し、4単位の波状で、波頂部で屈曲が大きくなる。頸部は外反し、胴部中央で膨らみをもつ。巾4mmの半載竹管を数本単位で、間隔をあけて横位に施文する。地文の縄文はなく沈線間は無文である。口径18cm、底径7.5cm、器高21.6cm。	無	明赤焼。砂粒を少し含む。ザラつきが多い。	Ⅲ-1 E	全体が残存
5	有孔浅鉢底部。無文。内外面とも良く磨かれている。内面に一部割傷有。	無	明赤焼。砂粒少。焼成良好	Ⅲ-6	
7・8	7は単筋のL RとR Lの羽状縄文。8は無筋のRとL Rの羽状縄文。	有	7焼。8明焼。	Ⅱ-4 D	
6	巾3mmの半載竹管による平行沈線。横位に間隔をあけて施文。「く」の字状に屈曲する口縁部。口縁部に小突起が貼付される。巾3～4mmの半載竹管で横位に平行沈線を描文。地文に単筋R Lの斜行縄文を持つ。	無	6、9にぶい赤焼。	Ⅲ-1 E	
9～11	口縁が若干内湾する。口縁部は無文で内外面とも良く磨かれている。胴部に巾5mmの半載竹管による平行沈線の横位に施文される。	無	10、11焼。		
14～17	巾3～4mmの半載竹管を数本単位で施文した平行沈線で弧状、扇状の文様を構成する。地文の縄文は、R Lの斜行縄文がわずかに認められる。	無	14にぶい焼。15～17明赤焼	Ⅲ-1 F	
18～29	巾2～4mmの半載竹管を2～3本重ねた原形で平行沈線を描文し、縦の木葉状の弧線などの文様を口頸部や胴部の膨らみ部に施文している。18、19、23は単筋R L。26、27はL Rの斜行縄文を地文に持つ。	無	18、19、22、23、25、28暗赤焼。20にぶい黄焼。21灰焼。24、25焼。26、27、32焼。	23～29 Ⅲ-1 F 他	同一個体
30・31	30、31は単筋L R。35はR Lの斜行縄文。36は無文の底部である	無	30灰焼。31、36にぶい橙。	Ⅲ-1 H Ⅲ-5 A	
35・36	35の底径は9.6cm、36の底径は5cmである。	無	35明赤焼。	Ⅲ-5	
33	黄土土器。口縁に長く縦目の糸線と、貝殻紋線による凹凸文がある。凹凸文の地文に貝殻紋線による押しき文が確認できた。	無	暗赤焼。	Ⅲ-2 A	
34	無文の浅鉢。口縁に残存しているが孔は認められない。推定口径13.5cm。	無	にぶい橙。	Ⅲ-6	

第1章 検出された遺構と遺物

72号住居址出土土器 (第91~94回 写真83・119)

番号	文様の観察	織理	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾5mmの半載竹管による平行沈線とコンパス文、爪形文が交互に施文される。口径15.7cm、現高11.1cm。	有	灰白。砂粒少。焼成良いがややザラつく。	II-3 E	口縁へ胴部移行
2	口縁に垂直に柳葉状の刺突文があり、それ以下は巾3mmの爪形文と沈線が施文される。	多	明黄褐。砂粒少。焼成良。	II-2 D	
3	口縁に垂直にヘラ状の工具で条線が施文される。爪形文は巾5mmの半載竹管による。	少	黒褐。砂粒少。焼成良。	II-2 B	
4	巾6mmの半載竹管を垂直に近い角度で施文した爪形文。	少	橙。	II-2 B	
5~12	5~7mmの半載竹管による平行沈線。口縁に平行して横位に施文される。菱形に施文されるものもある。	有	5~7、9、11、12にぶい赤褐。8、10暗赤褐。	II-2 C II-3 B	
13・14	巾6mmの半載竹管による平行沈線爪形文。	有	13浅黄。14にぶい橙。	II-2 B	
15~52	単筋R L-24、28、51、L R-23、47~50、52、R L、L Rの羽状縄文-15、18、20、22、27、29、32~35、37~44、附加条1種の1本附加-20、46、46はR L+RとL R+L Rの羽状。21は磨減が多く附加した捻りは不明。同じく2本附加-46。その他磨減しており捻りの不明の土器で斜行するもの-19、23、26、30、31、36、36はぐり部に爪形文を持つ。羽状になるもの-20、底部を一括した。50以外は上付近になる。R LとL Rの羽状縄文-53、54、57、58。無筋のRとL Rの羽状縄文-50、60、57は底面にも羽状縄文が施文されている。	有	15、21浅黄褐。16~18、20暗赤褐。19、23、26、33、35、37~43、45、47にぶい橙。22、24、25、29、31~34、36、44、48、49~51褐。27、28、46、52灰褐。30橙。53、55、56、58~60暗赤褐。	II-4 B C D	
53~60	底部を一括した。50以外は上付近になる。R LとL Rの羽状縄文-53、54、57、58。無筋のRとL Rの羽状縄文-50、60、57は底面にも羽状縄文が施文されている。	有	53、55、56、58~60暗赤褐。54、57にぶい橙。	II-4 D	
62・63	巾3~4mmの半載竹管を数本単位に間隔をあけて施文している。62は地文にL R、63はR Lの斜行縄文がある。	無	62にぶい褐。63明赤褐。	III-1 E	
	土製円盤。無筋のL R。縁片は磨かれ丸味を持つ。	有	橙。		

73号住居址出土土器 (第98~101回 写真83・84・119・120)

番号	文様の観察	織理	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3mmの半載竹管2~3本束ねた原体より間隔をあけて横位に平行沈線を施文している。胴上部に屈曲部があり、ここに文様帯を持つ。地文に単筋R Lの斜行縄文を持つが磨きによって一部しか確認できない。横位の沈線は右から左方向へ施文されている。胴上部径24.2cm、胴下部径13cm、現高17.2cm。	無	明褐。砂粒を少量含む。焼成は良い。	III-1 F	埋設土器 胴部完形
2	胴部が膨らみ、文様帯を持つ。沈線は巾3mmの半載竹管により、平行沈線を数回連続して施文し、集合沈線状になっている。横位に間隔をあけて施文し、文様帯では、渦巻状、菱形状の文様を構成する。地文には、単筋R Lの斜行縄文が施文される。胴部最大径24.6cm、現高14.8cm。	無	橙。砂粒。雲母を含む。焼成良。	III-1 F	埋設土器 胴部完形
3	巾4mmの半載竹管を数回連続して間隔をあけて施文する。沈線間は無文帯で表面は良く磨かれており、地文の縄文は確認できなかった。胴上部径25.5cm、現高14.8cm。	無	浅黄。2~3mmの小礫を含む。焼成良。	III-1 E	埋設土器 胴部完形
4	巾3mmの半載竹管を2回連続して間隔をあけて横位に施文する。地文には単筋R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径17.3cm、胴部下径10.0cm、現高14.5cm。	無	橙。細かい砂粒を多く含む。焼成悪くザラつく。	III-1 E	床面出土 胴部欠
5	胴部上に屈曲部を持ちこの部分に巾の狭い平行沈線が施文される。地文には単筋R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径18.0cm、胴部下径10.4cm、現高9.9cm。	無	橙。砂粒多。全体に磨減が多くザラつく。	III-1 E	胴部完形
6	胴部下半に膨らみを持つ。無筋L Rの斜行縄文。胴部上径17.6cm、胴部下径10.4cm、現高17.4cm。	無	赤褐。砂粒少。焼成良。	III-5 A	胴部完形
7	巾2mmの半載竹管を3本束ねた原体で縦の木葉状の孤線を施文している。文様は、基本的には、8個の木葉状の沈線によって構成されている。地文の縄文は確認できなかった。胴部上21.2cm、胴部下12.6cm、現高12.5cm。	無	赤。	III-1 H	胴部完形
8	巾5mmの半載竹管によるコンパス文と平行沈線。地文にR Lの斜行縄文。	有	にぶい赤褐。	III-3 E	
9	巾5mmの半載竹管による爪形文とR Lの斜行縄文。	有	にぶい橙。	II-3 A	
10	附加条1種のR L+RとL Rの羽状縄文。	有	にぶい褐。	II-4 D	
11	巾5mmの半載竹管による爪形文と単筋L Rの斜行縄文。	有	橙。	II-3 A	

第4章 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
12	有孔浅鉢口縁部。孔の径6mm。	無	ぶい褐。	Ⅲ-6	
13	浮線文を刻みを持つ。	無	ぶい褐。	Ⅲ-1 D	
14~18	巾2~3mmの半截竹管を数本重ねた原体により横位の施文をする	無	14, 16, 18, 24灰褐。15, 17にぶい褐。	Ⅲ-1 E	
24	15は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。				
19~23	巾4mmの半截竹管を2~3回連続して横位に施文している。19, 22, 23は単節R Lの斜行縄文を持つ。25は渦巻状の文様を持ち地文にL Rの斜行縄文がある。	無	19, 21, 22にぶい褐。20にぶい黄褐。23, 26にぶい橙。25灰褐。	Ⅲ-1 E	
25・26					
27~34	巾2~3mmの半截竹管を数本重ねた原体により間隔をあけて横位に施文。28, 32~34は単節R Lの斜行縄文を地文に持つ。31, 33は、曲線、斜線が施文される文様帯の一部。	無	27灰褐。28, 31褐。29, 30にぶい橙。32, 33, 36黄褐。34暗赤褐。	Ⅲ-1 E	
36					
35	巾4mm程の半截竹管により平行沈線が施文される。36, 37は横位	無	35明赤褐。37褐。38暗赤褐	Ⅲ-1 G	
37~39	38は渦巻、弧状線文。39は横矢羽根状の文様が施文される。35, 37は地文にR Lの単節斜行縄文。				
40~44	3mm間隔の竹管を縦状に重ねた原体により、横位の沈線を施文しその間に矢羽根状の文様を持つ。40~43は口縁に凹凸を持ち、ボタン状、棒状の貼付文が施文される。	無	40, 44黄褐。41, 42灰褐。43にぶい褐。	Ⅲ-1 I	
45~46	40~43と同一個体の把手と思われる。	無	45にぶい褐。46灰褐。	Ⅲ-1 I	
47~52	2~3mm間隔の重合沈線により、矢羽根状や横位に施文する。48, 49はボタン状の貼付が施される。47は口唇部に竹管の原体により凹凸が施文される。	無	47橙。48, 49, 51にぶい褐。50黄褐。52にぶい赤褐。	Ⅲ-1 H I	
53~73	縄文のみの土器。単節R Lの斜行縄文-53, 57, 59, 62, 63, 65~68, L R-55, 57, R L L Rの羽状縄文-54, 70~72。磨減が多く不明-58, 64, 67, 70, 71, 73。	無	53, 68暗褐。54褐。55, 62, 63, 70~73にぶい橙。56~61, 64~67暗赤褐。69黄褐。	53・54 Ⅲ-1 J 他 Ⅲ-5	
74~76	土器の底部。巾4mmの半截竹管による横位の平行沈線を間隔をあけて施文する。75は若干上げ底みである。縄文は確認されていない。	無	74にぶい橙。75明赤褐。76浅黄褐。	Ⅲ-1 E	
77~80	中期阿玉台系土器。胴部には指摺による圧痕でヒダ状に施文している。器厚は薄く磨減が多い。	無	明赤褐。	IV	
81	巾6mmの半截竹管による平行沈線を横位に施文している。隆帯を横位に持ち刻みを持つ。	無	黄褐。	Ⅲ-1 E	

74号住居址出土土器 (第104~106図 写真84・120)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	胴部中央に膨らみを持ち、口縁に向けて外反する。単節R Lの斜行縄文。胴部上径23.4cm, 胴部下径14.4cm, 現高27.2cm。	無	明赤褐。砂粒を少し含む。焼成は良い。	Ⅲ-5 A	埋没土器 胴部完形
2~4	巾4~7mmの半截竹管の平行沈線後爪形文。4は単節R L, 6はL Rの単輪給帯体。	有	2明褐。4橙。6にぶい褐。	Ⅱ-2 B Ⅱ-3 A	
5	棒状の原体による沈線文。	有	赤褐。	Ⅱ	
7・8	巾5~7mmの半截竹管による平行沈線。山形、菱形の文様を構成する。	有	7, 8にぶい橙。10にぶい赤褐。	Ⅱ-2 C	
9	深鉢底部。胴代底。	無	浅黄褐。	V	
11~27	縄文のみの土器。単節R Lの斜行縄文-11, 13, 17, 20, 24, 27, 同様にL R-9, 21, 22, 26, R L, L Rの羽状縄文-12, 14~16, 18, 19, 無節L R-25, 複節L R L-23。	有	9灰褐, 11暗褐, 12, 14~16, 23, 25, 28, 30, 35, 38橙, 13褐, 17, 19, 20, 22, 24, 27~29, 31~34暗赤褐, 18, 21, 37黄褐。	Ⅱ-4 C D	
28	浮線文。浮線に矢羽根状の刻みが加えられる。	無		Ⅲ-1 D	
29~35	縦線を含まない縄文土器。単節R Lの斜行縄文-29~32, 34, 35, 37, L R-33。33は結束。38は無文で底部に胴代底。	無		Ⅲ-5 A	
37・38					

75号a・b住居址出土土器 (第108~110図 写真84・120・121)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	全体に磨減が多く文様のはっきりしないが、単節R LとL Rが施文されている。胴部上径32.5cm, 胴部下径16.5cm, 現高28cm。	無	橙。砂粒多く含む。全体にザラつく。	Ⅲ-5 A	胴部完形

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	織組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
2	無文。縦方向に磨き痕がある。胴部上径22.8cm、胴部下径11.5cm 現高18.5cm。	無	黄褐色。	III-5 E	埋設土器
3	単節R LとL Rの結束のある羽状縄文。推定口径53.6cm。	無	にぶい褐。砂粒少。ザラつく。	III-5 B	口縁片残存
4	巾3mmの半載竹管を3本束ねた原体で縦に区画し、その間を木葉状の弧線、矢羽根状の斜線を施文している。胴部上径16cm、胴部下径9.2cm、現高16.0cm。	無	粗。砂粒を多く含む。焼成悪くザラつく。	III-1 H	胴部片残存
5	3mm間隔の竹管による縞状の原体(1.7cm巾)で横位に施文。胴部膨らみ部分に褐色、弧状の文様帯を持つ。地文に単節R Lの斜行縄文が認められる。胴部推定径13.5cm。	無	明褐。2~3mmの小礫多くザラつく。	III-1 F	胴部片残存
6	巾3mmの半載竹管を2~3本束ねた原体で、縦に区画し、その間に木葉状の弧線、矢羽根状の斜線を施文している。推定胴部径14.2cm。	無	にぶい褐色。砂粒少。焼成良。	III-5 H	胴部片残存
7	有孔透鉢口縁部。無文。外面よく磨かれており、赤色顔料が塗られている。推定口径22.2cm。	無	にぶい橙。砂粒少なくややザラつく。	III-6	
8~10	巾5mmの半載竹管による平行沈線爪形文。	有	8明褐。9黒褐。10黄褐。	II-2 B	
11	巾3mmの半載竹管によるコンパス文。	有	9褐。	III-3 E	
12~14	12は巾7mm、13、14、16は巾5mmの平行沈線爪形文。12は単節R L、13はL R、14はR LとL Rの羽状縄文、16はR Lの縄文を地文に持つ。	有	12、14。13褐。16暗赤褐	II-3 A	
15	巾6mmの半載竹管による平行沈線。地文は単節R L。	有	にぶい赤褐。	II-2 C	
17~31	縞線を含む文のみ。土器。単節R Lの斜行縄文-19、22、23、28、29、30、同R L-27、R LとL Rの羽状縄文-17、18、20、21、18、26。無節L rとR rの羽状縄文-24。附加条第1種L R+L r。単軸線条体で、L rを巻いている-31。	有	17、21、23~26、29、30暗赤褐。18、22、28、31。19、20浅黄褐。27にぶい褐。	II-4 B C D	
32~34	巾4mmの半載竹管を節間をあけて横位に平行沈線を施文する。巾3mmの半載竹管による平行沈線を2~3本単位に施文する。胴部を横位に施文し、口縁波頂部に山形の沈線で文様帯を区画し、最後に弧状の曲線と、小突起を貼付する。地文はR rの斜行縄文が認められるが、沈線より消失している部分が多い。	無	32明赤褐。34褐。	III-1 E	
35	巾4mmの半載竹管により平行沈線が施文される。口縁は「く」の字状に屈曲し、小突起が貼付される。	無	暗赤褐。砂粒含む。焼成良。	III-1 G	
36	単節L Rの斜行縄文。口縁波頂部に棒状の貼付。	無	浅黄褐。	III-1 J	
37~41	巾3~5mmの半載竹管を連続して施文。横位の平行沈線に無文や横の矢羽根、渦巻状の文様を施文する。41は竹管を束ねた棒状の原体による施文。39は地文に単節R Lの斜行縄文。	無	37暗赤褐。38、39、41。40。41。	III-1 E F G	
42	無文。ヘラ状のもので横方向に磨いた痕がある。	無	黒褐。	III-5 C	
43	巾4mmの半載竹管による平行沈線。地文は単節R L。	無	にぶい褐。	III-1 E	
44	巾3mmの平行沈線を数本束ねた棒状の原体で横位、木葉状の曲線を施文。口縁に凹凸文がある。	無	灰褐。	III-2 A	
45	浮島系土器。巾6mmの平行沈線と、棒状の刺突。	無	橙。	III-2 E	
46~48	巾の狭い半載竹管を束ねた棒状の原体により横位の沈線を施文。	無	橙。	III-1 E	
49	無縞線の縄文のみ。土器。単節R Lの斜行縄文-46、48、50、54、51、53、50~54、46、48、L Rの斜行縄文-52。	無	46暗褐。48、50にぶい橙。51。52~54暗赤褐。	III-5 A	
49	土製円盤。底部の縁片を磨いて円盤にしている。	無	橙。		

77号住居址出土土器 (第112~114図 写真84・85・121)

番号	文 様 の 観 察	織組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾3~4mmの半載竹管を棒状に束ねた原体による平行沈線。口縁部は横位の矢羽根状の文様。胴部は、曲線により木葉状の区画をし、矢羽根状の文様を充填している。木葉状の区画は3単位で間を縦位の沈線で区画している。口縁に貼付される粘土は「罇」状のものが7単位ありその間にボタン状、棒状の貼付がなされる。口頸部にもボタン状が2個と、棒状が1個交互に貼付される。口径22.2cm。器高22.5cm、底径9.5cm。	無	橙。砂粒少。焼成良。	III-1 I	床面直上一出土ほぼ定形
2	巾4mmの半載竹管を2~3本束ねた原体による平行沈線。木葉状	無	橙。砂粒少。焼成良。	III-1 I	埋設土器

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
	の孤線により胴部を6単位に区画し、その中を矢羽根状、斜線などが充塞し、最後に縦位の沈線で木葉状の区画間を分割している。口縁から頸部にかけて、棒状の粘土を2個を対して貼付しその間を横長の棒状、ボタン状の粘土に爪形を刺突したものを貼付している。胴部もボタン状、棒状の貼付がみられる。ボタン状貼付は2個を1組にしている。口径24.5cm、現高17.1cm。				胴部完 口縁一部残存 底部欠
3	巾4mmの半軟竹管を2〜3本束ねた原体による平行沈線。口縁は斜位、頸部は横位に施文。胴部は木葉状の孤線による区画と、縦位の沈線で文様帯を縦区画している。区画内を斜線などで充塞。口縁部は、棒状、ボタン状の貼付文。頸部の屈曲部には、棒状の貼付文。胴部は2個1組のボタン状貼付文。口径33.2cm、現高23cm、胴部下径10.9cm。	無	明赤褐色。2〜3mmの小礫を含む。焼成良。	Ⅲ-1 I	埋設土器 口縁の一部 胴部残存 底部欠
4	無文。口頸部に径5mmの孔を持つ。底部は上げ底で高台状になっている。外面は良く磨かれている。口径8.4cm、底径5.8cm、現高7.9cm。	無	橙。1〜2mmの小礫を含む焼成良。	Ⅲ-6	床直土土
5〜13	単筋R L斜行縄文-5、11、R LとL Rの羽状縄文-6、7、9 附加条1種L R+L-10、12、8は直前段合然と思われるがはっきりしない。13は爪形竹管文。	有	5、10、11浅黄褐色。6褐色。7、12暗褐色。8、13暗赤褐色。9黄褐色。	Ⅱ-4 B C D	
14〜17	巾4mmの半軟竹管による平行沈線文。口唇に半軟竹管の刺突文とボタン状の貼付文-14。	無	14、15橙。16、17明赤褐色。	Ⅲ-1 H I	
18・19	R LとL Rの羽状縄文。	無	18黄。19明黄褐色。	Ⅲ-5 B C	
20〜22	底部。20は無文。21は巾5mmの横位の平行沈線。22は巾4mmの半軟竹管による平行沈線、木葉状、矢羽根状の沈線文。底部近くに無文帯を持つ。棒状、ボタン状の貼付文。底径1.1cm。	無	20黒褐色。21にぶい橙。22明赤褐色。	Ⅲ-5 C Ⅲ-1 E I	

78号a・b住居址出土土器(洞118〜127回 写真85・86・121〜123)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単筋R LとL Rによる羽状縄文を菱形に施文している。口径23.6cm、現高25.7cm。	有	にぶい黄褐色。2〜3mmの石英、砂粒。ゼラつく。	Ⅱ-4 D	口縁〜胴部 片残存
2	単筋R LとL Rの羽状縄文で菱形を構成する。蓋部は上げ底になっている。口径21cm、底径11.0cm、現高13.3cm。	有	にぶい黄。2〜3mmの小礫焼成良。	Ⅱ-4 D	
3	単筋L RとR Lによる羽状縄文。縄文の施文は規格的ではない。胴部上径13.8cm、底径10.4cm、現高15.8cm。	有	明褐色。砂粒多くゼラつく。	Ⅱ-4 D	胴部上半欠 損
4	巾5mmの半軟竹管による平行沈線を施文。口縁と胴部に文様帯を区画する横位の沈線を施文し、文様帯内は菱形に平行沈線を施文する。地文はR Lの縄文と思われる。推定口径46.4cm。	有	にぶい赤褐色。1〜4mmの小礫を多く含む。焼成悪くゼラつく。	Ⅱ-2 B	口縁部片残存
5	R L+R LとL R+L Rの附加条1種と思われるが磨滅が多くはっきりしない。羽状に施文し菱形を構成する。推定口径44.5cm、巾2〜3mmの半軟竹管を数本束ねた原体により間隔をあけて横位に施文している。原体の巾は1.5cm、地文は単筋R Lの斜行縄文であるが部分的に磨滅している。胴部上径33.4cm、下径13.4cm、現高13.5cm。	有	橙。1〜2mmの小礫多い。焼成悪くゼラつく。	Ⅱ-4 B	口縁〜胴部 片残存
6	巾2〜3mmの半軟竹管を数本束ねた原体により間隔をあけて横位に施文している。原体の巾は1.5cm、地文は単筋R Lの斜行縄文であるが部分的に磨滅している。胴部上径33.4cm、下径13.4cm、現高13.5cm。	無	にぶい橙。黒色の細かい砂粒を多く含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器
7	巾3mmの半軟竹管を2本束ねた原体で間隔をあけて施文。地文に単筋L Rの斜行縄文を持つ。	無	暗赤褐色。1〜3mmの小礫を含む。	Ⅲ-1 F	埋設土器 胴〜底部残
8	巾3mmの半軟竹管による平行沈線を横位に間隔をあけて施文。地文にL Rの斜行縄文が施文されるが全体に磨滅が多い。	無	橙。砂粒多い。焼成悪くゼラつく。内面黒色。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
9	巾3mmの半軟竹管による平行沈線により木葉状の孤線、横位の沈線、格子状の沈線が施文される。底径8.6cm。	無	にぶい黄褐色。1〜2mmの小礫。焼成良。	Ⅲ-1 H	
10	単筋R Lの斜行縄文。部分的に磨り消されている。	無	明赤褐色。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-5 A	
11	口縁はゆるやかな波状を呈し、波頂部が内湾し、2個ボタン状の貼付がされる。単筋R Lの斜行縄文が全面に施文される。	無	にぶい褐色。2〜3mmの砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 J	
12	無文有孔浅鉢。口唇直下には径5mmの孔が5〜6cm間隔で12個あり、縁部には2個1組の孔が3ヶ所ある。口唇直下の孔は焼成前で、縁部の孔は焼成後に穿孔されている。器面に歯液による赤色顔料が塗られており、一部が残存している。口径17.8cm、器高9.5cm。	無	橙。砂粒含む。焼成良。	Ⅲ-6	完形

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	編 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
13	単節RとL Rの羽状縄文で菱形を構成する。器面は磨減が多い。推定胴径35cm。	有	橙。1～3mmの小礫を含む。ザラつく。	Ⅱ-4 D	胴部が残存
14	単節RとL Rの羽状縄文により菱形を構成する。	有	黄橙。砂粒多。ザラつく。	Ⅱ-4 D	
15	無文。有孔浅鉢口縁部。外面は良く磨かれている。内面は割断面有推定胴径最大径29.0cm。	無	赤褐。金雲母。砂粒を含む。	Ⅲ-6	底部が残存
16	単節のRとL Rの羽状縄文により菱形を構成する。磨減が多く、縄文のはっきりしない部分がある。推定胴径24.2cm。	有	橙。1～2mmの小礫、雲母を含む。	Ⅱ-4 D	胴部が残存
17	無文。有孔浅鉢口縁部。表面は良く磨かれている。口唇直下の孔は焼成前に穿孔されているが、他に焼成後の穿孔痕がある。推定口径28.5cm。推定胴部最大径35.8cm。	無	無 明赤褐。金雲母多。焼成良。	Ⅲ-6	口縁部が残存
18	無文。有孔浅鉢口縁部。表面は良く磨かれている。口唇直下の孔は焼成前の穿孔。径1cm。口縁の筒状になる部分にも径6mmの孔が焼成前に穿孔されている。推定口径41.6cm。推定胴部最大径53.4cm。	無	無。細かい砂粒多い。焼成良いが若干ザラつく。	Ⅲ-6	口縁部が残存
19	樽蓋状の原体による割断文。	有	無。	Ⅱ-2 A	
20～24	巾4～7mmの半截竹管による押し引きの爪形文。24は爪形文を施文後横位の平行沈線を施文。20は単節L R。21はRとL Rの羽状縄文。24は地文に附加条1種R L + rとL R + lの羽状縄文。	有	有。20、23褐。21灰褐。22にぶい橙。24暗赤褐。	Ⅱ-2 B 他Ⅱ-3 B	
25～28	5～7mm巾の半截竹管による平行沈線。34は菱形文。36はコンパス文。他は横位に施文。43は単節R Lの斜行縄文。	有	有。25、26、28、34、35暗赤褐。27、38、39、43褐。36浅黄橙。37、40～42橙。	Ⅱ-3 B E	
29～33	巾5～6mmの半截竹管による爪形文。31、33、44は菱形。他は横位に施文される。29、45は単節L R。44、46、47は単節R Lの斜行縄文を持つ。	有	有。29、46暗赤褐。30、32、33褐。31、47橙。44暗褐。45灰褐。	Ⅱ-2 B Ⅱ-3 A	
48～	単節R Lの斜行縄文-52、55、61、64、65、71、72、74、75、103、	有	有。48、49、53、75、104、110暗赤褐。50、68、69黄橙。51、	Ⅱ-4 A	
104、116～118、122、129、同L R-54、59、60、67、115、121、			54、61、70～72、77、80、	B	
R LとL Rの羽状縄文-48～51、56、70、78、80、82～85、88、			84～86、92、95、120、121、	C	
95、99、100、105、107～112、114、131。無節RとL Rの羽状			129浅黄橙。52、100、103、	D	
縄文-79、81、93、94、113。附加条1種R L + rとL R + l			106、119灰褐。55、76、78、		
R Lの羽状縄文-58、62、77、86、90、92、97、120、126、同L R +			82、94、97～99、102、105、		
L Rの斜行縄文-73、106、119、125、同L R + lとR L + R + l			108、109、111、112、124、		
128、130。同L R + L rとR Lの羽状縄文-76、96、同R L +			126、127、131橙。58、59、64、		
RとL R-124。附加条2種-102磨減が多くはっきりしないが			79、93、96、123、125暗褐。		
R意の軸縄。例別にループの付いた単節R L-68、69。前々段反			56、57、65～67、73、81、		
照のR L L-53。同R L L、L R Rの羽状縄文-87、88、127。組			83、87、88、90、91、101、		
組-101。磨減が多く捩りが不明L黒-57。R黒63、98。結条帯-			107、113～118、122、128、		
125。			130褐。60、62、63、89黄褐。		
			74明赤灰。		
Ⅱ-10	底部を一括した。132、138は上げ高。単節R L-132、139。同L R-142、143。R L、L Rの羽状縄文-136、140。他は磨減が多く跡が確認できない。	有	有。132、133、135～139明赤褐。	Ⅱ-4 C	
141、142、143、R L、L Rの羽状縄文-136、140。他は磨減が多			134、140、143橙。141、142	D	
く跡が確認できない。			赤褐。		
144	有孔浅鉢胴部破片。木葉文。隆帯に刻みを持つ。	無	明赤褐。	Ⅲ-6	
146	横位の平行沈線内に刺突を持つ。	無	黄灰。	Ⅲ-1 E	
146～148	浮線土の器。146、147は横位。148は「X」状に施文される。浮線に刻みは認められない。	無	146にぶい黄橙。147灰黄褐148橙。	Ⅲ-1 D	
146～148	巾2～4mmの半截竹管を数本単位で間隔をあげ横位に施文する。平行沈線間は無文帯や文帯になる。153、154は口縁頂部に三角文を持つ。157、161は横方向の矢羽根状文。166、171、172は爪状、渦巻状の文様を構成する。地文に縄文を持つ土器。単節R L-162、163、166、167～173。L R-174。151、152、182、185は他の土器より竹管の巾が広くなっている。	無	149、157、165、170、174、178橙。150、154～156、158、159、161～164、166暗赤褐。151、160暗褐。152、167～169、171、172、175～177、179褐。153浅黄橙。173にぶい橙。	Ⅲ-1 E F	
15～17	巾3mmの半截竹管を2～3本単位で平行沈線を施文する。口縁を横位に区画し胴部を縦区画の後、木葉状の孤線や矢羽根状の沈線を施文する。	無	にぶい褐。	Ⅲ-1 H	
15～18	巾3mmの半截竹管による平行沈線で、口縁部に文帯帯区画をし、同じ原体で爪状の平行沈線を施文する。	無	178橙。179明褐。	Ⅲ-1 F	
186～182	巾2mmの半截竹管を数本束ねた原体で、矢羽根状、木葉状の平行	無	180、184明赤褐。181にぶい	Ⅲ-1 H	

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
184	沈線を施文する。180は把手が付けられ、側面に渦巻状の文様が構成される。	無	黄褐色。182褐色。		
193・196	胴部に屈曲を持ち文様帯を構成する。巾3mmの半載竹管を数本重ねた原体により屈曲部の上下を横位に施文。屈曲部は縦の施文と「X」状の文様構成をとする。	無	183にぶい褐色。189にぶい黄褐色。	III-1 F	
195	巾5mmの半載竹管による押し込み爪形文。	無	灰青褐色。	III-1 A	
197~204	縄文のみの土器を一括した。単節R Lの斜行縄文-193, 195, 196, L R-190, R LとL Rの羽状縄文-187, 無節のR θ-188, L r-192, 同L rとR θの羽状-194, 附加条1種-189, 軸になる縄の撚りは不明。直前段反転R θ-191。	無	187, 189~196にぶい赤褐色。188褐色。	III-5 A B	
197~204	底部を一括した。R L-199, 巾3~5mmの半載竹管による平行沈線-197, 198, 201, 202, 204, 無文-200, 203, 201は地文に単節R Lを持つ。	無	にぶい赤褐色。	III-1 E III-5 A C	
205	単節のミニチュア土器。表面は磨かれている。	無	にぶい赤褐色。	III-5 C	
206~208	浮島系土器。206は巾1.5cmの変形爪形文。207は巾1.2cmの変形爪形文と貝殻羅線文。208は巾2mmの細い半載竹管を直角に近い角度で連続して施文し、三角文風になっている。	無	206, 208にぶい赤褐色。207明赤褐色。	III-2 B 208	
209	4本歯の櫛状原体(巾1.2cm)による横位の沈線と、波状沈線。	無	にぶい赤褐色。	III-1 B	
210	単節R Lを縦位に施文している。径1.2cmの円形竹管刺突。	無	褐色。	III-1 C	

79号住居址出土土器 (第132~134回 写真123)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁に巾5mmの半載竹管による爪形文が直角に近い角度で施文される。同じ原体による平行沈線。	有	にぶい黄褐色。	II-3 A	
2	巾4mmの半載竹管による平行沈線、コンパス文。口縁には2条の平行沈線内に爪形文を施文。	有	赤褐色。	II-3 E	
3	巾6mmの半載竹管による平行沈線。	有	暗赤褐色。	II-3 B	
4	巾8mmの半載竹管による平行沈線後爪形文を施文する。地文にR Lの単節斜行縄文。	有	黒褐色。	II-3 A	
5~8	半載竹管による平行沈線。5, 6は巾5mm, 7, 8は巾9~12mm, 7は沈線内に爪形文が施文される。	有	5暗赤褐色, 6, 7褐色, 8明赤褐色。	II-3 B	
9~47	単節R L-15, 20~22, 25, 28, 33, L R-10, 14, 16, 17, 24, 35, 36, 同R L, L Rの羽状縄文-18, 19, 26, 27, 29~32, 34, 37~40, 複節L R L-11, 単節R Lで未端にループを持つ-13, 附加条1種R L+R θで条に交互に附加-12, 42, 同R L+r-9, 43, 同L R+L r-41, 同R L+R θ, L R+L rの羽状縄文-44, 磨滅が多く不明-23, 45~47は直前段片, 46は単節R Lの斜行縄文。	有	9, 11, 12, 14~18, 21, 22, 24, 27, 31, 34, 35, 40~43, 46褐色。28, 37にぶい黄褐色。他にぶい褐色。	II-4 B C D E	
48~56	巾4~6mmの半載竹管による平行沈線を施文する。49は平行沈線内に爪形文を持つ。50は平行沈線内を矢羽根状に刻みを施文する。54, 55は平行沈線で弧状の文様を構成する。56は半載竹管を数本重ねた原体による平行沈線。単節R Lの斜行縄文-50, 53, 附加条1種R L+R θ-52。	無	48, 51~54にぶい赤褐色。49, 55, 56にぶい褐色。50灰褐色。	III-1 E F	
57~59	有孔残片の胴部片。58, 59は半載竹管により文様が施文される。57は無文。	無	57, 59浅黄褐色。58明赤褐色。	III-6	
60~67	単節R Lの斜行縄文-60, 61, 63, 64, 65, L R-67, R LとL Rの羽状縄文-66, 62は単節L Rで平行沈線が施文される。	無	60~64, 66褐色。65, 67赤褐色。	III-5 A B	

80号住居址出土土器 (第138~143回 写真86・87・123・124)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	器形は胴部上半で外反し、口縁部は「く」の字状に屈曲する。口縁は波状で4単位になり波頂部に三角の文様が施文される。文様は巾4mmの半載竹管により施文される。胴部は同じ原体を2本重ね	無	暗褐色。砂粒多くザラツク焼成悪くもろい。	III-1 E	口縁部、胴部残存

第1章 検出された遺構と遺物

番 号	文 様 の 観 察	織 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
	位に右から左に横位に間隔をあけて施文。地文はR Lの単節斜行織文。口径27cm, 現高24cm, 胴部下径15cm。	無	明赤褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
2	巾8mmの半軟竹管による平行沈線を右から左方向に間隔をあけて施文される。地文は単節R L、L Rの羽状織文。胴部上径18.5cm 胴部下径14.2cm, 現高12.0cm。	無	ふい赤褐。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
3	巾6mmの半軟竹管による平行沈線を間隔をあけて横位に施文される。地文は単節R Lの斜行織文。胴部上径24.5cm, 胴部下径20.9cm, 現高14.2cm。	無	赤褐。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
4	巾4mmの半軟竹管による平行沈線を間隔をあけて横位に施文される。地文はなく沈線帯を無文帯となる。胴部上径21.0cm, 胴部下径14.4cm, 現高11.5cm。	無	明赤褐。砂粒を少し。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器 胴部残存
5	単節R Lの斜行織文を全面に施文。胴部上径28.0cm, 胴部下径20.5cm, 現高13.5cm。	無	暗褐。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器 胴部残存
6	巾5mmの半軟竹管による平行沈線を間隔をあけて横位に施文する。胴部下半の膨らみに文様帯を持ち、同じ原体で弧線、渦巻状の文様を構成する。沈線内に一部刻みを持つ。地文は単節R Lの斜行織文である。胴部上径19.9cm, 胴部下径14.0cm, 現高10.9cm。	無	明赤褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
7	巾6mmの半軟竹管による平行沈線を間隔をあけて横位に施文される。地文に単節L Rの斜行織文。志曲部から上は沈線を施文する前に磨り消されている。胴部上径33.2cm, 胴部下径15.9cm, 現高18.6cm。	無	明赤褐。砂粒を含む。焼成あまり良くない。ザラつく。	Ⅲ-1 E	底部の一部 欠損
8	巾3mmの半軟竹管による平行沈線を4単位で、横位に施文する。土器の中央に沈線による菱形文を構成する。地文に単節R Lの斜行織文が施文されるが磨滅が多い。口径12.9cm, 底径7.3cm, 現高14.0cm。	無	明褐。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	底部残存
9	巾3mmの半軟竹管を3本単位で、左から右方向に間隔をあけて横位に平行沈線を施文する。地文に単節R Lの斜行織文を持つ。胴部上径12.1cm, 底径7.8cm, 現高7.2cm。	無	赤褐。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-1 G	胴部残存
10	巾5mmの半軟竹管による横位の平行沈線を施文し、沈線間を矢羽根状の平行沈線が充填される。	無	明赤褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-5 A	埋設土器 胴部残存
11	単節R Lの斜行織文。胴部上径15.8cm, 胴部下径11.0cm, 現高17.1cm。	無	明赤褐。少量の雲母を含む	Ⅲ-5 A	埋設土器 胴部残存
12	単節R Lの斜行織文。胴部上径10.5cm, 胴部下径10.7cm, 現高10.5cm。	無	赤。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-6	217号土坑 内出土 口縁残存
13	有孔浅鉢。無文。口縁部に瘤状状のものが堆られている。口径17.0cm, 胴部最大径33.6cm, 現高5.4cm。	無	暗褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-6	
14	有孔浅鉢底部。無文。底径16.2cm。	無	明赤褐。砂粒多。	Ⅲ-6	
15	有孔浅鉢胴部。無文。胴部最大径38.4cm。	無	明黄褐。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-2 B	埋設土器 胴部残存
16	巾6mmの菱形彫文を横位に2列づつ3段に施文し、文様帯を区画する。胴部上の文様は、巾4mmの半軟竹管を鋭角に押し引きしたもので渦巻や、菱形の文様を構成する。胴部下の文様帯は、横位の平行沈線が充填される。文様帯以下はへつ状のもので良く磨かれている。胴部上径21.5cm, 胴部下径11.6cm, 現高19.3cm。	有	17, 18, 22号。19明黄褐, 20, 21, 23にふい黄橙。	Ⅱ-2 B	
17-23	巾4～8mmの半軟竹管による彫文。21は押し引きによる彫文で他は平行沈線を施文した後彫文を施文している。19は彫文の下に横位の平行沈線が施文される。	有	24, 32黒褐。25～27, 31, 33赤褐。28～30にふい褐。	Ⅱ-4 B C D	
24-33	無節L Rの斜行織文-27, 33, 33は上げ底。単節L R-26, 30, L RとR Lの羽状織文-24, 25, 28, 29。附加率1種単節R L+R-32。L R+Rで条に交互に附加している-31。	無	41, 45, 46褐。42黒褐。他にふい赤褐。	Ⅲ-1 E	
34・35	巾3～5mmの半軟竹管による平行沈線を2本単位で間隔をあけて施文する。地文に単節R Lの斜行織文を持つ土器-34, 35, 41。同L R-40。	無	無	Ⅲ-1 E	
39-46	巾2～3mmの半軟竹管を数本束ねた原体により集合沈線を間隔をあけて施文する。	無	47橙。48にふい赤褐。	Ⅲ-1 E	
47・48	巾6mmの太めの半軟竹管により平行沈線が施文される。	無	無	Ⅲ-1 E	
49	口縁に刻みを持ち巾4mmの半軟竹管を2～3本単位に間隔をあけて横位に平行沈線を施文する。沈線間が斜めの平行沈線が充填される。地文に織文があるがはっきりしない。	無	無	Ⅲ-1 E	

番号	文様の観察	編組	胎土・焼成・色調	分類	備考
50~78	巾3~5mmの半截竹管により平行沈線が施され、2~3本単位の半截竹管で間隔をあけて横位に施文している。沈線間に文様を持つ土器がある。53、64は渦巻、54は渦巻や弧状の沈線文、61、78は刺歯状、60は縦の区画と「X」字状の文様の施文される。地文の縄文は、単節R.Lの斜行縄文-53~55、57、59~61、63、64、70、71、73、同L.R-66、L.R-69、67は附加索と思われるのはつきりしない。	無	51、55、57、60、64、65、69、71橙。53、70赤褐。72、76褐。他にふい赤褐。	Ⅲ-1 E F	
79~84	巾3~4mmの半截竹管を数本束ねた原体で集合沈線を施文する。横位の沈線と横位の矢羽根状の文様を構成する。	無	79、80、83、84にふい赤褐 81黄橙。82にふい橙。	Ⅲ-1 G	
85	巾5mmの半截竹管による押し刺突文。	無	にふい黄橙。	Ⅲ-1 A	
86	巾7mmの半截竹管による平行沈線施文後爪形文。	無	灰褐。	Ⅲ-1 A	
87	巾7mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	無	灰褐。	Ⅲ-1 A	
88~96	「く」の字状に屈曲する口縁部。巾3mmの半截竹管による平行沈線を連続して横位に施文。ボタン状の突起が貼付される。3~4mmの間隔で集合沈線を施文する。ボタン状、棒状の貼付がされる土器。89、90は口縁部に巾3mmの半截竹管による格子状の文様。	無	88、91、99、100褐、89暗褐 92、93、95黄橙。94黄褐。 96褐。96暗赤褐。	Ⅲ-1 I	
99~108	94、95、96、100は横矢羽根状に施文、他に横位に施文される。89、91の刺歯は木葉状の文様。92は口唇に凹凸文が施文される。	無			
97~98	巾4mmの半截竹管による平行沈線を2~3回連続して施文し、集合沈線状にしている。口縁部は横位に施文し、胴部の木葉状の弧線文と区画している。98は口縁部にボタン状の貼付が施される。	無	97にふい赤褐。98、101にふい黄橙。102、109褐。103にふい橙。	Ⅲ-1 H I	
109	101、102は口縁部に凹凸文を持つ。97は地文に単節R.Lの斜行縄文を地文に持つ。				
104~108	2~3mmの間隔で集合沈線を施文する。木葉状、矢羽根状の文様が施文される。106~108、111、112はボタン状、棒状の貼付がされる。106は貼付文に半截竹管による刺突がされる。107、108、111はボタン状の貼付文に刺突。	無	104にふい赤褐。105、106、111にふい橙、107褐。108、112にふい黄橙。110暗褐。	Ⅲ-1 H I	
113~114	口唇と口縁部曲部に凹凸文を持ち、この間に巾3mmの半截竹管による平行沈線で矢羽根状の文様を充塞する。屈曲部より下は巾4mmの平行沈線を施文。113は棒状の貼付有。	無	113、114にふい橙。	Ⅲ-2 A	
115~119	口唇部に刺目文を持つ。117は口唇部に凹凸文。115は口縁部は半截竹管による平行沈線と爪形文、巾約6mm。116は口縁凹凸文。117横位の平行沈線。118は巾7mmの変形爪形文。119は無文。	無	115にふい赤褐。116、118、119にふい橙。117にふい黄橙。	Ⅲ-2 A	
120	単節R.Lの斜行縄文を地文に持ち粘土紐を刺歯状に貼付する。	無	にふい橙。	Ⅲ-3 A	
121	わずかに断面を露出させ浮線状にしており、矢羽根状の刺目が施文される。地文に単節R.Lの斜行縄文を持つ。	無	にふい橙。	Ⅲ-1 D	
122~125	縄文のみの土器。単節R.Lの斜行縄文-122~125、128、130~132、134、137。無節L.Rの斜行縄文-126、127、129、133。複節R.L.R-135。122~125は粘土の口縁部に貼付される。	無	123、126、127暗赤褐。128、131、134褐。130、135、137浅黄橙。他にふい橙。	122~125 Ⅲ-1 J Ⅲ-1 5 A	
126	横位の浮線文。地文に単節R.Lの斜行縄文を持つ。	無	にふい赤褐。	Ⅲ-1 D	
138~143	底部を一括した。138は単節L.Rの斜行縄文。他に2~3mm間隔の集合沈線を施文。139、141、142は半截竹管による平行沈線。140、143は地文に単節R.Lの斜行縄文を持つ。143は若干上げ底になる。	無	138~140、142褐。141暗赤褐。143明黄橙。	138 Ⅲ-5 A 他	
144	刺歯状の原体による刺突が縦位、菱形に施文される。	有	黄橙。	Ⅲ-1 E Ⅱ-2 A	

81号住居址出土土器 (第149~151図 写真87・88・124・125)

番号	文様の観察	編組	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3~4mmの半截竹管による平行沈線を連続して施文している。平行沈線は横位に間隔をあけて施文された沈線間に矢羽根状の文様が充塞される。胴部には孔が2個穿たれている。胴部上径20.6cm、底径12.0cm、現高22.5cm。	無	赤褐。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-1 G	床面上出土 胴部下半残存
2	巾3~4mmの半截竹管を数本単位で連続して平行沈線を施文する。平行沈線は口縁部では波状、胴部では横位に施文される。胴部下半の膨らみに沈線による矢羽根状、弧状の文様が2単位施文される。口縁部には4単位に棒状の粘土が貼付され、口縁が若干内傾	無	赤褐。砂粒含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器 底面欠損

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
3	する。地文の縄文は、単節R Lの斜行縄文で棒状の貼付後に施文される。口径25.1cm、胴部下径9.4cm、現高23.0cm。	無	黄褐色。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 G	埋設土器 胴部残存
4	巾2～3mmの平載竹管を2～3本単位で連続して間隔をあけて横位に施文する。辻縁間には斜位、矢羽根状の沈線が施文される。地文は単節のR L、胴部上径18cm、胴部下径15.2cm、現高18cm。	無	にぶい赤褐色。砂粒多く含む。全体にザラつく。	Ⅲ-1 E	胴部残存
5	巾3mmの平載竹管による平行沈線を横位に施文。胴部下半の膨らみ部に矢羽根状の平行沈線が施文される。磨成が多く地文の縄文ははっきりしない。胴部上径18.4cm、胴部下径12.2cm、現高12.5cm。	無	浅黄。砂粒を多く含む。ザラつく。	Ⅲ-5 A	
6	巾3mmの平載竹管により平行沈線を施文。口径に平行に施文後、縦の区画をする。区画内はさらに2単位の大木葉状の弧線を描き、その中をさらに小さい木葉状の弧線を上下2段に横位の区画とともに施文される。地文に単節R Lの斜行縄文が施文される。推定口径部径32cm。	無	にぶい赤褐色。砂粒少。 焼成良。	Ⅲ-1 H	口縁→胴部 残存
7	有孔沈鉢口縁部。無文で表面は良く磨かれている。内面は割離痕が認められる。底径20.7cm。	無	赤褐色。砂粒含む。焼成良。	Ⅲ-6	床面出土 口縁部残存
8	有孔沈鉢口縁部。無文。口唇直下に径8mmの孔を有する。口縁部部に縦に2個径4mmの孔が穿たれている。推定口径部径38cm。	無	にぶい褐色。	Ⅲ-6	口縁と残存
9～12	巾4～7mmの平載竹管による平行沈線を施文後爪形文を施文する。11は単節R Lの斜行縄文。	有	9にぶい褐色。10明黄褐色。11明赤褐色。12無褐色。	Ⅱ-2 B	
13～23	単節R Lの斜行縄文-16、22。同L R-13。同R LとL Rの羽状縄文-14、15、18～20、23。無節L RとR Lの羽状縄文-21。附加条3種-17。	有	13、20無褐色。14、15、17、22褐色。15、18赤褐色。19、21褐色。23にぶい赤褐色。	Ⅱ-4 B C D	
24～45	巾3mmの平載竹管による平行沈線を数本単位で施文。26は沈線に刻みを持ち、単節R Lの斜行縄文。27、28は渦巻状の文様を構成し、地文に縄文を持つ。31、32は弧線。33、37は横位の沈線間に竹管の割裂がなされる。他は間隔をあけて横位に施文する。地文に単節R Lを持つ土器-32、34～36、39～41、43。L R-29、24～25、29、30の口縁部片は「く」の字状に屈曲する。	無	24、27にぶい褐色。28、30、31、33～35、37、38にぶい褐色。25、26、29、32、36、39～45にぶい赤褐色。	Ⅲ-1 E F	
46～64	巾2～4mmの平載竹管を2～3本束ねた棒状の原体により集合沈線を施文する。47～49、51、52、54～57は口縁部に横位の施文。46、50は矢羽根状の沈線が施文される。53は口縁部から直接木葉状の弧線が施文され、58～64と同様の文様構成をされると思われる。55～57は口唇や口縁に凹凸文が付けられる。46、47、49～51、54、56、57、60～64は粘土の貼付文がある。60は、巾3mmの平載竹管による格子状の文様を持つ。地文は58が単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	48、50～54、56、60、63、64にぶい赤褐色。46、47、49、58、62褐色。55、57、59にぶい褐色。61明黄褐色。	Ⅲ-1 H I	
65～72	縄文を持つ土器を一括した。単節R Lの斜行縄文-65、68～71。無節L R-67。同R L-72。66ははっきりしない。72は底径10.3cm。	無	65、72明黄褐色。66～68、70、71にぶい赤褐色。69にぶい褐色。	Ⅲ-5 A	

82号 a・b 住居址出土土器 (第156・157図 写真88・125)

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾3mmの平載竹管により横位に間隔をあけて平行沈線を施文する。地文は単節R Lの斜行縄文。胴部上径29.2cm、胴部下径12.7cm、現高17.8cm。	無	浅黄褐色。砂粒少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
2	巾6mmの平載竹管により横位に間隔をあけて平行沈線を施文する。地文に単節R Lの斜行縄文を持つが一部磨滅により消えている。胴部上径24.5cm、底径14.4cm、現高16.5cm。	無	にぶい褐色。砂粒少量含む。焼成良くなくザラつく。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
3	頸部破片。楕圓状の原体により、くびれ部に縦位、それより上に菱形を構成する文様が施文される。頸部以下は附加条1種の単節R L+R L。	有	明褐色。	Ⅱ-2 A	
4～11	単節R Lの斜行縄文-7、無節L R-6、8。L RとR Lの羽状縄文-4、5。附加条3種R L+R L-9。直前段合際したく(3段と1段2条)-10。同L Lに11。	有	褐色。	Ⅱ-4 B C D	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
12~15	浮線土の土器。浮線に刻目が付けられる。12, 13, 15は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。14は有孔浅鉢の口縁部破片。巾8mmの半載竹管で文様が施文される。口唇直下の孔は径9×6mmで焼成前の穿孔である。	無	橙。14は金帯母多く含む。	III-1 D 14 III-6	
16~30	巾3~5mmの半載竹管を2~3本単位で横位に間隔をあけて平行沈線を施文する。16は口縁部にボタン状の小突起が貼付される。21, 23は渦巻状の弧線が施文される。地文に単節R Lの斜行縄文を持つもの-21, 23, 同LR-24。口縁は「く」の字状に屈曲。2mm間隔の楕状の帯で矢羽根状の文様を施文。	無	16, 17にぶい赤褐。18, 20~22, 24, 26, 29, 30橙。19, 23, 25, 28暗赤褐。27浅黄褐。	III-1 E F	24は1と同一個体
31~32	2mm間隔の楕状の帯で矢羽根状の文様を施文。	無	31暗褐。32橙。	III-1 G	
33~41	巾2~5mm間隔の半載竹管を束ねた原体で集合沈線を施文。口縁部文様は、34~36は矢羽根状、33, 37, 38は横位の沈線である。胴部文様は木葉状、縦方向の矢羽根状の文様を構成する。41~44は1本の半載竹管により格子目の文様が施文される。45は屈曲部に円形竹管の研突。43, 44以外は棒状、ボタン状の貼付文が有る。	無	33, 45橙。34浅黄橙。37, 38, 43橙。35, 36, 39~41, 44, 46にぶい赤褐。	III-1 H III-1 I	
47	半載竹管による連続爪形文と平行沈線。	無	にぶい赤褐。	III-1 A	
48	口縁部に巾2mmの半載竹管による連続文。口縁は折り返しになっている。頸部は同じ原体による短い沈線。浮島土器。	無	にぶい橙。	III-2 A	
42	単節R Lの斜行縄文-42, 49, 51~53。磨減が多く不明-50, 49は口唇部に凹凸文有。51は半載竹管により格子目状の文様が施文される。	無	42, 49, 53にぶい赤褐。50~52にぶい橙。	III-5 A 51	
49~53				III-1 H 54~59	
54~59	底部を一括した。54, 59は無文。他は半載竹管による横位の平行沈線。底径は54-12cm, 55-6.7cm, 56-9cm, 57-11.8cm, 58-9.9cm, 59-10.4cm。	無	橙。	III-4 C 他III-1 E	
60	焼成前の孔を持ち、小突起が付けられる。地文に縄文を持つ。	無	橙。	III-1 J	

83号住居址出土土器 (第162回 写真125)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1・2	半載竹管による爪形文。	有	1褐。2明黄褐。	II-2 B	
3	巾4mmの半載竹管による平行沈線を菱形に施文する。	有	橙。	II-3 B	
4~15	縄文のみの土器。単節R LとL Rの羽状縄文-4~6、9、10、12、13、同LRとR L-7、8。単節L Rの斜行縄文-11。附加条1種R L+R L-14。同LR+L-15。	有	4, 8, 9褐。6, 11, 12黒褐。5, 7, 10, 13~15にぶい褐。	II-4 B C D	

84・85号住居址出土土器 (第164~167回 写真88・89・126)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁は4単位のものに波状を呈し、波頂部に棒状の粘土が貼付され、口縁が若干内傾する。文様は、巾3mmの半載竹管による平行沈線が口縁部と、胴部下の影らみ部に横位に施文され、この間を縦位の平行沈線で文様帯を4分割する。区画内は、木葉状の弧線や矢羽根状の文様を充填する。口径17.2cm, 胴部下径8.1cm, 現高20.5cm。	無	明赤褐。砂粒を少量含む。焼成良。	III-1 I	底部欠損
2	無節L rの縄文を横位、斜位に施文している。施文方向は一定でない。口径16.9cm, 胴部下径7.5cm, 現高16.9cm。	無	灰黄。	III-5 A	口縁の一部 底部欠損
3	有孔浅鉢胴部。無文。表面は良く磨かれている。	無	赤褐。砂粒多。	III-6	胴部の一部
4	口縁は波状を呈し、頂部に小突起が貼付される。文様は巾5mmの半載竹管により横位の平行沈線が施文される。	無	橙。細かい砂粒多い。ゼラつく。	III-1 G	
5	口頸部で屈曲し、口縁は内湾する。胴部下半はゆるくくびれながら底部へ続く。文様は、6mm間隔の半載竹管を数本束ねた原体で施文する。口縁は斜位の沈線、頸部は横位の沈線が充填される。胴部は、文様を区画する縦位の沈線はつきりせず、矢羽根状の文様や、斜位の沈線で文様が構成される。口縁には、ボタン状、棒状などの粘土が貼付され「印」を形づくり7単位になると思	無	にぶい橙。砂粒を含む。焼成良。	III-1 I	埋設土器 口縁の一部 と底部欠損

第1章 検出された遺構と建物

番 号	文 様 の 観 察	織 継	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
	おれる。頸部の屈曲部には、ボタン状と棒状の貼付が交互にあり胴部はボタン状のものが2個1組と、棒状の粘土が貼付される。口径29.5cm、胴部下径10.0cm、現高24.8cm。				
6	有孔浅鉢胴部。無文。表面は良く磨かれている。	無	暗褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-6	
7	単節R Lの斜行縄文が施文される。推定口径28cm。	無	明赤褐。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-5 A	
8	帯歯状の原体による刺突。口縁に対して垂直に施文され、それ以下は斜位、横位に施文される。	有	15赤褐。16暗褐。17橙。18黄橙。	Ⅱ-2 A	
9~12	巾5~7mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。9は地文に単節L Rの斜行縄文を持つ。10は棒状の原体による沈線が施文される。平行沈線を施文後爪形文を施文している。	有	9 暗褐。10、12明赤褐。11 ぶい褐。	Ⅱ-2 B	
13	注口土器の注口部破片。縄文が施文される。	有	橙。	Ⅱ-4	
14	巾4mmの平行沈線と小突起。	有	黄橙。	Ⅱ-3 B	
15-18	単節R Lの斜行縄文-18、同L R-16、R LとL Rの羽状縄文-15、17。	有	15赤褐。16暗褐。17橙。18黄橙。	Ⅱ-4 C	
22	浮線文の土器。浮線上に矢羽根状の刻みを持つ。	無	浅黄橙。	Ⅲ-1 D	
19~21	巾2~4mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけて	無	19、24にぶい赤褐。20、28	Ⅲ-1 E	
23~28	横位施文。19、23は渦巻状の文様。26は縦位と「X」字状の文様が沈線間に充填される。地文に縄文を持つ土器は20、21、25~27、43で単節R Lの斜行縄文である。	無	23、25、26、43橙。	F	
29~34	巾2~3mmの竹管を数本束ねた棒状の原体による集合沈線で矢羽根状の文様を構成する。	無	29、30、34にぶい赤褐。31 黒褐。32黄橙。33橙。	Ⅲ-1 G	
35~42	巾3~4mmの半截竹管による集合沈線。35~38は口縁部に横位に施文している。口縁部から胴部は、木葉状の弧線や矢羽根状の沈線を施文している。37は大きな波状口縁の波面部で「く」の字状に屈曲する。40、44は半截竹管を帯状に束ねた原体で施文。地文に縄文を持つ土器は35、38、39であるが磨りのはっきりしない。	無	35、38~40、42、44明赤褐。36、37、41にぶい褐。	Ⅲ-1 H	
44	巾2~4mmの半截竹管を束ねた原体による集合沈線。45~49の口縁部は矢羽根状。50は横位の沈線が施文される。他の胴部片は、矢羽根状、木葉状の曲線が施文される。器面には、棒状、ボタン状の貼付がなされる。	無	45、51、52、57明赤褐。46~48、50、54、56、59橙。53、55褐。49黄橙。58暗褐。61橙。62浅黄橙。	Ⅲ-1 I	
45~59	60	無	60、64、68~72、75褐。77、73暗褐。66、76暗赤褐。69 黄橙。他にぶい褐。	60・63	
61・62	66	無	66、64、68~72、75褐。77、73暗褐。66、76暗赤褐。69 黄橙。他にぶい褐。	Ⅲ-1 J	
63~81	60	無	60、64、68~72、75褐。77、73暗褐。66、76暗赤褐。69 黄橙。他にぶい褐。	Ⅲ-5 A	

86号住居址出土土器 (第170・171図 写真126)

番 号	文 様 の 観 察	織 継	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1~5	巾4mm~8mmの半截竹管による平行沈線と連続爪形文。平行沈線を施文後沈線内に爪形文を充填する。文様は山形や菱形を構成する。	有	1~3、4、5、9、10、12、13、16褐。11暗赤褐。14暗褐。19にぶい褐。	Ⅱ-2 B	
9・10	3は口唇に突起を持ち口縁部に隆帯が貼付される。3は口縁部に縄文が施文されるが原体は不明。11、13、14は胴部の縄文で単節R Lの斜行縄文。14は0段多。				
12-14	6~8	有	明褐。	8	
6~8	巾4~8mmの半截竹管による平行沈線。8は波状に沈線が施文される。19は山形や菱形に施文される。6、7は口縁部にR LとL Rの単節の縄文が施文される。11は文様帯以下に縄文が施文され19は地文に単節R Lが施文される。	有	17にぶい黄橙。20、25、29、30褐。21、26褐。22~24、27、28、31~34暗褐。	Ⅱ-3 B 他 Ⅱ-2 C Ⅱ-3 E	
11・19	15	有	暗褐。	Ⅱ-2 A Ⅱ-4 C	
15・18	帯状の原体による刺突。15はコンパス文も施文される。			D	
17	縄文のみの土器。単節R Lの斜行縄文-24、同L R-22、30、33	有	35、43橙。36~39、41、42、44明赤褐。40灰褐。	Ⅲ-1 E F H	
20~34	同L RとR Lの羽状縄文-20、21、26、27、29、無節L rとR Lの羽状縄文-25、31。無節R lとL rの羽状縄文-28、34。無節R l-23。不明-32。				
35~44	巾3~5mmの半截竹管による平行沈線文の土器。37は格子状に施され口縁に小突起が貼付される。36、39~41は木葉状の弧線に矢羽根状の沈線が施文される。他は横位の沈線。38、39は無節L Rの縄文を地文にもつ。	無			

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
45・46 47	45は単節R L、L Rの羽状縄文。46、47は無節L Rの斜行縄文。	無	45、46明赤褐。47橙。	Ⅲ-5 A B	
48・49 50	48は巾3mmの横位の沈線。49、50は単節R L、L Rの羽状縄文。50は若干干上げ部になる。	無	48、50にぶい橙。49にぶい赤褐。	Ⅲ-1 E Ⅲ-5 B	

88号住居址出土土器 (第173~175図 写真89・127)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4mmの半截竹管による横位の平行沈線。数本単位で連続して施文される。胴部下の膨らみ部に菱形、弧巻の文様が構成される。菱形文が3単位で構成される。胴部上径24cm。現高18.5cm。	無	赤褐。	Ⅲ-1 F	埋没土器 胴部欠形口 縁、底部欠
2	有孔浅鉢胴へ底部。表面良く研磨されている。推定最大径34cm。	無	暗赤褐。	Ⅲ-6	
3・4	巾6mmの半截竹管による平行沈線内に爪形文を充填している。菱形を構成する。	有	3にぶい赤褐。4にぶい褐。	Ⅱ-2 B	
5~25	単節R Lの斜行縄文-12、25。同L R-11、13、17。同R L、L Rの羽状縄文-6、7、14、15、18~22。附加糸1種R L+R L-24。同R L+R L-5。同L R+L R-8、10、16。無文不明-9、23。6、7は口縁部に竹管による刺突がなされる。	有	5、8橙。16~18、22、24灰褐。25にぶい黄褐。他にぶい赤褐。	Ⅱ-4 B C D	6、7は同一個体
26	巾3mmの半截竹管による横位の爪形文。地文に単節R Lの斜行縄文が施文される。	無	にぶい赤褐。	Ⅲ-1 A	
27~35	巾3~5mmの半截竹管による平行沈線1~2本単位で横位に間隔をあけて施文される。28~31、35は地文に縄文を持つ。28は単節R L、30はL R、29、31、35は不明。	無	27、29、30~33にぶい赤褐。28、34橙。35にぶい褐。38暗褐。	Ⅲ-1 E F	
37	浮線文が横位に施文され矢羽根状に刻目が付けられる。	無	にぶい赤褐。	Ⅲ-1 D	
36・39	巾2~3mmの間隔の狭い半截竹管を束ねた原体により沈線を施文される。口縁部に近い所では横位の矢羽根状の文様。胴部では木葉状の弧線、矢羽根状の文様が施文される。40、44は口縁に棒状の貼付がされる。	無	36、37、44橙。40、41、48褐。42、43、45、46にぶい赤褐。	Ⅲ-1 H I	
48	47、50、51は単節R Lの斜行縄文。49は無節R Lの斜行縄文。49は口縁に2列に棒状の貼付がある。	無	47、49暗褐。他にぶい赤褐。	Ⅲ-5 A	
49~51	底部を一括した。52、53は巾3mmの半截竹管を数本単位に横位に平行沈線を施文する。52は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。54は無節R Lの斜行縄文。	無	52褐。53、54にぶい赤褐。	52、53 Ⅲ-1 E 他Ⅲ-5 A	

89号住居址出土土器 (第178~180図 写真89・127)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単節R Lの斜行縄文を横位、縦位に施文する。胴部最大径22.8cm。現高8.9cm。	無	赤褐。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-5 A	埋没土器 胴部欠残存
2~15	単節R Lの斜行縄文-2、7、13、14。同L R-5、10。R LとL Rの羽状縄文-4、8、15。無節R L-3。同R L、L Rの羽状縄文-6。附加糸1種L R+L R-9。L R+L R-11。R L+R L+L R+L R-12。2、7は巾5mmの連続爪形文を持つ。	有	2、4、9、14褐。5~7 13橙。3、12淡黄褐。8暗赤褐。10灰褐。11暗褐。15黄褐。	2、7 Ⅲ-3 A 他 Ⅱ-4	
16~37	巾3~6mmの半截竹管を1本ないし2~3本単位で横位に施文する。沈線は間隔をあけて施文し、沈線間に無文帯、文様帯を作る。	無	16~18、20、25、32、39、40、50にぶい赤褐。19、21~24、26~31、33~37、42、49にぶい橙。	Ⅲ-1 E F	
42・49 50	29、30、34、37は沈線間に弧巻、弧状の文様。25、35、36は弧状、波状の沈線を施文する。42は口縁に刻み、小突起が2個貼付される。地文に縄文を持つものは16~21、25~27、29、33、34、39、40。単節R Lの斜行縄文-16~20、25~27、29。同L R-21。無節L R-33。34、39、40は磨減が多く不明。31は屈曲部に半截竹管の刺突を持つ。16は口縁部が外傾するが口縁頂部で内傾する。他の口縁部は「く」の字状に屈曲する。	無			
41	無文底部。表面はよく磨かれている。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 C	
38	巾2~3mmの半截竹管を数本束ねた原体により集合沈線を施文する。	無	にぶい赤褐。	Ⅲ-1 H	
43~48	43、46、47は口縁に横位に施文。43~45は矢羽根状。44、48は胴部上横位の区画以下を木葉状の弧線を施文。49は集合沈線を	無	にぶい赤褐。	I	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	織継	胎土・焼成・色調	分類	備考
51~58	間隔をあけて横位に施文。43、46、47、50はボタン状、棒状の粘土を貼付。41は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	51、54、55同赤褐色。53、56暗褐色。他に白い焼。	Ⅲ-5 A	
59	縄文のみならず。単節R Lの斜行縄文-51~54、56~58、無節L R-53、縄の末端がみられる。	無	無。	Ⅲ-6	
	有孔浅鉢口縁部。口唇直下に径9mmの孔が穿たれる。	無			

90号住居址出土土器 (第183~186図 写真89・128)

番号	文様の観察	織継	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁は大きく外反する波状口縁。巾3mmの半截竹管を数本束ねた原体による集合沈線。沈線は口縁部で波状に施文され胴部と同様の文様が施文されると思われる。胴部は横位に沈線を施し、胴部は縦の沈線で4単位に分割し、その間に斜位の沈線で充填する。胴部上径30cm、胴部下径13.6cm、現高15.5cm。	無	浅黄褐色。	Ⅲ-1 H	埋設土器 胴部残存 口縁一部残存
3~5	巾7mmの半截竹管によるコンパス文。3は口縁に帯状の原体による刺突。4は無節L Rの斜行縄文。	有	3灰褐色。4浅黄褐色。5橙。	Ⅱ-3 E	
2・6	巾5~7mmの半截竹管による平行沈線。連続爪形文。平行沈線を施文後爪形文を沈線内に充填する。6は無節R L、L Rの羽状縄文が口縁に施文される。	有	2、6、10、12に白い焼。11浅黄褐色。	Ⅱ-3 A	
7・8	巾4~6mmの半截竹管による平行沈線。8、9は横位に、17は肋骨文風に施文している。17は無節R L、L Rの羽状縄文を地文に持つ。	有	7に白い焼。8、13、17に白い焼。	Ⅱ-3 B	
9	直角に近い角度で爪形文を施文。	有	白い焼。	Ⅱ-3 A	
14~16	巾6mmの半截竹管による平行沈線。連続爪形文。平行沈線を施文後爪形文を施文。	有	14、16に白い焼。15、18浅黄褐色。	Ⅱ-3 A	
18	爪形文は肋骨文に類似する。16は肋骨文状態は横位に施文。14、15、18は爪形文間に単節R L、L Rの縄文、16は地文にR L、L Rの縄文を施文。	有	19、37に白い赤褐色。20灰褐色。21、23、29、30、32焼。22暗褐色。31浅黄褐色。他に白い焼。	Ⅱ-4 B C D	
19~37	単節R Lの斜行縄文-20、22、23、28、同L R-19、21、24、25、37、同R LとL Rの羽状縄文-26、27、33~36、附加糸1種R L+ ϵ -31、L R+ ϵ -29、同2本附加L R+ ϵ -32、結条体の土器R ϵ とL R-30。	有	19、37に白い赤褐色。20灰褐色。21、23、29、30、32焼。22暗褐色。31浅黄褐色。他に白い焼。	Ⅱ-4 B C D	
38	巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線は連続して横位に施文。爪形文は直角に近い角度で施文。	有	白い焼。	Ⅱ-3 A	
39~41	底部。39、41は無節R L、L Rの羽状縄文。40は巾5mmの半截竹管による平行沈線。39は上げ蓋になる。	有	39、41に白い焼。40に白い赤褐色。	Ⅱ-4 D	
42	胴部に屈曲を持ち、口縁は大きく外反する4単位の波状口縁になると思われる。巾3mmの半截竹管を2~3本単位に連続して施文した平行沈線。口縁部は山形、屈曲部下の文様帯は、矢羽根状もしくは菱形の文様構成を成す。推定口縁18.6cm。	無	白い赤褐色。	Ⅲ-1 F	
43~74	巾3~5mmの半截竹管による平行沈線。原体を1本または2~3本単位に間隔をあけて横位に施文。沈線間に無文帯、文様帯を持つ。57、59は矢羽根状。64、66は渦巻、弧線等を施文。46は口縁の屈曲した部分に渦巻状の文様を持つ。72~74は山形に沈線が施文され、小突起が施文される。地文に縄文を持つものは43~47、50、51、53~55、58~66、71で、単節R Lは-47、50、51、55、58、60、62~64、66、71である。他は磨滅等で断りがはっきりしない。口縁部は「く」の字状に屈曲するものが多いが、47は屈曲せず、2条の刻みが付けられる。	無	45~47、60、61、66、67、69に白い赤褐色。52、55に白い黄褐色。47、48、62、63、71に白い焼。他に白い焼。	Ⅲ-1 E F	52は1と同一個体
75~80	巾2~3mmの半截竹管による集合沈線。75、76、83は口縁に矢羽根状の文様、横位の沈線が施文される。77は口縁に横位の施文。	無	75~78、83、84、88焼。79に白い黄褐色。80に白い焼。85に白い赤褐色。	Ⅲ-1 H I	
83~85	79は円形竹管による刺突。胴部は木葉状の弧線、縦方向の矢羽根状の文様が施文される。沈線の上には、ボタン状、棒状の貼付がなされる。	無			
81・82	単節R Lの斜行縄文-81、82、86、87、91、93、同L R-89、90、86・87	無	81、82、86、87、89、91、94に白い焼。90、93に白い赤褐色。92に白い焼。95灰褐色。	Ⅲ-5 A B	
89~95	94、R L、L Rの羽状縄文-92、95、86は口唇に凹凸文、92は土製円蓋。	無	灰褐色。	Ⅲ-1 D	
96	浮線文に刻目が付けられる。地文に単節R Lの斜行縄文。	無		Ⅲ-5	
97・98	底部。97は無節L Rの斜行縄文。98は無文。	無			

91号住居址出土土器 (第190~192図 写真128・129)

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1・3	巾6~7mmの半軟竹管による平行沈線。口縁に平行に施文され、	有	ふいふ赤褐色。	II-2 C	
4・12	以下を菱形に施文される。				
5~10	巾5mmの半軟竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線を施文後爪形文を施文する。6~9は縄文が施文される。6~7は単筋R Lの斜行縄文、9はR L、L Rの羽状縄文。	有	5、6、9にふいふ赤褐色。7 灰褐色。8、10にふいふ褐色。	II-3 A	
2・11	巾4mmの半軟竹管によるコンパス文と平行沈線。	有	ふいふ赤褐色。	II-3 E	
13~32	単筋R Lの斜行縄文-16, 17, 24, 30。同L R-14, 31。同L R, R Lの羽状縄文-21~27, 29, 無筋L r-15, 附加条1種-R L+rとL Rの羽状縄文-18。同R L+rとL R+e-19。同R L+R eとL R+L r-20。同R L+R e, L R-28。不明右磨りと想われる-13, 無文-32。	有	13, 17, 18, 21~23, 25に ふいふ褐色。14~16, 24, 30~32 C D ふいふ赤褐色。20, 27にふい ふ褐色。19灰褐色。28, 29にふい ふ褐色。26灰褐色。	II-4 B C D	
33~42	巾3~5mmの半軟竹管による平行沈線。1~3本単位で間隔をあけて横位に施文。36, 38~40は単筋R Lの斜行縄文。37, 41はL Rを地文に持つ。	無	33~35, 39, 40, 42にふい ふ赤褐色。36~38褐色。41にふい ふ褐色。	III-1 E	
43~62	巾2~4mmの半軟竹管を数本束ねた原体により集合沈線を施文。43, 44, 46, 47, 50は口縁に横方向の矢羽根状の沈線。48, 49, 52, 53, 56は口縁に横位に施文する。44, 46, 50は口縁部に横位の短文。胴部は木葉状の弧線、矢羽根状の沈線が施文される。45は口縁部文様帯がなく胴部の文様となっている。43, 51は胴部も横位の矢羽根状の文様。60~62は底部の破片で横位の沈線が施文される。52~58はやや原体の巾が広い半軟竹管を2~3回単位で連続して施文する事により集合沈線状に表現している。56は地文に縄文を持つ。	無	43, 60, 61にふいふ褐色。46, 48, 49, 54, 58, 59にふい ふ褐色。44, 47, 62にふいふ褐色。 51原褐色。55灰褐色。他にふい ふ赤褐色。	III-1 H I	
63・64	巾3mmの半軟竹管による平行沈線。64は口縁に小突起が貼付される。64は「く」の字状に屈曲する口縁。63は波状口縁になる。	無	黒褐色。	III-1 E	
65	直径9.6cmの土製品。無文で口唇部に凹凸がある。	無	ふいふ褐色。		
66	口唇部に1cm程度の条線。口縁部は竹管状の原体による凹凸文が施文される。浮島系土器。	無	ふいふ褐色。	III-2 A	
67	口唇に刻みか加えられた凹凸文が施文される。以下を巾2mmの平行沈線が横位に施文される。浮島系土器。	無	ふいふ赤褐色。	III-2 A	
68~77	縄文土器を一括した。単筋R Lの斜行縄文-68, 69, 71~73, 75~77。同L R-70, 74, 77は最大径15.6cm, 現高13.5cm。	無	68原褐色。69, 71~77にふい ふ赤褐色。70にふいふ褐色。	III-5 A	
78~80	底部を一括した。78は巾3mmの半軟竹管による沈線で木葉状の弧線、矢羽根状の文様を構成する。79は単筋R Lの斜行縄文。80は無文。底部径78-9.6cm, 79-8.4cm, 80-9.6cm。	無	78~80にふいふ赤褐色。	III-1 I III-5 A C	

92号住居址出土土器 (第196~198図 写真89・129)

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	口縁にボタン状、棒状の貼付文が交互に施文される。胴部はボタン状の貼付文。地文に単筋R Lの斜行縄文を持つ。推定口径37.2cm, 現高16cm。	無	明赤褐色。砂粒少なく焼成良い。	III-1 J	口縁部同模 存
2~5	巾4~6mmの平行沈線と爪形文。平行沈線を施文後沈線内に爪形文を充填する。3は沈線間に単筋R Lの縄文を施文する。2、3は爪形を直角に近い角度で施文。	有	2、4にふいふ赤褐色。3灰褐色。 5にふいふ褐色。10にふいふ褐色。	II-3 A II-2 B	
6~9	巾4~6mmの半軟竹管による平行沈線。6、8は菱形もしくは山形の文様を構成する。7は横位の沈線とコンパス文。9は地文に単筋L Rの斜行縄文。	有	6、8にふいふ褐色。7にふい ふ赤褐色。9灰褐色。	II-3 B	
11~29	単筋R Lの斜行縄文-12, 25, 28。同L R-16, 18, 19。同R L、L Rの羽状縄文-15, 22, 23。無筋L r-11, 17。磨りが不明の羽状-13, 無文-14。単筋L R, R Lのルーペ-20。無筋L r, R eの羽状-21, 単筋結合条-24, 直前段合捺R L+r-26, 同L L+r-27。同L L+r-29。	有	11~14, 16, 17, 22~24, 26にふいふ褐色。15, 18, 20, 21にふいふ褐色。19, 25, 27に ふいふ赤褐色。28黄褐色。29灰褐色。	II-4 B C D	
30~44	巾3~5mmの半軟竹管による平行沈線。原体を1~3本単位で間隔をあけて施文。30, 33~35, 37は、沈線間に弧線、滴垂の文様を持つ。地文の縄文は、単筋R L-30~33, 37~39, 43, L R-	無	30黄褐色。31, 32, 40, 42 にふいふ赤褐色。33, 34, 37, 39, 41, 43, 44褐色。38黄褐色。	III-1 E F	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	織様	胎土・焼成・色調	分類	備考
45~53	35, 31は口縁頂部に小突起を持つ。 巾2~4mmの半截竹管を数本束ねた原体で集合沈線を描文する。 文様は、横位の矢羽根状、縦位の矢羽根状、木葉状の弧線文、48~51はボタン状の貼付。53は巾5mmの半截竹管による平行沈線で文様を描文。	無	35, 36にぶい焼。 46~48にぶい赤焼。50, 52にぶい焼。51黒焼。他にぶい焼。	45, 46 III-1 G 他 III-1 H I	
54~61	単節 R L の斜行縄文-54~56, 59, 61。無節 L R-57, 58, 60, 54~56は棒状、ボタン状の貼付文がある。	無	54~56, 59にぶい焼。57, 61にぶい焼。58, 60にぶい赤焼。	54~56 III-1 J 他 III-5 A	
62・63	底高。62は半截竹管を横位に施文。63は巾5mmの半截竹管による横位の施文と、地文に単節 R L の斜行縄文。	無	にぶい焼。	III-1 E	
64	有孔浅鉢口縁-割取。無文。外面磨かれているが割取が多い。口唇直下に径1cmの孔が穿たれる。	無	にぶい赤焼。	III-6	5/残存

94号住居址出土土器 (第203~206図 写真89・130)

番号	文様の観察	織様	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口唇部に4単位で刻目があり、その部分に棒状の貼付がなされる口縁は外反し、胴部下半に膨らみを持つ。単節 R L の斜行縄文が全体に施文される。口径25.6cm, 胴部下径8.3cm, 現高24.3cm。	無	明赤焼。1~2mmの糠含み焼成良。	III-1 J	269号土坑出土
2	単節 R L の斜行縄文。	無	焼。砂粒含む。焼成良。	III-5 A	
3~6	巾3~4mmの半截竹管による平行沈線、爪形文。平行沈線を描文後爪形文を描文。3, 4は内湾ぎみの口縁で菱形に施文される。頸部のくびれ部には横位の爪形文が施文され、それ以下を縄文が施文される。3, 5とも単節 R L, L R の羽状縄文。	有	3, 4焼。5暗赤焼。6焼。	III-2 B	
7~18	単節 R L の斜行縄文-9~11, 同 L R-7, 13, 無節 R-8, 8, 無節 L r-12, 単節 L R, R L の羽状縄文-14, 18, 附加条1種 R L, L R + r の羽状縄文-15, 同 R L + R r, L R + L r-16 L R + L r-17。	有	7黒焼。8, 16, 17にぶい焼。9, 10にぶい焼。18焼成良。他にぶい赤焼。	II-4 B C D	
19~23	巾4mmの半截竹管による平行沈線。沈線内に刺突が施される。23は渦巻きの文様構成をする。20, 23は地文に縄文を持つが、はっきりしない。31は単節 R L の斜行縄文。	無	19, 20, 23, 32にぶい焼。12にぶい赤焼。21にぶい焼。22にぶい赤焼。31淡黄焼。	III-1 E	
24~30	巾2~5mmの半截竹管による平行沈線。原体を連続して施文する	無	28, 37, 45にぶい焼。27, 33, 39にぶい赤焼。29黄焼。	III-1 E	
33~39	事によって集合沈線状に施文。間隔をあけて横位に施文する。24, 28は沈線間に縦位の施文。27は木葉状の文様を構成する。29, 30, 33, 34, 37は単節 R L の斜行縄文を施文する。口縁部は「く」の字状に屈曲する。	無	34焼成良。他にぶい焼。		
40~42	巾2~3mmの半截竹管を数本単位で連続して施文し、集合沈線を表現する。横位の矢羽根状の文様を構成する。40, 41は地文に縄文を施文する。	無	40焼。41, 42にぶい赤焼。	III-1 G	
44	巾3mmの半截竹管による平行沈線。口縁と、頸部に横位の沈線が施文され文様帯を区画する。文様帯内は木葉状の弧線によって充填され、地文に単節 R L の縄文を持つ。口縁は波状を呈し、頂部に刻目が付けられ5単位の突起が作られる。口縁には、粘土による突起が貼付される。	無	にぶい焼。細かい霞母、石英、砂粒を含む。焼成良。	III-1 H	
43・46 ~56	巾3mmの半截竹管を数本束ねた原体により集合沈線が施文される。23, 46の口縁部は横位の矢羽根状沈線。胴部は、木葉状の弧線、縦位の矢羽根状の文様が構成される。47, 52は地文に縄文が施されるが原体ははっきりしない。	無	43, 46, 47, 52, 54, 56にぶい焼。48~50, 53, 55にぶい焼。51にぶい赤焼。	III-1 H I	
57~64	縄文のみの土器を一括した。単節 R L の斜行縄文-57, 58, 60, 63, 64。無節 L r-59, 62。口縁部に57, 58は棒状の粘土が貼付される。	無	にぶい焼。	57, 58 III-1 J 他 III-5 A	57, 58同一個体?
65~66	巾3mmの半截竹管により平行沈線を連続して横位に施文-65, 66。	無	にぶい赤焼。	III-1 E	
68・69	69. 単節 R L の斜行縄文-68。	無	にぶい赤焼。	III-5 B	
67	単節 R L, L R の羽状縄文。	無	にぶい赤焼。	III-2 A	
70	口縁部に半截竹管による爪形文が6列施文される。頸部以下は、巾2mmの半截竹管による集合沈線で横位、縦位に施文される。ボタン状、棒状の貼付がされる。	無	にぶい赤焼。	III-2 A	

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
71	無文口縁部。輪横が3段にみられる。浮島系。	無	にぶい赤褐。	Ⅲ-2	

97号住居址出土土器 (第209~212図 写真90・130・131)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3mmの半載竹管による平行沈線を開隔をあけて横位に施文。地文に単筋R Lの斜行縄文を持つ。口縁は「く」の字状に屈曲し、波状を呈する。口縁頂部には粘土による小突起が貼付される。推定口径22.2cm。	無	にぶい橙。霞母。砂粒多。ザラつく。	Ⅲ-1 E	
2	有孔浅鉢胴部。無文。表面磨かれている。	無	にぶい橙。砂粒多。ザラつく。	Ⅲ-6	
3・4	巾8mm~10mmの半載竹管による平行沈線。爪形文。	有	3灰褐。4橙。	Ⅱ-2 B	
5~16	単筋R L、L Rの羽状縄文-5、8、10、11~15。無筋R 4-6、9。単筋L R-7、10は底部で上げ底になっている。16は沈線に粘土が貼付される。	有	5、9~11、13、15にぶい橙。6~8にぶい赤褐。12 D 灰褐。14、16にぶい褐。	Ⅱ-4 C Ⅱ-3 B	
17~19	17、21は平行沈線。18、19は浮線文で、沈線。浮線に刻みが施文される。17は口縁が「く」の字状に屈曲し、渦巻の文様を構成する。地文に17は単筋L R、18、19はR Lの斜行縄文を持つ。	無	17、18橙。19灰褐。21にぶい褐。	Ⅲ-1 F	
20・22	把手。巾2mmの半載竹管を数本束ねた帯状の原体で沈線を施文。側面は矢羽根状の沈線。径6mmのボタン状の貼付がされる。	無	20灰褐。22にぶい褐。	Ⅲ-1 G	
23・24	20、22と同様の原体で施文される。口縁は「く」の字状に屈曲する把手の口縁部片。	無	23にぶい橙。24灰褐。	Ⅲ-1 E	
25~53	巾2~4mmの半載竹管を1~3本単位に平行沈線を施文。開隔をあけて横位に施文し、沈線間に文様帯を構成する。25は三角状。28、34、37、38、52は渦巻。弧状に沈線を施文する。39は胴部の屈曲部に縦位「X」字状の文様帯を構成する。26は口縁部に粘土による小突起が付けられる。36は胴部膨らみ部に横位の矢羽根状の文様。地文に縄文を持つものがある。単筋R Lの斜行縄文-30~33、34、35、37~40、42、44~48、51~53。41は附加条1種で、L Rにそれを各条間に交互に附加したもので、	無	26~29、35、39、47、48、50暗赤褐。33にぶい褐。34、41、51、53灰褐。52浅黄褐色にぶい橙。	Ⅲ-1 E F	
54~60	巾2~3mmの半載竹管を数本束ねた原体による集合沈線。横位。矢羽根状の文様が口縁部に施文される。胴部は木葉状の弧線。縦位の矢羽根状の文様が施文される。	無	54、57にぶい橙。55、56、59、62にぶい褐。58にぶい赤褐。60灰褐。	Ⅲ-1 H I	
61・63	縄文のみの土器。単筋R Lの斜行縄文-61、63、64、66、67、69~71。複筋R L R-65。0段多糸のL R-68。63は口唇部に凹凸がある。61、64は口唇に1~2個の刻み。	無	61、64、66、69~71にぶい橙。63、68にぶい赤褐。65灰褐。67明赤灰。	Ⅲ-5 A	
72	巾3mmの半載竹管による横位の平行沈線。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 E	
73	小形浅鉢。無文。表面磨かれている。口径11.8cm。	無	褐灰。	Ⅲ-5 C	ほぼ完形
74~77	浮線文に刻目が加えられる。74~76単筋R Lの斜行縄文。	無	74、75、77にぶい橙。76灰褐。	Ⅲ-1 D	
78~81	土製円盤。78単筋L R、79単筋R L。縁は若干削られている。80、81は土器の底部を利用した土製円盤。81は有孔浅鉢の底部。胴部との割離面を若干打ら欠いて彫形している。	有	78、80、81にぶい橙。79灰褐。		

98号a・b住居址出土土器 (第219~227図 写真90・91・131~133)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁は外反し。口唇に3条の刻みが4単位で付けられる。胴部は結束第1種の単筋R L、L Rの羽状縄文で菱形を構成する。口径25.6cm。胴部下径10.6cm。高さ25.6cm。	無	にぶい赤褐。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-5 B	底部欠損
2	巾5mmの半載竹管による平行沈線。開隔をあけて横位に施文。胴部下半の膨らみ部に弧状。渦巻の文様を構成する。地文は無筋L Rの斜行縄文。	無	暗赤褐。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	胴部欠残存
3	巾2mmの半載竹管を数本束ねた原体による平行沈線。口縁部、底部は横位に施文し、胴部は木葉状の弧線により文様構成される。地文は単筋R Lの斜行縄文。口唇部に2条の刻みを、4単位施文	無	にぶい赤褐。砂粒多く含む。若干ザラつく。	Ⅲ-1 H	%残存

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
4	される。口径20.1cm、底径7.0cm、現高21.2cm。 巾6mmの半截竹管を2本単位で横位に間隔をあけて施文。地文は単節R Lの斜行縄文。胴部最大径30.4cm、現高11.2cm。	無	明赤褐色。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
5	巾5mmの半截竹管を間隔をあけて横位に平行沈線を施文。比線文以下の胴部に無節L rの縄文を施文。胴部最大径24.8cm。	無	暗赤褐色。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	胴部写残存
6	巾5mmの半截竹管により平行沈線が施文される。右から左方向への施文。地文に単節R Lの斜行縄文を施文。胴部最大径22.8cm現高14cm。	無	赤褐色。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
7	巾6mmの半截竹管による横位の平行沈線。間隔をあけて横位に施文し、沈線間に渦巻状の文様を構成する。地文に単節L Rの斜行縄文。底径10cm、胴部上径21cm、現高17.4cm。	無	明赤褐色。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	胴部下写残存
8	無節L rの斜行縄文を器面に施す。底部は若干の上げ底。底径6.8cm、現高12.8cm。	有	橙。1～2mmの窪を含む。焼成良。	Ⅱ-4 C	底部残存
9	有孔残鉢脚～底部。無文表面より磨かれている。	無	赤褐色。砂粒多い。焼成良い。	Ⅲ-6	胴底部写残
10	巾5mmの半截竹管による平行沈線。原体を数本単位で連続して施文し、集合比線化させている。口縁部は横位の矢羽根、胴部では横位に施文する。胴部は、縦の沈線により区画され、木葉状の弧線、矢羽根状の斜線文様が交互に4単位づつ施文される。口径24.5cm、胴部下径13.0cm、現高14.7cm。	無	赤褐色。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 I	埋設土器 口縁～胴部残存
11	巾2mmの半截竹管を数本単位で施文した平行沈線。胴部に木葉状の弧線を施文。底部近くを横位の平行沈線を施文。胴部上径14.4cm、胴部下径10.1cm、現高12cm。	無	明黄褐色。1～2mmの小窪を含む。焼成良。	Ⅲ-1 H	
12	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で連続して施文し集合比線化させる。胴部は縦の沈線で5分割し、木葉状の弧線を施文する。木葉状の弧線内は、横位、斜位の沈線で充満される。地文に単節R L、L Rの縄文が、縦位、横位に不規則に施文される。胴部上径18.7cm、胴部下径12.2cm、現高11.6cm。	無	無。1～2mmの小窪を含む。焼成良。	Ⅲ-1 H	埋設土器 胴部残存
13-14	13 壺状の原体による刺突文と巾3mmの半截竹管による平行沈線。口縁に垂直に刺突が施文され、口縁部は平行沈線と刺突文により、菱形文を構成する。 14 口縁に巾5mmの半截竹管による押し引きの爪形文が3列並べられる。爪形文以下は粘土結土による隆帯。	有	13、16にぶい橙。14赤褐色。	Ⅱ-2 D	
15-19	口縁に巾5mmの半截竹管による押し引きの爪形文が3列並べられる。爪形文以下は粘土結土による隆帯。	有	暗赤褐色。	Ⅱ-3 C	
17-18	巾6～7mmの半截竹管による平行沈線文。爪形文。23の口縁部は平行沈線を施文し、屈曲部に爪形文を施文する。21は口縁部に垂直に平行沈線による条線が施文される。29は爪形文により菱形文を構成し、その間に巾の狭い平行沈線を充塞する。29は口縁部に単節R Lの縄文を持つ。32、33は文様帯以下の胴部に単節R Lの縄文を持つ。35はR L、L Rの羽状縄文。	有	20、38灰褐色。21黒褐色。22、29、32にぶい褐色。33橙。他にぶい赤褐色。	22、23 Ⅱ-3 A 他	
25-27	壺状工具による刺突文。27は口縁部は巾8mmの半截竹管による平行沈線で菱形文を構成し、屈曲部に刺突文が施される。25は刺突文により菱形が構成される。26は単節R Lを文様帯下に施文。	有	25、27にぶい褐色。26にぶい赤褐色。	Ⅱ-2 D	
28-30	30は丸棒状の原体。31は半截竹管を原体に横位の刺突を加える	有	30黒褐色。31にぶい赤褐色。28	Ⅱ-3 C	
31-34	28は巾6mm、34は巾8mmの半截竹管によりコンパス文、平行沈線文が施文される。	有	暗褐色。34にぶい褐色。	D E	
39-80	単節R Lの斜行縄文-44、61、69、同L R-45、46、50、71、同R L、L Rの羽状縄文-39、40、42、55-59、62-65、67、68、70、72～76、78、79、80、無節R r-51、52、66、同L r-59、同R r、L rの羽状縄文-47、単節R L無節L rの羽状縄文-54、附加条1種L R+L r-43、同L R+r-48、同R L+r-49、同R L+r E、L R+L rの羽状縄文-60、77、附加条3種で2本附加させたものか、単軸結条体なのかはっきりしない。格子目状になる。53は棒状の原体による刺突を横位に連続して刺突。80の底部は上げ底。	有	39、43、53、56、64、65黒褐色。42、54、55、58、71、73、79橙。44、57、59、70、75、76にぶい褐色。45、60、63、66、72灰褐色。67、68、77浅黄褐色。52黄褐色。他にぶい赤褐色。	Ⅱ-4 B C D	
81-116	巾2～5mmの半截竹管を1～数本単位で平行沈線を施文。平行沈線は間隔をあけて横位に施文されるが、口縁部においては、波状口縁に平行するように施文される。文様は、口縁では波頂部に渦巻や弧状-84、87、89、96に施文される。胴部では、胴部膨らみ部の横位の沈線間に弧状、渦巻状の文様を構成する。地文の縄文は単節R L-81、89-92、97-101、103、104、107、111、114、	無	81、86、87、92、96、104、106、119にぶい褐色。84、98、114灰褐色。95、111にぶい褐色。100褐色。他にぶい赤褐色。	Ⅲ-1 E F	

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
117~118 138~140	115, 無彫L r-94, 105, 169, 同R r-116, 84は原形不明, 87, 90, 96はボタン状, 88, 119は棒状の小突起が施文される。93は波状口縁の頂部が把手状になったもの。 巾2~4mmの半截竹管を束ねて集合沈線化したもの, もしくは、連続して施文し、集合沈線状にした土器。口縁部は117, 118では屈曲部より上を矢羽根状に施文し、屈曲以下を横位に施文。胴部は木葉状の弧線や縦位、横位の矢羽根状の文様を構成する。底部近くでは、木葉状、矢羽根状の文様を区画する横位の施文がみられる-129, 130, 135, 137地文に縄文を持つ土器は多い。単彫R L-121, 126, 127, 129~132, 同L R-120, 128, 136, 沈線施文後ボタン状の貼付がされる土器もある。	無	117, 118, 120, 128~130, 135~137にぶい橙, 121, 126にぶい靑, 125, 139, 140, 142灰褐, 127, 131黒褐, 141黄褐色, 132緑暗赤褐, 他にぶい赤褐。	117, 118 III-1 G III-1 H I	
10~14	底部片, 143は巾3mmの半截竹管による平行沈線が間隔をあけて横位に施文される。144は木葉状の弧線文と、底部には、横位に施文。	無	にぶい橙。	III-1 E III-1 H III-5 A	
16~30	単彫R Lの斜行縄文-145, 147, 148, 150~154, 156~163, 同L R-155, 同R L, L Rの羽状縄文-149, 155, 無彫L r-146。	無	145~148, 151~153, 156, 157, 159, 162, 163にぶい赤褐, 149, 154, 160, 161にぶい橙, 150黒褐, 155, 158褐。	III-5 A B	
34	無文、口唇に凹凸文。	無	にぶい赤褐。	III-2 A	
36	有孔浅鉢口縁部。無文。口唇直下に径7mmの孔が穿たれる。	無	にぶい赤褐。	III-6	
106~111	土製円盤, 171は土製残片。166~169は縦線含む。168, 169は単彫L R, 170は平行沈線。縁片は打ち欠いて彫形している。169は縁を削いている。171は側面に三角文。	無	166黒褐, 167~169にぶい褐, 170~171にぶい橙。	III-5 A	
112~125	底部を一括した。173は無文。他は単彫R Lの斜行縄文。底部径は174が8.1cm, 175が8.4cm。	無	172, 174にぶい橙, 173灰褐, 175にぶい赤褐。	III-5 A	
126~127	口縁部に直直に条線文を持つ。176は巾5mmの半截竹管による平行沈線で弧状に文様を構成する。177は巾5mmの半截竹管により文様帯を区画し巾の狭い半截竹管による爪形文を充塞する。両律式土器。	無	176にぶい赤褐, 177黄褐色。	III-2 A	
128	巾8mmの竹管状工具による縦歯状文。	無	黒褐。		

99号 a・b・c 住居址出土土器 (第235~239図 写真91・133・134)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾2mmの半截竹管を数本束ねた原形による集合沈線。口縁に横位に施文し、胴部を縦位の沈線で区画し、木葉状の弧線と縦位の矢羽根状の文様を交互に施す。沈線施文後口唇部の削み、ボタン状棒状の貼付を行なう。口径21.0cm, 現高11.3cm。	無	明黄褐, 砂粒多い。焼成良。	III-1 J	口縁~胴部 %残存
2	無彫L rの斜行縄文。胴部上径22.4cm, 現高21.7cm。	無	赤褐, 砂粒少ない。焼成良。	III-5 A	埋没土器 胴部%残存
3	巾4mmの半截竹管を数本単位に連続して施文し、集合沈線状になっている。縦区画の沈線と、縦位の矢羽根状、木葉状の弧線文様が交互に施文される。沈線施文後、ボタン状、棒状の貼付を行なう。胴部上径17.0cm, 胴部下径7.8cm, 現高16.1cm。	無	にぶい赤褐。砂粒を多く含む。焼成悪くザラつく。	III-1 I	埋没土器 胴部%残存
4	単彫R LとL Rの羽状縄文で菱形状に施文。L Rは0段多束。推定口径26.8cm。	有	橙。小砂を含む。焼成良。	II-4 D	口縁~胴部 %残存
5	単彫R Lと附加条1種L R+L rによる羽状縄文で菱形状に施文する。	有	明褐。砂粒多く焼成悪くザラつく。	II-4 B	胴部破片
6	巾6mmの半截竹管による平行沈線により縦歯状に施文。瘤状貼付文。胴部は単彫R L, L Rの羽状縄文。	有	橙。	II-1 A	
7	棒状体により、口縁に直直に2段の圧痕を施文。	有	黒褐。	II-4 B	
8	棒状の原形による刷毛。	有	黒褐。	II-2 A	
9~12	半截竹管による爪形文を列点状に施文。	有	10, 11にぶい赤褐。	II-2 B	
18	巾4~7mmの半截竹管による平行沈線。19, 21は菱形に施文される。12は口縁に単彫R Lの縄文が施文される。19は、口縁波頂部から直直に陰帯が貼付され、口唇部とともに削がつけられる。	有	12, 19にぶい橙, 9, 18黄褐, 21にぶい赤褐。	II-2 C	
13~17	巾6~12mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。沈線を施文後沈	有	13黄褐, 14, 15, 17にぶい	14~17・20	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	織造	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
20 22~25 26・29 30	線内に爪形文を充填。13~17、20は他に比べ施文具の巾が広く菱形の文様構成をし、地文に縄文を持たない。23、24、30は肋骨文状に施文される。23~25、28~30は地文に単節R L、L Rの縄文を持ち、23、24、29は羽状になる。22は円形の瘤状の貼付がされる。		褐。16、20、25、28に白い橙。22~24、29、30に白い赤褐。	II-2 B 他 II-3 A	
26・27 31~67	巾5mmの平行沈線。26は肋骨文、27はコンパス文を施文。単節R Lの斜行縄文-37、38、43、45~48、64、同L R-32、42、44、65。同R L、L Rの羽状縄文-31、33、39~41、51、52、54、60、63。無節L R-55。同R L。L Rの羽状縄文-53。直前段反照R L-34。前々段反照R L L-49、50。直前段合照の羽状縄文L<上>、R<上>-61。附加糸1種R L+R L、L R+L Rの羽状縄文-36、56。絡糸糸-57、58。L Rの麻体丘痕-59不明66、67、63。66は上げ底の底部。	有 有	26灰褐。27に白い赤褐。36、39、45、51、55、67に白い橙。44、48、54、61に白い橙。66黄橙。42、45、53黒褐。43に白い黄褐。他に白い赤褐。	II-3 II-4 B C D	
68~76 78~80	巾2~5mmの半載竹管による平行沈線。1~3本単位に間隔をあけて横位に施文。沈線間に渦巻や、斜位の文様帯を構成する68、71、80、74、75は沈線内に矢羽根状に刻みを施文。地文の縄文は68~73、79が単節R Lの斜行縄文。	無	68、70、73、76に白褐。72、74、75、78に白褐。69、71、79、80に白赤褐。	III-1 E	
77	浮線文の土器。浮線の上に矢羽根状の刻みがある。	無	に白橙。	III-1 D	
81~99	巾2~3mmの半載竹管を数本束ねた原形による集合沈線。口縁部は横位の沈線で割部文様帯と区画する。割部文様は、木葉状の渦線、縦位の矢羽根状の文様で構成される。98、99は、葉歯状、格子目状の文様が施文される。81は波状口縁の波状部で、口縁に並行する沈線と、口縁部に矢羽根状の文様を構成する。82~84は口唇部に凹凸文が施文される。92、97は地文に単節L Rの斜行縄文が施文される。	無 無	81、83灰褐。85、92黒褐。82、84、87、90、99に白橙。86、88、89、91、93~96、98に白橙。97に白い赤褐。	III-1 H I	81、85同一 個体?
100~118	縄文のみの土器。単節R Lの斜行縄文-103、107、112~116、118、同L R-104~106、108、110、117。R L、L Rの羽状縄文-102、109、111、102、103は口唇部にも縄文が施文される。102は口唇に「一」状の粘土紐が貼付される。	無	100、101、105、106、109、117に白赤褐。102~104、110、111黒褐。112、114に白褐。他に白橙。	102 III-3 A 他III-5 A B	
119~121	底面。119、120は単節R Lの斜行縄文。121は半載竹管による横位の平行沈線。120は底面は木重収があり、上げ底になっている。121は底面近く無文帯になる。	無	に白赤褐。	121 III-1 E 他III-5 A	
122	有孔複雑網目。無文。表面は良く磨かれている。		に白赤褐。	III-6	
123~128	土製陶片。123、124は底面片を利用。無文。織造を含まない。123は縁を良く磨いている。125~128は織造を含む。縄文を文様とする。縁は打ち欠いて整形した後、若干磨かれている。		に白橙。		

100号住居址出土土器 (第243回 写真91・134)

番号	文 様 の 観 察	織造	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	胴上部で屈曲し、内湾する口縁になる。巾8mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線内に爪形文が充填される。屈曲部上の文様は、上下2段、縦に8分割し、その間を斜位に菱形文を構成する。横位、縦位の爪形文が交わる部分には円形竹管による刺突が行なわれる。地文には、単節R L、L Rの羽状縄文が施文される。口径24.8cm、胴部下径16.8cm、現高15.0cm。	有	明赤褐。砂粒少。焼成良。	II-3 A	埋設土器 口縁部残存
2	羽状縄文が施文されるが磨滅が多くはつきりしない。	多	明褐。	II-4 D	
3~6	巾6mmの半載竹管による格子状の平行沈線と、爪形文。	少	3に白橙。4~6浅黄橙。7に白赤褐。	II-3 A	
7~14	単節R Lの斜行縄文-10~14。同L R-9。同L R、R Lの羽状縄文7、8。11~14は織造が極少量か、含まない。	少	9に白橙。7、8、10、11~14に白赤褐。	II-4 C D	

第4節 縄文時代の出土遺物

102号住居址出土土器 (第244・245図 写真91・134)

番 号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考	
1	有孔浅鉢。無文。表面良く磨かれている。口唇直下に径5mmの孔が3cm間隔で穿たれる。口径20.4cm。最大径28cm。現高6.8cm。	無	明赤褐。砂粒少量含む。焼成良。	Ⅲ-6	写残存	
2	巾4mmの半截竹管により間隔をあけて横位に平行沈線を描文する口縁は「く」の字状に屈曲し、波状口縁になる。口縁波状部に、弧線が施文され、文様帯を構成する。推定口径28.8cm。	無	明赤褐。	Ⅲ-1 F		
4	巾9mmの爪形文。縄文は単節LRの斜行縄文。	有	黒褐。	Ⅱ-2 B		
5~10	単節LR-7、8。同LR、LR羽状縄文-9、10。附加糸1種RL+R ϵ -5、6。10は0段多糸。	有	5黄褐。6にぶい黄橙。7 9にぶい橙。8、10にぶい 褐。 D	Ⅱ-4 B C		
11	巾2mmの半截竹管を束ねた原体による集合沈線を描文。深弁の把手になる。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 H		
12・13	巾2~4mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文	無	12、13、15、18黄褐。17黒 褐。19暗灰褐。19暗灰黄。 20にぶい褐。	Ⅲ-1 E		
15	15は単節RL、17、18は無節LRの斜行縄文を描文。20は縦位にも沈線が施文される。					
17~20	21	土製品。縁に刻みが施文される。	無	14にぶい黄褐。16淡黄。22 灰赤。23、25にぶい赤褐。	Ⅲ-1 H	
14・16	巾2~3mmの半截竹管による集合沈線。16は口縁部で横位に施文	無				
22・23	され、刻みのある棒状の粘土紐を付けられる。					
25	29	巾3mmの半截竹管を1~2本単位に平行沈線を描文する。横位の沈線には、矢羽根状に刻みが付けられる。地文に単節RLの縄文。	無	にぶい橙。30、31にぶい赤 褐。	Ⅲ-1 F	
30・31	巾3mmの半截竹管による平行沈線。横位、弧線を構成する。地文に単節RLの斜行縄文を持つ。	無		Ⅲ-1 H		
24・32	単節RLの斜行縄文-24、26、32。同LR-27、28。32は口唇に	無	24にぶい橙。26、27、28、 32にぶい赤褐。	Ⅲ-5 A		
26~28	指環による凹凸があり、焼成前に径15mmの孔が穿たれている。					
33	無文底部。径7.8cm。	無	灰褐。	Ⅲ-5 C		

103号住居址出土土器 (第247~249図 写真91・134・135)

番 号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾4mmの半截竹管を2~3本単位に平行沈線を描文。縦位の沈線で6単位に文様帯を分割し、木葉状の弧線を充填する。文様帯下は横位の沈線が施文される。地文は単節LRの斜行縄文。胴部上径18.2cm。胴部下径13.1cm。現高11.1cm。	無	明黄褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-1 H	埋設土器 胴部完形
2	巾2mmの半截竹管を数本束ねた原体による集合沈線。横位の沈線を描文し、割くびれ部と、膨らみ部に斜位の沈線、矢羽根状の沈線が施文される。胴部上径13.0cm。胴部下径10.8cm。現高12.0cm。	無	明黄褐。砂粒多く含む。焼成良。	Ⅲ-1 G	埋設土器 胴部完形
3~11	巾3~8mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線内に爪形文を描文。3は口縁に垂直に棒状の原体による刺突が加えられる。8、9は押し引きによる爪形文。8~10、16~21は爪形文の巾が他に比べ狭く4mm程度である。16~21は縄文が施文される。単節RL-19、21。同LR-17、18。LR、RLの羽状縄文-16、20。	有	3 3~5、11、19、20、21褐。 6~8、10、16、18にぶい 橙。9、15、17にぶい赤褐。 4~7 11、15 Ⅱ-2 B 他Ⅱ-3 A	3	
12~14	巾6mmの半截竹管による平行沈線。12、13は波状口縁で沈線も口縁に平行に施文される。	有	12にぶい橙。13灰褐。14に ぶい赤褐。	Ⅱ-2 C	
22~33	単節RLの斜行縄文-26、31、32、33。同LR-22~25。直前段反戻R<上>-28。0段多糸無節R ϵ 、L ϵ の羽状縄文-30、附加糸1種RL+R ϵ -27。同RL+R ϵ 、LR+L ϵ の羽状縄文-29。22は口縁に2列の刺突が加えられる。32は上げ底になる。	有	22~24、28~30にぶい褐。 25淡黄褐。26、27、31、32、 33にぶい橙。	Ⅱ-4 B C	
34~39	巾3~5mmの半截竹管を1~2本単位で平行沈線を描文する。横位に間隔をあけて施文する。口縁は「く」の字状に屈曲し、波状を呈する。37は口縁部に斜位の平行沈線を描文。35、37、39は単節RL、36は無節LRの斜行縄文を地文に持つ。	無	34、35、48赤褐。36、38、 39にぶい橙。37、41にぶい 褐。49灰褐。	Ⅲ-1 E F	37、41は同 一物体?
42・43	半截竹管を数本単位に連続して横位に施文する。43、46は無節LRの縄文を地文に持つ。	無	42にぶい赤褐。43、46にぶ い橙。	Ⅲ-1 E	
46	巾4mmの半截竹管による平行沈線を描文。木葉状の弧線、矢羽根状の文様を構成する。口縁部にボタン状の貼付がされる。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 I	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
44・45 47・50 52・53 54	巾2mmの半軟竹管を束ねた原体による集合沈線。44、45、47は口縁に矢羽根状、横位の沈線を施す。胴部は弧線状、縦位の矢羽根状の文様を施す。44、45、47、52はボタン状、棒状の貼付文あり、竹管による刺突がボタン状貼付文に加えられる。	無	44に赤褐色。45、47、50、52に赤褐色。53に赤褐色。	Ⅲ-1 H I	
51 55 56 61~64	縄文の土器。すべて単節R L。63は胴部に円形竹管による刺突が加えられる。	無	51灰褐色。55明赤褐色。56、61、63、64に赤褐色。62に赤褐色。	51 Ⅲ-1 J 他 Ⅲ-5 A Ⅲ-1 E	
60・65	巾3mmの半軟竹管による横位の平行沈線。底部近くは無文帯になる。	無	60、65に赤褐色。	Ⅲ-1 E	
57~59	土製円盤。58は単節R L。57、59ははっきりしない。縁を打ち欠いて盤形し、57、58は磨り痕がある。	有	57浅黄褐色。58、59に赤褐色。		

104号住居址出土土器 (第253~256図 写真91・135)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3mmの半軟竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけて横位に施文。胴部の膨らみ部に文様帯を持ち、渦巻や、弧状の文様構成をする。地文に単節R Lの斜行縄文。胴部上径20.6cm。胴部下径10.4cm。現高24.8cm。文様帯は4単位で分割できる。	無	明黄褐色。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器 胴部完形
4~7	2節状の原体による横位の刺突。文様帯以下に単節R Lの斜行縄文。巾4~7mmの半軟竹管による平行沈線と爪形文。4、6、7は菱形を構成する。5は肋骨文系に施文され、地文に単節R L、L Rの羽状縄文。6は文様帯下に単節R Lの縄文。	有	明赤褐色。 4明赤褐色。5灰褐色。6黒褐色。7に赤褐色。	Ⅱ-2 D 5 Ⅱ-3 A 他Ⅱ-2 B	
8~26	3 単節R Lの斜行縄文-14、24。同L R-3、10、19。同R L、L Rの羽状縄文-8、9、13、18、20、23、25。附加条1種R L+R L-21。R L+L、R Lの羽状縄文-11。同R L、L R+L Rの各条に1本づつ附加したもの-15。L R+Lの2本附加-26。附加条3種-12、17。燃糸-16。直前段反摺R L+L、L L+L L-22。	有	9、18、23に赤褐色。13、21黒褐色。15に赤褐色。26に赤褐色。他に赤褐色。	Ⅱ-4 B C D	
27~41	巾3~5mmの半軟竹管による平行沈線。横位に間隔をあけて施文する。36、40は渦巻渦巻状の文様を持つ。35は波状になる口縁部くつ先状に屈曲する口縁が膨大して把手状になる。側面に渦巻状の文様を構成する。31、32、40は単節R L。37、38は単節L Rの斜行縄文を地文に持つ。38は胴部の屈曲部に円形竹管による刺突が列状に施文される。	無	27、28、35、36に赤褐色。29に赤褐色。30~32灰褐色。33、34、37、38、40、41に赤褐色。39黒褐色。	Ⅲ-1 E F	
42・43	巾2mmの4本歯の繩状の原体による横位、波状の平行沈線が施文される。43は円形竹管の刺突も加えられる。	無	に赤褐色。	Ⅲ-1 B	
44	浮線文に矢羽根状の刻みが付けられる。	無	に赤褐色。	Ⅲ-1 D	
45	深鉢に付けられる棒状の粘土帯。	無	に赤褐色。	Ⅲ-1 A V	後期
46	沈線間にL Rの斜行縄文。	無	暗褐色。		
47	巾4mmの半軟竹管による格子目文様。沈線施文後、棒状の貼付文が施される。	無	灰褐色。	Ⅲ-1 I	
48・49	巾2~3mmの半軟竹管を束ねた原体による集合沈線。木葉状の弧線を施文。	無	48褐色。49褐色。	Ⅲ-1 H	
50~55	縄文のみの土器。単節R Lの斜行縄文-51、53、57~59。同L R-52。無節L R-54。	無	51暗褐色。52灰褐色。55に赤褐色。他に赤褐色。	Ⅲ-5 A	
60・61	土製円盤。60は縦線有。61は縦線無。60はR L、L Rの羽状縄文61はR L。両者とも縁が良く磨かれている。	無	60褐色。61に赤褐色。		
56・63 64	半軟竹管による横位の平行沈線。原体巾3~4mm。56、63は地文に単節R Lを施文。	無	56に赤褐色。63黄褐色。64に赤褐色。	Ⅲ-1 E	
62	有孔浅鉢口縁部。口唇直下に径5~6mmの孔が4cm間隔で穿たれる。口径10.4cm。	無	明赤褐色。金言母含む。焼成良。	Ⅲ-6	

107号住居址出土土器 (第261~267図 写真92・135~137)

番号	文様の観察	編組	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単節 R L の斜行縄文。口径29.7cm, 胴部下径11.8cm, 現高26.0cm,	無	黄褐色。砂粒少。焼成良。	III-5 A	床直出土
2	6単位の外反する波状口縁。口縁に垂直に条線文があり、その下に2単位の櫛歯状の原体。半截竹管による平行沈線で、横位、波状、菱形に施文する。胴部下半は無文。推定口径32cm。	無	無。	III-2 E	胴部残存
3	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文。縦位の沈線で胴部文様帯を区画し、木葉状の弧線、矢羽根状の沈線で充満する。胴部上径13.9cm, 胴部下径12.0cm, 現高11.8cm。	無	無。砂粒少, ややザラつく。	III-1 I	胴部残存
4	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文する。口縁部と底部近くに横位の沈線を施す。胴部は木葉状の弧線で6単位の区画し、格子目状に沈線で充満する。口径17.8cm, 胴部下径8.0cm, 現高19.8cm。	無	黄褐色。径1mmの小粒を含む。焼成良。	III-1 I	
5	巾4mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけて、横位に施文。胴部の膨らみ部に横位の矢羽根状の文様を構成する。胴部上径19.3cm, 胴部下径8.8cm, 現高15.6cm。	無	明褐色。砂粒を含む。焼成良。	III-1 G	埋没土器 胴部欠形
6	有孔穴鉢口縁部。無文。表面温し磨かれている。口唇直下に径38cmの孔が7cm間隔で穿たれている。	無	無。	III-6	
7	巾6mmの平行沈線とコンパス文。	有	ふよい赤褐色。	II-3 E	
11	巾6mmの半截竹管による平行沈線。爪形文が横位に2列施文される。爪形文間には、単節 R L、L R の羽状縄文。	有	明赤褐色。	II-3 A	
8	平行沈線による変形文。	有	無。	II-1 C	開口式
9・10	巾5mmの半截竹管による平行沈線と、爪形文。沈線内に爪形文を充満する。12、15、18は肋骨文状に施文される。地文の縄文は、単節 R L、L R で、羽状縄文になるものが多い。	有	9、10、14、17にふよい赤褐色、12、15、18褐色、13にふよい褐色、16褐色。	II-3 A	
12~18					
19~41	単節 R L の斜行縄文-20、23、28、同 R L-31、32、41、同 R L L R の羽状縄文-19、21~27、29、30、37、38、40、附加条1種 R L + R 2 -33、36、同 L R + 2 -34、同 R L + R 2、L R + L R の羽状縄文-35、不明39。	有	39、20、22、23、30、35、38、40にふよい赤褐色、24~26、28暗褐色、21灰褐色、33暗褐色、41褐色。他にふよい褐色。	II-4 B C D	
42~48	巾2~3mmの半截竹管による平行沈線。1~4本単位で施文する。口縁部に横位の施文がされる。46~48、51は、口縁が大きく外反し、くつ先状の波状口縁になる。口縁側面部に櫛歯状、木葉状の弧線を施文する。他の口縁部破片でも、口縁の波頂部ではボタン状、棒状の貼付や、渦巻、三角状の文様が施文される。胴部は数本単位で間隔をあけて横位に施文する。沈線間に渦巻、弧線、縦位の沈線、横位の矢羽根状沈線などの文様帯が作られる。60~62、68~72、65、67は円形竹管による刺突が加えられる。地文の縄文は単節 R L-59、60、62、64~66、70、76、L R-63 L R-74などである。	無	43、57、70暗褐色、47灰褐色、46、51、55、60、61、64、71にふよい褐色、63、65、67、72にふよい褐色、69黄褐色。他にふよい赤褐色。	68、71 III-1 H III-1 E F	
49	巾2~3mmの半截竹管を数本重ねた原体による集合沈線。口縁部は横位の沈線を施し、胴部は縦位の沈線による区画線と、木葉状の弧線によって施文される。79は口唇上、口縁部に2段の半截竹管による凹凸文が施文される。80は口縁部曲部に半截竹管の刺突文とボタン状貼付文が施文される。53、54、79は棒状の貼付が、口縁の内側に2箇所に施される。	無	49、52、77~80にふよい赤褐色、53にふよい褐色、54にふよい褐色。	III-1 H I	
52~54					
77~80					
81・82	波状口縁、巾2mmの半截竹管による集合沈線。46、48と同様の器形をする。	無	ふよい褐色。	III-1 F	
83~90	巾2~3mmの半截竹管による集合沈線。口縁、底部では横位に施文され、胴部で木葉状の弧線、縦位の矢羽根状の沈線などが施文される。86は単節 R L の斜行縄文を地文にもつ。	無	83、85~89にふよい赤褐色、84黒褐色、90にふよい褐色。	III-1 H I	
91~94	縄文のみの土器を一括した。単節 R L の斜行縄文-92~97、100~103、同 R L、L R の羽状縄文-99、104、単節 R 2 -91、同 L R-106、まばらに施文の熱余文と思われる-98、94は口唇部に凹凸文が、また95~97には「X」字状の刺みが施文される。104は棒状の貼付文が施される。106は胴部径12.3cm。	無	92、98灰褐色、93、94褐色、102、104褐色、103黄褐色、100明赤褐色。他にふよい赤褐色。	104 III-1 J 他	
95	浮線文に刺みが施文される。	無	褐色。	III-1 D	A B
96	巾2mmの半截竹管による集合沈線文。胴部は木葉状の弧線と横位の沈線。地文に単節 R L の斜行縄文。胴部最大径14.4cm。	無	明褐色。	III-1 H	
100~111	底部片。108は無節 L R の斜行縄文。109、110は単節 R L の斜行縄文。111は半截竹管による横位の平行沈線文。底部径は108~102cm。	無	108、110褐色、109、111明赤褐色。	111 III-1 E	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	編組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
109-11, 1cm, 111-8, 9cm,					
102	巾3mmの半載竹管による平行沈線。横位に施文後、横位の矢羽根状に施文。口唇部に凹凸文が施文される。	無	無	III-5 A III-2 A	
103	有孔浅鉢口縁部。径3mmの孔が焼成前に穿たれる。口縁部には、3条の沈線が施文される。	無	無 明赤褐。金雲母を含む。ややザラつく。	III-6	
104	口縁に垂直に半線と大きな凹凸文が施文される。異洋式土器。	無	無 にぶい黄褐色。	III-2 A	
105	口唇と屈曲部に凹凸文が施文され、その間に平行沈線文を持つ。	無	無 黒褐。	III-2 A	
106	巾4mmの半載竹管による爪形文と、縦位の断赤文。	無	有 にぶい赤褐。	II-3 A	
107-108	巾2～3mmの半載竹管による平行沈線が横位に施文される。地文に波状貝殻文が施文される。異洋式土器。	無	無 117にぶい黄褐色。118, 119黒褐。	III-2 B	
109-103	土製円盤。120は無節R L、121は単節R Lの縄文。土器片の縁を打ち欠いて整形し、若干磨滅している。	有	有 120, 121にぶい黄褐色。		

109号住居址出土土器 (第272～274図 写真92・93・137)

番号	文 様 の 観 察	編組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾4mmの半載竹管による平行沈線。3本単位で横位に間隔をあけて施文する。胴部くびれ部に弧状の文様が構成される。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。文様帯は7単位で構成されている。胴部上径27.0cm, 胴部下径20.7cm, 現高20.4cm。	無	無 淡黄褐。砂粒を少量含む。焼成良。	III-1 E	埋設土器 胴部欠形
2	巾5mmの半載竹管による平行沈線が屈曲部をあけて横位に施文される。縄文は沈線屈曲部より下に単節R Lの斜行縄文が施文される。胴部上径8.5cm, 胴部下径13.0cm, 現高11.5cm。	無	無 無。砂粒。黒色の雲母を含む。ややザラつく。	III-1 F	埋設土器 胴部欠形
3	巾4mmの半載竹管を連続して施文し、集合沈線状にしている。口縁から頸部にかけて横位の沈線が施文される。胴部には縦位の文様帯を区画する沈線が施文され、その間を木葉状の弧線によって充填されている。口縁部にはボタン状、棒状の貼付文が交互に施される。ボタン状の貼付文は2個1組で対になっているが脱落している。推定口径26.4cm。	無	無 暗褐。砂粒少い。焼成良好。	III-1 I	口縁片残存
4	単節R L、L Rの羽状縄文を施している。胴部下半では縄文を磨り消している。現高15.5cm。	無	無 無。砂粒少い。焼成良。	III-5 B	胴部片残存
5	巾5mmの半載竹管による平行沈線を右から左に横位の断文。地文に単節R L、L Rの羽状縄文を施文。胴部径22.1cm, 現高7.7cm。	無	無 無。砂粒を含む。焼成良。	III-1 E	埋設土器 胴部片残存
6	巾3mmの半載竹管を数本束ねた集合沈線。口縁部は横位の矢羽根、頸部は横位の沈線、胴部は縦位の沈線間を縦位の矢羽根、木葉状の弧線で充填する。推定口径28.2cm, 現高12.8cm。	無	無 暗褐。砂粒少い。焼成良く堅い。	III-1 I	
7～9	有孔浅鉢口縁部。無文。口唇直下の孔の径は、7-7mm, 8-7mm, 9-9mmである。口径は、7-22.3cm, 8-28.4cm, 9-28.8cm。	無	無 7明赤褐。8橙。9暗赤褐。	III-6	
10・11	巾3～4mmの半載竹管による平行沈線。	有	有 10にぶい黄褐色。11黒褐。12にぶい褐。	II-3 B	
12					
13-19	無節Rの斜行縄文-13, 同L R-14, 単節R L、L Rの羽状縄文-17, 19, 単節R L-16, 附加条1種R L+R-10, 無節RのL Rの羽状縄文-18。	有	有 13, 14にぶい褐。15にぶい黄褐色。18黄褐。19黒褐。他無。	II-4 B C D	
20-29	巾2～5mmの半載竹管による平行沈線。1～2本単位に施文するが、24, 25は連続して施文し、集合沈線状にしている。24は口縁部に弧線。25は沈線間に矢羽根状の沈線を施文する。21, 24は口縁部にボタン状の小突起が付けられる。20は沈線内に刺突が加えられる。20, 28, 29は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	無 20, 25, 27褐。23にぶい黄褐色。26にぶい褐。他にぶい赤褐。	20, 21 III-1 F 24, 25 III-1 G	他III-1 E
30-44	巾2～4mmの半載竹管による沈線を施文。30, 31, 33, 34, 36, 43は縁に横位の区画線が施文される。32, 35, 37は矢羽根状の文様が施文される。胴部は木葉状の弧線。縦位の矢羽根状の沈線が施文される。34は口唇に凹凸文が施文される。ボタン状、棒状の貼付文が30-35, 37, 38, 43, 44では沈線施文後加えられる。沈線は、半載竹管による平行沈線と、それを束ねた棒状の原体による集合沈線が施文されるものがある。	無	無 30, 39, 40黄褐色。31-33, 36, 37, 43にぶい赤褐。34, 38, 41褐。35, 42にぶい橙。44黄褐色。	III-1 H I	
45	口唇に条線文を持ち、口縁部は、横位沈線や、矢羽根状の沈線が	無	有 にぶい橙。	III-2 A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番 号	文 様 の 観 察	繊維	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
46~49	施文される。原体は巾3mmの半截竹管。浮島系の土器か。 口縁はゆるい波状を呈する。沈線により文様を区画し、沈線間に貝殻の敷文を充填する。沈線間で貝殻敷文を磨り消して無文帯を作り出している部分もある。興津式土器。	無	46, 47, 49に赤い焼。48に赤い焼。	III-2 C	
50	口唇に条線文。貝殻敷文。	無	黄焼。	III-2 A	
51	貝殻敷文による波状貝殻文。	無	赤い赤焼。	III-2 B	
52	口唇部に凹凸文。平行沈線文。	無	赤い赤焼。	III-2 A	
53	口唇部に条線文。腹部単節R Lの斜行縄文。	無	赤い赤焼。	III-2 A	
54	貝殻敷文と沈線。	無	赤い赤焼。	III-2 C	
55~58	単節R Lの斜行縄文-55, 58, 同L R-56, 無節L Rの斜行縄文-58。	無	55に赤い赤焼, 57, 58に赤い赤焼, 56に赤い赤焼。	III-5 A	
60	単節L Rの斜行縄文と、弧線。	無	赤い赤焼。	V	
61・62	腹部を利用した土製円盤。無文。61は縁は磨かれている。62は打ち欠いた状態。	無	61に赤い赤焼, 62に赤い赤焼。		
63~70	底面を一掃した。63は単節R Lの斜行縄文。66~68, 70は横位の平行沈線。64, 65, 69は無文か文様がはっきりしない。69は若干上げ底になる。	無	59, 63, 66, 67に赤い赤焼, 64, 65, 70焼, 68, 69に赤い赤焼。	III-1 E III-5 A III-5 C	

110号 a・b住居址出土土器 (第279~281図 写真93・137・138)

番 号	文 様 の 観 察	繊維	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	無文。表面荒れている。口径24cm, 直径8cm, 現高23.5cm。	多	明黄焼。砂粒多い。焼成不。	II-4 E	胴部片残存
2	単節R L, L Rの羽状縄文で菱形を構成する。推定口径25cm。	多	赤い赤焼。	II-4 D	
3	無節L Rの斜行縄文。口径16cm, 胴部下径14.6cm, 現高16cm。	多	赤い赤焼。	II-4 C	
4	単節R LとL Rにより羽状縄文で菱形を構成する。胴部上径22cm。	有	赤焼。	II-4 D	
5	単節R L, L Rの羽状縄文により菱形を構成する。	有	赤焼。小礫を含む。焼成良。	II-4 D	
6	単節L Rと附加条1種L R+L Rによる羽状縄文で、菱形を構成する。	有	赤焼。小礫を含む。焼成良。	II-4 B	
7	単節R L, L Rの羽状縄文により菱形を構成する。	有	赤い赤焼。	II-4 D	
8~15	巾6~10mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。沈線内に爪形文を充填する。9, 11は、菱形や渦巻状になり口縁部文様帯と胴部の境には横位に施文される。12, 13は爪形文の間隔がやや広く施文される。胴部には単節R L, L Rの縄文が施文される。	有	8, 17に赤い赤焼, 9, 10, 15に赤い赤焼, 11, 12, 19焼, 13に赤い赤焼, 14灰焼。	II-2 B II-3 A	
16・18	巾6~8mmの半截竹管による平行沈線。沈線により、菱形の文様を構成する。	有	16黒焼, 18に赤い赤焼。	II-2 C	
20	巾5mmの半截竹管による平行沈線。波状に施文される。	有	赤い赤焼。	II-3 B	
21	巾4mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	赤い赤焼。	II-3 A	
22~57	単節R Lの斜行縄文-25, 27, 28, 33, 50, 54, 同L R-26, 30, 43, 55, 同R L, L Rの羽状縄文-22, 23, 45~49, 51~53, 56, 無節R Lの斜行縄文-29, 32, 同L R-57, 附加条1種L R+L R 2本附加-34, R L+R-35, 38, 39, R L+R, L R+Lの羽状縄文-40, 附加条3種-24, 44, 然赤文-36, 37, 41, 42, 31は無文で、粘土が瘤状に付いている。56, 57は上げ底になる。	有	26黒焼, 34, 35, 38, 49灰焼, 31, 33, 36, 39, 40, 42, 44~45, 55に赤い赤焼, 41, 43, 46, 48, 52, 57に赤い赤焼, 他に赤い赤焼。	C D	
58~62	条線土器で58~60は表面とも条痕。61, 62は表面は無節の縄文で裏面に条痕を施している。	有	58~62に赤い赤焼。	I-1 A	

111号住居址出土土器 (第284~293図 写真93~95・138)

番 号	文 様 の 観 察	繊維	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	単節R L, L Rの羽状縄文により菱形を構成する。口縁は外反し胴部に膨らみを持つ。口径28.6cm, 直径7.6cm, 現高38.6cm。	多	明焼。砂粒少ない。焼成良。	II-4 D	胴部片残存
2	単節R L, L Rの羽状縄文により菱形を構成する。口縁は外反ぎみに広がる。推定口径28.4cm。	多	赤い赤焼。小礫を含む。焼成良。	II-4 D	
3	単節R L, L Rの羽状縄文により菱形を構成する。口縁は外反する推定口径27.6cm。	多	灰焼。砂粒含む。焼成良。	II-4 D	

第1章 検出された遺構と遺物

番 号	文 様 の 観 察	織 組	顔 土・染成・色調	分 類	備 考
4	巾9mmの半載竹管による平行沈線、爪形文。沈線内に爪形文を充填する。口縁に平行に施文され、口縁被状部で三角形に文様が構成される。推定口径36cm。	多	にぶい赤褐。小塵を含む。焼成良。	II-2 B	
5	口縁はやや反外し、胴部に膨らみを持つ。単節 R L、L R の羽状織文。砂粒少量含む。口径15.4cm。胴部下径5.6cm、現高18.0cm。	有	にぶい橙。砂粒を少量含む。焼成良。	II-4 D	口縁胴部残存
6	口縁は反外し、胴部は膨らみを持つ。単節 R L、L R の羽状織文により菱形を構成する。口径40.4cm。	有	にぶい橙。砂粒を含む。焼成良。	II-4 D	
7	単節 R L、L R の羽状織文により菱形を構成する。	有	明赤褐。	II-4 D	
8	巾8mmの半載竹管による平行沈線を施文。口縁部は、菱形に文様構成される。地文に直前段合熱 R < 上、L < 上による羽状織文が施文される。	有	暗赤褐。	II-2 C	
16	単節 R L、L R の羽状織文。	有	褐。	II-4 D	
9~15	底部を一括した。単節 R L-11, 13, 20, 同 L R-14, 同 R L、	有	9, 12にぶい赤褐。10, 13にぶい黄橙。11, 14, 15, 17~20にぶい橙。	II-4 C	
17~20	L R の羽状織文-9, 10, 12, 15, 17~19は織文が施文されているがはっきりしない。底部は上げ底になる。底部径は9-8.8cm				
24~40	巾5-10mmの半載竹管による平行沈線、爪形文。沈線内に爪形文を充填する。波状口縁に平行するように施文され、菱形、三角形に文様が構成される。胴部との屈曲部には横位の沈線が施文され、文様帯を区画する。24, 27, 28は、口縁に垂直に帯状の突起文が施文される。地文に織文はない。25, 38, は口縁部に単節 R L、L R の羽状織文を持つ。胴部には、R L、L R の織文が施文される。	有	24, 27, 29, 30, 32~34, 36, 37, 53にぶい橙。25, 28, 40, 51暗褐。26, 35, 38, 39, 45, 52, 58, 59にぶい橙。31黄褐。50, 60にぶい赤褐。61黄褐。49褐。	24 II-2 D II-3 E 他 II-2 B	
41~44	巾6-10mmの半載竹管による平行沈線。口縁に平行に波状に施文され、文様は菱形、三角形を構成する。胴部との屈曲部には、横位の沈線によって区画されている。43は口唇に刻みが施文される口縁部文様帯に地文を持つものがある。43, 44は地文に単節 L R の斜行織文を持つ。胴部屈曲部以下には、R L、L R の織文が施文される。	有	41, 42, 44, 46, 48にぶい褐。43黄褐。47にぶい橙。54, 56褐。59暗赤灰。57にぶい赤褐。	II-2 C	
45	単節 R L の斜行織文-63~65, 67, 72~74, 81, 86, 94~96, 98,	有	63, 65, 70~73, 77, 78, 80~83, 85, 87~89, 95, 97, 100, 102, 127, 128, 134, 136, 139, 141, 145, 147~151, 153~159, 161橙。66~68, 101, 120, 140暗褐。90, 92, 113灰褐。他にぶい褐。	II-4 B C D	
49~53	99, 101, 121, 123, 147, 156~161, 同 L R-68, 70, 79, 83, 85, 92, 104, 154, 162, 163, 同 R L、L R の羽状織文-62, 69, 75~78, 80, 82, 84, 87, 97, 108, 102, 103, 105~107, 109, 110, 112, 113, 115, 116, 118~120, 122, 124~129, 131, 137, 138, 146, 148~153, 附加糸1種 R L + R-68, 91, 同 L R + 上-136, 同 R L、L R + 上-135, 同 R L + R、L R + L の羽状織文-90, 132, 133, 165, 166, 同 2種-117, 134, 無節羽状織文 R 上、L 上-108, 111, 114, 130, 144, 145, 同 R 上-155, 同 L 上-71, 直前段合熱 L < 上-88, 89, 同合熱 R < 上-139, 140, 同合熱 L < 上-141標赤文-92, 142, 143,				
62~103	具殿敷縁による施文。	有	明赤褐。	II-3 G	
107~108	竹管状の器体による刺突と、ゆるい波状の平行沈線。	有	にぶい橙。	II-3 D	
121~124	沈線による格子目状の施文。	有	にぶい橙。	II-3 F	
125~128	底部を一括した。単節 R L の斜行織文-178, 179, 182, 184, 190, 同 L R-176, 177, 180, R L、L R の羽状織文-181, 187, 無節 R 上-183, 191, 直前段合熱 L < 上-189, 無文-175, 186, 188, 半載竹管による爪形文185, 175, 176, 179, 185は上げ底になる。	有	175~178, 183, 184, 187, 185, 190, 191にぶい赤褐。186, 189褐。他にぶい橙。	II-3 A II-4 B C D	
131~138	土製円盤。土器片を利用して、織文が施文されている。縁はあまり磨かれておらず、打ち欠いた状態のものが多い。	有	192, 193, 195, 198褐, 194暗褐, 197黄褐。他にぶい橙。	III-1 E	
139~204	巾2-5mmの半載竹管による平行沈線。横位方向の施文を基本とする。300は口縁に縦位の施文。202, 204は高巻状の文様を構成する。単節 R L の斜行織文-204, 206, 207, 無節 L 上-206を地文に施文される。	無	199, 203灰褐。他にぶい橙。	III-1 E F	
205	単節 L R の斜行織文を地文に持ち、「へ」状の粘土細を貼付する大木系土器。	無	靑。	III-3 A	
208	横位に半載竹管による沈線を地文に持ち、沈線上に結節浮線が施	無	にぶい橙。	III-4 A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
28~31	文される。 単節 R L、L R の羽状縄文が施文される。ボタン状の貼付が、縄文の上から施される。	無	210 に近い赤褐色。209、211、212、213 に近い橙。	Ⅲ-1 J	

113号住居址出土土器 (第297~302図 写真95・96・140・141)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4mmの半載竹管による平行沈線。口縁部は波状を呈し、これに平行するように平行沈線が施文される。胴部は横位の施文で、膨らみ部に渦巻や弧状の沈線が施文される。口縁波頂部の口唇部に割みが付けられる。沈線内には、刺突が施される。地文には単節 R L の斜行縄文を持つ。推定口径28.8cm、現高19.5cm。	無	に白い橙。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	口縁→胴部 3/6残存
2	巾5mmの半載竹管を数本単位で間隔をあけて横位に施文。地文は単節 R L と L R の羽状縄文で、一部磨り消されている。胴部上径25cm、胴部下径18cm、現高16cm。	無	明赤褐色。砂粒を含む。若干ザラつく。	Ⅲ-1 E	増設土器 胴部完形
3	口縁は「く」の字状に屈曲し、4単位の波状となり頂部にボタン状の突起が貼付される。胴部下半に膨らみ部を持つ。文様は、巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位に施文し、集合沈線状にする。口縁部文様は口縁に平行して施文され、胴部は横位の沈線が間隔をあけて施文する。沈線間に横位方向の矢羽根状沈線を2段に施し、胴部膨らみに渦巻、弧状の文様を施文する。地文に単節 R L の斜行縄文を持つ。口径34.8cm、現高25.8cm。	無	無。砂粒を含む。焼成良くなくザラつく。	Ⅲ-1 G	口縁→胴部 残存
4	巾4mmの半載竹管による平行沈線を数本単位に横位に施文。地文に単節 R L の斜行縄文を持つが、一部消失している。胴部上径15.4cm、現高8.6cm。	無	赤褐色。砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	胴部3/4残存
5	巾3mmの半載竹管による平行沈線を連続して施文し集合沈線状にしている。横位に施文し、無文帯を作る。地文に縄文を持つが、磨り消されているため、はっきりしない。底径14cm、現高9cm。	無	明黄褐色。黒色砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	底部3/4残存
6	胴部上段に屈曲部があり、外反する口縁になると思われる。文様は、巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で横位に間隔をあけて施文する。胴部曲部に文様帯を持ち、縦位の沈線と「X」字状の文様を施文する。地文に単節 R L の斜行縄文を持つ。胴部上径27.3cm、胴部下径14.6cm、現高21.5cm。	無	無。	Ⅲ-1 F	
7	巾4mmの半載竹管による平行沈線。胴部は木葉状の弧線、矢羽根状に施文する。底径12.5cm、現高15.6cm。	無	無。黒雲母を含む。焼成良。	Ⅲ-1 H	胴部残存
8	口縁は「く」の字状に屈曲し、4単位の波状を呈する。波頂部に弧線の文様とボタン状の突起が施される。胴部は横位の平行沈線が数本単位に施文される。施文主体は巾3mmの半載竹管。地文に R L の斜行縄文を持つが、磨り消されている部分が多い。口径35cm、現高13.7cm。	無	に白い黄褐色。砂粒含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	口縁部3/4残存
9	巾3mmの半載竹管による平行沈線。胴部に木葉状の弧線を施文し底部では横位の沈線を2段に施す。沈線内には、刺突が加えられる。地文に無節 R の斜行縄文を施すが、はっきりしない。底部径11.8cm、現高14.6cm。	無	無。	Ⅲ-1 H	胴部残存 底部欠損
10	巾3mmの半載竹管による平行沈線。3本単位に間隔をあけて横位に右から左方向に施す。地文は、単節 R L の斜行縄文が施文される。底径13cm、現高8.5cm。	無	赤褐色。小礫を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	底部残存
11	単節 R L の斜行縄文。底径10.8cm、現高10cm。	無	明赤褐色。砂粒、小礫を含む。	Ⅲ-5 A	底部残存
13・14	巾5mmの半載竹管による平行沈線。爪形文。13は口縁部に単節 R L の斜行縄文を持つ。	有	13黄褐色。14に近い黄褐色。21暗褐色。	Ⅱ-3 A	
12・15	巾3~5mmの半載竹管による平行沈線。16は菱形の文様構成をする。15は口縁に単節 L R の斜行縄文。	有	12に近い橙。15極暗赤褐色。16暗褐色。17明赤褐色。	Ⅱ-2 C	
16・17	縄文のみの土器を一括した。単節 R L の斜行縄文-30、37、38、40、41、同 L R -26、同 R L、L R の羽状縄文-22~25、28、29、31、32、34~36、39、無節 R L、L R の羽状縄文-27。磨滅が多 く不明-33。	有	18、20、26、30、38赤褐色。29、33~36、39~41橙。25、37黄褐色。他に近い橙。	Ⅱ-4 C	D
22~41					
42・43	巾2~4mmの半載竹管による平行沈線。2~3本単位に間隔をあ	無	42暗。43黄褐色。44、45に近	Ⅲ-1 E	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	織様	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
44・45	けて横位に施文。42は単節R Lの斜行織文。		い橙。		
46~52	単節R L、L Rの羽状織文-46。前々段反L R R-51。同R L L L R Rの羽状織文-48。0段多糸単節L Rの斜行織文-49。附加糸1種-R L+ε-47。同L R+L r各糸に1本づつ附加したものの-50。燃赤-52。	有	46、47、52にぶい焼。48、49、51明赤焼。50灰焼。	II-4 B C D	
53~90	巾2~4mmの半載竹管による平行沈線。波状になる口縁では、波頂部を渦巻や、弧状の文様を構成する-53、56、60、63、66、90。胴部では平行沈線が1~数本単位で横位に間隔をあけて施文される。沈線間には、波状、弧線、渦巻状の文様帯が構成される-67、71~76、79、81。沈線内に刺突が加えられるものがある-60、65~67。また沈線に浮線文と同様の刻みが付けられる土器-68、69、78、88、89は胴部曲面に円形竹管による刺突が加えられる。地文に織文を持つ土器は、単節R Lの斜行織文-53、60、62、63、65~67、70~75、85、86、90。同L R-69、77、80、81、84。同R L、L Rの羽状織文-82。無節R r-83。同L r-55。	無	53、67、69、70、80、82、86焼。54、78明赤焼。81黄焼。89黒焼。60、62、63、79、83灰焼。87黄焼。55~59、61、64~66、68、71~77、84、85、88にぶい焼。90にぶい焼。	III-1 E F	
91	巾3mmの半載竹管による平行沈線。横位の沈線間に斜位の沈線が施文される。地文に織文を持つ。	無	明焼。	III-1 G	
92・93	巾2~3mmの半載竹管を数本束ねた集合沈線。横位、木葉状の沈線が施文される。	無	92橙。93暗赤焼。94、95にぶい焼。	III-1 H	
94・95	巾4mmの半載竹管による爪形文。地文に単節R Lの織文。	無	橙。	III-1 A	
97	粘土紐による隆帯を持つ。地文は単節R Lの斜行織文。	無	橙。	III-3	
98	粘土紐による「〜」状の貼付文。地文は単節R L、L Rの羽状織文で、結節を持つ。大木系土器。	無	橙。	III-3 A	
99・100	半載竹管による点状の刺突。	有	99灰焼。100にぶい焼。	II-3 D	
101~103	101、102は口唇部に条線が施文される。胴部は平行沈線による施文。103は口唇に凹凸文を持つ。104、105は半載竹管を2~3本単位にした爪形文で、貝殻縁線状に口縁や胴部に施文。104は地文に織文R Lを持つ。	有	101灰焼。102、103橙。104、105にぶい赤焼。	101~103 III-2 A 他	
106	口縁に巾5mmの半載竹管による爪形文。胴部は平行沈線。	有	黒焼。	II-2 B II-2 B	
107~113	織文のみの土器。単節R Lの斜行織文-109、110、113。同L R-117、118。前々段反L R R-107、108、111、119、120。単節R L、L Rの羽状織文-112、114、116。燃赤文-115。	無	107、108、116、120焼。109、112、115、117~119焼。110にぶい赤焼。他灰焼。	107、110 III-1 J 他	
114~115	土製円盤。122以外は織様を含む。土器の破片を利用したもの。縁は打ち欠いて整形しており、磨かれているものは少ない。文様は織文が施文されている。	有 既製	121、122、125灰焼。123、124にぶい焼。	B	

114号住居址出土土器 (第306図 写真141)

番号	文 様 の 観 察	織様	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
5・6	巾8~10mmの半載竹管による平行沈線。爪形文。沈線内に爪形文を充填する。横位、菱形の文様を構成する。15は爪形文と巾の狭い条線が施文される。	有	5、6焼。8にぶい焼。14明赤焼。15黄焼。16にぶい焼。	II-2 B	
8・14	7	有	灰焼。	II-3 B	
15・16	巾6mmの半載竹管による平行沈線。横位に施文。	有	9にぶい焼。10~13にぶい赤焼。31にぶい焼。	II-3 A II-3 A	
9~13	巾4~5mmの半載竹管による平行沈線爪形文。口縁や底部に数列に施文される。地文に織文を持つ。単節R L、L Rの羽状織文-9、10~12、31はR L、L Rの斜行織文であるが羽状織文とも考えられる。13は附加糸1種L R+ε。	有	にぶい赤焼。	II-3 E	
31	17	有	18、26、27にぶい赤焼。19、23、25にぶい焼。22、29焼。28黒。他にぶい焼。	II-4 B C D	
18~30	巾4~5mmの半載竹管によるコンパス文。羽状織文が施文される。	有			
32・33	単節R Lの斜行織文-20、26、28、30。L R-24、25、29。同R L、L Rの羽状織文-18、19、22、23、27、33。33のL Rは0段多糸。附加糸1種各糸に1本づつ附加L r+、L R+ε-21。同L R r+、R L+ε-32。				

115号a・b住居址出土土器 (第308~310図 写真96・141)

番号	文様の観察	織様	胎土・焼成・色調	分類	備考	
1	巾4mmの半截竹管による沈線。底部付近は横位に施文される。胴部は、斜位に乱雑に施文する。口縁部には棒状の粘土が4単位に施文され、施文部は口縁の内側に残す。口径27.6cm、底径8.4cm、器高26.8cm。	無	橙、1~2mmの小礫含む。焼成良。	III-1	埋設土器 ほぼ完形	
2	深鉢。無文。胴部上径28.8cm、胴部下径18.0cm、現高12.5cm。	無	なごい黄褐。砂粒。	III-5 C	埋設土器	
3	巾5mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に左から右方向に施文。胴部上径15.4cm、底径10cm、現高10.5cm。	無	明赤褐。砂粒少。焼成良。	III-1 E		
4	口縁はゆるく内湾し、胴部下半に膨らみ部を持つ。施文主体は巾5mmの半截竹管による平行沈線で、口縁部は、横位に矢羽根状に施文。底部は横位に施文。胴部は縦の沈線により6分面され、縦位の矢羽根状の沈線や、木葉状の弧線により文様が構成されている。半截竹管を連続して施文する事によって集合沈線状にしている。口縁には棒状の粘付文があり、半截竹管による刺突があるが刺突されないものが、3~5個間隔で5単位ある。口径21.4cm、胴部下径8.1cm、現高24.0cm。	無	橙。砂粒を少量含む。焼成あまり良くなく、ザラつく。	III-1 I	S K287土 坑内出土	
5	巾4mmの半截竹管による平行沈線。木葉状の弧線が6単位に施文される。底部は横位の沈線。沈線内には矢羽根状の刻みを施文する。地文に単節R Lの縄文を持つ。底径8.4cm、現高9.9cm。	無	明赤褐。砂粒少。焼成良。	III-1 H		
6	無節R Lの斜行縄文。底径12.5cm、現高11.5cm。	無	橙。砂粒多。焼成良。	III-5 A		
7・8	巾7~11mmの半截竹管による平行沈線、爪形文。沈線間に爪形文を施文する。13は単節R。Rの羽状縄文を胴部以下の胴部に施文する。	有	7黄橙。8黄褐。10暗褐。12、13にぶい橙。	II-2 B		
10・12	13	巾6mmの半截竹管による平行沈線。	有	ぶい橙。	II-3 B	
9	単節R Lの斜行縄文-22、27、28、30、同LR-14、31、無節LR-32、33、同R。Rの羽状縄文-717。単節R L、L Rの羽状縄文-15、16、18~21、25、26、附加条1種R L+L Rで各条に1本つつ附加と、L R+Rの2本附加の羽状縄文-23、不明-9、24、31、32の底部は上げ底。	有	9、16、17黄橙。14、15、28褐。19、21~23、29黄褐。33灰褐。他にぶい赤褐。	II-4 B C D		
14~33	巾3~6mmの半截竹管による平行沈線。1~数本単位に間隔をあけて横位の施文を基本とする。沈線間には、渦巻、弧線、斜線などの文様が施文される。46、47は、沈線に平行して丸棒状の原体による刺突がされる。48は沈線内に浮線と同様の刻みが施文される。地文の縄文は、43が単節R L、42がR L、L Rの羽状縄文36は直前段反照しL Rと思われる。46~48は単節R L。39、40、41は縄文が認められるが照り不明。	無	34黄褐。35にぶい橙。36、44、46にぶい橙。39、40、47、48黄褐。41、43にぶい赤褐。42、45暗褐。	III-1 E F		
34~36	浮線が横位に施され、浮線上に刻みが付けられる。	無	黄橙。	III-1 D		
37・38	浮線が横位に施され、浮線上に刻みが付けられる。	無	49橙。50、52にぶい赤褐。51黄。	III-1 I		
49~52	浮線が横位に施され、浮線上に刻みが付けられる。	無	53にぶい赤褐。55、58にぶい橙。54、56、57暗褐。58	III-2 A B		
53~58	53は口縁に条線を持つ。56は沈線と貝殻線による施文。54、55、58は竹管による押し引きの施文。	無	59にぶい橙。60、61にぶい橙。62黄褐。63黄褐。	III-2 A C		
59~63	土製円蓋。織様含む。深鉢の土器片を利用している。縁は打ち欠いて整形しており、若干磨滅しているものもみられる。文様は、無文、縄文等がある。	有	64	III-6		
64	有孔浅鉢口縁部。無文。口唇直下に径6mmの孔が穿たれる。	無	65、66、70~74にぶい橙。67~69にぶい赤褐。	III-5 A C		
65~74	単節R L-66、69、70~73、同LR-72、74は無文の底部。単節LR-65、65は口唇部に凹文を持つ。	無	75	III-6		
75	浅鉢と思われる。無文。胴部最大径20.4cm。	無				

116号住居址出土土器 (第314~321図 写真96~98・142・143)

番号	文様の観察	織様	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	附加条第1種R L+R。L R+L Rの羽状縄文を菱形に施文する。口径30.4cm、胴部下径23.0cm、現高23.1cm。	有	灰褐。1~2mmの小礫含む。焼成良。	II-4 B	口縁、胴部 残存

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備 考
2	巾4mmの半截竹管による平行沈線で口縁部に横位に施文。沈線間を斜線や弧線で充塞している。胴部の縄文は、無節R θ 、L θ の羽状縄文で変形を構成する。口径23.2cm、胴部下径14.4cm、現高24.5cm。	有	明赤褐。1~2mmの小礫を含む。焼成良いがややザラつく。	II-3 B	口縁、胴部残存
3	無節L θ の斜行縄文。横位、斜位に施文している。口径13.5cm、胴部下径6.9cm、現高18.7cm。	有	明黄褐。1~2mmの砂粒を含む。焼成良。	II-4 C	口縁、胴部残存
4	無節R θ の斜行縄文。胴部上径25.5cm、底径11.6cm、現高25.5cm。	有	黄褐。砂粒少。焼成良。	II-4 C	胴部5%残
5	口縁は4単位の波状口縁。単節R θ とL θ の羽状縄文。口径31.5cm、胴部下径22cm、現高20.5cm。	有	橙。2~3mmの砂粒。焼成良いが若干ザラつく。	II-4 D	口縁、胴部残存
6	底部近くは巾5mmの半截竹管によるコンパス文が施文される。単節R θ 、L θ の羽状縄文。底径20.6cm、現高7.2cm。	有	橙。	II-3 E	
7	口縁はゆるい波状口縁になる。巾10mmの半截竹管によるコンパス文が口縁部に横位に6列施文される。文様帯以下は無節R θ 、L θ の羽状縄文により変形を構成する。推定口径54cm。	有	黄橙。	II-3 E	口縁5%残
8	胴部くびれ部より上に巾7mmの半截竹管による平行沈線で文様帯を作る。くびれ部には横位の施文、口縁部では変形を構成する。胴部の縄文は無節R θ の斜行縄文。	有	にぶい橙。径1~2mmの小礫を含む。焼成良。	II-2 C	胴部5%残存
9	器底が荒れており、縄文の原形ははっきりしない。2本単位の黄赤の縄文が変形状に施文される。推定口径25.6cm、現高24.8cm。	有	にぶい赤褐。砂粒を少量含む。ザラつく。	II-4 B	口縁、胴部5%残存
10	単節R θ 、L θ の羽状縄文によって変形に縄文を構成する。胴部最大径31.8cm。	有	橙。砂粒を少量含む。焼成良。	II-4 D	胴部5%残存
11	胴部くびれ部より上に巾7mmの半截竹管による平行沈線により、変形の文様を構成する。胴部は無節のR θ が施文される。推定口径35.2cm。	有	にぶい橙。径1~2mmの小礫を含む。焼成良。	II-2 C	口縁、胴部5%残存 8と同一個体
12	単節R θ 、L θ による羽状縄文で変形を構成する。	有	黄褐。砂粒少。焼成良。	II-4 D	
13	単節R θ 、L θ による羽状縄文で変形を構成する。底部は若干上げ高になる。胴上部に補修孔がある。底径9.2cm、現高23.2cm。	有	にぶい赤褐。砂粒少。焼成良。	II-4 D	胴部、底部5%残存
14	単節R θ 、L θ の羽状縄文で変形を構成する。底径12cm。	有	明赤褐。砂粒少。焼成良。	II-4 D	
15	半截竹管による平行沈線。地に縄文あり。底径15.6cm。	有	にぶい橙。砂粒少。焼成良。	II-3 B	
16	単節R θ 、L θ の羽状縄文で変形を構成する。底径12cm。	有	にぶい橙。砂粒少。焼成良。	II-4 D	
17	柄杓体圧痕を縦横位に施文。地に単節R θ の縄文を持つ。口唇部にも柄杓体圧痕が施文される。内面は横位の糸痕。	有	にぶい橙。	I-1 B	
18~22	原体の長さ1.5cm程の繩状の原体による刺突文。口縁に垂直に施文し、以下を横位に施文する。爪形文や、平行沈線と一緒に施文される土器もある。	有	18にぶい赤褐。19、22にぶい褐。20橙。21灰褐。	II-2 A	
23・24	巾6mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	23にぶい褐。24暗褐。	II-2 B	
25~40	巾5~10mmの半截竹管による平行沈線。沈線は横位、山形、扇歯状、弧状に施文される。口縁波頂部に棒状の胎土が貼付される。29、30、32、34、35、39は竹管状の原体により刺突が加えられる。37は無節L θ の斜行縄文が文様帯以下に施文される。	有	25、26、31、34灰褐。27、28、30、32、39、40にぶい赤褐。37黄橙。29、33、35、36、38にぶい橙。	II-3 D II-3 B II-3 E	
41・42	巾12~14mmの半截竹管によるコンパス文が口縁部に放射状施文される。43は文様帯下に単節R θ 、L θ の羽状縄文が施文される。	有	41にぶい橙。42、43にぶい黄橙。	II-3 E	
44・45	巾4~6mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。沈線施文後爪形文が充塞される。44は無節R θ 、L θ の羽状縄文。	有	44にぶい赤褐。45、46灰褐。	II-2 B	
47・48	47は巾4mmの半截竹管による波状の沈線。48は沈線が乱雑に施文される。49は三角、渦巻状に施文される。	有	47橙。48灰褐。49にぶい赤褐。	II-3 F	49は2と同一個体?
50	棒状の原体による波状沈線。	有	にぶい橙。	II-1 B	
51~113	単節R θ の斜行縄文-70, 71, 74, 83, 87, 96, 同L θ の斜行縄文-51, 52, 56, 62, 72, 73, 79, 88, 89, 93, 103, 118, 121, 同R θ 、L θ の羽状縄文-53~55, 57, 58, 60, 63, 65, 66, 69, 75~78, 81, 84~86, 90, 94, 95, 111, 115, 120, 147, 附加糸1種R θ + θ -117, 同R θ +不明-98, 同L θ + θ -92, 97, 不明105, R θ +R θ 、L θ +L θ (2本附加)の羽状縄文-99~101, R θ + θ 、L θ + θ -68, R θ +R θ 、L θ +L θ -91, 102, 無節羽状縄文R θ 、L θ -67, 80, 82, 112, L θ -124, 125, 直前段段際L θ ?-110, 然赤文-59, 61, 106, 107~109, 113(?), 114, 不明-104, 無文-64, 116, 122。	有	51~54, 60, 62, 65~71, 74, 77, 86, 87, 92, 97, 98, 106, 112灰褐。59, 61 63, 64, 80, 107, 113, 114, 147明赤褐。72, 73, 78, 79 90, 101~104, 116, 112, 125褐。他にぶい橙。	II-4 B C D	58, 61, 114は同一個体?
118・119	口縁に巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文により、文様帯を区画する。1段目は平行沈線と爪形文により、長楕円形、横位	有	119灰褐。123黒褐。126, 128 浅黄褐。130, 139灰褐。134	II-2 5	同一個体?

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
135~146	の施文。2段目は燃命と思われる原体による施文。3段目は施文帯で表面を良く磨き、わずかに楕円形に磨面を凹ませる。土製円盤、128は底部破片を利用、他は銅部破片を利用している140以外繊維を含む。緑片は打ち欠いて整形し、若干の研磨を施している。132は縁辺を良く研磨しており円形に仕上げたものである。		131灰赤。132淡橙。		
148~151	巾5mmの半截竹管による平行沈線、横位、斜位、弧状、矢羽根状に施文される。150は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	黒地。136、140、146明赤地。他にぶい橙。	III-1 H	
152	単節R L、L Rの羽状縄文。結束を持つ。	無	ぶい赤地。	III-5 B	
153	単節R L、L Rの羽状縄文。結束を持つ。	無	ぶい橙。	III-5 B	
154	単節L Rの斜行縄文。底部。	無	ぶい橙。	III-5 A	
155~157	粘土紐により「〜」状の貼付が施される。地文の縄文は、単節R L、L Rの羽状縄文。	無	155、157にぶい橙、156黒地。	III-3 A	
158	巾の太い沈線が施文され、隆帯を持つ。表面には、貝殻復縁による施文が施される。三角形の陰刻が隆帯の下に施される。	無	ぶい橙。	III-4 C	
159	細い浮線に半截竹管による押し引きの爪形文が施文される。口縁部は隆帯を持ち三角形の陰刻が横位に扇歯状に施文される。	無	ぶい赤地。	III-4 A	

117号住居址出土土器 (第326~329図 写真98・143)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁は「く」の字状に屈曲し、ゆるい4単位の波状を呈する。胴部中央で若干の膨らみを持つ。巾4mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で左から右方向へ間隔をあけて横位に施文。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。口径34.6cm、底径9cm、現高30.5cm。	無	明赤地。白色砂粒を含む。焼成臭いが若干ザラつく。	III-1 E	ほぼ完形 覆土中出土
2	有孔浅鉢口縁部。無文。口唇直下に径8mmの孔が穿たれている。表面は良く磨かれている。直径口径24.8cm。	無	橙。砂粒少量含む。焼成臭。	III-6	片残存
3・5	巾4~7mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。6は口縁に棒状の粘土が貼付される。3は単節L Rの縄文が施文される。	有	3明赤。5、6にぶい赤地。	5 II-2 B	
6	棒状の原体による削突。	有	ぶい赤地。	II-2 A	
7	巾5mmの半截竹管によるコンパス文。	有	灰地。	II-3 E	
8~15	単節L Rの斜行縄文-10。同R L、L Rの羽状縄文-11、13。無節L R-9。同R L、L Rの羽状縄文-8、12。附加糸1種R L+L、L R+Rの羽状縄文。14はL Rと思われるが条間があておりはっきりしない。	有	8~10、14にぶい赤地。11 暗橙。12灰地。15橙。	II-4 B C D	
16~24	浮線文の土器。横位に施文され、矢羽根状の割りが付けられる。17、20~23は本体と浮線の土の色調が異なる。16、19は沈線も施文され、浮線は、沈線間にできた隆起線状になる。16、18、19~23は単節R Lの斜行縄文。	無	16~23にぶい橙。24灰地。	III-1 D	
25~43	巾2~5mmの半截竹管による平行沈線。1~数本単位に施文される。集合沈線状になるものもある。口縁部は、波状口縁に平行に施文され、三角、F形、渦巻状の文様帯が作られ、ボタン状の小突起が貼付される。胴部下は、間隔をあけて横位に施文され沈線間に波状、弧状の文様が構成される。地文の縄文は単節R Lの斜行縄文が-27、28、30、32、33、38。L R-26、29、39~41無節L R-25、47。その他31、34、37、などにもあるが、はっきりしない。	無	25、31、35、36、46、47にぶい橙。26にぶい橙。27~30、32~34、37~39、41~43にぶい赤地。40灰赤。48橙。49、50明赤地。	III-1 E	
44・45	深鉢口縁部。無文で波状口縁になる。横位の標度有。	無	ぶい橙。	III-5 C	
51~59	巾2~3mmの半截竹管による集合沈線。53は口縁部で横位の矢羽根状の文様。胴部は木葉状の弧線、矢羽根状の沈線などが施文される。55は巾5mmの半截竹管による押し引きの平行沈線で、木葉状の弧線を施文する。	無	51、57、59にぶい赤地。52、54、56灰地。53黄緑地。55、58橙。	III-1 H I	
60~67	単節R Lの斜行縄文-60、61、63~66。同L R-62。同R L、L Rの羽状縄文-67。61は口唇に巾5mmの平行沈線が施文される。63は口唇に凹凸文と、棒状の貼付文を有する。	無	60、65、67にぶい橙。61~64、66にぶい赤地。	III-1 J III-5 A	
69	深鉢把手。巾2mmの集合沈線により、矢羽根状の施文が施される。ボタン状の貼付文がある。中央に三角形の通しを二対持つ。	無	ぶい橙。	III-1 B	
68	底部を一括した。70、71、74は半截竹管による横位の沈線が施文	無	68、70、73にぶい赤地。71、73		

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	織 産	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
70~74	される。73は単節R Lの斜行縄文。68、72は縄文の磨りがはっきりしない。		72、74にぶい橙。	Ⅲ-5 A 他 Ⅲ-1 E	

118号住居址出土土器 (第332・333図 写真98・144)

番号	文 様 の 観 察	織 産	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	顔面土製品。縦5.9cm、厚さ3.45cm、トーン部は赤色部分。	無			
2	巾5mmの平載竹管による平行沈線、爪形文。沈線施文後爪形文を施文。4単位位の波状口縁になる。文様は肋骨文状に縦位、斜位に施され、縦と横の爪形文の交点に円形の刺突がされる。地文には単節R L、L Rの斜行縄文が施される。推定口径28.8cm。	無	ぶい赤褐。1mmの砂粒を含む。	Ⅱ-3 A	口縁片残存 7と同一個 体
3~9	巾5mmの平載竹管による平行沈線、爪形文。沈線施文後爪形文を沈線内に施文。9は爪形文の間隔が粗く数個おきに施文の向きをかえている。横位に施文されるものが多いが、5、7は斜位にも施文される。3以外は地文に単節R L、L Rの縄文を持つ。	有	3にぶい橙。4褐。5~9にぶい赤褐。	Ⅱ-3 A	
10~26	単節R Lの斜行縄文-12、13、16、26。同L R-15。同R L、L Rの羽状縄文-10、11、14、21、22、24。無節L r-23。同R ℓ rの羽状縄文-19、25。前々段反折R L r-18。直前段合線りR < rと追加糸1種L R + Rの羽状縄文-20、17は断糸と思われるが、はっきりしない。	有	10~12、14~19、22、24、26にぶい赤褐。13、20、21にぶい褐。23にぶい橙。25橙。	Ⅱ-4 B C D	
27~30	底部を一括した。単節R Lの斜行縄文-27。同R L、L Rの羽状縄文-29、30。28は単節L Rで爪形文が施文される。	有	27、28にぶい赤褐。29、30にぶい橙。	28 Ⅱ-3 A 他Ⅱ-4 C D	

121号 a・b住居址出土土器 (第335~340図 写真98・144・145)

番号	文 様 の 観 察	織 産	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	巾5mmの平載竹管による平行沈線を横位に施文。単節R Lの斜行縄文を施文。直径16.0cm、現高7.5cm。	無	赤褐。砂粒を多く含む。若干ザラつく。	Ⅲ-1 E	
2	平載竹管による刺突と平行沈線。原体内巾14cm。	有	赤灰。	Ⅱ-2 D	
3~8	巾4~6mmの平載竹管による平行沈線と爪形文。横位、斜位に施文する。7、8は単節L Rの斜行縄文。6はR L、L Rの羽状縄文を持つ。	有	3、4橙。5、6、8にぶい赤褐。7反赤。	Ⅱ-2 B 他Ⅱ-3 A	
9	巾5mmの平載竹管による平行沈線。口縁部に単節R Lの縄文。	有	ぶい橙。	Ⅱ-3 B	
10~29	単節R L-11、12、21。同L R-10、14、17。同R L、L Rの羽状縄文-15、16、18、22、26、27。無節R ℓ、L rの羽状縄文-28。追加糸1種L R + ℓ -25。同L R + L、L R + Lの羽状縄文-20、23、24。断糸文-19。無文-13、29。	有	15~20、23、25~28褐。10、13、21、22、29赤褐。11、12反褐。14馬褐。24反赤。	Ⅱ-4 B C D E	
30~37	浮線文。横位に間隔をあけて施文し、浮線間を、渦巻、弧状に浮線で文様構成をする。浮線には、矢羽根状の刻みを有する。31は浮線間に丸棒状の底体による刺突が加えられる。34~36は地文に単節R L、33は単節L Rの斜行縄文を持つ。	無	30、32~34にぶい褐。31反褐。35~37にぶい赤褐。	Ⅲ-1 D	
38~66	巾3~5mmの平載竹管による平行沈線。1~数本単位で施文する間隔をあけて横位に施文する。口縁部は沈線間を弧線、渦巻状の沈線で文様を構成する-38~40、43、44。胴部は弧線、渦巻、斜線、刺突状の沈線で充塞する-54、58~66。46は沈線上に刺突が施される。50、51、55は沈線上に矢羽根状の刻みを有する。53は口唇に刻みを有する。地文の縄文は、単節R L-39、41、43~46、48、51、56、61。同L R-49、50、54。単節L r-38。縄文は確認できたが磨りは不明-40、42、47、53、65、66。	無	38、41、43、44、48、52、55~57、59、61、62、65にぶい赤褐。49~51にぶい褐。45、46黄褐。58反褐。60反褐。他にぶい橙。	Ⅲ-1 E F	
67・68	巾5mmの平載竹管による平行沈線を間隔をあけて施文する。地文に単節R Lの縄文を持つが沈線間は磨り消される。	無	ぶい橙。	Ⅲ-4	

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
69~73	巾2mmの半載竹管による集合沈線。矢羽根状、木葉状の弧線を施文する。	無	69~72にぶい赤褐色。73にぶい橙。	Ⅲ-1 H I	
74~77	粘土紐を「〜」状に貼付している。地文は単節R L、L Rの羽状縄文。大木系。	無	74、77褐色。75、76明赤褐色。	Ⅲ-3 A	
78・82	巾4mmの半載竹管による平行沈線が弧状に施文される。沈線内を横位の刻みを加えられる。胴部にボタン状の貼付文有。	無	明赤褐色。	Ⅲ-4 A	
83・84	巾4mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で渦巻状、矢羽根状に施文される。沈線文以下部分には単節R L、L Rの羽状縄文が施文される。	無	明赤褐色。	Ⅲ-4 B	
85~90	巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で施文し、三角、鋸歯状、横位、弧状の沈線を施文する。沈線間には三角や、楕円の陰刻が施される。	無	にぶい褐色。	Ⅲ-4 C	
91	巾15mmの爪形文が連続して施文される。他の土器に比べ器厚が薄い。	無	にぶい褐色。	Ⅲ-4 D	
92	口唇に条線を持つ。口縁には4段の凹凸文がある。	無	黒褐色。	Ⅲ-2 A	
93	沈線で横位の矢羽根状に施文。交点に丸棒状の彫体による刺突。	無	灰褐色。	Ⅲ-4 D	
94	平行沈線、爪形文。	無	にぶい赤褐色。	Ⅲ-1 A	
95	縄文のみの土器を一括した。単節R Lの斜行縄文-94、98~101、複節R L R-96、無節R L-97、単節R L、L Rの羽状縄文-102~110、羽状縄文には、結束がある。96は口唇に刻みが施される。101はボタン状の小突起が貼付される。	無	95、102~104、108にぶい赤褐色。100にぶい褐色。128灰褐色。他にぶい褐色。	Ⅲ-5 A B	
96~101				101	
101~109	底部。111、116、117は巾4mmの半載竹管による平行沈線を横位に施文する。縄文は、単節R Lの斜行縄文-111、112、116、119、120、R L、L Rの羽状縄文-113、118、114、115は無文。底部径は7~16.5cm。	無	114~117にぶい赤褐色。111、112、118~120にぶい褐色。113にぶい褐色。	Ⅲ-1 J Ⅲ-1 E Ⅲ-5 A B	
111~112	有孔浅鉢口縁部。口唇直下に径5mmの孔が焼成前に穿たれる。表面は良く磨かれている。	無	にぶい褐色。	Ⅲ-6	
121~129	土製円盤。126のみ縦線を含む。124~126は土器胴部片。127~129は底部片を利用している。124~126は縁辺を打ら欠いて整形し、磨いているが、特に126は円形に研磨されている。127~129は縁辺を良く研磨している。	無	にぶい褐色。		

124号住居址出土土器 (第345・346図 写真98・145)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4mmの半載竹管による平行沈線による施文。左から右方向に横位に施文。胴部ならみ部に斜位に施文。沈線文より下の部分には単節R Lの斜行縄文。底径7.9cm、現高13.1cm。	無	橙。黒色、白色の砂粒を含む。焼成良好。	Ⅲ-1 G	
2	単節R Lの斜行縄文。胴部上径21.6cm、胴部下径12.6cm、現高16.5cm。	無	明赤褐色。白色砂粒を含む。焼成良好。	Ⅲ-5 A	埋設土器 胴部完形。
3	巾4mmの半載竹管による平行沈線。数本単位に横位に施文し、無文帯、文様帯を作る。胴部下平に文様帯を作り、弧状、渦巻状の文様を構成する。地文に単節R Lの斜行縄文。胴部径24.8cm。	無	暗赤褐色。1mmの砂粒を含む。焼成良好。	Ⅲ-1 F	
4・6	巾7mmの半載竹管による平行沈線、爪形文。	有	にぶい褐色。	Ⅱ-2 B	
7・8	単節L Rの斜行縄文。	有	褐色。	Ⅱ-4 C	
9	巾3mmの半載竹管による平行沈線。地文に単節R Lの斜行縄文。	無	灰褐色。	Ⅲ-1 E	
10	平行沈線による木葉状の弧線、矢羽根状の文様を施文。9は巾3mmの集合沈線状になる。10は巾4mmの半載竹管。	無	浅黄褐色。	Ⅲ-1 H	
11	巾6mmの半載竹管による平行沈線。地文に単節R Lの縄文を持つ。	無	にぶい赤褐色。	Ⅲ-1 E	
12	単節R Lの斜行縄文。口唇に凹凸文を持つ。	無	橙。	Ⅲ-5 A	

第1章 検出された遺構と遺物

126号住居址出土土器 (第347・348図 写真98・145)

番号	文様の観察	織維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3mmの半載竹管を数本束ねた原体による集合沈線。左から右方向に間隔をあけて横位に施文する。沈線間は無文帯になる。胴部上径22.3cm、現高9.3cm。	無	浅黄。1～2mmの黒色、白色の砂粒。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部残存
2～6	単筋R Lの斜行縄文-5。同L R-2。同R L、L Rの羽状縄文-4、6。無筋R L、L Rの斜行縄文-3。	有	2種。3明赤褐色。4灰褐色。5、6にふいね。	Ⅱ-4 C D	
7～9	巾3～5mmの半載竹管による平行沈線。横位、渦巻の構成。9は地文に無筋L Rの斜行縄文を持つ。	無	にふいね赤褐色。	Ⅲ-1 E F	
10～16	巾2～3mmの半載竹管による集合沈線。横位、矢羽根状、木葉状の弧線が施文される。	無	10、16にふいね。11灰褐色。13、14明赤褐色。12、15にふいね。	Ⅲ-1 H I	
17	3段の凹凸文が施文される。浮島系土器。	無	にふいね。	Ⅲ-2 A	
18～24	縄文のみの土器。単筋R Lの斜行縄文-18、19、21、23、24。同L R-20、22。	無	18にふいね。20にふいね。19、21～24にふいね赤褐色。	Ⅲ-5 A	
25	無文底部。	有	にふいね。	Ⅱ-4 E	
26	半載竹管による平行沈線がわずかに認められる。底径12.4cm。	無	にふいね赤褐色。	Ⅲ-1 E	
27	巾3mmの半載竹管による平行沈線で、縦位、斜位の施文。	無	褐色。	Ⅲ-1 H	

127号住居址出土土器 (第351図 写真145)

番号	文様の観察	織維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1・2 3	無文-1。単筋R L、L Rの羽状縄文-2、3。	有	1褐色。2黒。3黄褐色。	Ⅱ-4 D E	
4～7	巾3～4mmの半載竹管による平行沈線。数本単位に間隔をあけて施文される。単筋L R-5、6。無筋L R-7。	無	4にふいね。5明赤褐色。6、8暗赤褐色。7褐色。	Ⅲ-1 E	
8・9	巾3mmの半載竹管による集合沈線。木葉状の弧線、矢羽根状の沈線。地文に9は単筋R Lを持つ。	無	9にふいね。	Ⅲ-1 H	
10・11	粘土層により「〜」状の貼付が施される。10は地文に半載竹管による矢羽根状の沈線。11は単筋R L、L Rの羽状縄文。	無	10褐色。11赤褐色。	Ⅲ-3 A	
12・13	12は単筋R Lの斜行縄文。13は単筋R L、L Rの羽状縄文。	無	褐色。	Ⅲ-5	
14	巾5mmの半載竹管による平行沈線。2～3本単位で施文される。木葉状の弧線、矢羽根状の沈線文。底径4.8cm。	無		Ⅲ-1 H	

128号住居址出土土器 (第355～363図 写真99・146・147)

番号	文様の観察	織維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	胴部に膨らみを持つ。巾5mmの半載竹管による平行沈線。3本単位に間隔をあけて横位に施文。膨らみ部に文様帯を持つ。菱形と渦巻状の沈線が3本単位で構成され、菱形の間を弧線で充満する。地文に単筋R Lの縄文を持つ。胴部上径21.9cm、胴部下径10.6cm、現高19.9cm。	無	明赤褐色。1～2mmの砂粒多く含む。若干ゲラつく。	Ⅲ-1 F	埋設土器 胴部残存
2	口縁はゆるく外反し、棒状の貼付文が4本単位で施文される部分で内傾する。胴部中央で膨らみを持ち、文様帯を構成する。巾4mmの半載竹管による平行沈線を数本単位で施文し、集合沈線状にする。間隔をあけて横位に施文する。口縁の貼付文の回りを弧状に施文。文様帯は、弧線により5本単位に菱形を構成するが間隔は一律でない。菱形内を縦位、渦巻の直化した鼠状の沈線が充満される。地文に縄文を持つが磨滅が多くはっきりしない。口径24.7cm、胴部下径8.9cm、現高25.6cm。	無	にふいね。1～2mmの砂粒を多く含む。焼成良くなくゲラつく。	Ⅲ-1 F	底部欠損
3	単筋R Lの斜行縄文。部分的に磨滅している。底径11.9cm。	無	褐色。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-5 A	底部残存
4	無文。全面をへら状のもので縦位にナゲている。	無	褐色。黒色砂粒多。焼成良。	Ⅲ-5 C	埋設土器
5	単筋R L、L Rの羽状縄文。胴部径27.6cm。	無	にふいね赤褐色。焼成良。	Ⅲ-5 B	埋設土器
6	巾4mmの半載竹管による平行沈線。2～3本単位で間隔をあけて	無	にふいね。砂粒少。焼成	Ⅲ-1 F	胴部欠損残存

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
	横位に施文。胴部から底部に文様帯を持つ。渦巻、弧線、斜線で文様を構成する。地文に単節 R L の斜行縄文を持つ。胴部最大径 20.4cm。		良。		
7	口縁は 4 単位の波状口縁。巾 3mm の半截竹管による平行沈線。2 ～ 3 本単位に間隔をあけて横位に施文される。地文に縄文が認められるが磨滅が多くはっきりしない。口径 14.8cm。	無	にぶい赤褐。1 ～ 2mm の小礫を含む。焼成良いが若干ザラつく。	Ⅲ-1 E	口縁部残存
8	無節 L r の斜行縄文が施文される。口縁部に棒状の貼付文が施される。推定口径 30cm。	無	にぶい褐。1 ～ 2mm の小礫を含む。焼成良くない。	Ⅲ-1 J	
9	巾 3mm の半截竹管による集合沈線。碗の区画線内を木葉状の弧線、矢羽根状の沈線が充塞される。	無		Ⅲ-1 H	胴部残存
10	有孔浅鉢底部。胴部から底部にかけて段を持つ。直径 13.0cm。	無	明赤褐。金雲母。焼成良。	Ⅲ-6	
11	有孔浅鉢胴部。表面良く磨かれている。	無	赤褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-6	
12	深鉢底部。無文。直径 14.3cm。	無	にぶい赤褐。焼成良。	Ⅲ-5 C	
13	2 本の隆帯と、棒状の原体による刺突。	有	橙。	Ⅲ-3 C	
14～19	巾 4 ～ 6mm の半截竹管による平行沈線と爪形文。沈線内に爪形文を充塞。17～19 の爪形文間は縄文を磨り消している。縄文は単節 R L の斜行縄文-17, 22。同 L R-18, 19, R L, L R の羽状縄文-24。26 は爪形文の下部に沈線文が施文される。15 は口縁に糸線が施文される。	有	14 灰褐。15～17 黄褐色。18, 22 橙。19, 23, 24 におい堀 20 明褐色。	Ⅲ-16, 23 Ⅲ-2 B Ⅲ-3 A	
20～21	巾 3mm の平行沈線。20 は横位、21 は格子状に施文される。	有	20 黄褐色。21 におい赤褐。	Ⅲ-3 B	
25	巾 6mm の半截竹管による平行沈線。菱形に施文される。	有	灰褐。	Ⅲ-2 C	
27	棒状の原体による沈線で波状に施文。地文に組紐を持つ。	有	橙。	Ⅲ-1 B	
28	巾 10mm の半截竹管によるコンパス文。	有	灰褐。	Ⅲ-3 E	
29	巾 4mm の半截竹管による平行沈線。	有	におい橙。	Ⅲ-3 A	
30～53	単節 R L-32, 35～37, 49, 53, 同 L R-30, 同 L R, R L の羽状縄文-38, 39, 42, 43, 45～47, 52, 無節 R r-48, 附加糸 1 種 L R + r-31, R L + r-44, R L + r, L R + r-33, 34, L R, R L の羽状縄文で附加した原体が不明-41, 直前段合照 R < L-48, 無文-50, 51, 51, 52 は底部上げ底。	有	30, 33, 42, 43, 48, 49, 53, 52 橙。34, 35, 37, 46, 47, 51 黄褐色。36 明赤褐。38 暗褐色。他ににおい堀。	Ⅲ-4 B C D	
54～59	3mm の間隔の棒状の原体により横位と、波状の沈線を交互にくり返し施文する。57 は円形竹管による刺突が施文される。54 は口唇に爪形文、口縁部に半截竹管を 2 回施文した円形の施文が施される。	無	におい橙。	Ⅲ-1 B	
60～63	巾 2 ～ 4mm の半截竹管による爪形文。60, 61 は細い糸線が施文される。62, 63 は、単節 L R, R L の縄文。	無	60, 61 におい赤褐。62, 63 におい橙。	Ⅲ-1 A	
64～68	浮線期の土器。64, 66～68 は浮線上に矢羽根状の刻みを施す。65～67 は地文に単節 R L の斜行縄文を持つ。	無	64, 67, 68 におい橙。65, 66 灰褐。	Ⅲ-1 D	
69～123	巾 3 ～ 6mm の半截竹管による平行沈線。1 ～ 数本単位に施文し、集合沈線状に施文する土器もある。口縁部の波状が大きくなる土器ほど、口縁部に施文する文様が複雑になる。85, 86 は口縁にボタン状の突起が貼付され、沈線で菱形の文様が施文される。91～93 のくつ先状に屈曲する波状口縁の大きな土器は、木葉状の弧線文を口縁側面に施文する。72～76 の波状の小さな口縁では、横位の沈線が波状、もしくは弧線が施文される。胴部文様は、横位の沈線間に渦巻、弧線、矢羽根状の文様を構成する。116, 119, 121～123 は他より巾の広い竹管で、扇歯状、波状、鳥巻状の文様を構成する。地文に縄文を持つものがある。単節 R L-71, 73, 80, 83, 87, 88, 91, 92, 98, 101, 107, 114, 116, 無節の L r-70, その他縄文は認められるが、磨滅や沈線のためはっきりしない-72, 74, 75, 78, 82, 90, 93, 97, 99, 102～106, 108, 119, 112, 120。	無	69～79, 82, 84, 98, 102, 103, 112, 117, 119 におい赤褐。94, 95, 100, 115, 120 灰褐。他ににおい橙。	Ⅲ-1 E F	72・75 同一個体
124～131	巾 2 ～ 3mm の半截竹管を束ねた原体による集合沈線。126 は口唇から口縁にかけて横位の矢羽根状の沈線を施文。132, 133 は口縁に横位の沈線。125 は大きな波状口縁で、口縁にそって沈線が施文され、側面に木葉状の弧線が施文される。胴部文様は、木葉状の弧線、矢羽根状の沈線が施文される。138 は地文に縄文が確認された。棒状の貼付文には爪形の刺突が施される-129, 130, 132 は口唇部に刻みが施される。	無	124～128, 131～133, 142 におい赤褐。130 灰褐。134～139 におい橙。他ににおい堀。	Ⅲ-1 H I	
140	巾 4mm の半截竹管による横位の平行沈線。口唇部に凹凸文。	無	におい堀。	Ⅲ-2 A	
141	巾 8mm の半截竹管による平行沈線。横位、斜位、縦位に施文し、	無	におい堀。	Ⅲ-2 A	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	編 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
10	格子状に文様を構成する。凹凸文が2段に施されている。	無	赤褐色。	III-2 C	
10~16	沈線と、貝殻線文。	無	143~154, 161, 165, 169に 赤褐色。155, 157灰褐色。 他に赤褐色。	III-5 A B	
16・18	単距R Lの斜行縄文-144, 145, 149, 153~156, 158, 159, 163, 164, 166, 167, 170, 同L R-146, 160, 同R L, L Rの羽状縄文-161, 162, 無距R L-147, 148, 150, 151, 同L R-143, 152, 157, 165, 145は口唇に刻みがあり、棒状の粘土が貼付される。152は口唇に刻み, 154は「X」状の刻みが施される。156は円形の刺突と平行沈線が施文される。	無	赤褐色。	III-1 E	
18	巾3mmの半載竹管による集合沈線。横位に施文し、底部付近で無文帯を持つ。	無	赤褐色。	III-1 E	
18	巾3mmの半載竹管による平行沈線。地文にL Rの縄文を持つ。	無	赤褐色。	III-1 E	
18・18	無文土器腹部。	無	172浅黄褐色, 173に赤褐色。	III-5 C	
18~18	土製円蓋。174~178は土製腹部, 179, 180は割部破片を利用して いる。縁辺を打ち欠いて整形している。176, 177は縁辺を研磨して いる。179のみ横線を含む。	無	176に赤褐色, 他に赤褐色。		

129号住居址出土土器 (第370~372図 写真100・147・148)

番号	文 様 の 観 察	編 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	胴上部にくげれを持つ。巾5mmの半載竹管による平行沈線に爪形文。沈線施文後爪形文を充填する。胴部では2段に2列ずつ横位に施文し、外反する口縁部では縦位に施文する。地文は単距R L, L Rの羽状縄文。胴部上径-38.2cm, 胴部下径15.5cm, 現高30cm。	有	暗褐色。2~3mmの砂粒を含む。焼成良好。	II-3 A	胴部完形
2	巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で横位に間隔をあけて施文。胴部から口部に文様帯を持つ。大きな渦巻状の沈線が3本あり、その間を縦線、小さい渦巻などの文様で構成される。地文に単距R Lの斜行縄文が施文される。胴部上径21.2cm, 胴部下径12.3cm, 現高19.1cm。	無	褐色。1mm以下の黒色の砂粒を含む。焼成良好。	III-1 F	埋設土器 胴部完形
3	巾3mmの半載竹管による平行沈線を底部近くに横位に施文する。地文に単距R Lの斜行縄文が施文される。底径8.3cm, 現高6cm。	無	褐色。黒色の粒子を多く含む。ザラつく。	III-1 E	底部完形
4	巾2mmの半載竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文。地文に単距R Lの斜行縄文が施文される。底径7.4cm, 胴部上径9.4cm, 現高8.5cm。	無	明赤褐色。細かい砂粒を含む。ザラつく。	III-1 E	底部完形
5	単距R L, L R羽状縄文。底径9.7cm, 現高4.2cm。	有	褐色。砂粒少。焼成良好。	II-4 D	底部完形
6	単距R Lの斜行縄文。胴部上径23.6cm, 現高10.2cm。	無	明赤褐色。砂粒多。ザラつく。	III-5 A	埋設土器
7	巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で横位に間隔をあけて施文する。胴部上径22cm, 現高11.4cm。	無	明赤褐色。砂粒多。ザラつく。	III-1 E	埋設土器 胴部残存
8	巾3mmの半載竹管を数本束ねた原形であけて横位に施文。地文に単距R Lの縄文を施文する。	無	赤褐色。砂粒を多く含む。焼成良好。	III-1 E	底部完形
9	単距R Lの斜行縄文。	有	褐色。	II-4 C	
10・11	組紐による地文。10, 12は棒状の原形による波状の地文。	有	褐色。11, 12に赤褐色。13灰褐色。	II-1 B II-4 A	
12・13	巾6mmの半載竹管による平行沈線。	有	赤褐色。	II-2 C	
15~19	巾3mm~6mmの半載竹管による平行沈線爪形文。沈線施文後爪形文を充填。地文に15, 16は単距R L, 15はL Rを施文している。15は他の土器より厚みが薄い。	有	15に赤褐色。16, 18に赤褐色。17, 19に赤褐色。	II-2 B II-3 A	
20~35	単距R Lの斜行縄文-21~23, L R-27, 33, 同R L, L Rの羽状縄文-20, 24, 30, 31, 34, 35, 側面ループ-26, 附加糸と思われるがはっきりしない-28, 32, 縄文原形がはっきりしない-25, 29, 24, 31は末端にループを持つ。	有	20, 21, 27, 30, 35に赤褐色。22灰褐色。23, 29, 32に赤褐色。24, 25, 28, 33褐色。26, 34灰褐色。31黒褐色。	II-4 B C D	
36~39	浮輪の施された土器。横位に施文され、浮輪上に太めの刻みが増えらる。39は地文に単距R Lの斜行縄文を持つ。	無	36~38に赤褐色。39に赤褐色。	III-1 D	
40~48	巾2~4mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で施文する。横位に間隔をあけて施文し、無文部、文様帯を区画する。沈線間に矢羽状の地文-46, 47がある。地文に43~45, 47は縄文を持つ。	無	40, 41, 46に赤褐色。42, 48浅黄褐色。44, 45, 47灰褐色。43に赤褐色。	III-1 E	
49~51	巾3mm 2~3mmの半載竹管による平行沈線。集合沈線状に施文され、横位、縦位、縦位の矢羽状の文様が施文される。50は半載竹管に	無	50, 51, 54に赤褐色。49に赤褐色。	III-1 G	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
	より、爪形文が施文される。				
52	巾6mmの半截竹管による平行沈線。	無	にぶい赤褐。	Ⅲ-1 F	
53	巾3mmの半截竹管による平行沈線により格子状に施文される。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 H	
55	巾3mmの半截竹管による平行沈線で横位に施文される。口唇部には凹凸文が施文され、ボタン状の小突起が貼付される。	無	透黄橙。	Ⅲ-2 A	
56・57	凹凸文が胴部、口唇部は施文される。57は巾7mmの平行沈線、59	無	56、57にぶい橙、59にぶい褐。	Ⅲ-2 A	
59	は口縁に巾3mmの半截竹管による横位の平行沈線と、格子目状の平行沈線。				
58	兵段彫線による施文。	無	透黄橙。	Ⅲ-2 B	
60	単節R L、L Rの羽状縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 B	
61・62	深鉢把手。巾2～3mmの平行沈線。矢羽根状に施文。ボタン状の貼付が施される。	無	61にぶい橙。62灰褐。	Ⅲ-1 I	
69・70	横位の平行沈線。70は地文に単節R Lの縄文。	無	69、70橙。	Ⅲ-1 E	
63～68	土製円盤。織部を含む。土器の胴部破片を利用しての。縁辺を打ち欠いて整形し、若干研磨されている。	有	63、67にぶい赤褐。64、65、68にぶい橙。66灰褐。		
71	有孔浅鉢胴部。無文。表面研磨。	無	橙。	Ⅲ-6	

131号 a・b 住居址出土土器 (第377・378図 写真100・148)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾4mmの半截竹管による平行沈線で横位に施文する。胴部中央の文様帯は、平行沈線間に弧線を施文する。地文に単節L Rの斜行縄文。胴部上径23.8cm、胴部下径12.4cm、現高17.7cm。	無	にぶい赤褐。細かい砂粒、炭母を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器 胴部定形
2	有孔浅鉢底部。無文。表面良く磨かれている。底径8.5cm、最大径32.0cm、現高9cm。	無	赤褐。白色砂粒を多く含む焼成良。	Ⅲ-6	底部定形
3	有孔浅鉢胴部。無文。表面良く磨かれている。最大径38cm。	無	明赤褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-6	胴部写残存
4	表裏両面の土器。	無	明赤褐。	I-1 A	
5～12	単節R L、L Rの羽状縄文-7、8、10、12。無節R 9-6。同L 7-9。無文-11。直前段段戻L L R-5。11、12は底部上げ底。	有	5、7、8にぶい赤褐。6、11、12にぶい橙。10灰褐。9橙。	Ⅱ-4 B D E	
13～15	巾2～4mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文し、集合沈線状になる。間隔をあけて横位に施文。渦巻、弧状、鋸歯状に文様構成する。14は地文単節R Lの縄文。	無	13、18、20赤褐。14にぶい橙。15にぶい褐。	Ⅲ-1 E F	
16	浮線文。浮線上に太めの刻み。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 D	
17・19	巾2mmの半截竹管による集合沈線。木葉状の曲線、矢羽根状の沈線を構成する。17はボタン状の貼付が施される。	無	17にぶい赤褐。19にぶい橙。	Ⅲ-1 H	
22・24	巾4～5mmの半截竹管による平行沈線。地文に22は単節R L、24はL Rの縄文を持つ。	無	にぶい褐。	Ⅲ-1 E F	
21・26	巾5mmの半截竹管による横位の平行沈線。深鉢底部。21は地文に単節R Lの縄文を持つ。	無	21、27にぶい赤褐。25にぶい橙。	Ⅲ-1 E	
23	単節L Rの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	
25	無文の有孔浅鉢。口唇直下に径8mmの孔が焼成前に穿たれる。表面はよく磨かれている。	無	にぶい赤褐。	Ⅲ-6	

132号 a・b 住居址出土土器 (第380～385図 写真101・148・149)

番号	文様の観察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁は「く」の字状に屈曲し、4単位ゆのゆるい波状を呈する。波頂部にはボタン状の小突起が貼付される。胴下部が若干膨らみこの部分に文様帯が構成される。巾4mmの半截竹管を2本単位で横位に間隔をあけて施文する。文様帯では、菱形の沈線が7単位施文され、弧状の沈線が充満される。地文には単節R Lの斜行縄文が施される。口径36cm、胴部下径16.6cm、現高29.8cm。	無	橙。砂粒を多く含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	床面直上出土
2	口縁は「く」の字状に屈曲し、4単位ゆのゆるい波状を呈し、外反する。巾3mmの半截竹管を2本単位で施文する。口縁部の施文は口縁に	無	にぶい橙。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器 口縁

第1章 映出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備 考
	平行に施文され、波頭部では山形に二重に施文される。胴部の文様帯は、下向きの高巻状の沈線が4単位、上向きの高巻状の沈線が1単位で構成されているが縦位の平行沈線を見ると4単位に分割されている。地文にR L + Lの各条に1本ずつ附加した縄文を持つ。口径32cm、現高14.3cm。	無	明黄褐色。砂粒を多く含む。焼成良。	III-1 I	
3	口縁が内湾する。巾2mmの半截竹管による集合沈線。口縁に矢羽根状の文様。胴部は縦位の区画。区画内に木葉状の弧線と縦位の矢羽根状の沈線で充満する。地文に単節L Rの縄文を持つ。口縁部径23.4cm、現高8.5cm。	無	浅黄褐色。	III-1 E	
4	口縁は大きく外反し、「く」の字状に屈曲する。巾5mmの半截竹管による平行沈線。2本単位で間隔をあけて横位に施文。口縁波頭部に高巻状の文様を持つ。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。指定口径52.2cm、現高13.7cm。	無	明赤褐色。砂粒少い。焼成良。	III-6	底部に残存
5	有孔波頭部。無文。内外面とも磨かれている。有孔沈線口縁部。口唇部は直立きみに立ち上がり、胴部はふくらみ段を持ち底部へつづく。口唇直下に焼成前の孔が穿たれる。径は7mmで、5~6cm間隔である。表面は良く磨かれている。口径26.4cm、現高11.6cm。	無	明赤褐色。砂粒少い。焼成良。	III-6	
7~9	表面柔直の土器。	有	にぶい橙。	I-1 A	
11					
10	結条体正直。	有	にぶい橙。	I-1 B	
12	巾6mmの爪形文と、波状の沈線。	有	にぶい橙。	II-2 B	
13	巾11mmの半截竹管による平行沈線内に爪形文を充填。	有	暗赤褐色。	II-2 B	
14~23	単節R L、L Rの羽状縄文-14、19、20。単節R Lの斜行縄文-17。同L R-22、23。無節R L、L Rの羽状縄文-15。附加条1種L R + R、R L + Lの羽状縄文-16、18。	有	14灰褐色。15暗褐色。16-18、23にぶい赤褐色。19、20、22にぶい橙。21黒褐色。	II-4 B C D	
24~38	巾3~5mmの半截竹管による平行沈線。1~数本単位で施文される。	無	24~26、28、32、34、36、42にぶい赤褐色。27暗赤褐色。29、30、33、37褐色。31、35、38灰褐色。45にぶい橙。43赤褐色。	III-1 E	
43・45	口縁部波頭部では山形-24、28。高巻・弧線-29、30~32などの文様を構成する。胴部は間隔をあけた横位の施文。24、25、28、29、31、33、37、45では地文に単節R Lの縄文を持つ。26は口縁部に刺突、沈線内に刻みを持つ。				
39~42	巾4mmの半截竹管により平行沈線。数本単位で連続して施文している。横位の沈線を数本単位で施文し、その間に横位の矢羽根状の文様を構成する。	無	にぶい赤褐色。	III-1 G	
44					
52・53	巾3~4mmの半截竹管による平行沈線。横位に施文される。口唇部や口縁部に凹凸文が施文される。	無	52、53にぶい橙。54にぶい赤褐色。	III-2 A	
46~51	巾2~4mmの半截竹管による沈線。46~51、55は平行沈線を数本単位で施文。56~59、63は、半截竹管を束ねた棒状の原体により巾の狭い集合沈線を施文。前者は口縁部に横位に施文され、後者は矢羽根状の施文をする。胴部は木葉状の弧線、縦位の矢羽根状の沈線を施文する。55、56は口唇部に凹凸文を持つ。56の棒状の貼付文には爪形文が施文される。	無	46、47にぶい赤褐色。48、51、55、56にぶい橙。49灰褐色。50黒。58暗灰褐色。57、59橙。63にぶい橙。67にぶい橙。	III-1 H I	
55~59					
63・67					
60~62	単節R Lの斜行縄文-60、65、66、68。同L R-62、64、69。無文-61、63、67、64は口唇部に凹凸文を持つ。	無	60~62、65、66、68にぶい赤褐色。64、69にぶい橙。	III-5 A	
64~66					
68・69					
70・71	土製円盤。72以外組織を食む。71は底部。他は胴部破片を利用して。縁辺は打ち欠いて整形している。		70にぶい赤褐色。72灰褐色。71、73にぶい橙。		
72・73					
74~79	深鉢把手。巾2~3mmの半截竹管による集合沈線。把手に並行するように施文される。矢羽根状を構成する部分もある。形状は耳たぶ状になり、透しを持つ。ボタン状の貼付を持つ。	無	74、75、77、78灰褐色。76、79にぶい橙。	III-1 I	
80	単節R Lの斜行縄文。口縁にはボタン状の小突起が貼付され、ゆるい波状口縁になる。口径20.8cm。	無	黒褐色。砂粒多い。ゼラツク。	III-1 J	
81	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で集合沈線状に施される。口縁部は横位に、胴部は木葉状の弧線、矢羽根状の沈線を施文。口唇部に凹凸文を持つ。口径19.8cm。	無	にぶい橙。1~2mmの礫を食む。焼成良。	III-1 I	
82	巾2mmの半截竹管を数本束ねた原体による集合沈線。木葉状の弧線、矢羽根状の沈線が施文される。胴部最大径20cm。	無	黒褐色。砂粒少量含む。ゼラツク。	III-1 H	
83	巾4mmの半截竹管による平行沈線。口縁部は横位に、胴部は格子目状に施文される。口縁部には、4単位で棒状の貼付される。口	無	赤褐色。砂粒を食む。ゼラツク。	III-1 I	

番号	文様の観察	織理	胎土・焼成・色調	分類	備考
84	径13.8cm, 有孔浅鉢口縁。口唇直下に径5mmの孔が3cm間隔に穿たれる。口 径18.4cm。	無	にぶい赤褐色。砂粒少ない。焼成良。	Ⅲ-1 F	

133号住居址出土土器 (第388・389図 写真101・102・149)

番号	文様の観察	織理	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁に向かって外反し、胴部下半で膨らみを持つ。巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で横位に間隔をあけて施文する。沈線間は斜位の沈線によって充塞される。膨らみ部以下は無文になり、良く研磨されている。胴部上径19.5cm、現高21.2cm。	無	明赤褐色。1mmの黒色砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 G	埋設土器 胴部尖形
2	口縁に向かって外反し、胴部に膨らみを持つ。巾5mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文する。膨らみ部に文様帯を持つ。文様帯は、弧線と渦巻により4単位に施文される。地文の縄文は単節R Lの斜行縄文が施文される。胴部上径18.8cm、現高15.2cm。	無	焼。1mmの黒色砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器 胴部尖形
3・4	巾5mmの半截竹管による平行沈線。菱形、三角の文様を構成する沈線文の上下に縄文が施文される。縄文は、単節R L、L Rの羽状縄文である。	有	焼。	Ⅱ-2 C	同一個体?
6・7	巾5mmの平行沈線。	有	6黒褐色。7にぶい黄褐色。	Ⅱ-3 B	
8・9	巾4～6mmの半截竹管による平行沈線内に爪形文を施文。	有	8焼。9黒褐色。	Ⅱ-2 B	
5	単節R L-11、15、同L R-10、12、13、同R L、L Rの羽状縄文-14、16～18、附加糸1枚R L + R 9。20～24は附加糸2種の2本附加したものか、直前段合然りがはっきりしない。	有	12、15、18焼。13、17、20、21焼。16暗褐色。他にぶい赤褐色。	Ⅱ-4 B	
10～24	巾3mmの半截竹管による平行沈線。渦巻状の弧線。	無	25暗赤褐色。26にぶい赤褐色。	Ⅲ-1 F	D
25・26	巾2mmの半截竹管による平行沈線で羽状、格子目状の平行沈線を施文する。	無	27、29にぶい赤褐色。28暗赤褐色。	Ⅲ-1 H	
30	複節R L R。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 C	
31・32	単節R L-31、無節R 9-32の斜行縄文。	無	31橙。32明赤褐色。	Ⅲ-5 A	
34・35	無文の底部。直径34-8.7cm、35-11.6cm。	無	34明赤褐色。35灰褐色。	Ⅲ-5 C	
36・37	土製円盤。36は織理なし、37は有。胴部破片。36は縁辺が研磨されている。37は縁辺打り欠き。	無	にぶい赤褐色。		
33	口縁部に無文符を持ち、胴部に単節L Rの細い縄文を持つ。	無	にぶい橙。	V	

134号住居址出土土器 (第392～399図 写真102・103・149・150)

番号	文様の観察	織理	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁に向かって外反する。胴部下で若干膨らみみみになる。巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で横位に間隔をあけて施文する。膨らみ部に文様帯を持ち、弧線、渦巻状の文様を5単位で構成する。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径28cm、胴部下径19.2cm、現高16.5cm。	無	黄褐色。砂粒を多く含む。焼成良くなくザラつく。	Ⅲ-1 F	
2	胴部に屈曲とくびれを持つ。巾3mmの半截竹管による平行沈線を数本単位に施文する。横位に間隔をあけて施文し、くびれ部に、縦位、「X」字状の文様が構成される。「X」は7単位に施文される。地文に附加糸1種のR L + L Rの各糸に1本ずつ附加した縄文が施文される。胴部上径30cm、胴部下径25.2cm、現高25cm。	無	明褐色。1mm以下の細かい砂粒。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器
3	口縁に向かって外反し、胴部中ほどは膨らみを持つ。巾4mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけて横位に施文する。文様帯は膨らみ部にあり、大きい渦巻状の弧線が6個と、小さい渦巻状の弧線1個で構成され、この間を弧線でつなげている。地文には単節R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径32.0cm、胴部下径16.9cm、現高29.7cm。	無	明赤褐色。細い黒色砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	
4	胴上部にくびれ部を持つ。巾3mmの半截竹管を数本束ねた原体に	無	明褐色。細かい砂粒を含む。	Ⅲ-1 F	

第1章 検出された遺構と遺物

番 号	文 様 の 観 察	議 座	防土・焼成・色調	分 類	備 考
	よる平行沈線。沈線を10~12本単位で横位に間隔をあけて施文。くびれ部には縦位、「X」字状の沈線を施文する。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径33.7cm、胴部下径16.3cm、現高17.5cm。		焼成員。		
5	巾3mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文。地文は、腹節R L Rがまばらに施文される。胴部上径21.6cm、胴部下径13.6cm、現高13cm。	無	橙。1~2mmの砂粒を含む。焼成員。	Ⅲ-1 E	埋設土器
6	口縁は大きく外反する。巾4mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて施文する。胴部即らみ部に菱形、弧線などが施文される磨滅が多くはっきりしないが6単位と思われる。胴部上径25.3cm、胴部下径11.4cm、現高15.7cm。	無	橙。1~2mmの小礫を含む。焼成員くなくザラつく。	Ⅲ-1 F	埋設土器
7	巾4mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で横位に施文され、沈線間に波状の平行沈線を施文する。地文に直前段反照L Lが施文される。胴部上径24.8cm、胴部下径16.7cm、現高21.8cm	無	明黄褐色。砂粒を多く含む。焼成員。	Ⅲ-1 F	埋設土器
8	口縁は4単位に棒状の粘土が貼付される。この部分では口縁がわずかに内傾する。巾4mmの半截竹管による平行沈線を数本単位で施文する。口縁部、胴下部に横位に施文され胴部文様帯を区画する。文様帯は縦位の沈線で分割し、その間を木葉の弧線で充填する。口径21cm、胴部下径16.3cm、現高17.4cm。	無	橙。砂粒を含む。焼成員。	Ⅲ-1 I	
9	巾3mmの半截竹管を数本束ねた器体による集合沈線。木葉状の弧線、横位の矢羽根状の沈線で文様を構成する。地文に単節R Lを持つ。胴部最大径24.6cm、現高15.2cm。	無	黄褐色。1~2mmの小礫多く含む。焼成員。	Ⅲ-1 H	
10	有孔浅鉢口縁部。無文。口唇直下に径6mmの孔が5~6cm間隔で穿たれている。表面に赤色の顔料が塗られている。口径27.6cm、現高12.7cm。	無	極暗赤褐色。1mm以下の細かい砂粒を少量含む。焼成員。	Ⅲ-6	
11	巾2mmの半截竹管による平行沈線。1~2本単位で横位に間隔をあけて施文。底部に屈曲を持ち文様帯を構成する。縦位の沈線と「X」字状の沈線により文様を構成する。地文にR Lの縄文を持つ。底径6.0cm、現高5.5cm。	無	橙。砂粒を含む。焼成員。	Ⅲ-1 F	
12	有孔浅鉢口縁部。口唇直下に径5mmの孔が焼成前に穿たれる。口径22.3cm。	無	無。砂粒少ない。焼成員。	Ⅲ-6	
13	巾2mmの半截竹管による平行沈線。2~3本単位で横位に施文。地文にR Lの縄文を持つ。底径8.7cm、現高5.6cm。	無	赤褐色。砂粒多い。焼成員。	Ⅲ-1 E	
14	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文し、集合沈線状にする。縦位の区画を施し、木葉状の弧線、矢羽根状を充填する。胴部24.4cm。	無	にぶい赤褐色。砂粒多い。焼成員。	Ⅲ-1 H	
15	有孔浅鉢口縁部。無文。表面良く磨かれている。口唇直下に径5mmの孔が6cm間隔で穿たれている。口径20.8cm。	無	にぶい褐色。砂粒少ない。焼成員。	Ⅲ-6	
16	有孔浅鉢口縁部。無文。表面良く磨かれている。口唇直下に径7mmの孔が、5~7cm間隔で穿たれている。口径26cm。	無	赤褐色。砂粒少ない。焼成員。	Ⅲ-6	
17	巾5mmの半截竹管による横位の平行沈線。	有	灰褐色。	Ⅱ-3 B	
18~21	巾4~10mmの半截竹管により平行沈線内に爪形文が充填される。	有	18区褐色。19、21にぶい橙。20にぶい橙。24極暗赤褐色。	24Ⅱ-3 A	
22	18は口縁部に単節R Lの斜行縄文を持つ。19は口唇に竹管による刻みが施文される。24は胴部に単節R Lの縄文を持つ。			Ⅱ-2 B	
22・23	巾6~9mmの半截竹管による横位の沈線。	有	22にぶい橙。23にぶい橙。	Ⅱ-2 C	
25~39	単節R L、L Rの羽状縄文-30、31、39、同R Lの斜行縄文-26、29、同L R-25、28、無節R Lと単節L Rの羽状縄文-32、附加糸1種R L+L、L R+Rの羽状縄文-27、35、同R L+L、L R+R-33、34、附加糸2種-38、網状赤文-37、不明-36、39は底部上げ筋。	有	22にぶい橙。23にぶい橙。25、27~29、32、34、36、37橙。26浅黄褐色。31黒。30、33、35、38、39にぶい赤褐色。	Ⅱ-4 B C D	
40~66	巾3~6mmの半截竹管による平行沈線。1~数本単位に施文し、集合沈線状になる土器もある。口縁部では、波状口縁の頂部で、渦巻、弧線を構成する。胴部では、間隔をあけた横位の施文を基本とし、沈線間に縦位、波状、弧状の沈線を施文する。47、54、62は沈線内に刺突が加えられる。43は沈線内に爪形文を施文。地文に縄文を持つものがある。単節L R-41、46、47、49、50~52、59、65、同L R-45、54、58、62、無節L R-40、42、61。同R L-48。縄文原体不明-53。	無	40~46、49、52、53、55~61にぶい赤褐色。63、64、66黒褐色。48、51、62にぶい赤褐色。47、50、54、65にぶい橙。	Ⅲ-1 E F	
67~88	巾3~4mmの半截竹管による集合沈線。平行沈線を数回連続して	無	67~72、74、78、83、86に	67、70	

第4章 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	織組	胎土・焼成・色調	分類	備考
	短文し、集合沈線状になっているものと、半載竹管を数本束ねた原体により集合沈線を施文している土器がある。口縁部に横位の施文がされる土器-68, 84, 87-89。矢羽根状-71, 72, 85, 86がある。口縁が内湾する形状を呈するのは矢羽根状に施文されるものに多い。胴部は横位の矢羽根状の施文-70, 76, 83, 木葉状の弧線-73-75, 77-82などがある。弧線内を矢羽根状の文様が充填される-77, 88, 81, 82は地文に単節Lの縄文を持つ。		ぶい赤褐, 80-82にぶい褐, 73, 75, 85黒褐, 76, 77浅黄褐, 87, 88灰褐, 84黄褐, 79にぶい褐。	76, 83 Ⅲ-1 G 他 Ⅲ-1 H I	
89-91	口唇部に凹凸文を持つ。いずれも無節Lの斜行縄文を器面に施文される。	無	89にぶい橙, 90, 91灰褐。	Ⅲ-2 A	
92-9C	浮島, 西津系土器, 92, 93, 97, 100, 102は貝殻複雑による圧痕文を持つ。92, 93, 95, 96, 101は口縁部に凹凸文が施文される。96は縄文が施文される。94, 98, 99は巾5mmの半載竹管による平行沈線。94, 99は口唇に条線が施文される。	無	92, 93浅黄褐, 97にぶい橙 94-96, 98-100灰褐, 102にぶい赤褐, 101黄褐。	Ⅲ-2 A B C	
100	巾5mmの半載竹管による平行沈線。地文にL Rの縄文を持つ。	無	ぶい赤褐。	Ⅲ-1 F	
104-117	縄文のみの土器を一括した。単節R Lの斜行縄文-114-117, 同L R-110, 無節R-104, 105, 107, 113, 同L r-111, 112, 附加条1種R L+L-106, 108, 109, 106, 108, 109は口唇部に凹凸文を施文する。109, 110には棒状の粘土が貼付される。	無	104, 105, 108, 110, 113, 116, 117にぶい赤褐, 106黒褐, 107, 109, 112, 114, 115にぶい橙, 111灰赤。	106, 108 Ⅲ-2 A 他 Ⅲ-5 A	
118-121	土製円盤。土器の胴部破片を利用して。119-123は縦線を含む。縁辺を打ち欠いて整形している。縁辺の研磨されたものはほとんどなく、磨して粗作りである。	無	118-120, 122, 123にぶい橙, 121にぶい褐, 124にぶい赤褐。	Ⅲ-1 I	
125	深鉢に粘土による装飾品が刺刺したもので。	無	橙。		
128-129	深鉢把手。巾3mmの半載竹管による沈線が施文される。矢羽根状の文様を構成し、ボタン状の貼付文が施される。三角形の通しが2個一対になるようにあけられる。	無	ぶい黄褐。	Ⅲ-1 I	
130	単節L Rの斜行縄文が施される。底径7.1cm。	無	ぶい黄褐。	Ⅲ-5 A	
131	無文底部。底径8.4cm。	無	橙。	Ⅲ-5 C	
132	有孔浅鉢口縁部。無文。口縁部に径10mmの孔があけられる。表面は良く磨かれている。	無	赤褐。	Ⅲ-6	
133	巾8mmの平行沈線。横位に施文し、沈線間に扇歯状の施文をする屈曲部に隆帯を持つ。	有	暗赤褐。	Ⅱ-3 B	

135号住居址出土土器 (第402-408図 写真103・104・150・151)

番号	文様の観察	織組	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単節R L, L Rの羽状縄文で、菱形を構成する。底径7.8cm, 現高10.8cm。	有	ぶい橙。1-2mmの小粒を含む。焼成良。	Ⅱ-4 D	
2	単節R L, L Rの羽状縄文で菱形を構成する。最大径32.8cm。	有	ぶい黄褐。	Ⅱ-4 D	
3	口縁は若干外反ぎみに立ち上る。平口縁。胴部中央で若干膨らみを持つ。縄文は単節R L, L Rの羽状縄文で、菱形を構成する。口径28cm, 胴部下径12.5cm, 現高30.2cm。	有	ぶい黄褐。白色砂粒, 2-3mmの小粒を含む。	Ⅱ-4 D	胴部写残存
4	単節R L, L Rの羽状縄文により、菱形を構成する。口径19.5cm 現高19.1cm, 胴部下径16.6cm。	有	褐。白色砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅱ-4 D	口縁一部欠損
5	単節R L, L Rの羽状縄文により、菱形を構成する27.5cm。	有	ぶい赤褐。白色砂粒。	Ⅱ-4 D	
6	波状口縁を呈する。巾10mmの半載竹管による平行沈線内に爪形文を施す。三角形の文様を構成する。	有	ぶい黄褐。1-2mmの砂粒を含む。焼成良。	Ⅱ-2 B	
7	単節L Rの斜行縄文、無節のR Lの斜行縄文を乱雑に施文される推定口径28cm。	有	明赤褐。砂粒を多く含む。焼成良。	Ⅱ-4 C	
8	単節R L, L Rの羽状縄文で菱形を構成する。推定口径28.8cm。	有	褐。砂粒多い。焼成良。	Ⅱ-4 D	
9	無節R L, L Rの羽状縄文で菱形を構成する。底径8.8cm, 現高9.2cm, 底部が上げ底になる。	有	褐。細かい砂粒を含む。焼成良。	Ⅱ-4 D	
10-27 32	7-12mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線内に爪形文を充塞する。口縁部に菱形、渦巻状の弧線の文様を構成する。10, 19, 22は地文に単節R L, L Rの縄文を持つ。23, 24は胴部に縄文が施文される。14は爪形文を平行沈線から若干ずらして施文している。	有	10-14, 16-18, 21, 24, 26, 27暗赤褐, 15, 22橙, 19, 25黒褐, 20, 23, 32にぶい褐。	Ⅱ-2 B	
28	巾5mmの平行沈線を横位に施文し、沈線内に丸棒状の原体で割突	有	暗暗赤褐。	Ⅱ-5	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	織組	胎土・焼成・色調	分類	備考
	される。				
29	縹状の原体による刺突。	有	黒褐。	Ⅱ-2 A	
30・31	巾5mmの半載竹管による平行沈線。	有	30褐。31暗赤褐。	Ⅱ-3 B	
33	巾4mmの半載竹管による平行沈線とコンパス文。	有		Ⅱ-3 E	
34~80	単節R Lの斜行縄文-61, 63, 76, 78, 同LRの斜行縄文-45, 49, 50, 60, 62, 67, 同R L, L Rの羽状縄文-34~37, 39~41, 46~48, 52~58, 64~66, 72, 73, 75, 77, 79, 80。無節L Rの斜行縄文-51, 同R L, L Rの羽状縄文-38, 74。単節R L, 無節L Rの羽状縄文-71。附加条1種R L+L, L R+Rの羽状縄文-50, 68, 82赤文-70。直前段反唇L L-69。	有	34黄褐。37暗赤褐。38, 51, 53, 59, 61, 64, 67, 70~72, 79褐。40, 52~54 淡黄褐。41~43, 45, 47~50, 60, 63, 69赤褐。56, 65黄褐。他にふいね。	Ⅱ-4 B C D	
81・82	巾3~4mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけ横位に施文。口縁波状部に渦巻状の文様を構成する。82は単節R Lの縄文を地文に持つ。86は沈線内に刺突が加えられる。	無	81極明赤褐。82暗赤褐。84 褐。85にふいね。86褐。	Ⅲ-1 F	
84~86					
83	巾2~3mmの半載竹管による集合沈線。矢羽根、木葉状の弧線を施文。ボタン状、棒状の貼付。	無	83暗赤褐。	Ⅲ-1 I	
87	単節R L, L Rの羽状縄文。棒状の貼付文に半載竹管による刺突。	無	暗赤褐。	Ⅲ-1 J	
88	巾3mmの半載竹管による押し引きの沈線。	無	黄褐。	Ⅲ-1 A	
89	単節R Lの斜行縄文。底径9.6cm。	無	暗赤褐。	Ⅲ-5 A	
90	巾4mmの半載竹管による平行沈線。胴部底部に凹凸文がある。	無	暗赤褐。	Ⅱ-2 A	
91~95	単節R L, L Rの羽状縄文を持ち「 π 」状の胎土紐が貼付される。大木土器。	無	91, 93, 95にふいね。92暗赤褐。94褐。	Ⅲ-3 A	
96~108	土製円盤。104以外縦線を含む。土器の胴部を利用している。縁辺は打ち欠いた状態で研磨されているものはほとんどなく、粗い作りである。	無	96, 104, 105褐。97, 101灰褐。98, 99, 103褐。100緑灰。102, 106暗赤褐。		

136号住居址出土土器 (第411・412図 写真104・152)

番号	文様の観察	織組	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	有孔残片底部。表面よく磨かれている。	無	明赤褐。砂粒少い。焼成良。	Ⅲ-6	
2	巾9mmの半載竹管による平行沈線。沈線内に爪形文を施文。	有	にふい黄褐。	Ⅱ-2 B	
3	巾6mmの半載竹管による平行沈線。沈線内に爪形文を2より間隔をあけて施文。単節R L, L Rの羽状縄文を施文。	有	にふい赤褐。金盞帯を含む。焼成良。	Ⅱ-3 A	
4~6	巾6mmの半載竹管による平行沈線。縦歯状に施文され、三角形、菱形の文様を構成する。ボタン状の小突起が貼付される。口縁はゆるい沈線を示す。	有	4, 5にふい赤褐。6 褐。	Ⅱ-3 B	
7・8	巾6mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。沈線内に爪形文が施文される。8は地文に単節L Rの縄文を持つ。	有	7にふい黄褐。8にふい黄褐。	Ⅱ-3 A	
9~11	巾4~6mmの半載竹管による平行沈線。9は縹状の原体による刺突。器面内外面とも標痕が観察された。10, 11は太めの棒状の原体による列点。	有	9にふい黄。10, 11明褐。	Ⅱ-2 D	
12~20	単節L Rの斜行縄文-17。同R L, L Rの羽状縄文-12, 15, 20。	有	12にふい褐。14, 16, 17, 20にふい橙。13黒褐。15, 18, 19, 23にふい赤褐。	Ⅱ-4 B C D	
23	無節L R-13, 18, 19, 附加条1種L R+R-16。附加条2種-14。無文23, 23は上げ底。				
21~22	巾3~5mmの半載竹管による平行沈線。横位に間隔をあけて施文。1~数本単位で施文している。沈線間は無文帯と文様帯を持つ部分があり。文様帯部では、渦巻、弧状の沈線などによって構成される。地文に縄文を持つ土器。単節R L-24, 25, 27, 28, 30, 31。無節L R-26。	無	21, 25, 27, 28, 30にふい赤褐。22, 24, 29にふい橙。26にふい黄褐。31にふい褐。	Ⅲ-1 E F	
24~31					
32	浮線文。横位に施文され浮線の上に矢羽根状の帯が施される。地文に単節R Lの縄文を持つ。	無	にふい褐。	Ⅲ-1 D	
33	巾3mmの半載竹管による集合沈線。	無	にふい褐。	Ⅲ-1 H	
34~37	巾3mmの半載竹管による平行沈線。横位に施文し、渦巻などの文様が構成される。34, 38は単節R L, 37は無節L Rを地文とする。	無	34, 38にふい橙。37にふい赤褐。	Ⅲ-1 E F	
38					
39・36	単節R Lの斜行縄文が施される。	無	35, 36にふい赤褐。39にふい橙。40にふい褐。	Ⅲ-5 A	
39・40					
41	底部。無文。底径9.9cm。	無	にふい橙。	Ⅲ-5 C	
42	巾3mmの半載竹管による平行沈線を横位に施文する。底径17.6cm。	無	にふい橙。	Ⅲ-1 E	

第4節 縄文時代の出土遺物

番 号	文 様 の 観 察	織 組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
43	単節 R L、L R の羽状縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 B	
44	巾 4 mm の半載竹管による平行沈線。横位に施文し、渦巻状に文様を構成する。地文に単節 R L を持つ。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 F	

137号住居址出土土器 (第415・416回 写真104・152)

番 号	文 様 の 観 察	織 組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	頸部から外反し、口縁は内湾ぎみに立ち上がる。平口縁。巾 3 mm の半載竹管による集合沈線。数本束ねた櫛状の原体により施文。口縁部は横位の矢羽状の沈線、頸部に横位の沈線を施文する。胴部は縦位の沈線で文様帯を 4 分割し、木葉状の孤線、矢羽状の沈線を施文している。口縁部にボタン状の貼付文。口縁部径 26 cm、胴部下径 11.8 cm、現高 21 cm。	無	明赤褐。1~2 mm の小礫を含む。焼成良。	Ⅲ-1 I	埋没土器 口縁~胴部 残存
2	巾 3 mm の半載竹管による平行沈線。数回連続して施文し、集合沈線状にしている。胴部中央に 1 段の稜を持ち、円形竹管による刺突が施される。横位の沈線間には、矢羽状の沈線が充填される。施文順序は矢羽根一横位の沈線。胴部上径 24.8 cm、胴部下径 11.9 cm、現高 12.5 cm。	無	明赤褐。1 mm 以下の黒色粒を多く含む。	Ⅲ-1 G	埋没土器 胴部完形
3	単節 R L の斜行縄文を全面に施す。径 1 cm のボタン状の貼付文を 2 個 1 組に施している。胴部上径 23.9 cm、胴部下径 18.6 cm、現高 14.5 cm。	無	明赤褐。1~2 mm の砂粒石英を含む。焼成良。	Ⅲ-1 J	埋没土器 胴部完形
4	無文底部。底径 12.4 cm。	無	明黄褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-5 C	
5	巾 5 mm の半載竹管による平行沈線。縦位の区画内を木葉状の孤線、矢羽状の沈線が充填される。	無	明赤褐。	Ⅲ-5 H	
6	1 mm 間隔の条線。	有	にぶい赤褐。	Ⅱ-5	
	櫛状の原体による刺突。	有	黒褐。	Ⅱ-2 A	
8・9	巾 3~6 mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	8 黒褐。9 にぶい橙。	Ⅱ-2 B	
	巾 4 mm の半載竹管による平行沈線で爪形に施文。	有	にぶい橙。	Ⅱ-2 C	
11~23	単節 R L の斜行縄文-13、21、22。同 R L-11、14、23。同 R L L R の羽状縄文-12、16、18、20。無節 R-15。同 R、L R の羽状縄文-17。附加糸 1 種 R L+L、L R+R-19。	有	13 極暗赤褐。15 明赤褐。16、17 にぶい橙。19 黄褐。20 灰褐。他にぶい橙。	Ⅱ-4 B C D	
24~28	巾 3~5 mm の半載竹管による平行沈線。胴部をあけて横位に施文する。地文に縄文を持ち、単節 L R の斜行縄文が施文されている 25 は、沈線内に刺突を持つ。	無	24、25、27 にぶい赤褐。25 橙。28 褐。	Ⅲ-1 E	
29	巾 3 mm の半載竹管による集合沈線。矢羽状。	無	橙。	Ⅲ-1 G	
30~34	巾 3~5 mm の半載竹管による平行沈線。木葉状の孤線が施文される。30、32、33 は地文に縄文が施文される。34 は櫛状の貼付がされ、2 列に爪形文が施文される。	無	30、33 にぶい赤褐。31、32 灰褐。34 橙。	Ⅲ-1 H I	
35・36	無節 L R の斜行縄文。	無	35 にぶい赤褐。36 にぶい橙。	Ⅲ-5 A	
37	巾 3 mm の半載竹管による平行沈線を弧状に施文。沈線間に貝殻腹縁文は細い半載竹管による施文とも考えられるが、はっきりしない。胴部系土器。	無	にぶい黄褐。	Ⅲ-2 C	

139号住居址出土土器 (第418~420回 写真104・152・153)

番 号	文 様 の 観 察	織 組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	胴部に段を有し、くびれを持つ。巾 5 mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。横位に胴部をあけて平行沈線を施文し、沈線に沿って施文されるが、一部ずれて施文される。胴部くびれ部には縦位の沈線と、「X」字状の沈線が乱雑に施文される。地文に単節 L R の縄文を持つ。胴部上径 27.6 cm、胴部下径 19.7 cm、現高 8.7 cm。	無	にぶい橙。1 mm の白色砂粒を多く含む。ザラつき層積が多い。	Ⅲ-1 F	埋没土器 胴部が残存
2	無文底部。底径 10.2 cm。	無	明赤褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-5 C	
3	有孔浅鉢口縁部。口唇直下に径 5 mm 孔が 6 cm 間隔で穿たれる。口縁部には径 3 mm の孔が 2 個一対で穿たれる。両方とも、焼成前	無	赤褐。砂粒を多く含む。焼成悪くザラつく。	Ⅲ-6	

第1章 検出された遺構と建物

番号	文様の観察	織組	胎土・焼成・色調	分類	備考
4~8	に内面から穿孔されている。 巾4~8mmの平行沈線と半載竹管。平行沈線を施文後沈線内に爪形文を施文。4は他に比べ爪形文の間隔が広くなっている。6は地文に単節R L、L Rの羽状縄文が施文される。8は、胴部に単節L Rの縄文を施文。	有	4赤褐。5にぶい黄褐。6、7、8褐。	4、5、7 II-2 B 他 II-3 A II-3 B	
9~11	巾4~12mmの半載竹管による平行沈線。10は口縁部に単節R Lの縄文が施文される。	有	黒褐。	II-4 B D	
12~24	単節R L、L Rの羽状縄文-13、15~18、20、23。単節R L、無節L Rの羽状縄文-14。無節L r-24。単節R L+θ-21。附加糸R L+L、L R+Rの羽状縄文-22。側面ループ-12。	有	12、13黒褐。14、18、19、21、22、24にぶい赤褐。15、20、23褐。16、17褐。	II-4 B D	
25~30	巾2~4mmの半載竹管による平行沈線。1~数本単位で間隔をあけて横位に施文。沈線間に無文帯、文様帯を作る。文様帯内は渦巻、弧線、波状の沈線などで構成される。地文の縄文は、単節L L-22、30、32、33、35、39。無節L r-31、34、36、38。	無	26、30、32、39褐。27、29、35にぶい褐。他にぶい赤褐。	III-1 E F	
40~42	巾2~4mmの半載竹管による集合沈線。横位、縦位の沈線。木葉状の弧線が施文される。	無	40黄褐。41橙。42暗赤褐。	III-1 H I	
43	巾5mmの半載竹管による平行沈線を横位に施文。	無	橙。	III-1 E	
44	底面無文。底径5.7cm。	無	褐。	III-5 C	
45~50	単節R L-45、46、48、49。同R L、L Rの羽状縄文-50。附加糸L、R L+L、L R+Lの羽状縄文-47。同各糸に1本づつ2本附加したもの-49、47、48、49、50縦横有。45、46縦横無。	無	45、48、51暗褐。46、50褐。47、49明赤褐。	II-4 III-5	
51	口縁部はへう状の原体による沈線で、渦巻状の文様や、口縁に並走する沈線を施文している。頸部は半載竹管による平行沈線で横位に施文している。地文はまばらな断糸文。	無	暗褐。	III-2 A	
52	半載竹管の原体による刺突。	無	暗赤褐。	III-1	
53~55	巾3mmの半載竹管による集合沈線。縦位、矢羽根状に施文する。胴部に「へう」状の粘土紐、ボタン状の貼付が施される。	無	明赤褐。	III-3 A	

140号住居址出土土器 (第424~426図 写真104・105・153)

番号	文様の観察	織組	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾6mmの半載竹管による平行沈線。間隔をおいて横位に施文。沈線間に文様帯を持ち、弧状の沈線で文様帯を構成する。沈線内に丸棒状のもので刺突を加える。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径26.5cm、胴部下径27cm、現高13.2cm。	無	橙。砂粒多く含む。焼成良。	III-1 F	埋設土器 胴部欠残存
2	巾6mmの半載竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文し、沈線間に縦帯状の施文をする。文様帯以下の部分に単節R Lの斜行縄文を施す。胴部上径32cm、現高15.6cm。	無	明赤褐。砂粒少ない。焼成良。	III-1 F	
3	ミニチュア土器。4単位の突起を口縁部に持つ。口径2.7cm、底径1.6cm、現高3.7cm。	無	にぶい褐。		
4	有孔沈線口縁部。無文。表面は良く磨かれている。胴部は表面刺突が顕著である。口径30cm、胴部最大径41.6cm、現高6cm。	無	にぶい赤褐。砂粒、金雲母含む。焼成良。	III-6	
5	表面赤褐色土器。	有	有。	I-1 A	
6・7	巾11mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。沈線内に爪形文施文。	有	灰褐。	II-2 B	
8・9	巾4~6mmの半載竹管による平行沈線。9は地文に単節R L、L Rの羽状縄文を持つ。	有	8にぶい橙。9灰褐。	II-3 B	
10~25	単節R Lの斜行縄文-12、16、21、25。同L R-15。R L、L Rの羽状縄文-10、11、13、14、24。無節L r-22。無節R θ、L Rの羽状縄文-23。	有	10褐。20浅黄褐。19灰褐。10~17、21~25にぶい橙。	II-4 C D	
26~30	巾3~6mmの半載竹管による平行沈線。1~数本単位で間隔をあけて横位に施文。沈線間に無文帯、文様帯を作る。文様帯では、口縁部で渦巻きの弧状縄、胴部では渦巻状、弧状の文様を構成する。30~41では、丸棒状の原体による刺突が加えられる。43は沈線内に刻みが施文される。地文の縄文は、単節R L-28、29、33、36、39、同L R 34。	無	26~30、33、36灰褐。35、37、43にぶい赤褐。32、34、39~41にぶい橙。38にぶい褐。	III-1 E F	38は1と同一個体
31・42	浮線文と施文。浮線文に刻みが加えられる。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	31灰褐。42にぶい橙。	III-1 D	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
44~46	巾3~6mmの半截竹管による平行沈線。44は櫛状の原体、他は半截竹管を連結して施文し、集合沈線状にしている。口縁部は、横位に、胴部は木葉状の弧線が施文される。44は口唇部に凹凸文が施される。44、45はボタン状、棒状の貼付文。	無	44に赤褐色、45、46に赤褐色。	Ⅲ-1 H I	
47	底部、巾6mmの半截竹管による平行沈線を横位に施文。地文にまばらな黒赤文を施す。	無	に赤褐色。	Ⅲ-1 E	
48~52	単節R Lの斜行縄文-48~50、同R L、L Rの羽状縄文-51、52、49は口唇部に凹凸文を持つ。	無	48、50~52に赤褐色。49褐色。	Ⅲ-5 A B	

141号住居址出土土器(第429~431図 写真105・153・154)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	胴下部に若干の膨らみを持つ。巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけて横位に施文し、胴部の膨らみ部に文様帯を作る。文様帯は中央に半円状の弧線を上下二段に施文し、菱形を3単位作る。菱形内は横位、弧線状の沈線により充填される。地文に単節L Rの斜行縄文を持つ。胴部上径23.2cm、胴部下径16.3cm、現高13.6cm。	無	明褐色、1mmの黒色、白色砂粒を少量含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器 胴部完形
2	巾5mmの半截竹管による平行沈線。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。胴部径18cm。	無	明赤褐色。砂粒多い。焼成良。	Ⅲ-1 E	胴部片残存
3	単節R Lの斜行縄文。底径9.4cm、現高10.5cm。	無	明赤褐色。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-5 A	底部残存
4	巾4mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で、横位に間隔をあけて施文。推定口径26.4cm、現高16cm。	無	暗赤褐色。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-1 E	
5	有孔浅鉢底部。無文。内外面とも良く磨かれている。	無	明赤褐色。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-6	
6	底部近くに大きな屈曲を持つ。巾5mmの半截竹管による平行沈線を屈曲部より上に連続して施文。屈曲部より下には縄文があるがはっきりしない。底径11.4cm、現高9.5cm。	無	褐色。1~2mmの砂粒を多く含む。焼成良くない。	Ⅲ-1 E	底部完形
7	櫛状の原体による刺突、内外面に擦痕をのこす。	有	灰褐色。	Ⅱ-2 A	
8	粘糸体の圧痕。	有	赤褐色。	I-1 A	
9	巾8mmの半截竹管による平行沈線。	有	褐色。	Ⅱ-2 C	
10	巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	に赤褐色。	Ⅱ-2 B	
11~32	単節R Lの斜行縄文-13、15、26、同L R-12、14、18、20、25、同R L、L Rの羽状縄文-16、17、21~24、32、無節R L、L Rの羽状縄文-19、黒赤文-27、28。附加糸1種R L+L-30、同R L+L、L R+Rの羽状縄文-29、41。	有	12、18、20、25、26、32、35、44に赤褐色。13、21、23、24、27、30、40、45に赤褐色。33、36、42暗褐色。	Ⅱ-4 B C D	
33~47	巾3~6mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけて横位に施文。沈線間に無文帯、文様帯を作る。口縁部では、弧線一帯などが施文される。胴部では46、47が縦位の沈線と、「X」字状の文様を構成する。地文の縄文は、単節R L-34、37、38、42、44、45である。	無	34、37、41浅黄褐色、46灰褐色、他に赤褐色。	Ⅲ-1 E F	33、43は4 と同一個体
48~51	巾3mmの半截竹管による集合沈線。口縁部では横位の矢羽根状の施文。胴部では横位の沈線の下に木葉状の弧線が施文される。50は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	48、51褐色。49赤褐色。50褐色。	Ⅲ-1 H I	
52	無文口縁部。補修孔を持つ。	無	に赤褐色。	Ⅲ-5 C	
53~56	単節R Lの斜行縄文-53、54、無節L Rの斜行縄文-55、56、55はボタン状の貼付文が施文される。	無	53、55に赤褐色、54灰褐色。56褐色。	Ⅲ-1 J Ⅲ-5 A	
57~58	凹凸文が施される。58は凹凸文の間に2mmの半截竹管による平行沈線と刺突が施される。浮島系。	無	褐色。	Ⅲ-2 A	
59	巾5mmの半截竹管による押し引き文。	無	に赤褐色。	Ⅲ-1 A	
60	巾5mmの半截竹管による平行沈線が乱雑に施される。地文には、単節L Rの縄文を持つ。	無	褐色。	Ⅲ-1 F	
61	底部無文。底径9cm。	無	褐色。	Ⅲ-5 C	
62	底部、巾5mmの半截竹管による横位の平行沈線。底径15.6cm。	無	赤褐色。	Ⅲ-5 E	
63	底部、巾2mmの半截竹管を数本束ねた櫛状の原体による横位の平行沈線。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	褐色。	Ⅲ-5 E	

第1章 検出された遺構と建物

142号住居址出土土器 (第434・435図 写真105・154)

番号	文 様 の 観 察	織 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	頸部にぐいれ、口縁は内湾ぎみに広がり、4単位の波状を呈する。巾8mmの半截竹管による平行沈線と、爪形文。平行沈線を施文後爪形文を充填する。口縁部に三角形の文様を構成する。口縁部と頸部に単筋R L、L Rの羽状縄文を施す。口径41.1cm、胴部下径25.8cm、現高29.8cm。	有	褐。1～2mmの小礫を含む。焼成あまり良くなく、もろい。	II-2 B	表面直上出土
5・6	巾7mmの半截竹管による横位の平行沈線。	有	橙。	II-2 C	
7～9	巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。9は地文に単筋R L L Rの羽状縄文を持つ。	有	7、9に赤褐。8褐。	II-2 B II-3 A	
10～28	単筋R Lの斜行縄文-20、26。同L R-14、21、24。同R L、L R-10-13、18、19、22。無筋R L、単筋L Rの羽状縄文-15。無筋R L-16、17。同L R-20。直前段反折L L R-25。附加糸一種R L+L-27。無文-28、28は上げ底。	有	10浅黄橙。11、14、17、18、20に赤褐。22、24、27明黄褐。25、26に赤褐。他に赤褐。	II-4 B C D	
29	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文する。木葉状の孤線を構成する。	無	明褐。	III-1 H	
30	附加糸一種R L+L。	有	赤黄褐。	II-4 B	

143号住居址出土土器 (第436～439図 写真105・106・154)

番号	文 様 の 観 察	織 織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	口縁部は外反する平口縁。胴部は若干凹みを持つ。無筋R L、L Rの0段多縄で羽状縄文を施文し、菱形を構成する。口径25.3cm、胴部下径11.7cm、現高25cm。	多	橙。1mmの砂粒を多く含む焼成土。	II-4 D	表面直上出土
2	頸部にぐいれを持ち内湾ぎみに広がる平口縁につづく。縄文は附加糸一種のR L+L、L R+Rによる羽状縄文で、菱形を構成する。推定口径30.2cm、現高22cm。	有	明褐。1～2mmの砂粒を含む。焼成土。	II-4 B	
3	平口縁で、口唇部に小さい突起を持つ。巾5mmの半截竹管による横位の平行沈線とコンパス文。口径16.8cm、現高6.4cm。	有	赤黄褐。砂粒少。焼成土。	II-3 E	
4	ゆるやかな波状口縁を呈する。縦長の隆帯が口縁から無される。縄文は、附加糸一種R L+L、L R+Rの羽状縄文により、菱形を構成する。推定口径31.6cm。	有	赤黄褐。1～2mmの小礫を含む。焼成土。	II-4 B	
5	頸部にぐいれを持ち、胴部が膨らむ。単筋R L、L Rの羽状縄文で菱形を構成する。胴部最大径34.8cm。	有	灰褐。1～2mmの小礫を多く含む。焼成土。	II-4 D	
6	ゆるい波状口縁になる。無文。推定口径34.4cm。	多	赤褐。砂粒多。もろい。	II-4 E	
7	平口縁。無文。	有	赤黄褐。砂粒多。もろい。	II-4 E	
8～11	巾5～7mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。沈線施文後爪形文を施文。8は押し引きして爪形文を施文している。	有	8灰褐。9に赤褐。10に赤褐。11に赤黄褐。	II-2 B	
12～16	巾4～5mmの半截竹管による刺突。器面をめぐりとうりように施文している。14は別の半截竹管により、横位の平行沈線と、爪形文を施文する。	有	12～14灰褐。15に赤褐。16黄橙。	II-3 D	
17～19	巾5～7mmの半截竹管により平行沈線を施文。数本単位で横位に施文している。	有	17橙。18、19に赤褐。	II-2 C	
20～22	巾5mmの半截竹管による施文。平行沈線や爪形文、コンパス文を施文している。25は半截竹管の刺突。単筋R L、L Rの縄文。	有	20、21灰褐。22、25に赤褐。	II-2 E	
23・24	巾5mmの半截竹管による平行沈線。胴部に無筋の縄文。	有	23赤褐。24に赤褐。26褐。	II-3 E	
25	巾5～7mmの半截竹管によるコンパス文と平行沈線。26は単筋L Rの斜行縄文を施す。	有	28～30、32、35、42、44、50、55、56、59、62～68褐。34、53、57、58に赤褐。38、40、43、47、48、52、60、61褐。他に赤黄褐。	II-4 B C D 57 II-1 B	
27～68	単筋R Lの斜行縄文-36。同L R-33、39、41、53、55、56。同R L、L Rの羽状縄文-27-31、37、38、42-51。無筋R L-34、53、61。同L R-54。同R L、L Rの羽状縄文-64。附加糸一種R L+L-32。L R+L-67。同R L+L、L R+Rの羽状縄文-60、62、65、66。側面にループを持つ-59。器底文-58、63、68。直前段反折L L R-57。57はコンパス文を持つ。	有			

144号住居址出土土器 (第440・441図 写真106・155)

番号	文様の観察	織維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単節R L、L Rの羽状縄文により菱形を構成する。磨減している部分があり、縄文の消えている部分がある。胴部上径23.2cm、底径9.6cm、現高19.8cm。	有	明褐色。1～2mmの小塵を含む。焼成良。	II-4 D	埋設土器
2	平口縁。単節R Lの斜行縄文。口径20cm、現高15.3cm。	有	暗褐色。砂粒を含む。焼成良。	II-4 C	
3	単節R Lの斜行縄文。胴部上径10.1cm、底径7.4cm、現高14.2cm。	有	赤褐色。砂粒多。焼成良。	II-4 C	
4	柳状原体による刻文。	有	にぶい赤褐色。	II-2 A	
5	巾5mmの半截竹管による平行沈線、爪形文。	有	黒褐色。	II-3 A	
6	巾4mmの平行沈線。単節R L、L Rの羽状縄文。	有	極暗褐色。	II-3 B	
7	巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。附加条1種のL R+Rの縄文。	有	暗褐色。	II-3 A	
8	単節R Lの斜行縄文。	有	にぶい赤褐色。	II-4 C	
9・10	巾6mmのコンパス文が胴部の屈曲部に施文される。単節R L、L Rの羽状縄文。	有	明赤褐色。	II-3 E	
11	巾10mmの半截竹管による平行沈線。爪形文。菱形を構成。	有	褐色。	II-2 B	
12	巾7mmの半截竹管による平行沈線。菱形を構成。	有	にぶい赤褐色。	II-2 C	
13	巾4mmの半截竹管による平行沈線。単節R L、L Rの羽状縄文。	有	極暗赤褐色。	II-3 B	
14	巾7mmの半截竹管による平行沈線。縦位、横位に施文される。屈曲部には、コンパス文が施される。	有	にぶい赤褐色。	II-3 E	
15	巾5mmの半截竹管による平行沈線。爪形文。	有	明黄褐色。	II-2 B	
16	巾6mmの半截竹管による平行沈線。	有	にぶい赤褐色。	II-2 C	
17	巾7mmの半截竹管による平行沈線と、爪形文。爪形文は間隔をあけて施文される。縄文は単節R L。	有	明赤褐色。	II-3 A	
18～33	単節R Lの斜行縄文-23、29。同L R-22、31。R L、L R羽状縄文-19、21、28。無節R L、L Rの羽状縄文-24。単節R L、附加条1種L R+Rの羽状縄文-20。附加条1種R L+L、L R+R-25。側面ループと単節R L、L R-27。直前段合意と思われる-26。無文18、32、33、32、33は底部片で下底になる。	有	18、20、23、28～30赤褐色。 19、22極暗赤褐色。21、33褐色。 25、31黄褐色。26、27、32にぶい褐色。24明赤褐色。	II-4 B C D	
34	巾4mmの半截竹管による平行沈線。横位に施文し、沈線内に刻みを施文する。	無	褐色。	III-1 E	

145号住居址出土土器 (第442図 写真155)

番号	文様の観察	織維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	単節R Lの斜行縄文。	有	にぶい赤褐色。	II-4 C	
2	単節R L、L Rの羽状縄文。	有	にぶい黄褐色。	II-4 D	
3	単節R Lの斜行縄文。	有	暗褐色。	II-4 C	
4	単節R L、L Rの羽状縄文。	有	明褐色。	II-4 D	
5	単節R Lの斜行縄文。	無	褐色。	III-5 A	
6	巾3mmの平行沈線を横位施文。口縁部に凹凸文を施文。	無	浅黄褐色。	III-2 A	
7	土製行篋。縁道を打ち欠いて整形。胴部破片を利用。	有	褐色。		

146号住居址出土土器 (第445・446図 写真106・155)

番号	文様の観察	織維	胎土・焼成・色調	分類	備考
6	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数回連続して施文し、集合沈線状になっている。口縁に格子状、横位の施文をする。胴部は縦位の沈線により文様帯を4分割し、木葉状の弧線、矢羽根状の沈線で充填する。縦位の区画で、胴部中央部では、矢羽根状の施文をする。棒状、ボタン状の貼付文がある。ボタン状の貼付文は、2個1組で施文される。口径34.2cm、現高19cm。	無	褐色。1mmの砂粒を多く含む。ややザラつく。	III-1 I	埋設土器 胴部欠形
7～10	単節R Lの斜行縄文-8。同L R-7、8。同R L、L Rの羽状縄文-9、10。	有	7にぶい褐色。8暗褐色。9にぶい赤褐色。10褐色。	II-4 C D	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備 考
11~14	巾3mmの半截竹管による平行沈線。口縁部は渦巻状の文様を構成する。胴部は数本単位で間隔をあけて横位に施文される。11、13は単節R L、12、14は無節L rの斜行縄文を地文に持つ。	無	11、14褐色。12、13明赤褐色。	Ⅲ-1 E F	
15~28	巾3~4mmの半截竹管による集合沈線。16、17の口縁部は横位の矢羽根状の施文。15、18は横位の施文。胴部は縦位の沈線による区画と木葉状の孤線。縦位の矢羽根状の文様を充満する。18は口縁部に凹凸文を持つ。	無	15暗赤褐色。16、17、20、23、28にぶい赤褐色。19褐色。22、25、26黒褐色。18、21、24、27にぶい橙。	Ⅲ-1 H I	
29	単節R Lの斜行縄文。	無	明赤褐色。	Ⅲ-5 A	
30	無節L rの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	
31	底部無文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 C	
32	縦位の沈線。単節L Rの斜行縄文。加帯利E。	無	浅黄褐色。	IV	

147号住居址出土土器 (第448・449図 写真155・156)

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備 考
1	櫛状の原体による刺突。	有	にぶい橙。	Ⅱ-2 A	
2	口縁に径5mmの円形竹管による刺突。巾4mmの半截竹管による平行沈線と波状に施文。	有	にぶい橙。	Ⅱ-5	
3	半截竹管による押し引きの沈線と、櫛状の原体による沈線。	有	灰赤。	Ⅱ-5	
4・5	竹管状の原体による沈線。	有	にぶい赤褐色。	Ⅱ-3 F	
6・8	巾4~5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。6は無節R L、8は無節L Rの斜行縄文。	有	6にぶい赤褐色。8褐色。	Ⅱ-3 A	
7・9	巾6~8mmの半截竹管による平行沈線。7は無節R L、9は無節R L、L Rの羽状縄文。	無	7褐色。9赤褐色。	Ⅱ-3 B	
10~31	単節R Lの斜行縄文-29、22、25、28、同L R-19、21、27、29、同R L、L Rの羽状縄文-10~18、23、24、無節R rの斜行縄文-30、同L r-26、附加条1種R L+L、L R+Rの羽状縄文-31。	有	10、16灰褐色。11、15、29、33赤褐色。26褐色。28黒褐色。25浅黄褐色。他にぶい橙。	Ⅱ-4 B C D	
32・33	土製円盤。胴部破片を利用。32は繊維を含まない。33は繊維を含む。縁辺を研磨している。		にぶい橙。		
34	単節R Lの斜行縄文。底径-10.6cm。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 C	
35	単節R L、L Rの羽状縄文。上げ底。底径7.2cm。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 D	
36	無節R rの斜行縄文。上げ底。底径8.4cm。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 C	
37	単節R Lの斜行縄文。底径9.6cm。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	
38	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文する。単節R Lの斜行縄文を地文に持つ。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 E	
39	単節R Lの斜行縄文。口縁は波状になる。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	

149号a・b住居址出土土器 (第452~455図 写真106・107・156)

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備 考
1	条痕文土器。	有	にぶい橙。	I-1 A	
2	巾5mmの半截竹管による押し引きの爪形文と波状沈線。	有	にぶい橙。	Ⅱ-3 A	
3~6	巾4~9mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線施文後爪形文を沈線内に施文。3は爪形文の間隔が広い。6は口縁部に単節R L、L Rの縄文を施文。	有	3にぶい赤褐色。4、5にぶい橙。6褐色。	Ⅱ-2 B	
7~10	巾4~6mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文する。12は地文に縄文を持つ。	有	7浅黄褐色。8褐色。9灰褐色。10、12にぶい赤褐色。	Ⅱ-2 C	
11・13	巾9mmの櫛状の原体により5条の波状の沈線が施文される。地文に単節L Rの斜行縄文を持つ。	有	11灰褐色。13褐色。	Ⅱ-3 B	
14	無赤文。	有	赤褐色。	Ⅱ-4 B	
15	竹管の原体により間隔をえぐるように施文している。	有	にぶい橙。	Ⅱ-3 D	
16	半截竹管による刺突。縄文は無節R Lの斜行縄文。	有	浅黄褐色。	Ⅱ-3 D	
17	半截竹管による爪形文。胴部には無赤文が施文される。	有	にぶい橙。	Ⅱ-3 A	

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
18~45	単節R Lの斜行縄文-19, 21, 45, 同L R-41。同R L、L Rの羽状縄文-18, 20, 24, 26~28, 32, 38, 39, 42, 複節R L Rの斜行縄文-40, 無節L r-30, 同R r、L rの羽状縄文-23, 附加糸1種L R+Rの斜行縄文-29, 34, 35, 43, 同R L+L、L R+Rの羽状縄文-31, 33, 側面ルーブルR L-35, 無文-44, 直前段合捺R<上>L、L<上>Lによる羽状縄文-37。25は単節R L、L Rの羽状縄文と無節R r、L rの羽状縄文を施文している。44, 45は上げ底。	有	18, 19, 34, 37, 44にぶい橙。20, 21, 39, 42, 43灰褐。26, 27褐。31, 33, 35, 45淡黄橙。他にぶい赤。	II-4 B C D E	
46~57	巾3~5mmの半載竹管による平行沈線。1~数本単位に施文する。61は集合沈線状に施文される。横位に間隔をあけて施文し、沈線間に文様帯、無文帯を作る。口縁部で波頂部で三角形に施文。49は棒状の貼付文がある。胴部は、弧線-54, 56, 扇面状-55などが施文される。50, 52は沈線内に刺突を持つ。57は沈線内に爪形文を持つ。地文の縄文は単節R L-46~48, 50, 53~55, 57, 同L R-52, 無節R r-51。	無	46, 49にぶい赤褐。47, 48, 52, 53, 57, 61にぶい橙。51, 54~56にぶい赤。50淡黄橙。	III-1 H I	
58~60	巾4mmの半載竹管による平行沈線。沈線を連続して施文し、集合沈線状にしている。木葉状の文様を構成する。	無	58, 60にぶい橙。59褐。	III-1 H	
62~68	無節L rの斜行縄文-63, 単節R L、L Rの羽状縄文-66, 68, 附加糸1種R L+Rの各糸に1本ずつ附加したものを-64, 無文-62, 67, 67底径10.8cm, 65不明。	無	62にぶい赤褐。63~68にぶい橙。	III-5 A B C	
69・70	巾3mmの半載竹管による平行沈線を横位に施文。口唇に凹凸文を持つ。	無	69にぶい橙。70暗褐。	III-2 A	
71~73	土製円盤。胴部破片を利用。すべて繊維を含む。71は縁辺を研磨している。72, 73は縁辺を打ち欠いている。	有	ぶい橙。		
74	巾3mmの半載竹管による集合沈線。縦位に文様帯を区画し木葉状の弧線、矢羽根状の文様を充満する。4単位で構成される。直径6.3cm, 現高5.4cm。	無	ぶい黄橙。	III-1 H	
75	単節R Lの斜行縄文。底径9.3cm。	無	ぶい橙。	III-5 A	胴部残存
76	巾3mmの半載竹管を数本重ねた集合沈線。横位に間隔をあけて施文し、沈線間に斜位、横位の文様を施文する。胴部径9cm。	無	褐。砂粒を少量含む。焼成良。	III-1 G	
77	巾2~3mmの半載竹管による平行沈線。数本連続して施文。縦位の沈線により区画し、木葉状の弧線、矢羽根状の文様を充満する。胴下部では横位の沈線が施文される。胴部上径2.4cm, 現高19.8cm。	無	暗赤褐。1~2mmの黒色砂粒を多く含む。ザラつく。	III-1 H	胴部残存
78	巾2mmの半載竹管を数本重ねた原形による集合沈線を施す。縦位の沈線で区画し、木葉状の弧線と、縦位の矢羽根状の文様が交互に4単位ずつ施文される。胴部上径16.5cm, 胴部下径10.4cm, 現高12cm。	無	灰褐。砂粒を含む。焼成良。	III-1 H	
79	無文。ミニチュア土器。口径4cm, 直径1.6cm, 器高4.9cm。	無	ぶい橙。砂粒少。焼成良。		
80	胴部に膨らみを持つ。巾5mmの半載竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文。沈線間に弧状の沈線による文様を構成する。横位の沈線に半円状の弧線が7単位で構成される。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径23.5cm, 胴部下径16.3cm, 現高18.5cm。	無	ぶい橙。砂粒少。焼成良。白色砂粒を含む。焼成良。	III-1 F	埋設土器 胴部完形
81	有孔浅鉢無文。表面がよく磨かれている。最大径33.6cm。	無	ぶい赤褐。	III-6	

150号住居址出土土器 (第461~466図 写真157)

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で連続して施文し、集合沈線状にしている。間隔をあけて横位に施文する。地文には単節R Lの斜行縄文が施文される。推定口径40.8cm。	無	ぶい橙。砂粒多く含む。若干ザラつく。	III-1 E	
2	口縁は「く」の字状に屈曲し、波状を呈する。口縁と唇曲部に半載竹管による2列の刺突が加えられる。縄文は単節R Lの斜行縄文を施す。推定口径32.4cm。	無	暗赤褐。砂粒多く含む。焼成悪くザラつく。	III-1 E	
3	巾5mmの半載竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文する。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。胴部上径18.5cm, 現高18.5。	無	明赤褐。砂粒を多く含む。若干ザラつく。	III-1 E	埋設土器 胴部完形
4	巾3mmの半載竹管による平行沈線を2本単位で、胴部に施文し、	無	赤。1~2mmの砂粒を多く	III-1 E	埋設土器

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	編組	胎土・焼成・色調	分類	備考
5	丸棒状の原体で2列の刺突を上下2段に施す。地文は単節R Lの斜行縄文。胴部上径25cm、胴部下径18cm、現高15.2cm。 巾3mmの半載竹管による平行沈線。2～3本単位で、間隔をあけて横位に施文。胴部らみ部に文様等を持つ。渦巻状、弧状の沈線を施文する。地文に単節R Lの斜行縄文。胴部上径15.8cm、現高16.8cm。	無	含む。若干ザラつく。 明赤褐。砂粒多。若干ザラつく。	Ⅲ-1 F	胴部完形
6	巾3mmの半載竹管による平行沈線。1～2本単位で間隔をあけて横位に施文。胴上部のくびれ部に径5mmの円形竹管による刺突。胴部らみ部では渦巻状、弧線の上文様を構成する。単節R Lの斜行縄文を地文に持つ。胴部上径20cm、現高16.2cm。	無	赤褐。砂粒多。ザラつく。	Ⅲ-1 F	
7	巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で連続して施文し集合沈線状にしている。間隔をあけて横位に施文し、沈線間に無文帯、文様帯を作る。渦巻、弧状の沈線で文様を構成する。地文に単節R Lの斜行縄文。胴部最大径32cm、現高24cm。	無	靑。砂粒多。ザラつく。	Ⅲ-1 F	
8	巾3mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で連続して施文し、集合沈線状にしている。間隔をあけて横位に施文し、沈線間に無文帯、文様帯を作る。渦巻、弧状の沈線で文様を構成する。地文に単節R Lの斜行縄文。胴部最大径41.6cm、現高30cm。	無	灰褐。砂粒多く含む。ザラつく。	Ⅲ-1 F	
9	有孔沈線口縁部。口唇直下に径5mmの孔が焼成前に穿たれる。表面は良く磨かれている。口径19.2cm。	無	にぶい赤褐。砂粒多。焼成良。	Ⅲ-6	
10	単節R Lの斜行縄文。径径10.8cm。	無	靑。砂粒多。もろい。	Ⅲ-5 A	
11	巾3mmの半載竹管による横位の平行沈線。径径11.6cm。	無	靑。砂粒多。ザラつく。	Ⅲ-1 E	
12・15	巾6mmの半載竹管による平行沈線爪形文。地文に単節R L、L Rの羽状縄文を持つ。沈線施文後爪形文を施文。	有	12暗赤褐。15靑。	Ⅲ-3 A	
13	表面剥離。	有	褐灰。	I-1 A	
14	巾6mmの半載竹管による平行沈線。格子状に施文。	有	灰褐。	Ⅱ-3 B	
16・19	巾5mmの半載竹管による押し引きによる施文。地文に単節L Rの縄文を持つ。	有	16灰褐。19にぶい靑。	Ⅱ-3 D	
17	巾4mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。沈線を施文後爪形文を施文。	有	にぶい靑。	Ⅲ-3 A	
18	巾6mmの半載竹管による横位の平行沈線。	有	靑。	Ⅱ-3 B	
20・21	巾6～8mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	20靑。21靑。	Ⅱ-2 B	
22	巾5mmの半載竹管による平行沈線とコンパス文。	有	灰褐。	Ⅱ-3 E	
23	巾5mmの半載竹管より平行沈線と爪形文地文に単節R L、L Rの羽状縄文。沈線施文後爪形文を施文。	有	灰褐。	Ⅲ-3 A	
24～26	巾4～5mmの半載竹管による爪形文。25は単節R L、24、26は単節L Rの斜行縄文。	有	24、25にぶい靑。26靑。	Ⅱ-3 A	
27	巾5mmの半載竹管による平行沈線とコンパス文。	有	にぶい靑。	Ⅱ-3 E	
28～44	単節R Lの斜行縄文-29、32、33、41。同L R-28、同R L、L Rの羽状縄文-30、43、44。側面ループのR L-31、37。ループのR Lと羽状縄文-38。ねじり-38。無節L R-34。熱赤文-36。附加糸1種L R+R-35。結節を持つR L-40。無文-42、42～44は上げ底。	有	28、33、35、37、40灰褐。29、32、38、39、43、44にぶい赤褐。30、31、34、41靑。36浅黄褐。42靑。	Ⅱ-4 A B C D E	
45～78	巾3～5mmの半載竹管による平行沈線。1～数本単位で施文。連続して施文し、集合沈線状になる-57、72。間隔をあけて横位に施文するのを基本とし、沈線間に無文帯、文様帯を作る。胴部文様では、渦巻状、弧状の沈線により文様を構成する。胴部文様は、弧線や斜線により菱形、鋸歯状、渦巻などの文様を構成する。地文の縄文は単節R L-46～50、55、57、67～69、71、74～76、78。単節R L-45。無節R L-56。R Lの羽状縄文-56、75は沈線内に爪形文が施文される。	無	46、47、50、52、60、66、75にぶい赤褐。51明黄褐。53、56、灰褐。57明褐灰。77靑。他ににぶい靑。	Ⅲ-1 E F	
79～83	浮線文。79、81、83は浮線文上に刻みが付けられる。横位に浮線は施文されるのを基本とし、浮線間に弧状の浮線が施文される-82。地文に単節R Lが施される-79、81～83。	無	79暗赤褐。80、82、83靑。83浅黄褐。	Ⅲ-1 D	
84～86	巾3mmの半載竹管による集合沈線。木葉状の弧線、矢羽根状の沈線を施文する。	無	84靑。85にぶい靑。86にぶい赤褐。	Ⅲ-1 H	
87	巾3mmの半載竹管による平行沈線。口縁部凹凸文。浮島系。	無	灰褐。	Ⅲ-2 A	
88	熱赤文。	無	にぶい靑。	Ⅲ-5	
89	繩状の原体による波状の沈線。	無	黒褐。	Ⅲ-1 B	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
90	三角文。浮島系。	無	暗赤褐。	Ⅲ-2 D	
91	有孔浅鉢口縁部。無文。表面よく磨かれている。口唇直下に径6mmの孔が焼成前に穿たれる。	無	ぶい赤褐。	Ⅲ-6	
92	有孔浅鉢胴部。無文。表面よく磨かれている。径4mmの孔が焼成前に穿たれている。	無	金雲母を含む。ぶい橙。	Ⅲ-6	
93~98	単節R Lの斜行縄文-94, 95, 97~99, 101~103, 105, 同R L, L Rの羽状縄文-106~108, 無文-93, 磨滅が多く縄文主体不明-96, 104は巾5mmの半截竹管による横位の平行沈線, 105底径6.7cm, 現高9cm,	無	93, 101, 105にぶい赤褐。94, 95, 97, 102灰褐。98にぶい橙。108暗赤褐。他焼	Ⅲ-5 A B	
100	土製品。径8mmの孔が2個焼成前に穿たれる。	無	ぶい橙。		
101~111	土製円盤。116, 117以外は織成を含む。胴部破片を利用している。114~116は縁辺が研磨されている。他のものは縁辺を打ち欠いたのみである。	無	110, 112~114, 116灰褐。111, 117褐。115暗赤褐。		

151号住居址出土土器 (第469~472図 写真158)

番号	文様の観察	繊維	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	巾3mmの半截竹管を数本束ねた原体による集合沈線。間隔をあけて横位の施文。地文の縄文は附加糸1種R L+Lで各糸に1本ずつ附加したものを施文している。胴部上径17.8cm, 底径11.6cm, 現高15.1cm	無	明赤褐。砂粒を含む。焼成良。	Ⅲ-1 E	埋設土器
2	口縁は内湾ぎみにひろがる。巾4mmの半截竹管による平行沈線。横位の施文を基本とするが、乱雑に施文される。地文の縄文は、単節R Lの斜行縄文が施文される。	無	橙。3mmの小礫を含む。焼成良。	Ⅲ-1 F	埋設土器
3	原形不明。爪形状の施文。薄手の土器である。	無	橙。		
4~6	巾4~6mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。沈線内に爪形文を施す。9, 10は単節R Lの斜行縄文を施す。8は爪形文の点内に円形の刺突文。地文にR L, L Rの羽状縄文を持つ。	有	4, 8, 10にぶい橙。5, 9にぶい赤褐。6淡赤褐。	4~6 Ⅱ-2 B Ⅱ-3 A	
7~13	巾7~10mmの半截竹管による平行沈線。	有	7橙。13灰褐。	Ⅱ-3 A	
11~12	巾4~6mmの半截竹管による平行沈線とコンパス文。	有	11灰褐。12にぶい橙。	Ⅱ-3 E	
14~28	単節R Lの斜行縄文-17, 21, 同R L, L Rの羽状縄文-14~16, 18~20, 22, 28, 附加糸1種L R+R-23, 26, 同R L+R-24, 27, R L+L, L R+Rの羽状縄文-25,	有	14, 16, 17, 25にぶい赤褐。15灰褐。18~24, 26, 28にぶい橙。27にぶい橙。	Ⅱ-4 B D	
33	浮線文。口縁頂部に渦巻状の粘土紐が貼付される。浮線には刻みが付けられ、弧状の文様を構成する。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	ぶい橙。	Ⅲ-1 D	
29~32	巾3~6mmの半截竹管による平行沈線。1~数本単位で施文される。口縁破損部ではボタン状の小突起が貼付される-30, 34, 小突起を中心に三角形、弧状の沈線が施文される。胴部では間隔をあけて横位の施文し、無文帯、文様帯を構成する。文様帯では、弧状、渦巻状、横位の矢羽状の文様を構成する。地文の縄文は単節R L-30~32, 34~38, 同L R-41, 附加糸1種R L+R-42, 32は沈線内に刺突を持つ。49は渦巻状の沈線が縦長に施文され、木葉状の弧線に近い文様構成をする。	無	29, 31, 32, 34, 35, 37~39, 41, 43, 44橙。30浅黄褐。36, 40, 42, 45, 47, 49にぶい赤褐。46暗赤褐。48灰褐。	Ⅲ-1 E F	
34~49					
50~64	縄文のみの土器を一括した。単節R Lの斜行縄文-50~57, 59, 60, 同R L, L Rの羽状縄文-64, 単節R L, 無節L Rの羽状縄文-62, 無節R L, L Rの羽状縄文-63, 附加糸1種R L+L-58, 同L R+R-61, 52, 59, 60は、径10mmの円形刺突が施文される。	無	50, 51, 53~56, 58~60にぶい赤褐。52, 57, 62~64にぶい橙。61灰褐。	52, 59, 60 Ⅲ-1 C 他 Ⅲ-5 A B	
65~67	土製円盤。65, 66は胴部破片、67は底部を利用しての。65, 67は縁辺は良く研磨されている。66は縁辺を打ち欠いて整形している。いずれも織成を含まない。	無	65, 67にぶい橙。66灰褐。		
68	口縁は外反し、「く」の字状に屈曲する。ゆるい波状を呈する。胴部に影らみを持つ。巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で横位に間隔を持って施文する。胴部の影らみ部に文様帯を持つ。斜位の沈線で菱形を4本単位作りその間に渦巻状、弧状の沈線を充填する。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。口径25.3cm, 胴部下径11.3cm, 現高21.2cm。	無	浅黄褐。砂粒を少量含む。若干デラテック。	Ⅲ-1 F	埋設土器

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文様の観察	織紐	胎土・焼成・色調	分類	備考
69・70	巾5mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文し、沈線間に渦巻状の文様を構成する。地文は附加条1種のL R + Rと思われる。	無	69に白い橙。70暗赤褐。	III-1 F	

152号住居址出土土器 (第474~477図 写真158・159)

番号	文様の観察	織紐	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	無筋L Rの斜行縄文を角度をかえて施文する。胴部最大径37.6cm	有	に白い橙。砂粒少。焼成良。	II-4 C	
2	巾4mmの半截竹管による平行沈線、爪形文。沈線内に爪形文を充塞。横位に施文し、その間を縦位に区画し、斜位の施文をする。地文に単筋R L、L Rの羽状縄文を施す。胴径21.6cm、現高8.2cm。	有	に白い橙。砂粒を少し含む。焼成良。	II-3 A	
3	単筋R L、L Rの羽状縄文により変形を構成する。底部は若干上げ底になる。底径13.1cm、現高13cm。	有	明黄褐。砂粒を少量含む。焼成良。	II-4 D 4-8	
4~9	巾6~10mmの半截竹管による平行沈線と、爪形文。沈線施文後爪形文を充塞する。口縁部で4~8は三角形の文様を構成する。9は肋骨文状に施文される。6、9は地文に縄文を持つ。6は単筋R L、9は単筋R L、L Rの羽状縄文。	有	4、5、9に白い橙。6灰褐。7に白い橙。8に白い赤褐。	II-2 B 9 II-3 A	
10~16	巾6~10mmの半截竹管による平行沈線文。変形、三角形、横位の方に施文される。13は単筋R L、16は単筋L Rの斜行縄文を施文する。	有	10灰褐。11に白い橙。12、13、15に白い赤褐。14、16に白い橙。	II-3 B	
17~47	縄文のみの土器を一括した。単筋R Lの斜行縄文-18、25、37。同L R-24、35、41。同R L、L Rの羽状縄文-20、22、23、29、30、32、36、38、42、43、45~47。無筋R L、L Rの羽状縄文-19。単筋R L、無筋L Rの羽状縄文-39。無赤文-31、34。附加条2種一筋。原体がはっきりしない-40、44。33は附加条1種R L + Rと無赤文が施文される。	有	17、40、41改良橙。18、19に白い赤褐。20、22~24、31~33、39、43、44に白い橙。21、26、27、45、47灰褐。25、28~30、35、42橙。	II-4 B C D	
48	器面に薄く土を貼り付け、その上から巾7mmの半截竹管による平行沈線を施している。地文の縄文は単筋L Rの斜行縄文。	有	に白い赤褐。	II-3 B	
49	巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。無赤文を施文。	有	明赤褐。	II-5	
50	無文。横位の磨度が認められる。	有	に白い赤褐。	II-4 E	
51~54	土器底部。単筋R Lの斜行縄文-51。同R L、L Rの羽状縄文-53、54。無文-52、51、54は上げ底になる。底径は、51-10.5cm、53-9cm、54-10.2cm。	有	51に白い赤褐。52~54に白い橙。	II-4 C D E	
55・56	単筋R Lの斜行縄文。	無	55に白い橙。56に白い赤褐。	III-5 A	
57~60	土製円筒。胴部破片を利用している。すべて織紐を含む。57は縁辺が良く研磨されている。58~60は縁辺を打ち欠いて整形している。作りは粗い。	有	57、60に白い橙。58灰褐。59改良橙。		
61	口縁は4単位の波状を呈する。巾10mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線内に若干間隔を置いて爪形文を施文。三角形の文様を構成する。胴部の縄文は単筋L Rと思われるが、はっきりしない。口縁34cm。	有	に白い橙。砂粒多。焼成良。	II-2 B	4と同一個体

153号住居址出土土器 (第479・480図 写真159)

番号	文様の観察	織紐	胎土・焼成・色調	分類	備考
4	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で連続して施文し、集合沈線状になっている。横位に間隔をあけて施文する。口縁部近くでは、波状になる。地文は単筋R Lの斜行縄文を地文に持つ。胴部上径35cm、胴部下径19.5cm、現高12.5cm。	無	に白い黄橙。1~2mmの砂粒を多く含む。焼成あまり良くなく。ゼラツク。	III-1 E	埋設土器 胴部欠形
5	口縁部で大きく外反し、「く」の字状に屈曲する。4単位の大きな波状口縁を呈すると思われる。胴部に屈曲部を持つ。巾3mmの半截竹管を数本束ねた帯状の原体による平行沈線。間隔をあけて横	無	明褐。1~2mmの砂粒多く含む。焼成良。	III-1 F	埋設土器 胴部欠形

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備 考
	位に施文し、沈線間に文様帯を持つ。口縁部では波状に施文される。上から1段目の文様帯では縦位の区画線内を「X」状の文様が5単位に充填される。2段目の文様帯では、2単位の両巻状の文様を構成し、その間に斜線により、菱形状の文様を構成する。推定口径36.1cm、胴部下径14.3cm、現高21.6cm。				
6	有孔浅鉢形部。表面よく磨かれている。胴部最大径38cm。	無	明褐。砂粒少。焼成良。	Ⅲ-6	
7	口縁は「く」の字状に屈曲しゆるい波状を呈する。巾4mmの半軟竹管による平行沈線。数本単位で施文し、集合沈線状になっている横位に間隔をあけて施文し、沈線間に横位の矢羽根状に施文する。推定口径23.4cm、口縁頂部にボタン状の小突起が貼付される。	無	灰褐。砂粒多。焼成あまり良くなくザラつく。	Ⅲ-1 G	
8・9	単部R Lの斜行縄文-10。同R L、L Rの羽状縄文-9。附加条	有	8、10にぶい褐。9、11にぶい褐。	Ⅱ-4 B C・D	
10・11	1幅R L+L、L R+Rの羽状縄文-8、11。				
12~18	巾3~8mmの半軟竹管による平行沈線。1~数本単位で施文する	無	12、20、22、25、27、28にぶい赤褐。13、14、16、17、18、21、23、24、26にぶい橙。15灰褐。	Ⅲ-1 E F	
20~28	口縁部では、波状、弧状に文様構成される。12、17はボタン状の小突起が貼付される。胴部は横位に間隔をあけて施文。無文帯、文様帯を作る。13、15、17、18、20~23は単部R L、25、28は無部のL rの縄文を地文に持つ。				
19・29	巾3mmの半軟竹管による集合沈線。木葉状の弧線を施文。	無	19、32にぶい褐。29、33~35にぶい赤褐。他にぶい橙。	Ⅲ-1 H 38~40	
30~34	単部R Lの斜行縄文-30~32、33。無部L r-33、36、37。38~40は、巾2~4mmの半軟竹管による平行沈線を横位に施文する。				
36~40	底径39~7.2cm、40~7.6cm。				

154号住居址出土土器 (第482回 写真159)

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備 考
1	附加条と思われるが磨滅が多くはっきりしない。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 B	
2~11	巾2~5mmの半軟竹管による集合沈線。数本単位で施文し、集合沈線状になる。間隔をあけて横位に施文する。4、11は横位の矢羽根状。5は格子目状に文様を構成する。3は地文に単部R Lの斜行縄文を持つ。	無	2にぶい褐。3、4、11にぶい赤褐。5~7、9にぶい橙。8、10浅黄褐。	Ⅲ-1 E F	
12~20	巾3~4mmの半軟竹管を数本束ねた厚体による集合沈線。口縁部と胴下部は横位に沈線を施文して胴部文様帯を区画する。胴部文様帯は、木葉状の弧線、矢羽根状の沈線により構成される。18、20は地文に縄文を持つ。13は棒状貼付と透しが施される。	無	13にぶい黄褐。12、14、27、28灰黄褐。15、26、29、32~34橙。16、18黄褐。17、30、31暗赤褐。19、20黄褐。	Ⅲ-1 H I	
26~34					
21	無部L rの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	
22	単部L Rの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	
23	無部L rの斜行縄文。	無	明赤褐。	Ⅲ-5 A	
24	単部R Lの斜行縄文。底径7.2cm。	無	明褐。	Ⅲ-5 A	
25	底部無文。底径9.6cm。	無	明赤褐。	Ⅲ-5 C	
35	巾3mmの半軟竹管による平行沈線。横位に施文。	無	橙。	Ⅲ-1 E	
36	無文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 C	
37	単部R L、L Rの羽状縄文。	無	にぶい黄褐。	Ⅲ-5 B	
38	無部L rの斜行縄文。	無	明褐。	Ⅲ-5 A	
39	単部R Lの斜行縄文。	無	明赤褐。	Ⅲ-5 A	
40	無部L rの斜行縄文。	無	明赤褐。	Ⅲ-5 A	

第1章 検出された遺構と遺物

土坑出土土器 (第553~571図 写真213~219)

番号	文様の観察	編織	胎土・焼成・色調	分類	備考
1	口縁は大きく外反し、4単位の波状を呈する。胴部は中央部に膨らみを持つ長筒になる。口縁と頸部のくびれ部には、6個単位の帯状の原体による刺突が縦位に施文される。この間の口縁部文様帯は巾7mmの半截竹管による平行沈線で、4単位の菱形文を構成する。沈線内には、帯状の原体により、刺突文が充填される。胴部は、単節LRと、附加条1種単節RL+Lによる羽状織文により菱形を構成する。口径33cm、現高42.5cm、底径12.4cm。	有	明赤褐。1~3mmの小礫を含む。焼成良。	II-2A	112号土坑出土
2	口縁はゆるく外反し、波状を呈する。胴部は膨らみを持つ。文様は巾7mmの半截竹管による平行沈線で、頸部に横位に施文し、口縁部で山形に施文する。胴部の織文の原体ははっきりしないが羽状織文により菱形を構成する。推定口径24.8cm、現高26cm。	有	橙。	II-2C	85号土坑
3	口縁はゆるく外反し、4単位の波状口縁を呈する。織文の原体は帯幅が多くはっきりしないが羽状織文で菱形を構成する。口径28.4cm、現高17.6cm。	有	橙。	II-4D	112号土坑
4	口縁は大きく外反し、4単位の波状口縁を呈する。頸部でくびれ胴部は膨らみを持つ。巾12mmの半截竹管による平行沈線と爪形文平行沈線を施文後沈線内に爪形文を充填。胴部に3本横位に施文し、口縁に平行するように4本山形に施文する事により、三角形の文様を構成する。胴部は単節RLとLRの織文により菱形を構成する。口径34.5cm、現高27.5cm。	有	橙。	II-2B	85号土坑
5	単節RLとLRの羽状織文により菱形を構成する。胴部上径13.4cm、底径9.3cm、現高12.5cm。	有	橙。	II-4D	97号土坑
6	単節RLとLRの羽状織文により菱形を構成する。底径8.3cm。	有	橙。	II-4D	112号土坑
7	口縁は内湾ぎみに立ち上がり、波状を呈する。頸部で屈曲し、胴部に膨らみを持つ。織文は無節のRとLの羽状織文で菱形を構成する。原体は0段多条。	有	にぶい橙。	II-4D	112号土坑
8	単節RLの斜行織文。胴部上径19.4cm、胴部下径11cm、現高16.5cm。	無	にぶい黄橙。	III-5A	39号土坑
9	有孔波状口縁部。内外面とも良く磨削されている。口唇直下に径8mmの孔が6cm間隔で穿たれている。口径19.2cm。	無	にぶい褐。	III-6	108号土坑
10	口縁は若干外湾ぎみに立ち上がる平口縁。頸部から胴部にかけて膨らみを持つ。織文は0段多条で無節LRが施文される。口径30.3cm、現高32.1cm。	有	橙。	II-4C	1号土坑
11	胴上部は外反し、胴部下で膨らみを持つ。巾3mmの半截竹管を2本重ねた原体を連続して施文し、集合沈線状にしている。胴部の上下で横位に施文し、文様帯を区画する。文様帯内は縦位の沈線で6分割し、その間を木葉状の弧線、縦位の矢羽根、斜位の沈線で充填される。胴部上径19.6cm、胴部下径8.7cm、現高20cm。	無	明黄褐。	III-1I	88号土坑
12	巾4mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文。地文の織文は、無節LRの斜行織文。底径9.5cm。	無	にぶい赤褐。	III-1E	89号土坑
13	巾4mmの半截竹管による平行沈線。2~3本単位で、間隔をあけて横位に施文。地文の織文は単節LRの斜行織文。胴部上径14.2cm、現高13.8cm、胴部下径10.8cm。	無	暗褐。	III-1E	141号土坑
14	巾4mmの半截竹管による平行沈線で矢羽根状に施文。底径7.6cm。	無	明赤褐。	III-1G	13号土坑
15	巾3mmの半截竹管による平行沈線。連続して施文し、集合沈線状にしている。数本単位で横位に間隔をあけて施文し、その間を横位の矢羽根状の沈線が充填される。胴部上径18.4cm、胴部下径8cm、現高23.4cm。	無	明赤褐。	III-1G	13号土坑
16	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文し、集合沈線状にしている。胴部を縦位の沈線で分割し、その間を木葉状の弧線、矢羽根状、鋸歯状の沈線が充填される。胴部上径13cm、胴部下径8.5cm、現高14.5cm。	無	橙。	III-1H	88号土坑
17	巾4mmの半截竹管による平行沈線。口縁と底部に数本単位で横位に施文し、胴部の文様帯を区画する。胴部は木葉状の弧線で8分割される。口縁には、帯状の貼付文が4単位に施文される。口径23.5cm、底径9cm、現高24.7cm。	無	にぶい褐。	III-1I	6号土坑
18	巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	にぶい褐。	II-3A	1号土坑
19	巾4mmの半截竹管による平行沈線と竹管の先を交互に支点として	有	にぶい赤褐。	II-3A	1号土坑

番号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分類	備考
	施文。				
20	竹管状の原体による横位の列点。	有	にぶい黄橙。	II-3 D	
21	巾6mmの半截竹管による平行沈線。	有	にぶい赤褐。	II-3 B	1号土坑
22・23	22は原体不明、23は単節R L、L Rの羽状縄文。	有	にぶい橙。	II-4 D	1号土坑
24	横位の平行沈線、ボタン状の貼付、口唇部凹凸文。	無	にぶい赤褐。	III-2 A	1号土坑
25	横位の平行沈線、地文は単節R Lの斜行縄文。	無	褐。	III-1 E	1号土坑
26・27	単節R Lの斜行縄文。27は円形の刺突文。	無	にぶい橙。	III-1 C	1号土坑
28	単節R Lの斜行縄文。	無	橙。	III-5 A	2号土坑
29	単節L Rの斜行縄文。0段多条。	有	黒褐。	II-4 C	6号土坑
30~36	巾2~4mmの沈線を整合化させたもので、横位、矢羽根状、木葉状の孤線などの文様を構成する。ボタン状、棒状の貼付文が施される。	無	30, 31, 33, 34にぶい赤褐、32, 35, 36橙。	III-1 H I	30~32-6 号33~36- 13号土坑
37	巾2mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で施文し、口縁部頂部では、三角形の区画内にボタン状の貼付文と横位の沈線が充塞される。割部は横位に間隔をあけて施文。地文の縄文は単節R Lの斜行縄文。	無	明赤褐。	III-1 F	10号土坑
38~46	単節R Lの斜行縄文-40、同R L、L Rの羽状縄文-38, 39, 41~46。羽状縄文は菱形を構成する。	有	38, 40, 41, 46にぶい褐、39, 45にぶい赤褐、42, 44橙、43灰褐。	II-4 C D	14号土坑
47	巾3mmの半截竹管による平行沈線で矢羽根状の施文。	無	にぶい褐。	III-1 H	14号土坑
48・49	巾4mmの半截竹管による横位の平行沈線。	無	にぶい橙。	III-1 E	14号土坑
50	巾5mmの半截竹管による横位の平行沈線と棒状の貼付文。	無	にぶい橙。	III-1 H	14号土坑
51	巾3mmの半截竹管による平行沈線で梯子状に施文。	無	にぶい橙。	III-1 H	14号土坑
52・53	巾3~4mmの半截竹管による横位の平行沈線。	無	52橙、53にぶい褐。	III-1 E	14号土坑
54	巾3mmの半截竹管による平行沈線。口縁部にボタン状の貼付文。	無	明赤褐。	III-1 E	15号土坑
55	巾3mmの半截竹管による平行沈線で木葉状の孤線を施文。	無	にぶい橙。	III-3 H	15号土坑
56・57	単節R Lの斜行縄文。56は棒状の貼付、口唇に凹凸文。	無	にぶい橙。	III-5 A	15号土坑
58・59	平行沈線による弧状の施文。	無	58にぶい橙、59にぶい黄橙。	III-1 E	18号土坑
60・61	60は単節R L、L Rの羽状縄文、61は附加条1種L R+RとR L+Lの羽状縄文。	有	にぶい橙。	II-4 B D	21号土坑
62	巾4mmの半截竹管による平行沈線。	無	にぶい橙。	III-1 E	21号土坑
63	横位の浮線文。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	にぶい橙。	III-1 D	21号土坑
64・65	巾3~4mmの半截竹管による平行沈線、64は地文無節L Rの縄文。	無	64にぶい赤褐、65にぶい橙。	III-1 F	21号土坑
66	巾4mmの半截竹管による平行沈線。	無	にぶい赤褐。	III-1 H	21号土坑
67・68	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位で間隔をあけ横位に施文。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	67にぶい赤褐、68灰褐。	III-1 F	67-10号土 坑68, 69, 70
69~72	単節L R-70, 71, 単節R L、L Rの羽状縄文-69, 72。	有	69, 71褐、70, 72橙。	II-4	33号 71
73	巾6mmの半截竹管による平行沈線。底径12.3cm。	有	にぶい橙。	II-3 B	72, 73-35
74	無節L Rの斜行縄文。	有	にぶい橙。	II-4 C	号 74-36
75~84	単節R Lの斜行縄文-75~82、同R L、L Rの羽状縄文-83, 84, 81, 82は巾5mmの半截竹管による平行沈線が横位に施文される。76は口唇部に凹凸文。	無	75灰赤、76, 78灰褐、77, 79, 83, 84橙、他赤褐。	III-5 A B	号土坑 75 ~82-39号 83, 84-41
85・86	85は巾6mmの半截竹管による平行沈線。縄文は、単節R L-86、同R L、L Rの羽状縄文-85, 87。	有	橙。	II-2 C	号土坑 85 ~87-44号
88	巾7mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	明赤褐。	II-2 B	土坑 88~
89~92	単節L R-91、同R L、L Rの羽状縄文-89, 90, 92。	有	89, 92橙、90, 91褐。	II-4	52-45号土 坑 93, 94
93	巾6mmの半截竹管による平行沈線。	有	赤褐。	II-3 B	50号土坑
94	組み紐。	有	橙。	II-4 A	53号土坑
95~98	無文。98の底径5.4cm。	無	95, 96赤褐、97, 98橙。	III-5 C	59-104-1
99~100	巾8~9mmの半截竹管による平行沈線、爪形文。	有	にぶい赤褐。	II-2 B	59号土坑
101~103	単節R Lの斜行縄文-101, 102、同R L、L Rの羽状縄文-103, 104, 101, 102は0段多条。	有	103にぶい赤褐。他にぶい赤褐。	III-4 C D	60号土坑
104	巾7mmの半截竹管による平行沈線、爪形文。地文単節L R。	有	橙。	II-2 B	61号土坑
105	単節L Rの斜行縄文。	有	淺黄橙。	II-4 C	107-112- F
106~108	巾3mmの半截竹管による平行沈線。1~3本単位で間隔をあけ横位に施文。107は口縁部で弧状の孤線により文様帯を作る。	無	107橙、108赤褐、109灰褐。	III-1 E	62号土坑
109	巾9mmの半截竹管による平行沈線、爪形文。	有	にぶい赤褐。	II-2 B	
110	巾4mmの半截竹管による平行沈線。地文に単節L Rの斜行縄文。	無	黄。	III-1 E	
111	口唇に糸線文。波状爪形文。	無	黄橙。	III-2 B	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	議題	胎土・焼成・色調	分類	備考
111	巾2mmの半載竹管による平行沈線。沈線間を同じ原体による連続した爪形文で、貝殻腹縁を模倣している。	無	緑褐色焼。	Ⅲ-2 C	113、114-67号土坑
111~120	単節R Lの斜行縄文-114、117、118、同R L-Rの羽状縄文-116、119、附加条1種R L+Lの斜行縄文-120、	有	114、119灰褐、117赤褐、120褐。他にふい橙。	Ⅱ-4 B C D	115-119-69号土坑
121	無文。	無	無橙。	Ⅲ-5 C	
122~123	巾3mmの半載竹管による平行沈線。口縁部破片で、弧状の沈線により文様帯を作る。地文に無節L Rの縄文を持つ。	無	122褐、123赤褐。	Ⅲ-1 F	
124	巾3mmの半載竹管による平行沈線。横位の矢羽根状に施文。	無	無橙。	Ⅲ-1 G	
125	巾5mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	無	にふい赤褐。	Ⅱ-3 A	125、126
126	単節R Lの斜行縄文。	無	にふい橙。	Ⅲ-5 A	-70号土坑
127	無節R L、L Rの羽状縄文。	有	にふい橙。	Ⅱ-4 D	127、128
128	有孔浅鉢割部。無文。	無	にふい赤褐。	Ⅲ-6	-71号土坑
129~131	巾2~3mmの半載竹管を数本束ねた原体による集合沈線。棒状の貼付が施される。	無	129赤、131灰褐。	Ⅲ-1 H	129-74号土坑 130~133-75号土坑
132	無文。表面に擦痕がある。	無	にふい橙。	Ⅲ-5 C	
132~133	巾3mmの半載竹管による平行沈線。横位に間隔をあけて施文。	無	132にふい橙、133赤褐。	Ⅲ-1 E	
134	単節R Lの斜行縄文。	無	浅黄褐。	Ⅱ-4 C	77号土坑
135	単節R Lの斜行縄文。	無	にふい赤褐。	Ⅲ-5 A	135-140
136~137	巾5~6mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線施文後、爪形文を充填する。	有	136、141橙、137褐。	Ⅱ-2 B	-78号土坑
138~140	単節R Lの斜行縄文-143、同R L-144、146、同R L、L Rの羽状縄文-139、147、無節R L、L Rの羽状縄文-140、145附加条1種R L+LとR L-138。	有	138、140、144灰褐、139褐。他にふい橙。	Ⅱ-4 B C D	80号土坑 143-149 83号土坑
141	巾4mmの半載竹管による平行沈線。横位、弧状に施文。	無	明黄褐。	Ⅲ-1 F	
142	無文底面。直径10.8cm。	無	にふい黄橙。	Ⅲ-5 C	
143	単節R L、L Rの羽状縄文。	有	無橙。	Ⅱ-4 D	84号土坑
144	巾5mmの半載竹管によるコンパス文。	有	灰褐。	Ⅱ-3 E	151-164
145~153	巾6~7mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線施文後、爪形文を施文。	有	152黒、153にふい橙。	Ⅱ-3 A Ⅱ-2 B	-86号土坑
154~159	単節R Lの斜行縄文-154、155、同R LとL Rの羽状縄文-157~159、無節L Rの斜行縄文-156。	有	154~156、158赤褐、157、159にふい橙。	Ⅱ-4 C D	
160	巾5mmの半載竹管による平行沈線。地文単節R Lの斜行縄文。	無	にふい赤褐。	Ⅲ-1 E	
161~162	単節R Lの斜行縄文。	無	無橙。	Ⅲ-5 A	
163~164	単節R L-164、同R L、L Rの羽状縄文-163。	有	163橙、164赤褐。	Ⅱ-4	
165	巾9mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	にふい橙。	Ⅱ-2 B	165-175
166~169	単節R L、L Rの羽状縄文-166、167、169、附加条1種L R+R-168。	有	166、167赤褐、168、169にふい橙。	Ⅱ-4 B D	-88号土坑
170~174	巾3mmの半載竹管による平行沈線。172は横位の矢羽根状に施文。173は口唇に半載竹管による刺突が施される。	無	170~173にふい橙、174灰褐。	Ⅲ-1 F	
175	単節R Lの斜行縄文。	無	にふい橙。	Ⅲ-5 A	
176~178	棒状の原体による刺突、177は刺突文の下は平行沈線が施される。178は単節L Rの斜行縄文。	有	176、178にふい赤褐、177にふい橙。	Ⅱ-2 A	176~211-89号土坑
179	巾6mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	灰褐。	Ⅱ-3 A	
180	巾6mmの半載竹管による平行沈線。	有	暗赤褐。	Ⅱ-3 A	
181~183	単節R Lの斜行縄文-183、187、同R L-184、同R L、L Rの羽状縄文-182、185、186、188、189、附加条1種R L+L-181、同L R+R-190、同R L+L、L R+R-183。	有	184、188、189、191赤褐、181灰褐、186、187褐。他にふい橙。	Ⅱ-4 B C D	
184~186	巾3~4mmの半載竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文口縁部は渦巻状の文様を構成する。193~195は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	192にふい黄橙、193、196にふい橙、194褐、195にふい赤褐。	Ⅲ-1 E F	
187	巾4mmの半載竹管による集合沈線。	無	無橙。	Ⅲ-1 H	
188~190	単節R Lの斜行縄文-198、同R L-199、無節L Rの斜行縄文-200。	無	198、200赤褐、199にふい橙。	Ⅲ-5 A	
191	巾3mmの半載竹管により矢羽根状の施文。地文単節R L。	無	無橙。	Ⅲ-1 H	
192	単節L Rの斜行縄文。	無	にふい橙。	Ⅲ-5 A	
193	巾3mmの半載竹管による集合沈線。貼付文が施される。	無	にふい赤褐。	Ⅲ-1 I	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文 様 の 観 察	編組	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
304	無文。口縁に垂直に隆帯を持つ。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 C	
305	土製円盤。縁辺を打ち欠いて整形。	無	にぶい黄褐色。		
306	有孔浅鉢口縁部。無文。口唇直下に径6mmの孔を穿つ。	無	無。	Ⅲ-6	
307	巾3mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文。	無	無。	Ⅲ-1 E	
308	土製円盤。縁辺は研磨されている。	無	明赤褐色。		
309	巾2mmの半截竹管による爪形文。地文は単節R Lの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 A	
310	底部。無文。	無	にぶい黄褐色。	Ⅲ-5 C	
311	底部。無文。底径18.8cm。	無	浅黄褐色。	Ⅲ-5 C	
312	単節R L、L Rの羽状縄文。	有	にぶい黄褐色。	Ⅱ-4 D	212~216
313	巾7mmの半截竹管による平行沈線。地文は単節R Lの斜行縄文。	無	無。	Ⅲ-1 E	—90号土坑
314	巾2mmの半截竹管による平行沈線。地文は無節L rの斜行縄文。	無	灰褐色。	Ⅲ-1 E	
315	単節L Rの斜行縄文。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 C	
216~218	土製円盤。胴部破片を利用。縁辺は打ち欠いて整形。研磨はされていない。	有	にぶい橙。		217-93号土坑218
219	巾7mmの半截竹管による平行沈線。	有	にぶい橙。	Ⅱ-2 C	—95号土坑
220	巾8mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。隆帯を持つ。	無	灰褐色。	Ⅱ-2 B	219~221
221	巾7mmの半截竹管による平行沈線。	有	にぶい橙。	Ⅱ-3 B	—96号土坑
222	巾7mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	にぶい橙。	Ⅱ-2 B	222~226
223	単節L Rの斜行縄文。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 C	—97号土坑
224~225	巾3mmの半截竹管による横位の平行沈線。地文は単節R L。	無	灰褐色。	Ⅲ-1 E	
226	附加条R L + Lと単節L Rの羽状縄文。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 D	227~231
227	単節R L、L Rの羽状縄文。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 D	—100号土坑
228	単節R Lの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	坑
229	巾4mmの半截竹管による平行沈線を横位に施文。	無	灰褐色。	Ⅲ-1 E	
230	単節R Lの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 A	
231	巾7mmの半截竹管による平行沈線。地文に単節L Rの斜行縄文。	有	にぶい赤褐色。	Ⅱ-3 C	232~237
232	然赤文。	有	にぶい赤褐色。	Ⅱ-4 B	—103号土坑
233	単節R L、L Rの羽状縄文。	有	灰褐色。	Ⅱ-4 D	坑
234	単節L Rの斜行縄文。	有	にぶい赤褐色。	Ⅱ-4 C	238~104
235	単節L Rの斜行縄文。	有	浅黄褐色。	Ⅲ-1 H	号239~
236~237	巾3mmの半截竹管による平行沈線。数本単位に集合沈線状に施文。	無	238、239、241、242にぶい赤褐色。240褐色。	Ⅲ-5 A	241~106号坑 242~244
238~242	単節R Lの斜行縄文。239、241は径8mmの円形竹管による刺突が施文される。	無	にぶい黄褐色。	V	—107
243	細い縁線に刺突を持つ。縄文は沈線により区画される。	無	浅黄褐色。	Ⅲ-1 E	号土坑
244	巾2mmの半截竹管による集合沈線。	無	洗黄褐色。	Ⅲ-1 E	坑
245~248	245、248、251、252は巾5~7mmの半截竹管による平行沈線が施文される。縄文は、単節R L-247~249、253、同R L、L Rの羽状縄文-245、246。他は不明。	有	245~249にぶい赤褐色。251~253黒褐色。250にぶい橙。	Ⅱ-3 B	245、247~108号246
249~253	巾3~5mmの半截竹管による平行沈線。256は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	254、257赤褐色。255橙。256褐色。	Ⅲ-1 E	248~109号坑 249、250
254~257	単節R Lの斜行縄文。	無	258褐色。259赤褐色。	Ⅲ-5 C	251~259
258~259	附加条R L + R。各条間に1本づつ2本附加している。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 B	—113号
260	巾3mmの半截竹管を数本束ねた原体による平行沈線。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 B	260~264
261	巾4mmの半截竹管による平行沈線。	無	にぶい赤褐色。	Ⅲ-1 E	—114号
262	単節L Rの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 C	265~268
263	巾2mmの半截竹管による集合沈線。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 H	265~268
264~273	265、266、269、270は巾6~8mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。縄文は、単節R Lの斜行縄文-269、270、277、同R L、L Rの羽状縄文-266~268、271、272、274、275、278、組み紐-273、276は沈線による格子目文。	有	269、271、275赤褐色。267、277灰褐色。270、276褐色。278灰赤。他ににぶい橙。	Ⅲ-1 H Ⅱ-3 A Ⅱ-4 A	—115号坑 —116号土坑
274	巾5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。細い条線。	無	無。	Ⅲ-1 B	
275	深鉢把手。巾2mmの半截竹管による集合沈線。貼付文。	無	にぶい黄褐色。	Ⅲ-1 I	
276	単節R Lの斜行縄文。	無	にぶい橙。	Ⅲ-5 C	
277	浮線による渦巻状に施文される。	無	にぶい橙。	Ⅲ-1 D	
278~287	単節R Lの斜行縄文-287、同L R-285、286、同R L、L R 283、284は側面にループを持つ。	有	にぶい橙。	Ⅱ-4 C	284~288
288	巾3mmの半截竹管による平行沈線。地文はR L。	無	灰褐色。	Ⅲ-1 E	坑
289	巾9mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	有	黒褐色。	Ⅱ-2 B	289、299
290~293	290~299然赤文。口唇部には何れも施される。300は単節R Lの	有	290、291、295褐色。296、299	Ⅱ-4 B	—118号

第1章 検出された遺構と遺物

番号	文 様 の 観 察	線画	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
	斜行縄文。301～303は単節R L、L Rの羽状縄文。		赤褐。301赤。他に白。橙。	C	290～298
	304 巾2mmの半載竹管を束ねた柳状の原体による横位や波状の沈線。	無	白。白。橙。	D	300～307
305・306	巾3mmの半載竹管による平行沈線。間隔をあけ横位に施文。	無	白。白。橙。	III-1 E	—119号土坑
	307 巾6mmの半載竹管による平行沈線。	有	白。白。橙。	II-3 B	
308～314	308、309は巾6mmの半載竹管による平行沈線。爪形文。単節R Lの斜行縄文—308、310、同L R—314。同R L、L Rの羽状縄文—309、311、312。附加糸1種R L+L、L R+R—313。	有	308褐。309橙。310灰褐。311～314に白。赤褐。	II-3 A II-4	308～316 —126号土坑
315	巾3mmの半載竹管による横位の平行沈線。地文単節R L。	無	暗赤褐。	III-1 E	
316～320	単節L Rの斜行縄文—316、318、319、同R L、L Rの羽状縄文—317。0段多糸。無節L r—320。317は巾6mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	316、317、319橙。318灰褐。320に白。赤褐。	II-3 A II-4 C	317～321 —121号土坑
321	単節R Lの斜行縄文。	無	白。白。赤褐。	III-5 C	
322～328	322は巾3mmの半載竹管による平行沈線で格子状に施文。323、324、326は横位に施文。325は爪形文を支点をづらして交互に施文。325～327は単節R L、L Rの羽状縄文。328は無節L rの縄文。	有	322、324、325、327に白。赤褐。323灰褐。326、328橙。	II-3 B	322～330 —122号土坑
329	平行沈線と、竹管状の刺突。	無	黒褐。	III-1 A	
330	土製円盤。割部破片。縁辺部は良く研磨されている。	有	有。		
331	柳状の原体による刺突。と巾6mmの半載竹管による平行沈線。	有	明褐。	II-1 D	331～339
332・333	巾7mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。口縁に赤線。	有	332灰褐。333明褐。	II-1 B	—126号土坑
334	無節R L、L rの羽状縄文。	有	明赤褐。	III-4 D	
335・336	巾4mmの半載竹管による平行沈線。	無	明赤褐。	III-1 E	
337	巾2mmの半載竹管による集合沈線。矢羽状に施文。	無	明褐。	III-1 H	
338	単節R Lの斜行縄文。	無	白。白。橙。	III-5 A	
339	土製円盤。割部破片。縁辺は良く研磨されている。	有	有。		
340	巾5mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。単節R L、L R。	有	有褐。	II-3 A	340～343
341	単節R L、L Rの羽状縄文。	有	黒褐。	II-4 D	—134号土坑
342	巾4mmの半載竹管による平行沈線。地文は単節R L。	無	明赤褐。	III-1 E	
343	単節L Rの斜行縄文。	無	白。白。赤褐。	III-5 A	
344	単節R Lの斜行縄文。ボテン状の貼付文。	無	白。白。赤褐。	III-1 J	138号土坑
345	巾5mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	白。白。赤褐。	II-2 B	345～347
346	単節R Lの斜行縄文。	無	明赤褐。	III-5 A	—139号土坑
347	無節L rの斜行縄文。	無	灰褐。	III-5 A	
348・349	巾2～3mmの半載竹管による集合沈線。	無	白。白。赤褐。	III-1 H	348～350
350	浮線文に刻みが施される。地文は単節L Rの斜行縄文。	無	明褐。	III-1 D	—140号土坑
351	然文。	有	白。白。橙。	II-4 B	
352	巾3mmの半載竹管による横位の平行沈線。地文は無節L r。	無	有。	III-1 E	351～355
353	巾6mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	白。白。橙。	II-3 A	—141号土坑
354	巾5mmの半載竹管による平行沈線。	有	明赤褐。	II-3 B	
355～360	単節R Lの斜行縄文—357、358。同L R—360。同R L、L Rの羽状縄文—359。無節R L—355。附加糸1種R L+R—359、355の底径10.8cm。	有	355、357～360に白。赤褐。356に白。橙。	II-4 B	357～364 —142号土坑
361	巾3mmの半載竹管による平行沈線。地文に単節R Lの斜行縄文。	無	白。白。橙。	III-1 F	
362～364	362、363単節R Lの斜行縄文。364は単節L Rの斜行縄文。	無	362赤褐。363、364明赤褐。	III-5 A	
365	単節L Rの斜行縄文。	有	白。白。赤褐。	II-4 C	143号土坑
366	巾7mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。	有	白。白。赤褐。	II-2 B	366～377
367	巾6mmの半載竹管による平行沈線と爪形文。地文単節R L。	有	白。白。橙。	II-2 B	—144号土坑
368～371	単節R Lの斜行縄文—369～371。同R L、L Rの羽状縄文—368。371は横位施文。	有	368灰褐。369明赤褐。370橙。371赤褐。	II-4 C	
372	巾3mmの半載竹管による平行沈線。地文は単節R Lの斜行縄文。	無	白。白。赤褐。	III-1 E	
373～375	単節R L、L Rの羽状縄文—374。無節R Lの斜行縄文—373。同L r—375。	無	白。白。赤褐。	II-4 C	
376	波状爪形文。	無	白。白。赤褐。	III-2 B	
377	巾4mmの半載竹管による平行沈線。地文は単節R Lの斜行縄文。	無	白。白。黄橙。	III-2 C	
378	巾5mmの半載竹管による平行沈線。渦巻状の文様。地文単節L R。	無	白。白。橙。	III-1 F	378～380
379～384	単節R Lの斜行縄文—379、381、384。同L R—380、383。同R L、L Rの羽状縄文—382。	有	379灰黄。380～383明赤褐。384に白。橙。	II-4 C	—152号土坑381、382
385	単節R Lの斜行縄文。	無	明赤褐。	III-5 A	—155号土坑
386	巾5mmの半載竹管による平行沈線。柳状の原体による刺突。	有	暗褐。	II-2 D	坑383、384

第4節 縄文時代の出土遺物

番 号	文 様 の 観 察	織 造	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
307	土製円盤。胴部破片を利用。縁辺を打ち欠いて整形。	有	明赤褐。		
308~312	単節 R L の斜行縄文-388、同 R L、L R の羽状縄文-391、392 無節 R #、L # の羽状縄文-389、390、392 の底径は 7.6cm。	有	388 黄褐。389~392 褐。	II-4 C D	—156号385 —159号土
313・314	巾 5~6mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。394 は単節 R L、L R の羽状縄文。	有	393 褐。394 におい赤褐。	II-2 B II-3 A	坑386、387 —160号土
315	巾 3mm の半載竹管による平行沈線。地文は単節 R L の斜行縄文。	無	暗赤褐。	III-1 E	坑388~392
316~319	396 は単節 R L の斜行縄文。397 は磨赤文。398 は沈線による格子状の文様。399 は単節 R L、L R の羽状縄文。	有	396~398 におい赤褐。399 磨。	II-4	—161号土 坑393~396
400・401	巾 2~3mm の半載竹管による横位の平行沈線。地文に単節 R L の斜行縄文を持つ。	無	におい磨。	III-1 E	—162号土 坑397~399 —163号土
402	単節 L R の斜行縄文。底径 7.2cm。	無	におい赤褐。	III-5 A	36400-165
403~408	単節 R L の斜行縄文-404、408、同 L R-407。附加条 1 種 L R + R-406、同 R L + L と無節の L # による羽状縄文-403、405 は巾 8mm の半載竹管による平行沈線。408 底径 6cm。	有	403 黄褐。404 褐灰。405、406 赤褐。407、408 磨。	II-4 B C D	号土坑401 —404-167 号土坑405
409	附加条 1 種 R L + L、L R + R の羽状縄文。	有	におい磨。	II-4 B	—414-168
409・410	単節 R L の斜行縄文。409 は口唇に刻みが施される。	無	におい赤褐。	III-5 A	号土坑415、 416-169号
411~414	単節 R L の斜行縄文。412 は口唇に刻みが施される。	無	におい赤褐。	III-5 A	土坑417~ 421-170号
415	巾 4mm の半載竹管による平行沈線。地文に単節 R L の斜行縄文。	無	におい磨。	III-1 E	土坑422-1
416~418	417、418 は巾 5~7mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。419 は巾 9mm の半載竹管による平行沈線。420、421 は単節 R L、L R の羽状縄文。	無	417 灰褐。418~421 におい磨。	III-5 A II-2 II-4	425-176号 土坑
422~425	422 は巾 6mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。423 は単節 R L の斜行縄文。424、425 は同 R L、L R の羽状縄文。425 の底径は 9.3cm。	有	422、425 におい赤褐。423、424 磨。	422 II-2 B II-4	
426	単節 R L の斜行縄文。口径 20cm、現高 19.5cm。	無	浅黄褐。	II-5 A	426、437
427	巾 5mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。地文単節 R L。	無	におい磨。	III-1 E	—441-322
428・429	浮線文に刻みを持つ。429 は地文に縄文を持つが、原体の磨りにはつきりしない。	無	428 におい磨。429 におい黄褐。	III-1 D	号土坑
430	単節 R L の斜行縄文。	無	におい磨。	III-5 A	
431~441	単節 R L の斜行縄文-440、同 R L、L R の羽状縄文-431、432、434~436、442、444。磨赤-438。単節 L R と無節 R L-443 附加条 1 種 R L + L、L R + R-433、439、同 R L + L の各条に一本づつの 2 本附加と単節 L R-437。441 は土製円盤。胴部破片。縁辺は良く研磨されている。434、436 はカーブを持つ。	有	431~438、440 におい磨。443 黄褐。439 赤褐。441、442 磨。444 灰褐。	II-4 B C D	442~445- 323号土坑
442	巾 4mm の半載竹管による平行沈線。地文は単節 R L の斜行縄文。棒状の貼付が施される。	無	におい磨。	III-1 I	
443	単節 R L の斜行縄文。	有	におい磨。	II-4 C	
444	単節 R L、L R の羽状縄文。	有	明褐。	II-4 D	
445	巾 4mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。口唇に刻み。	無	におい赤褐。	III-1 A	
446~451	単節 R L、L R の羽状縄文。	有	449、450 磨。451 浅黄褐。	II-4 D	449~451 —1 号土坑
452	巾 5mm の半載竹管による平行沈線。	無	磨。	III-1 E	452~455- —108号土
453	巾 3mm の半載竹管による平行沈線。地文は単節 R L の斜行縄文。	無	黒褐。	III-1 E	坑
454	巾 5mm の半載竹管による平行沈線と爪形文。地文無節 L #。	無	におい磨。	III-1 A	
455	単節 R L の斜行縄文。	無	におい磨。	III-5 A	

■備考中の土坑番号は出土土坑を示す。

第1章 検出された遺構と遺物

遺構外出土土器 (第576~591団 写真214・215・219~222)

番 号	文 様 の 観 察	組織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
1	口縁は平縁で、頸部に屈曲を持ちわずかに外反する。単節R L、L Rの羽状縄文。口径42cm、胴部下径12cm、現高31.2cm。	有	明褐色。1~2mmの砂粒多。焼成良。	II-4 D	55E21
2	口縁は平縁で外反する。単節R L、L Rの羽状縄文で、変形を構成する。口径19cm、現高22.5cm。	有	にぶい橙。1~2mmの砂粒多。もろい。	II-4 D	E区
3	無節のR L、L Rの羽状縄文。磨滅が多くはっきりしない。底部上げ底。底径9.3cm、現高13cm。	有	にぶい黄褐色。1~2mmの砂粒多。もろくザラつく。	II-4 D	70D20
4	単節R L、L Rの羽状縄文で変形を構成する。胴部最大径32.6cm、口縁は平縁で、わずかに外反する。単節R L、L Rの羽状縄文で変形を構成する。推定口径42.3cm。	有	明赤褐色。	II-4 D	20E00
5	口縁は平縁で、屈曲もなく直線的に立ち上がる。無節L Rの斜行縄文。口径14cm、現高19cm。	有	褐色。1~2mmの砂粒多。焼成良。	II-4 C	40~50E00
6	口縁は平縁で、大きく外反する。単節R L、L Rの羽状縄文で変形を構成する。胎体は0段多糸。推定口径30cm、現高19.9cm。	有	にぶい赤褐色。1~2mmの砂粒多。焼成良。	II-4 D	70D20
7	単節R L、L Rの羽状縄文。口径38cm。	有	にぶい赤褐色。砂粒多。	II-4 D	E区
8	市3mmの半截竹管を数本束ねた原体による集合沈線。縦位に文様帯を分割し、その間を矢羽状、木葉状の弧線が充填される。縦位の分割は不規則である。棒状、ボタン状の貼付文が施文される。胴部上径15.5cm、現高10.2cm。	無	橙。砂粒少。焼成良いが若干ザラつく。	III-1 I	10E20
9	頸部にわずかに隆帯を持ち、刻みが施される。沈線により弧線が引かれ、口縁部に単節L Rの縄文を持つ。口部34cm。	無	にぶい黄褐色。砂粒少。焼成良く堅い。	V	
10	有孔流鉢器。無文。内外面ともよく磨かれている。底部に段を持つ。段の部分での径は21.8cmを測る。	無	にぶい赤褐色。砂粒多。焼成良く堅い。	III-6	D区
11	市4mmの半截竹管による平行沈線。間隔をあけて横位に施文。膨らみ部には横位に矢羽状の沈線を施文する。胴部上径19.2cm、現高16.6cm。	無	橙。砂粒少。焼成良。	III-1 G	
12	無節L Rの斜行縄文。胴部上径23.1cm、現高17.3cm。	無	灰黄褐色。砂粒多。焼成良。	III-5 A	
13	市4mmの半截竹管による平行沈線。横位に間隔をあけて施文し沈線間は、無文帯と、文様帯に区画される。膨らみ部に文様帯が作られ、3単位の渦巻状の沈線と、それを結ぶ弧状の沈線から構成される。胴部上径16.9cm、現高17cm。	無	橙。砂粒少。焼成良。堅くしまっている。	III-1 F	
14	粘土磨が貼付される。半截竹管によるコンパス文。	有	明褐色。	II-1 A	
15	市6mmの半截竹管による平行沈線。市2~3mmの半截。	有	褐色。	II-1 C	
17~19	17、19は柳状の原体。18は半截竹管を原体にしてコンパス文を施文。18は直前段合控R<下。19は複節R L Rの斜行縄文。17は地文ははっきりしない。	有	17、19にぶい褐色。18にぶい黄褐色。	II-1 B	
20~29	柳状の原体による刺突。20、23、29は市6~7mmの半截竹管による平行沈線。20、21、39は爪形文が施文される。刺突は口縁や頸部に垂直に施文され、平行沈線内にも施文される。	有	22褐色。20、21、25褐色。23、28、29暗褐色。40黄褐色。他にぶい赤褐色。	II-2 A D	
30~32	市4~7mmの半截竹管による平行沈線。爪形文。平行沈線を施文後爪形文を施文。37は平行沈線のみ。31は口縁部に単節R L、L Rの羽状縄文が施文される。34は口縁に条線、36は口唇両面に施文される。	有	30、31、38褐色。32、34赤褐色。35灰褐色。36黄褐色。37黒褐色。	II-2 B	
34~38	市3~5mmの半截竹管の原体による爪形文や刺突が施される。41、48は垂直に近い角度で施文。43、46は押し引きによる施文。46、47は2段の隆帯を持つ。	有	41、48黄褐色。42、44、45黄褐色。43、46、47にぶい赤褐色。	II-3 C D	
41~48	隆帯に刻みが施される。	有	黒褐色。	II-3 C	
49	口唇に条線を持つ。口縁部は、市5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。	無	にぶい赤褐色。	III-2 A	
50~57	市5mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。墨糸文が施文される部分と、無文帯の部分とを隆帯により区画される。	有	にぶい黄褐色。	II-5	
51~55	貝殻敷線による施文。	有	51にぶい褐色。52黄褐色。53~55にぶい黄褐色。	II-3 G	
56	市4~6mmの半截竹管による平行沈線と爪形文。平行沈線を施文後爪形文を施文。横位、縦位、斜位に施文される。地文の縄文は単節R L、L Rによる羽状縄文が多い。	有	56、58、59褐色。60、61、63黄褐色。62黒褐色。	II-3 A	
58~63	無文。口縁に直直に隆帯を持つ。	有	褐色。	II-4 E	
64	柳状の原体による波状文。縄文は単節L Rの斜行縄文。	有	褐色。	II-3 B	
65	市3~7mmの半截竹管による平行沈線。コンパス文や、円形竹管	有	66、74黄褐色。67、77褐色。68、	II-3 E	
66~77					

番号	文様の類型	組織	土質・焼成・色調	分類	備考
78~96	による刺突が加えられる。77は平行沈線で格子状に施文される。単節R Lの斜行縄文-72、76、同R L、L Rの羽状縄文-69、71 附加糸1種R L+L-70、L R+L-75。 単節R Lの斜行縄文-84、90、同L R-80、81、96、80、90はループを持つ。同R L、L Rの羽状縄文-78、82、83、95、97、98 附加糸1種R L+L、L R+Rの羽状縄文-87、88、附加糸3種軸の縄文R L-93、直前段合照L<上>-85、92。組み組-91、無糸-79、86、89、94。	有	72灰黄。71黄褐。73、76灰褐。69、70、75褐。	77 II-3 F	
99~111	底面。99、103、105、106、108~111は上げ底。単節R Lの斜行縄文-102、108、111、同L R-101、110、同R L、L Rの羽状縄文-99、104~106、109、無節L r-103、無文-197。半載竹管による爪形文-100。底径はそれぞれ、7.7、3.9、17.6、6.2、9.6、10、2、13.4、8.5、7.5、8.7、9.3、7.5、10.5cmである。	有	99、101、103褐。109、111 他。におい焼。	100、101 II-3 A II-4 B C D E	
112	巾5mmの半載竹管による平行沈線。肋骨文。円形竹管の刺突。	無	におい焼。	III-1 B	
113~114	原体の巾10mmの帯状の原体による横位や波状の平行沈線。114は地文に単節L Rの斜行縄文。	無	におい焼。	III-1 B	
115~118	浮線文。浮線の上に刺突が施される。横位、渦巻などの文様が構成される。地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。	無	115赤褐。116褐。117黄褐。118明黄褐。	III-1 D	
119~124	巾3~6mmの半載竹管による平行沈線。1~数本単位で施文される。口縁部では、弧線や渦巻状の文様が構成される-120~125。胴部では、横位に間隔をあけて施文し、無文帯と文様帯を作る。文様帯では、弧線、渦巻など口縁部文様帯と同様の文様が多く施文される。口縁部に小突起の貼付される土器-120、122、128は口唇部に半載竹管による爪形文が施文される。133、134は沈線内に刺突が、135、136は刺突が施される。地文の縄文は単節R L-119~121、123、125~131、133~135、137~141、143、144、無節L r-132。	無	120、121、134におい焼。137 浅黄褐。124黄褐。135、138 黄褐。125、127~129におい赤褐。他におい焼。	III-1 E F	
145~148	巾3~4mmの半載竹管を数回連続して施文した集合沈線。横位の矢羽根状に施文される。145、146、148は地文に縄文が施文されるが、原体ははっきりしない。	無	145~147褐。148明赤褐。	III-1 G	
149~158	巾2~4mmの半載竹管による平行沈線。数本束ねた帯状の原体や連続して施文し集合沈線状になっている。口縁部は横位の沈線で文様帯を区画し、矢羽根状-152、「X」字状-150などの文様を構成する。横位の縄文-151や矢羽根状の施文-155、157。胴部では、木葉状の弧線、矢羽根状、格子状の沈線による文様が構成される。150、159、165、166は地文に単節R Lの斜行縄文を持つ。ボタン状、棒状の貼付を施す。	無	149、153、155、160、161におい焼。150黄褐。154におい焼。156灰褐。165灰赤。他におい赤褐。	III-1 H I	
171~178	巾2~4mmの半載竹管による平行沈線。数本単位で施文する集合沈線。矢羽根状や横位に施文される。矢羽根状の沈線の交点にボタン状の貼付がされる。波状口縁になる深鉢の把手。	無	171褐灰。172、173灰赤。174~177におい焼。178灰褐。	III-1 I	
179~182	口唇部に凹凸文を持つ。巾3~4mmの半載竹管による平行沈線。横位、矢羽根状に施文される。182はボタン状の貼付が施される。179は内面にも凹凸文が施される。	無	179赤灰。180~182赤褐。	III-2 A	
183~185	粘土紐を「~」状や、棒状に貼付。粘土紐は押しつぶした状態で貼付されている。巾3~6mmの半載竹管による平行沈線が横位や弧状に施文される。	無	183褐。184褐。185におい黄褐。	III-3 A	
186~187	巾3~4mmの半載竹管による平行沈線。連続して施文し、集合沈線状になっている。斜位、渦巻、などを構成する。ボタン状の貼付文が施される。	無	186におい黄褐。187浅黄褐。	III-4 B	
188	渦巻状に浮線が施される。浮線の上に竹管による刺突。地文に横位の平行沈線が施文される。	無	浅黄褐。	III-4 A	
189~191	巾4mmの半載竹管による爪形文。押し引きにより横位に連続して施文している。地文の縄文は、いずれも単節R Lの斜行縄文が施されている。	無	におい焼。	III-4	
192~199	細い粘土紐を弧状、渦巻状に貼付し半載竹管による爪形文を施文している。結節浮線文。地文に半載竹管による平行沈線が横位に施文される。	無	192におい黄褐。193、194、196~199におい焼。195におい赤褐。	III-4 A	
200~202	巾3mmの半載竹管による平行沈線に爪形文を施文している。渦巻	無	200におい黄褐。201明褐。	III-4 A	

第1章 検出された遺構と遺物

番 号	文 様 の 観 察	織 績	胎土・染成・色調	分 類	備 考
30~33	状の文様を構成し、200と201は文様の間に円形、三角形などの陰刻がされる。 巾3~5mmの半軟竹管による平行沈線。連続して施文し、集合沈線状になっている。沈線は、矢羽根状、鋸歯状、弧状に施文される。口縁部や、沈線間に三角形、半円形、などの陰刻が施される。210は陰帯を持つ。	無	202黄橙。		
33~35	貝殻複線による施文。三角形、半円形、弧状の陰刻が複線文の間に施文される。	無	219に赤褐色、220~223に赤い黄橙。	III-4 C	
35~39	ボタン状、棒状の貼付文を持つ。縄文は、単節R Lの斜行縄文-224~227、229、231、233、234、同L R-232、235、同R L、L Rの羽状縄文-228、230、236~243、231は口縁に巾4mmの半軟竹管による爪形文を2列施文される。230は口縁内面にもボタン状、棒状の貼付がある。	無	224、227、231、233、241、242赤褐色、225灰赤、226褐色、236、237灰褐色、239、240灰赤褐色、他に赤褐色。	III-1 J	
39~39	器面に「一」状の粘土紐が貼付される。258、259は口唇部に施文。244、251、255、256はボタン状の貼付も施される。地文の縄文は、単節R L-245、253、257~259、263、266、同R L、L Rの羽状縄文-246~252、254~256、261、262、264、265、244は地文の縄文はない。	無	244~248、250、251、255、259~263、266褐色、257灰褐色、265灰褐色、他に赤褐色。	III-3 A	
39~39	単節R Lの斜行縄文-267、268、271、272、275、277~283、同L R-274、284、同R L、L Rの羽状縄文-273、276、無節R Eの斜行縄文-269、同L R-270、267、268は口唇部に刻みを持つ。270、271は口縁部に陰帯を持つ。272は半軟竹管による平行沈線。274は円形の孔が穿たれる。277は口縁部にボタン状の貼付が施される。273、280は筋束を持つ。	無	267、270、275、277、278、282~284赤褐色、273灰赤、他に赤褐色。	III-5 A B	277 267、268
39~39	口縁部に数段の凹凸文を持つ。竹管状の原体により器面を削りとり、器面を隆起させている。	無	285、286に赤褐色、286灰褐色、287に赤褐色。	III-2 A	
39	口唇に糸線を持つ。器面は無文である。	無	287に赤褐色。	III-2 A	
39	口唇に糸線文。巾3mmの半軟竹管による横位の平行沈線。	無	287に赤褐色。	III-2 A	
39	口唇に糸線文。貝殻複線と凹凸文。	無	287に赤褐色。	III-2 A	
39	沈線内を貝殻複線による充塞がされる。	無	287に赤褐色。	III-2 C	
39	巾3mmの平行沈線と、貝殻複線文。凹凸文が施文される。	無	287に赤褐色。	III-2 C	
39	貝殻複線文。	無	287に赤褐色。	III-2 B	
39~39	波状爪形文と巾2mmの細い半軟竹管を2~3本束ねた原体による押し引き文。	無	295褐色、296、297明赤褐色。	III-2 B	
39~39	貝殻複線による施文。	無	295褐色、296、297明赤褐色。	III-2 B	
39	三角文。	無	295褐色、296、297明赤褐色。	III-2 D	
39	三角文。	無	295褐色、296、297明赤褐色。	III-2 D	
39・39	巾2mmの半軟竹管による平行沈線。	無	295褐色、296、297明赤褐色。	III-2 C	
39	擦赤文。	無	295褐色、296、297明赤褐色。	III-5 E	
39	巾3mmの半軟竹管による平行沈線。口縁に2段の陰帯を持ち、刻みが施される。	無	295褐色、296、297明赤褐色。	III-2 A	
39~39	有孔残片剥離部。巾4~5mmの半軟竹管により木葉文が施文され、沈線内を刻みや爪形文で充塞する。	無	307、308灰黄褐色、309明黄褐色。	III-6	
39~39	底部を一括した。310~312、316は刷代痕。318~321は無文313、317は単節R L、314、315は同L Rの斜行縄文。322は巾2mmの半軟竹管による平行沈線。底径は7.4、7.5、10.2、12.1、11.3、6.1、12.8、9.6、6.5、6.6、9.6、10.3、6.7mmを測る。	無	310黄褐色、311灰褐色、312、315、322浅黄褐色、317、318、320褐色、他暗赤褐色。	III-1 D III-5 A C	
39~39	323、325、327は大形の爪形文が施文される。326は貝殻複線による施文。324は沈線内を刷突が充塞される。327は輪痕痕が認められる。	無	310黄褐色、311灰褐色、312、315、322浅黄褐色、317、318、320褐色、他暗赤褐色。	IV	
39	沈線により弧状に施文。	無	310黄褐色、311灰褐色、312、315、322浅黄褐色、317、318、320褐色、他暗赤褐色。	V	
39・39	巾の広い弧状の沈線。地文に単節R Lの縄文を持つ。	無	310黄褐色、311灰褐色、312、315、322浅黄褐色、317、318、320褐色、他暗赤褐色。	IV	
39~39	沈線により文様が構成される。331、332は単節R L、333はR L、L Rの羽状縄文を持つ。	無	310黄褐色、311灰褐色、312、315、322浅黄褐色、317、318、320褐色、他暗赤褐色。	V	
39~39	沈線により縄文帯と無文帯が区画される。334、336は単節R L 338、339はR Lの縄文が施文される。334、335、337は陰帯を持ち、刷突が加えられる。	無	310黄褐色、311灰褐色、312、315、322浅黄褐色、317、318、320褐色、他暗赤褐色。	V	
39~39	沈線による施文。横位、弧状に施文され、縄文帯と、無文帯を構成する。縄文は単節R Lの斜行縄文が多い。347は突起上に凹凸文	無	310黄褐色、311灰褐色、312、315、322浅黄褐色、317、318、320褐色、他暗赤褐色。	V	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	文 様 の 観 察	編織	胎土・焼成・色調	分 類	備 考
	が施される。341は口唇に彫みが施される。340、351、352は沈線のみで縄文はない。		赤褐。354黄橙。他褐灰。		
35	横位の沈線と、口縁部に斜めの彫みが施文される。	無	にぶい橙。	VI	
35a~38	無文。357は折り返し口縁。369は直径4.8cm。	無	356、357、360にぶい橙。358にぶい橙。359浅黄橙。	V	
36	横位の沈線と、単節R L、L Rの羽状縄文。	無	浅黄橙。	VI	
37	無文。横位の隆帯に円形の刺突。	無	にぶい褐。	VI	
38	由3mmの半截竹管による横位の平行沈線。地文の縄文原形不明。	無	灰褐。	VI	
39	沈線と単節L Rの斜行縄文。	無	にぶい橙。	VI	
39~48	土製円盤。胴部破片利用。386~390、392~394、397~400は織理を含まない。他は含織理。縁辺は比較的研磨されているが打ち欠いただけのものも若干ある。		橙色系と褐色系に分かれる。		
40	土製の塊状耳飾り。無文。	無	にぶい赤褐。		
40	深鉢の把手。円形の刺突がされ、獣面を表現する。	無	にぶい赤褐。	III-1	
40	深鉢の把手。貝殻の腹縁が施文される。	無	にぶい赤褐。	III-4	
40	深鉢の把手。	無	加瀬利B I にぶい褐。	V	

※備考中の英数字は出土グリットを示す。

(2) 石器

糸井宮前遺跡より出土した石器類は、原石、礫、剥片等を含めて総点数は20,000点以上になる。これらのうちの大半にあたる約18,000点は剥片、砕片、礫等である。残り2,400点については石器及び使用痕を持つもので実測図を掲載した。これらの石器の大部分は、縄文土器と同一の文化層から出土したものである。出土位置は、遺構単位では把握できたが、遺構外出土のものについては、出土地点の不明のものが多く、グリッド単位でしかとらえられない。遺構内出土の石器の大半が覆土中からの出土で土器と入り混じった状態であった。住居内から出土した石器の組成を見ると石皿、敲石、磨石の類が多く、打製石斧、石匙、石鏃の類が少ない傾向にある。なお各遺構ごとの数量については、第II章第1節でまとめている。

石器の時期は、本遺跡の出土土器の90%以上を占める縄文時代前期に位置づけられると考える。

出土石器の器種分類は、石槍、石匙、スクレイパー、使用痕を有する剥片、打製石斧、磨製石斧、磨石、凹石、敲石、多孔石、石皿、台石、石製装飾品、石刻に分類し、器種によっては、その形態的特徴から分類した。その分類については以下のとおりである。

- 石鏃
- I 挟りを持つもの。Aは挟りが三角形、Bは挟りが丸みを持つ。
 - II 挟りがなく平面が三角のもの。
 - III 有茎のもの。
- 打製石斧
- I 短冊形を呈するもの。Aは細身で側縁がほぼ平行となる。Bは刃部がやや広がる。
 - II 撥形を呈するもの。Aは刃部が直線的。Bは刃部が丸凸刃となる。
 - III 分銅形を呈する。
- 石匙
- I 縦形。Aは身が縦長。Bは刃部が幅広く丸みを持つ。
 - II 横形を呈するもの。Aは三角形を呈しつまみ部が片寄って付く。Bはほぼ中央に付く。
 - III 不定形を呈し、刃部、つまみ部の位置も一定でない。
- スクレイパー
- I 縦長。A刃部を二辺以上持つ。B刃部が一辺。
 - II 横長。A刃部を二辺以上持つ。B刃部が一辺。
 - III 不定形のもの。
- 磨製石斧
- I 幅広く蛤刃を呈する。
 - II 乳棒状を呈する。
 - III 定角で、扁平なもの。
- 磨石・凹石・敲石
- I 円形の石を用いたもの。A表面に凹みを持たない。B凹みを両面ないし片面に持つ。
 - II 長楕円形の石を用いたもの。A表面に凹みを持たない。B凹みを両面ないし片面に持つ。
 - III 端部に打撃による使用痕が顕著。
 - IV 小型の円形を呈し、使用痕が顕著ではない。投弾とも考えられる。
- 石皿・台石
- I 使用面が深く凹むもの。 II 使用面が僅かに凹むもの。
 - III 使用面がほぼ平坦なもの。A磨面あり。B磨面がはっきりしない。C敲面あり。
- 石鏃
- I つまみ部のあるもの。Aつくり出している。B不定形。
 - II つまみ部のないもの。

縄文時代の石器の分類、計測については、次の文献を参考とし、これに準拠した。

石器観察表

2号住居址出土石器 (第4図 写真160)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備	考
23	使用痕のある剥片	29	14	7	1.8	黒曜石	I-B I-A III		
24	使用痕のある剥片	36	15	4	1.4	黒曜石			
25	使用痕のある剥片	35	20	7	4.7	黒曜石			
26	使用痕のある剥片	26	17	2.5	1.1	黒曜石			
27	スクレイパー	23	23	6	2.2	黒曜石			
28	スクレイパー	24	17	5	1.2	黒曜石			
29	石器	17	12	2	0.3	黒曜石			
30	使用痕のある剥片	52	56	10	34	黒色頁岩			
31	使用痕のある剥片	70	44	5	18	黒色頁岩			

3b号住居址出土石器 (第4図 写真160)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備	考
16	石匙	40	35	5	7	黒色安山岩	I-A		
17	スクレイパー	51	36	9	17	黒色頁岩	I-B		
18	打製石斧	89	94	14	32	黒色頁岩	I-B		
19	凹石	84	39	30	213	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹	

4号住居址出土石器 (第7図 写真160)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備	考
38	石匙	43	33	5	9	黒色頁岩	II-B		
39	スクレイパー	92	71	14	100	黒色頁岩	I-A		
40	スクレイパー	64	38	11	28	黒色頁岩	I-A		
41	スクレイパー	98	57	10	64	黒色頁岩	I-A		
42	石皿	409	284	116	18,600	輝石安山岩(粗粒)	II	裏面多孔石	
43	凹・敲石	110	100	52	650	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲	
44	磨・敲石	119	82	33	500	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
45	磨石	117	108	42	850	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
46	敲石	100	86	55	720	石英閃緑岩(粗粒)	III		

6号住居址出土石器 (第8図 写真160)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備	考
6	敲石	154	78	33	640	輝石安山岩(粗粒)	II-A・III		

8号住居址出土石器 (第11図 写真160)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備	考
28	使用痕のある剥片	54	49	16	28	黒色頁岩	II-B	両面凹・側面敲	
29	凹・敲石	124	93	62	1,200	輝石安山岩(粗粒)			

9号住居址出土石器 (第17図 写真160)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備	考
70	凹・敲石	100	74	60	520	輝石安山岩(粗粒)	II-B	片面凹・側面敲	
71	凹・敲石	102	73	52	580	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲	
72	磨石	171	67	51	220	かこう岩	II-A		
73	敲石	138	74	40	610	輝石安山岩(粗粒)	II-A	両面敲	
74	石核	74	56	36	113.2	黒曜石			

第I章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
75	打製石片	41	31	10	16	黒色頁岩	I-A	
76	石匙	57	52	10	19	黒色頁岩	II-B	
77	石匙	41	48	11	15	黒色安山岩	II-A	
78	石鏃	19	18	3	0.7	黒曜石	I-B	
79	石鏃	31	25	7	4.1	黒曜石	II	

11号住居址出土石器(第23回 写真161)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
96	磨製石斧	103	81	33	500	実質蛇紋岩	I	
97	スクレイパー	79	40	13	35	黒色頁岩	I-A	
98	打製石斧	78	45	14	46	黒色頁岩	I-A	
99	調整削片	56	33	11	22	黒色安山岩		ヘラ状
100	調整削片	32	37	16	19	黒色頁岩		
101	石匙	50	83	12	37	黒色頁岩	II-B	
102	石匙	41	68	6	10	黒色頁岩	II-A	
103	石鏃	21	14	8	1.8	黒曜石	I-B	

14号住居址出土石器(第25回 写真161)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
23	打製石斧	39	37	11	18	黒色頁岩	I	
24	石鏃	54	13	8	4.3	黒曜石	I	

15号住居址出土石器(第31回 写真161)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
79	石皿	364	308	104	9,450	輝石安山岩(粗粒)	II	
80	石皿	362	272	103	14,150	輝石安山岩(粗粒)	II	
81	石皿	382	224	88	15,750	輝石安山岩(粗粒)	I	裏面多孔石
82	石匙	89	36	11	36	黒色頁岩	I-A	
83	スクレイパー	43	54	6	15	黒色頁岩	II-B	
84	石核	60	54	59	102	黒曜石		
85	石核	59	60	54	81	黒曜石		
86	石鏃	16	—	3.0	0.4	黒曜石	I-A	
87	調整削片	67	40	15	38	黒色安山岩		
88	打製石斧	40	46	15	26	黒色安山岩	I-A	
89	調整削片	63	36	11	19	黒色頁岩		ヘラ状
90	調整削片	57	36	17	28	黒色安山岩		ヘラ状

16号住居址出土石器(第34回 写真161)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
30	打製石斧	120	77	29	234	黒色頁岩	I-B	
31	使用痕のある削片	31	25	0.3	5.9	黒曜石		
32	使用痕のある削片	34	17	0.7	2.2	黒曜石		

17号住居址出土石器(第36回 写真161)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
27	凹・敲石	110	80	39	493	砂岩	II-B	裏面凹・側面敲
28	磨製石斧	74	43	21	133	緑色片岩	III	
29	打製石斧	52	46	16	44	黒色頁岩	II-A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
30	剥片	31	15	7	2.0	黒曜石		
31	剥片	20	15	4	1.2	黒曜石		

53号住居址出土石器 (第39図 写真161)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
29	鏃	110	103	72	1,189	溶結凝灰岩		
30	磨石	60	34	31	126	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
31	使用痕のある剥片	94	51	11	54	黒色頁岩		
32	使用痕のある剥片	70	48	17	66	黒色頁岩		
33	調整剥片	64	61	25	75	黒色安山岩		
34	調整剥片	54	55	21	73	黒色頁岩		
35	使用痕のある剥片	40	37	10	15	黒色安山岩		
36	使用痕のある剥片	25	37	21	10	黒色安山岩		
37	石匙	30	29	12	6.0	黒曜石	II-B	刃部欠損
38	石匙	43	28	9	10	黒色頁岩	I-B	
39	石鏃	43	39	6	8	黒色安山岩	I-B	
40	石鏃	25	14	4	0.9	黒曜石	II	

53号住居址出土石器 (第44～45図 写真161・162)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
86	凹石	97	75	54	394	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
87	凹・敲石	101	51	33	245	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
88	磨石	150	71	52	854	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
89	凹石	90	57	33	282	輝石安山岩(粗粒)	II-B・III	
90	凹石	66	41	34	136	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
91	凹・敲石	95	62	37	312	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
92	磨石	44	45	36	40	輝石安山岩(粗粒)	IV	
93	磨石	54	44	35	100	輝石安山岩(粗粒)	IV	
94	磨石	52	43	41	124	輝石安山岩(粗粒)	IV	
95	磨石	56	53	41	81	溶結凝灰岩	IV	
96	磨石	55	49	37	124	輝石安山岩(粗粒)	IV	
97	磨石	53	33	27	66	溶結凝灰岩	IV	
98	磨石	52	44	22	73	輝石安山岩(粗粒)	IV	
99	磨石	44	42	33	91	輝石安山岩(粗粒)	IV	
100	磨石	36	41	21	143	輝石安山岩(粗粒)	IV	
101	打製石斧	80	49	10	43	黒色頁岩	II-B	
102	スタレイバー	102	55	18	81	黒色頁岩		
103	調整剥片	75	52	21	60	黒色安山岩		
104	石匙	44	51	11	21	輝石安山岩(粗粒)	II-B	刃部欠損
105	石匙	30	45	8	9	黒色頁岩	II-A	
106	スタレイバー	44	60	10	28	黒色頁岩		
107	スタレイバー	20	29	8	4	珪質頁岩		
108	使用痕のある剥片	38	67	10	16	黒色頁岩		
109	石鏃	44	33	9	11	珪質頁岩	I-B	
110	スタレイバー	32	46	9	12	黒色頁岩		
111	スタレイバー	67	46	9	33	珪質頁岩		
112	使用痕のある剥片	65	46	12	27	黒色頁岩		
113	剥片	14	37	9	4	珪質頁岩		

64号住居址出土石器 (第51図 写真162)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
87	磨製石斧	99	55	26	219	変質蛇紋岩	III	
88	敲石	136	85	52	846	輝石安山岩(粗粒)		両面敲

第I章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
89	磨石	68	56	35	167	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
90	磨石	54	49	45	169	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
91	磨石	53	46	28	89	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
92	磨石	58	37	23	76	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
93	磨石	58	36	27	75	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
94	磨石	50	36	28	65	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
95	磨石	44	43	28	70	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
96	スクレイパー	134	40	16	55	黒色頁岩	I-B	
97	削片	54	85	20	75	黒色頁岩		
98	石鏃	58	25	8	6	黒色頁岩	I-B	
99	使用痕のある削片	48	41	8	19	黒色頁岩		

65号住居出土石器 (第55図 写真162)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
60	凹石	119	69	29	346	石英閃緑岩	II-B	凹面淺
61	磨石	105	70	32	428	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
62	磨・凹・敲石	82	73	46	451	閃緑岩	I-B	側面敲
63	敲石	61	51	43	177	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
64	磨石	41	42	36	79	輝石安山岩(粗粒)	IV	
65	削片	60	52	21	92	黒色頁岩		

66号a・b住居出土石器 (第66-69図 写真162・163)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
164	多孔石	288	194	83	7,000	輝石安山岩(粗粒)		
165	台石	245	195	80	6,450	石英閃緑岩	III-A	磨面有
166	台石	192	202	87	4,450	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
167	多孔石	290	214	112	9,750	輝石安山岩(粗粒)		
168	石皿	145	259	80	5,500	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
169	磨石	144	185	122	4,920	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
170	台石	135	184	60	2,460	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
171	磨石	197	87	76	2,120	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
172	敲石	160	108	50	1,080	石英斑岩	II-B	
173	石皿	104	176	83	1,680	輝石安山岩(粗粒)	I	
174	凹・磨石	92	77	47	380	輝石安山岩(粗粒)	I-B	磨面凹
175	凹石	107	70	40	420	輝石安山岩(粗粒)	II-B	磨面凹
176	凹石	102	73	42	470	輝石安山岩(粗粒)	II-B	磨面凹
177	敲石	125	60	41	420	滑結凝灰岩	II-B	
178	凹・磨石	117	90	40	620	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
179	敲石	105	67	38	360	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
180	敲石	86	73	44	390	滑結凝灰岩	II-B	
181	凹石	109	87	53	740	輝石安山岩(粗粒)	II-B	磨面凹
182	敲石	134	90	67	1,000	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
183	凹石	90	79	64	640	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
184	凹石	100	73	54	460	輝石安山岩(粗粒)	II-B	3面凹
185	敲石	93	50	45	265	輝石安山岩(粗粒)	III	
186	磨石	119	92	71	1,180	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
187	磨石	106	74	59	680	輝石安山岩(粗粒)	II-A	表面剝落
188	磨石	91	94	61	620	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
189	磨石	98	55	36	300	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
190	凹石	107	65	40	260	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
191	磨石	129	98	73	1,380	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
192	凹・敲石	118	89	50	550	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
193	敲石	102	66	61	540	輝石安山岩(粗粒)	III	
194	磨石	115	87	53	750	輝石安山岩(粗粒)	II-A	

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
195	磨石	85	104	61	700	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
196	砥石	80	76	63	553	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
197	磨石	47	44	21	58	輝石安山岩(粗粒)	IV	
198	磨石	47	40	28	64	輝石安山岩(粗粒)	IV	
199	打製石斧	65	49	15	56	黒色頁岩	I-A	
200	打製石斧	60	47	14	52	黒色頁岩	I-A	
201	打製石斧	66	38	8	22	頁岩	I-A	
202	スタレイバー	84	42	11	50	黒色頁岩	I-B	
203	スタレイバー	69	44	11	29	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
204	スタレイバー	68	82	48	201	黒色頁岩	I-B	
205	スタレイバー	73	58	18	88	黒色頁岩	I-B	
206	スタレイバー	81	49	10	52	頁岩	I-A	
207	スタレイバー	68	43	19	48	頁岩	I-A	
208	調整削片	59	45	21	59	黒色頁岩		
209	スタレイバー	45	48	14	28	黒色安山岩	I-A	
210	スタレイバー	53	36	8	14	頁岩	I-B	
211	スタレイバー	48	43	14	33	頁岩	I-A	
212	スタレイバー	39	50	15	22	黒色頁岩	II-B	
213	使用痕のある削片	36	65	29	33	黒色安山岩		
214	スタレイバー	53	48	13	42	黒色頁岩	II-B	
215	スタレイバー	31	48	8	12	黒色頁岩	II-B	
216	スタレイバー	47	35	12	18	黒色安山岩	I-A	ヘラ状
217	スタレイバー	37	33	10	12	頁岩	I-A	ヘラ状
218	スタレイバー	48	36	13	19	黒色頁岩	I-A	ヘラ状
219	石匙	68	27	11	18	珪質頁岩	I-A	
220	石匙	37	70	11	18	珪質頁岩	II-A	
221	石匙	41	41	13	19	黒色頁岩	III	
222	石匙	32	64	7	14	黒色頁岩	III	
223	石核	85	39	30	115.4	黒曜石		
224	削片	47	49	16	36	チャート		
225	調整削片	60	53	19	56	黒色頁岩		
226	スタレイバー	57	31	8	12	黒色頁岩	I-A	
227	石鏃	23	17	6	1.2	黒曜石	I-B	
228	石鏃	32	13	7	1.6	黒曜石	I-B	
229	石鏃	47	18	4	1.7	黒曜石	II	
230	石鏃	27	19	5	1.8	黒曜石	III	

67号住居址出土石器(第76・77図 写真164)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
56	石皿	255	175	93	4,350	輝石安山岩(粗粒)	I	凹面有
57	石皿	88	152	99	1,970	輝石安山岩(粗粒)	II	
58	台石	203	165	108	5,300	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
59	台石	290	145	111	6,950	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
60	磨石	148	84	67	1,102	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
61	磨石	103	101	43	645	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
62	磨石	85	81	58	514	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
63	磨石	105	106	67	909	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
64	磨石	119	102	53	827	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
65	凹石	86	73	74	380	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
66	石皿	65	67	14	75	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
67	磨製石斧	72	47	27	120	変質蛇紋岩	II	
68	磨製石斧	75	48	32	161	変輝緑岩	II	
69	磨製石斧	133	50	25	128	変質玄武岩	II	
70	磨製石斧	65	53	33	176	変質玄武岩?	I	
71	石匙	77	53	6	22	黒色頁岩	III	
72	打製石斧	55	42	13	33	黒色頁岩	II-A	
73	スタレイバー	66	42	14	36	黒色頁岩	I-A	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
74	調整剥片	66	38	10	23	黒色頁岩		
75	剥片	97	35	16	38	黒色頁岩		
76	スタレイバー	50	78	16	69	黒色頁岩	II-B	
77	スタレイバー	49	82	20	49	黒色頁岩	II-B	
78	磨石	59	40	29	97	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
79	磨石	56	46	24	83	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
80	磨石	55	49	32	100	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
81	磨石	53	38	33	93	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
82	磨石	48	36	30	77	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
83	磨石	69	47	36	156	砂岩?	II-A	
84	石匙	22	38	6	4	チャート	II-B	
85	石鏝	51	21	6	3	チャート	I-A	
86	スタレイバー	32	21	9	6.4	黒曜石	I-B	ヘラ状
87	スタレイバー	45	16	9	4	珪質頁岩	I-A	
88	スタレイバー	28	29	12	10	黒色頁岩	I-A	

68号住居址出土石器 (第82回 写真164)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
71	台石	293	225	136	10,900	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
72	台石	255	213	70	6,200	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
73	台石	244	209	60	4,900	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
74	敲石	145	87	54	1,027	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
75	石核	102	118	34	489	黒色頁岩		
76	石核	106	71	43	276	黒色頁岩		
77	石核	87	56	38	221	黒色頁岩		
78	打製石片	111	43	13	68	黒色頁岩	I-A	
79	打製石片	77	42	18	49	砂岩	II-A	
80	打製石片	76	40	19	57	黒色頁岩	I-A	
81	調整剥片	42	31	12	14	黒色頁岩		
82	スタレイバー	59	52	9	34	黒色頁岩	II-A	
83	調整剥片	57	37	17	40	黒色安山岩		
84	調整剥片	58	56	15	56	黒色頁岩		
85	磨石	40	37	30	60	輝石安山岩(粗粒)	IV	
86	石鏝	40	10	6	2	黒色頁岩	II	
87	石鏝	36	15	55	4.2	黒曜石	II	
88	石鏝	19	16	4	0.7	黒曜石	I-B	

69号住居址出土石器 (第85回 写真164)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
18	台石	330	285	92	13,400	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
19	台石	213	199	60	3,200	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
20	打製石片	88	54	16	68	黒色頁岩	II-B	
21	石鉄	12	11	2	0.2	黒曜石	I-A	

70号住居址出土石器 (第89回 写真165)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
37	凹・敲石	133	68	50	576	輝石安山岩(粗粒)	II-B	裏面凹・側面敲
38	凹・敲石	186	77	46	572	輝石安山岩(粗粒)	II-B	裏面凹・側面敲
39	凹石	104	98	56	568	輝石安山岩(粗粒)	I-B	裏面凹
40	磨石	98	93	79	993	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
41	磨・敲石	128	82	62	971	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
42	スタレイバー	92	182	24	439	輝石安山岩(粗粒)	II-B	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備考
43	スクレイパー	89	44	17	49	黒色頁岩	I-B	
44	調整削片	73	61	21	107	黒色頁岩		
45	磨石	61	51	43	168	輝石安山岩(粗粒)	IV	
46	スクレイパー	69	53	18	46	黒色安山岩	I-B	
47	石鏝	46	16	9	4.8	黒曜石	II	

72号住居址出土石器(第95回 写真165)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備考
64	磨石	138	132	40	930	デイサイト質凝灰岩	I-A	
65	磨・敲石	179	118	40	1,380	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
66	凹・敲石	107	92	50	696	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
67	凹石	66	64	30	143	溶結凝灰岩	I-B	
68	磨石	121	72	78	876	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
69	凹石	105	78	66	600	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
70	凹石	118	104	58	920	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
71	磨石	56	53	34	134	輝石安山岩(粗粒)	IV	
72	磨石	45	39	28	59	輝石安山岩(粗粒)	IV	
73	スクレイパー	111	86	13	127	黒色頁岩	I-A	
74	調整削片	51	44	22	50	黒色頁岩		
75	スクレイパー	76	36	12	32	黒色安山岩	I-A	
76	スクレイパー	61	61	15	34	黒色頁岩	I-B	
77	石鏝	59	33	10	14	黒色頁岩	I-B	
78	石鏝	42	46	6	11	黒色頁岩	III	
79	石鏝	38	29	4	5	黒色頁岩	I-A	
80	石鏝	21	14	4	0.9	黒曜石	I-B	

73号住居址出土石器(第101~103回 写真165)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石質	分類	備考
82	磨石	94	87	46	435	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
83	凹石	101	71	57	550	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
84	石皿	184	174	127	4,780	輝石安山岩(粗粒)	I	両面多孔石
85	敲石	86	53	33	200	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
86	凹石	194	157	108	3,860	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
87	敲石	134	103	66	1,020	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
88	凹・敲石	114	84	30	425	溶結凝灰岩(大罅・三罅)	II-B	
89	凹石	103	89	34	424	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
90	磨石	88	51	36	215	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
91	磨石	49	46	27	90	輝石安山岩(粗粒)	IV	
92	磨石	106	69	52	568	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
93	凹石	62	72	34	220	溶結凝灰岩(大罅・三罅)	II-B	
94	凹石	54	51	25	96	溶結凝灰岩(大罅・三罅)	I-B	
95	調整削片	19	51	8	8	黒色安山岩		
96	調整削片	43	44	22	40	黒色安山岩		
97	打製石片	30	38	13	16	黒色頁岩	I-A	
98	台石	685	320	195	64,600	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有
99	石鏝	84	34	9	20	黒色頁岩	I-A	
100	石鏝	75	34	8	20	黒色頁岩	I-A	
101	石鏝	34	39	6	7	黒色頁岩	II-B	
102	スクレイパー	37	32	11	8	黒色安山岩	I-B	へら状
103	スクレイパー	38	96	17	53	黒色頁岩	II-B	
104	石鏝	25	19	0.5	1.7	黒曜石	III	

第1章 検出された遺構と遺物

74号住居址出土石器 (第106図 写真166)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
39	磨石	92	96	58	720	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
40	敲石	101	72	36	420	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
41	磨石	62	55	33	170	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
42	打製石片	105	65	24	163	黒色頁岩	I-A	
43	打製石片	99	52	14	68	黒色頁岩	II-B	
44	スクレイパー	65	54	13	46	黒色頁岩	I-B	
45	スクレイパー	71	36	13	40	黒色頁岩	I-A	
46	石匙	23	49	8	6	黒色頁岩	II-A	

75号a・b住居址出土石器 (第111図 写真166)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
55	台石	320	177	74	8,200	輝石安山岩(粗粒)	II-A	磨面有
56	磨・凹・敲石	109	85	53	670	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
57	台石	142	138	115	3,480	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有
58	敲石	97	81	60	408	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
59	磨石	86	55	17	116	火山岩?	II-A	
60	磨石	112	105	63	1,090	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
61	磨・敲石	116	80	52	670	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
62	凹石	105	75	48	500	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
63	凹石	104	84	39	436	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
64	打製石片	34	35	13	16	黒色安山岩	I-B	
65	石匙	115	56	8	49	黒色頁岩	I-A	
66	打製石片	80	39	13	44	黒色頁岩	I-A	
67	打製石片	71	44	9	28	黒色頁岩	II-A	
68	磨石	69	66	45	269	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
69	打製石片	70	58	15	67	黒色頁岩	II-A	
70	磨石	39	32	30	43	輝石安山岩(粗粒)	IV	
71	スクレイパー	16	30	7	2.8	黒曜石	II-A	
72	調整切片	18	29	8	3.4	黒曜石		

77号住居址出土石器 (第115図 写真166)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
23	石皿	269	159	92	5,320	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
24	磨石	100	94	54	642	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
25	凹石	94	82	35	360	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
26	磨石	102	85	51	691	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
27	打製石片	82	54	13	72	黒色頁岩	I-A	
28	スクレイパー	51	110	16	64	黒色頁岩	II-B	
29	スクレイパー	39	60	10	20	黒色頁岩	II-A	
30	磨石	69	62	57	329	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
31	石匙	94	34	12	41	黒色頁岩	I-A	

78号a・b住居址出土石器 (第128～131図 写真166・167)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
211	石皿	388	177	86	4,900	輝石安山岩(粗粒)	I	
212	石皿	—	—	35	772	輝石安山岩(粗粒)	II	破片
213	石皿	156	98	43	750	石英閃緑岩	II	
214	台石	295	215	81	6,820	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
215	磨・凹石	176	122	37	1,340	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
216	凹石	118	100	48	807	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
217	凹石	91	71	41	352	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
218	磨・凹・敲石	127	77	51	538	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
219	磨石	114	103	37	646	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
220	磨石	104	104	62	929	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
221	磨石	52	69	42	155	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
222	砥石	93	72	20	154	砂岩		
223	磨・敲石	97	80	62	598	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
224	敲石	116	68	43	410	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
225	磨石	103	88	46	559	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
226	磨・凹・敲石	105	81	37	473	かこう岩	I-B	
227	磨・敲石	80	64	52	366	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
228	敲石	147	93	80	1,460	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
229	磨石	157	109	61	1,620	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
230	敲石	150	89	78	1,451	輝石安山岩(粗粒)	III	
231	磨・敲石	127	109	83	1,630	石英閃緑岩	I-A	
232	凹・敲石	111	63	46	437	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
233	磨石	121	78	36	458	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
234	磨・敲石	133	81	35	614	輝石安山岩(粗粒)	III	
235	磨石	115	97	35	640	溶結凝灰岩	II-A	
236	敲石	104	92	79	962	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-A	
237	磨石	134	98	56	1,007	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
238	磨石	114	89	67	1,027	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
239	磨石	111	95	82	1,200	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
240	磨石	100	82	38	497	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
241	磨石	92	80	28	282	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
242	石鏃	59	55	25	78	輝石安山岩(粗粒)		
243	磨石	35	38	34	82	輝石安山岩(粗粒)	IV	
244	磨製石斧	63	50	29	89	凝灰岩(旋紋岩片含む)	II	
245	磨製石斧	122	39	22	128	流玄武岩	II	
246	打製石斧	98	49	16	97	黒色頁岩	I-A	
247	打製石斧	105	62	15	98	黒色頁岩	I-B	
248	スクレイパー	94	83	17	135	黒色頁岩	II-A	
249	打製石斧	70	53	23	83	黒色頁岩	II-B	
250	打製石斧	59	50	12	35	黒色安山岩	III	
251	打製石斧	50	45	18	44	黒色頁岩	I-A	
252	打製石斧	48	48	8	26	黒色頁岩	I-A	
253	スクレイパー	52	105	16	78	黒色頁岩	II-A	
254	スクレイパー	59	70	16	61	デイサイト質凝灰岩	II-B	
255	スクレイパー	45	53	11	25	黒色頁岩	II-B	
256	スクレイパー	32	91	19	33	黒色頁岩	II-B	
257	石匙	35	45	6	9	黒色頁岩	II-B	
258	石匙	37	52	6	8	黒色頁岩	II-A	
259	石匙	38	38	7	8	黒色頁岩	II-B	
260	スクレイパー	30	35	10	8	珪質頁岩	II-B	
261	石匙	63	46	9	19	黒色頁岩	I-B	
262	石匙	35	51	9	11	黒色頁岩	II-A	
263	石匙	46	35	6	8	黒色頁岩	I-B	
264	石鏃	46	48	7	12	黒色頁岩	I-B	石鏃
265	石匙	37	10	5	1.8	チャート	I-A	
266	石鏃	28	14	6	2.2	黒曜石	I-B	
267	石鏃	35	19	10	3.7	黒曜石	I-B	
268	砥石	115	55	34	253	凝灰岩質砂岩		両面砥石
269	砥石	60	38	10	34	砂岩		

79号住居出土石器 (第135図 写真167)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
68	台石	226	158	68	3,500	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
69	砥石	166	58	65	960	輝石安山岩(粗粒)		

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
70	台石	132	190	60	1,996	輝石安山岩(粗粒)	III-C	敵面有
71	磨・凹・敵石	116	90	40	689	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敵
72	磨・凹石	83	44	19	155	黒色頁岩	II-B	
73	凹石	72	61	48	257	デイスイト?	I-B	
74	凹石	86	82	50	494	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
75	敵石	94	73	41	258	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
76	磨石	103	80	43	456	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
77	磨製石斧	138	39	30	254	玄貫玄武岩	II	
78	磨石	133	96	61	1,183	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
79	磨・凹石	121	113	55	1,081	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
80	打製石斧	85	45	19	67	黒色頁岩	II-A	

80号住居址出土石器(第144~147回 写真167・168)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
145	台石	387	347	160	30,350	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
146	敵石	161	119	72	1,776	輝石安山岩(粗粒)	III	
147	磨石	138	103	74	1,800	輝石安山岩(粗粒)	II-A	石皿
148	砥石	126	185	128	4,020	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
149	多孔石	227	175	26	4,500	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
150	台石	208	138	62	2,620	輝石安山岩(粗粒)	III-C	凹面有
151	台石	166	157	125	3,480	輝石安山岩(粗粒)	II	
152	凹・敵石	135	97	59	1,002	輝石安山岩(粗粒)	II-A	両面凹・側面敵
153	磨石	88	71	51	400	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
154	磨・凹石	104	80	57	700	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
155	磨・凹石	104	71	41	540	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
156	凹石	94	82	43	480	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
157	凹石	143	94	63	1,140	溶結凝灰岩	II-B	
158	凹石	101	67	46	420	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
159	磨・凹石	131	79	44	720	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
160	凹石	89	84	46	480	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	両面凹
161	磨石	53	51	46	140	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
162	敵石	87	59	37	250	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	
163	凹・敵石	126	93	76	940	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
164	磨石	136	78	78	1,260	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
165	磨・敵石	132	52	46	450	溶結凝灰岩	III	
166	磨・凹石	104	70	47	400	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
167	磨・敵石	98	71	33	360	石英閃緑岩	II-A	
168	磨・敵石	105	92	45	500	かこう岩	II-A	
169	凹・敵石	106	64	30	310	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
170	磨・敵石	113	75	42	480	凝灰岩?	II-A	
171	磨石	67	54	30	150	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	
172	敵石	108	61	61	580	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
173	磨石	135	105	62	1,300	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
174	磨石	133	80	70	920	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	
175	磨石	112	89	66	790	溶結凝灰岩	I-A	
176	磨石	100	45	31	220	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
177	打製石斧	128	63	32	305	黒色頁岩?	I-B	
178	打製石斧	50	35	10	21	黒色頁岩	II-A	
179	打製石斧	61	39	15	35	黒色頁岩	I-A	
180	打製石斧	44	33	9	19	黒色頁岩	II-A	
181	打製石斧	45	50	26	61	頁岩	I-A	
182	打製石斧	43	47	20	48	黒色安山岩	II-A	
183	打製石斧	52	46	16	38	黒色頁岩	I-B	
184	打製石斧	43	53	15	38	黒色頁岩	II-B	
185	打製石斧	61	58	17	67	黒色頁岩	III	
186	石匙	64	78	14	42	黒色頁岩	II-B	
187	石匙	39	46	4	8	黒色安山岩	II-B	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	石質	分類	備考
188	石匙	51	40	9	15	黒色頁岩	I-A	ヘラ状
189	スクレイパー	25	50	12	18	黒色安山岩	II-B	
190	スクレイパー	21	24	8	4.6	黒曜石	II-A	
191	スクレイパー	61	24	8	13	黒色頁岩	I-A	
192	磨石	40	34	24	46	輝石安山岩(粗粒)	IV	
193	石鏃	18	14	3	0.5	黒曜石	I-A	
194	石鏃	18	12	4	0.4	黒曜石	I-B	

81号住居址出土石器(第152~154図 写真168・169)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	石質	分類	備考
73	磨・凹石	186	166	105	4,030	輝石安山岩(粗粒)	II-A	凹面凹
74	多孔石	166	104	35	700	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
75	磨石	173	85	54	1,000	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
76	凹・敲石	196	125	88	2,710	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
77	凹・敲石	193	71	65	1,400	輝石安山岩(粗粒)	III	
78	磨・敲石	135	97	38	580	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
79	凹石	148	85	43	760	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
80	磨石	122	75	60	570	溶結凝灰岩(大礫・三織)	II-A	
81	磨・凹石	74	76	61	480	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
82	磨石	65	105	74	680	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
83	凹石	55	76	44	200	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
84	凹石	100	72	44	420	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
85	磨・凹石	87	77	52	440	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
86	磨・凹石	94	86	55	690	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
87	磨石	99	84	68	720	かこう岩	I-A	
88	磨・敲石	104	95	64	900	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
89	磨石	84	96	63	550	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
90	磨・凹石	76	73	55	440	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
91	磨・凹石	60	72	63	480	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
92	凹石	82	87	28	440	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
93	磨石	83	88	47	420	溶結凝灰岩(大礫・三織)	I-A	
94	磨石	74	56	31	170	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
95	磨石	41	36	32	40	輝石安山岩(粗粒)	IV	
96	凹・敲石	124	100	60	1,030	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅・側面敲
97	打製石斧	108	44	17	67	黒色頁岩	I-A	
98	打製石斧	102	47	14	70	黒色頁岩	I-B	
99	打製石斧	85	48	13	63	黒色頁岩	I-B	
100	打製石斧	48	39	11	25	黒色安山岩	II-A	
101	石匙	61	75	19	50	黒色頁岩	II-A	
102	石匙	28	58	5	4	黒色頁岩	II-A	
103	剥片	27	18	7	2	黒色安山岩		
104	石鏃	24	19	5	1.5	黒曜石	II	

82号a・b住居址出土石器(第158~161図 写真169・170)

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	石質	分類	備考
61	石鏃	453	280	158	27,000	輝石安山岩(粗粒)	I	磨面有 磨面有 磨面・凹面有 凹面凹・側面敲
62	台石	286	252	80	9,300	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
63	台石	157	240	65	3,100	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
64	多孔石	269	209	127	9,100	輝石安山岩(粗粒)		
65	台石	283	226	82	8,000	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
66	磨・凹・敲石	99	78	45	493	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
67	磨・凹石	112	105	69	1,150	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
68	凹石	120	85	55	816	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
69	凹石	121	75	41	631	輝石安山岩(粗粒)	II-B	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
70	磨・凹・敲石	110	87	50	721	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
71	凹石	90	98	58	604	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
72	凹石	97	81	61	500	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
73	敲石	89	75	49	445	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
74	磨・敲石	94	83	64	678	黒色頁岩	I-B	
75	磨・凹石	65	87	56	663	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
76	磨・凹石	84	85	50	534	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
77	凹石	90	76	38	336	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	凹面浅
78	凹石	126	95	48	737	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
79	磨石	112	107	45	841	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
80	磨・敲石	105	97	63	841	かこう岩	I-A	
81	磨石	73	85	45	296	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
82	磨石	54	74	40	188	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-A	
83	凹石	100	78	67	438	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
84	磨石	152	115	52	907	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
85	磨・凹・敲石	120	82	55	784	かこう岩	II-B	
86	敲石	108	87	66	828	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
87	敲石	93	84	48	532	輝石安山岩(粗粒)	III	
88	磨石	73	83	71	505	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	
89	敲石	135	67	70	878	輝石安山岩(粗粒)	III	
90	石皿	130	83	62	713	輝石安山岩(粗粒)	III	破片
91	磨製石斧	114	71	42	460	変輝緑岩	I	
92	打製石斧	111	49	17	96	黒色頁岩	II-A	
93	スクレイパー	46	53	10	30	黒色頁岩	I-A	
94	スクレイパー	72	109	19	180	黒色頁岩	II-A	
95	スクレイパー	74	69	17	78	黒色頁岩	II-A	
96	スクレイパー	65	51	10	33	黒色頁岩	I-A	
97	使用痕のある割片	39	62	8	15	黒色頁岩		
98	スクレイパー	48	59	16	31	黒色頁岩	II-B	
99	スクレイパー	49	57	19	70	黒色頁岩	II-A	
100	石鏃	56	46	12	26	黒色頁岩	I-B	
101	石匙	52	43	8	13	黒色頁岩	III	

84・85号住居址出土石器 (洞168・169区 写真170)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
82	台石	281	252	75	7,570	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
83	磨・敲石	103	98	44	649	輝石安山岩(粗粒)	I-A	側面敲
84	磨石	129	95	59	1,180	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
85	凹石	124	90	32	506	砂岩	I-A	両面凹浅
86	磨石	101	83	63	688	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
87	凹石	94	62	41	390	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
88	磨・凹石	100	71	46	512	石英閃緑岩	II-B	両面凹
89	敲石	84	85	32	277	輝石安山岩(粗粒)	III	
90	凹石	110	79	27	355	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
91	敲石	88	79	46	471	輝石安山岩(粗粒)	III	
92	磨石	172	93	45	790	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
93	磨石	123	152	53	1,042	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
94	打製石斧	126	42	11	74	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
95	磨・敲石	43	40	28	63	凝灰岩?	III	
96	石匙	64	22	8	16	黒色頁岩	I-A	
97	石匙	47	19	7	7	黒色頁岩	I-A	
98	スクレイパー	72	40	14	34	黒色頁岩	I-B	
99	スクレイパー	68	40	10	42	黒色頁岩	I-A	
100	スクレイパー	46	63	9	20	黒色頁岩	II-B	
101	調整割片	35	39	15	37	黒色安山岩		
102	調整割片	47	62	8	32	地質頁岩		
103	スクレイパー	45	77	15	47	黒色安山岩	II-B	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
104	スクレイパー	39	53	12	26	黒色安山岩	II-B	
105	スクレイパー	30	68	5	12	黒色頁岩	II-B	
106	調整剥片	34	20	10	6.4	チャート		
107	調整剥片	23	17	7	1.9	黒曜石		

86号住居址出土石器 (第171・172図 写真170)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
51	多孔石	268	200	140	7,500	輝石安山岩(粗粒)	III-A	溝・凹面有
52	台石	280	276	103	12,100	輝石安山岩(粗粒)	I-B	側面鋭
53	凹・敲石	138	129	62	1,650	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
54	凹石	130	147	85	1,953	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
55	敲石	107	89	66	713	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
56	凹石	96	54	55	405	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
57	磨石	103	80	43	530	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
58	敲石	73	57	20	122	輝石安山岩(粗粒)	III	
59	打製石斧	146	84	27	381	黒色頁岩	I-B	
60	打製石斧	71	111	31	324	黒色頁岩	II-B	
61	石匙	42	79	20	42	黒色頁岩	III	
62	石匙	64	32	6	10	黒色頁岩	I-A	
63	石匙	63	30	4	11	黒色頁岩	I-A	
64	石匙	28	8	4	0.7	黒曜石	I-A	

88号住居址出土石器 (第176・177図 写真171)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
55	台石	280	207	84	7,190	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
56	台石	222	220	89	7,090	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
57	台石	226	217	90	7,306	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有
58	敲石	240	120	110	3,150	輝石安山岩(粗粒)	III	
59	多孔石	183	164	95	3,980	輝石安山岩(粗粒)		
60	石皿	109	159	66	1,860	輝石安山岩(粗粒)	II	裏面凹有
61	磨・凹石	165	123	77	1,770	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
62	凹石	139	111	49	1,010	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
63	敲石	130	69	37	530	閃緑岩	II-A	
64	凹・敲石	135	92	60	1,040	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	凹面浅・側面鋭
65	凹石	104	84	68	560	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
66	敲石	117	87	4	651	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
67	磨・凹石	90	76	35	337	溶結凝灰岩	I-B	
68	凹石	108	73	33	40	砂岩	II-B	凹面浅
69	凹石	84	67	37	284	輝石安山岩(粗粒)	II-B	均面凹
70	磨石	95	54	14	68	砂岩		
71	磨石	51	45	22	74	輝石安山岩(粗粒)	IV	
72	磨石	37	37	31	56	輝石安山岩(粗粒)	IV	
73	打製石斧	83	37	10	32	頁岩	II-A	ヘラ状
74	スクレイパー	54	47	9	21	頁岩	I-A	
75	スクレイパー	68	35	12	27	黒色頁岩	I-B	
76	スクレイパー	67	94	21	93	黒色安山岩	II-B	
77	スクレイパー	77	50	12	55	黒色頁岩	I-B	
78	スクレイパー	36	70	6	14	黒色頁岩	II-B	
79	スクレイパー	40	31	9	13	黒色頁岩	I-B	

第1章 検出された遺構と遺物

89号住居址出土石器 (第181図 写真171)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
60	凹・敲石	131	57	35	400	溶結凝灰岩	II-B	両面凹・側面敲
61	敲石	92	85	56	463	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
62	磨石	145	126	66	1,460	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
63	凹石	87	72	46	350	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
64	凹石	93	75	49	439	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
65	磨・凹石	101	68	46	430	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
66	磨石	93	53	42	308	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
67	砥石	76	59	11	70	砂岩	I-A	
68	磨・敲石	62	57	30	139	溶結凝灰岩	I-A	
69	磨石	52	88	60	336	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
70	打製石片	56	51	20	50	黒色頁岩	I-A	
71	打製石片	39	39	10	20	黒色頁岩	I-A	
72	打製石片	80	43	16	61	頁岩	I-B	
73	調整削片	93	85	26	245	頁岩		
74	調整削片	62	76	31	174	黒色頁岩		
75	調整削片	45	52	15	43	頁岩		
76	石匙	38	66	7	15	黒色安山岩	II-A	

90号住居址出土石器 (第186～188図 写真171・172)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
99	凹石	113	104	88	1,380	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
100	台石	356	255	146	7,600	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有
101	台石	320	356	193	22,800	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有
102	凹石	73	91	30	230	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
103	石皿(小形)	91	83	34	240	輝石安山岩(粗粒)	I	裏面凹有
104	凹石	158	70	42	680	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
105	凹・敲石	88	75	50	450	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
106	磨・凹石	88	76	67	620	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
107	凹石	144	75	40	630	石英閃緑岩	II-B	両面凹浅
108	凹石	128	50	40	380	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
109	凹石	85	105	65	760	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
110	凹・敲石	111	63	43	500	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
111	敲石	78	58	43	325	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-A	
112	凹石	95	85	35	440	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	両面凹浅
113	敲石	105	103	54	926	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
114	磨石	120	73	64	867	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
115	敲石	83	51	40	310	石英閃緑岩	III	
116	磨石	95	77	21	332	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
117	スクレイパー	120	90	19	245	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
118	打製石片	117	49	23	125	黒色頁岩	I-A	
119	打製石片	120	44	20	138	黒色頁岩	I-A	
120	打製石片	70	45	12	60	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
121	打製石片	49	42	14	30	黒色頁岩	I-A	
122	打製石片	53	47	11	40	点紋頁岩	I-A	
123	スクレイパー	130	68	17	151	黒色頁岩	I-A	
124	スクレイパー	111	47	17	64	黒色頁岩	I-A	
125	スクレイパー	78	42	19	67	黒色頁岩	I-A	
126	打製石片	60	64	10	51	黒色頁岩	I-A	
127	スクレイパー	66	42	15	44	黒色頁岩	I-A	
128	スクレイパー	55	47	14	40	黒色頁岩	II-A	
129	スクレイパー	66	57	18	61	黒色頁岩	III	
130	スクレイパー	56	67	13	61	黒色頁岩	III	
131	調整削片	53	62	15	54	黒色頁岩		
132	スクレイパー	78	103	27	188	黒色頁岩	II-A	
133	スクレイパー	68	33	14	32	黒色頁岩	I-A	へら状

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備	考
134	スレイバー	64	28	15	23	黒色安山岩	III		
135	石槍	79	31	14	36	輝石安山岩(粗粒)			
136	石匙	74	35	10	21	黒色頁岩	I-A		
137	石匙	51	51	11	22	黒色安山岩	II-A		
138	石鏢	25	19	4	1.8	黒曜石	II		

91号住居址出土石器 (第195~195回 写真172・173)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備	考
81	多孔石	313	142	101	5,420	輝石安山岩(粗粒)		磨面有	
82	石皿	172	175	101	3,900	輝石安山岩(粗粒)	I		
83	石皿	218	202	86	5,400	輝石安山岩(粗粒)	I		
84	敲石	129	101	58	700	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
85	凹石	119	90	89	737	輝石安山岩(粗粒)	I-B		
86	凹石	89	66	57	361	輝石安山岩(粗粒)	II-B	3面凹	
87	敲石	84	76	48	426	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
88	磨石	78	46	25	133	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
89	凹・敲石	136	96	55	1,012	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅・側面敲	
90	凹石	67	90	60	427	輝石安山岩(粗粒)	I-B		
91	凹石	141	76	33	445	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
92	磨・凹石	82	75	67	441	溶結凝灰岩	I-B		
93	石皿	93	110	42	633	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	III		
94	石皿	142	78	88	1,158	輝石安山岩(粗粒)	III	破片	破片
95	多孔石	124	120	94	1,735	輝石安山岩(粗粒)			
96	磨石	104	107	87	1,672	輝石安山岩(粗粒)	I-B		
97	敲石	138	116	62	1,426	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
98	磨石	128	106	81	1,580	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
99	凹石	92	71	23	218	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B		
100	磨石	65	38	27	94	石英閃綠岩	IV		
101	磨石	56	51	26	94	輝石安山岩(粗粒)	IV		
102	磨石	52	44	40	71	輝石安山岩(粗粒)	IV		
103	磨石	59	44	27	96	輝石安山岩(粗粒)	IV		
104	磨石	56	47	32	114	輝石安山岩(粗粒)	IV		
105	磨石	45	43	31	75	輝石安山岩(粗粒)	IV		
106	砥石	54	54	15	85	砂岩			
107	打製石斧	62	52	17	59	頁岩	I-A		
108	打製石斧	66	59	23	87	黒色頁岩	I-B		
109	打製石斧	100	41	16	64	黒色頁岩	I-A		
110	打製石斧	97	61	20	100	黒色頁岩	III		
111	打製石斧	124	60	20	155	黒色頁岩	I-B		
112	石匙	48	38	7	13	黒色頁岩	I-A		
113	石鏢	26	18	5	1.9	赤色地質岩	I-B		

92号住居址出土石器 (第199~202回 写真173・174)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備	考
65	石皿	399	225	112	11,800	輝石安山岩(粗粒)	I		
66	台石	273	210	103	6,750	溶結凝灰岩	II-B	凹面有	
67	多孔石	350	198	123	11,050	輝石安山岩(粗粒)			
68	凹石	173	118	78	2,400	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
69	凹石	122	113	65	1,092	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
70	磨石	158	108	50	1,270	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
71	凹石	119	154	85	1,740	輝石安山岩(粗粒)	I-B		
72	凹・敲石	102	84	62	630	溶結凝灰岩	I-B	凹面浅・側面敲	
73	磨・凹石	95	79	42	488	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹淺	
74	凹石	102	79	48	564	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹淺	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
75	凹石	132	99	82	1,231	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
76	凹・蔽石	143	75	41	494	輝石安山岩(粗粒)	III	両面凹
77	凹石	100	82	40	420	溶結凝灰岩	I-B	
78	凹石	82	58	35	222	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
79	凹石	112	92	59	755	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
80	蔽石	103	63	39	567	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	III	
81	凹・蔽石	103	63	39	398	石英閃綠岩	II-B	両面凹・側面蔽
82	蔽石	120	76	44	335	輝石安山岩(粗粒)	III	
83	磨石	53	77	67	281	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
84	磨石	87	85	81	870	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
85	磨石	77	73	61	478	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
86	凹石	83	61	63	500	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
87	蔽石	96	70	55	488	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
88	石皿	117	87	31	376	輝石安山岩(粗粒)	III	破片
89	蔽石	130	49	33	291	輝石安山岩(粗粒)	III	
90	石皿	123	112	86	1,174	輝石安山岩(粗粒)		破片
91	スクレイパー	94	68	12	72	黒色頁岩	III	
92	打製石斧	88	57	26	177	グラノファイヤー	I-A	
93	スクレイパー	97	75	10	83	黒色頁岩	I-A	
94	打製石斧	100	47	19	100	頁岩	II-A	
95	スクレイパー	74	54	12	49	黒色頁岩	I-A	
96	打製石斧	69	40	12	45	黒色頁岩	I-A	
97	石匙	48	83	10	36	黒色頁岩	II-A	
98	石匙	41	80	10	20	黒色頁岩	II-A	
99	石匙	35	52	11	17	黒色安山岩	III	
100	石輪	72	14	10	15	黒色安山岩		
101	石輪	54	42	10	18	黒色頁岩	I-B	
102	石輪	54	23	25	10	黒色安山岩	I-B	
103	石輪	66	48	12	36	黒色頁岩	I-B	
104	石輪	30	11	4	0.9	黒曜石	II	
105	スクレイパー	44	16	10	4.6	黒曜石	I-A	
106	スクレイパー	49	21	7	5.1	黒曜石	I-A	
107	石鏃	17	19	4	1.0	黒曜石	II	
108	石鏃	21	17	3	0.5	黒曜石	I-B	
109	石鏃	21	15	2	0.6	黒曜石	I-A	

94号住居址出土石器 (第206~208図 写真174)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
72	多孔石	222	188	122	5,400	輝石安山岩(粗粒)		
73	凹石	109	89	47	640	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
74	磨石	84	66	59	386	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
75	磨・蔽石	101	93	63	812	輝石安山岩(粗粒)	I-A	側面蔽
76	磨・凹石	100	82	55	650	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
77	磨石	79	70	35	274	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
78	磨・凹石	105	76	26	268	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
79	磨・凹・蔽石	107	90	51	701	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面蔽
80	凹・蔽石	97	81	70	713	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面蔽
81	蔽石	87	75	61	482	輝石安山岩(粗粒)	III	
82	磨石	86	64	49	390	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
83	磨・凹・蔽石	112	104	59	937	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面蔽
84	磨・凹石	122	74	46	599	輝石安山岩(粗粒)	I-A	両面凹・浅
85	凹・蔽石	95	90	58	526	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面蔽
86	凹石	96	72	39	302	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
87	磨・凹石	89	75	65	431	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
88	磨・凹・蔽石	98	72	48	493	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面蔽
89	蔽石	90	55	40	259	砂岩	II-A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種 別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
90	敲石	83	42	33	180	輝石安山岩(粗粒)	III	
91	磨・凹・敲石	76	76	55	383	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
92	磨製石斧	81	38	14	64	実質蛇紋岩	III	破片
93	スクリイパー	56	51	9	19	黒色頁岩	III	
94	打製石斧	66	34	12	27	黒色頁岩	II-A	ヘラ状
95	スクリイパー	71	48	12	34	黒色頁岩	I-A	
96	スクリイパー	54	71	9	20	黒色頁岩	III	
97	石匙	67	67	10	37	黒色頁岩	II-A	
98	石鏃	23	22	6	2.6	黒曜石	II	

97号住居址出土石器 (第213~216図 写真174・175)

番号	種 別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
82	台石	350	262	105	16,000	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
83	台石	343	237	135	15,300	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
84	台石	275	276	120	13,600	輝石安山岩(粗粒)	III-B	磨面有
85	多孔石	225	162	117	5,500	輝石安山岩(粗粒)		
86	台石	337	197	112	11,200	輝石安山岩(粗粒)	III-C	凹面有
87	台石	223	192	80	4,400	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
88	台石	321	222	108	11,750	輝石安山岩(粗粒)	III-C	凹面有
89	台石	173	252	82	4,950	輝石安山岩(粗粒)	II	
90	磨石	184	107	43	1,360	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
91	台石	167	87	97	1,575	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
92	磨石	122	126	32	729	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
93	台石	161	106	83	3,100	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
94	凹石	142	90	67	1,021	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
95	台石	114	124	73	1,700	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
96	磨・凹・敲石	119	80	44	590	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
97	磨・凹・敲石	109	76	46	560	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
98	磨石	106	82	74	925	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
99	磨・敲石	131	100	57	1,220	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
100	凹石	106	84	53	590	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
101	磨・凹・敲石	98	82	48	530	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	両面凹・側面敲
102	凹・敲石	77	72	57	380	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅・側面敲
103	磨・敲石	83	75	46	365	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-A	
104	磨石	131	91	45	620	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
105	磨・敲石	112	92	64	1,068	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
106	敲石	127	67	61	630	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	
107	敲石	153	49	35	366	輝石安山岩(粗粒)	III	
108	打製石斧	92	49	21	101	黒色頁岩	I-B	
109	石匙	113	89	10	72	頁岩	I-A	
110	スクリイパー	56	135	11	76	黒色頁岩	II-B	
111	調整削片	83	54	26	117	黒色頁岩		
112	スクリイパー	69	50	15	55	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
113	石匙	48	46	18	26	黒色安山岩	III	
114	石匙	32	30	6	6	黒色安山岩	III	
115	石匙	44	35	6	10	頁岩	III	
116	スクリイパー	31	37	5	6	黒色頁岩	III	
117	スクリイパー	54	36	10	18	黒色頁岩	I-A	
118	石鏃	67	45	9	24	黒色頁岩	I-B	
119	砥石	73	54	13	52	凝灰岩?		
120	スクリイパー	86	23	7	13	黒色頁岩	I-B	

98号a・b住居址出土石器 (第228~233図 写真175~177)

番号	種 別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
179	台石	441	382	145	34,010	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備	考
180	台石	272	172	97	5,380	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	磨面有	
181	台石	220	206	79	6,400	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	磨面有	
182	台石	240	183	95	6,100	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-B		
183	石皿	390	235	111	9,450	輝石安山岩(粗粒)	I	裏面磨面有	
184	多孔石	257	165	127	7,500	輝石安山岩(粗粒)			
185	多孔石	284	173	176	13,900	輝石安山岩(粗粒)			
186	多孔石	213	128	80	2,660	輝石安山岩(粗粒)			
187	台石	191	147	53	1,980	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	磨面有	
188	多孔石	207	124	75	2,950	輝石安山岩(粗粒)			
189	多孔石	173	199	125	3,200	輝石安山岩(粗粒)			
190	石皿	125	90	41	490	滑結凝灰岩	Ⅱ	裏面凹有	
191	凹・敷石	145	67	38	480	滑結凝灰岩	Ⅱ-B	凹面凹・側面敷	
192	磨・凹・敷石	101	87	96	670	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面凹・側面敷	
193	凹石	135	118	27	455	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	凹面塊	
194	磨石	151	69	38	602	石英珪岩	Ⅱ-B		
195	磨・凹石	89	74	39	340	流紋岩	Ⅱ-B		
196	敷石	39	71	60	193	輝石安山岩(粗粒)		破片	
197	磨石	83	77	43	322	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
198	磨石	89	55	26	195	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A		
199	凹・敷石	99	71	53	596	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	片面凹浅・側面敷	
200	凹石	126	83	34	404	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B		
201	磨石	108	107	54	970	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
202	凹石	131	96	51	700	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B		
203	凹・敷石	135	90	42	640	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	凹面塊・側面敷	
204	磨石	124	85	61	837	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A		
205	磨石	106	96	77	1,060	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
206	磨石	157	84	30	740	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A		
207	敷石	115	63	39	490	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ		
208	敷石	90	68	45	480	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ		
209	磨石	130	68	42	520	滑結凝灰岩	Ⅱ-A		
210	凹・敷石	96	86	48	542	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面凹浅・側面敷	
211	敷石	112	75	40	389	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A		
212	敷石	103	103	61	760	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
213	凹石	84	70	45	320	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B		
214	磨製石片	173	78	42	923	玄武武岩	I		
215	打製石片	133	74	23	209	頁岩	Ⅱ-B		
216	打製石片	140	82	41	520	黒色頁岩	Ⅱ-A		
217	打製石片	54	45	15	28	黒色頁岩		破片	
218	打製石片	27	52	10	13	黒色安山岩		破片	
219	打製石片	106	43	13	67	黒色頁岩	I-A		
220	打製石片	95	88	22	182	黒色頁岩	I-B		
221	打製石片	39	54	10	28	頁岩		破片	
222	打製石片	83	54	16	80	頁岩	I-B		
223	打製石片	92	63	12	72	頁岩	Ⅱ-A		
224	打製石片	74	42	17	53	頁岩	Ⅱ-A		
225	打製石片	81	48	18	70	黒色頁岩	Ⅱ-B		
226	石匙	94	46	14	33	黒色頁岩	I-A		
227	石匙	62	91	16	56	黒色頁岩	Ⅱ-A		
228	石匙	40	60	5	19	黒色頁岩	Ⅲ		
229	石匙	88	37	13	42	黒色頁岩	I-A		
230	使用痕のある削片	71	38	11	35	黒色頁岩			
231	スクレイパー	42	10	16	53	黒色頁岩	Ⅱ-B		
232	スクレイパー	36	46	10	21	黒色頁岩	Ⅱ-B		
233	スクレイパー	44	45	9	12	黒色頁岩	Ⅲ		
234	石匙	45	65	10	24	黒色頁岩	Ⅱ-B		
235	石匙	45	41	6	11	黒色頁岩	I-B		
236	石鏝	50	32	9	9	黒色頁岩	I-A		
237	調整削片	25	26	7	3.8	黒曜石			
238	石鏝	21	18	5	1.7	黒曜石	Ⅱ		

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
239	砥石	61	55	14	55	砂岩		
240	石核	77	90	51	496	黒色安山岩		
241	石核	67	63	45	175	黒色安山岩		
242	石核	134	120	78	1,448	黒色安山岩		

99号a・b・c住居址出土石器 (第140・141図 写真177)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
129	石皿	132	106	73	1,330	輝石安山岩(粗粒)	II	破片
130	敲石	144	121	62	1,193	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
131	凹石	147	97	30	539	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
132	敲石	139	39	16	152	普通石英片岩	III	
133	磨石	101	88	64	775	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
134	敲石	95	81	70	683	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
135	磨石	97	75	45	540	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
136	凹石	103	83	76	788	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
137	敲石	88	86	62	640	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
138	凹・敲石	90	71	52	391	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
139	磨石	82	76	49	408	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
140	凹石	92	65	28	172	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
141	凹石	109	83	41	540	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面凹浅
142	磨石	70	61	24	162	砂岩	II-A	
143	磨石	48	35	30	62	輝石安山岩(粗粒)	IV	
144	打製石弁	78	38	13	46	頁岩	I-B	
145	打製石弁	49	40	13	20	黒色頁岩	I-B	
146	打製石弁	42	45	14	20	黒色頁岩		
147	スクレイパー	41	89	9	34	頁岩	II-A	破片
148	スクレイパー	105	36	18	84	黒色頁岩	I-A	
149	スクレイパー	35	103	14	38	黒色頁岩	II-A	
150	石匙	96	58	10	48	黒色頁岩	I-A	
151	石匙	48	63	8	24	黒色頁岩	II-A	
152	石鏃	61	30	9	11	頁岩	I-B	
153	石匙	28	40	5	4.0	黒曜石	II-B	
154	石匙	51	27	7	8	珪質頁岩	I-A	
155	スクレイパー	47	22	7	10	頁岩	I-A	
156	石匙	33	37	7	5	黒色頁岩	III	
157	スクレイパー	30	33	5	5	珪質頁岩	III	

100号住居址出土石器 (第243図 写真177)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
15	スクレイパー	72	90	17	103	黒色頁岩	II-B	

102号住居址出土石器 (第244・245図 写真177)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
3	磨石	225	125	97	4,150	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
34	磨石	113	69	25	300	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
35	磨石	106	51	28	190	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
36	スクレイパー	76	38	14	33	黒色頁岩	I-B	

第1章 検出された遺構と遺物

103号住居址出土石器 (第250・251図 写真178)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備	考
65	石皿	290	180	95	8,000	輝石安山岩(粗粒)	I	破片・凹面有	
67	敲石	250	78	52	1,610	輝石安山岩(粗粒)	III		
68	台石	244	165	88	5,300	輝石安山岩(粗粒)	III-B		
69	磨・凹石	138	79	44	690	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹	
70	凹石	122	64	33	350	石英英岩	II-B	両面凹淺	
71	磨石	60	54	43	170	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
72	凹石	97	64	48	318	輝石安山岩(粗粒)	II-B	3面凹	
73	凹石	55	69	40	191	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹	
74	磨石	104	53	42	337	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
75	磨・凹石	100	78	55	631	輝石安山岩(粗粒)	I-B		
76	磨・敲石	111	82	90	742	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
77	敲石	119	55	29	344	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
78	磨・凹石	118	101	47	713	輝石安山岩(粗粒)	I-B		
79	打製石片	99	51	14	95	黒色頁岩	II-A		
80	打製石片	77	53	19	96	黒色頁岩	II-A		
81	磨製石片	48	41	12	44	実質軟紋書	III		
82	スクレイパー	50	68	12	39	黒色頁岩	III		
83	石匙	49	46	10	19	黒色頁岩	I-A		
84	石匙	60	67	9	34	黒色頁岩	III		
85	石匙	79	54	7	27	黒色頁岩	III		
86	スクレイパー	76	45	18	69	黒色安山岩	II-B		

104号住居址出土石器 (第256～259図 写真178・179)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備	考
65	台石	264	205	66	5,090	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有	
66	多孔石	215	126	95	3,200	輝石安山岩(粗粒)			
67	台石	206	139	68	2,900	輝石安山岩(粗粒)	III-A	凹面有	
68	多孔石	142	179	88	3,070	輝石安山岩(粗粒)			
69	石皿	168	123	90	936	輝石安山岩(粗粒)	I		
70	磨石	191	134	60	2,480	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
71	凹石	128	85	37	624	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
72	凹石	116	77	55	629	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹	
73	凹・敲石	136	69	48	674	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	両面凹・側面敲	
74	凹・敲石	109	57	37	330	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	両面凹・側面敲	
75	多孔石	105	112	48	580	輝石安山岩(粗粒)			
76	磨・敲石	118	68	69	770	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
77	凹石	85	68	42	350	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	凹面淺	
78	凹石	96	79	54	509	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹	
79	凹石	102	78	50	500	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B		
80	凹石	113	78	55	640	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面淺	
81	磨・凹石	112	94	38	570	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面淺	
82	敲石	109	82	53	616	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
83	凹・敲石	103	92	53	634	砂岩	II-B		
84	磨石	101	83	33	396	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
85	凹石	115	102	41	716	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹	
86	磨石	151	102	46	1,027	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
87	凹石	147	104	83	1,330	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
88	磨石	140	95	72	1,400	石英閃緑岩	II-A		
89	磨石	98	66	59	602	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
90	磨石	61	46	45	173	輝石安山岩(粗粒)	IV		
91	磨石	59	43	38	116	輝石安山岩(粗粒)	IV		
92	石匙	82	86	10	48	黒色頁岩	II-B		
93	石匙	52	113	17	56	黒色頁岩	II-B		
94	石匙	43	38	8	15	黒色頁岩	I-A		
95	打製石片	32	38	10	16	黒色安山岩		破片	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
96	スタレイバー	36	41	55	11	黒色頁岩	III	
97	打製石斧	30	48	13	24	頁岩		破片
98	スタレイバー	50	32	6	14	黒色頁岩	I-A	
99	スタレイバー	46	68	8	46	黒色頁岩	II-A	
100	スタレイバー	52	33	12	15	黒色頁岩	I-A	
101	スタレイバー	61	52	14	48	黒色頁岩	III	
102	スタレイバー	57	51	10	35	黒色頁岩	I-A	
103	スタレイバー	51	67	12	50	黒色頁岩	II-A	
104	スタレイバー	22	25	3	2.0	黒曜石	III	
105	石鏃	23	22	8	3.1	黒曜石	II	
106	石鏃	26	25	8	4.1	黒曜石	I-A	
107	石鏃	23	16	5	0.9	黒曜石	I-A	

107号住居址出土石器 (第268~270区 写真179・180)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
122	台石	349	322	123	20,150	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有
123	多孔石	246	162	88	3,080	輝石安山岩(粗粒)		磨面有
124	磨石	145	107	34	501	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
125	凹石	145	124	68	1,656	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
126	磨石	153	109	69	1,740	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
127	磨・凹・敲石	133	62	44	554	かこう岩	II-B	両面凹・側面敲
128	磨・凹・敲石	113	80	52	618	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
129	磨・凹石	109	88	61	680	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
130	磨・凹石	100	92	59	630	かこう岩	I-B	
131	磨石	109	96	60	837	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
132	磨石	98	100	77	990	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
133	凹石	98	80	66	657	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
134	凹石	81	85	55	340	デイサイト質凝灰岩	II-B	両面凹
135	磨石	81	74	52	455	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
136	磨・凹石	109	86	52	415	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
137	磨・凹石	100	72	44	386	溶結凝灰岩	II-B	
138	磨・凹石	79	78	57	546	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・浅
139	磨・凹・敲石	108	84	49	656	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
140	凹石	125	87	57	753	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
141	凹石	136	100	63	1,144	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
142	磨石	123	101	59	974	溶結凝灰岩	I-A	
143	磨石	124	78	55	780	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
144	磨石	91	90	36	565	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
145	磨石	62	49	29	140	溶結凝灰岩	II-A	
146	磨石	56	51	39	167	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
147	磨石	53	45	37	114	輝石安山岩(粗粒)	IV	
148	スタレイバー	49	87	4	21	黒色頁岩	II-B	
149	石鏃	31	68	7	14	黒色安山岩	II-A	
150	スタレイバー	46	41	10	17	黒色頁岩	III	
151	調整削片	38	35	11	15	黒色頁岩		
152	スタレイバー	43	52	11	26	黒色頁岩	III	
153	スタレイバー	47	51	17	40	黒色安山岩	III	

109号住居址出土石器 (第275~277区 写真180)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
71	石皿	403	238	113	12,820	輝石安山岩(粗粒)	I	裏面凹有
72	石皿	290	185	85	5,100	輝石安山岩(粗粒)	I	
73	多孔石	266	206	115	8,400	輝石安山岩(粗粒)		
74	台石	279	209	76	7,800	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
75	多孔石	276	215	122	8,800	輝石安山岩(粗粒)		
76	台石	293	192	83	6,300	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
77	台石	198	162	67	2,480	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
78	台石	159	154	90	3,040	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
79	凹石	147	115	93	2,140	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
80	凹石	83	71	45	369	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	凹面浅
81	磨・凹・敲石	80	85	44	416	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
82	磨・凹・敲石	105	91	46	609	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅・側面敲
83	磨・敲石	118	77	50	632	輝石安山岩(粗粒)	II-A	側面敲
84	敲石	165	57	37	710	輝緑岩	III	
85	磨石	119	94	70	958	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
86	磨・敲石	116	107	80	1,281	輝石安山岩(粗粒)	III	側面敲
87	磨石	108	71	59	604	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
88	凹・敲石	103	53	41	305	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅・側面敲
89	磨石	98	66	43	420	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
90	凹石	115	71	50	563	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
91	凹石	66	48	43	212	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
92	磨石	61	46	36	116	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
93	スクレイパー	60	32	11	27	黒色頁岩	I-A	
94	スクレイパー	54	75	8	43	黒色頁岩	II-A	
95	スクレイパー	59	49	15	45	黒色頁岩	I-A	
96	スクレイパー	51	57	13	28	黒色安山岩	III	
97	調整剥片	108	106	42	600	黒色頁岩		
98	調整剥片	66	43	32	125	黒色安山岩		
99	石核	72	66	54	381	黒色安山岩		
100	石匙	93	27	11	29	黒色頁岩	I-A	
101	スクレイパー	25	24	7	4.9	黒曜石	III	
102	石匙	38	65	8	14	黒色頁岩	III	
103	石核	23	19	9	2.4	黒曜石	I-B	

110号a・b住居址出土石器 (第282図 写真181)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
63	台石	112	131	83	1,920	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
64	台石	278	142	102	5,350	かこう岩	II-A	
65	凹石	110	92	56	869	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
66	磨製石斧	156	44	29	338	安玄武岩	II	
67	凹・敲石	121	81	34	493	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B・III	
68	磨・凹石	84	82	41	366	輝石安山岩(粗粒)	I-B	側面敲
69	磨・敲石	78	69	38	256	輝石安山岩(粗粒)	III	
70	磨石	107	77	72	789	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
71	スクレイパー	78	41	10	41	黒色頁岩	I-A	
72	スクレイパー	74	65	15	72	黒色頁岩	I-B	
73	スクレイパー	59	120	14	71	砂岩(硬質)	III	
74	使用済のある剥片	59	48	9	27	黒色頁岩		
75	スクレイパー	44	82	13	47	黒色頁岩	II-B	
76	スクレイパー	61	65	10	36	黒色頁岩	II-B	
77	砥石	75	52	31	137	砂岩		
78	砥石	73	58	33	64	砂岩		
79	スクレイパー	38	63	12	23	黒色頁岩	II-B	
80	調整剥片	42	68	14	52	黒色頁岩		
81	スクレイパー	32	56	10	16	黒色安山岩	II-B	

111号住居址出土石器 (第285、294・295図 写真181)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
21	台石	200	143	68	3,380	輝石安山岩(粗粒)	III-B	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
22	石皿	177	96	93	2,200	輝石安山岩(粗粒)	II	
23	石皿	116	103	147	2,180	輝石安山岩(粗粒)	II	
214	磨石	101	92	50	601	滑結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
215	凹石	95	97	68	814	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
216	磨石	134	98	63	1,112	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
217	磨・敲石	116	85	56	741	石英閃綠岩	II-A	
218	磨石	72	97	62	594	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
219	砥石	71	69	17	86	砂岩		
220	磨・凹石	96	66	48	426	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
221	磨石	108	92	55	837	かこう岩	I-B	
222	凹石	92	63	43	295	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
223	磨石	102	82	48	562	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
224	凹石	89	49	46	187	滑結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
225	磨石	69	58	35	177	かこう岩	I-A	
226	磨石	69	60	28	164	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
227	磨石	73	67	35	221	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
228	磨石	82	58	36	195	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
229	磨石	47	47	35	92	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
230	磨・凹石	51	42	38	96	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
231	磨石	63	49	34	120	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
232	磨石	69	48	30	124	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
233	磨石	71	48	21	117	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
234	磨石	63	46	30	86	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
235	スクレイパー	118	77	30	170	黒色頁岩	III	
236	スクレイパー	64	52	7	27	黒色頁岩	I-B	
237	石槍	96	31	21	73	黒色頁岩		
238	スクレイパー	83	46	15	41	黒色頁岩	I-A	
239	スクレイパー	47	92	18	66	黒色頁岩	II-B	
240	スクレイパー	75	103	11	82	黒色頁岩	II-A	
241	石匙	67	32	13	13	黒色頁岩	III	
242	石匙	39	48	8	21	黒色頁岩	III	
243	石匙	44	33	8	7	黒色頁岩	I-A	
244	石匙	22	29	8	4	黒色頁岩	I-A	
245	石匙	85	41	9	35	黒色頁岩	I-A	
246	石匙	58	71	10	38	黒色頁岩	II-B	
247	石匙	37	29	6	6	黒色頁岩	I-B	
248	石匙	32	52	8	12	滑結凝灰岩	II-B	
249	石匙	38	40	4	5	黒色頁岩	II-A	
250	石匙	56	34	7	11	黒色頁岩	II-A	

113号住居址出土石器 (第303・304図 写真181・182)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
126	多孔石	162	157	146	2,880	輝石安山岩(粗粒)		
127	石皿	140	105	61	1,000	輝石安山岩(粗粒)	II	裏面凹有
128	台石	113	121	65	1,403	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
129	磨石	115	69	56	593	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
130	凹石	110	71	65	564	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
131	磨石	123	69	39	436	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
132	磨石	92	90	50	598	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
133	磨石	57	71	68	306	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
134	凹石	119	64	30	300	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
135	凹石	101	63	47	364	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
136	磨・凹・敲石	89	80	51	629	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅・磨面敲
137	磨石	75	98	74	690	かこう岩	I-A	
138	磨石	141	77	28	553	石英閃綠岩	II-A	
139	磨・凹・敲石	125	90	42	535	輝石安山岩(粗粒)	II-B・III	両面凹・磨面敲

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
140	磨・敲石	89	74	44	530	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
141	磨石	92	77	49	469	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
142	敲石	87	70	47	325	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
143	敲石	89	69	56	450	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
144	磨石	52	43	30	83	輝石安山岩(粗粒)	IV	
145	磨石	55	39	25	66	輝石安山岩(粗粒)	IV	
146	磨石	46	38	24	56	輝石安山岩(粗粒)	IV	
147	磨石	44	34	25	46	溶結凝灰岩	IV	
148	スクレイパー	72	69	15	85	黒色頁岩	I-A	
149	スクレイパー	74	122	11	125	黒色頁岩	II-A	
150	スクレイパー	33	77	14	34	黒色安山岩	II-B	
151	調整剥片	37	55	13	23	黒色頁岩		
152	スクレイパー	43	89	12	47	黒色頁岩	II-A	
153	スクレイパー	61	87	12	79	黒色頁岩	II-B	
154	スクレイパー	33	82	17	35	珪質頁岩	II-A	
155	砥石	140	104	67	67	砂岩		破片
156	石匙	46	58	13	24	黒色頁岩	III	
157	石匙	30	49	9	10	黒色頁岩	II-A	
158	石鏃	17	13	3	0.6	黒曜石	I-B	
159	石鏃	21	17	5	1.4	黒曜石		

114号住居址出土石器(第305図 写真182)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
1	磨・凹石	116	92	36	670	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
2	スクレイパー	69	89	11	74	黒色頁岩	II-B	
3	スクレイパー	33	56	8	13	黒色頁岩	II-B	
4	スクレイパー	35	55	5	9	黒色頁岩	II-B	

115号a・b住居址出土石器(第311・312図 写真182)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
76	台石	423	279	168	34,700	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有
77	台石	205	175	114	7,650	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
78	凹・敲石	146	97	60	920	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
79	敲石	137	91	78	1,400	溶結凝灰岩	III	
80	凹石	108	121	59	506	角閃石安山岩質軽石	II-B	
81	凹石	67	74	32	232	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	III	
82	敲石	126	112	94	1,540	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
83	磨石	103	93	73	1,167	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
84	敲石	107	70	47	511	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
85	敲石	106	66	54	539	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
86	磨石	58	59	26	128	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
87	磨石	66	81	46	301	かこう岩	I-A	
88	凹・敲石	96	61	41	310	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
89	敲石	100	53	36	243	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
90	打製石片	145	57	22	166	黒色頁岩	II-B	
91	調整剥片	49	77	13	54	黒色頁岩		
92	スクレイパー	44	91	10	54	黒色頁岩	II-B	
93	スクレイパー	43	43	9	17	黒色頁岩	II-B	
94	調整剥片	50	19	10	9	黒色安山岩		
95	スクレイパー	40	18	11	5.8	黒曜石	I-B	
96	磨製石片	51	31	8	21	炭質凝灰岩	III	

116号住居址出土石器 (第322~325図 写真182・183)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
160	磨石	175	136	97	3,000	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
161	磨石	198	114	65	2,480	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
162	台石	168	154	80	3,320	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
163	磨石	191	125	58	2,220	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
164	台石	212	133	69	2,980	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
165	磨石	139	118	66	1,540	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
166	凹石	127	122	79	1,297	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
167	磨石	145	106	81	1,780	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
168	凹石	149	90	63	1,003	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
169	石皿	130	86	48	682	溶結凝灰岩(大峰・三峰)		破片
170	磨石	111	106	68	946	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
171	凹石	109	86	52	620	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
172	凹・敲石	87	77	47	403	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	凹面浅
173	磨・凹石	118	74	54	708	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
174	凹石	107	79	60	596	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
175	凹石	74	55	33	204	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
176	凹石	85	73	42	362	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	凹面浅
177	磨・凹石	112	95	37	564	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
178	凹石	122	95	53	662	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
179	凹石	87	72	48	313	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
180	凹石	122	94	47	580	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
181	磨石	118	68	45	514	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
182	磨石	97	72	53	538	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
183	磨石	95	86	65	761	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
184	磨石	121	75	37	549	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
185	磨石	82	98	69	776	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
186	凹石	107	44	50	363	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
187	石皿	110	85	25	261	輝石安山岩(粗粒)		破片
188	磨石	88	67	59	462	かこう岩	I-A	
189	砥石	97	51	42	47	軽石		
190	砥石	90	58	40	150	砂岩		
191	凹石	76	73	53	417	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
192	敲石	76	58	43	250	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	III	
193	敲石	66	61	37	235	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
194	磨石	61	42	29	107	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	
195	磨石	63	42	28	111	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
196	磨石	65	60	37	151	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
197	磨石	55	53	36	143	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
198	磨石	51	39	32	86	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
199	磨石	53	39	25	73	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
200	凹石	56	51	39	125	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
201	打製石斧	101	36	26	94	黒色頁岩	II-A	
202	使用痕のある割片	79	41	15	59	黒色頁岩		
203	スタレイバー	63	80	12	57	黒色頁岩	II-B	
204	スタレイバー	50	72	17	38	黒色頁岩	II-B	
205	スタレイバー	41	49	6	9	黒色頁岩	III	
206	スタレイバー	41	58	15	41	黒色頁岩	III	
207	スタレイバー	53	66	15	57	黒色頁岩	II-B	
208	使用痕のある割片	49	62	10	31	黒色頁岩		
209	スタレイバー	42	50	11	16	黒色頁岩	III	
210	石匙	65	48	7	21	黒色頁岩	I-B	
211	スタレイバー	76	41	14	42	黒色頁岩	I-A	
212	使用痕のある割片	53	60	9	34	黒色頁岩		
213	石匙	27	65	8	9	珪質頁岩(黒外)	II-B	
214	石匙	43	42	5	10	黒色頁岩	III	
215	石匙	39	68	7	19	黒色頁岩	I-B	
216	塊状耳飾	33	38	6	8	滑石		
217	磨製石斧	42	23	7	9.1	変質蛇紋岩	III	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
218	スクレイパー	41	14	8	4.5	チャート	Ⅲ	
219	石鏃	28	17	3	1.3	黒色頁岩	I-A	

117号住居址出土石器 (第330・331図 写真183・184)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
75	台石	273	186	83	6,840	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-B	
76	多孔石	145	128	63	1,480	輝石安山岩(粗粒)		両面凹
77	凹・敲石	138	82	44	620	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
78	敲石	108	76	45	522	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
79	凹石	138	53	39	456	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	Ⅱ-B	凹面様
80	磨・凹石	129	99	62	1,168	かこう岩	I-B	
81	凹石	102	77	48	498	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
82	磨・凹・敲石	86	80	43	426	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
83	敲石	122	63	29	343	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
84	敲石	106	70	34	352	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
85	凹・敲石	109	99	45	596	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
86	磨製石斧	166	74	38	652	変輝緑岩	Ⅱ	
87	磨石	67	61	56	293	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
88	磨石	88	62	43	350	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
89	磨石	75	72	32	237	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
90	磨石	83	70	42	365	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
91	磨石	58	88	36	367	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
92	石槌	96	85	67	680	黒色安山岩		
93	打製石斧	80	52	25	109	黒色頁岩	Ⅱ-A	
94	打製石斧	71	43	21	73	黒色頁岩	Ⅱ-A	
95	スクレイパー	55	77	13	43	黒色頁岩	Ⅲ	
96	スクレイパー	27	79	11	26	黒色安山岩	Ⅱ-B	
97	スクレイパー	112	95	13	206	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
98	石鏃	35	61	9	14	黒色頁岩	I-A	石鏃?

118号住居址出土石器 (第334図 写真184)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
31	磨・凹石	109	100	92	1,390	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
32	磨石	129	115	39	740	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
33	磨・凹石	104	68	49	505	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	両面凹
34	砥石	80	82	39	289	ゲイサイト質凝灰岩		
35	磨・凹・敲石	120	92	46	694	輝石安山岩(粗粒)	I-B	片面凹・側面敲
36	敲石	93	58	28	222	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
37	磨石	57	53	45	180	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
38	スクレイパー	58	61	12	46	黒色頁岩	Ⅲ	
39	スクレイパー	38	63	17	21	黒色頁岩	Ⅲ	
40	スクレイパー	88	31	15	39	黒色頁岩	I-A	
41	スクレイパー	118	113	26	409	黒色頁岩	Ⅲ	

121号a・b住居址出土石器 (第341～344図 写真184・185)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
130	石皿	269	232	93	5,709	輝石安山岩(粗粒)	I	両面凹有
131	台石	314	230	153	19,050	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-B	
132	台石	337	220	74	8,350	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-B	
133	台石	289	181	118	9,250	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-B	
134	台石	393	334	116	21,009	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	磨面有
135	多孔石	161	147	79	2,120	輝石安山岩(粗粒)		

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
136	敲石	159	110	64	1,642	輝石安山岩(粗粒)	III	
137	磨石	126	100	51	950	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
138	石皿	108	95	65	870	輝石安山岩(粗粒)	II	破片
139	台石	140	98	70	1,316	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
140	台石	169	170	70	2,950	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
141	台石	260	126	87	3,750	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
142	礎	173	149	103	2,780	輝石安山岩(粗粒)		
143	多孔石	139	113	78	808	輝石安山岩(粗粒)		同一個体
144	多孔石	110	137	112	1,452	輝石安山岩(粗粒)		
145	磨・凹・敲石	85	86	41	388	輝石安山岩(粗粒)	I-B・III	両面凹・側面敲
146	磨・凹石	119	70	31	377	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
147	敲石	90	86	75	790	輝石安山岩(粗粒)	I-B	丸石
148	敲石	88	63	48	340	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
149	磨石	113	99	46	786	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
150	磨・凹石	96	79	50	430	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
151	凹石	89	74	52	457	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
152	敲石	89	64	34	340	溶結凝灰岩(大雫・三峰)	II-A	
153	敲石	88	67	34	273	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
154	磨・敲石	74	61	58	399	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
155	磨石	128	77	45	759	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
156	凹石	117	88	50	366	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
157	磨・凹石	90	73	74	640	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
158	磨石	52	50	35	123	輝石安山岩(粗粒)	IV	
159	磨石	47	42	36	83	輝石安山岩(粗粒)	IV	
160	磨石	40	36	31	46	輝石安山岩(粗粒)	IV	
161	凹・敲石	106	88	53	636	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
162	敲石	107	58	38	336	溶結凝灰岩	II-B	
163	敲石	95	88	77	1,126	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
164	磨・凹石	127	107	36	750	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
165	敲石	113	103	47	705	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
166	磨石	111	96	62	935	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
167	打製石斧	165	65	27	269	黒色頁岩	II-A	
168	打製石斧	115	40	19	80	黒色頁岩	II-B	
169	打製石斧	79	62	19	119	黒色頁岩	II-A	
170	磨製石斧	115	52	22	238	安賢玄武岩	I	
171	使用痕のある剥片	65	15	7	5	黒色頁岩		
172	スクレイパー	81	32	11	28	黒色頁岩	II-B	
173	石匙	47	26	9	8	珪質凝灰岩	I-A	
174	石鏃	26	8	3	0.6	黒曜石	I-A	

124号住居址出土石器(第346図 写真185)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
13	凹石	113	87	55	663	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
14	磨石	123	64	57	659	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
15	敲石	132	98	49	759	輝石安山岩(粗粒)	III	
16	磨石	85	73	37	308	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
17	敲石	103	67	49	527	輝石安山岩(粗粒)	III	
18	磨石	98	100	36	591	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
19	磨・凹石	103	91	64	743	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
20	磨石	116	96	65	1,062	輝石安山岩(粗粒)	I-A	

126号住居址出土石器(第349・350図 写真185)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
28	石皿	237	207	94	5,720	輝石安山岩(粗粒)	I	裏面凹有

第1章 検出された遺構と建物

番号	種 別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	石 質	分 類	備 考
29	台石	173	112	73	2,180	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	溝面凹有
30	台石	206	155	106	5,300	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-B	
31	多孔石	246	171	75	5,260	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	
32	磨石	123	108	87	1,700	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
33	台石	218	151	58	2,740	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	
34	石皿	103	65	26	231	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ	
35	磨石	90	79	56	556	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
36	磨石	66	41	35	166	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
37	磨・凹石	102	94	58	778	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
38	磨石	108	98	59	832	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
39	スクレイパー	47	78	13	49	黒色頁岩	Ⅱ-B	
40	使用痕のある割片	58	81	15	42	黒色頁岩		
41	石鏃	25	21	5	2.2	黒曜石	I-B	

127号住居址出土石器 (第352図 写真186)

番号	種 別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	石 質	分 類	備 考
15	台石	255	207	79	5,350	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-C	両面凹浅
16	磨石	134	111	46	990	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
17	凹石	155	82	40	714	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
18	磨石	112	88	46	676	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
19	磨石	102	80	27	333	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
20	凹石	90	73	42	369	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
21	磨石	90	72	60	570	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
22	磨石	87	60	40	260	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
23	磨石	77	62	30	200	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
24	磨石	77	45	24	116	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	
25	打製石斧	97	57	13	68	黒色頁岩	Ⅱ-A	
26	スクレイパー	51	72	13	51	黒色頁岩	Ⅱ-B	
27	石鏃	35	52	11	13	チャート?	I-A	
28	スクレイパー	18	35	3	2.8	黒曜石	Ⅱ-B	
29	スクレイパー	34	19	25	2.4	黒曜石	I-A	

128号住居址出土石器 (第364~368図 写真186・187)

番号	種 別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	石 質	分 類	備 考
181	台石	290	220	124	11,250	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-C	磨面有 磨面有
182	台石	285	198	111	9,400	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-C	
183	台石	318	230	78	9,350	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	
184	台石	159	188	79	3,550	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	
185	多孔石	200	131	79	2,800	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-A	
186	礫	152	139	102	2,100	輝石安山岩(粗粒)		
187	多孔石	142	128	96	2,400	輝石安山岩(粗粒)		
188	台石	181	75	42	676	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ-B	
189	凹・敲石	142	80	54	890	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
190	敲石	93	86	74	870	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
191	凹石	122	50	33	344	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	Ⅱ-B	
192	凹石	128	94	40	627	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
193	磨・凹石	126	71	43	586	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
194	凹石	94	59	37	281	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
195	凹石	108	74	59	586	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
196	凹・敲石	92	87	59	540	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
197	凹・敲石	131	46	40	400	石英閃緑岩	Ⅱ-B・Ⅲ	
198	凹・敲石	104	47	36	306	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B・Ⅲ	
199	磨・凹・敲石	109	101	39	576	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
200	敲石	115	68	48	520	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
201	凹石	112	61	33	342	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
202	凹石	100	82	68	680	輝石安山岩(粗粒)	I-A	両面凹浅
203	砥石	93	63	30	165	輝石安山岩(粗粒)		
204	磨・凹石	96	82	63	707	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
205	砥石	104	78	67	719	凝灰岩質砂岩	III	
206	凹石	98	60	56	507	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
207	凹石	58	66	50	240	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
208	凹石	117	82	54	551	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
209	砥石	111	77	59	634	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
210	磨石	108	89	65	897	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
211	磨・凹石	129	93	54	883	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
212	砥石	125	89	70	1,094	輝石安山岩(粗粒)	III	
213	砥石	123	83	62	968	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
214	磨・砥石	116	84	3	370	輝石安山岩(粗粒)	I-A	側面磨
215	磨石	90	84	65	621	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
216	磨石	88	90	39	448	溶結凝灰岩	I-A	
217	砥石	92	82	62	646	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
218	砥石	66	58	10	44	凝灰岩質砂岩		
219	磨石	87	52	53	490	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
220	磨石	87	89	43	510	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
221	磨石	91	67	55	479	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
222	砥石	112	55	54	520	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
223	磨石	113	92	57	753	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
224	磨石	64	59	38	180	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
225	磨石	61	46	24	94	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
226	凹石	88	71	37	342	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
227	磨石	83	72	51	414	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
228	磨	79	70	57	355	輝石安山岩(粗粒)		
229	磨石	42	38	24	55	輝石安山岩(粗粒)	IV	
230	磨石	38	33	28	43	輝石安山岩(粗粒)	IV	
231	磨石	39	35	30	62	輝石安山岩(粗粒)	IV	
232	打製石斧	62	54	14	46	黒色頁岩	I-A	
233	打製石斧	73	62	18	90	黒色頁岩	I-B	
234	打製石斧	71	48	20	92	黒色頁岩	I-B	
235	スクレイパー	46	34	11	20	黒色頁岩	I-A	
236	石皿	91	78	74	577	輝石安山岩(粗粒)	I	破片
237	スクレイパー	45	72	8	29	黒色頁岩	II-B	
238	使用痕のある割片	84	28	9	25	黒色頁岩		
239	スクレイパー	77	46	17	77	黒色頁岩	I-A	
240	スクレイパー	67	41	18	54	黒色頁岩	I-A	
241	打製石斧	117	52	14	74	黒色頁岩	I-A	
242	石匙	56	75	10	29	黒色頁岩	II-B	
243	石匙	45	71	8	20	黒色安山岩	II-A	
244	石匙	40	43	7	11	黒色安山岩	II-A	
245	石匙	20	19	3	1.0	黒曜石	I-A	
246	石匙	52	36	7	9	黒色頁岩	I-B	
247	石匙	42	77	10	25	黒色頁岩	II-A	
248	石匙	35	22	10	7.3	黒曜石	II	

129号住居址出土石器 (第373~375図 写真187・188)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
72	石皿	107	215	69	1,300	輝石安山岩(粗粒)	I	
73	石皿	448	348	118	28,100	輝石安山岩(粗粒)	II	
74	台石	321	256	129	17,800	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
75	台石	333	172	92	7,550	溶結凝灰岩	III-B	
76	磨・凹石	75	73	47	391	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
77	凹・敲石	194	59	37	269	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
78	凹石	108	95	21	314	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
79	磨・凹・敲石	91	66	42	394	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
80	磨・凹・敲石	119	79	39	562	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
81	磨・凹石	92	71	41	400	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
82	磨石	91	75	61	519	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
83	凹・敲石	101	87	58	630	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
84	磨・凹・敲石	116	84	50	710	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
85	凹石	111	89	52	640	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
86	磨・凹石	87	67	43	360	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
87	凹・敲石	115	63	37	400	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	両面凹・側面敲
88	凹石	131	73	49	710	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	両面凹
89	磨石	130	107	48	950	溶結凝灰岩	I-A	
90	磨・敲石	115	78	49	660	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
91	磨石	105	87	40	605	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
92	磨石	88	78	50	506	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
93	打製石斧	114	81	40	397	頁岩	II-B	
94	スクレイパー	56	98	17	108	黒色頁岩	II-A	
95	打製石斧	114	67	13	116	頁岩	II-A	
96	石匙	33	53	10	11	黒色頁岩	III	
97	石匙	58	73	11	44	黒色頁岩	II-A	
98	石匙	52	82	15	56	黒色頁岩	II-A	
99	块状耳飾	40	21	3	6.9	玉ズイ		

131号 a・b住居址出土石器 (第378回 写真188)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
28	多孔石	211	164	104	3,640	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
29	磨・凹石	106	83	51	587	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
30	石匙	142	37	13	75	黒色頁岩	I-A	
31	磨製石斧	102	45	31	222	変変武岩	II	
32	石匙	80	56	16	45	黒色安山岩	I-B	

132号 a・b住居址出土石器 (第385～387回 写真188)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
85	台石	201	118	82	2,600	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
86	凹石	118	120	92	2,100	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
87	磨・敲石	153	110	61	1,240	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
88	台石	109	149	71	1,885	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
89	多孔石	315	270	142	18,500	輝石安山岩(粗粒)		裏面磨面有
90	台石	251	240	57	5,580	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
91	石皿	280	262	77	9,200	輝石安山岩(粗粒)	II	
92	台石	170	223	97	5,430	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
93	磨・凹石	125	86	58	990	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
94	敲石	116	108	36	680	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
95	凹石	105	81	42	483	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
96	磨・凹・敲石	102	101	64	877	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅・側面敲
97	台石	189	160	78	3,870	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
98	凹石	99	80	58	522	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
99	凹・敲石	120	61	37	410	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
100	磨製石斧	130	62	28	419	変輝緑岩	I	
101	磨製石斧	146	65	35	495	変輝緑岩	II	
102	磨製石斧	183	65	31	566	変はんれい岩?	II	
103	磨・凹石	134	82	56	998	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面浅
104	石匙	13	14	2	0.2	黒曜石	I-A	

第4期 縄文時代の出土遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
105	石匙	98	124	15	129	黒色頁岩	Ⅲ	破片
106	スクレイパー	36	75	11	43	黒色頁岩	Ⅱ-B	
107	石匙	35	48	8	12	チャート	Ⅱ-B	
108	石匙	26	15	4	1.1	黒曜石	Ⅰ-A	
109	打製石斧	59	44	21	72	黒色頁岩	Ⅱ-A	
110	石匙	32	71	7	19	点紋頁岩		
111	スクレイパー	51	38	7	18	黒色頁岩	Ⅰ-A	
112	石匙	59	45	7	12	黒色頁岩	Ⅰ-B	
113	石匙	22	12	3	0.7	黒曜石	Ⅰ-A	

133号住居址出土石器 (第390図 写真189)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
38	石皿	133	224	84	3,420	輝石安山岩(粗粒)	I	
39	磨石	46	36	28	66	輝石安山岩(粗粒)	IV	
40	凹石	108	109	66	1,010	輝石安山岩(粗粒)	Ⅰ-B	
41	凹石	78	62	67	359	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	
42	凹石	95	85	47	520	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	Ⅰ-B	
43	磨石	96	83	74	768	輝石安山岩(粗粒)	Ⅰ-A	
44	使用痕のある削片	45	46	15	31	黒色頁岩	Ⅱ-B	
45	使用痕のある削片	45	29	7	13	黒色頁岩		
46	スクレイパー	46	72	14	28	黒色頁岩		

134号住居址出土石器 (第400・401図 写真189)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考	
133	凹石	141	138	52	1,577	輝石安山岩(粗粒)	Ⅰ-B		
134	凹石	135	122	80	1,737	輝石安山岩(粗粒)	Ⅰ-B		
135	石皿	147	177	44	1,922	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ		
136	凹石	153	113	72	1,840	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B		
137	磨石	140	119	86	1,573	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ		
138	磨石	124	93	83	1,250	石英閃緑岩	Ⅱ-A		
139	磨・凹石	137	65	42	528	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B		
140	磨・凹・磨石	125	82	42	625	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	Ⅱ-B		両面凹浅・側面敵
141	台石	244	133	87	4,150	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	Ⅲ-C		
142	多孔石	288	178	60	4,420	輝石安山岩(粗粒)	Ⅰ-B		片面凹・側面敵
143	磨・凹・磨石	107	85	50	650	輝石安山岩(粗粒)			
144	磨・凹・磨石	91	72	49	436	輝石安山岩(粗粒)	Ⅰ-B	側面敵	
145	磨石	83	56	25	202	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A		
146	磨・磨石	97	67	64	560	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A	側面敵	
147	磨石	79	76	65	422	輝石安山岩(粗粒)	Ⅲ		
148	磨・凹石	124	77	43	593	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-B	両面凹浅	
149	磨石	100	80	44	479	輝石安山岩(粗粒)	Ⅱ-A		
150	凹石	87	77	43	593	輝石安山岩(粗粒)	Ⅰ-B	凹面浅	
151	磨製石斧	91	35	15	56	安質玄武岩	破片		
152	スクレイパー	105	45	17	81	黒色頁岩		Ⅰ-B	
153	調整削片	92	52	16	85	頁岩	Ⅲ		
154	調整削片	88	47	12	64	灰色安山岩			
155	スクレイパー	49	80	17	82	黒色頁岩	Ⅱ-A		
156	スクレイパー	46	63	9	26	黒色頁岩			
157	調整削片	48	66	12	48	黒色頁岩	Ⅰ-A		
158	石匙	15	14	3	0.6	黒曜石			
159	石匙	42	22	11	8.0	黒曜石	Ⅱ		
160	スクレイパー	15	24	6	2.0	黒曜石	Ⅲ		
161	スクレイパー	12	18	5	0.8	黒曜石	Ⅲ		

第1章 検出された遺構と遺物

135号住居址出土石器 (第408・409図 写真189)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
107	台石	395	221	144	18,600	輝石安山岩(粗粒)	III-C	両面凹・側面凹
108	台石	353	214	96	11,500	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
109	敲石	117	71	25	316	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
110	磨石	89	82	34	360	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
111	敲石	64	87	63	476	輝石安山岩(粗粒)	III	
112	敲石	118	67	52	539	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
113	凹・敲石	103	75	46	543	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
114	磨・凹・敲石	83	73	46	418	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
115	磨石	45	40	28	69	輝石安山岩(粗粒)	IV	
116	敲石	103	92	61	907	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
117	調整削片	53	51	18	49	黒色頁岩		
118	スクレイパー	63	35	6	14	黒色頁岩	I-B	
119	スクレイパー	37	75	8	27	黒色頁岩	II-B	
120	スクレイパー	48	83	13	72	黒色頁岩	II-B	
121	使用痕のある削片	67	94	15	89	黒色頁岩		
122	スクレイパー	42	59	8	18	黒色頁岩	II-A	
123	石匙	70	51	12	38	黒色頁岩	III	
124	石匙	47	46	9	17	黒色頁岩	I-B	
125	石匙	62	21	12	6	黒色頁岩	I-A	

136号住居址出土石器 (第412・413図 写真190)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	
45	台石	344	250	125	14,850	かこう岩	III-C	凹面有	
46	多孔石	282	195	98	6,300	輝石安山岩(粗粒)			磨面有
47	台石	330	219	119	11,300	輝石安山岩(粗粒)	III-C		磨面有
48	石皿	212	315	100	8,200	輝石安山岩(粗粒)	I		
49	凹・敲石	99	72	68	650	輝石安山岩(粗粒)	I-B		
50	磨石	116	70	34	416	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A		
51	磨・凹・敲石	141	76	39	605	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面凹	
52	磨・凹・敲石	131	67	46	677	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	片面凹・側面凹	
53	磨石	64	55	42	297	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
54	敲石	100	97	74	1,022	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
55	磨・凹・敲石	109	74	42	426	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	片面凹・凹面凹	
56	凹・敲石	113	75	43	480	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・凹面凹	

137号住居址出土石器 (第417図 写真190)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
38	敲石	188	120	48	1,725	溶結凝灰岩	II-A	裏面凹有
39	台石	214	185	110	6,560	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
40	石皿	161	116	43	785	輝石安山岩(粗粒)	I	
41	石鏃	18	16	6	1.2	黒曜石	II	
42	磨石	122	85	52	796	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
43	磨石	104	74	52	600	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
44	台石	164	242	96	5,800	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
45	凹石	149	98	36	793	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
46	打製石片	56	43	15	44	黒色頁岩	I-B	
47	スクレイパー	75	54	17	66	黒色頁岩	III	
48	スクレイパー	60	78	21	109	黒色頁岩	II-B	

139号住居址出土石器 (第421・422図 写真190)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
56	台石	305	225	141	14,000	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
57	石皿	123	109	53	590	輝石安山岩(粗粒)	I	磨・凹面有 両面凹浅 片面凹・側面敲
58	台石	261	206	78	5,700	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
59	多孔石	190	161	78	2,820	輝石安山岩(粗粒)		
60	敲石	113	102	81	1,072	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
61	敲石	134	107	38	803	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
62	凹石	121	83	46	678	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
63	凹石	125	98	40	663	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
64	磨・凹・敲石	157	96	54	1,354	溶結凝灰岩	II-B	
65	磨石	125	76	65	903	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
66	敲石	112	74	46	601	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
67	磨石	127	94	56	1,055	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
68	磨石	75	73	36	268	珪質凝灰岩	I-A	
69	スタレイバー	69	79	12	106	黒色頁岩	III	
70	打製石斧	99	57	19	114	黒色頁岩	II-A	
71	調整削片	56	70	21	101	黒色頁岩		
72	調整削片	49	55	11	42	黒色頁岩		
73	調整削片	68	47	8	33	黒色頁岩		
74	磨製石斧	110	75	42	497	変質緑岩	I	

140号住居址出土石器 (第426・427図 写真191)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
53	台石	270	185	106	9,750	輝石安山岩(粗粒)	III-C	側面敲 側面敲 側面敲
54	凹石	124	93	88	1,250	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
55	磨・敲石	130	84	63	970	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
56	磨・敲石	109	83	51	659	かこう岩	II-B	
57	磨・敲石	105	95	69	970	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
58	磨石	100	80	48	475	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
59	磨石	97	86	50	535	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
60	磨石	99	76	32	322	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
61	磨石	101	70	27	334	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
62	磨石	82	63	34	227	石炭閃緑岩	II-A	
63	調整削片	122	62	18	125	黒色頁岩		
64	打製石斧	108	42	16	69	黒色頁岩	I-A	
65	打製石斧	92	42	19	70	黒色安山岩	II-A	
66	調整削片	84	34	16	38	黒色頁岩		
67	打製石斧	67	42	19	55	黒色頁岩	I-A	
68	調整削片	72	84	20	156	点紋頁岩		
69	スタレイバー	67	45	11	32	黒色頁岩	III	
70	調整削片	62	51	19	75	黒色頁岩		
71	スタレイバー	41	72	15	34	黒色頁岩	III	
72	石匙	42	83	12	45	黒色頁岩	II-A	
73	石匙	29	45	8	7.7	黒曜石	II-A	
74	石匙	48	16	12	3.3	黒曜石	I-A	
75	スタレイバー	54	28	5	4	黒色頁岩(化石明瞭)	III	

141号住居址出土石器 (第432・433図 写真191)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
64	台石	219	184	89	5,120	輝石安山岩(粗粒)	III-B	凹面有 磨面有 側面敲 側面敲
65	台石	237	163	67	3,150	溶結凝灰岩	III-B	
66	台石	250	250	58	5,960	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
67	台石	203	145	69	3,500	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
68	凹・敲石	95	80	40	469	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
69	敲石	101	41	57	425	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
70	磨・敲石	141	135	39	1,127	輝石安山岩(粗粒)	I-A	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
71	敲石	149	90	35	972	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹 側面敲 側面敲
72	凹石	96	104	79	1,170	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
73	敲石	159	81	32	570	溶結凝灰岩	II-A	
74	凹石	96	89	52	686	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
75	磨・凹石	111	87	59	807	石英閃緑岩	I-B	
76	磨石	110	81	37	430	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
77	磨・敲石	60	83	70	460	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
78	磨・敲石	115	72	45	608	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
79	磨製石斧	80	33	11	51	変質玄武岩	III	
80	磨製石斧	64	40	17	57	変質玄武岩	III	
81	スクレイパー	38	51	7	27	黒色頁岩	II-A	
82	スクレイパー	38	51	7	15	黒色頁岩	II-B	
83	スクレイパー	110	84	11	146	黒色頁岩	I-A	
84	打製石斧	71	45	21	77	黒色頁岩	I-A	
85	スクレイパー	90	40	10	37	黒色頁岩	I-A	
86	スクレイパー	69	71	12	62	黒色頁岩	I-A	
87	スクレイパー	75	59	10	43	黒色安山岩	I-A	
88	打製石斧	105	34	8	39	黒色頁岩	I-A	
89	スクレイパー	74	56	9	49	黒色頁岩	I-A	
90	スクレイパー	66	44	12	34	黒色頁岩	I-A	
91	石鏃	16	16	3	0.4	黒曜石	I-A	

142号住居址出土石器 (第434図 写真192)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
2	磨製石斧	95	45	20	131	変質玄武岩	I	
3	スクレイパー	32	63	10	20	黒色安山岩	II-B	
4	台石	313	245	103	12,000	輝石安山岩(粗粒)	III-C	

143号住居址出土石器 (第439図 写真192)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考	
69	敲石	148	102	70	1,294	輝石安山岩(粗粒)	II-A	両面凹	
70	凹石	134	78	62	930	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
71	敲石	130	74	44	630	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
72	凹石	80	63	38	254	輝石安山岩(粗粒)	II-B		
73	スクレイパー	47	40	9	22	黒色頁岩	I-B		
74	打製石斧	103	75	23	203	黒色頁岩	II-B		
75	打製石斧	99	58	23	210	黒色頁岩	III		
76	磨製石斧	94	41	23	153	変質玄武岩	I		
77	磨石	56	48	37	125	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
78	台石	125	198	70	2,460	輝石安山岩(粗粒)	III-C		凹面有
79	台石	211	123	87	2,660	輝石安山岩(粗粒)	III-C		
80	スクレイパー	51	65	11	21	黒色頁岩	III		
81	スクレイパー	49	32	8	11	黒色頁岩	III		
82	石匙	43	41	5	10	黒色頁岩	III		
83	石匙	40	35	8	8	黒色頁岩	III		

144号住居址出土石器 (第442図 写真192)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
35	砥石	111	90	17	80	軽石		
36	砥石	80	51	42	86	軽石		
37	磨・凹石	62	77	42	275	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
38	砥石	67	83	35	232	凝灰岩質砂岩		

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
39	磨石	66	54	44	215	輝石安山岩(粗粒)	IV	
40	磨石	49	44	36	70	輝石安山岩(粗粒)	IV	
41	砥石	67	40	23	65	砂岩		
42	スタレイバー	116	150	28	542	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
43	スタレイバー	59	102	14	85	黒色頁岩	II-B	
44	スタレイバー	48	75	10	37	黒色頁岩	II-B	
45	スタレイバー	35	76	9	20	黒色頁岩	III	
46	スタレイバー	49	33	11	14	黒色頁岩	III	
47	調整削片	36	34	6	8	黒色頁岩		
48	石匙	39	56	10	16	黒色頁岩	II-B	

145号住居址出土石器(第443図 写真192)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
8	砥石	258	127	82	3,680	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
9	磨・凹石	137	101	47	889	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
10	凹・磨石	97	78	40	365	輝石安山岩(粗粒)	I-B	側面凹
11	スタレイバー	55	129	20	112	黒色頁岩	III	
12	磨製石斧	49	20	6	10	変質蛇紋岩	III	
13	磨製石斧	42	25	6	11	変質蛇紋岩	III	
14	凹石	102	81	62	555	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
15	調整削片	63	50	10	36	黒色頁岩		
16	調整削片	52	33	14	17	黒色頁岩		

146号住居址出土石器(第444図 写真192)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
1	台石	181	281	82	4,790	輝石安山岩(粗粒)	III-C	磨面有 破片
2	石鏃	17	12	3	0.4	黒曜石		
3	磨・砥石	140	43	42	469	砂岩	II-A	
4	スタレイバー	41	46	7	11	黒色頁岩	III	
5	磨・凹・砥石	114	82	50	619	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面砥

147号住居址出土石器(第449・450図 写真193)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
40	台石	131	173	54	1,907	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	III-C	
41	多孔石	135	121	70	1,307	輝石安山岩(粗粒)		
42	凹石	109	92	71	875	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
43	磨石	118	103	94	1,500	かこう岩	I-A	
44	磨石	112	106	59	965	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
45	砥石	104	75	50	549	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
46	磨・砥石	107	88	52	746	輝石安山岩(粗粒)	I-A	側面砥
47	凹・砥石	98	90	44	592	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
48	磨・凹石	99	82	36	462	輝石安山岩(粗粒)	I-A	両面凹浅
49	磨石	106	96	47	778	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
50	凹石	101	72	54	392	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
51	凹石	94	68	35	319	溶結凝灰岩	II-B	片面凹浅
52	磨・凹・砥石	101	85	45	591	輝石安山岩(粗粒)	I-A	両面凹・側面砥
53	打製石斧	85	47	14	60	黒色頁岩	II-A	

149号a・b住居址出土石器(第456~459図 写真193・194)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
82	台石	221	270	111	8,600	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
83	台石	171	100	72	1,796	かこう岩	III-B	
84	磨石	173	129	64	2,300	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
85	磨石	195	96	49	1,550	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
86	磨石	122	108	68	1,190	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
87	磨・凹石	124	94	67	1,117	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
88	凹石	94	80	26	260	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面凹
89	凹石	127	86	55	879	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面凹
90	磨・凹石	129	91	63	1,011	石英斑岩	II-B	凹面凹
91	凹・磨石	120	97	43	756	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面凹・側面磨
92	凹石	115	127	71	962	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
93	磨石	129	56	37	394	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	
94	凹石	133	91	37	719	石英斑岩	II-B	
96	磨石	110	83	46	601	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
98	磨石	107	98	61	850	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
99	磨石	106	80	39	507	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
98	凹石	64	126	58	442	輝石安山岩(粗粒)	II-B	凹面溝
99	凹・磨石	127	77	40	602	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	凹面凹・側面磨
100	磨石	33	60	37	454	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
101	磨石	112	95	72	1,057	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
102	凹石	105	95	54	441	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面凹
103	磨石	107	85	36	530	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
104	凹石	107	72	43	430	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
105	磨石	106	70	57	519	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
106	砥石	122	74	32	138	輝石安山岩(粗粒)		
107	磨・磨石	86	79	56	443	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
108	凹石	101	81	45	382	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面溝
109	磨石	82	70	64	385	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
110	磨石	82	77	44	379	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
111	磨石	101	63	31	306	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
112	磨石	69	59	49	249	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
113	磨石	75	69	40	367	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
114	磨石	77	63	20	155	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
115	磨石	43	32	24	46	輝石安山岩(粗粒)	IV	
116	磨製石弁	225	78	53	1,282	変輝緑岩?	I	
117	磨製石弁	90	47	18	161	実質蛇紋岩	III	
118	打製石弁	97	47	15	78	黒色頁岩	II-B	
119	打製石弁	86	46	12	53	黒色頁岩	II-B	
120	調整削片	62	37	12	33	黒色頁岩		
121	スクレイパー	90	47	18	62	黒色頁岩	I-B	
122	打製石弁	147	52	23	168	黒色頁岩	I-A	
123	スクレイパー	81	125	29	210	黒色頁岩	I-A	
124	スクレイパー	68	74	16	82	黒色頁岩	III	
125	スクレイパー	42	57	13	29	黒色頁岩	I-A	
126	調整削片	100	38	15	59	黒色頁岩		
127	調整削片	82	56	12	73	黒色頁岩		
128	石匙	64	47	11	33	黒色頁岩	I-B	
129	石匙	62	57	11	31	黒色頁岩	I-A	
130	石匙	112	62	15	62	黒色頁岩	II-A	

150号住居址出土石器 (第467・468図 写真194)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
118	台石	522	222	16	29,100	輝石安山岩(粗粒)	III-C	凹面有
119	石皿	347	322	92	11,600	輝石安山岩(粗粒)	I	凹面凹有
120	凹・磨石	123	92	35	887	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
121	磨石	95	101	59	713	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
122	磨石	99	87	35	738	輝石安山岩(粗粒)	II-B	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考	
123	礫石	107	89	82	1,102	輝石安山岩(粗粒)	I-A	片面凹淺	
124	凹石	124	95	60	873	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
125	多孔石	190	176	79	3,020	輝石安山岩(粗粒)			
126	石皿	72	73	43	236	輝石安山岩(粗粒)	II		
127	磨・凹石	113	77	48	571	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B		両面凹
128	磨石	71	78	54	392	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
129	礫石	95	61	39	339	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
130	磨石	78	25	30	166	石英閃綠岩	II-A		
131	磨石	83	75	55	438	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
132	礫石	134	81	43	696	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
133	磨石	110	83	51	667	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
134	礫石	112	73	70	878	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
135	礫石	95	78	59	420	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
136	礫石	87	76	35	357	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
137	礫石	99	58	31	293	輝石安山岩(粗粒)	II-A		
138	磨石	77	67	48	319	輝石安山岩(粗粒)	I-A		
139	打製石斧	34	43	9	17	黒色頁岩	I-A		
140	石匙	40	73	10	23	黒色頁岩	III		
141	スクレイパー	47	45	11	27	黒色頁岩	I-A		
142	スクレイパー	67	155	21	149	黒色頁岩	II-B		
143	スクレイパー	51	60	8	24	黒色頁岩	III		
144	調整削片	55	69	19	67	黒色頁岩			
145	スクレイパー	46	58	14	27	黒色頁岩	III		
146	スクレイパー	47	64	13	39	黒色頁岩	II-A		
147	調整削片	57	63	18	67	黒色頁岩			

151号住居址出土石器(第472・473図 写真195)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
71	台石	263	270	73	7,400	輝石安山岩(粗粒)	III-C	凹面有 凹面淺 凹面凹・側面缺 凹面淺 凹面凹淺
72	磨・凹石	143	94	74	1,515	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
73	磨・凹・礫石	101	82	42	552	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
74	磨・凹石	125	96	64	1,097	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
75	凹石	139	66	44	529	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
76	磨石	134	94	35	652	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
77	磨石	126	84	70	1,077	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
78	磨石	97	68	50	468	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
79	磨石	73	71	63	455	かこう岩	I-A	
80	スクレイパー	39	58	10	25	黒色頁岩	II-A	
81	調整削片	44	59	20	61	黒色頁岩		
82	スクレイパー	48	62	12	38	黒色頁岩	III	
83	調整削片	47	49	15	36	黒色頁岩		
84	石匙	46	36	11	13	瑤賢頁岩	III	
85	石匙	85	35	10	35	黒色頁岩	I-A	
86	石匙	72	69	11	57	黒色安山岩	II-B	

152号住居址出土石器(第477図 写真195)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
62	石匙	50	24	6	7	黒色頁岩	I-A	
63	スクレイパー	58	24	7	10	黒色頁岩	III	
64	打製石斧	92	42	20	81	黒色頁岩	II-A	
65	石匙	37	53	5	13	灰色安山岩	II-B	
66	石匙	33	50	7	9	黒色頁岩	II-B	
67	スクレイパー	39	53	13	35	黒色頁岩	II-A	
68	石匙	39	52	12	22	黒色頁岩	III	

第I章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
69	石匙	33	86	8	24	黒色頁岩	III	
70	石匙	41	66	7	19	黒色頁岩	III	

153号住居址出土石器 (第478図 写真195)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
1	磨・敲石	93	82	64	628	輝石安山岩(粗粒)	I-A	側面敲
2	磨石	108	79	45	565	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
3	石皿	98	78	50	362	輝石安山岩(粗粒)	II	

154号住居址出土石器 (第483図 写真195)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
41	台石	436	299	109	24,150	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
42	台石	206	131	78	2,940	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
43	敲石	113	69	44	551	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
44	磨石	49	49	37	99	滑結凝灰岩	IV	
45	磨石	163	132	66	2,000	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
46	スクレイパー	51	39	7	19	黒色頁岩	I-A	
47	打製石斧	45	44	12	29	黒色頁岩	I-A	
48	打製石斧	44	66	17	59	黒色頁岩	I-B	
49	スクレイパー	61	65	8	45	黒色頁岩	III	
50	多孔石	199	120	65	2,200	砂岩		

土坑出土石器 (第571~575図 写真223)

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
456	石皿	243	192	58	2,920	輝石安山岩(粗粒)	II	S K101
457	砥石	50	73	70	183	凝灰岩質砂岩		S K80
458	砥石	82	55	20	99	砂岩		—
459	砥石	52	72	20	93	砂岩		S K46
460	砥石	54	41	14	36	砂岩		S K103
461	丸石	267	229	192	16,300	かこう岩		S K156
462	磨石	150	123	62	1,858	輝石安山岩(粗粒)	II-A	S K69
463	台石	140	112	76	2,400	輝石安山岩(粗粒)	III-B	S K159
464	石皿	130	175	86	2,020	輝石安山岩(粗粒)	III-A	S K122
465	磨石	130	91	39	684	輝石安山岩(粗粒)	II-A	S K140
466	磨石	121	80	41	564	輝石安山岩(粗粒)	II-A	S K97
467	磨石	106	83	37	491	輝石安山岩(粗粒)	II-A	S K69
468	敲石	105	68	34	319	砂岩	II-A	S K101
469	敲石	117	58	27	319	滑結凝灰岩(大峰・三峰)	II-A	S K323
470	磨石	108	86	55	723	輝石安山岩(粗粒)	I-A	S K101
471	敲石	150	70	51	816	滑結凝灰岩	II-B	S K144
472	磨石	135	79	46	763	輝石安山岩(粗粒)	II-B	S K97
473	凹石	109	87	44	530	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹 S K62
474	凹石	98	79	40	454	輝石安山岩(粗粒)	I-A	両面凹浅 S K103
475	磨・凹・敲石	116	101	64	1,100	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲 S K97
476	磨・凹石	71	91	46	409	輝石安山岩(粗粒)	I-B	S K323
477	磨・凹石	102	67	40	426	輝石安山岩(粗粒)	II-A	S K 1
478	凹・敲石	87	74	37	356	輝石安山岩(粗粒)	I-B	S K144
479	磨石	78	71	33	292	輝石安山岩(粗粒)	I-A	S K59
480	敲石	59	70	50	280	輝石安山岩(粗粒)	III	SK52
481	磨石	61	54	38	172	輝石安山岩(粗粒)	I-A	S K97
482	磨石	69	47	33	163	輝石安山岩(粗粒)	II-A	S K129

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
483	磨石	63	62	42	264	輝石安山岩(粗粒)	I-A	S K 59
484	砥石	81	61	42	323	輝石安山岩(粗粒)	II-A	S K 53
485	磨製石斧	124	32	24	220	燧石	I	S K 96
486	凹石	146	68	55	835	溶結凝灰岩	II-B	両面凹 S K 4
487	凹石	101	89	51	456	輝石安山岩(粗粒)	I-B	S K 158
488	凹石	93	73	55	531	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹 S K 144
489	凹石	117	60	38	441	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹 S K 160
490	凹石	100	100	36	474	輝石安山岩(粗粒)	I-B	S K 53
491	凹石	100	89	35	452	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹 S K 97
492	凹石	82	83	53	512	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹 S K 38
493	磨・凹・砥石	106	75	36	481	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面砥 S K 323
494	磨・凹・砥石	98	84	46	538	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面砥 S K 69
495	磨・凹・砥石	121	70	38	434	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面砥 S K 60
496	石匙	45	78	18	41	黒色頁岩	II-A	S K 323
497	石匙	42	66	6	16	黒色頁岩	III	S K 106
498	石匙	95	39	13	43	黒色頁岩	I-A	S K 112
499	打製石斧	72	69	14	53	黒色頁岩	III	—
500	打製石斧	70	43	15	49	黒色頁岩	I-A	S K 165
501	打製石斧	63	41	12	48	黒色頁岩	I-A	—
502	打製石斧	79	70	36	205	黒色頁岩	I-B	S K 1
503	打製石斧	97	41	14	56	黒色頁岩	II-A	S K 118
504	スクレイパー	96	40	13	54	頁岩	I-A	S K 88
505	調整削片	58	66	19	74	黒色頁岩	—	—
506	使用痕のある削片	73	41	9	30	黒色頁岩	—	S K 152
507	スクレイパー	41	66	7	27	黒色頁岩	II-A	S K 116
508	スクレイパー	65	40	14	40	黒色安山岩	I-B	S K 1
509	スクレイパー	71	48	15	48	黒色頁岩	I-B	S K 100
510	スクレイパー	49	90	14	48	黒色頁岩	II-B	—
511	調整削片	52	89	18	80	黒色頁岩	—	—
512	スクレイパー	61	55	10	25	黒色頁岩	III	—
513	スクレイパー	50	53	9	19	黒色頁岩	III	—
514	磨石	47	42	34	76	輝石安山岩(粗粒)	IV	S K 158
515	石鏃	43	15	5	3.7	黒色頁岩	II	S K 1
516	石鏃	24	13	4	0.8	チャート	I-A	S K 16
517	石鏃	15	15	2	0.4	チャート	I-A	—

遺構外出土石器(第592~621図 写真224~231)

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
405	石鏃	28	16	3	0.8	珪質凝灰岩	I-A	—
406	石鏃	27	17	3	0.8	黒曜石	I-A	—
407	石鏃	22	13	3	0.7	黒曜石	I-A	—
408	石鏃	25	17	2	1.0	チャート	I-A	—
409	石鏃	17	15	4	0.9	黒色頁岩	I-A	—
410	石鏃	23	19	4	1.3	黒曜石	I-A	—
411	石鏃	20	14	2	0.5	黒曜石	I-A	—
412	石鏃	18	14	2	0.6	黒曜石	I-A	—
413	石鏃	17	20	2	0.5	黒曜石	I-A	—
414	石鏃	23	24	4	1.5	珪質凝灰岩	I-A	—
415	石鏃	18	15	3	0.5	黒曜石	I-A	—
416	石鏃	13	13	2	0.2	黒曜石	I-A	—
417	石鏃	13	12	3	0.6	黒曜石	I-A	—
418	石鏃	15	13	3	0.6	黒色頁岩	I-A	—
419	石鏃	19	15	4	0.5	黒曜石	I-A	—
420	石鏃	26	17	8	2.4	黒曜石	I-A	—
421	石鏃	19	17	2	0.5	黒曜石	I-A	—
422	石鏃	24	13	2	0.5	黒曜石	I-A	—

第I章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
423	石鏃	22	13	3	0.7	黒曜石	I-A	
424	石鏃	22	22	3	1.0	黒曜石	I-B	
425	石鏃	18	13	2	0.6	黒色頁岩?	I-B	
426	石鏃	30	16	6	2.0	黒曜石		破片
427	石鏃	28	24	4	2.5	黒曜石	I-B	
428	石鏃	25	16	5	1.6	黒色安山岩	II	
429	石鏃	15	16	3	0.5	黒曜石	I-B	
430	石鏃	12	12	2	0.4	黒曜石	I-B	
431	石鏃	18	15	3	0.4	黒曜石		破片
432	石鏃	20	14	4	6.8	黒曜石	II	
433	石鏃	21	16	5	1.1	黒曜石	II	
434	石匙	122	43	19	94	黒色頁岩	I-A	
435	石匙	58	32	15	22	黒色頁岩	III	
436	石匙	61	36	8	14	黒色頁岩	III	
437	石匙	82	28	12	24	黒色頁岩	I-A	
438	石匙	25	18	5	1.9	珪質凝灰岩	I-A	
439	調整削片	39	25	9	9	黒色頁岩		
440	石匙	45	17	5	3.8	黒曜石	I-A	
441	石匙	46	26	7	9	チャート	I-B	
442	石匙	39	44	15	23	黒色頁岩	I-A	
443	石匙	44	25	5	4	黒色頁岩	III	
444	石匙	46	23	7	4	黒色頁岩	I-A	
445	石匙	58	34	6	12	黒色頁岩	I-A	
446	石匙	54	35	7	10	黒色頁岩	I-B	
447	石匙	28	45	55	6	黒色頁岩	I-B	
448	石匙	68	33	6	14	黒色頁岩	I-B	
449	石匙	38	63	7	15	黒色頁岩	II-A	
450	石匙	47	43	4	10	黒色頁岩	I-B	
451	石匙	49	45	8	16	黒色頁岩	III	
452	石匙	41	52	10	12	黒色頁岩	II-A	
453	石匙	38	56	4	9	黒色頁岩	II-A	
454	石匙	28	68	9	10	黒色頁岩	II-B	
455	石匙	39	74	9	22	黒色頁岩	II-A	
456	石匙	24	40	7	5.4	チャート	II-A	
457	使用痕のある削片	22	15	4	1.1	黒曜石		
458	使用痕のある削片	26	16	8	2.5	黒曜石		
459	調整削片	28	22	10	5.2	黒曜石		
460	石匙	33	45	8	10	チャート	II-A	
461	石匙	55	71	10	29	黒色頁岩	II-A	
462	石匙	68	64	19	57	黒色頁岩	III	
463	石匙	50	61	13	33	黒色頁岩	III	
464	石匙	46	57	12	30	黒色頁岩	III	
465	石匙	40	63	11	18	黒色安山岩	II-B	
466	石匙	40	51	8	15	黒色頁岩	III	
467	石鏃	47	27	11	10	チャート	I-B	
468	石鏃	32	30	3	3	黒色頁岩	I-B	
469	石鏃	44	24	11	11	黒色頁岩	I-B	
470	石鏃	39	29	11	12	黒色頁岩	I-B	
471	石鏃	46	22	8	4.8	黒色頁岩	II	
472	石鏃	33	24	8	5	チャート	I-B	
473	石鏃	35	19	1	7.0	黒色頁岩	I-B	
474	石鏃	49	54	9	20	黒色頁岩	I-B	
475	石鏃	54	20	7	8	黒色頁岩	I-B	
476	石鏃	24	11	5	0.9	黒曜石	II	
477	石鏃	22	14	3	0.5	黒曜石	I-B	
478	石鏃	22	19	4	1.6	黒曜石	I-B	
479	石鏃	44	15	9	5	黒色頁岩	II	
480	石鏃	20	20	8	1.6	黒曜石	II	未製品
481	スクレイパー	39	57	8	20	黒色頁岩	II-A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
482	使用痕のある削片	37	59	10	20	輝石安山岩(細粒)		
483	スクレイパー	49	124	21	134	黒色安山岩	II-A	
484	スクレイパー	35	78	11	29	黒色頁岩	II-A	
485	スクレイパー	75	117	21	226	黒色頁岩	II-A	
486	スクレイパー	50	106	17	83	黒色頁岩	II-A	
487	スクレイパー	38	92	11	55	黒色頁岩	II-B	
488	スクレイパー	50	82	14	55	黒色頁岩	III	
489	調整削片	38	63	13	32	黒色頁岩		
490	スクレイパー	30	64	13	26	黒色頁岩	II-B	
491	スクレイパー	104	52	19	64	黒色頁岩	II-B	
492	調整削片	53	61	16	57	黒色頁岩		
493	スクレイパー	69	94	15	103	黒色頁岩	II-B	
494	スクレイパー	65	76	7	31	輝石安山岩(細粒)	III	
495	スクレイパー	50	62	12	23	黒色頁岩	II-A	
496	調整削片	69	70	30	159	黒色安山岩		
497	打製石片	58	80	15	68	黒色頁岩	II-A	
498	スクレイパー	51	74	16	53	黒色頁岩	II-A	
499	スクレイパー	53	66	18	54	黒色頁岩	II-A	
500	スクレイパー	53	97	12	64	黒色頁岩	I-B	
501	調整削片	45	55	18	45	黒色頁岩		
502	スクレイパー	48	43	9	11	黒色頁岩	III	
503	調整削片	41	46	16	40	黒色頁岩		
504	スクレイパー	39	57	16	35	黒色頁岩	III	
505	スクレイパー	38	53	7	14	黒色頁岩	I-A	
506	スクレイパー	60	40	11	27	黒色頁岩	III	
507	調整削片	84	74	31	214	黒色頁岩		
508	石楯	90	30	22	84	黒色頁岩		
509	スクレイパー	87	40	10	34	黒色頁岩	I-A	
510	スクレイパー	73	49	11	37	黒色頁岩	I-B	
511	スクレイパー	70	45	9	33	黒色頁岩	I-A	
512	打製石片	68	48	19	59	黒色頁岩	II-A	
513	調整削片	73	58	15	51	黒色頁岩		
514	スクレイパー	93	33	10	40	黒色頁岩	I-A	
515	スクレイパー	64	37	10	27	黒色安山岩	I-A	
516	スクレイパー	80	42	16	34	黒色頁岩	I-A	
517	スクレイパー	67	56	16	52	黒色頁岩	I-A	
518	スクレイパー	83	45	14	35	黒色頁岩	I-A	
519	打製石片	50	40	12	32	黒色頁岩	I-A	
520	スクレイパー	77	61	16	55	黒色頁岩	III	
521	使用痕のある削片	89	50	11	49	黒色頁岩		
522	スクレイパー	51	47	13	27	黒色頁岩	I-B	
523	調整削片	22	17	7	2.7	黒曜石		
524	使用痕のある削片	44	28	10	15.6	黒曜石		
525	スクレイパー	75	34	12	29	黒色安山岩	I-A	
526	スクレイパー	96	43	14	51	黒色頁岩	I-A	
527	スクレイパー	96	40	17	49	黒色頁岩	III	
528	調整削片	110	33	19	62	黒色頁岩		
529	スクレイパー	117	59	22	177	黒色頁岩(化石多数)	I-B	
530	打製石片	78	51	19	85	黒色頁岩	II-B	
531	スクレイパー	83	51	16	68	黒色頁岩	I-A	
532	スクレイパー	70	38	13	40	黒色頁岩	I-A	
533	調整削片	54	29	10	17	黒色頁岩		
534	スクレイパー	136	67	14	104	黒色頁岩	I-A	
535	スクレイパー	90	82	12	97	輝石安山岩(細粒)	III	
536	打製石片	67	45	17	69	黒色頁岩	I-B	
537	打製石片	70	47	14	45	灰色安山岩	II-A	
538	調整削片	67	40	15	35	溶結凝灰岩		へタ状
539	調整削片	66	32	13	21	黒色頁岩		へタ状
540	打製石片	101	45	14	62	黒色頁岩	I-B	

第 I 章 検出された遺構と遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
541	打製石片	91	45	18	98	黒色頁岩	I-B	
542	打製石片	91	40	13	53	黒色頁岩	I-B	
543	打製石片	97	50	19	107	黒色頁岩	I-B	
544	打製石片	93	45	17	77	黒色頁岩	II-A	
545	打製石片	123	34	16	90	頁岩	I-A	
546	打製石片	126	61	14	121	黒色頁岩	II-B	
547	打製石片	126	61	17	150	黒色頁岩	II-A	
548	打製石片	104	53	29	163	黒色頁岩	II-A	
549	打製石片	85	46	15	85	黒色頁岩	I-A	
550	打製石片	94	56	14	93	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
551	打製石片	80	82	23	122	黒色頁岩	I-B	
552	打製石片	95	48	16	79	黒色頁岩	II-B	
553	打製石片	89	55	10	73	黒色頁岩	II-B	
554	打製石片	87	50	10	59	黒色頁岩	II-B	
555	打製石片	106	58	21	129	黒色頁岩	I-B	
556	打製石片	133	91	59	701	砂岩	I-B	
557	打製石片	141	57	29	175	黒色頁岩	II-A	
558	打製石片	129	60	21	188	黒色頁岩	I-A	
559	打製石片	78	32	12	29	黒色頁岩	II-A	
560	打製石片	65	37	18	39	黒色頁岩	II-A	
561	打製石片	60	49	14	43	輝石安山岩(粗粒)	II-A	破片
562	打製石片	55	48	19	67	黒色頁岩	I-A	破片
563	打製石片	51	37	12	25	黒色頁岩	II	破片
564	打製石片	83	51	13	64	黒色頁岩	II-B	
565	打製石片	69	43	19	69	黒色頁岩	II-A	
566	打製石片	87	50	23	132	黒色頁岩	II-A	
567	打製石片	88	53	15	78	灰色安山岩	I-B	
568	打製石片	90	56	18	78	黒色頁岩	I-B	
569	打製石片	71	39	8	33	黒色頁岩	I-A	
570	打製石片	59	41	19	52	黒色頁岩	I-A	
571	打製石片	61	38	9	20	黒色頁岩	II-A	
572	打製石片	66	55	10	36	黒色頁岩	I-A	
573	打製石片	35	42	12	19	黒色頁岩	II-A	
574	打製石片	63	48	16	67	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
575	打製石片	71	50	14	58	黒色頁岩	I-A	
576	打製石片	56	43	13	42	黒色頁岩	I-A	
577	打製石片	69	50	17	67	黒色頁岩	I-B	
578	打製石片	64	63	16	88	黒色頁岩	I-A	
579	打製石片	65	62	14	67	黒色頁岩	II-B	
580	打製石片	72	57	11	65	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
581	打製石片	71	61	18	80	黒色頁岩	II-B	
582	打製石片	68	50	16	65	黒色頁岩	II-A	
583	打製石片	59	52	15	63	黒色頁岩	II-A	
584	打製石片	64	49	15	50	黒色頁岩	I-A	
585	打製石片	82	55	20	105	黒色頁岩	I-A	
586	打製石片	84	84	16	139	輝石安山岩(粗粒)	III	
587	打製石片	62	80	21	134	黒色頁岩	III	
588	打製石片	110	91	32	353	頁岩	III	
589	打製石片	104	91	41	426	黒色頁岩	III	
590	打製石片	128	101	23	298	黒色頁岩	III	
591	打製石片	118	85	20	243	黒色頁岩	III	破片
592	打製石片	117	66	34	199	黒色頁岩	III	
593	打製石片	86	67	15	88	黒色頁岩	II-B	
594	打製石片	70	50	18	73	黒色頁岩	I-A	
595	調整削片	46	59	14	46	黒色頁岩		
596	調整削片	62	48	18	61	黒色頁岩	I-A	
597	磨製石片	33	49	27	225	玄武岩質凝灰岩	I	
598	磨製石片	82	71	31	192	不明	I	
599	磨製石片	92	53	25	183	黄鉄鉱粒岩	I	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石質	分類	備考
600	磨製石斧	83	57	26	187	変輝緑岩	I	
601	磨製石斧	129	43	27	248	実質玄武岩	II	
602	磨製石斧	91	56	26	173	珪質凝灰岩	I	
603	磨製石斧	91	44	22	151	実質玄武岩	I	
604	磨製石斧	90	52	29	209	変輝緑岩	II	
605	磨製石斧	65	36	25	79	実質玄武岩	II	
606	磨製石斧	47	43	22	69	玄武質凝灰岩	III	
607	磨製石斧	64	42	17	58	実質蛇紋岩	I	
608	磨製石斧	69	50	26	92	実質蛇紋岩	I	
609	磨製石斧	87	70	40	350	実質玄武岩	I	
610	磨製石斧	37	16	5	4.8	実質蛇紋岩	III	
611	磨製石斧	43	24	7	10	実質蛇紋岩	III	
612	磨製石斧	46	16	7	8	蛇紋岩	III	
613	磨製石斧	57	36	10	35	実質蛇紋岩	III	
614	石皿	282	284	107	10,700	輝石安山岩(粗粒)	II	表面多孔石
615	石皿	128	96	43	613	輝石安山岩(粗粒)	II	表面凹有
616	石皿	350	278	113	14,050	輝石安山岩(粗粒)	II	
617	石皿	167	166	75	3,220	輝石安山岩(粗粒)	II	
618	石皿	193	155	65	2,320	輝石安山岩(粗粒)	I	
619	石皿	185	192	105	4,500	輝石安山岩(粗粒)	I	表面多孔石
620	石皿	246	182	87	5,100	輝石安山岩(粗粒)	II	
621	石皿	345	345	149	23,650	輝石安山岩(粗粒)	II	
622	石皿	358	196	76	7,000	輝石安山岩(粗粒)	II	表面多孔石
623	石皿	283	156	102	5,300	輝石安山岩(粗粒)	II	
624	石皿	250	242	65	3,120	輝石安山岩(粗粒)	II	
625	台石	221	174	105	5,280	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
626	台石	326	231	78	10,350	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
627	台石	315	143	93	5,230	輝石安山岩(粗粒)	III-A	凹・磨面有
628	石皿	310	180	153	12,600	輝石安山岩(粗粒)	II	表面多孔石
629	石皿	133	192	68	1,638	輝石安山岩(粗粒)	II	
630	石皿	326	240	100	11,730	輝石安山岩(粗粒)	II	
631	石皿	348	327	102	19,100	輝石安山岩(粗粒)	II	
632	台石	285	222	91	9,400	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
633	台石	285	280	105	11,900	輝石安山岩(粗粒)	III-C	磨面有
634	台石	350	230	120	15,300	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
635	台石	338	327	147	21,600	輝石安山岩(粗粒)	III-C	磨面有
636	台石	260	228	91	8,800	輝石安山岩(粗粒)	III-A	凹・磨面有
637	台石	283	230	87	8,800	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
638	台石	332	243	93	11,150	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
639	台石	186	234	98	5,550	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
640	台石	457	397	137	3,750	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
641	台石	410	331	106	21,750	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
642	多孔石	232	214	128	7,020	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
643	台石	233	185	76	3,340	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
644	台石	440	275	130	21,800	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
645	台石	407	223	98	13,700	輝石安山岩(粗粒)	III-A	凹・磨面有
646	台石	263	247	93	9,500	輝石安山岩(粗粒)	III-C	磨面有
647	台石	327	266	108	12,350	輝石安山岩(粗粒)	III-C	凹面浅
648	台石	310	260	96	10,300	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
649	台石	177	232	70	4,280	輝石安山岩(粗粒)	III-B	
650	多孔石	251	157	120	6,700	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
651	台石	431	325	103	20,000	輝石安山岩(粗粒)	III-C	磨面有
652	多孔石	212	164	115	4,390	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
653	磨石	212	150	65	2,840	輝石安山岩(粗粒)	III-A	
654	多孔石	295	212	121	7,360	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
655	凹石	145	91	73	1,360	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
656	台石	280	207	84	6,850	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
657	多孔石	256	172	65	3,880	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
658	台石	328	218	106	8,900	輝石安山岩(粗粒)	III-C	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(kg)	石質	分類	備考
659	台石	298	274	128	18,200	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨・版面有
660	多孔石	365	359	100	10,050	輝石安山岩(粗粒)		
661	多孔石	280	269	91	10,400	輝石安山岩(粗粒)		
662	台石	277	212	94	8,500	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
663	多孔石	332	264	124	13,700	輝石安山岩(粗粒)		
664	多孔石	323	254	154	14,700	輝石安山岩(粗粒)		
665	石皿	168	131	42	1,260	輝石安山岩(粗粒)	II	
666	石皿	126	74	53	593	輝石安山岩(粗粒)	II	
667	台石	166	148	56	2,200	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
668	多孔石	117	172	85	1,720	輝石安山岩(粗粒)		
669	多孔石	217	132	112	3,580	輝石安山岩(粗粒)		
670	多孔石	162	142	99	3,080	輝石安山岩(粗粒)		
671	多孔石	191	174	123	5,160	輝石安山岩(粗粒)		
672	多孔石	219	196	132	8,400	輝石安山岩(粗粒)		
673	多孔石	206	157	97	3,500	輝石安山岩(粗粒)		
674	多孔石	170	89	87	1,745	輝石安山岩(粗粒)		
675	多孔石	224	193	131	5,240	輝石安山岩(粗粒)		
676	台石	156	223	68	4,080	輝石安山岩(粗粒)	III-A	磨面有
677	多孔石	197	146	123	4,000	輝石安山岩(粗粒)		
678	多孔石	151	119	66	1,460	輝石安山岩(粗粒)		
679	磨石	120	107	83	1,622	石英閃緑岩	I-A	
680	敲石	129	91	62	1,030	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
681	磨石	104	76	68	770	石英閃緑岩	II-A	
682	敲石	144	82	42	683	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
683	磨石	108	93	77	1,000	溶結凝灰岩	I-A	
684	敲石	137	78	40	716	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
685	敲石	91	75	61	632	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
686	台石	179	118	71	2,100	輝石安山岩(粗粒)	III-C	
687	磨石	115	93	53	750	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-A	
688	磨・敲石	105	101	62	937	輝石安山岩(粗粒)	I-A	側面敲
689	磨石	87	74	69	607	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
690	敲石	92	82	45	539	石英閃緑岩	I-A	
691	磨石	97	53	44	363	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
692	磨石	111	93	67	963	石英閃緑岩	I-A	
693	磨・敲石	102	81	44	706	輝石安山岩(粗粒)	I-A	側面敲
694	敲石	112	88	44	630	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-A・III	
695	敲石	95	49	42	320	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
696	磨石	64	60	60	298	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
697	敲石	78	67	41	273	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
698	敲石	74	68	63	420	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
699	磨石	85	61	40	299	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
700	磨石	71	33	25	82	溶結凝灰岩	II-A	
701	砥石	55	64	26	32	輝石		
702	磨石	59	63	32	145	溶結凝灰岩	I-A	
703	磨石	62	53	39	176	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
704	磨石	85	87	23	256	砂岩	I-A	
705	敲石	86	68	47	390	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
706	凹石	105	78	38	350	石英閃緑岩	II-B	両面凹浅
707	磨・敲石	98	74	34	443	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
708	凹・敲石	121	85	38	625	輝石安山岩(粗粒)	II-B	側面凹浅
709	敲石	78	40	39	198	輝石安山岩(粗粒)	III	
710	敲石	147	117	80	1,851	輝石安山岩(粗粒)	III	
711	凹石	137	105	72	1,510	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
712	凹石	148	120	90	1,754	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
713	凹石	131	105	66	1,137	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
714	凹石	134	75	49	593	溶結凝灰岩	II-B	片面凹浅
715	凹石	129	87	46	677	溶結凝灰岩	II-B	
716	凹・敲石	136	75	53	800	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
717	磨石	121	79	41	448	溶結凝灰岩	II-A	

第4節 縄文時代の出土遺物

番号	種 別	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	石 質	分 類	備 考
718	磨石	109	81	49	652	溶結凝灰岩	II-A	
719	凹・磨石	118	74	39	529	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
720	磨石	107	58	34	329	輝石安山岩(粗粒)	II-A	
721	凹石	118	68	43	517	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
722	磨石	114	108	67	1,130	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
723	砥石	123	81	38	166	凝石		
724	凹石	114	90	57	800	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	II-B	
725	磨石	90	84	84	841	輝石安山岩(粗粒)	IV	
726	磨石	88	79	46	420	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
727	砥石	62	79	62	139	凝石		
728	凹石	82	53	43	187	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
729	磨石	80	68	40	290	溶結凝灰岩	I-A	
730	凹石	80	58	34	194	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
731	凹・磨石	87	69	44	343	溶結凝灰岩	II-B	
732	磨・凹石	76	69	52	328	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
733	凹石	78	62	51	343	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
734	凹石	96	79	40	405	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
735	磨石	87	78	55	539	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
736	凹石	89	64	45	337	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
737	凹石	82	63	55	345	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
738	凹石	87	85	45	427	溶結凝灰岩	I-B	
739	凹石	85	61	30	170	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
740	凹石	71	62	31	150	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
741	凹石	167	110	83	1,699	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
742	磨・凹石	119	110	64	1,200	輝石安山岩(粗粒)	I-B	凹面浅
743	磨・凹石	128	99	53	1,000	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
744	凹石	96	91	30	353	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
745	凹石	127	95	47	802	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
746	凹石	114	68	54	388	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
747	凹石	270	180	100	7,700	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
748	磨石	105	82	68	676	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
749	凹石	103	98	72	1,059	輝石安山岩(粗粒)	I-B	片面凹浅
750	凹石	109	97	64	719	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
751	凹石	121	88	48	557	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
752	凹石	122	91	60	920	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
753	磨・凹・磨石	117	78	43	653	輝石安山岩(粗粒)	II-B	片面凹・側面磨
754	凹石	83	100	39	504	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
755	凹石	109	103	53	748	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
756	凹石	97	90	46	467	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
757	凹・磨石	97	91	61	732	輝石安山岩(粗粒)	I-B	側面磨
758	凹石	95	71	53	468	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
759	凹・磨石	114	54	38	275	デイサイト質凝灰岩	II-B	側面磨
760	凹・磨石	92	76	52	488	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
761	凹石	105	83	41	467	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	両面凹浅
762	磨・凹石	93	86	54	658	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
763	凹石	93	83	41	423	石英斑岩	I-B	
764	凹・磨石	89	83	54	564	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
765	磨・磨石	95	83	47	457	輝石安山岩(粗粒)	I-B	側面磨
766	凹石	99	80	34	401	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
767	凹石	122	91	35	574	輝石安山岩(粗粒)	II-B	片面凹浅
768	凹・磨石	98	85	55	587	輝石安山岩(粗粒)	I-B	側面磨
769	凹・磨石	93	102	40	578	輝石安山岩(粗粒)	I-B	片面凹浅・側面磨
770	磨石	93	88	45	564	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
771	凹石	92	120	57	824	輝石安山岩(粗粒)	I-A	両面凹浅
772	凹・磨石	102	78	47	499	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面磨
773	凹・磨石	98	44	42	246	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面磨
774	凹・磨石	129	96	47	793	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面磨
775	凹・磨石	107	57	41	367	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面磨
776	磨石	121	94	52	818	輝石安山岩(粗粒)	I-B	

第1章 検出された遺構と遺物

番号	種別	長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	高さ(m)	石質	分類	備考
777	磨・凹・敲石	102	64	39	361	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
778	凹石	102	76	42	442	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
779	凹・敲石	112	65	35	376	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
780	凹石	120	83	44	629	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
781	凹石	111	66	47	527	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
782	凹石	90	117	69	995	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
783	凹石	70	58	40	269	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
784	凹・敲石	99	87	36	394	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
785	凹・敲石	89	72	46	406	溶結凝灰岩	II-B	両面凹・側面敲
786	凹石	94	80	41	334	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
787	磨・凹・敲石	99	82	42	460	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹・側面敲
788	敲石	108	86	67	735	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
789	凹・敲石	100	69	37	262	砂岩	II-B	両面凹・側面敲
790	凹・敲石	105	73	57	627	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
791	凹・敲石	124	77	38	404	凝灰岩?	II-B	両面凹・側面敲
792	凹石	104	65	43	335	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
793	凹石	111	85	46	514	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
794	磨・凹・敲石	106	75	41	507	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
795	凹石	143	84	34	649	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹浅
796	凹・敲石	72	78	43	343	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
797	磨・凹・敲石	98	75	44	513	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹・側面敲
798	凹・敲石	100	63	46	439	輝石安山岩(粗粒)	II-B	片面凹浅・側面敲
799	凹石	112	92	52	691	輝石安山岩(粗粒)	II-B	両面凹
800	砥石	82	81	39	269	砂岩		凹面有
801	磨・凹・敲石	92	78	46	496	石英閃緑岩	I-B	両面凹・側面敲
802	凹石	104	82	38	303	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
803	磨・凹・敲石	103	81	49	570	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	I-B	
804	凹石	84	76	58	399	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹
805	凹石	104	82	40	405	輝石安山岩(粗粒)	I-B	
806	磨・凹・敲石	123	94	52	873	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅・側面敲
807	凹石	112	86	62	593	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
808	凹石	100	78	52	568	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
809	凹石	108	80	31	394	輝石安山岩(粗粒)	I-B	両面凹浅
810	砥石	84	83	50	285	砂岩	II-B	
811	敲石	93	77	45	493	かこう岩	II-A	
812	凹石	111	80	47	402	輝石安山岩(粗粒)	II-B	
813	敲石	92	80	30	347	輝石安山岩(粗粒)	I-A	
814	砥石	57	50	13	44	砂岩		
815	砥石	49	54	7	30	砂岩		
816	砥石	88	75	15	132	砂岩		
817	磨石	41	36	30	61	輝石安山岩(粗粒)	IV	
818	磨石	41	37	31	64	輝石安山岩(粗粒)	IV	
819	磨石	30	29	24	24	輝石安山岩(粗粒)	IV	
820	砥石	61	40	18	49	変質蛇紋岩		
821	砥石	175	43	95	726	デイサイト質凝灰岩		
822	石楯	137	187	66	1,879.9	黒曜石		
823	石楯	102	53	68	614	砂岩		
824	石楯	126	187	72	1,357	黒色頁岩		

第II章 成果と問題点

第1節 統計資料・出土遺物の総量

糸井宮前遺跡の出土遺物は8万点以上あり、これらをすべて図化し提示するには、時間的、予算的に不可能である。そのため必要最低限これらを数値データとして掲載することに務めた。

近年遺物の総量把握の必要性や統計的分析については、岡本1983、佐々木1986、原田1986らにより述べられている通りである。統計的分析の考古学による応用は杉山寿栄男1928「日本原始工藝概説」による分析や、山内清男1979の「縄文の統計学的研究」など研究史を遡るれば数多くある。しかしその方法論としては、いまだ確立したものではない。

しかし、近年のコンピューターを利用した情報処理の発達や、統計学的方法の増加を考えると、今後一層出土遺物の総量把握というものが重要になってくるであろう。

今回糸井宮前遺跡の出土遺物については、「統計学とは、集団の規則性を導き出すためにその前提として統計資料を処理分析する手法を研究するものである。またそれをもとにして特定の限られた統計資料から計算されたいろいろの指標により、集団そのものの性質が導き出される。」(高木1971)という統計学的規定に基づき、そのステップとして出土遺物の分類処理を行なったが、統計学については、門外漢であり、はっきりした方法論も持ち合せていないため、資料の処理については、不手際があった事は否めない。以下出土遺物資料の分類基準や測定基準を記す。

出土土器 本遺跡からは総個体数が61,580個体の土器が出土している。この数は、土器を分類した数で、分類の不能な小破片は数量に含まず重量で表わした。接合するものは1点として数えた最大個体数である。縄文時代住居址出土遺物については、口縁部、胴部、底部に分けそれぞれ、K、D、Tで表わした。口縁と、底部については、破片の一部に口縁、底部があるものについてはそれぞれに分類し、口縁から底部にかけて接合する破片については、胴部個体数に入れた。土坑、グリッド、縄文時代以外の遺構出土土器についてはその個体数のみを記した。土器の文様別の分類は、繊維を含むものと、含まないものに分けた。土器集計表の櫛状刺突文から早期としたものが繊維を含む土器であり、それ以後のものが無繊維土器である。この中の分類では、出土数の少ない関山式、浮島式、大木式などは細かい分類を行わず、ひとつにまとめ主に有尾・黒浜式、諸磯式土器について分類したが、1章4節とは分類が若干異なっている。

これは、土器集計表作成時と観察表作成時に2年半以上の期間があり、土器観察表についてはさらに分類する必要が生じたためである。集計表の分類と、土器観察のための分類を対比させると以下の通りである。

早期後半—I群土器。関山—II群1類、4類A。櫛状刺突文—II群2類A。爪形文—II群2類B、3類A。平行沈線—II群2類C、3類B、F。平行沈線・爪形文—II群2類B、C、3類A、B、E(平行沈線、爪形文、コンパス文の併用している土器)。櫛状刺突文・爪形文—II群2類D。斜行縄文—II群4類C。羽状縄文—II群4類D。無文—II群4類E。爪形文—III群1類A。浮線文—III群1類D。平行沈線文、平行沈線無文帯—II群1類E(地文の縄文の有無によって分類)。平行沈線—III群1類E、F、G、H、4類B(平行沈線部分の破片)。平行沈線文様、平行沈線文様・縄文—III群1類F(地文の縄文の有無により分類)。横方向矢羽根状—III群1類G。縦木葉状文—III群1類H。粘土貼付文—III群1類I。粘土貼付文縄文—III群1類J。結節浮線文—III群4類A、C。円形竹管文—III群1類C。縄文—III群5類A、B(結節を持つもの)D。浮島—III群2類。大木—III群3類。斜行縄文—III群5類A。羽

住居址出土器集計表

住居址	土器種別	器種別																	
		楕圓 突文 (個)	爪 形文 (個)	平行 沈線 (個)	平行 沈線 (個)	腰 爪 形文 (個)	斜 行 縞文 (個)	羽 状 縞文 (個)	異 附 垂 斜文 (個)	無 文 (個)	閑 山 (個)	早 期 (個)	爪 形 文 (個)	浮 線 文 (個)	平行 沈線 (個)	平行 沈線 縞文 (個)	平 無 行 文 縞帶 (個)	平行 沈線 文様 (個)	平行 沈線 文様 (個)
2	K D T		2 4	5 1			2 9	1 6 1	1 3	1 13 4									
3b	K D T		1				1 1	1						2 1					
4	K D T		1 6	1 1			2 74 5	3 47 2	2 6	2 131 4			4 8				1		
6	K D T							1 1		1 3					1 4				
7	K D T	2 3	1					10						5					
8	K D T						1 6	1	1				2	1 11 1	3	1 9	1	1	
9	K D T	2							2 18	3 1	3			14 87 2	44 4	2 22	5 33 1		
11	K D T	3	1	4 11	2 1		6 106	3	1 65	3 60 5				1 28 1	4 3 1	3 7	4 17		
14	K D T	1						1	3	1				16 2					
15	K D T	2	2	1 4			1 22	15 1	1 7	1 5	1 1		1	7 137 5	1 4	8	1 14		
16	K D T	1	3	1 1			6 38	2 26	1 11 1	5			1 2	13					
17	K D T	1	5					1 7	5					15					
53	K D T	2		1 3			1 59 1	2 26	2 14 1	2 26 3			4 4	12 41 3	6 26 2	5	3 1	2 2	

第1節 統計資料・出土遺物の総量

住所	土器種別	横方向矢形根	縦木葉状文	粘土・胎付文	粘土貼付文	結節・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土製内製品	中期	その他	計	小破片(重量)g
2	K D T							1 1			13	6	2				13 58 5	
3	K D T			3									1			4	5 9 1	
4	K D T										3 45 1	2 1	4				20 325 12	
6	K D T										1 6		3				3 17 1	
7	K D T			7 3							3		5				10 29	
8	K D T		12	5 14							1 6		1 19 4				13 82 5	
9	K D T					2	2				3	6 8 2	4 84 6		1	2	35 310 15	
11	K D T		1	1		1					5 82 4	6 101 3	6 11 9				45 501 23	
14	K D T		10	2 4							6		2 14				5 55 2	
15	K D T		6 106 2	24 101	7 4						9 120		12 87 8				73 640 16	
16	K D T		2 45 1	2 31 3	1						8		2 11 2				18 196 7	
17	K D T			7 3							8		7				1 71 3	
53	K D T		6 4	1							3 20 1		8 29 3				53 261 15	

第II章 成果と問題点

住居形	土器種別	彫刻突状文	爪溝形文文	平行沈線	平行沈線	彫刻突状文	創行縷文	羽状縷文	異附糸紋文	無文	関山	早刷	爪形文	浮線文	平行沈線	平行沈線縷文	平行文比縷等	平行沈線文縷	平行沈線文縷
		(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)
63	K D T		6 33	12 49		1	27 306 10	9 147 1	19 19 1	2 12					4 1 12	1 6	4 2	2 4	
64	K D T		3 18	6 21	1 3		41 582 18	11 223 1	10 133	11 211 13					6 1				
65	K D T	1 2				2 3	1 87 1	1 6 1	1 4	1 3	1 3			4 2	3 45	13		2 3	
66 a・b	K D T	1		8 55 3	1		7 180 1	3 14		8 13 3				3 48 85			2 21 7	3 21 3	
67	K D T	3 1	10 29	6 18	2 6		26 576 8	10 168 1	2 69 1	6 172 11					1 7 7		6		
68	K D T		3 12	1 5			17 186 10	2 46 2	1 9	11 118 7			1	23 105 3	1 30	6 28	2 7 1	1	
69	K D T						1 12 1	1 7 1					1	7 15	3 7	2 5	3 3		
70	K D T						1 12 1							13 65	9 23 1	10	3 10	2 4	
72	K D T		1 21	5 11		2	17 270 6	12 129 7	2 20	4 147 10					25	1 2	9 7	1 7	
73	K D T		1 13	4 10			5 79 3		1 40 2	1 70				1 2 2	7 18	1 30	5 2		
74	K D T		5 10	1 7	1		8 59 1	3 21 1		1 25				1 5 1					
75 a・b	K D T	3	5 26	4 13			7 188 1	3 72	2 17	1 93 2				7 42 4	2 14	2 19	3 11		
77	K D T				2		4 9	1 7	1 1	3 1				6	1	2 1	4		
78 a・b	K D T	1 2	12 40	7 50 1	2		54 760 15	12 306 5	12 119 1	20 442 58			1	1 9 1	10 95 4	1 24 1	1 11 2	11 13	1 10

第1節 統計資料・出土遺物の総量

住所記	土器種別		横方向矢羽模	縦木葉状文	粘土・粘付文	粘土・粘付文	粘土・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土土製陶製品	中期	その他	計	小破片(遺失品)
	K	D																	
63				3				1				5 37 3		3 25 2				80 637 43	
64												1 13 1		5				84 1215 34	
65				4 54	6							11 1		1 43				27 277 6	
66a・b				25 347 1	25 10	6 1		1						19 104 21			2 4	149 871 46	
67				3	1							4 11		6				68 1081 22	530
68				2 8	2 72	3 6				1		1 82 2	1	9 101 9			2 12	87 830 34	
69				3 14	2 4								6 2	9				19 83 4	
70				10 12	1 2					1		7 51 1		5 31 3				52 220 6	
72				1	2							1 11		1 4				49 657 23	
73				1 16	5 13 3	2 4	3 1			9		2 90	3	6 106 10		15		48 589 18	
74												21		2 4				21 156 3	
75a・b				13	12	1	1			6 3		10 75 5	1 2	2 48 4				57 651 16	
77					4							3 3	3	1 5 2				13 46 5	
78a・b				8	5	1	1 3			10		4 121 3	2 7	11 89 4				161 2127 95	

第II章 成果と問題点

住所	土器種別	彫刻突文	爪形突文	平行沈線	爪形沈線	瘤爪形突文	斜行突文	羽状突文	異附条斜文	無文	関山	早期	爪形文	浮線文	平行沈線	平行沈線縹文	平行文縹帯	平行沈線文縹	平行沈線文縹
		(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)
79	K D T		6	5 9			8 171 3	37	4 22	1 55 12				2	5 1	2	2 6	4	
80	K D T	3	23	2 4			1 101 5		1 10	12 62 2			1 2	2	13 166 3	12 79 4	6 51 2	4 8	2 2
81	K D T		2 8				5 74 2		1 7	1 27 2					9 119 4	4 12 1	1 12 1	2 14 1	3
82 a・b	K D T	1	10	1 2			2 43 2	2 32	2 13	2 8				2 5	7 71 3	4 26 1	1 13	2	2
83	K D T	1	1	1			9	17	6	2 22 1									
84・85	K D T	1 1	1 13				4 30	2 16	3	2 32 1			1 1	1	5 108 5	41	1 17	6	2 4
86	K D T	2	5	8 6 1			7 157 2	3 43 3	2 14	64 2			10 9 1	3 8 1	6				
88	K D T		4 5	2			15 87 1	15	5 11	3 27 2				1	3 23 4	14	4	3	1
89	K D T		3 4	2			2 26 1	6	1 3	3 6				4 3	6 96 2	10 62	1 19	1 7	2 19 1
90	K D T		6 75	12 8 3			22 49 7	2 111 1	4 39	9 55 18				1	15 52 1	9 64	1 44 1	4 13	1 6
91	K D T		9 19	5 19	3		19 286 6	4 116	4 25	2 61 9					3 7 6	1 8 1	23 1	2 2	
92	K D T	1	2 7	3 13	2 1 1		18 137 2	5 83	2 29	3 31 5					6 25 1	3 25 2	7		4 7
94	K D T		2 5				3 36 1	2 18	7	16			1		2 39 5	1 21 1	1 56 8	2 3	1 3
97	K D T		11 1	1			6 88 2	1 38	6	27 7	1		1 9	6 19	16 44 1	15 83	1 17 1		6 9

第1節 統計資料・出土遺物の総量

住所	土器種別	横方向矢羽根	縦木葉状文	粘土・貼付文	粘土貼付文	結節・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土土製陶器品	中期	その他	計	小破片(遺骨)
79	K D T										1 19		1 12 1				24 348 17	
80	K D T	1 14	1 62	32 23	3 4				11 4		6 173 1	3 23	6 127 4				120 943 21	
81	K D T	1 4	10 35	13 43					3 1		3 59 5	2 25 1	13 90 2				70 553 19	
82 a・b	K D T	7	20	11 20					1 1		5 69 2		1 93 2				40 438 10	980
83	K D T																4 55 1	
84・85	K D T	2 22	6 49	9 52	3 8						5 59 3		3 114 9				47 577 18	940
86	K D T		8						1		1 11 1	1 1	1 4 1				37 338 13	580
88	K D T	4	13	5	1						68 1	2	7 9				43 290 8	700
89	K D T	2 8	1 34	3 5							3 66 2		6 61 4	1			45 395 16	560
90	K D T	8	32	7 7 1					2		15 148 12	7	4 28 4				113 747 48	1370
91	K D T	12	5 29	14 12 1					2 1		5 79 3		1 58 6				79 757 32	1820
92	K D T	4	5 16	8	1						4 81 2	2 2	7 25 5				68 495 18	
94	K D T	5	13	5 1	1				2		5 32	1 23	2 3				36 278 11	440
97	K D T	1 2	36	4 1					2 1		12 104 5	1 6	5 111 15	7			77 600 33	1210

第II章 成果と問題点

住居址	土器種別	櫛刺突文		爪繩形文		平行沈線		爪形沈線		櫛形刺突文		斜行繩文		羽状繩文		異形刺突文		無文		関山		早期		爪形文		浮線文		平行沈線		平行沈線繩文		平行文線帶		平行沈線文線		平行繩文線文		
		(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)	(個)			
98 a・b	K D T	4 8 1	18 58	5 20	5 7			43 496 10	16 232 11	6 54 2	7 117 20		1													9 61 1	10 95 1	1 43 4	8 5 5	2 16								
99 a・b・c	K D T	1	24 56 2	15 21				60 528 18	12 178 7	7 65	6 121 33		1												4	2 27 3	1 16			6								
100	K D T		2					7	7															2 6														
102	K D T		1					1 6	1 3																	2	1 4 1	2 10 2	1 1 1	1 2								
103	K D T		17 33	5 10				18 181 6	4 91	3 9	4 75 8													1		2 26 15	6 17	2 22 2	7	1 3								
104	K D T		6 21	2 7			1 1	14 165 5	7 67 3	1 24 1	2 36 6														1	1 66 9	5 71 4	3 61 10	6 10 11									
107	K D T			3 8				14 189 1	1 63 6	2 12	53 6		1											2 11	1 18 1	15 64 2	3 36	3 33	9 4	8								
109	K D T		1	2 5				3 43	1 3	1 3	8 1													2		1 4 3	3 20 3	4 22 3	1									
110 a・b	K D T		3 21	5 8 1				7 127 4	9 73 3	3 17 7	4 21														2 2	2 2												
111	K D T		34 129 1	14 17	2	2		66 807 39	37 428 23	16 159 4	10 168 15															7 21	1 4 7	4 1	1									
113	K D T		7 14	5 17				14 175 6	1 78 3	5 30 1	40 1															1 9	2 57	5 83 3	6 35	9 2	9 16							
114	K D T		9 15 1	1 3				3 47 1	1 21 1	1 4	24 1																											
115 a・b	K D T		4 13	6				8 85 3	4 43 1	3 10	16 2															1 1	5 31	3 38	4 1	3 5	1 3							
116	K D T		5 13	28 22 1				34 507 23	24 389 15	15 180	8 268 31		1		3 3																							

第1期 統計資料・出土遺物の総量

住居址	土器種別	横方向尖刃根	紙木葉状文	粘土・貼付文	粘縄土貼付文	粘縄・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土土製陶製品	中期	その他	計	小破片(重量%)
98 a・b	K D T	4	1 44 1	5 7					4 3		6 86 8	3	1 41 18	6	8		151 1415 77	3150
99 a・b・c	K D T	2	1 25	6 26					2		11 82 3	4	25 7	4		13	149 1203 73	2540
100	K D T			2							2 2		9				6 33	
102	K D T		4	1							6		2 2 4	1			11 40 10	
103	K D T	1	20	5 16	1				2		4 71 1	1	4 47 6	3		1	77 638 24	1230
104	K D T		10	2							14 86 2	1	5 82 9	2		4	84 726 39	1540
107	K D T	1 8	12 42	2 5	1 2				10 7		7 111 4		4 46 3				90 712 23	1230
109	K D T	2 6	1 61 2	15 15					6 3		4 38 2	1	8 37 15	2			52 274 26	560 160
110 a・b	K D T		3								1		5 1			1 1	35 278 16	
111	K D T			8				1			3 9		1 1 2	6	1 12	3	199 1785 84	10160
113	K D T	1 10	1 2	2				1 1	6 1		10 61 2	5	4 49 5	4		1 5	87 695 23	1700
114	K D T																14 114 4	1070
115 a・b	K D T		23	4 2					7 7		2 37 3		2 29 4	5			47 358 14	850
116	K D T													20		4 2	126 1415 70	6010

第11章 成果と問題点

住居型	土器種別	彫刻	爪	平行	平行	彫	斜	羽	異	無	関	早	爪	浮	平	平	平	平	
		突	形	沈	沈	形	行	状	形	形	山	期	形	線	行	行	行	行	行
		状	文	線	線	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文	文
		(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)	(線)
117	K D T			9 41			36 1	2 28 2	5	18			3 4	4 8 1	3 16 5		3 8 1	4 7	4 9
118	K D T		8 20 2				4 61 3	6 15 2	2 15	2 38 2					5				
121a・b	K D T		5 30	3 2			10 150 5	57	1 23	4 52 6				1 15	16 45	9 106 4	6 64 2	2 8	5 23
124	K D T		1 8				2 3			2						1 2 3			
126	K D T						10	5		5 1					7	4			
127	K D T						2 9 1	1 4		12 3						1 4	2 1		
128	K D T		13 40	2 21			21 215 4	7 78 4	3 31	5 44 13	1		4	1 6	15 138 5	16 134 1	8 83 2	12 25	5 19
129	K D T		1 11				9 186 2	3 64 1	19	3 68 12	1 4		1 20	8 1	10 55 2	5 27 5	2 12 1	6 6	2 4
131a・b	K D T			1			12	8 1	3	3 1		1		1	1 3 3	3 12 4	1 4	1 1	1 1
132a・b	K D T		6 1	1 40 4				18	17	1 19 2		5	2		12 36	6 35	1 23 2	5 5 1	9
133	K D T		2	3 1			7 33	2 26	3 9	5 1					5	1 4			
134	K D T		9 28	6 9			9 156 1	6 89 1	1 25	1 47 8					9 41	3 57	6 20 1	4 9	1 9 1
135	K D T	1	11 45	3 9			32 289 8	31 167 7	7 36 1	4 97 6					1 11	3		2	
136	K D T	4	1 12				3 26 2	12	3 4	10				1	4 12 1	1 25	11	2 4	4 4

第1節 統計資料・出土遺物の総量

住居址	土器種別	横方向矢羽根	縦本葉状文	粘土・貼付文	粘土貼付文	結節・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土土製陶製品	中	その他	計	小 罫(重 片)等
117	K D T	2	2 9	5 7 1					1		6 54 3	2	10 58 4				56 312 18	780
118	K D T																22 154 9	
121a・b	K D T		24 1	6 7		2 28			3 2	2 2	8 177 6	1 23 2	5 88 11	6			89 932 37	3320
124	K D T		1 1 1								1 2						8 16 4	20
126	K D T		16 2	1 1					1		18		16 5				1 83 8	140
127	K D T		10 1							1 3	2						7 57 5	80
128	K D T	1 6	3 76	6 19	1		2	2 1			18 242 13	6	18 172 18	4	1 2	10	158 1379 60	5414
129	K D T	5	12	3 6				4			8 103		5 41 4	6	1 4		58 661 28	3250
131a・b	K D T		3								1 14		4 14 1				12 81 6	60
132a・b	K D T	8	5 50 2	10 4				18			7 54 2		8 34 7	3			83 359 21	1140
133	K D T	2	7								2 3		7 2	1	2		18 107 3	140
134	K D T	3 13	2 88 1	11 5	2			16 13			3 78 3		14 81 4	8			105 776 20	3040
135	K D T		2	1 2					1 6		1 8 2		8	8	1		95 692 24	1060
136	K D T		1 1					1			3 15	1	28 3		1 3		32 161 6	240

第II章 成果と問題点

住居地	土器種別	標刺	爪編	平行沈	平行沈	標刺	斜行編	羽状編	與附加	無	開	早	爪	浮	平行沈	平行沈	平行沈	平行沈	平行沈	
		状文 (編)	形文 (編)	線 (編)	線 (編)	形文 (編)	形文 (編)	文 (編)	文 (編)	文 (編)	山 (編)	期 (編)	形 文	線 文	線 文	線 文	線 文	線 文	線 文	線 文
137	K D T	1	2 1	1			3 50	12		1 10 3					5 4	6				
139	K D T		2 8	2 8			9 118	1 49 2	1 10	15			1 2	7 6 1	2 23	12				4
140	K D T		5 1	3 7			4 62 4	2 38 1	7	1 7 5		1		1 4	3 3	7 34	7 36	2 4	1 1	
141	K D T	1	8	1 6			3 68 2	1 34 2	3 10	15 2		2			5 18	5 27	4 27	2 5		
142	K D T		3	4			1 27	14	6	1 9 2			1		1					
143	K D T			14 24			24 312 7	4 111 4	1 77 3	2 57 16	1									
144	K D T	1	4 11 1	2 14			5 140 9	1 45	3 5	6 39 4							1			
145	K D T						12	5		1 1							1 2			
146	K D T		1				1 3	1								3			1	
147	K D T	3	6	1 4			1 26 1	2 18 4	7	1 16 2						2				
149a・b	K D T		2 10	4 15			14 167 5	2 85 4	1 26 1	2 43 15		7			1 18	6 38	3 12	2 2	1	
150	K D T	1	5 19	8 11			24 230 3	6 64 3	2 19 1	2 39 12	1	1	5 16	1 5	4 29 1	8 53 1	2 28 2	5 16 1	4 21	
151	K D T		7 24	2 7			7 132 3	2 55 1	3 20	1 25 5				1 1	1 8	4 13	1 6	6		
152	K D T		4 11	3 20			22 194 4	9 77 3		1 39 12						1				

第1節 統計資料・出土遺物の総量

住所	土器種別	横方向矢羽根	麻木葉状文	粘土・貼付文	結縷土貼付文	結縷・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	形状縄文	無文	土製陶製品	中期	その他	計	小破片重量
137	K D T	1	1 12	2	1				1		10		1 10 2		1		17 119 5	120
139	K D T		11	1 1					1 1	3	18	5	6 34 3				33 328 6	630
140	K D T		5	1 2					5 1		3 31	2	5 16 4				50 261 15	590
141	K D T		2 6	1 4	1				2 2		5 33 1		2 37 7				37 303 16	940
142	K D T		2								3		3				4 72 2	70
143	K D T			6										5	8		45 617 30	6220
144	K D T										3 16				1		24 273 14	820
145	K D T										3						1 23 1	10
146	K D T		1 4	3 11					1		4		2		1		7 28 2	60
147	K D T										1 1						13 75 8	460
149 a・b	K D T	1	1 15 1						2		31 1	2	5 19 3	3			41 497 30	820
150	K D T		1 11						1 4		12 169 2	5	6 64 3	7			97 812 29	2260
151	K D T	2									6 81 1	4	17 4				35 401 14	580
152	K D T										1 1			3	1 5		42 378 19	820

第11章 成果と問題点

住居址	土器種別	彫刻突状文	爪編形文	平行沈線	平行沈線文	櫛爪形突文	斜行編文	羽状編文	異附加糸斜文	無文	閑山	早期	爪形文	浮線文	平行沈線	平行沈線編文	平行沈線帯	平行沈線文様	平行沈線文様文
		(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)
153	K D T		1 1				3 15	4 10		9					4 24 3	3 33	1 1	5 4	
154	K D T						8	1 1		2 2 2					3 11	1 1	2		
合計	K D T	21 58	296 1111 10	258 724 15	19 25 1	6 3	852 297	322 144	185 1668 20	185 3725 470	4 15	3 20	39 105 1	50 117 4	413 2499 127	210 1723 43	105 1052 43	141 350 4	70 250 4

土坑・その他の遺構出土土器集計表

土坑	土器種別	彫刻突状文	爪編形文	平行沈線	平行沈線文	櫛爪形突文	斜行編文	羽状編文	異附加糸斜文	無文	閑山	早期	爪形文	浮線文	平行沈線	平行沈線編文	平行沈線帯	平行沈線文様	平行沈線文様文	
		(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)	(編)
1		1	2	3			29	14	4	11										2
2									1											
6			2				6	2		2										
13																				
14				3			7	9	1											
15															4	3				3
16																				
21							4	7	1											2
33							3	1												
34							7													
35			1				16	5	5						2					3
38																				
39																				
41										11										
44			1	3			4	2	1	6										
45			1				13	5												
47																				
50					2		4	2		3	1				3					
53																				
59		1	3	2			31	11	4	27										
60			1	1			2													
61							2		3						1					
62							2													1
67							3													
69							8	3												
70			2				3	1												
71							2	1												
74																				
75							1													2
77							5													
78			6				15	12	1	10										
80			1																	
83							10	2		3										1
84							5			9										
85			6				20	14	2	1					5					1
86							1			1										

第1節 統計資料・出土遺物の総量

住居址	土器種別	横方向矢羽根	竪木葉状文	粘土・貼付文	粘土貼付文	結節・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土製陶製品	中期	その他	計	小破片(重量)
153	K D T	2 1	8								1 19		2 26 3	3			26 154 6	448
154	K D T	9	3 10								1 14 1		6 1				11 64 4	62
合計	K D T	20 217	130 1690 21	284 511 9	32 34	4 29	6	2 3	131 71 1	4 14	280 3607 120	27 269 11	275 2763 308	118	7 62	11 60	4384 38651 1658	74254

土坑	土器種別	横方向矢羽根	竪木葉状文	粘土・貼付文	粘土貼付文	結節・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土製陶製品	中期	その他	計	小破片(重量)	
																			1
1							1		1		8	1	2				79	49	
2											2						3	3	
6			11										3				26	56	
13			3	1													4	4	
14			1	3							1		4				38	37	
15			2	1	1						2						9	9	
16													3			3	6	9	
21			6														23	148	
33																	5	5	
34							1				7		2			13	33	186	
35																	27	27	
38													1				1	1	
39									13								13	13	
41																	11	11	
44																	17	17	
45												1					20	20	
47																			
50																	15	15	
53						1							9				10	10	
59				2													81	26	
60						1							1				6	6	
61																	6	6	
62																	3	3	
67																	3	3	
69																	11	11	
70																	6	6	
71											1		3				7	7	
74			1														1	1	
75			2										1				6	43	
77																	5	13	
78											1		1				46	59	
80																	1	1	
83				1							2						19	20	
84																	14	14	
85			2								11		4				66	68	
86																	2	2	

第11章 成果と問題点

土 坑	土器 種別	彫刻	爪	平行	平行	彫爪	斜行	羽	異	無	開	早	爪	浮	平行	平行	平行	平行	
		突 状文 (個)	形 文 (個)	沈 線 (個)	沈 線 (個)	形 突 文 (個)	行 文 (個)	形 文 (個)	形 文 (個)	形 文 (個)	文 (個)	山 (個)	期 (個)	形 文 (個)	線 文 (個)	沈 線 (個)	沈 線 文 (個)	沈 線 文 (個)	沈 線 文 (個)
	87		1				8	5	2	4					3		3		
	89	3	4	3			77	29	6	25				1	17	6	13	3	
	90							3							1				
	93・94						1												
	95		3																
	96		4	4			3	2		3					1				
	97	1	2				13	5		12									
	100		1				7	3		3					1				
	103			1			9	4		2									
	104							2											
	106			2			2												
	108						3	1		1									
	109			2			6								1	1			
	113			3				1							1	1			
	114								1						3				
	115		4				4	1	2	2					2				
	116		11	2	2		39	18	4	7	1		1	1		2			
	117						23										1		
	118・119		2				18	8	27	4					4		2		
	120		3				17	13		4					1	2			
	121						7	1		2									
	122		3	3	1		16	7		4			1			1			
	126	1	2				7	4		1					2	1			
	134		1					2								3			
	138																	1	
	139		1				1												
	140						2			2				1	2				
	141								1						1				
	142		2				42	6	3	9					1	1	1	1	
	143		2				4	1		2				1					
	144		3	2			51	16		5			1		2	3			
	152						3											1	
	155						6												
	156		1				9												
	159						3												
	160						4			1						1			
	161						3	3								1			
	162		3				6	1		2							1		
	163			1			5	3	3	2									
	164																		
	165							1								2			
	166						2								1				
	167		1	4			14									1			
	168			3			12	6	2	1									
	169															1			
	170		6				5	6											
	176						9	1		6									
	D区	3	177	119			634	440	219	10	2			21	36	124	97	39	60
	E区	8	202	134			2047	699	128	407	2		12	10	154	172	76	36	28
	古墳前半住居	7	198	53			590	391	183	71	2		8	4	70	81	50	17	46
	古墳後半住居	2	33	18			162	77	36	21		7	2	2	59	61	7	9	5
	平安住居	2	25	8			117	48	14	7			1	1	50	34	13	5	3
	表	2	93	49		2	1168	582	105	319	1	1	9	7	160	141	32	12	10
	探 の 他		5	1			107	8	4	9				1		1			1
	合 計	31	819	428	3	2	5469	2492	760	1032	9	8	36	49	588	653	303	124	161

第1節 統計資料・出土遺物の総量

土坑	土器種別	横方向矢羽根	縦木製状文	粘土・貼付文	粘土貼付文	結節・浮線文	円形竹管	縄文	浮島	大木	斜行縄文	羽状縄文	無文	土土製陶製品	中期	その他	計	小破片(遺器数)
	87	1	6								10		5				48	
	89		9	3							17		15			2	239	285
	90		1								2		2	1		10	1	
	93・94																1	
	95																3	
	96																17	
	97																34	50
	100										1						16	29
	103																16	
	104																2	
	106						2				9						15	
	108											1	3				9	
	109																10	
	113												11				16	
	114		1										1				6	
	115																15	11
	116	1	1							7		7					104	33
	117																24	37
	118・119												1				96	41
	120										2						42	76
	121												8				18	
	122																36	142
	126										1		1				20	16
	134										1		2				9	
	138																1	
	139										3						5	
	140		3														10	
	141																2	
	142										19		1				86	89
	143																10	
	144								2		2		2				88	
	152												2				6	
	155																6	
	156																10	
	159																3	
	160													1			7	
	161																7	
	162										15						28	
	163																14	24
	164																	
	165																3	
	166																3	
	167										2						22	
	168										23						47	40
	169										1		1				3	
	170																17	
	176																18	14
D	区	21	126	99	26	39	3		12	28	218	39	132	51	12	28	2815	70570
E	区	25	133	58	8	10	1		18	6	515		350	7	25		5271	20181
	古墳前半住居	14	71	25	6	2			1		176	24	66	7	19		2182	27850
	古墳後半住居	23	89	34	14	2			13		118	24	14	14	2		848	9890
	平安住居		12	4		2					49	6	17	2	10		430	2830
	探表	19	65	75	2	4	1	1	13	8	345	8	129	8	17		3388	20319
	その他		7								3		13				160	961
	合計	104	552	306	57	61	9	1	73	49	1567	111	811	90	12	119	16889	154322

状縄文—III群5類B。無文—III群5類C、B。中期—IV群。その他—以上の分類にあてはまらない土器。

出土土器 報告書掲載分については、その器種分類に従い数量と石材別数量を作成した。重量については石器観察表に個々に記載してある。報告書未掲載のものについては、黒曜石とチャートについては石材による数量と総重量を、他の石材についてはスクレイパー、磨製石斧の破片、石皿の破片、磨・凹・敲石、使用痕のある刮片、調整刮片、刮片、石核、礫（自然石、その他）、小礫（分類不能の小礫、チップ等）に分類し、遺構ごとに重量を測定した。小礫は重量、他は数量と重量を記載した。重量については2,000gまでは電子上皿天秤、それ以上は4K、8K、20Kの上皿秤で1目盛が5、10、20gのものである。それ以上については台秤で1目盛50gの計量器を使用した。

出土遺物数量概要 遺物数量については、集計表を作成したのみでその出土率や割合については、時間的余裕を欠き作成できなかった。そのため集計表による感覚的な判断になるが若干の傾向を述べたい。

まず繊維を含む土器（主にII群土器）であるが、文様を持つ土器が少なく縄文のみの土器数が多い。これは、この時期の土器が文様帯を口縁部を持つという型式の特徴で縄文のみの土器で胴部片の数が突出している事からも伺える。しかし、口縁部破片数を単純に比較すると、縄文のみの数が多いと言える。また斜行縄文と羽状縄文の数の差があるのは、土器片が小さいため斜行縄文に分類した土器があるためである。文様のある土器では爪形文と平行沈線文が主体をなし、刺突文は少ない。底部に文様を持つ土器が若干あるがこれは、II群土器の新段階で、胴部下半の底部近くに文様を持つ土器である。また無文土器で胴部、底部の数量が多いのは磨滅のため、文様が消失してしまっている土器の数量が含まれる。繊維を含まない土器では、浮線文、爪形文、円形竹管文が少なく、平行沈線を主体とする土器数が多いと言う事で、本遺跡の諸磯Ⅱ式土器の時代的特徴が把握できる。また地文に縄文を持つ土器も比較的多く存在するが、縄文を持たず平行沈線間に無文帯を持つ土器も多い。諸磯Ⅱ式土器ではボタン状、棒状の貼付文を持つ縄文の土器も少数確認された。その他遺構出土の特徴であるが、II群土器を主体として出土する住居址からは、ほとんどIII群土器は出土しない傾向にある。これは、II群土器とIII群土器の時間的隔たりと考える。また諸磯Ⅱ式土器を埋設土器に持つ住居址では、II群土器、III群土器が混存して出土し、土器型式の時間的幅が長い。逆に諸磯Ⅱ式土器を埋設土器に持つ住居址では、出土遺物量が少ないという傾向があり、住居址の埋設過程の違いと考えられる。

石器については、有尾・黒浜期の住居址よりも諸磯期の住居址から黒曜石が多く出土する傾向にある。石器の器種では、磨石の類が多く出土しているが、それ以外の器種については、この時期の集落で他の遺跡と比較する基準がなく不明である。石材では、黒曜石、チャートは石鏃、石匙、石錐に多く使用され、その他の石器は安山岩、頁岩系統の地元の河川で採集できる石材が多い傾向にある。

以上概要を述べたが、これらの資料は、発掘時の遺物取り上げ時のエラーや、分類、資料化の段階でのエラーなど問題点も多く残されており、今後出土遺物の総量把握や統計的処理の方法論について検討しなければならないことをつけ加えたい。

石器集計表

(報告書掲載分)

器種 住居址	石皿	台石	多孔石	凹・磨 ・敲石	磨石	製 打石	製 石	石 匙	石 鏃	石 鏃	スク イパー	調 整 片	割 片	そ の 他	計
2									1		2		6		9
3b				1		1	1				1				4
4	1			4			1				3				9
6				1											1
8				1									1		2
9				4		1	2		2				石核1		10
11					1	1	2		1	1	2				8
14						1		1							2
15	3					1	1		1	1	3		石核2		12
16						1	1					2			3
17				1	1				1			1			5
53				1			2	1	1		2	4	磨1		12
63				15		1	2	1		5	1	3			28
64				8	1			1		1		2			13
65				5								1			6
66a・b	2	3	2	28		3	4	3	1	16	2	2	石核1		67
67	3	2		12	4	1	2	1		6	1	1			33
68		3		2		3	2	1	1	3			石核3		18
69		2				1			1						4
70				6				1			3	1			11
72				9			3		1	3	1				17
73	1	1		12		1	3		1	2	2				23
74				3		2	1			2					8
75a・b		2		9		4	1			1	1				18
77	1			4		1	1			2					9
78a・b	3	1		27	2	6	7	3		6			砥石3・石櫛1		59
79		2		8	1	1							砥石1		13
80		3	1	28		9	3		2	3			砥石1		50
81			1	23		4	2		1			1			32
82a・b	2	3	1	24	1	1	1	1		6			1		41
84・85		1		12		1	2			6	4				26
86		1	1	6		2	4								14
88	1	3	1	12		1				6			砥石1		25
89				9		3	1				3		砥石1		17
90	1	2		15		6	2		1	11	1		石櫛1		40
91	4		2	19		5	1		1				砥石1		33
92	3	1	1	21		3	3	4	3	5			石櫛1		45
94			1	19		1	1		1	3					27
97		10	1	15		1	4	1	5	1			砥石1		39
98a・b	2	5	5	23	1	11	6	1	1	3	1	1	砥石1・石核3		64
99a・b・c	1			14		3	5	1		5					29
100										1					1
102				3						1					4
103	1	1		11	1	2	3			2					21
104	1	2	3	21		2	3	1	2	8					43
107		1	1	24		1	1		4	1					32
109	2	4	2	14			2		1	5	2		石核1		33
110a・b		2		5	1				7	1		1	砥石2		19
111	2	1		20			10		5				砥石1・石櫛1		40
113	1	1	1	19			2		2	6	1		砥石1		34
114				1						3					4
115a・b		2		12	1	1			3	2					21
116	2	2		35	1	1	3	1	1	8		3	砥石2 挾杖首飾	1	60

第II章 成果と問題点

器種 住居址	石皿	台石	多孔石	凹・磨 ・磨石	磨石	製 打石	製 打石	石	砥石	石	石	石	スクレ イバー	調 製	製 片	片	そ の 他	計
117		1	1	14	1	2				1			3				石核1	24
118				6									4				砥石1	11
121 a・b	2	7	3	24	1	3	1	1				1				1	礫1	45
124				8														8
126	2	3	1	5							1	1				1		14
127		1		9		1				1		3						15
128	1	5	2	40		4	5				2	4				1	砥石2・礫2	68
129	2	2		17		2	3					1					狭状耳飾1	28
131 a・b			1	1	1	1	2											5
132 a・b	1	5	1	9	3	1	5				2	2						29
133	1			5								1				2		9
134	1	1	1	15	1					1	1	5	3					29
135		2		8						3								19
136	1	2	1	8								4	1		1			12
137	1	2		4		1					1	2						11
139	1	2	1	9	1	1	1					1	3					19
140		1		9		3	3					3	4					23
141		4		11	2	2					1	8						28
142		1		1	1	1						1						3
143		2		5	1	2	2					3						15
144				3			1					5	1				砥石4	14
145				4	2							1	2					9
146		1		2							1	1						5
147		1	1	11		1												14
149 a・b		2		31	2	3	3					4	3				砥石1	49
150	2	1	1	17		1	1					5	2					30
151		1		8			3					2	2					16
152						1	6					2						9
153	1			2														3
154		2	1	3		2						2						10
土坑	2	1		32	1	5	3	1		2	7	2	2		1	砥石4・丸石1	62	
遺構外	17	28	19	134	17	62	29	13		30	37	15			5	砥石10・石楯1 石核3	420	
計	72	139	58	1020	51	185	162	42		99	275	74			42	65		2254

第1節 統計資料・出土遺物の総量

重量単位(kg)		石器集計表										(報告書未掲載分)		
住居址	器種	黒曜石	チャート	スラレイト	磨製石斧	石皿	磨石	使あ る 痕 跡 の 片	調整 剥 片	剥 片	石 核	礫	小 礫	計
	2	数量	43								9			
	重量	22								105				127
4	数量	1								13				14
	重量	2								250				252
6	数量									4				4
	重量									51				51
7	数量									1				1
	重量									30				30
8	数量	1												1
	重量	9												9
9	数量	35					2			47	3			87
	重量	66					250			1120	320			1758
11	数量	23								54	8	6		91
	重量	73								860	300	150		1383
14	数量	6								15	4	3		28
	重量	13								310	520	340		1183
15	数量	15								35		4		54
	重量	29								1090		140		1229
16	数量									16		9		25
	重量									340		610		950
17	数量	2					1			12				15
	重量	4					260			370				634
53	数量								21	17		15		53
	重量								520	4420		140		5080
63	数量	8	4	14					11	74		13		124
	重量	51	67	258					276	896		355	249	2152
64	数量			7				5		35		81		128
	重量			1300				100		190		4640		6230
65	数量	27	1	9				4	6	25		8		80
	重量	126	20	220				200	200	500		460		1720
66 a・b	数量	91		17				6	7	101		136		358
	重量	310		500				100	400	2140		54470		57920
67	数量	6		11				6	9	34		90		150
	重量	60		300				100	120	520		1920		2920
68	数量	30		11				19	102	10		95		267
	重量	130		490				390	2090	1100		8650		12820
69	数量	4								22		17		43
	重量	40								760		920		1720
70	数量	33							13	19		3		68
	重量	50							280	330		1640		2300
72	数量	5		9					6	87		30		137
	重量	20		320					210	1170		4640		6360
73	数量	60		2					10	54	6	102		240
	重量	431		20					310	820	960	20680		24181
74	数量								3	11		25		39
	重量								120	240		6020		6380
75 a・b	数量	23		6					7	40		93		169
	重量	80		130					100	450		8550		9310
77	数量	6		5					7	22		26		66
	重量	20		120					490	620		3060		4310
78 a・b	数量	15		40					23	146	5	131		360
	重量	60		1710					1060	2180	670	16330	300	22510
79	数量	1		1					3	29	2	19		55
	重量	10		160					105	720	720	3650	60	5425

第II章 成果と問題点

住居地	器種	黒曜石	チャート	スクレイパー	磨製石斧	石皿	磨石	使われる 砥削の片	調整 削片	削片	石核	礫	小礫	計
80	数量	77		17					33	103	9	101		340
	重量	228		420					1120	2400	3880	19780	240	28068
81	数量	30	6	4					3	64	3	48		158
	重量	72	30	280					100	2080	640	11630	990	15822
82 a・b	数量	63		10					8	52		29		160
	重量	190		330					130	920		5580		7150
84・85	数量	28	3	6					7	83		53		180
	重量	130	40	150					230	150		6638		7338
86	数量	12		7					5	18		49		91
	重量	50		70					240	180		3950		4490
88	数量	16	2	6					13	13		29		79
	重量	60	20	110					690	230		8820		9930
89	数量	17	4	7					14	39	2	62		145
	重量	50	40	250					650	390	310	12330		14020
90	数量	39		15					31	81		100		266
	重量	178		330					880	900		15380		17688
91	数量	4		5					13	46	1	88		157
	重量	20		80					540	570	340	10660		12210
92	数量	21		11	2	2			29	69	4	158		296
	重量	50		320	50	720			1200	910	580	16580		20390
94	数量	37		5		1			16	45	1	35		140
	重量	170		400		700			640	500	320	6080		8810
97	数量	18		5					24	43		44		134
	重量	100		120					1220	660		9430		11530
98 a・b	数量	97	2	9		2			16	94		100		320
	重量	390	40	16		1140			390	1872		23260		27108
99 a・b・c	数量	4		16		3			11	72		150		256
	重量	10		500		820			470	1260		18448		21508
100	数量	1								7		7		20
	重量	3								286		830		1119
102	数量									8				8
	重量									210				210
103	数量	11		5					15	37		76		144
	重量	164		165					604	570		11320		12823
104	数量	30	1	25					15	69	4	148		292
	重量	132	9	678					760	1305	667	31370		34921
107	数量	10	1	8					16	55		65		155
	重量	27	4	260					762	1046		13700		15799
109	数量	8		9					5	34	2	50		108
	重量	36		160					310	850	400	18360		20116
110 a・b	数量	1		11					7	25		75		119
	重量	2		278					484	464		9200		10428
111	数量	7	10	28					11	189		280		525
	重量	29	206	1045					499	3000		33470		38249
113	数量	31	4	7					22	82	2	162		310
	重量	64	52	161					863	1640	589	30580		33949
114	数量	1	2							6				9
	重量	5	35							67				167
115 a・b	数量	14	1	12					19	32		39		117
	重量	61	15	119					1205	482		3940		5822
116	数量	6	5	29		8			17	106	1	310		482
	重量	12	44	590		1091			958	1533	446	33255		37929
117	数量	9		7					22	16		36		90
	重量	66		132					667	455		2290		3610
118	数量		4						2	11		17		34
	重量		50						15	167		946		1178

第1節 統計資料・出土遺物の総量

住居址	器種	黒曜石	チャリト	スタイルバール	磨製石斧	石皿	磨石	使用される砥削の片	調整削片	削片	石核	礫	小礫	計
121 a・b	数量	29	1			11	2		31	82	5	118	—	279
	重量	139	1			904	155		1465	1668	970	23434	126	28862
124	数量								2			20		22
	重量								104			4320		4424
126	数量	7		1		2			6	10		14		40
	重量	28		80		577			285	170		5617		6757
127	数量	4	1	2						6		22		35
	重量	13	3	173						180		3020		3389
128	数量	66	6	33	4	16	2		62	73	8	174		444
	重量	269	106	834	1226	3004	545		15642	905	1226	29937		53696
129	数量	9		14				3	9	35		31		101
	重量	55		589				589	532	584		4800		7149
131 a・b	数量	6		4					1	10		8		29
	重量	33		150					30	200		2180		2593
132 a・b	数量	9	2	7		2			14	36		23		93
	重量	46	22	325		983			837	470		8960		11643
133	数量	7		1					9	14		5		36
	重量	42		28					337	316		958		1681
134	数量	59	1	13		8			36	58		79		254
	重量	308	12	424		1010			1464	790		22096		26104
135	数量	3	6	23		2			15	100		71		220
	重量	12	58	983		344			688	2420		7080		11585
136	数量	8				4			7	5				24
	重量	20				2180			170	83				2453
137	数量	8		3					8	7		12		38
	重量	48		110					858	246		262		1524
139	数量	1	1	6		5			9	21		10		53
	重量	4	4	152		2280			228	387		1884		4939
140	数量	12	2	2			3		19	43	3	75		159
	重量	84	24	114			328		777	673	1391	19825		23216
141	数量	7	1	14					27	43	2	28		122
	重量	53	9	454					902	546	752	6560		9276
142	数量									2		8		10
	重量									25		3280		3305
143	数量	1		12					12	44		71		140
	重量	1		344					477	643		8415		9880
144	数量		2	6					6	19	1	37		71
	重量		21	177					282	281	172	4158		5091
145	数量	1							5	4		6		16
	重量	10							266	30		1347		1653
146	数量	1								4				5
	重量	6								824				830
147	数量	5	2						2	8		11		28
	重量	8	27						148	221		8440		8844
149 a・b	数量	13	1	8					10	30	2	88		152
	重量	101	6	380					310	664	431	19022		20914
150	数量	7	2	9		5			17	56	8	42		146
	重量	33	18	248		1000			514	1004	1460	11300		15577
151	数量			3					12	27	1	28		71
	重量			74					595	628	601	3699		5597
152	数量		1	5					2	18		40		66
	重量		30	136					69	404		3727		4366
153	数量	1		3					6	6		10		26
	重量	2		61					354	116		1039		1572
154	数量			1					2	9		9		21
	重量			18					99	169		2380		2666

第11章 成果と問題点

土 坑	器 種	風 礫 石	チ ヤ ー ト	ス ク レ イ バ ー	磨 製 石 斧	石 皿	磨 石	使 あ る 砥 削 の 片	調 整 削 片	削 片	石 核	礫	小 礫	計
1	数									11				11
	量									256				256
4	数											1		1
	量											644		644
6	数	1		1										2
	量	2		10										12
10	数	7		1										8
	量	17		9										26
14	数		2									3		5
	量		48									1181		1229
16	数									1				1
	量									10				10
21	数			1				1	11			25		38
	量			20				42	65			1257		1384
33	数											2		2
	量											41		41
34	数	2						3	7			3		15
	量	9						104	45			178		334
35	数								2			10		12
	量								20			890		910
36	数								4			58		62
	量								74			43450		43524
38	数													
	量													
39	数	2												2
	量	4												4
47	数											1		1
	量											80		80
50	数								1					1
	量								11					11
53	数								1			8		9
	量								3			945		948
59	数								2			6		8
	量								35			281		316
60	数											1		1
	量											161		161
61	数								2					2
	量								23					23
62	数											11		11
	量											6560		6560
67	数								2					2
	量								19					19
69	数											1		1
	量											82		82
71	数	1							3					4
	量	3							58					61
74	数								1			1		2
	量								25			82		107
75	数	1							1			6		8
	量	2							10			1282		1294
77	数								1			4		5
	量								5			279		284
78	数								5			7		12
	量								63			235		298
80	数											1		1
	量											841		841

第1節 統計資料・出土遺物の総量

土 坑	器 種	黒	チ	ス	磨	石	磨	使	調	剥	石	礫	小	計
		曜	ャ	ク	製	皿	石	用	整	片	核		礫	
		石	ー	レイ	石			の	片					
81	数量									3		12		15
	重量									273		4500		4773
83	数量									3				3
	重量									105				105
84	数量									1		1		2
	重量									28		11		39
85	数量									4				4
	重量									148				148
86	数量									2		1		3
	重量									16		111		127
88	数量									5		8		13
	重量									115		2292		2407
91	数量											1		1
	重量											76		76
93・94	数量									1				1
	重量									27				27
95	数量							1		2				3
	重量							11		86				97
96	数量			2						1				3
	重量			117						25				142
97	数量								3	1	1	10		15
	重量								86	27	168	861		1142
100	数量									1		6		7
	重量									9		420		429
101	数量											3		3
	重量											1820		1820
102	数量												77	77
	重量												—	—
103	数量									4				4
	重量									54			287	341
104	数量												157	157
	重量												—	—
106	数量	1											88	89
	重量	1											—	1
107	数量		1	2		1				10			940	1604
	重量		26	239		268				131			—	14
108	数量									1				1
	重量									5				5
109	数量									1				1
	重量									15				15
112	数量		1						2	5			—	8
	重量		278						153	66			109	606
113	数量									4				4
	重量									116				116
115	数量									3			—	3
	重量									36			583	619
116	数量		2							8				10
	重量		18							118				136
117	数量					1			3				—	4
	重量					111			72				948	1131
118・119	数量									2			—	2
	重量									38			206	244
120	数量												32	—
	重量												—	—
121	数量									1				1
	重量									19				19

第11章 成果と問題点

土 坑	器 種	黒 曜 石	チ ャ ー ト	ス ク レ イ バ ー	磨 製 石 斧	石 皿	磨 石	使 み る 痕 割 の 片	調 整 割 片	割 片	石 核	礫	小 牌	計
122	数量			1						3		4		8
	数量			42						33		345		420
126	数量			1				1		5		4		11
	数量			31				19		56		566		672
129	数量						2					2		4
	数量						1863					421		2284
133	数量									1				1
	数量									13				13
134	数量								1					1
	数量								21					21
139	数量		1							2				3
	数量		6							132				138
140	数量									3		1		4
	数量									18		384		402
142	数量									1		7		8
	数量									4		1000		1004
143	数量	1								1		5		7
	数量	2								4		151		157
144	数量								2			3		5
	数量								99			1345		1444
155	数量									1		1		2
	数量									30		9		39
158	数量									2		2		4
	数量									47		2540		2587
160	数量											1		1
	数量											371		371
161	数量									3				3
	数量									36				36
162	数量									3				3
	数量									62				62
163	数量											1		1
	数量											228		228
164	数量											2		2
	数量											136		136
167	数量									2				2
	数量									55				55
168	数量									3		2		5
	数量									22		193		215
169	数量		1							1		1		3
	数量		72							10		782		844
170	数量									2				2
	数量									75				75
171	数量									1		6		7
	数量									43		622		665
176	数量									3		4		7
	数量									179		735		914
323	数量	1		3						7		3		14
	数量	4		66						255		632		957
古 墳 住 居	数量	53	21	53		11			145	577	2	1361		2223
	数量	166	389	2028		2260			5472	8333	577	348241	9984	377450
D区	数量	129	25	61					151	707	6	868		1947
	数量	407	602	1958					7808	9498	1724	16827		38824
E区	数量	124	107	81					104	354	3	250		1023
	数量	276	1423	2808					4906	5681	882	19514	399	35889
遺構外	数量	98		54	1				105	291	3	391		943
	数量	266		1799	34				5114	4078	758	66698		78747

第1節 統計資料・出土遺物の総量

土坑	器種		黒曜石	チャート	スタレイバー	磨製石斧	石皿	磨石	使用痕のある片	調整剥片	剥片	石核	小礫	計
	数量	重量												
風例木3	数量	重量									5		7	12
	数量	重量	1711	239	834	7	83	38	15	1366	5394	112	7376	2261
合計	数量	重量	6370	3847	27508	1310	20435	2157	400	71518	93284	23854	1237406	1488089

石器石材別集計表

器種	石材	輝石安山岩	輝石安山岩(粗)	黒色安山岩	灰色安山岩	角閃石安山岩	頁岩	黒色頁岩	珪質頁岩	点紋頁岩	溶結凝灰岩	溶結凝灰岩(大峰・三峰)	凝灰岩?	凝灰岩(寄附片含む)	珪質凝灰岩	玄武岩質凝灰岩	グレイサイト質岩	グレイサイト	凝灰岩質砂岩	砂岩	閃緑岩	石英閃緑岩	
		石皿	67										1	3									
石台	130										3	2											1
多孔石	57																						1
凹・磨・敲石	827	6			1		2				43	68	3		1	1	2	3	1	1	10	2	23
磨製石斧															1	1	2						2
打製石斧		7	8	2		17	147			1													
石匙		1	14		2	124	5	1							2								
石鏃			2			1	19	1															
石鏃			1				3								2								
スタレイバー		2	6	20			9	215	6								1				1		
調整剥片				12	1	3	49	1	1	1													
使用痕のある剥片				1	4		25	1															
その他		9	1	6			6				1						2		3	22			
計		1092	22	67	3	1	32	590	14	3	49	73	3	1	6	2	6	1	4	35	2	26	

器種	石材	黒曜石	チャート	輝緑岩	変質輝緑岩	変質玄武岩	変質玄武岩	蛇紋岩	変質蛇紋岩	赤色珪質岩	雲母石英片岩	緑色片岩	石英片岩	斑れい岩	玉ズイ	軽石	流紋岩	グラファイト	かこう岩	ひん岩	滑石	不明	
		石皿																					
石台																				3			
多孔石																							
凹・磨・敲石				1						1			7				1			17	2		
磨製石斧					10	6	8	1	19			1		1									1
打製石斧																							
石匙		7	6																				
石鏃		15	4																				
石鏃		59	3						1														
スタレイバー		14	1																				
調整剥片		5	1																				
使用痕のある剥片		10	1																				
その他		5						1						1	6					1		1	
計		115	16	1	10	6	8	1	20	1	1	1	7	1	1	6	1	1	21	2	1	1	

■ 本表の石材は報告書掲載石器の石材一覧表であり、同表分以外の石器については鑑定していない。

第2節 糸井宮前遺跡の黒曜石分析

鈴木正男 (立教大学)
福岡久 (日本大学)
金山喜昭 (野田市郷土博物館)
戸村健児 (立教大学原子力研究所)
関根慎二 (群馬県埋蔵文化財調査事業団)

はじめに

群馬県利根郡昭和村糸井宮前遺跡 (昭和村大字大貫原139°05' E、36°38' N、407m) から出土した縄文時代前期黒浜・有尾および諸磯 b~c 期の80点の黒曜石の産地同定と黒曜石水和層年代測定を行った。なお標本は黒浜・有尾期の住居址覆土から出土した黒曜石片をランダム法により39点、諸磯 b~c 期の住居址覆土から出土した黒曜石片を同じ方法で41点サンプリングした。産地同定は、熱中性子放射化分析によって黒曜石の化学組成を調べ、その結果を判別分析することによって行なった。これらの方法の詳細については、Suzuki (1973) および Suzuki & Tomura (1983) に記載されている。

熱中性子放射化分析について

ダイヤモンドカッターを用いて、遺跡出土黒曜石の小片を切り出した。その重量は28.1mg~154.8mg、平均約68.9mg (これは黒曜石の比重を2.5、その厚さを2mmとして1辺3.7mmの正方形になる) を化学天秤で測り、ポリ袋に封入する。これを20試料ずつに分けて標準試料 NBS/ SRM 278とともに照射キャプセルに入れ、立教大学研究所 TRIGA II 型原子炉の回転試料棚 (RSR) の位置に挿入して、出力100kWで12時間熱中性子を照射した。

約10日間冷却した後、 γ 線スペクトルを3,000秒計数して、標準試料との比較から、ウラン (U)、トリウム (Th)、スカンジウム (Sc)、鉄 (Fe)、ランタン (La) の5元素の含有量を計算した。

結果は第1表に示した。No38の試料は、熱中性子放射化分析の結果および黒曜石水和層が観察されないことから、黒曜石ではないと考えられるので、試料の実数は79点である。

DA (85) による産地同定について

関東・中部地方の黒曜石原産地3系統 (信州系S一、神津島系K一、箱根系H一) の11露頭 (和田峠 Wg、星ヶ塔 Ht、男女倉 Or、砂礫崎 Sk、長浜 Nm、恩馳島 Om、上多賀 Kg、鍛冶屋 Ky、畑宿 Hk、芦ノ湯 Ay) の、のべ138点の原産地黒曜石試料の熱中性子放射化分析によって測定された1主要元素 (鉄 Fe) と6微量元素 (サマリウム Sm)、ウラン U、トリウム Th、ハフニウム Hf、スカンジウム Sc、ランタン La) の含有量は、Suzuki & Tomura (1983) に報告されている。

Suzuki & Tomura (1983) に記載された産地同定のための判別関数 DA (83) では、Sn と Hf を除いた5元素の測定値が用いられ、また判別精度を悪化させる理由で、(S-Wg (6点) と H-Ay (4点) のデータを除いた128点のデータが用いられていた。そして、S-Wg および H-Ay は、S-Ht あるいは H-Hk と判定された試料から主観的に判定変更されていた。

今回改訂された判別関数 DA (85) では、DA (83) と同様の5元素が用いられているけれども、S-Wg

およびH-Ay 露頭試料を客観的に判定するための判別ステップが1段階増設されている。すなわち、DA (85) では、まず DA (85) -O によって S-Wg, S-Wg およびH-Ay 以外のものを、H-Ay の3群に分ける。次に DA (85) -1 によってS-Wg およびH-Ay 以外のものを、信州系、神津島系、箱根系の3系統に分ける。さらに、DA (85) -2, DA (85) -3, および DA (85) -4 によって、それぞれ信州系、神津島系、箱根系内の露頭ごとに判別される。

DA (85) の判別関数および判別境界値は以下のとおりである。

$$DA (85) -0: f = 0.2657 U - 0.4419 Th + 0.2261 Sc + 2.954 Fe + 0.008612 La - 1.109$$

$$f < -6.482 S-Wg, -6.482 < f < 10.66 DA (85) -1, 10.66 < f H-Ay.$$

$$DA (85) -1: f = 0.2344 U - 0.4354 Th + 0.3738 Sc + 1.815 Fe + 0.01481 La - 1.055$$

$$f < -1.713 DA (85) -2, -1.713 < f < 2.661 DA (85) -3, 2.661 < f DA (85) -4.$$

$$DA (85) -2: f = 0.4638 U + 0.1022 Th + 2.370 Sc - 12.62 Fe - 0.1971 La + 2.388$$

$$f < -3.444 S-Yk, -3.444 < f < 0.7347 S-Or, 0.7347 < f S-Ht.$$

$$DA (85) -3: f = 0.3068 U - 0.9168 Th + 1.817 Sc + 3.747 Fe - 0.3280 La + 2.950$$

$$f < -0.6849 K-Om, -0.6849 < f < 0.5241 K-Sk, 0.5241 < f K-Nm.$$

$$DA (85) -4: f = 1.276 U - 1.401 Th + 0.4241 Sc + 0.7852 Fe - 0.7647 La + 3.173$$

$$f < -2.073 H-Kg, -2.073 < f < 0.3541 H-Ky, 0.3541 < f H-Hk.$$

判別関数の設定に用いられた、原産地黒曜石データを用いて、DA (85) の正しく判別する割合 (正判別率) と、誤った判別 (誤判別) の起こった事例を検討することは、DA (85) による判別結果の信頼性を確かめる意味で重要なことである。DA (85) の正判別率は、DA (85) -0 では100%、DA (85) -1 では99% (128点中1点誤判別、S→K)、DA (85) -2 の信州系露頭間では97% (58点中2点誤判別、S-Or → S-Yk)、DA (85) -3 の神津島系露頭間では61% (36点中22点正判別)、DA (85) -4 の箱根系露頭間では82% (34点中6点誤判別、H-Kg → H-Ky) である。この意味は、3系統の判別はほぼ誤りがなく、信州系露頭間では、S-Ht は正しく判別されるが、S-Or が S-Yk に誤判別されることがある。神津島系露頭間では、判別はあまり成功しない。また、箱根系露頭間では、H-Hk は正しく判別されるが、H-Kg と H-Ky 間では互いに誤判別されることがあるということである。

黒曜石水和層年代測定法について

黒曜石の水和層の厚さ (THL: μm) と、経過した年代 (A: a) との間には、次の関係がある。

$$A = 1000 \cdot (\text{THL}^2 / k)$$

ここに、k は効果水和温度 (EHT) が一様と見ることのできる地域で設定され、かつ適用される水和速度 ($\mu\text{m}^2 / 1000 \text{ a}$) である。

この値については、すでに野川遺跡などを基準にして、次のように設定されている (Suzuki, 1973)。

産地・露頭	水和速度 ($\mu\text{m}^2 / 1000 \text{ a}$)
S-Wg	7.89
S-Ht, S-Or, S-YK	5.13
K	2.69
H-Kg, H-Ky	0.98
H-Hk	0.28

そして、効果水と温度が異なる地域においては、その地域の年平均気温などから推定される補正值を用いて、補正される (Suzuki, 1973)。この方法の成功した事例として、八丈島湯浜遺跡の例がある (Suzuki et al., 1984b)。

糸井宮前遺跡は、東京から緯度が約1°北に寄っている。また標高407mであるから、水と層形成に対する効果温度が異なると考えられる。この場合の効果温度の算出は次の式による (Suzuki, 1973)。

$$T_{S_1} = 48.0 - 0.91 \cdot \phi - 0.0038 \cdot H$$

ここに、 T_{S_1} は地下1mの地温、 ϕ は緯度、そしてHは標高 (m) である。これによって算出された相対水と速度 Kr は、0.79である。したがって前述の式で求められた年代Aを0.79で割ったものがこの遺跡の黒曜石水と層年代となる。

試料の調製は、黒曜石の剥離面に直交して切り出した小片、平均約10個を、エポフォームの試料枠に入れて、エポキシ系樹脂エポフィックス60ccを硬化剤と容積比8:1で混合し、ハードフィラー8gを加えた (いずれも Denmark の Struers 社製)。硬化完了後、通常の手順にしたがって、30 μ m 程度の厚さの薄片に仕上げた。これを、偏向顕微鏡を用いて、クロスニコルで観察し、写真撮影した。そして約859倍の顕微鏡写真上の水と層をスケールルーペ (X7) を用いて計測した。その結果は、第1表および第1図に示した。

糸井宮前遺跡黒曜石の時空的分析

まず、考古学的知見に基づいて分析すると、No.1~39 (No.38を除く) の38点は、縄文時代前期黒浜・有尾期に共伴し、No.40~80の41点は縄文時代前期諸磯b~c期に共伴する。このうち、No.34とNo.50は信州系和田峠産、そのほかはすべて、信州系星ヶ塔産である。また、No.42, 43, 66, 71および80の5点の試料は、人為的な剥離面の水と層が観察されなかった。

文化期	産地・露頭	点数	水と層(μ m)	年代(a B. P.)
黒浜・有尾	S-Ht	(37)	4.95 \pm 0.54	6,000 \pm 1,300
	S-Wg	(1)	5.97	5,700
諸磯b~c	S-Ht	(35)	5.08 \pm 0.60	6,400 \pm 1,500
	S-Wg	(1)	5.65	5,100

しかしながら、第1図から明らかなように、いずれの文化期のグループもその水と層厚は明らかに2峰性の分布をしている。

つぎに、実験によって得られる知見に限定して、この結果を解釈すると、No.37, 44, 59, 50, 34, 41, 62および21のデータは、離散値として計算から除かれる。

時期	産地・露頭	点数	水と層厚(μ m)	年代(a B. P.)
II	S-Ht	(51)	4.81 \pm 0.21	5,700 \pm 500
I	S-Ht	(15)	5.65 \pm 0.10	7,900 \pm 300

このように、2群として理解される。

この両者の知見をまとめて、糸井宮前遺跡の黒曜石について解釈すると、つぎのようになる。

文化期	産地・露頭	点数	水和層厚(μm)	年代(a B. P.)
諸磯 b~c	S-Ht	(20)	4.77 \pm 0.19	5,600 \pm 460
黒浜・有尾	S-Ht	(31)	4.84 \pm 0.21	5,800 \pm 500
I	S-Ht	(15)	5.65 \pm 0.10	7,900 \pm 300

このように、考古学的知見、実験による知見のいずれか一方だけでは、2群しか検出されなかったものが、両者を総合することによって3群に分けられるようになっていた。そして、第1期の黒曜石は、黒浜・有尾諸磯 b に混じり早期(常世、茅山式)が出土していることから、これらに伴伴していた可能性がある。

ところで、これまでに提起された黒曜石分析の問題の一つに、相模原市橋本遺跡において、DA (83) によって S-Or と判別される一群の水和速度の著しく速い黒曜石が認められること (Suzuki et al., 1984 a) があった。この問題と関連して、この遺跡でも、No42, 43, 66, 71 および 80 の試料では人為加工面のものではないと考えられる厚い水和層しか観察されなかった。しかし、同種の厚い水和層をもつ黒曜石は他に No 2, 13, 24, 35, 37, 45, 47, 54, 57, 58, 60, 68, 74 および 76 の 14 点の例が見られ、それらは、遺跡と関連すると考えられる通常の厚さの水和層も併せて観察された。そして、これらの試料はとくに遺跡の文化期のものに偏しては無い。このようなことから、橋本遺跡で指摘された水和速度の著しく速い黒曜石は、実は、偶発的に自然によって剥離された面に形成された水和層の問題であったのかも知れない。

まとめと今後の課題

糸井宮前遺跡の黒曜石分析の結果をまとめると次のようになる。

- 1) この遺跡は3期に分けられる。
- 2) その時期は、それぞれ7900, 5800, 5600 a B. P. である。
- 3) 提供された試料80点のうち、1点の黒曜石でないものを除いて、79点は信州系の黒曜石である。
- 4) そのうち2点は和田峠産であるが、他の77点は星ヶ塔産である。

つぎに黒曜石の産地同定に関して、これまで得られた結果から、次に述べる2つの問題が提起されていた (Suzuki et al., 1984 a, b)。

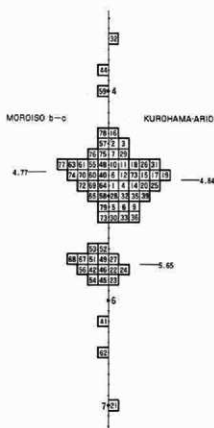
- 1) 相模原市橋本遺跡で、DA (83) によって S-Or と判別される一群の水和速度の著しく速い黒曜石が認められること (Suzuki et al., 1984 a)。
- 2) 千葉県木ノ根遺跡で、一群の産地不明の黒曜石が認められること (Suzuki et al., 1984 b)。

このうち前者については、この報告で述べたように、自然による剥離面に形成された水和層だけが観察されたケースである可能性を指摘した。また、後者については、別の報告ですでに指摘したように、DA (83) および DA (85) の設定の基礎となっているデータの拡充を図る過程で、栃木県高草原山産黒曜石であることが判明している。この事実は、高草原山産の黒曜石を判別するために、DA (85) をさらに改訂する必要があること、および高草原山産黒曜石の水和層年代産出のための新たな水和速度の検量線を設定する必要があることを示している。これらのデータを取り込んだ判別関数は、近い将来報告する予定である。

第1表 永井宮前遺跡黒曜石の産地同定および水層厚

試料 番号	U (ppm)	Th (ppm)	Sc (ppm)	Fe (%)	La (ppm)	DA(88)	伴出土器	出土住層	THL (μ m)
1	4.18	12.9	3.48	0.557	19.9	S-H t	黒浜・有尾	86	4.89
2	4.16	13.1	3.49	0.538	20.5	S-H t	黒浜・有尾	86	4.48/15.6
3	3.73	12.9	3.53	0.546	19.1	S-H t	黒浜・有尾	86	4.52
4	3.95	13.2	3.53	0.543	19.4	S-H t	黒浜・有尾	86	4.89
5	4.17	13.4	3.58	0.565	20.0	S-H t	黒浜・有尾	86	5.12
6	4.48	13.5	3.67	0.527	19.9	S-H t	黒浜・有尾	116	5.12
7	4.85	13.3	3.51	0.568	24.8	S-H t	黒浜・有尾	116	4.62
8	4.08	12.3	3.30	0.502	21.3	S-H t	黒浜・有尾	67	4.77
9	4.11	12.7	3.29	0.516	21.5	S-H t	黒浜・有尾	67	5.06
10	4.11	13.0	3.39	0.562	22.1	S-H t	黒浜・有尾	67	4.66
11	3.81	13.0	3.37	0.520	22.1	S-H t	黒浜・有尾	72	4.66
12	4.51	12.7	3.26	0.511	23.4	S-H t	黒浜・有尾	72	4.83
13	3.90	12.1	3.28	0.511	21.2	S-H t	黒浜・有尾	111	4.77/23.6
14	4.50	13.1	3.46	0.518	24.0	S-H t	黒浜・有尾	111	4.89
15	4.21	13.1	3.47	0.553	21.6	S-H t	黒浜・有尾	111	4.77
16	4.38	12.9	3.51	0.561	23.6	S-H t	黒浜・有尾	2	4.40
17	4.38	12.9	3.47	0.554	22.3	S-H t	黒浜・有尾	2	4.77
18	4.17	12.9	3.39	0.542	22.9	S-H t	黒浜・有尾	2	4.71
19	4.05	11.5	3.02	0.449	20.3	S-H t	黒浜・有尾	2	4.83
20	5.05	13.7	3.56	0.582	24.5	S-H t	黒浜・有尾	2	4.89
21	4.08	12.7	3.35	0.527	22.7	S-H t	黒浜・有尾	2	6.98
22	4.53	12.9	3.34	0.546	23.1	S-H t	黒浜・有尾	2	5.65
23	4.34	12.8	3.38	0.519	22.9	S-H t	黒浜・有尾	2	5.84
24	3.39	12.1	3.33	0.530	21.4	S-H t	黒浜・有尾	2	5.70/26.2
25	3.88	13.0	3.41	0.526	23.7	S-H t	黒浜・有尾	2	4.88
26	3.92	12.8	3.32	0.478	21.5	S-H t	黒浜・有尾	2	4.66
27	4.62	12.6	3.38	0.534	24.6	S-H t	黒浜・有尾	2	5.56
28	3.30	11.8	3.36	0.499	18.4	S-H t	黒浜・有尾	2	4.97
29	3.23	11.2	3.25	0.473	16.8	S-H t	黒浜・有尾	135	4.61
30	2.90	11.1	3.12	0.516	17.8	S-H t	黒浜・有尾	147	5.18
31	2.63	11.4	3.22	0.473	17.8	S-H t	黒浜・有尾	147	4.67
32	3.35	10.2	3.08	0.443	16.6	S-H t	黒浜・有尾	100	4.96
33	3.45	11.3	3.17	0.461	17.8	S-H t	黒浜・有尾	110	5.24
34	7.85	29.0	5.88	0.477	22.9	S-Wg	黒浜・有尾	67	5.97
35	2.96	11.1	3.12	0.497	16.7	S-H t	黒浜・有尾	86	5.00/25.0
36	2.87	11.0	3.17	0.505	17.7	S-H t	黒浜・有尾	86	5.18
37	3.55	11.5	3.39	0.492	18.3	S-H t	黒浜・有尾	135	3.45/22.2
38	0.338	0.182	0.366	0.068	0.541	—	黒浜・有尾	2	—
39	2.74	11.6	3.21	0.456	19.0	S-H t	黒浜・有尾	2	4.97
40	3.61	11.5	3.39	0.507	18.9	S-H t	諸磯 b ~ c	68	4.75
41	3.89	12.1	3.44	0.497	18.0	S-H t	諸磯 b ~ c	63	6.17
42	3.18	11.5	3.37	0.525	19.2	S-H t	諸磯 b ~ c	66	27.4
43	3.33	10.9	3.19	0.482	16.9	S-H t	諸磯 b ~ c	66	27.9
44	3.06	11.3	3.23	0.500	17.1	S-H t	諸磯 b ~ c	66	3.78
45	3.04	11.0	3.26	0.475	16.3	S-H t	諸磯 b ~ c	115	5.80/23.3
46	3.18	11.1	3.27	0.491	17.7	S-H t	諸磯 b ~ c	113	5.65
47	3.97	11.4	3.35	0.498	16.9	S-H t	諸磯 b ~ c	133	5.70/9.25
48	4.25	12.0	3.43	0.577	17.3	S-H t	諸磯 b ~ c	121	4.66
49	2.97	10.8	3.13	0.466	16.4	S-H t	諸磯 b ~ c	70	5.61
50	10.0	34.0	6.49	0.560	28.9	S-Wg	諸磯 b ~ c	141	5.65
51	3.22	11.5	3.41	0.490	18.2	S-H t	諸磯 b ~ c	11	5.60
52	3.34	11.6	3.42	0.495	17.4	S-H t	諸磯 b ~ c	81	5.53
53	4.20	11.4	3.19	0.467	19.7	S-H t	諸磯 b ~ c	80	5.49
54	4.11	11.2	3.19	0.529	17.7	S-H t	諸磯 b ~ c	80	5.80/25.0
55	3.29	11.0	3.02	0.484	18.1	S-H t	諸磯 b ~ c	81	4.69

試料番号	U (ppm)	Th (ppm)	Sc (ppm)	Fe (%)	La (ppm)	DA(δS)	伴出土器	出土土層	THL (μm)
56	4.15	11.9	3.22	0.502	19.3	S-Ht	磨礫 b ~ c	104	5.65
57	4.31	12.0	3.28	0.533	21.1	S-Ht	磨礫 b ~ c	84	4.50/25.4
58	3.81	12.3	3.14	0.522	18.5	S-Ht	磨礫 b ~ c	98	5.00/15.5
59	4.10	12.0	3.27	0.567	21.7	S-Ht	磨礫 b ~ c	98	3.96
60	4.11	12.3	3.28	0.498	18.4	S-Ht	磨礫 b ~ c	98	4.80/25.0
61	4.61	12.9	3.37	0.494	21.0	S-Ht	磨礫 b ~ c	94	4.68
62	4.32	12.8	3.49	0.525	18.2	S-Ht	磨礫 b ~ c	94	6.52
63	3.61	11.2	3.11	0.471	16.9	S-Ht	磨礫 b ~ c	78	4.66
64	4.48	12.9	3.42	0.538	19.7	S-Ht	磨礫 b ~ c	128	4.89
65	4.63	11.6	3.39	0.503	20.2	S-Ht	磨礫 b ~ c	128	4.95
66	4.03	12.9	3.32	0.501	19.5	S-Ht	磨礫 b ~ c	73	25.6
67	3.72	12.2	3.15	0.452	18.2	S-Ht	磨礫 b ~ c	92	5.59
68	3.93	12.6	3.34	0.452	20.1	S-Ht	磨礫 b ~ c	63	5.59/20.6
69	4.55	12.0	3.31	0.500	19.4	S-Ht	磨礫 b ~ c	88	4.89
70	4.45	12.1	3.23	0.525	19.0	S-Ht	磨礫 b ~ c	134	4.77
71	4.72	12.1	3.29	0.553	19.4	S-Ht	磨礫 b ~ c	132	20.7
72	4.38	12.1	3.35	0.513	19.7	S-Ht	磨礫 b ~ c	90	4.89
73	4.34	12.2	3.31	0.484	19.4	S-Ht	磨礫 b ~ c	150	5.24
74	4.70	13.4	3.60	0.640	19.5	S-Ht	磨礫 b ~ c	73	4.75/24.9
75	3.80	12.6	3.35	0.532	20.1	S-Ht	磨礫 b ~ c	9	4.56
76	4.59	12.5	3.34	0.499	19.0	S-Ht	磨礫 b ~ c	131	4.63/19.9
77	4.42	12.4	3.41	0.515	20.0	S-Ht	磨礫 b ~ c	82	4.66
78	3.98	11.5	3.26	0.468	19.3	S-Ht	磨礫 b ~ c	82	4.42
79	3.86	10.5	2.91	0.440	16.8	S-Ht	磨礫 b ~ c	132	5.01
80	3.14	12.0	3.47	0.493	20.3	S-Ht	磨礫 b ~ c	原石・コア	30.6



引用文献

- Suzuki, M., 1973: Chronology of prehistoric human activity in Kanto, Japan-Part I Framework for reconstructing human activity in obsidian. *J. Fac. Sci., Univ. Tokyo, Sec. V(Anthropology)*, Vol. IV, 241-318.
- Suzuki, M. and Tomura, K., 1983: Basic data for identifying the source of archaeological obsidian by activation analysis and discriminant analysis. *St. Paul's Review of Science*, 4, 99-110.
- Suzuki, M., Kanayama, Y., Aoki, Y., and Tomura, K., 1984a: Intrasite obsidian analysis of the Hashimoto site, Sagami-hara-shi, Kanagawa-ken, Japan. *St. Paul's Review of Science*, 4, 121-129.
- Suzuki, M., Kanayama, Y., Ono, A., Tsurumaru, T., Oda, S., and Tomura, K., 1984b: Obsidian analysis: 1974-1984. *St. Paul's Review of Science*, 4, 131-140.

第3節 有孔浅鉢の塗膜分析

見 城 敏 子 (東京国立文化財研究所)

この試料(写真-1)の表面は土器本来の茶褐色部分の素地の上に漆膜状の光沢のある褐色の膜状部分(写真-2)が所々に接着しており、この膜面上の一部および土器素地上の一部に黒色部分があり、つぼの口のところに、膜部または黒色部分の下、素地の上に赤褐色部分が所々に見られる。

すなわち、茶褐色土器素地の上に、(1)赤褐色の顔料(2)が塗布され、その上に褐色塗料(3)がぬられていたものが、時間の経過と共に劣化して、かなりの部分が剥落し、それと同時に黒色附着物が外部より附着したように思われる。

茶褐色素地(1)の部分をKBr錠剤法、赤外吸収スペクトル(以下IRスペクトルと略称)は(図-1)のように 1020cm^{-1} の珪酸塩の特有吸収と $420\sim 550\text{cm}^{-1}$ 付近の酸化鉄の特有吸収、 3400cm^{-1} 付近、 1620cm^{-1} のOH(H_2O も含む)の特有吸収を示す典型的な土壌の吸収スペクトルである。

光沢のある褐色膜状部分(3)のIRスペクトル(図-2)は、表面のみを注意して削り取ったのであるが素地成分が多量に混入するため(図-1)とほとんど同じパターンを示す。そこでこの膜状部分を蒸留水で洗ったところ、この部分は一部水に溶ける性質がわかった。この水溶液を蒸発乾燥して得た物をKBr錠剤法でIRスペクトルをとると、(図-3)のようになる。

この膜状部分は、土器資料を入手した当初は漆膜ではないかと考えていたが、漆膜であれば劣化しても、水には不溶でなければならないので、水溶性であるという点で、この膜は漆膜でないことは明らかである。

では、漆膜に似ていて、水溶性で乾燥後、塗膜になるものには、古くから用いられている柿渋がある。

そこで、柿渋のIRスペクトル(図-4)を(図-3)に比べると、 2960cm^{-1} 付近の $>\text{CH}_2-\text{CH}_2$ の吸収が柿渋(図-4)では試料(図-3)に比べて著しく大きいこと、 1474cm^{-1} のCH逆対称変角振動が(図-4)では著しく大きいこと、 $720, 735\text{cm}^{-1}$ の $-(\text{CH}_2)_n-$ の骨格振動が(図-4)で著しく大きいことおよび $1000\sim 1100\text{cm}^{-1}$ の吸収の形が(図-3)と(図-4)では著しく異なることから、この膜状部分(3)は柿渋ではない。

一方、木材の中でケヤキは水抽出成分が多く、この水抽出成分は乾燥すると褐色の塗膜となり、耐日光堅牢性がある。

ケヤキの水抽出物のIRスペクトル(図-5)をとると、(図-3)は(図-5)と非常によく似ている。従って、今回の土器試料の膜状部分(3)はケヤキのような水抽出物を塗布したのではないかと推定される。

なお、赤褐色部分(2)は色からみて、榿柄と思われるが、この部分は素地と密に接着しているため、IRスペクトルは(図-1)とほとんど変わらないので、同定は出来なかった。

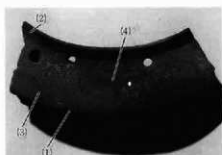


写真-1 試料



写真-2 褐色の膜状部分の
顕微鏡写真 (×25)

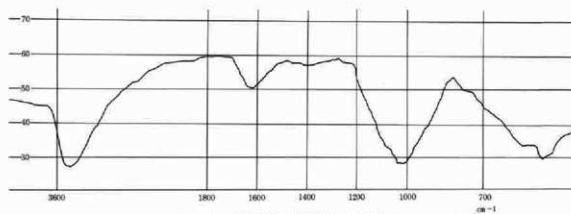


図-1 土器素地の赤外吸収スペクトル

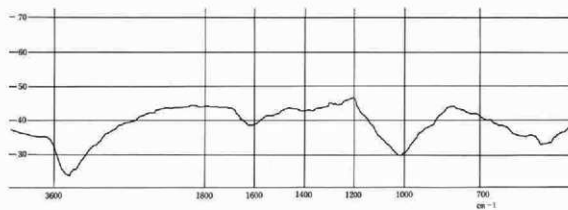


図-2 褐色膜状部分の表面を削りとした試料の赤外吸収スペクトル

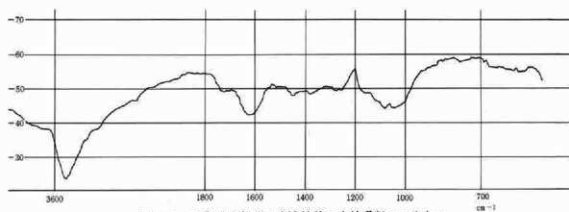


図-3 褐色膜状部分の水溶性物の赤外吸収スペクトル

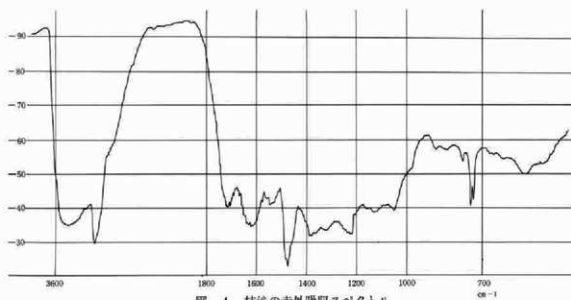


図-4 残渣の赤外吸収スペクトル

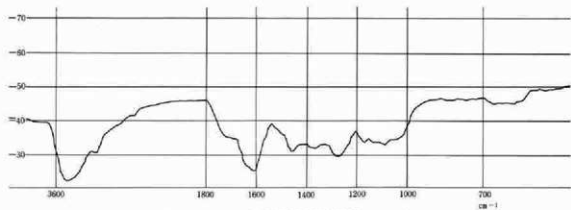


図-5 ケヤキ水溶性抽出物赤外吸収スペクトル

第4節 縄文時代の出土土器について

(1) II群土器について

本遺跡における第II群土器は、縄文時代前期中葉の繊維含有の土器をまとめた一群であり、この中には多くの型式に含められる内容の土器が包括されている。これら第II群土器の中にあつて、関山式・榎房式に比定される土器は全体からするとごく少量にとどまり、主体をなす土器は有尾式ないしは黒浜式の両型式の範疇に含められるものである。

従来関東地方では、これらの土器について「黒浜式土器」と一括して報文されてきたが、近年文様が菱形構成をなす一群を「有尾系土器」と称し、所謂「黒浜式土器」とは別種なものとして扱うことが多くなってきた。群馬県においても、秋池(1965)、秋池・新井(1983)によって神之木式土器・有尾式土器の存在が明らかにされ今日に至ってきたが、有尾式土器・黒浜式土器の両者が併存する中で「有尾系土器」と称される土器も多い。こうした中で近年の開発に伴う資料の増加は著しく、研究者の間でもその扱いは様々で、現状ではこれらの土器群をどのように扱うかが最大の問題として掲げることができるし、その解決が急務といえよう。

本遺跡での第II群土器と同様の土器を出土する県内の遺跡には、代表的なものとして月夜野町三後沢遺跡、沼田市薄根中学校遺跡、昭和村中棚遺跡、赤城村見立溜井遺跡、北横村分郷八崎遺跡等の遺跡をあげることができる。この中でも中棚遺跡、見立溜井遺跡、分郷八崎遺跡については、現在のところ報告書が刊行され、その土器についての考察が加えられている。本遺跡より出土した第II群土器を考えるにあたり、報告のなされた遺跡の報文内容を検討し、比較することにした。

まず赤城村見立溜井遺跡出土土器についてである。

報文によると鳥羽は、第7群土器を1類～7類に分類し、1類土器を有尾式土器に特徴的な文様構成法を有する土器群、2類～4類土器を関東地方東部で成立・展開していく土器群(黒浜式に比定)と大別している。この中で神之木式土器・有尾式土器の理解として、神之木式土器の櫛歯状連続刺突文の施文について「清水ノ上II式土器の貝殻刺突法が、櫛歯状工具による刺突法に置換されたものであると考えられる。」という見解を示した上で、この文様が「有尾式土器および見立遺跡第7群1類にも継承されていく。」とした。この神之木式土器の櫛歯状連続刺突から有尾式土器の連点状刺突へという文様の変遷は、これまで多くの研究者が認めてきた部分であるし、筆者もそのように考えてきた。しかし、櫛歯状連続刺突が鳥羽のいう清水ノ上II式の貝殻刺突からの工具置換とする考えについては、いささか疑問を感じる。神之木式土器の櫛歯状工具による連続刺突という施文が、どのような文様効果を示し、何を意味しているものなのかということである。つまり神之木式での連続刺突とは、ただ単に「刺す」というだけではなく、刺突すると同時にすこし横に櫛歯をずらしてひくという施文方法をとっている点である。これについては、すでに戸田・大矢(1979)によって神之木式土器の定義を行なう中で、その文様特徴として論じられていることでもある。

また同著によると、この第7群1類土器を文様要素・文様帯構成については有尾式土器に類似、土器製作技法上については関東の繊維土器の伝統下にあるものとし、その成立を関山I式土器にさかのぼらせ、図1のような図式をもとに関東北西部及び中部地方における系統差が変遷の遠いと説き関山I式→関山II式→見立遺跡第7群1類という変遷を示した。さらには、この第7群1類土器をもって「見立式土器」なる型式の設定を提唱している。筆者も以前には、この種の土器の新型式設定を考えたことがあったが、その内容とは

かなり異なっている。この「見立式土器」を要約するならば、神之木式土器の文様等を色濃く継承する次型式土器は、中部地方で無織維土器の有尾式土器として成立し、北関東では織維土器の見立式として成立したものとなる。つまり、鳥羽のいう有尾式土器と見立式土器との分離の最大のポイントは、土器の胎土における織維含有の有無にある。有尾式土器の織維含有の有無の問題については、かねてより多くの研究者間で論議されてきた問題であるが、近年の資料増加に伴い神之木式土器・有尾式土器の中にも織維を含む土器の出土例も増し、これらの土器を有尾式から分離するには否定する研究者が多くなってきているのが現状であろう。もう少し視点を変えてみると、鳥羽のいう「見立式土器」と、かつて提唱された「市田式土器」(森嶋・笹沢^(註1) 1966、森嶋・福島 1978)との関係について、どのような理解をしているのか多くの疑問が残る。当然、「黒浜式土器」との関係についても同様である。

さらに指摘するならば、この第7群1類に包括された土器の中には、明らかに神之木式土器に含めることのできる土器も包括されており、「見立式」の設定以前に、神之木式土器・有尾式土器の両型式内容の吟味が今一度必要なのではないかと思われる。

筆者は、この見立瀬井遺跡出土の第7群土器を見るかぎり、有尾式だけではなく神之木式についても、その型式細分が可能と考えている。

次に昭和村中棚遺跡出土土器についてである。

報文によると富沢は、7群土器を神之木式から有尾式への移行段階の土器としてとらえ、8群土器の古い段階(8群土器I段階)に近接ないしは併行する土器として位置づけている。8群土器については、黒浜式土器に比定させ、器形及び文様等を細かく分類し、5段階6期区分という土器変遷を呈示した。その変遷を要約すると、

I段階 7群土器の影響を残し、7群土器と併行する可能性をもつ段階

- ・波状口縁で小突起をもつ
- ・平行沈線による菱形文・渦巻文・鋸歯文及び縦位の平行沈線
- ・爪形文
- ・櫛歯状工具による糸線での菱形文

II-1段階 I段階あるいは6群土器(関山式)の影響を残し、器形・文様等が多様化するとともに、地文のみの土器が多い段階

- | | | |
|---|---|--|
| 古 | [| ・波状口縁で小突起をもつ |
| | | ・斜行縄文による口縁部文様帯をもつ |
| 新 | [| ・爪形による菱形文 |
| | | ・波状口縁で小突起をもたない |
| | | ・やや退化した爪形による菱形文 |
| | | ・平行沈線・「X」印状平行沈線・波状文・押し引き沈線 |
| | | ・隆帯による渦巻き・垂線 |
| | | ・ループ文による文様帯をもつ |
| | | ・縄文原体は、単節羽状縄文が最も多く、無節羽状縄文・単節斜縄文・単軸絡糸体を使用 |

II-2段階 III段階への過渡的な段階 (大木2a式土器が併行)

- ・縦位の平行沈線
- ・支点をずらせるコンパス文

- ・櫛歯状工具による連続刺突及び沈線
- III段階 器形・文様等に大きく変化を生じる段階
- ・コンパス文の多用化
 - ・相互刺突の爪形文
 - ・やや大きめの底部から直線的に立ち上がり、頸部から口縁部にかけて外反し、口辺が内反する器形を呈する。
- IV段階 コンパス文が用いられなくなり、爪形文主流の段階（9群の無織維土器が供伴）
- ・爪形文……横位・縦位・斜位
- V段階 地文の消失、爪形文から平行沈線に移行する段階
- ・爪形文
 - ・平行沈線（縦分割、左・右傾の沈線）

となる。これは先に論じられた新井（1977・1979・1981・1982・1983）の一連の黒浜式土器細分に関する内容と、ほぼ同様のものである。むしろ新井の細分を機軸としたものといえよう。

この富沢の細分では、「有尾系土器」とされる口縁部に半載竹管具の爪形文による菱形文を描く土器を、黒浜式の中に含めて考えているようであるが、これら菱形文はもともと神之木式→有尾式という文様変遷・系統の上に成り立つものであり、黒浜式土器が本来この文様を持ち合せているものではない。また仮にこの種の土器を黒浜式土器に含めた場合、その内容はかなり複雑なものになるとともに、有尾式土器との相違点にも問題が生じてくることになる。つまりこの種の土器については、黒浜式土器から分離し、所謂「有尾式」のバリエーションの一つとして扱うことが妥当と考えられる。もちろん有尾式土器の細分については、十分その必要性を感じている。さらにこの半載竹管具による爪形文については、戸田・大矢（1979）の論文の中で指摘していることを忘れてはならない^(注3)。

つづいて北橋村分郷八崎遺跡出土土器についてである。

この遺跡では、関山Ⅱ式の比較的新しい段階から黒浜式・有尾式までの間の土器が主体をなしている点で、他遺跡との様相が若干異なり興味深い資料である。

報文によると、出土した関山式土器をⅢ群土器に、黒浜式土器・有尾系土器をⅣ群土器とし、器形・文様等からⅢ群土器を関山Ⅰ式・関山Ⅱ式に、Ⅳ群土器を古・中・新の3段階に細分している。特にⅣ群土器の3細分については、

- 古段階 ○爪形刺突文・平行沈線文・列点刺突文が盛行し、菱形を構成。
- 縄文原体は、単節・無節・0段多条・前々段反燃・附加条が用いられ、羽状縄文により菱形を構成するものが多い。
- 中段階 ○細い竹管文の使用、及び菱形構成のくずれるもの。集合平行沈線をもつもの。
- 縄文原体は、単節が多く、次いで無節・附加条となり、前々段反燃はかなり減少する。また、羽状をなすが菱構成は減少する。
- 新段階 ○肋骨文の祖型となる平行沈線文が出現。
- 縄文原体は、単節が主流をなし、附加条はかなり減少する。羽状をなすが菱構成はかなり減少する。

としている。この3細分は、口縁部の文様だけでなく、施文縄文の原体についても細かな分析を行ない、その特徴が良く出ているようである。特に、前々段反燃の原体を使用している点については、有尾式土器を考

える上で重要なことであり、筆者も以前より前々段反撻及び附加条の原体に有尾式土器と黒浜式土器との差等を考える中で注意してきたものである。

以上これまでに報告された3遺跡の報文から有尾式土器・黒浜式土器に対する各報文内容を検討してきたが、この「有尾式土器」と称される一群の土器に安易に新形式を提唱したり、また黒浜式土器に含めてしまうという状況がうかがえた。もう一つには、各報者とも土器の分類についてかなり細かく分類する傾向にあるものの、そのくり方に難点があるように感ずる。たしかに「有尾式土器」が「黒浜式土器」に併行する土器であることは、否定できないと思うが、各型式の内容に対する十分な理解の上で、この「有尾式土器」を考えなければならないと感じざるを得ない。

さて、本遺跡より出土した第2群土器についてであるが、第2群を4分類し1類を関山式に、2類を有尾式に、3類を黒浜式・植房式に比定されるものとした。

2類の有尾式に比定されるものには、所謂「有尾式土器」とされる一群をも含めたもので、見立溜井遺跡第7群1・5～7類、中棚遺跡第7群・第8群II段階、分郷八崎遺跡第IV群に包括された土器群と、その器形・文様等は同様の内容をもつものである。隣接する中棚遺跡と比較してみると、中棚遺跡では櫛歯状工具で施文される土器（中棚遺跡第7群）が微量で、半截竹管具施文による爪形文・並行沈線文土器が多いのに対し、本遺跡では櫛歯状工具施文の土器が多く、半截竹管具施文の土器がやや少ない傾向にあり、遺跡間の差がみられるようである。このことは、これらの土器の間に時間的差が起因していることも十分考えられる。

3類の黒浜式に比定されるものには、見立溜井遺跡第7群2～4類、中棚遺跡第8群II～IV段階、分郷八崎遺跡第IV群と、その内容を同様にしたものであり、本遺跡でのこの類の土器には、中棚遺跡第8群IV段階として示されている土器が、かなり多く出土している。

2類土器についてもう少しふれてみると、この類の文様の特徴としては、口縁部直下ないし口縁部に、

- 1) 櫛歯状工具による縦位・横位の刺突（連点状刺突）、菱形・三角形・渦巻、及び同工具による菱形・三角形・渦巻の条線
- 2) 半截竹管具による並行・菱形・三角形の爪形刺突
- 3) 半截竹管具による並行・菱形・三角形の並行沈線
- 4) 斜行縄文

器面に施される縄文原体に、

- 1) 単節の縄文（撻りがきつく、一見0段多条に似たものも多く含む）及び0段多条
- 2) 無節の縄文
- 3) 前々段反撻
- 4) 附加条（第1種）

以上のことが、その主なものとして上げることができ、口縁部に施文される文様は1～4の組み合わせによるものも多くみられる。縄文原体についても同様で、1～4の組み合わせ、さらにはこれらの原体による形の整った菱形を構成する羽状縄文を施すものが主体をなしている。特に前々段反撻については先にも述べたように、所謂「黒浜式」の中にはみられない原体の一つであり、明確にその区分ができよう。また附加条についても「黒浜式」に存在する原体ではあるが、他との組み合わせによることで区分の可能性があると考えられる原体の一つである。

これらの特徴をもとに他遺跡の土器とを考え合せると、この有尾式土器は少なくとも2細分（3細分の可

能性がある)することができ、その編年についても神之木式土器のあり方(細分を意味する)を考慮すると、有尾式の古い部分は、これまで言われてきた土器様相とはやや異なるようである。植房式(西村 1957)に施文される施文工具の問題についても、今後有尾式土器と植房式土器との関係に注意すべき点がある。

現在筆者は、この有尾式土器に関する細分及び編年について準備しているが、紙に執筆中でもあるため、その詳細については紙上を改めることとしたい。(谷藤)

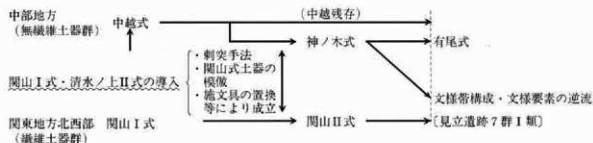


図1

注

- 1) 織織の有無については、『信濃考古総覧下巻』による無織推土器と織推土器の区分に誤りを発し、「市田式」の型式提唱を含め今日に至っている。この問題は織織の有無にかわり、その影響を東日本系土器と西日本系土器との関係にも発展しているようでもある。近年では、長野県下においてもこの種の織織を含有する土器の出土例の報告が多く、戸田・大矢の論文「神之木式・有尾式土器の研究(前)」を船めとして、『阿久遺跡』、『よせの台遺跡』等々にみられるように、この種の土器を有尾式に含める考えが提示されている。
- 2) 「市田式」とは、市田遺跡・下吹上遺跡から出土したこの種と同様の土器に対して提唱された型式で、東まわり黒浜期並行のものとする一群である。また、下吹上5号住居址出土土器群を黒浜式並行の古い段階と示している。
- 3) この半截竹管による爪形文の土器について戸田・大矢は、神之木式にはみられない特徴で、文様系統においては神之木式からの変化によるものとし、『爪形文の出自については、関東関山式から黒浜式の変化に注意しなければならない。また神之木式に並行する清水ノ上II式の存在と、飛騨、伊那方面にみられる清水ノ上II式の影響を受けた新型式の存在を重視する必要がある。』としている。
- 4) 少なくとも群馬県内のみみられるこの種の有尾式に施文される縄文原形をみるならば、単純(0段多糸も含む)及び附加による差形を構成する羽状縄文がかなり多くみられる。この羽状縄文を細かく観察すると、節と節がクロスする前々段反摺を使用したものが目につき、前々段反摺で附加糸となるものもある。さらには、0段多糸の前々段反摺を用いた附加糸+αの原形も、三後遺跡・中横遺跡等みられる。また、戸田・大矢が指摘したI段の縄RとLとを捻り合せ、一方が完全にもどらぬ反の状態にするものも三後遺跡にみられ、今後注意を要する原形の一つである。

(2) II群・III群土器の変遷

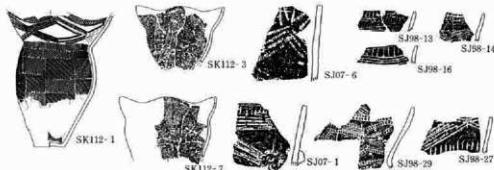



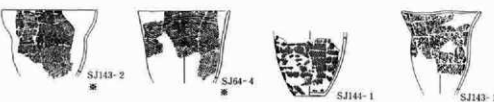
本遺跡では、遺構・遺物ともに主体をしめるのは、前期前半と後半の時期のII群・III群土器である。II群土器は関山、有尾・黒浜式土器であり、III群は諸磯、浮島、大木式土器に比定した。これらの中でも特に有尾・黒浜式、諸磯b、c式については出土量も多く、数段階の変遷が考えられる事から、これらの土器についてその位置づけを行ないたい。なお、本遺跡では、黒浜式土器に続く諸磯a式、b式の前段階が極微量の出土であるために、有尾・黒浜式と、諸磯b、c式と別個に変遷表を作成し、論述したい。

有尾・黒浜I段階(第1図、図の左を有尾系、右を黒浜系土器とした。)


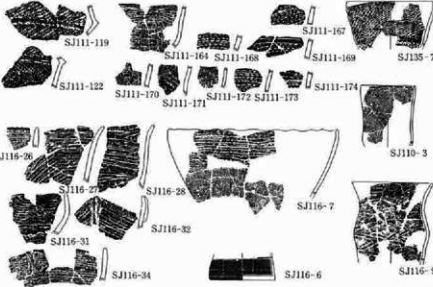
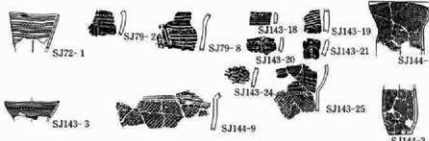

I段階に位置づけられる遺構としては、85、112、274号土坑、67、78、99、110、111、116、135、142、152号がある。この段階では、有尾式と黒浜式が混在している。有尾式は、櫛状の原形による刺突、半截竹管による爪形文、平行沈線文などにより、口縁部文様帯に菱形、三角形などの文様構成を持つ。黒浜式土器は、鋤状に隆帯を持つもの、貝殻縦線、単沈線による施文、竹管による刺突文、平行沈線、撫永文、ループ文があり、これらの土器が有尾式に伴って出土している。これをさらに細分するならば、有尾式土器で、櫛状

第 1 図 II 群 土 器

有 尾 式 土 器

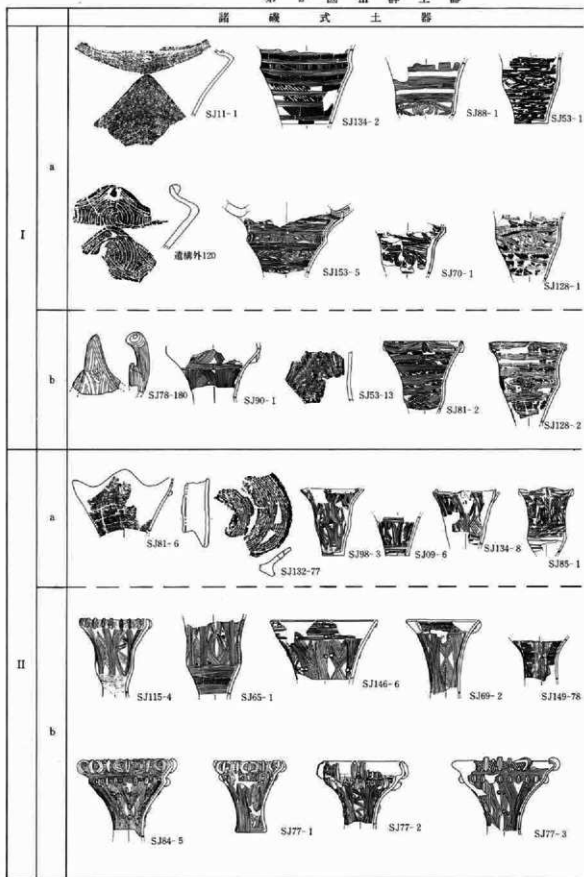
a	
	
I	
	
II	
	<p>※これらの土器については有尾式、黒浜式の分類は、はっきりしない</p>
b	

変遷図

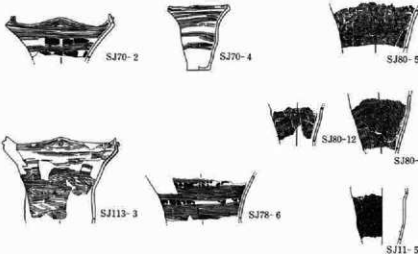


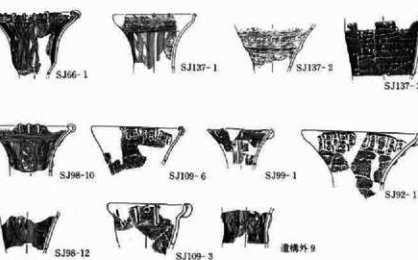
黒 浜 式 土 器	主 な 遺 構
	SJ07 SJ98(SK274) SJ116 SK112
	SJ67 SJ78 SJ110 SJ111 SJ116 SJ135 SJ142 SJ152 SK85 SK88
	SJ64 SJ72 SJ79 SJ143 SJ144
	SJ100 SJ118 SJ152

第 2 図 III 群 土 器

諸 磯 式 土 器



安 遷 図

諸 様 式 土 器	主 な 遺 構
 <p>SJ70-2 SJ70-4 SJ80-5</p> <p>SJ80-12 SJ80-11</p> <p>SJ113-3 SJ78-6</p> <p>SJ11-5</p>	<p>SJ09 SJ109 SJ11 SJ113 SJ53 SJ117 SJ66a SJ124 SJ68 SJ128 SJ70 SJ129 SJ73 SJ131a SJ78b SJ132a SJ80 SJ133 SJ82 SJ134 SJ88 SJ139 SJ97 SJ140 SJ98b SJ141 SJ102 SJ149a SJ104 SJ150 SJ151 SJ153</p>
 <p>SJ81-1 SJ81-3 SJ107-5</p> <p>SJ07-1</p>	<p>SJ81 SJ90 SJ107 SK284</p>
 <p>SJ103-2 SJ107-4 SK 6-17 SJ115-1</p> <p>SJ103-1 SJ94-1</p>	<p>SJ85 SJ99c SJ103 SJ115 SK 6 SJ94(SK269)</p>
 <p>SJ66-1 SJ137-1 SJ137-2 SJ137-3</p> <p>SJ98-10 SJ109-6 SJ99-1 SJ92-1</p> <p>SJ98-12 SJ109-3 遺構外 9</p>	<p>SJ15 SJ65 SJ66b SJ69 SJ77 SJ84 SJ92 SJ98a SJ137 SJ146 SJ149b SK88</p>

の原体による刺突文と同一原体による条線などが施文される土器と、黒浜式土器の古段階と言われる鈎状に隆帯が巡るものなどが併存している事から分離される。また116号住居址—2は口縁部文様は関山式に近いが胴部の縄文は有尾式のものである。

I 段階の後半では、黒浜式土器は、貝殻文、単沈線の格子目文、竹管による刺突文、平行沈線文が横位に施文されるコンパス文の土器が、有尾式に伴って出土している。有尾式土器は前半に比べ口縁部に櫛状の原体による刺突がなくなり、菱形の文様がくずれたものや三角形に近い文様構成をする。

II 段階

本段階の遺構は、64、72、79、143、144住居址等である。これらの遺構からは、コンパス文、平行沈線文、爪形文の土器、平口縁で斜行縄文が施文される土器が多く出土している。本段階では、いわゆる有尾式土器が出土せず、黒浜式土器が主体を示めるが、縄文の施文では有尾式の影響と思われる土器がある。

III 段階

本段階の遺構は、100、114、118住居址である爪形文が主体になり、横位の爪形文による区画内を縦位、斜位に爪形文を施文する。本段階ではコンパス文はみられない。

諸磯 I 段階 (第2図) 諸磯 b 段階

本段階は、I a 段階は口縁が波状になり、くつ先状を呈し、文様帯を持つものと、それが省略され、弧線とボタン状の貼付が施される両者が混存する段階。I b 段階は口縁部の屈曲が省略され、ボタン状貼付文の部分かわずかに内湾する土器で、胴部の文様も渦巻状のものが省略化され横位の矢羽根状の施文をされる土器。口縁が大きい波状を呈し、くつ先状のものが把手に発達してくる。把手の部分には、II 段階の文様である縦位の木葉状の弧線が施文される。90号住居址—1は口縁波状部と、胴部に同じ文様が施文された土器である。沈線も集合化され密に施文される。この段階では文様、器形の省略化される土器、それとは逆に文様、器形とも複雑になる土器の両極性を示す。

II 段階 (第2図) 諸磯 c 段階

本段階も2段階に分けられる。II a 段階は、口縁部が波状を呈するものと、平口縁のものがある。把状のものは、把手の付くものがあり、これは、前段階のくつ先状の口縁から発展したものと考えられる。また平口縁のものについても、口縁に4単位のボタン状、棒状の貼付文を持つ。この段階では、器形は、I 段階の影響下にあると言える。胴部文様は、I b 段階の把手や波状部に施文されていた縦位の木葉状弧線が、口縁部と底部の横位に文様帯を区画する沈線間に施文される。また、木葉状弧線を縦に分割する沈線もあまり発達していない。

II b 段階は、波状口縁がなくなり、口縁部4単位の規制がなくなり、新たに口縁部に文様帯がつくられ、矢羽根状の文様等が施文される。またボタン状、棒状の貼付文も胴部の文様単位とは無関係に施文される。胴部文様帯は、木葉状弧線を分割する縦位の沈線が発達し、縦位の沈線間に矢羽根状の文様が施文される。

以上II群、III群土器の変遷について概略を記した。なお、II群土器については栗澤園とともに、谷藤氏に助言をいただいた。

(関根)

補遺 弥生時代以降遺物

中期弥生土器 (1~20) の一群である。1は遠賀川式土器の系譜を引く壺形土器である。赤褐色を呈する横に張った土器で寛ミガキが丁寧に施され7条の沈線が確認できる。肩部と頸部に多条の寛描沈線文で埋める畿内第一様式の新段階後半の土器に対比される。2~10は肩部の張りの弱い長胴の壺で、4~10は同一個体であろう。頸部無文帯をはさみ反気味の短い口縁部を持ち、胴部は条痕を施す。2、3は沈線とともに工字文を意匠とした1対の口縁部突起が残る。4~10は左上から右下にかけて荒い条痕が胴部全面に施文される。4の破損部分に補修孔が穿たれる。11~14は肩部の張らない長壺で、頸部無文帯をはさみ口縁部と頸部の境に1条、胴部と頸部との境に2条の沈線をめぐらせて区画する。口縁部と胴部の地文には単筋LRの縄文を埋める。15、16は口唇部内外に1条の沈線をめぐらせる。よりもどし無筋R縄文を地文とした胴部の張らない壺である。17は太い寛描による変形工字文の胴部で内面は黒色で寛ケンマを施す。18は太い寛描による平行線の下に三角連繋文を充填する壺の胴部である。19は無文の粗製壺形土器で口唇部直下内面に1条の太い沈線をめぐらせる。20は平底の浅鉢と考えられるもので、頸部無文帯をはさみ口縁部には2条の沈線、胴部には多条の平行線を基調に変形工字文を描く。

後期弥生土器 (21~43) の一群である。21~33は基本的には単筋RLの縄文を地文とする赤井戸系の土器である。縄文地文のなかには23の絡状体L縄文や32の附加条1種RL+L縄文などもみられる。器種には全面縄文を地文とした肩の張らない壺の一群(21、26、27)や、折り返し口縁(24)、乃至は沈線で口唇を区画し口縁に縄文を施し頸部を無文とした小型の壺形土器(25)がある。また、22のように口唇端部を直線的にまとめた杯と考えられるもの、その他に口縁直立で口唇を入れる器種の不明な土器もある。34~43は楕円状文と扇状文の組み合わせを基本とした樽式系の一群である。直口縁で頸部の長い壺(44)や、頸部の短い壺(38)の破片が器形を推定できる僅少資料である。施文順序はいずれも頸部に右廻りで1条横走する扇状文を先づ施文し、次に上下の波状文を入れる。波状文も波長の長いもの、波高の高いものなど多様である。

古墳時代の土器 (45~60) の一群である。45~47は壺形土器、48~50は高杯壺、51は鉄鉢形小型精製土器、52~55はS字状口縁壺形土器、56は大型壺、57~60は小型手捏土器の一群である。45の斜行棒状浮文の壺は東海東部の系譜を引くものである。また、52、55のS字状口縁壺形土器はその技法を古中野の三段階に分けたなら中段階、すなわち胴部上半に横走する楕円状文の消失した直後に位置付けられる。

平安時代の土器 (61~74) の一群である。63、64、68、69、70の杯は白色の軽石を混入した軟質の胎土と、色調、成形、調整技法などが共通している。73の杯は一般的には白塗の椀と呼ばれるもので腰部から胴部にかけて強い張りをもつものである。口縁部は軽く外反し体部外面の上半にクロコ目痕を残し、下半に回転楕円ケズリ整形痕が顕著に認められる。高台外面に強く丸い張りをもつ。回転方向は成形、整形とも右回転である。底部内面には重ね焼きのため施釉はみられず、口縁部から胴部にかけて薄い灰釉が施されている。美濃窯では虎渡山一に対応しよう。74は羽釜の底部の抜けた甕と考えられる。底部端面や底部の内面の磨滅状況や、底部外面の一部分にみられる寛ケズリ技法などがその考えを支持する。

中期弥生土器の一群としたものに前報告「赤井宮前遺跡Ⅰ」の遺構外出土遺物「第73図一1」を加えることができる。これは所謂、条痕文系統の壺形土器に祖源を求めることができる。在地縄文晩期の系譜、遠賀川式土器の系譜、条痕文土器の系譜を引くもの一括が断片的にでも赤城北西麓で調査されたことの意義は大きい。今後、子持村押出遺跡、倉瀬村上久保遺跡、渋川市南大塚遺跡、藤岡市沖Ⅱ遺跡、安中市注連引原遺跡などの弥生前期から中期初頭にかけての遺跡の報告を待って再度その位置付けを考えてみたい。(石塚)

補遺 弥生時代以降遺物

通番	器形分類	計測部位(単位cm)	器形の特徴	成形・調整の特徴	胎土	焼成	色調	残存状態
45	土師器 土師器	口縁部径 (21.3)	複合口縁の成形土器の口縁部。左下がりの子単位律状浮文貼付。	外面は深い刷毛目。内面は縦方向の流すナデ。	長石、白色砂粒を含む	良好	橙	口縁部欠片
46	土師器 土師器	口縁部径 (17.9)	複合口縁の成形土器の口縁部。平足気味の口縁が再び急に開く。	外縁縦ハケ後横ナデ。外部丁寧な横、ナメケミガシ。	良好	良好	ぶい橙	口縁部のみ欠片
47	土師器 土師器	口縁部径 (15.5)	折り返し口縁に深い。先端部はつまみ上げ直立気味。	外周口縁部は深い刷毛目。1mmの長石を含む。口縁の折り返し部分は横ナデ。	良好	良好	浅黄橙	口縁部のみ欠片
48	高杯 土師器	口縁部径 (11.6)	深い杯部の先端部はつまみ上げ気味に直立する。	内外面とも褐色の化粧付けを行ない、丁寧な横ナメあり。	長石、白色砂粒を含む	良好	橙	杯部欠片
49	高杯 土師器	口径小径 (3.4)	平足気味の杯部に縦割りの短脚がつくもので、4孔を穿つ。	内外面とも丁寧な横ナメ。	白色砂粒を含む	良好	ぶい橙	脚柱部のみ
50	高杯 土師器	口径小径 (7.5)	底部を持つ杯は屈曲して外反する。	内外面とも丁寧な横ナメ。内外面にベンガラ塗布。	白色砂粒を含む	良好	明黄褐	杯部欠片
51	土師器 土師器	口縁部径 (15.5)	鉄鉢と呼ばれる布留式に伴なう典型的な小形精製土師。	内外面とも細かな刷毛目成形後、丁寧な横ナメ。	良好	良好	橙	
52	土師器 土師器	口縁部径 (16.3)	S字状口縁部は直立気味。内面に一条の沈線をめぐるせる。	内外面ともやや深い横ハケメを執す。	良好	良好	ぶい黄褐	外面に保存付。
53	土師器 土師器	口径小径 (9.2)	短かい口縁は直立すると考えられるが欠けが無い。	内面はナデ。外面の刷毛目は左ナメ方向の強い刷毛目を執す。	良好	良好	ぶい黄褐	
54	土師器 土師器	口縁部径 (13.3)	強く屈曲した側部から更に直立して外反気味に立ち上がる。	口縁部は側部で内面に沈線めくらない。外面刷毛目の刷毛目見えず。	良好	良好	明黄褐	外面に保存付。
55	土師器 土師器	口径小径 (5.4)	全体に作りは丁寧で古式のS字状口縁成形土器である。	側と側部の接合部は側面から深い砂粒を貼りつけている。	白色砂粒を含む	良好	ぶい黄褐	
56	土師器 土師器	口径部径 (16.7)	肩の深い口縁部の直立気味に広い蹠である。	口縁部外面に巻き上げ粘土板を見せつけている。部分的に刷毛目見えず。	白色砂粒を含む	良好	褐	
57	土師器 土師器	口径部径 (8.1)	断面の広い小形器で脚部は丸く、口縁部は欠損して不明。	底部は縦状に強く張り、粘土板巻き上げの痕跡残す。	良好	良好	ぶい橙	
58	土師器 土師器	口径部径 (3.2)	口縁部に近く外反すると考えられる。筒形小形土器である。	粘土板巻き上げ技法と考えられるが仕上げは丁寧である。	白色砂粒を含む	良好	ぶい橙	口縁部近くで欠損。
59	土師器 土師器	口径部径 (3.3)	杯、又は横と考えられる小形土器。手づくおのりの小さな底部を残す。	手づくおのりの指痕跡を底部に多く残す。	2mmの長石を含む	良好	浅黄橙	
60	土師器 土師器	口径部径 (7.4)	縁より外反する杯部はゆるやかに外反する。	内面に巻き上げ痕、外部に縦方向の刷毛目を執す。	白色砂粒を含む	良好	橙	口縁部、底部を欠く。
61	土師器 土師器	口径部径 (16.7)	直線的に外反する口縁部の端部は丸くならず終わる。	外面には細かなクロ目紋を残す。	良好	良好	ぶい黄褐	
62	土師器 土師器	口径部径 (13.7)	底部からの直線的な開き口縁部近くで内縮して立ち上がる。	クロ目紋は外面に認められるもの、顕著ではない。	1mmの白色砂粒を含む	良好	灰	
63	土師器 土師器	口径部径 (14.4)	深い器内口縁部は端部で屈曲して外反する。	外面にクロ目紋を残す。	白色、黒色砂粒を含む	良好	灰白	
64	土師器 土師器	口径部径 (14.3)	深い器内口縁部は外面に残す。口縁部は丸い。	クロ目紋は強く横線になる。	1mmの白色砂粒を含む	良好	ぶい黄褐	
65	土師器 土師器	口径部径 (11.4)	直線的に外反する。	クロ目を外面に残す。口縁部は小さく終わる。	良好	良好	灰白	
66	土師器 土師器	口径部径 (7.4)	深い器内中央部が凹んで深さは2mmに近い。	底部は回転糸切り再調整はしない。底部のあたりは明確である。	良好	良好	灰	還元設備で断面セピア
67	土師器 土師器	口径部径 (14.5)	縁の丸い器内の厚い杯。	底部は回転糸切り右回り。口縁部は外面に明確である。	白色磁石、石英を含む	良好	ぶい黄褐	内外面に有機質黒色残存
68	土師器 土師器	口径部径 (18.1)	丸い器から屈曲気味に口縁部に至る。	器内は深く口縁部は丸く終わる。	2mmの白色砂粒を含む	良好	灰白	
69	土師器 土師器	口径部径 (6.8)	高台部は短く太く、ふんばる。	底部は糸切り後高台貼り付け。	1mmの白色砂粒を含む	良好	灰白	白色磁石粒を多く含む。
70	土師器 土師器	口径部径 (8.1)	高台付の杯である。高台は幅広く高さは低く横にふんばる。	回転糸切り後高台貼り付け。	2mmの白色砂粒を含む	良好	ぶい橙	白色磁石粒を多く含む。
71	土師器 土師器	口径部径 (8.2)	高台付の杯である。	外面に明確なクロ目紋を残す。高台の貼り付けは丁寧である。	良好	良好	灰	
72	土師器 土師器	口径部径 (12.3)	杯下半部は器内厚く、段差を持つて口縁部に至る。	口唇部の内外面に一条の沈線が走る。	良好	良好	灰白	残存部分全面に屈曲
73	土師器 土師器	口径部径 (16.7)	大よりの杯で断面は三ヶ月型の高台が張り付く。	底部は調整後高台を貼り付けている。	良好	良好	灰白	口縁内外面に屈曲
74	土師器 土師器	口径部径 (14.2)	脚部の張りから直線的な開きと見られる。内面は一部屈曲している。	短かい直立する底部の端部には一条の沈線をめぐるせる。	長石、白色砂粒を含む	良好	ぶい黄褐	

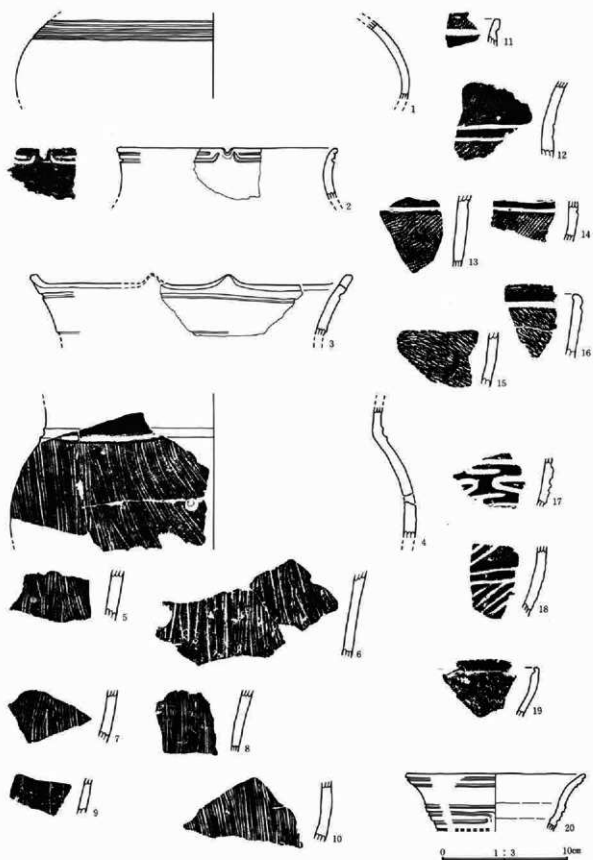


图1 弥生時代以降遺物

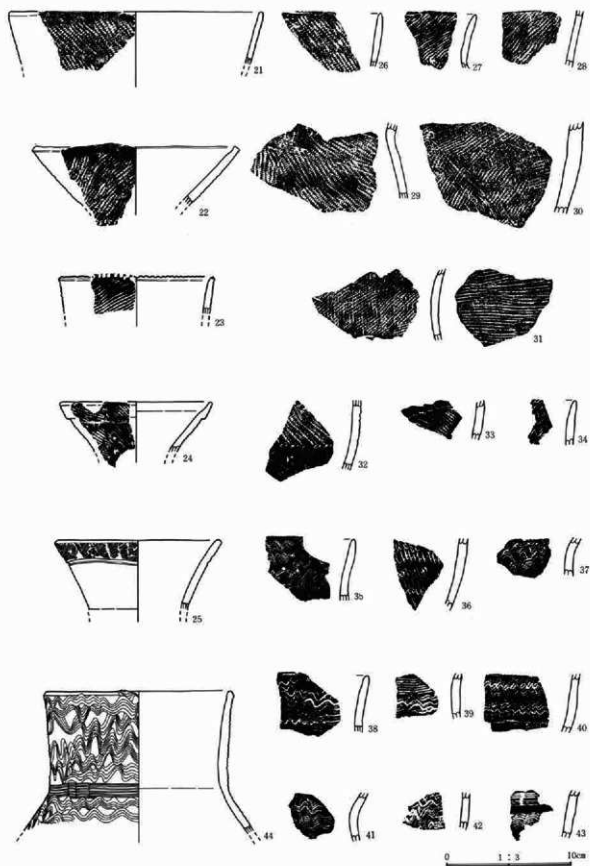


図2 弥生時代以降遺物

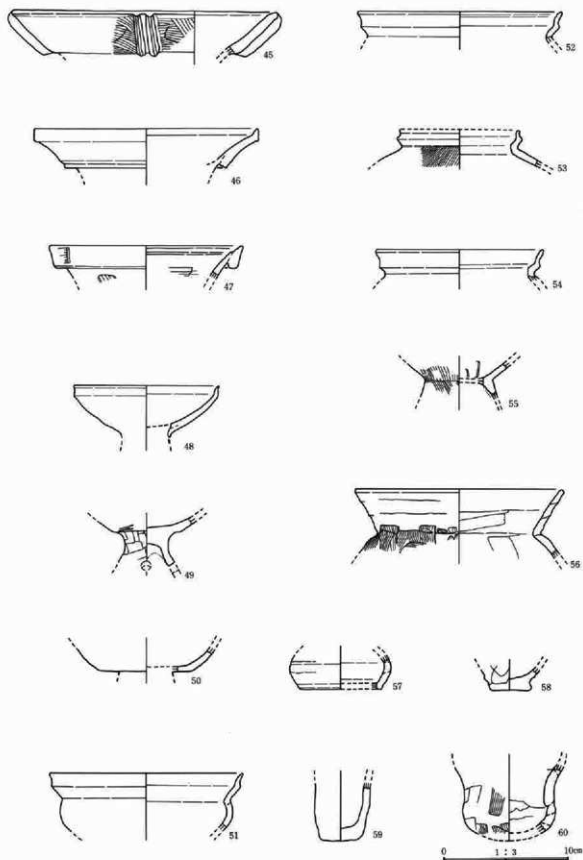


図3 弥生時代以降遺物

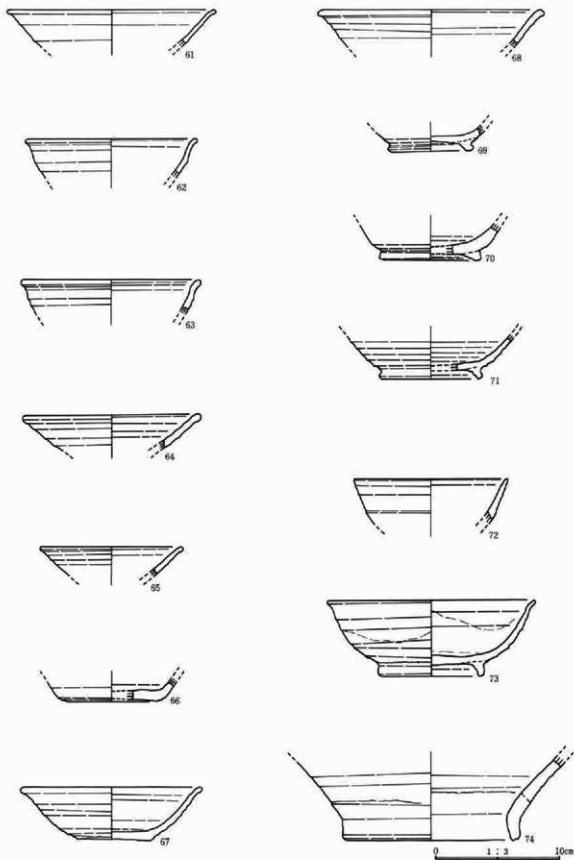


図4 弥生時代以降遺物

参考・引用文献

- 会田 明 「宮庭遺跡」富士見市遺跡調査報告第10集 1980
 秋池 武 「群馬県における有尾式土器」『栃木考古学研究』10 1965
 秋池 武・新井和之 「群馬県における神之木式・有尾式土器について」『信濃』第35巻4号 1983
 麻生 優 「野川南台団地埋蔵文化財調査報告一十三菩提遺跡一」野川南台団地埋蔵文化財調査団 1968
 麻生 優 「十三菩提遺跡」埋蔵文化財報告2 神奈川県教育委員会 1971
 網谷克彦 「北白川下層式土器」縄文文化の研究3 雄山閣出版 1982
 新井和之 「榎原貝塚の土器とその周辺」『余和』第15号 1977
 新井和之 「黒浜式土器研究の問題点」『土曜考古』創刊号 1979
 新井和之 「黒浜式土器小考」『日本考古学研究所集報II』1979
 新井和之 「黒浜式土器小考追録(その1)」『余和』第19号 1981
 新井和之 「黒浜式土器」『縄文文化の研究3 縄文土器I』雄山閣出版 1982
 新井和之 「黒浜式土器小考追録(その2)」『土曜考古』7 1983
 市川 勝徳 「一般国道140号(寄居町・花園村1区)埋蔵文化財調査報告一田一塚原、北塚原」埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1983
 井上義安 「浮島I式土器の編年に関する問題」古文化22巻4号 古化学協会 1970
 今村啓爾 「施文厚からみた総磯成土器の実態」考古学研究27巻4号 1981
 今村啓爾 「諸磯式土器」縄文文化の研究3 雄山閣出版 1982
 上野修一他 「山崎遺跡」『真岡市史』真岡市 1984
 内田潔治 「武井・城遺跡」新里村教育委員会 1981
 内田潔治 「天宮南遺跡」新里村教育委員会 1981
 内田潔治他 「新里村の遺跡」新里村教育委員会 1984
 柳沢重昭他 「榎生バイパス建設区域埋蔵文化財調査報告書」榎生バイパス建設区域埋蔵文化財調査委員会 1974
 大賀 健他 「関越自動車道(新橋線)埋蔵文化財調査報告書」月夜野町遺跡調査会 1985
 大賀 健他 「関越自動車道(新橋線)水上町埋蔵文化財調査報告書」月夜野町遺跡調査会 1985
 大木謙一郎他 「庚塚・上・菅遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1980
 大場健雄他 「信濃考古総覧下巻」信濃史料刊行会編 1966
 岡本 勇他 「諸磯遺跡とその周辺」三浦市教育委員会 1979
 岡本孝之・鈴木次郎 「早川天神廟」神奈川県埋蔵文化財センター調査報告2 1983
 岡原英治 「大袋I遺跡発掘調査報告書」臨海村教育委員会 1982
 鬼影芳夫 「赤城山麓における縄文文化の展開」群馬県史編さん委員会 1985
 結原恵介・右島和夫他 「分郷八幡遺跡」群馬県北碓村教育委員会 1986
 金井正三 「縄文前期有尾式土器の再検討」『信濃』34巻4号 1982
 川崎純徳 「茨城県八幡宮遺跡調査報告書」常総台地研究会報告I 1967
 川崎純徳 「遠原貝塚の研究 本編I」勝田文化研究会 1980
 菊池 実他 「三ヶ沢遺跡・十二原I遺跡概観」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1983
 清藤一朗他 「飯山溝車遺跡」岡総考古資料刊行会 1975
 清藤一朗他 「宮野自動車埋蔵文化財調査報告1一館林、水砂、花前II一」千葉県文化財センター 1982
 黒岩文夫・富沢敏弘 「中郷遺跡」群馬県昭和村教育委員会 1985
 群馬県 「群馬県史蹟名勝天然記念物調査報告」1929
 小島教子 「加茂遺跡」群馬県埋蔵文化財調査事業団 1984
 小林達雄 「米島貝塚」庄和町埋蔵文化財報告書第1冊 1965
 小林康男他 「真屋敷」塩尻市教育委員会 1982
 佐々木藤雄他 「小黒坂南遺跡群」山梨県境川村教育委員会 1986
 佐藤達夫 「土器型式の実態一五項々台式・鉢状式の関」『日本考古学の現状と課題』1974
 鈴木敏昭 「諸磯b式土器の構造とその変遷(再考)」『土曜考古』2号 1980
 鈴木敏昭 「足利遺跡」久喜市埋蔵文化財調査報告書 1980
 鈴木敏昭 「茶屋遺跡」白岡町埋蔵文化財調査報告書第2集 白岡町教育委員会 1984
 鈴木雅雄他 「白石塚」埼玉県遺跡調査会 1979
 白石浩文 「諸磯b式土器の型式区分とその問題点」『人間・遺跡・遺物』文獻出版 1983
 藤田芳雄他 「虎山遺跡総合調査報告書」はにわの会 1968
 藤田芳雄他 「葵の郷土史」要町郷土史編さん委員会 1970
 藤田芳雄 「山藤および宿ノ島遺跡調査報告書」山梨発掘調査団 1974
 藤田芳雄 「熊野遺跡発掘調査報告書(第1次)」新里村教育委員会 1975
 藤田芳雄 「熊野・榎生沢遺跡発掘調査報告書」新里村教育委員会 1977
 高木高文 「社会科学のための統計学入門」新編社 1971
 高野博光 「黒浜期における貝殻土器理解のために(その1)」埼玉考古12号 埼玉考古学会 1974
 高野博光 「荒川流域における有尾式類似土器」函和考古学会研究調査報告書第7集 1974
 谷藤保彦・関根謙二・新井悦子 「群馬県における縄文時代前期の土器研究(1)」群馬考古通信10 1984
 寺門義範 「茨城県所作業員塚発掘調査報告書」霞ヶ浦文化研究会 1975
 寺門義範 「関東地方東部浮島式土器群の再検討」霞ヶ浦文化2号 霞ヶ浦文化研究会 1977
 戸田哲也・大矢昌彦 「神之木・有尾式土器の研究(前)」『長野県考古学会誌』第34号 1979

参考・引用文献

- 戸田哲也 「堂之上遺跡」久々野町教育委員会 1980
 都丸 肇・茂木茂規・島羽政之他 「見立部井遺跡」赤城村教育委員会 1985
 中島 宏 「金堀遺跡」入間市金堀遺跡調査会 1977
 中島 宏他 「上越新幹線埋蔵文化財発掘調査報告IV伊勢塚・東光寺遺」埼玉県教育委員会 1980
 西村正衛 「千葉県香取郡植原貝塚出土の土器」学術研究第6号 1957
 西村正衛 「千葉県市川市国分旧練兵場貝塚」学術研究10号 1961
 西村正衛 「茨城県稲敷郡浮島貝ヶ塚貝塚」学術研究15号 1966
 西村正衛 「茨城県取手町内山貝塚」学術研究16号 1967
 西村正衛 「茨城県稲敷郡興津貝塚」学術研究17号 1968
 西村正衛 「茨城県稲敷郡興津貝塚第二次調査」学術研究26号 1977
 西村正衛 「茨城県稲敷郡興津貝塚下トレンシ出土土器」古代探勝 1980
 西村正衛 「石器時代における利根川下流域の研究—貝塚を中心として—」 1984
 芳賀英一 「青宮西遺跡」会津高田町教育委員会 1984
 横文博文 「御正作遺跡埋蔵文化財調査報告書」大泉町教育委員会 1984
 八幡一郎 「河沼貝塚」北方文化博文館 1958
 羽生淳子 「伊三子貝塚」港区教育委員会 1981
 原田昌幸他 「藤の台遺跡Ⅰ」藤の台遺跡調査会 1979
 原田昌幸他 「藤の台遺跡Ⅱ」藤の台遺跡調査会 1980
 原田昌幸他 「藤の台遺跡Ⅲ」藤の台遺跡調査会 1980
 原田昌幸他 「藤の台遺跡Ⅳ」藤の台遺跡調査会 1981
 原田昌幸他 「常盤自動車道埋蔵文化財調査報告V—谷・上貝塚・若葉台・塚(1)・(2)・馬土手(1)・(2)・(3)」1986
 原田昌幸 報告書における遺物の「総量把握」の必要性 東京の遺物№10 1986
 樋口昇一 「上原」 1957
 樋口昇一 「長野県西筑摩郡岡田村管沢遺跡調査概報」『信濃』第10巻7号 1958
 福島邦男・森嶋 稔 「下吹上」 1978
 藤本勢城 「郡河川下流の石器時代研究Ⅰ」 1977
 松村一昭 「多田山東遺跡発掘調査概報」赤城村教育委員会 1981
 岡田 稔・中村富夫・三宅敦気 「藤上・三峰神社裏・大友館址遺跡」月夜野町教育委員会 1986
 宮取虎次他 「よせの台遺跡」幸野市教育委員会 1978
 茂木山行 「黒熊遺跡群発掘調査報告(3)」吉井町教育委員会 1983
 百瀬新治他 「阿久遺跡」長野県中央道埋蔵文化財包蔵地発掘調査報告書—原村その5— 1982
 森川昌和・網谷克彦他 「島沢貝塚」福井県教育委員会 1979
 森島 稔・笹沢 浩 「長野県穂科郡戸倉町市田遺跡調査報告」『信濃』第18巻6号 1966
 村田一二 「野田市北前貝塚」野田市郷土博物館 1979
 若月省吾 「笠懸村稲荷山遺跡」新田郡笠懸村教育委員会 1980
 和田 晋他 「古和田台遺跡」船橋市教育委員会 1973
 矢島俊雄他 「佐野市八木田遺跡出土の縄文時代前期土器」唐澤考古2 唐澤考古会 1982
 山内清男 「関東北に於ける縄文土器」史前学雜誌第1巻2号 1929
 山内清男 「斜行縄文に関する二・三の觀察」史前学雜誌第2巻3号 1930
 山内清男 「縄文土器の細別と大別」先史考古学第1巻1号 1937
 山内清男 「縄文式土器・総論」『日本原始美術Ⅰ』 1964
 山内清男 「日本先史土器の縄文」先史考古学 1979
 山川静男 「石岡都市計画事業南台土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書—兵崎、大谷津A、対馬塚、大谷津B、C、外山遺跡」茨城県教育財団 1982

糸井宮前遺跡Ⅱ

《本文編》
—関越自動車道(新潟線)地域埋蔵
文化財発掘調査報告書第14集—

印刷 昭和62年3月25日
発行 昭和62年3月31日

編集・発行

群馬県教育委員会
群馬県前橋市大手町1丁目1番1号
(0272) 23-1111

群馬県埋蔵文化財調査事業団
勢多郡北橋村大字下箱田784の2
(0279) 52-2511

印刷 朝日印刷工業株式会社